



DS  
845  
A45  
1878  
v.3

Japan. Dajokan  
Tokumei zenken taishi


East  
Asiatic  
Studies

PLEASE DO NOT REMOVE  
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

---

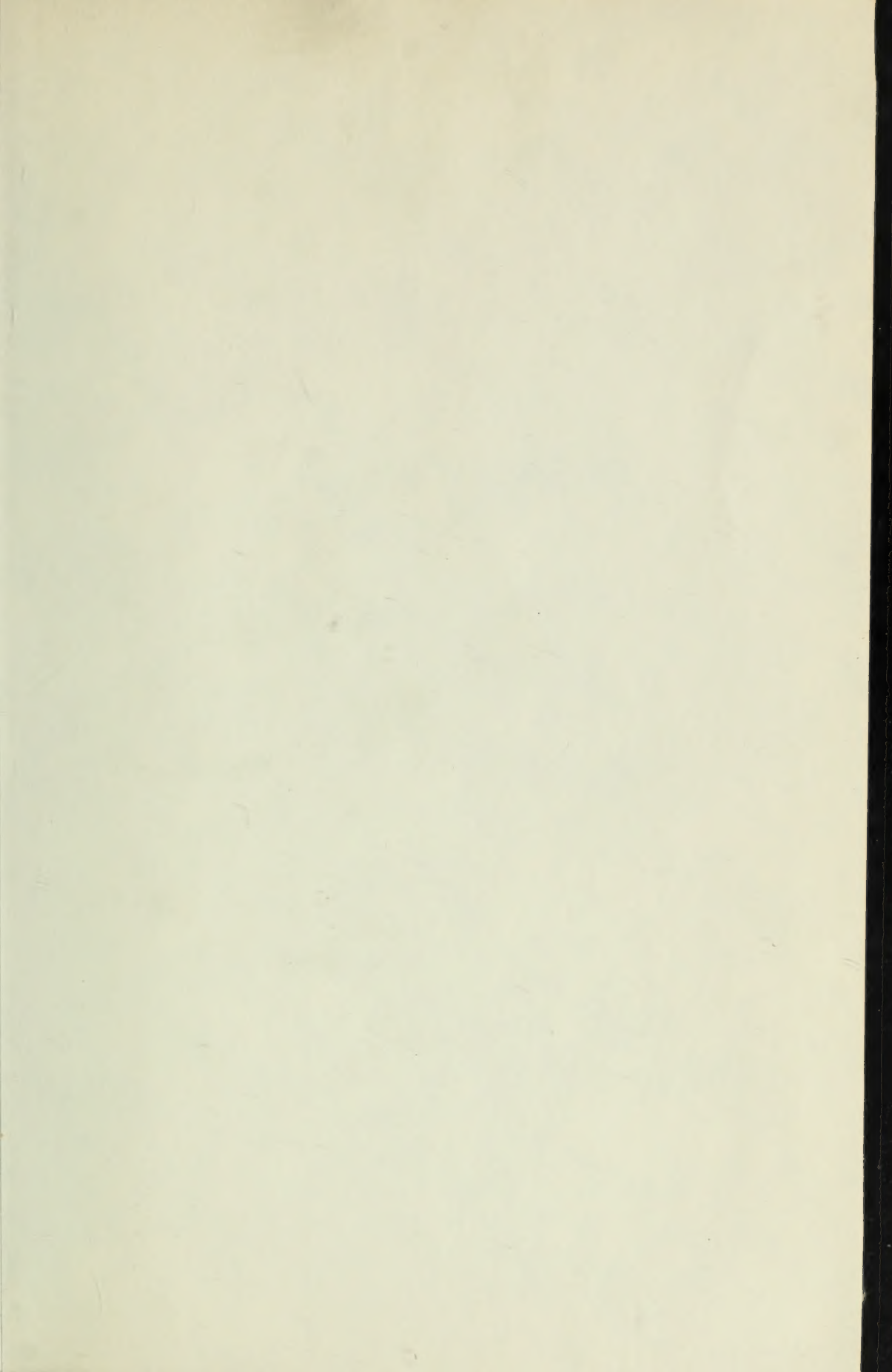
UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

---

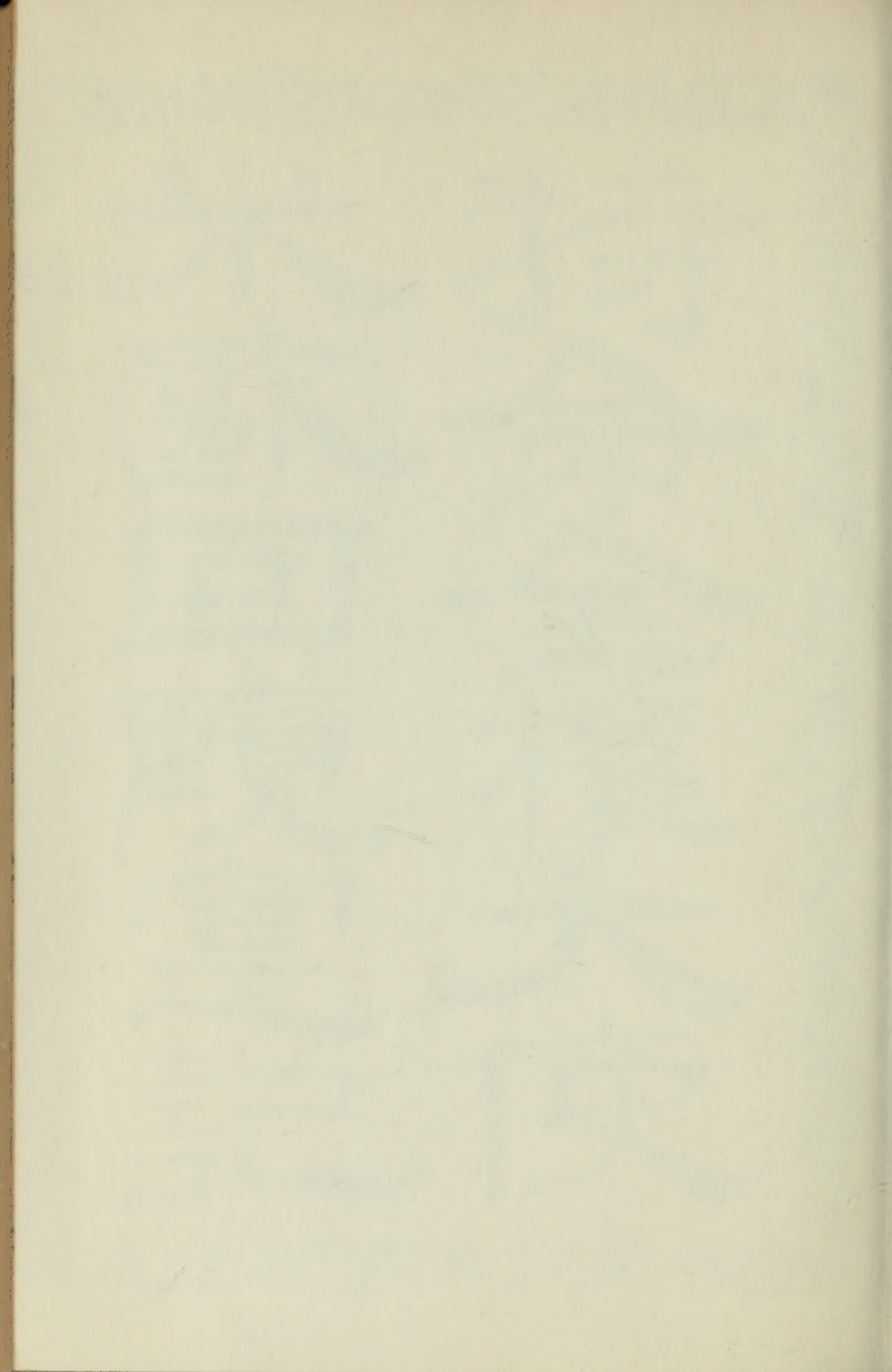


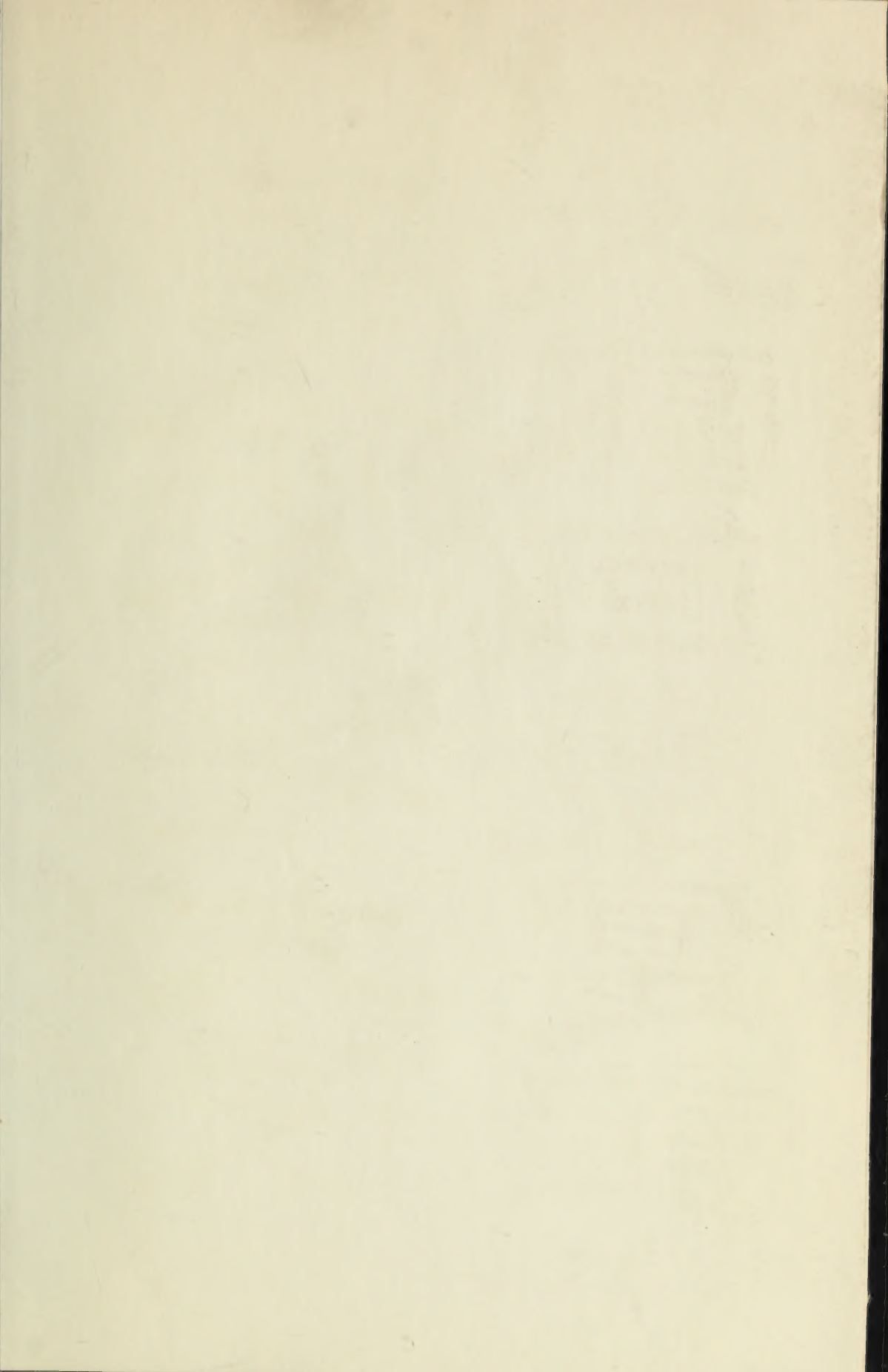
Digitized by the Internet Archive  
in 2011 with funding from  
University of Toronto













持命全權大使  
米歐回曉寔記



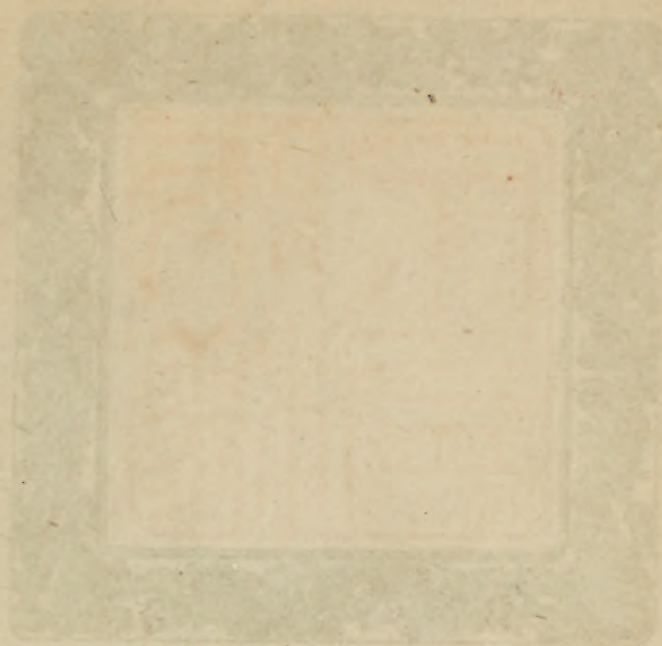


DS  
845  
A45  
1878  
v.3



太政官  
記錄掛  
刊行





言雅集

太延宮

序



米歐同覽實記三編

目錄

第三編 歐羅巴大洲ノ部上

第四十一卷 フランス 佛朗西國總說

地積民口及ヒ畧史

一丁

山河道路及ヒ氣候

六丁

農牧產物

九丁

鑛業及ヒ製作

一三丁

貿易

一五丁

人種

一八丁

教育

一九丁

貨幣度量衡

二〇丁

第四十二卷 パリ 巴黎府ノ記一

自明治五年十一月十六日至十七日

「ドール」カレイノ渡シ

二三丁

「カレイ」ヨリ巴黎府ノ途上

二五丁

凱旋門 同圖

二七丁

「コンエルト苑ノ埃及塔ノ圖

三一丁

「チュロリー宮及ヒ「ルーザル宮

三二丁

「チュロリー宮ノ圖

「ブールヴァル街ノ古城門ノ圖 「ルーザル宮ノ圖

「ブールヴァル街 同圖

「パレイローヤル宮ノ圖

三三丁

諸公苑總説

三五丁

諸寺觀總説

三六丁

巴黎府工商ノ景況三則

三七丁

相場會所<sup>アレス</sup>ノ圖 新市場<sup>マケツト</sup>ノ圖

第四十三卷 巴黎府ノ記二 自十二月十八日至明治六年一月

幀畫樓「ハナ  
シマ」

大統領チエル氏へ謁見并ニ畧傳

「ヴェルサイル宮議政堂 同圖

「ノートルダム寺並ニ圖 拿破侖第一世墓ノ圖

「サンゼルマル宮

巴黎大書庫

「コンセルワトワル器械場

勸工ノ説

造幣寮

質倉並ニ佛國救貧ノ説

造幣寮ノ圖 「ピットショーモン苑ノ泉石圖

第四十四卷 巴黎府ノ記三 自一月九日至十四日

巴黎ノ墓地

「ピットショーモン苑

職工市街ノ説

●目録

四七丁

四九丁

五〇丁

五二丁

五三丁

五六丁

五八丁

六〇丁

六一丁

六七丁

六九丁

七一丁

三



「レデポットチャーモン街ノ製鐵場

七六丁

「サンシールー邑

七八丁

同廢宮ノ圖 同處セーソ河野景ノ圖

「セーヴル」ノ陶器製造場

七九丁

製陶ノ說

第四十五卷 巴黎府ノ記四 自一月十五日至十八日

「エコールサンシール」陸軍學校

九一丁

「ヴルサイル宮

九五丁

同圖 同宮苑ノ跳水池ノ圖

同宮内景ノ圖

下水隧道

九八丁

同隧道口ノ遊苑圖 巴黎運河濱眺望ノ圖

「モンワレヤン砲臺

一〇二丁

麵包製造ノ說

「ワンセーヌ城

一〇七丁

陸軍病院

一一一丁

第四十六卷 巴黎府ノ記五 自一月十九日至二十一日

巴黎ノ近郊

一二三丁

「フオンテンブロー宮

一一五丁

建築學校

一一七丁

礦山學校

一一九丁

「レキセン堡王宮 同

一二〇丁

巴黎銀行

一二一丁

銀行ノ説

一二六丁

第四十七卷 巴黎府ノ記六 自一月二十一日至二十二日

「コブラン製造場

一三三丁

「チヨコレート製造場

一三七丁

佛國屬地及ヒ屬地物産ノ説

天文臺並ニ巡回測度器械

佛國大審院

牢獄

佛國大審院ノ圖 牢獄ノ圖

「エルビユー」府羅紗製造場

第四十八卷 巴黎府ノ記七 自一月二十三日至二月十六日

「キリストツフル」社金銀銅器製造場

啞院

盲院

「ホアデブロン」公苑及ヒ禽獸苑

「ボアデブロン」苑ノ圖

香水製造場

「パトロ」ン製造場

第四十九卷 白耳義國總說

一四一丁

一四四丁

一四六丁

一四七丁

一五一丁

一五五丁

一五七丁

一六二丁

一六四丁

一六九丁



地積人口略史及ヒ政體

山河道路

鑛道建築ノ説

農牧產物

鑛業及ヒ製作

貿易

人種風俗

第五十卷 白耳義國<sup>ベルギー</sup>ノ記上 自五月十七日至二十一日

「プロッセル府王宮ノ圖 同府中眺望ノ圖

「プロッセル府

「マシユラ古寺ノ圖 草本苑ノ圖

「ガンド府「ハンプトン社棉花紡織場

「ハンプトン氏花園

「ラリス氏亞麻紡績場

一七一丁

一七七丁

一七八丁

一八一丁

一八五丁

一八七丁

一八八丁

一九二丁

一九五丁

一九六丁

一九七丁

砲隊的射 并ニ 砲臺

「リツチ府

二〇〇丁

「ソーラン村玻璃製造場 同圖

二〇三丁

「リツチ府ノ「コッケルリー社製鐵場

二〇五丁

製鐵大利益ノ論

二〇七丁

第五十一卷 白耳義國ノ記下 自二月二十二日至二十四日

二〇九丁

「クロセー村ノ板玻璃製造場

二一五丁

「プロビテンス社製鐵場

二一七丁

「ガントスランパー社薄板玻璃製造場

二一八丁

玻璃調和熔煉ノ法

「ブロッセル府<sup>ブリッキ</sup>鍍錫細工場

二二二丁

同寄木鐵細工場

二二三丁

同針製作場

二二四丁

「ウーートルロー」古戰場

二二五丁

「ウアートルロー村ノ圖

英將ウエーリント」本陣ノ寺ノ圖

「ウアートルロー高家ノ圖

英將守戰ノ營跡ノ圖

「アンウェル府ノ總說

二二九丁

同砲臺及ヒ武庫

二二一丁

荷蘭陀國ヘノ途上沙原植松ノ說

二三二丁

第五十二卷 荷蘭陀國總說

地積人口

二三五丁

略史政體

二三六丁

荷蘭澤地ノ景況

二三九丁

農牧產物

二四二丁

製作

二四五丁

貿易

二四七丁

人種教育

二五〇丁

度量衡貨幣

二五一丁

荷蘭佗途上ノ景況

二五二丁

第五十三卷

海牙<sup>ハーヘ</sup>鹿特坦<sup>ロッテルダム</sup>及ヒ來丁<sup>レーデン</sup>ノ記

自二月廿五日至三月一日

海牙府

二五五丁

海牙王宮ノ圖

海牙森ノ圖

鹿特坦府<sup>ロッテルダム</sup>

二五七丁

鹿特坦市街ノ圖

同風車臺及ヒ運河ノ圖

同府造船塲

二五八丁

瓜哇<sup>キヤワ</sup>屬地ノ略說

二六〇丁

海牙海軍局及ヒ海牙ノ諸務

二六三丁

來丁府<sup>レーデン</sup>

二六五丁

來丁市街ノ圖 同河岸ノ圖

宗教ノ民心ニ緊切ナルノ論

二六七丁

同府大學附屬ノ博物館

二六九丁

博古館及ヒ東南洋博物館

二七丁



海牙ノ博古館及ヒ藏畫館

二七三丁

第五十四卷

奄特坦府ノ記アムステルダム 自三月一日至七日

奄特坦府アムステルダム

二七五丁

同府王宮

二七八丁

同圖

同府海岸眺望ノ圖

水晶宮

二七九丁

同圖

開闢橋ノ圖

金剛石磨琢場ダイヤモンド

二八一丁

「ボ―シポテ」村ノ銀器製作場

二八三丁

奄特坦近在ニテ運河鑿開ノ工事

二八五丁

同所禽獸園並ニ養魚ノ説

二八七丁

第五十五卷 プロイス 普魯士國總説

地積人口及ヒ畧史

二九三丁

地方分州

二九八丁

山河道路

三〇〇丁

氣候

三〇二丁

農牧產物

三〇三丁

礦業

三〇七丁

製作

三一〇丁

貿易

三一三丁

人種

三一五丁

教育

三一六丁

貨幣度量衡

三一七丁

第五十六卷 普魯士西部鐵道記 自三月七日至八日

西華道州ノ途上並ニ山林保護ノ説

三一九丁

來因州ノ途上

三二二丁

日耳曼來因河ノ景圖 「ケルン府ノ圖」

「エッセン府」クロッブ氏ノ大砲製造場

三二五丁

「クロッパ砲ノ説

三三〇丁

普國西部ノ概説及ヒ普國生意ノ論

三三二丁

第五十七卷 伯林府總説 自三月八日至十一日

伯林府ノ總説

伯林リンデン街ノ圖 「ブランテンブエルケルトール城

門ノ圖

「リンデン街フレデルヒ石像ノ圖 「ルストガーテン」ノ

劇場前ノ圖

普國國勢概論

三四二丁

「チェル公苑及ヒ禽獸苑

三四七丁

水族觀

三四九丁

第五十八卷 伯林府ノ記上 自三月十二日至十五日

伯林王宮ノ圖 同皇太子宮ノ圖

「コーニンクス宮

三五三丁



日耳曼政體及ヒ普國政體ノ畧

「シーメン」社ノ電氣機器製作場

伯林大病院

清氣健康ニ大効用アル説

貴族病院

博物館

陶器製造場

藏畫館

日耳曼執政「ビスマルク」氏享宴並ニ畧傳

第五十九卷 伯林府ノ記中 自三月十六日至二十一日

武庫

「モンビシュ」城

「ソーターガー」  
曹達水製造場

印書寮

三五五丁

三五八丁

三五九丁

三六〇丁

三六三丁

三六四丁

三六五丁

三六九丁

三七〇丁

三七三丁

三七六丁

三七七丁

三七九丁

天文臺

「フランチカセル陸軍營

「ベルリヤンシストラーヌ騎兵營

普國兵制及ヒ「モルトケ氏日曼兵制ノ建議

電信寮

造幣寮 並ニ 日耳曼新貨ノ制

第六十卷 伯林府ノ記下 自三月廿一日至二十九日

牢獄

伯林大學校

同圖 建築學校邊眺望ノ圖

消防社

伯林ノ府廳 シナイホール

漁業會社開場式及ヒ漁業ノ說

「モアヒート」ノ製鐵場

三八一丁

三八二丁

三八三丁

三八四丁

三八八丁

三八九丁

三九三丁

三九八丁

三九九丁

四〇〇丁

四〇一丁

四〇二丁

「ボッタム府

四〇三丁

貝珠宮

本名ニユー  
ハレイス

四〇四丁

同圖

「サンスーチー宮ノ

オレンヂ宮

四〇五丁

サンスーチー宮

同

「ピングスパルク觀

四〇七丁

白大理石宮

同

同圖

「ピングスパルク觀ノ圖

「パーペルス堡宮

ベルヒ

四〇八丁

「ボッダム城

四〇九丁

東普魯生州途上附「コーニングス堡府

ベルヒ

四〇一丁



米歐回覽實記

第三編 歐羅巴大洲ノ部上

第四十一卷 佛朗西國略說

佛朗西國ハ、歐羅巴洲ノ最モ開ケタル部分ニ於テ、中央ノ位置ヲシメ、百貨幅  
輳ノ都、文明煥發ノ樞ナリ、其國形ハ粗<sup>カ</sup>方形ヲナシ、西及ヒ北ハ壓瀾洋ニ臨ミ、  
英國ト一帯ノ海峽ヲ隔ツ、東北隅ハ白耳義、及ヒ<sup>スイツス</sup>レキセンボルクノ平野ニ連  
リ、迤南ヨリ山脈ヲ湧起シ、東方一面ハ、日耳曼、及ヒ瑞士ト分界シ、東南ニ「アラ  
ソ山」(即チ「モン・アラン」)ノ支脈斗入シテ、以太利ト背脊ヲ分ツ、南方ノ東半面ハ  
地中海ニヒカヘ、東方ニ「コルシカ島」ヲ所轄ス、西半面ハ「ピリニー」山脈ノ橫絶  
ニヨリ、西班牙ト界ヲ分ツ、直立一萬尺ニ及フ峯アリ、是佛朗西國四至ノ大形  
ナリ、○其地位ハ、北緯四十二度二十分ヨリ、五十一度五分ニ至リ、英國綠威ノ  
西經四度ヨリ、東經八度ニ至ル、南北長サ六百二十英里、東西廣サ五百七十英

里、海濱ノ線ハ、一千五百英里、總テ地積二十萬九千四百二十六方英里、人口三千八百十九萬二千〇九十四人アリシニ、去年ノ春、日耳曼ト戦シ敗レ、和議ヲ講スルトキ「メツツ」スタラスボルク」ノ地、三千八百餘方英里、人口二百萬餘ヲ、日耳曼ニアタヘタリ、此時ノ條約ニ、人民ニハ其好マサルヲ強ストノ旨ナリシユヘ、爾來ノ居徙未タ定ラス、且戰爭後ニ、地方ノ諸政モ十分ニ舉ラサルヲ以テ、本年マテハ其精算ヲ得ス、此編ハ多ク一千八百七十年ノ統計ニヨル○此外ニ、亞細亞洲ニテハ、印度安南ノ諸地、亞弗利加洲ニテハ「アルセリヤ」「ゼ子ガル」其他ノ諸島地、亞米利加洲ニ於テハ「グイ子ヤ」「ガテロプ」等、凡テ附屬地ヲ有スルヲ、三十五萬千方英里ノ地積ニ及ヒ、其人口三百六十三萬三千口ニ及フ、其中ニモ「アルゼリ」一、十五萬餘方英里ノ地ハ、地中海ヲ隔テ向岸ニアリ、猶外府ノ如ク、往來常ニ繁ク、熱帶地ノ生産、製作元品トナルモノヲ、此ニ收メテ資用スルナリ

佛國ハ、獨逸ト元來異族ナレトモ、紀元四百八十六年「クロヴィス」王來因河畔ヨリ、ゴート峨特人ヲ驅逐シ、佛國ヲ始メシヨリ、佛獨以ノ三國互ニ關係ヲ有シ、フベヒン王ノ篡立ヨリ、深ク羅馬法皇ニ悅ハレ、其屏翰トナリ、寵遇セラレ、威權歐洲ニ

炬燵アリ、當時各國ニナ封建ノ制ヲ相襲ヒ、國內ノ大小名士地ヲ分領シ、并セ  
テ倡勢ヲ擅ニシ、交モ下民ヲ侵漁シ、培克スルヲ一千餘年、佛國ハ三十二邦  
ニ分レ、今ヨリ二百三十年以前、宰相「リセリユー」ノ治ヨリ、路易十四世ノ威權マ  
テハ、王權隆盛ノ極點ニ上レリ、文明日ニ開ケ、下民其壓制ニタユル能ハス、一  
千七百八十九年ニ至リ、過激ナル民黨蜂起シ、國王路易十六世ニ逼リ、立憲政  
體ヲ定メ、封建ノ制ヲ敗リ、貴族ヲ廢シ、寺領ヲ沒入シ、同九十三年、路易十六世  
ヲ死刑ニ行ヒ、全國瓦解トナレリ、拿破侖<sup>ナポレオン</sup>ボナパルテ<sup>ナ</sup>ナルモノ、匹夫ニ起リ、此  
勢ニ乘シ、民黨政府ヲ籠絡シ、民權論ノ獨逸<sup>ドイツ</sup>各國ニ波及セルヲ幸ヒニ、兵威ヲ  
以テ封建ノ各國ヲ摧破シ、漸ク人望ヲ收メ、一千八百〇四年、佛帝ノ位ニ上リ、  
一時ノ勢焰ハ、殆ト歐洲ヲ并含セントセリ、是ニテ歐洲各國、封建ノ制、次第ニ  
破壊トナリタリ、是ヲ佛朗西革命ノ亂トイフ、日耳曼ノ聯邦、漸ニ立憲政治ニ  
變ス、一千八百十五年、拿破侖ノ敗レシヨリ、三十三ヶ年間ハ、又王國ノ治ヲナ  
セシニ、一千八百四十八年、再ヒ民權ノ騷亂起リ、其波動ハ隣邦ニ及ヒ、以太利<sup>イタリア</sup>  
聯邦モ、終ニ一千八百六十年ニ、一統ニ歸シ、壞國ノ封建殘夢ヲツ、キシモ、一



千八百六十七年ノ改革ニテ、全ク立憲ノ體ニツキ、今日ノ歐洲ヲナスニ至リ  
 シハ、皆佛國實ニ其運ヲ開キタルモノナリ、是ヲ再度佛朗西革命ノ亂トイフ、  
 佛國ハ人心ノ協和ヲ保ツヲ難ク、八十年ノ間、國制六タヒ改マリ、去年ヨリ又  
 合衆政府ヲ設ケタレトモ、人民ハ敎黨ヲ分チ、王黨、拿破崙黨、共和政治黨、及ヒ「コ  
 ソミュン」ト名ケル、過激民黨アリ、人氣剛厲ニテ、國內艱難安カラス、統馭ノ其人  
 ヲ得レハ、勢威四隣ニ振フ、稍寛慢ナレハ、内訌沸起スルヲ、佛國ノ情態ナリ、○  
 全國ノ地ハ、八十年前ノ大改革ヨリ、八十九ノ「テバルトマン」(猶州ノ如シ)三百  
 七十三ノ「アロンシスマン」(猶郡ノ如シ)九百四十一ノ「カントン」(猶縣ノ如シ)三  
 萬七千五百四十八ノ「コムシユン」(猶邑ノ如シ)ニ分チ、往時封建ノ餘勢ヲ破リ、  
 全國一規ノ制ニツカシメ、各「コムシユン」ハ、其土地ト人民トノ總會社ニテ、住居  
 人中ノ房產アルモノヨリ、議會ヲ選ミ、又其長ヲ定ム、之ヲ「アジャン」ト云、(即チ  
 邑長ナリ)「カントン」ハ、行政上ニ於テ、各「コムシユン」ヲ合セテ、此區畫ヲナシ、租稅  
 警察等ノ便ヲハカリシモノナリ、「アロンシスマン」モ、政令ヲ下達シ、租稅ヲ賦  
 課スル等、各「テバルトマン」ノ下ニ、此區分ヲナシ、一箇ノ議會ヲオキ、又其長ヲ

定ムレ<sup>ル</sup>各「コムシヨ<sup>ン</sup>」ノ土地人民及ヒ財産ニ於テハ直ニ各「デパルトマン」ニ於テ總轄ス「デパルトマン」ニ長官タルモノハ大政府ヨリ選ミ、皇帝ノ命ニ任セラレ、帝ノ代理人タリ、<sup>ル</sup>帝王政治ノ其下ニ議院ヲ徵集シ、一ノ小政府ヲ成ス、其趣キ頗ル支那ノ郡縣制ニ似タレ<sup>ル</sup>各「コムシヨ<sup>ン</sup>」ハ一箇ノ無形ナル人ヲナシ、財産ヲ保護シ、議會ニ聽クヲ以テ、其行政ノ實ハ自ラ歐洲一般ニ行ハル制ト甚タ異ナルモノナシ、而テ東洋ノ州郡縣邑トハ全ク性質ヲ異ニス、當時拿破侖第一世多士ヲ集メ、民法ヲ修定シテ、人民ノ財産ヲ保護シ、權利ヲ全クセシムルヲ謀レルハ、各國ミナ稱美シ、模範トスル所ナリ、爾後モ氣運人事ノ移變ニヨリ、益之ヲ修美ニシ、殊ニ拿破侖第三世ノ代ニ至リ、潤色セル所多ク、全國ノ富庶ハ、歐洲第一タリ、○佛國ハ三民ノ生業普ク立チ、土地モ亦腴壤ニ屬スレハ、人民ノ各地方ニ散處スルヲ大抵平等ニテ、其財産モ亦之ニ準シ平等ナリ、全國ノ戶數九百萬アリ、其百萬ハミナ富有ノ家ナリ、其餘八百萬ノ内、商工ハ三百萬ニテ、各都府ニ住ス、都府モ各地ニ散布シ、大都會ノ人口十萬以上ニ上ルハ、<sup>ル</sup>ニ六七ヶ所アルニスキス、家屋六百萬餘アリ、多クハ土地ヲ

所持シ、自主ノ權アルモノナリ、近年村邑ノ人口ハ、較減シ、都會ニ較増セ<sup>レ</sup>、英國ノ情態トハ各別ナリ、英國ノ民ハ都府ニ聚リ、全民ノ十分八ニオル、國利工商ニアリ、佛國ノ都府ハ、全民ノ十分四ニスキス、國利三業ヲ兼タリ、都府ノ著大ナルモノハ、巴黎ノ外<sup>リヨン</sup>、馬耳塞<sup>マルセイユ</sup>、及ヒ「ボルドウ」ノ三府ナリ、

○佛國ノ地勢ハ、原野多ケ<sup>レ</sup>、東及ヒ南ニハ、山脈綿亘シテ、險阻ノ地モ少カラス、第一ニ「アルプス」大山脈、以國、及ヒ瑞士ノ境ニ湧層シテ、「モンアラノ山」ハ、直立一萬五千七百尺ニ及フ、歐洲第一ノ高山タリ、其脈北ニ綿亘セルハ、獨逸ト界ヲ分チ、「メツ」スタラスボルク」ノ險隘ヲナス、又南ニ綿亘セルハ、以太利ト界ヲ分チ、峻峯天ヲ摩ス、又白耳義境<sup>ベレチツグ</sup>ヨリ起リ、地中海ニ達セル、一帯ノ山脈アリ、里昂府<sup>リヨン</sup>ノ如キハ、其群嶺ニ據テ開ケリ、南西ナル西班牙<sup>イスパニヤ</sup>ヲ分界セル、「ビルニー」山脈モ、峻險ナルヲ「アルプス」ニ亞スルト云、○河道多ケ<sup>レ</sup>、甚ク長大ノ流ヲナスニ及ハス、巴黎ニ流ル、「セイソ」河ハ、四百三十英里ニテ、北方英吉利<sup>イギリス</sup>ニ注キ、里昂<sup>リヨン</sup>ヲ流ル、「ロソ」河ハ、四百九十英里ニテ、馬耳塞<sup>マルセイユ</sup>ノ西ニテ、地中海ニイリ、岸ナシテス」ニ打出ス、「ロイル」河ハ、五百七十英里ヲ流ル、此等ヲ首トシ、



大抵國境內ニテ成レル河ノミニテ、漕運ニ缺乏ナシ、又運河ヲ堀テ不足ヲ補フ「ナントドック」ト名ツケル運河ハ、地中海ヨリ堀入テ「カロン河」ニ接シ「ボルドウ港」ニ注ク、長サ百二十英里、百噸ノ商船マテハ、直ニ地中海ヨリ「コルフデカスコーケン灣」ニ出テ、<sup>アタランナツク</sup>壓瀾的海ニ漕出ス、路易十四世ノ開キシ、名高キ運河ナリ、其他「ロイン」ノ運河ヲ開キ「セイソ」<sup>ロイン</sup>「ロイン」ノ兩河ヲ接續シ「モンシェウイ」ノ運河ヲ開キ「サオン河」ニツケ、更ニ「ロオン」「セイソ」ノ兩河ニ通シテ「ライソ河」ト脈絡ヲ續ケタル等、佛國ノ水利ハ、名譽久シ、巴黎ノ建築學校ヲミレハ、其注意ノ大ナルヲ知ルヘシ、全國運河ノ數ハ、凡八十六ニテ、總テ二千三百三十英里ノ長キニ及フ、○道路ノ建築モ、同ク行届キタリ、道路ハ國道、縣道、郡道、里道ノ四類ニ分ル、國道ハ幅十二「メートル」ト定メ、其數二十六條ニテ、總テ二萬四千英里、縣道ハ幅八「メートル」ト定メ、其數九十七條ニテ、總テ二萬二千五百英里、總計四萬七千四百英里ノ運輸便利ヲ與ヘ、大政府ニテ保護所有ス、其餘地方ノ用度ニテ、建築修繕スル小道ニ、郡道、里道ノ別アリ、里道ハ即農道ナリ、亦規則ヲ立テ、漸ニ改正ニツクト云、○鐵道ハ第六等ニ位セリ、英、白、日、瑞、墮、其



一千八百三十年ノ季ニ、鐵道ノ發明アリシヨリ、佛國ニテハ、其建築ハ都テ政府ノ所有ト定ントセシモ、一千八百四十二年ヨリ以後ハ、改メテ會社ニ委子、政府ハ只其工事ヲ總監シ、之ヲ助力スルヲニ決定シ、是ヨリ其建築モ盛ンニ備ハリ、一千八百七十一年マテニ落成セル總長ハ、一萬七千六百英里ニ及ヘリ、此内ニ新舊ノ兩道アリ、舊道ハ正路ノ線ナリ、新道ハ支線ニテ、國民ノ便利ノタメ、利得ヲハカラス架セルモノナリ、如此キ路線ニハ「オプアリガシン」トテ、政府ヨリ百分四ノ利息ヲ保護スル株券ヲ發シテ會社ヲ募ル、故ニ佛國ノ鐵道ハ三百三十「キロメートル」以下ノ短道ヲ除ク外ハ、大概六大會社ノ所有ニ屬ス、東部、西部、南部、北部、地中海、及ヒ中部ノ會社ナリ、此全道ニ用フル蒸氣軸車ハ、二千二百七十二、乘車ハ一萬千七百五十五、荷車十一萬七千六百十六アリ、之ニ從事スルモノ十三萬八千二百四十七人ニ及フ、一千八百六十九年中ニ運送セル荷物ハ、四千四百〇一萬四千噸、乘客ノ數ハ一億千百十六萬四千八人ニテ、收ムル所ノ賃錢ハ、六億九千六百三十八萬四千「フランク」、一億三千七萬三千「フランク」、其入費ハ、三億一千二百〇三萬三千「フランク」ナリ、○電信線ハ、總長八百弗

サ三萬六千八百「キロメートル」郵便局ニテ書狀ヲ送レル數ハ、三億六千萬書  
籍ノ數ハ、三億二千萬ニテ、郵便稅八千餘萬「フランク」ヲ收メタリ、  
氣候ハ、歐洲中ニテ、最モ勝レタル溫和ノ良候トス、然レハ南北ノ緯線ハ、八度  
ニコヘ、國內ハ山原深壑アリ、外面ハ洋海ニ傾ク線多ケレハ、或ハ北方冷冽ノ  
餘氣ヲウケ、或ハ南方炎燄ノ風ヲウケテ、氣候ニ差異ヲ生ス、大抵北部ハ、冬季  
一年ノ半ニオウル、然レハ甚シキ寒冽ニ至ラス、南方ハ夏氣長ク、時時亞弗利加  
ノ炎燄氣ニ感觸シ、人ノ健康ヲ害スト云、一時ノ經過ニテ、其國ノ氣候ヲ語リ  
難ケレハ、我一行ハ隆冬ノ際ニ、巴黎<sup>パリ</sup>ニ逗留セシニ、積雪飛霽ニアフ度度ナ  
ルモ、輒融シ輒晴テ、著シキ寒ニハアハサリシ、其後盛夏ニ、里昂馬耳塞ヲスク、  
亦酷ナル炎熱モナシ、大概我日本ノ西南ト、一般ノ氣候ナリキ、然レハ南方樹  
木ノ盛育、果瓜ノ成熟ヲミルニ、長キ溫熱ヲツケルノ狀ヲアテハセリ、

○佛國ノ地味ハ沃腴ヲ以テ稱セラレサレハ、農業開墾ハ、注意甚タ厚キヲ以テ、  
物産ニ儉ナラス、又英國ノ如ク、偏長ノモノ少シ「カレイ」ヨリ巴黎ニ至ル、沿路  
ノ田地ハ、多ク瘠薄ノ狀ヲアテハセリ、巴黎ノ近郊ハ、沃饒ヲ覺フ、南方ハ甚タ





ヲハストナリ、○全國ニ農業ノ普均セルヲハ、農民ノ數一千九百五十九萬八千餘口、英國ハ三百三十戸數三百二十二萬六千ニ及フ、其内十分ノ六ハ五町歩以下ノ地ヲ耕スモノニテ、四十町以上ヲ耕ス豪農モ、十五萬四千戸アリ、傭作民ハ六十萬人ニスキサルニテ、察スヘシ、農家耕作ノ目的ハ、穀物食用ノ品ニ止ラス、土宜民力ニ從ヒ、甜紅蕪菁、大麻、亞麻、菜種、「チツツ」羅紗ノ刷ヲ製スルモノ染料等、製造ノ原品モ、土ヲ相シ耕スヲ以テ、穀類ノ產出ハ不足ナリ、食用穀ヲ耕作スル田、一千六百餘萬町、近十年耕作ノ術モ進歩シ、一町ノ收量、我十二石ニ平均スルニ至レト、猶一千八百七十年ニハ、五十七億九千四百「セントネル」ヘルチツク價一億四千百六十萬「フランク」ノ穀物ヲ、露國、米國、及ヒ近國ノ白耳義、獨逸等ヨリ輸入シタリ、○製作ノ原品トナルモノ、一ハ纖維質ノ草、大麻、亞麻ノ類ニテ、紡織ノ用ニ供ス、二ハ葡萄ナリ、其輸出高二百五十萬「ヘクトリットル」ニ及フ、佛國ノ葡萄酒ハ、歐洲ノ名產ニシテ、一千八百六十九年ニ、製造高七千萬「ヘクトリットル」、輸出ノ分モ三百萬、價二億四千萬「フランク」ニ上レリ、東南「アルプス」山ト來因ノ谿ト、西南西班牙境ノ山谿ヨリ、「ポルドウ」地方ニ、最上ノ果ヲ結ヒ、「ジ



ヤンパン「ポルドー」名皆地ノ銘酒ハ世界ニ賞美セラレ「ポルドー」一府ニ醸ス高

モ、瑞士全國ノ高ニコユ、三ハ甜紅蕪菁ナリ、以テ砂糖ヲ製ス、殊ニ西北ニ盛ナリ、此産ハ三十年來ニ興リ、今ハ全國ニ四百八十四ヶ所ノ製造所アリ、三億四千萬「ギロカラム」ヲ產出ス、歐洲第一等ナリ、四ハ蠶桑ナリ、南部ノ地方ニ、五萬五千町ノ桑園アリ、千八百五十年末ヨリ、蠶病流行シ、頗ル其收穫ヲ減シタレト、今ハ其病ヲ除ク方ヲ發明シ、戰爭以後、政府更ニ此業ヲ一層盛大ニセント圖ルトナリ、其他芥カランケシ、粟ホツアノ油ヲ製スルモノ、茜アカキベニ、紅藍及ヒ「ゴート」黄染ノ染料、草ナリ、染料ヲ製スルモノ、又棒穗ホツアヲ耕シ、麥酒ヲ製スル高モ、八百十餘萬「ヘクトリットル」ニ上ル、烟草ハ政府別段ノ法ヲ以テ、製造ノ利ヲ權セリ、

牧蓄ハ農家ノ兼業ニテ、全國ニ徧シ、殊ニ西、及ヒ西北ヨリ、中央ニ盛ナリ、健馬ヲ產ス、又南部ニモ牧業ヲツトメ、乳酪ゴートルチーズ、乾酪、美ナリ、秣草場ノ耕作甚タ進ミ、國中ノ牛數一千二百七十三萬、年年五百萬頭ヲ屠リ、羊數三千萬、年年二百萬頭ヲ屠リ、豚五百九十萬、年年四百二十萬ヲ屠ル、近年養雞ノ方法進歩シ、雞卵三千萬「キロガラム」ヲ輸出シ、三千六百三十六萬「フランク」ノ價ヲ收メタリ、七百二十

七万二千弗 肉食ノ盛ナルヲ英國ニ匹ス、濱海ノ漁利ハ、毎歲價八百萬「フランク」ヲ輸出ス、

○礦物ヲ産スルヲ、大抵全備セリ、巴黎ノ礦山學校ハ、其設ケ宏大ニテ、礦石ヲ討搜セルヲノ周備ナル、并セテ内國礦業ノ制式ヲ示ス、評密ナラサルナシ、固リ一旦一夕ノ得テ悉ス所ニアラサレト、其大約ヲ叙スレハ、第一ニ鐵石炭ノ産出、内國ノ製作ニ欠乏ナシ、去年ニ産出セル鐵ハ、高一百三十五萬六千噸、六十噸五「フランク」ニ積リテ此價八石炭一千二百八十萬噸ナリ、英國ノ鐵炭多シト雖ト、佛國ニ輸入ノ高ハ甚タ些少ナリ、其他銅ヲ出ス、四萬五千「セント子ル」、又「アンチモニー」礦アリ、銅、白銅ノ製作ヲ饒ス、鹽礦ヲ藏シ、并セテ海水ヲ煮ルニ、工省キテ産大ナルヲ以テ、鹽價ノ賤ナル、歐洲第一ナリ、其他黃金、白銀、鉛、硫磺、花蕊石、大理石等ヲ出ス、佛國都府ノ美ナルハ、建築用ノ石材多ク、且端美ナルニヨルナリ、又寶石モ出レト些少ナリ、

佛國製作ノ巧ナルハ、歐洲第一ニテ、其伎倆精粹機巧ニシテ、風致ヲキハメ、美麗ヲ盡シ、ヨク人ノ嗜好ニ投合ス、故ニ歐洲ノ流行物ハ、ハヤリモノ常ニ佛國ニ源ス、佛國

ノ製作品ニテ、最美ナルハ「イフラン」ト名ツケル、畫織ヲ織出シタル毛毯ト陶器トノ二品ニテ、共ニ政府ヨリ資本ヲツナヘテ、其工技ヲ保護セリ、後ニ詳里記ス昂府ノ絹織、及ヒ剪綵花、フクリハナマタ其美ヲ世界ニ轟カセリ、羊毛ノ紡織ハ、此國ノ重ナル利益ニテ、英國ト相頡頑ス、其伎倆ハ、英國産ノ如ク厚緻ナラサレヒ、能ク流行ニ投ス、年年ニ羊毛三億二千萬磅ヲ織出ス、木棉ハ歐洲中ニテ第一等タリシニ、「アルサス」ノ地ヲ獨逸ニトラレテ、其譽ヲ失ヒタレヒ、亦伎倆ノ屈セルニアラス、麻ノ紡績ハ、西北部ニ最多シ、「カレイ」ノ綿繻レイス高名ナリ、其他金、銀、銅ノ細工、寶石ノ細工、時辰儀多ク置付ノ、玻瓈鏡、粧飾、香匱ノ具、學術器械ノ類、工益細精ニシテ、伎倆愈生ス、石像ヲ彫シ、油繪ヲ描クヲ、以太利ト相抗スヘシ、而シテ鎖鑑漁船ヲ製造シ、大砲小銃ヲ打立テ、家屋ヲ建築シ、橋梁ヲ架渡スルノ工ハ、亦英國ト相競ヘリ、其工術細大ミナ備ハレリ、英國ノ工業ハ器械ヲ恃ム、佛國ハ人工ト器械ト相當ル、故ニ英人ヲ嘲リ、指頭ニ神經乏シク、巧技ミナ物力ニ依頼スルト謂フ、英國ノ產物ハ、堅牢ヲ以テ勝ツ、佛國ハ、纖華ヲ以テ勝ツ、兩國常ニ相抗シ相下ラス、而テ獨逸ヲ目下ニ視タリ、獨逸ノ工ハ富麗ヲ尙フ、



佛人以テ風致ヲ知ラサルモノトス、以太利人ニ技巧多シ、其製作適美ナリ、佛人ハ之ニ勝ツニ、華麗新奇ヲ以テス、實ニ歐國工藝ノ叢ト稱スヘシ、全國ノ人民、工業ヲ職トスルモノ百分ノ三十二オル、其數男女一千〇九十六萬ナリ、

○貿易ノ盛ナルヲ、歐洲陸路交易ニ於テハ、此國ヲ大都數トス、水路貿易ヨリ、遠

海ノ業ヲ兼テ、殊ニ一千八百五十八年ヨリ、非常ニ其數ヲ増加シタリ、遠海航通ハ、英國ニ及ハサルヲ、商船ノ少キニテ證トスルヘシ、内地及ヒ隣邦ト、海陸

ノ貿易ヲナスコハ、實ニ歐洲ノ中央ヲシテ、百貨ノ都會タリ、歐米ノ工産ハ、一度佛都ニ輸入シテ、而後ニ價ヲ加ヘ、利潤ヲ増ス、故ニ各國有名ノ會社、一モ巴黎ニ出店セサルモノナシ、佛國人ハ、貿易交際ニ於テ、用意甚タ機發ニシテ、言語都雅、ヨク沽客ノ歡心ヲトリ、愛顧ノ心ヲ起サシム、而テ其貨物ノ華美ト、羅

列ノ巧致ナル、人ノ嗜好ヲ引キ、鄙人イナカモ一タヒ佛國ノ驛ミセヲスキレハ、財布ノ底ヲ

拂フト謂フ諺アリ、一千八百七十年ヨリ七十一年マテ、平均ノ輸入品ハ、其價

一億一千三百七十萬磅、輸出ノ價ハ一億三千四百六十一磅ニ及ヘリ、佛國ニ

テ貿易ヲ勘査スルニ、普通貿易ト、別格貿易トニ部分ケヲナス、別格貿易トハ、



國民必要ノ物ヲ輸入シ、國產必賣ノ物ヲ輸出スル高ナリ、普通貿易高ノ平均ハ、七十五億「フランク」ニテ、其四十億ハ輸出ナリ、此内別格貿易高ノ平均ハ六十億「フランク」ニテ、亦輸出ヤ、多シ、此ハ一千八百六十八年マテ三年ノ平均。○佛國貿易ノ目的ハ、英國及ヒ蘭、白等トハ、反對ニテ輸入ノ高ヨリ輸出ノ高多キヲ以テ主要トナス、然レニ其細別ヲナセハ、歐米兩洲ト、弗、細、豪、三州トノ貿易ハ、其主要ヲ異ニセリ、或ル統計表ニヨリテ、其通商部分ヲミルニ、

歐洲 輸入二八、七五五〇、萬「フラン」 輸出二九、六〇〇〇、萬「フラン」

米洲 五、九五五〇、 六、六六〇〇、

弗洲 一、〇九〇〇、 九五〇〇、

細及ヒ豪 二、四五〇〇、 四五〇〇、

屬地 一、八三五〇、 二、三七〇〇、

合計 四〇、〇八五〇、 三九、九三〇〇、

是弗、細、豪、及ヒ屬地ヨリ輸入スル所ハ、國民ノ營業力ヲ増スヘキ、製作元品多キニヨルナリ、○商船ノ數ハ、一千八百七十年一月ノ統計ニ一萬五千八百十

六艘、百〇七萬四千六百五十六噸ノ内、蒸氣船ハ、只四百五十四艘、五萬七千五百十三馬力、十四萬二千九百四十二噸ナリ、此内二百馬力以上ノ大船ハ、百艘ニ及ハス、別ニ漁船九千二百艘、六萬九千二百四十噸アリ、舟船ヲ業トスルモノハ、四萬人ニスシ、一千八百六年八年ニ、佛國ノ二百十八港ヨリ出入セル商船ハ、入港九萬六千四百八十四艘ニテ、其噸數九百三十三萬五千ナリ、出港八萬四千九百七十七艘ニテ、其噸數九百八十二萬七千六百アリ、○全國商業ノ民ハ、百分ノ四、農商ヲ兼タルモノ百分ノ二、スヘテ二百六十餘萬人ニ及フトナリ、佛國ハ拿破侖第一世ノ烈ニヨリ、民法ノ權定最モヨク整理シ、其宜キヲ得タルヲ以テ、財産保護ノ道普クト、キ、全國ヲ通シテ、富有ノ戸多ク、財ヲ民ニ積ムコト、各國ミナ及ハス、一千八百六十七年ニアタリ、國債ヲ募リタルコト、國中ノ百〇九萬五千六百八十三人ヨリ、二十七億弗ヲ償セリ、其二年前ニ、英國ニテハ、十二萬六千三百三十一人ヨリ、三十八億五千萬圓ヲ償セルノミ、是佛民一人ノ平均二千五百圓ニシテ、英民ハ三萬圓ナリ、故ニ英國ノ富ハ、佛ニ四倍スルト稱セシニ、去ル一千八百七十一年ニ、日耳曼ト和約ノキ、償金九億五

千萬弗ノ巨額ヲ拂フヲ約シ、二年ヲ出スシテ皆濟セシハ、英人モ落膽セリ、而テ内國ノ紙幣ニ些ノ下落ヲ招キシマテニテ、貿易ノ利、屈折スル所ナク、國ニ窮困ノ情ヲアラハス。ナシ、政府貧ナレハ、民皆富ム、全國依然トシテ生理ヲ進ム、佛人因テ謂フ、國ノ貧富ハ、政府ニ財ヲ蓄フノ豐歟ニアラス、人民ノ貧富ニテ定マル、日耳曼政府ニ金礦ヲ積メハ、全國ノ民ミナ貧ナリ、故ニ金礦民手ニ落レハ、乃流レテ佛國ニ歸ル、九億萬ノ價金ハ、之ヲ佛ノ政府ヨリ出シ、日國ヲシテ償ヲ我佛民ニ償ハシムルノミ、七年ヲ出スシテ、全額佛ニ返償スヘシト、此國ノ財多キト、人傑ノ多キトハ、實ニ歐洲ノ精華ト謂フヘシ、

○國民ハ「フランクス人種」ニテ成立タリ、此民ハ、最初獨逸ノ西北、蘭白ノ境ヨリ轉移シテ、此國ニ蔓衍セリ、所謂ル「フランクス人種」ノ數ハ、三千二百五十萬口アリ、其内「プロワンセリッ」トイフモノ、一千二百五十萬ハ、純粹ナル佛語ヲ操ル、此民南部ニ蔓衍ス、眞ノ佛人ハ二千萬ニスキス、其他獨逸人百十六萬アリシニ、去年削地ノ後ハ、大ニ其數ヲ減シ、且戰爭ノ際ニ、巴黎ニアル獨逸人ハ、盡ク放逐シタレハ、今存スモルノ甚タ少カルヘシ、其他以太利人種、西班牙人種等、



國境ニスムモノアリ、其數多キモ三十萬ニスキス「ワアルロー子人二百萬」キ  
ルネン人百萬アリ、○佛朗西人ハ、體格長大ナラス、音聲發揚シ、資性活潑ニシ  
テ、氣力强健ナリ、英、及ヒ獨逸ト、返對ノ性質ニテ、其弊ハ、剽悍輕燥ニ流レ、忍耐  
強勉ニ乏シ、毎ニ機敏ヲ以テ勝ヲシム、粗我日本人ノ氣象ニ似タリ、瀛環志略  
ニ佛人尙豪俠、氣高亢、飲酒慷慨、終日歌舞無戚容、トイヘルハ、其狀ヲ盡セリ、故  
ニ進取ニ銳ニシテ、持重終局ニ鈍シ、往往繩墨ノ外ニ溢レ、節制ニ難シ、雄才大  
略ノ君將出テ、一タヒ其銜勒ニツケハ、銳鋒無前ニシテ、歐洲ヲ虎視スルニ至  
ル、統御僅ニ弛メハ、決裂四出シ、收拾スヘカラス、前年岫破ヲ日耳曼ニトリタ  
ルモ、卒弱キニアラス、將校ノ劣ナルニヨルナリ、日耳曼人、噠、塙、佛、ニ恨ヲ構ヘ  
タレ、噠ハ小ニ、塙ハ弱、ミナ意トナサス、只佛國ヲ憚リ、今ニ戒心ス、而テ佛人  
ミナ憤ヲ藏シ、報復ヲ忘レス、兩國ノ相敵視スルルヲ、實ニ甚タシ、  
○教育ハ、近年ノ進歩、甚タ溢鈍ナレ、全國ノ男女ニ、無學無筆ノモノハ、百ニ三  
十ニスキス、蓋此國ノ文化ハ、各地方ニヨリ、甚タ不平均ナリ、東北ノ諸州ハ、大  
ニ進ミ、西、及ヒ中部ハヤ、ス、ミ、南部ハ甚タ劣ル、僻陬ノ邑ニハ、全ク一校ヲ



設ケサル所モアルニヨリ、且普通ノ教育ハ政府ヨリ勸督シ「カトレイキ」教僧ノ手ニアリ、故ニ教則ニ完全ヲ缺クコト多シ、全國小學ノ數八萬二千四百三十五ヶ所、生徒四百七十三萬九千四百七十八、中ニ全ク僧徒ニテ教ユル男女學校モ少カラス、女學校ノ如キハ、女尼ノ集リ教ヘルモノ三分二ニアル、此國ノ教育全國ニ普クト、キ、裨益ヲ施スニハ、更ニ人ノ一世ヲ要スヘシト云、

教門ハ羅馬「カトレイキ」教ヲ奉ス、全國ノ民三千七百十〇萬七千二百十二人ハ、ミナ此教ノ民ナリ、宗旨ノ自主ニヨリテ「プロテスタント」教流布スト雖モ、信徒僅ニ八十四萬六千餘アルニスキス、

○貨幣ハ「フランク」ヲ以テ元位トス、五「フランク」ニテ米金一弗、二十五「フランク」ニテ英金一磅ニアタル、此「フランク」ヲ百分シテ、其一ヲ「サンチーム」トス、銀行ニ於テ紙幣ヲ製シ行フ、獨逸ニ敗レシ後ニ、其製造額ヲマシテ、金ト紙トノ間ニ少シク差ヲ生シテ、價格ヲ損シタレモ、一年ナラスシテ、漸ニ其差ヲ平均セソトスル勢アリ、

度量衡ハ、一千七百九十九年ニ、拿破侖第一世カ改正シタル、自然尺ノ法ハ、大

ニ歐洲列國ニ稱セラレ、日耳曼モ、去年四月二十二日ノ布令ニテ、此法ヲ準用  
スルヲトナリ、歐陸地大半ハ、佛制ヲ用フル國多シ、其法ハ距離度ヲ地球赤道  
周圍ヨリ割出シ、其四千萬分ノ一ヲ、一「メートル」トナス、「メートル」十分ノ一立  
方積ニ容ル、乾量ヲ「リットル」ト定メ、又百分ノ一立方積ニ容ル蒸餾水ノ重サヲ  
一「グラム」ト定メ、一「メートル」立方積ヲ、一「アール」ト定メ、ミナ十ヲ以テ位ヲ進  
退ス、希臘語ヲ名稱ノ上ニ加ヘ、之ヲ差次ス、元位ヨリ十位ヲ「デカ」ト云、百位ヲ  
「ヘクト」ト云、千位ヲ「キロ」トイフ、「デシ」ハ十分一ナリ、「サンチ」ハ百分一ナリ、「ミ  
リ」ハ千分一ナリ、其比較ノ略ハ、

度一「メートル」 我三尺三寸 弱

英ノ三「フット」ニ一八 普ノ一「エル」四九 壤ノ一「エル」二八  
「バイエロン」ヲ三「フット」六三 瑞士ノ三「フット」三三

量 乾量斗「リットル」 一「ヘクトリットル」ハ 我五斗五升

英ノ二一二「ガルロン」普ノ一「シェツフェル」八一  
ニテ「ヘクトリットル」ニ比較スルナリ

衡一「グラム」 即磅ヲ千分スルノ一 一「キログラム」ハ我二百六十六錢

英普ノ二磅四四ヲ「キログラム」  
ニ比較スルナリ

平積「アール」  
「メートル」平方

「ヘクトール」ハ我一町二十五歩  
即三千〇二

英ノ二「エークル」四七 普ノ三「モルゲン」  
九一ヲ「ヘクタール」ニ比較スルナリ

サンザクライト

寒暑針ハ多ク百表度ヲ用フ、又「レオミニュー」表モ用フ、日本ニ於テハ、早ク獨逸  
發明ノ「ハーレンヘート」ヲ傳ヘテ、其度ヲ以テ寒暑表ノ通法ノ如ク思ヘリ、米  
英ヲスキ、一タヒ佛ニイレハ、ミナ百度表ヲ用フ、往往ニ錯謬ヲ生スルヲアリ、  
其外歐洲ニ於テハ、百度表重ニ行ハレ、寒暑計ハ百度表ヲ最モ普通ニ用ヒラ  
ル分度ナリト云ヘシ、尺度ヲ述ヘルニ於テ并テ此ヲ贅説ス、



第四十二卷　巴黎府ノ記一

十一月十六日　晴

朝六時半ニ行李ヲ辨シ、七時十五分ニ「ホッキンハムハレイス、ホテル」ヲ發シ、「ザイクトーリヤ驛」ニ赴ク、此頃ハ曉八時ニ黎明ヲナス、猶曉雲ノ蒼茫タル際ニ、殘月ヲ漏シ、街路ノ瓦斯燈モホノクラクニ明リテ、人ノ往來モ絶ヘ、モノサヒシキ市街ヲ、倫敦ノ名殘ト走り行キテ、蒸氣車ニ上リヌ、○蒸氣車ハ、英國政府ヨリ、例ノ如ク享應トシテ仕立タル車ニテ、「ゼ子ラール、アレキサンドル氏モ」アストン氏ト共ニ送り來リテ、同車ナシ、三十分時ヲ經テ發車セリ、英倫ノ東南ハ、平野、平坡ノミニテ、牧草ヲ蒔キ、牛羊ヲ放チテ、牧畜ノ地多ク、畔ヲ分ツテ植タル木モ、搖落ノ後ニテ枯凋シ、處處ニ田家ノ村落ヲナシ、樹陰ニアルヲ眺メテ、走り行フ七十八英里、九時ニ「トープル」ノ波戸ニ達セリ、○「ドール」ノ埠頭ハ、英佛岔海ノ尤モ狹キ處ノ海岬ニテ、北緯五十一度七分、東經一度十九分ニ位シ、人口二萬八千二百七十八アリ、蒸氣車ノ驛ヨリ、直ニ石垣ヲ海岸ニ疊ミ



上ケ、石級ヲ築キテ船ニ上ルヘカヲシム、岸上ニ砲臺アリ、全岸ミナ白石ニテ疊ミ、皎然トシテ清シ、一行船ニ上レハ、祝砲ヲ發スルヲ十九發、「アレキサンドル氏」アストン氏、ミナ船ニテ別ヲツク、

「ドーブル」ヨリ、佛國ノ「カレイ」ノ埠頭マテ、海上二十一英里、天空晴朗ノキハ、岸ヲ對シテ海濱ヲ望ミミルヘシ、英地ニ霧多ク、天空常ニ朗ナラス、兩岸ノ地ミナ平岡ニテ、今日モ亦對岸ミルヘカラサルノ天ニテアリケリ、昔羅馬ノ該撒シーザルカ、佛國ノ海岸ヨリ、此地ノ白堊粉壁ヲ望ミテ、遂ニ英國ニ攻入タリト云モ、此峽ノコニテ、其比ヨリ此ニハ人家ハアリケルナリ、カクテ、船ハ岸ヲ離ルレハ、程ナク海水茫茫トシテ、地方ニハ海霧暗ク、波ノ音モヤ、暴シ、アラ此海ハ常ニ波立ツ瀬戸ニテ、往來ノ船宛イツモ惱マサル、ト云、今日ハ例ヨリ靜カナル海ナリキ、郵船ハ長サ二百尺ハカリ、甲板ニ室ナシ、次層ニ廣室二三アリテ、欄ヲ仕切り、紅絨ヲ茵トシテ客ヲ坐臥セシム、頗ル美麗ナル船ニテアリケリ、十二時ニ、佛國「カレイ」ノ渡頭ニ著船ス、此モ亦白石ニテ、石垣ヲ高ク築キ起シテ、波戸ノ設ケモ嚴重ナリ、此ニ佛國政府ヨリ接伴トシテ、「ゼ子ラール、アッハー」コロ

子ル、シヤノア、我、鯨島中辨務使ト共ニ出迎ヘ、兵隊岸上ニ整列シテ、銃ヲ捧ケテ禮ヲナシ、接引シテ驛傍ノ「ホテル」ニ延キ入レヌ、

○「カレイ」ハ北緯五十度五十七分、東經一度五十一分ノ地ニ位シ、人口一萬五千人アリ、佛國ニテ極北ノ埠頭タリ、英國ト往來ノ要津ナレハ、驛舍ノ繁華モ亦盛ナリ、「ホテル」ニ於テ晝餐ヲ設ケテ享應アリ、此英佛ノ間ハ、僅ニ一衣帶峽ヲ隔ツレトモ、言語ニ音聲ヲ異ニセルヲ怪ムヘキホトナリ、英人ノ音ハ沈鬱ナリ、佛人ノ音ハ激越ナリ、其言語モ亦原流ヲ異ニシ、全ク相變ス、食饌ノ設ケモ、頓ニ調味ヲ變ス、兩國ノ間、古來互ニ相侵越シ、相交通スルヲ幾千年、竟ニ一水ヲ隔テ、互ニ其故ヲ守ル、國ノ經域ハ、山河ノ自然ニヨルカ、抑人氏ノ結習ニヨルカ、兩ノモノ共ニ改ムヘカラサルヲ此ノ如シ、○午後一時食ヲ了ヘ、瀛車ニ上リ南發ス、是ヨリ大陸地ノ土壤ニシテ、廣平ノ原野、海濱ニ接シ、一望曠濶ニテ稍岡坡ノ起伏ヲ存スルヲミル、其勢甚タ緩ナリ、土色黃ニシテ石礫ヲ雜ユ、英國一般ノ野ヨリモ瘠薄ヲ覺フ、道路ノ傍、田圃ノ畔ニ、廣業樹ヲ植エテ中林トス、幹ヲ存シ年々枝ヲ芟モノ、草モ亦滋ナラス、村屋及ヒ驛舍ノ建築、ミナ英國ト風ヲ

異ニス、村落寥落トシテ、富潤ナラサルヲ覺フ、是ヨリ原田毎毎トシテ、到ル處  
 ミナ耕作ノ田圃、何ノ風景モナク、途上ニテ日沒シ、總テ一百七十六英里半ヲ  
 走り、六時ニ巴黎府ノ「デイス」ト驛ニ達シ、馬車ニテ巴黎ノ市街ヲ走ル、崎嶇タル  
 層閣、街ヲ挾ミテ、聳ヘ、路ミナ石ヲ斃シ、樹ヲウエ、氣燈ヲ點ス、月輪正ニ上リ、名  
 都ノ風景、自ラ人目ヲ麗シ、<sup>ウルハ</sup>店ニ綺羅ヲ陳子、旗亭ニ遊客ノ群ル、府人ノ氣風  
 マタ、英京ト趣キヲ異ニス、既ニシテ「シャンゼルセー」ノ廣衢ヲ馳セ、「アレチツリ  
 ヨン」門前ナル館ニ著セリ、○此館ハ元土耳其<sup>トルキ</sup>ノ公使館ニ借渡セシトナリ、此  
 回我使節ノ來留スヘキヲ以テ、佛國政府ヨリ、其在留中ノ公館ニ借渡シ、享應  
 掛ヨリ一名ヲ擇ミ、館内ノ百需ヲ調辨セシム、館ハ「アルチツリヨン」門ノ西北  
 ニ面シ、「ル・デ・アレシポルク」街ニ門ヲ開ク、白石ノ三層樓ナリ、裏面ハ廣達ノ圓  
 形苑ニ臨ミテ、「シャンセルセー」衢ヲ一覽シ、景色壯快ニシテ、畫ノ如シ、館内ノ器  
 什ハ、ミナ政府ノ供給ニ出テ、日需食飲ハ使節ヨリ辨ス、

倫敦ヨリ巴黎マテ、車船ノ程、總テ二百七十五英里、

十七日 雨

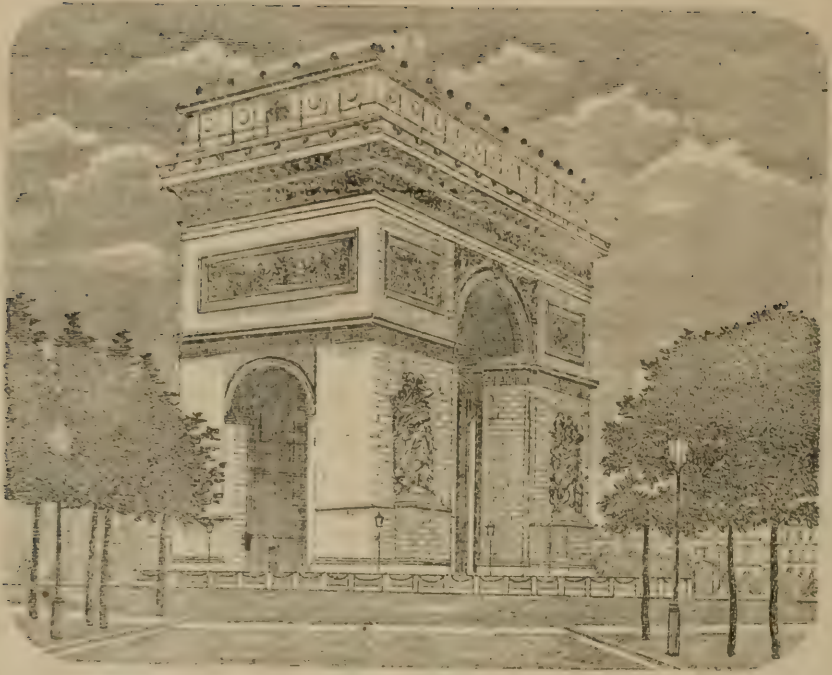


英國秋冬ノ際ハ、常ニ陰霧濛濛トシテ、半ハ夜ヲナス、其中ヨリ來リテ巴黎ニ入レハ、氣象恢濶ヲ覺フ、殊ニ巴黎中ニ於テ、爽塏ニシテ莊麗ナリト稱スルニアルチツリヨム」ノ廣衢前ニ寓シタレハ、猶雲霧ヲ披キテ、天宮ニ至リシ心地スルナリ、此日ハ陰雨ニテ遊出ニ宜シカラサレト、空氣濛濛ナラサレハ、寓館ノ樓ヨリ、眺望モ亦佳ナリ、

○「アルチツリヨム」トハ、凱旋門ト譯ス、西洋ノ築造ニ彎弧形ニ門口ニ關クヲ、其屋壁柱礎今ニ儼然トシテ存スルモノ多シ、往往ニ石ヲ疊ミ彎弧形ヲナシ頂ヘ輻輳シ十字ヲナシ全屋ヲ完成セリ、其術ハ勞力ノ理ニ合シテ牢固ニテ壯美ナリ之ヲ名ケテ羅馬府ニ殘ル所ノ「アルチ」ノ門、結構甚タ精ニ、建築家ノ十字形ノ「アルチ」ト云、羅馬府ニ殘ル所ノ「アルチ」ノ門、結構甚タ精ニ、建築家ノ法ヲ取ル所ニテ、歐洲ノ各都府ニテ、之ヲ模造シテ、府中ニ建テ、美觀トナス、此凱旋門モ亦然リ、○此門ノ造營ハ、拿破侖<sup>ナポレオン</sup>第一世ノ經營セル所ナリ、一千八百年ノ初メニ、拿破侖ハ己ニ以太利、壤地利ノ諸國ニ打勝テ、威名歐洲ニ轟キ、俘獲山ノ如シ、其殊勳ヲ不朽ニセント、大ニ巴黎府ノ修築ニ力ヲ盡シ、此邊一帯ノ屋廬ヲ取除ケテ、濶大ノ廣街ヲ開キテ、髮ノ直キカ如ク、其王宮ニ達セシメ、八面ノ廣街輻輳ノ處ニ、圓徑約我二町ニ及フ廣衢ヲ開キテ、其中央ニ此門ヲ

建タリ○門ノ高サ四十「メートル」正面ノ幅二十「メートル」側面ハ是ニ半ハス  
 正面ニ高サ十五「メートル」ノ「アルチ」ヲ開ク、側面ハ稍狭小ナリ、故ニ門ノ中央、  
 ニハ十字ニ道ヲ通シ、地ニ白石ヲ甃シ、上層モ白石ヲ疊ミテ穹宇トナス、殊ニ  
 高朗ナリ、門ノ四周ハ、砌ヲ徑八十「メートル」ノ圓形ニ匝シテ、石ヲ甃シ、短柱石  
 アリ、頭ヨリ大鐵鎖ヲ張リ垂ル、石壁ノ外面ニハ、神人ヲ畫シ、戰勝ヲ圖シテ、  
 其彫刻ミナ精技ヲ極メタリ、内面ニハ戰功ノ碑文ヲ勒ス、此門ノ位置ハ、府中  
 ニ於テ高塏ノ地タリ、故ニ兀然トシテ、萬竈鱗ノ如キ内ヨリ出テ、府ノ表的  
 トナル、實ニ非常ノ大建築ナリ、路<sup>レイヒリッ</sup>易非立王ノ代ニ、今ノ大統領「チエル君」ノ盡  
 力ニテ、其工作ヲ竣メタリ、故ニ落成ヨリハ、僅ニ三十五年ヲスキタルノミ、往  
 年ニ普魯西ノ軍兵巴黎ヲ圍ミシトキ、軍中ニ令シテ、此門ニ向ヒテ砲發スル  
 ヲ禁シ、圍城ヲ畢ルマテ、一點ノ瑕モ負ハサリシニ、其後「コンミン」ノ亂トテ、  
 國內ニ一揆起リテ、政府ニ抗抵シ、府中ノ大亂トナリ、其時ニ民黨ノ一揆<sup>ヒ</sup>此  
 門ニ大砲ヲ上セテ砲臺トナシテ、北ニ向ヒテ「ウエルサイル」「モンワレヤン」ヲ射  
 テ拒戰ナシタル故ニ、政府ヨリ己ヲ得ス、砲ヲ打掛ケテ之ヲ攘ヒ退ケタリ、此

巴黎ノ凱旋門



同凱旋門通り





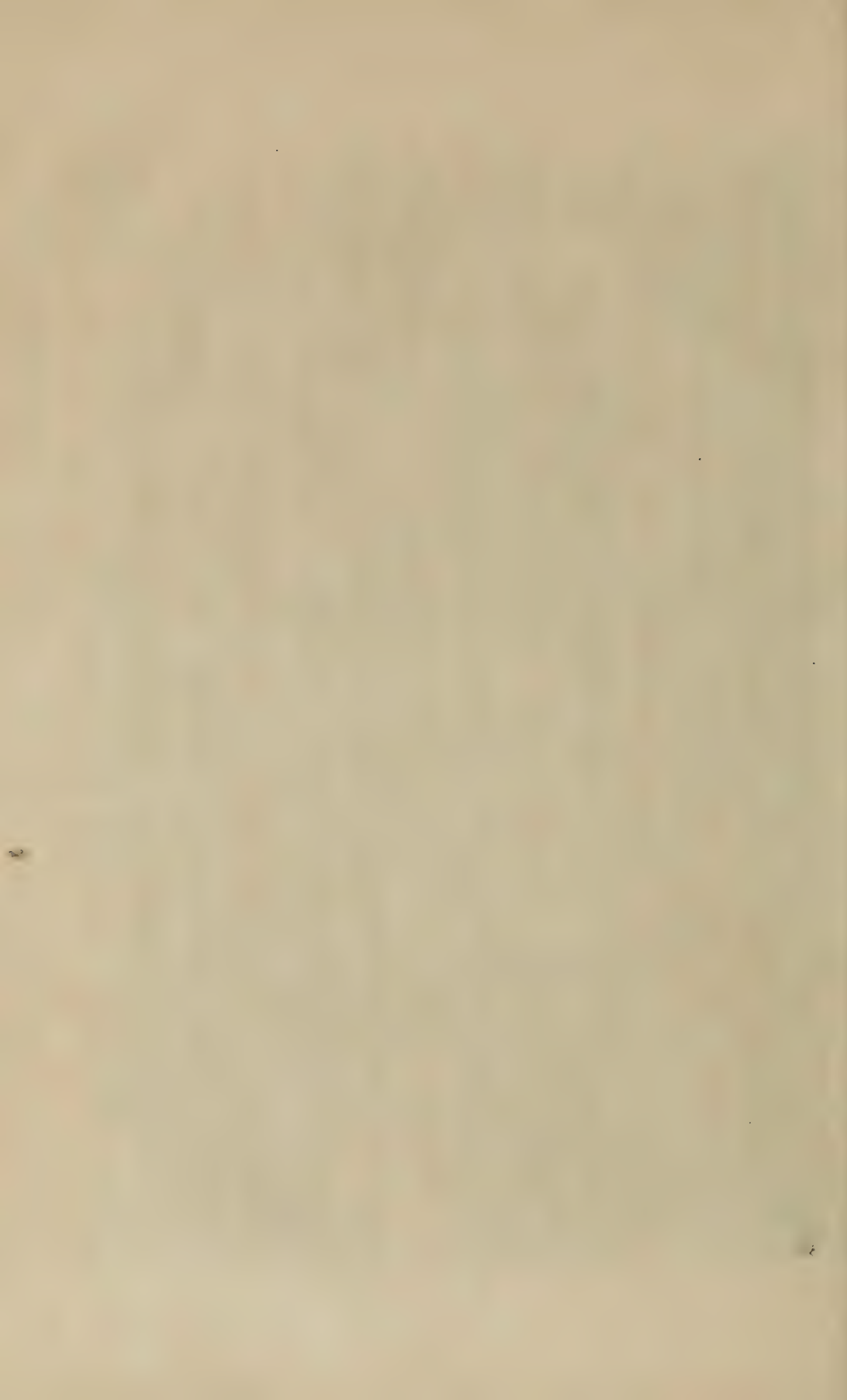


時ニ北方ノ一面毀傷セルヲ以テ、當時ハ修覆中ナリケリ。○門内ニ螺旋ノ階アリテ、門頂ニ上ルヘシ、此ニ登リテ一臨スレハ、巴黎府中ノ地、ミナ森森トシテ指點ノ下ニ環拱シ、米ヲ聚メルカ如ク、大都ノ繁華ヲ領略スヘシ、

○巴黎府ハ、周圍二十一英里ノ地ヲ占メ「セイン河」ノ上流百十一英里ノ地位ニアリ、北緯四十八度五十分十三秒、東經二度二十分九秒ニ王宮ヲ設ク、佛國ノ經度ハ是ヲ零度トナス、故ニ宋篇ノ歸航日程、路易非立ノ代ニ、今ノ大統領「チエル君」ノ其他ノ佛度ハ之ヲ以テ改算スヘシ、意見ニテ、周圍ニ土壁ヲ築キ、今ニ儼存ス、先年「コンムン」ノ亂ニハ、大ニ防禦ノ功ヲ顯シタリ、平時ハ此壁門ニ關ヲオキ、府内ヘ輸入商品ハ、皆稅ヲ課ス、入府ノ商品ニ稅ヲ課スルハ、只巴黎アルノミ、○此府ハ紀元ノ初メ「パリシオラン」ト云シ、都府ニテアリシ、佛國ノ起リシヨリ、久シク歐洲著名ノ大都ト稱セラレタリ、昔時ハ府内ノ廣サ、三千四百餘町「ヘクタア」ニスキザリシニ、今ハ七千八百餘町ニ擴メ「セイン河」ハ巴字ヲナシテ、府ノ中央ヲ流レ、北岸ノ地ヲ「ヴィル」トイフ、宮殿、官署、寺觀、學校等ノ建築、宏壯ナリ、南岸ノ地ハ、中央ヲ「シチー」トス、即チ「パリシヲラン」ノ舊地ニテ、市街、商廛、櫛比基布セリ、南方ヲ「エニヴァルシ

チー」トス、苑觀廣達ヲ開キ、綠樹ヲウエ、清爽宏麗、人ヲシテ廣范ノ景象中ニ居住セシム、東北ハ製造場多ク、職工市街ヲ設ケタリ、此府ノ人口ハ、一千八百年ニハ、五十五萬口アリシニ、二十年ヲ經テ、七十二萬口ニ及ヒ、七十年ニ至リテハ、百八十二萬五千二百七十四人ニ及ヘリ、歐洲大陸ノ都會ニテ、世界中、只倫敦ヲ除ク外ハ、此ト盛ヲ較ヘル都府ナシ、其壯麗ナルニ至リテハ、實ニ世界中ノ華嚴樓閣ノ地ナリ、○百年以前マテハ、此府ノ街路狹隘ニテ、屋廬モ大小相雜リ、妍醜錯雜ニテアリシニ、第一世拿破侖、絶倫ノ大威力ヲ以テ、各國ニ捷ヲ收メタル財寶ヲ傾ケテ、此府ノ觀美ヲ輝サント、遂ニ矮屋小舍ヲ毀テ、中ニハ大厦ヲ取除ケテ、其宮前ヨリ、北郭マテ、長サ約三英里ノ域ヲ改修シテ、白石ヲ以テ、雲ニ聳ヘル傑閣ヲ連ネ、凱旋門ヲ心點トシテ、四面ニ十二條ノ廣街ヲ開キ、其中ニモ、正面ヲ貫キ、宮門ニ達スル街ハ、其濶百二十餘「メートル」名ケテ「シヤンセルゼー」ノ大路ト云、直線ニ「コンゴルト苑」ニ達ス、左右ニハ樹ヲ植ヘルヲ左右各兩條ツ、ニテ、人ヲ樹間ノ清樾中ニ歩セシム、夜ハ瓦斯燈ヲ其砌ニ輝カス、燦トシテ連珠ノ如ク、雲ニ際シテ點點タリ、博物觀、博覽會等、此苑中ニ





巴黎コンコルト北の「オプリスキ」塔  
埃及塔  
ル云



建築シ、傑閣路ヲ挾ミ「セイソ」河岸ニ聳エ、華煥目ヲ輝カス、一帯ノ路ハ小石ヲ以テ地ヲ固築シテ、其上ニ纖沙ヲ撒ス、皎皎トシテ洗フカ如シ、樹間ノ步道ニハ、中ニ一條ノ石片ヲ敷ク、熟視スレハ石ニアラス、巴黎新法ノ叩キ土ナリ、是ハ「テール」ノ種類ニテ、土沙ヲ煉リ、鞏固シテ石ヲナシタルモノナレハ、路ヲ竟フルマテ、合縫ノ處ナシ、其他此ヲ環ル四周ノ街路ハ、ミナ此法ヲ以テ路ヲ修ム、車走リテ聲ナシ、倫敦ノ街ハ、車輪ノ響キ耳ニ喧シクシテ、馬蹄ノ音ヲキカス、巴黎ノ衢ハ、車輪響キナクシテ、馬蹄ノ音ノ來ルノミ、

凱旋門ノ正中ヨリ「シャンゼルゼー」ノ廣衢ヲスキ、其衝當ニ「チユロリー宮アリ、

フキアタリ

宮門ノ前ニ、又一場ノ廣區ヲ開ケルヲ「コンセルト」ノ苑ト云フ、巨大ナル石磐

ヲオキ、水ヲ噴跳シ、石雕ノ大像盤ヲ環シテ立ツ、中央ニハ埃及國ヨリ遷シタ

エチプト

ル「オプリスキ塔ヲ建タリ、塔ノ高サ二十六「メートル」紫紋ノ一本石

所謂花剛石ナリ

ニテ造リタル古代ノ塔ナリ、此塔ハ埃及國ノ古物ニテ、元地底ニ埋沒セルヲ、

一千七百九十九年、拿破侖第一世埃及ヲ并セシキ、器械ヲ以テ掘出シ、此地ニ持來リ建タリ、其雛形ハ「ルーヴル宮ニ存ス、其時ニ塔基ノ邊少シ缺タルハ、白



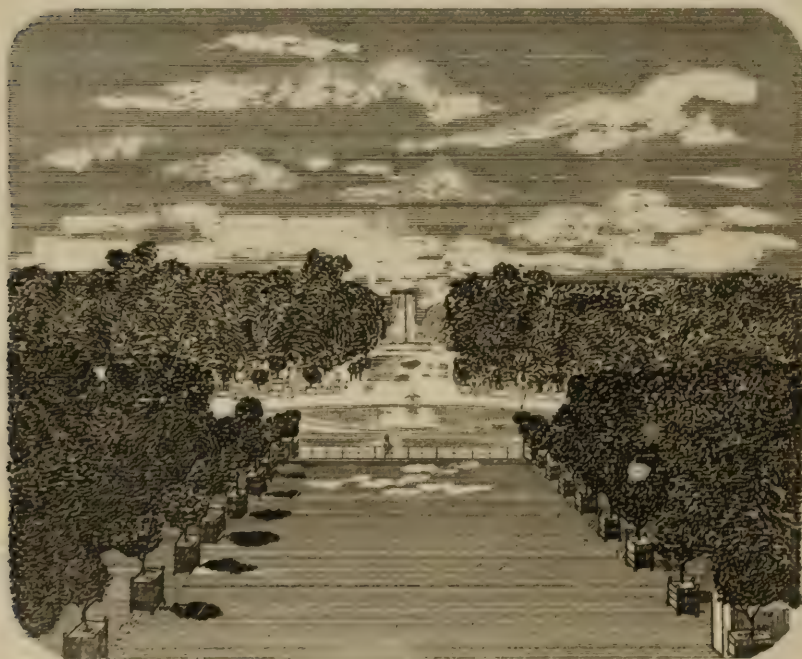
壁ノ微瑕ト云ヘシ、一千七百九十二年ノ一揆ノ片「キョツチン」ト云器械ヲ仕掛ケテ夥多シキ無辜ヲ殺戮セルハ、乃此處ナリト、此苑畫ハ明沙雪ノ如ク、地ニ纖塵ヲ潔シトセス、綠樹嵐ヲオクリ、層樓傑閣ハ其杪上ニ露ル、夜ハ氣燈ヲ點スレハ、天球ノ倒ニ浸スカ如ク「ジャンゼルセー」ノ大道ニ、燈球貫珠シテ連ルハ、身ヲ畫中ニオク心地ススル、

○「オプリスキ塔ト、凱旋門ト、直線相向フ正面ニ「チロリー宮門」ヲ開キ、中ニ美麗ナル廣苑ヲ抱キテ「チロリー宮」ハ起レリ、宮中ヨリ望メハ「コンゼルト苑」ノ塔尖ハ遙ニ凱旋門ヲ貫キ、其快美ノ景ハ謂フ方ナシ、此宮ハ一千五百六十五年ニ「カタリナ」デメジシス后、始メテ築キ起セルヲ顯理<sup>ヘンリ</sup>第四世ノ代ニ廣擴シ、路易第十四世ノ代ニ、其莊美ヲ極メ、爾後先廢帝拿破侖第三世マテ、此ヲ居宮トナセリ、正面ノ幅三十三「メートル」、側面三百「メートル」、先年「コムミユン」ノ亂ニテ敗毀シ、殿宇狼藉、正ニ修覆中ナリ、○「チロリー宮」ノ背後ニ連リテ「ルーヴル宮」アリ、是ハ路易第十四世ノ代ニ築ク所ニテ、拿破侖第一世之ヲ修増シテ「チロリー宮」ト接連シタリ、前年ノ戰ニ此宮ハ完全ニ存シ、中ニ拿破侖第一世ノ

巴黎「セロリ」宮ノ樓門



同宮苑ヨリ凱旋門ヲ望ム景

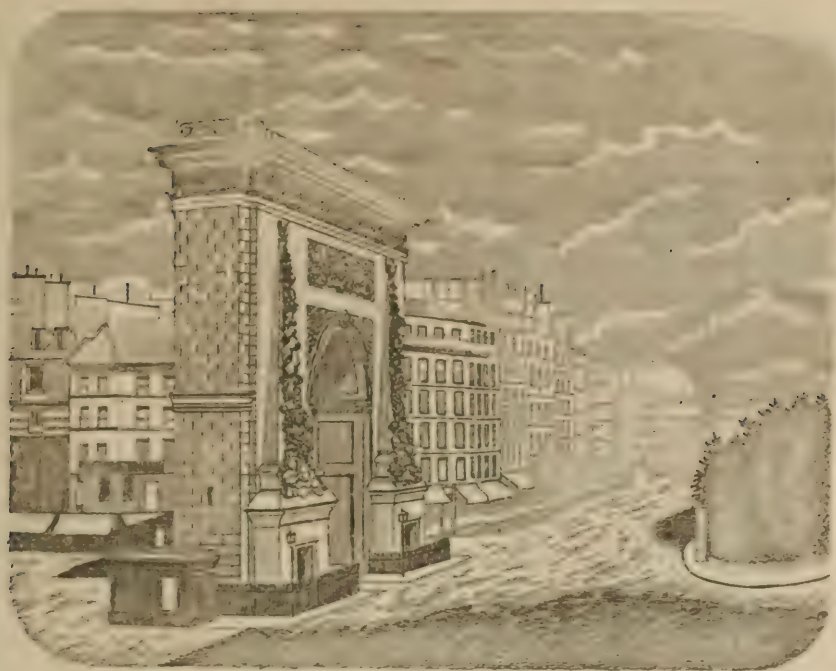








巴黎グランド街ノ舊城門



同「ルーヴル宮」



遺物、名畫、古器、雕形、諸械ヲ蓄ヘ、寶庫トナシ縱觀セシム、殿宇峻巍ニシテ、雕繪滿眼、金華爛然タリ、

「オプリスキ」ノ西ハ「セイソ河」アリ北流ス、河岸ミナ白石ヲ密斃シ、石橋數條ヲ架ス、宛トシテ白石匣中ニ流水ヲタヘタルナリ、河ノ向岸ニハ、餘多ノ官衙相連リ、殿宇峻麗ニシテ、層樓傑閣、筭ヲ束スルカ如シ、西北ニハ製作展觀場アリ、一箇ノ小水晶宮ナリ、

○「オプリスキ塔」ノ東ハ「ブードワルド」イタリヤン「トイフ」爽街アリ、巨大ノ市塵壁ヲ比シテ立チ、高サ五層ヨリ七層ニ至ル、巴黎第一ノ美麗ナル街ナリ、巴黎ハ紀元前、羅馬ニ征服セラレシト、該撒<sup>シーザル</sup>ハシメテ此ニ城ヲ起シ、「パリシオラン」トイヘリ、其後次第ニ増築シテ、遂ニ此大都トナリタリ、此「ブードワルド」ハ、其時ノ外廓ニテ、壘壁ヲ匝シタルヲ、拿破侖第一世、毀ツテ此街ヲ開ケリ、今ニ古代ニ建築セシ石門、處處ニ遺存セリ、此ヨリ南ヲ「シチー」ノ部トス、繁昌ノ樞ニテ、觀ルヘキモノ多シ、中ニモ「パレイローヤル宮」ハ、中央ニ方庭ヲ抱キタル、大宮苑ナリシヲ、路易第十四世ノ宰相、有名ノ經濟家ナル「リセリユー」ノ工夫ニテ、下



層ヲ市塵トナシ、百貨ヲ鬻カシメタリ、此處ニハ珍玩、奇器、奢靡ノ品、風流ノ具、  
 金光玉華ヲ聚メテ、攤陳シ賣リ、酒店、食店、其中ニ雜リ、中央ノ方庭ニハ、綠樹陰  
 ヲ展ヘ、夜ハ氣燈ヲ照シ、四圍ノ市塵ヨリ、百貨ノ光彩ヲ輝カスハ、黃金ノ氣、庭  
 ヲ包ンテ起ルトモ謂フヘシ、○此他「シチー」ノ舊街ハ、首尾不規則ニ交叉シ、其  
 狹隘ナルニ至リテハ、兩車モ容ル能ハス、此小街ノ上ヲ、玻璃ニテ上宇ヲ覆ヒ  
 タル所アリ、常ニ日光ヲ透シテ、風雨ヲ漏サス、常晴ノ街路ナリ、兩側ノ塵ニ、百  
 貨ヲ雜陳シテ賣ル、陳ヲ化シ新トナス、是ヲ巴黎風ノ街トテ、白耳義ベルギー及ヒ伯林ベルリン  
 府ニモ摸ス、亦一ノ繁華市場ニテ、往來ノ人、ミナ車ヲステ、此ニ集リ、陰晴風雨  
 ノ日モ、徐步徘徊、物ヲ買フヘシ、○巴黎ノ市中ハ、到處ニ酒店、割烹店、茶、咖啡店  
 アリ、樹陰ニ榻ヲオキ、遊客案ヲ對シテ飲ム、盛夏ニ涼ヲ納レ、晴夕ニ月ヲミル、  
 劇場、樂堂、處處ニアリ、所謂ル歌舞終日無戚容ノ氣象ヲ顯セリ、

○セイゾ河ハ、其幅サ倫敦府ノ達迷斯河ヨリハ狹シ、水清クシテ流急ナリ、河ニ  
 架セル橋ハ、總テ二十八條アリ、其内十六ハ石橋、七ハ懸橋、三ハ鐵骨石肉ノ橋  
 ナリ、餘ハ邊鄙ノ木製橋ナリ、河岸ニハ石垣匣ヲナシ、道路砥ニ似テ、河ニ漕ス



巴黎「ブール  
ス」相場會  
所ナリ



同新「マー  
ケット」市場  
ナリ





ル小舟、岸ニ達スレハ、石階ヲ拾フテ登ル、宛トシテ屋中ノ如シ、河中ニ洗房ノ  
舟ヲ浮ヘ店トスルモノアリ、中流ニ至リ、兩股ニ分レテ又合ス、中ニ二嶋ヲ出  
ス、之ヲ「イルサン、ロイ」「イルドラシート」ト云、島上ニ官衙ヲ建テ、寺觀ヲ築ク、傑  
閣雄樓、峨峨トシテ聳ヘ、蜃樓ヲ夕日ニ幻セルカ如シ、○倫敦ノ街ハ、地下ノ鐵  
路アリ、地上ノ車道アリ、天上ノ鐵路アリ、人民モ亦三様ノ生理ヲナシ、日ニ棲  
棲惶惶タリ、石炭ノ烟白日ヲ薰シ、雨露モ亦黒キヲ覺フ、巴黎ハ然ラス、全府ノ  
民ヲ、一ノ遊苑中ニオク、巴黎ノ市中、往ク所ミナ遊息ノ勝地アリ、街上ノ行人  
モ、亦其歩忙シカラス、空氣清朗ニシテ、烟煤少ク、薪ヲ以テ石炭ニ代フ、倫敦ニ  
アレハ、人ヲシテ勉強セシム、巴黎ニアレハ、人ヲシテ愉悅セシム、○巴黎中ノ  
公苑ヲ數フレハ、七十ヶ所ニ及フ、其内ニ「プラース、ド、コンゼルト」ハ「チュロリ宮  
ノ苑ニ接シ、府ノ中央ヲシム、セイン河ノ西ニハ「レキセンボルク宮ノ大苑ア  
リ、北ハ凱旋門前ナル圓形ノ廣區アリ、其他「プアーテ、ド、ハスチール」「シヤテー  
ル」ナト、皆美ヲ盡シ、潔ヲ極メタル苑囿ナリ、東鄙ニ「ロットシヨーム」苑アリ、北  
鄙ニ「ポアーデ、ブロン苑アリ」「ポアーデ、ブロン」ハ、巴黎第一ノ廣苑ニテ、米國新約

克ノ「セシタヲトルパーク」ニモ、超越スヘキ名苑タリ、凱旋門ヨリ北ナル郭外  
ニアリ、「モンワソヤン山ノ麓ニ於テ、幅二「キロメートル」、袤ハ之ニ倍スル地積  
ヲ圍ヒ、沼池ヲタヘ、島嶼洲嘴ヲツヽリ、懸瀑ヲツク、樹木ハ老幹樺牙タル  
アリ、松籟颯颯ノ林アリ、路ヲ修ムル砥ノ如ク、地ヲ掃フテ塵ヲトヘ、メス、日曜  
日ノ夕ニハ、貴豪ノ家、ミナ車ヲ馳セテ來遊ス、車ハ軒華ヲ競ヒ、馬ハ騏驎ヲ較  
ス、衣裳華麗ニシテ、紋飾都雅ナリ、廣苑ノ内、ミナ車轂相擊チ、馬首車廂ト相銜  
ム、巴黎ノ豪奢ハ、此ニ觀スヘシ、諺ニ曰ク、倫敦ノ食倒レ、巴黎ノ衣倒レト、現地  
ノ景況ヲミルニ、我ヲ欺カサルヲミルナリ、苑後ニハ禽獸園アリ、是ハ新ニ修  
メタルモノニテ、舊禽獸園ハ「レキシソボルク」ノ邊ニアリ、東鄙「ピットショーム  
パーク」ハ後ニ詳記スヘシ、

○佛ハ羅馬「カドレイキ」宗國ニテ、羅馬法皇ノ藩屏ト依頼セル國ナリ、巴黎府中  
ニ壯麗ノ寺多シ、「カドレイキ」宗ノ僧ハ、信徒ヨリ金ヲ集メ、寺刹ノ建築ニ糜ス  
ル、其費巨萬、一時此宗ノ繁盛ヲ極メタルヤ、民膏ヲ侵漁シ、憎惡ヲ買タル、其積  
成ハ存シテ、寺觀ノ莊麗ニアリ、故ニ「カドレイキ」教國ニスレハ、高塔天ヲ刺シ、

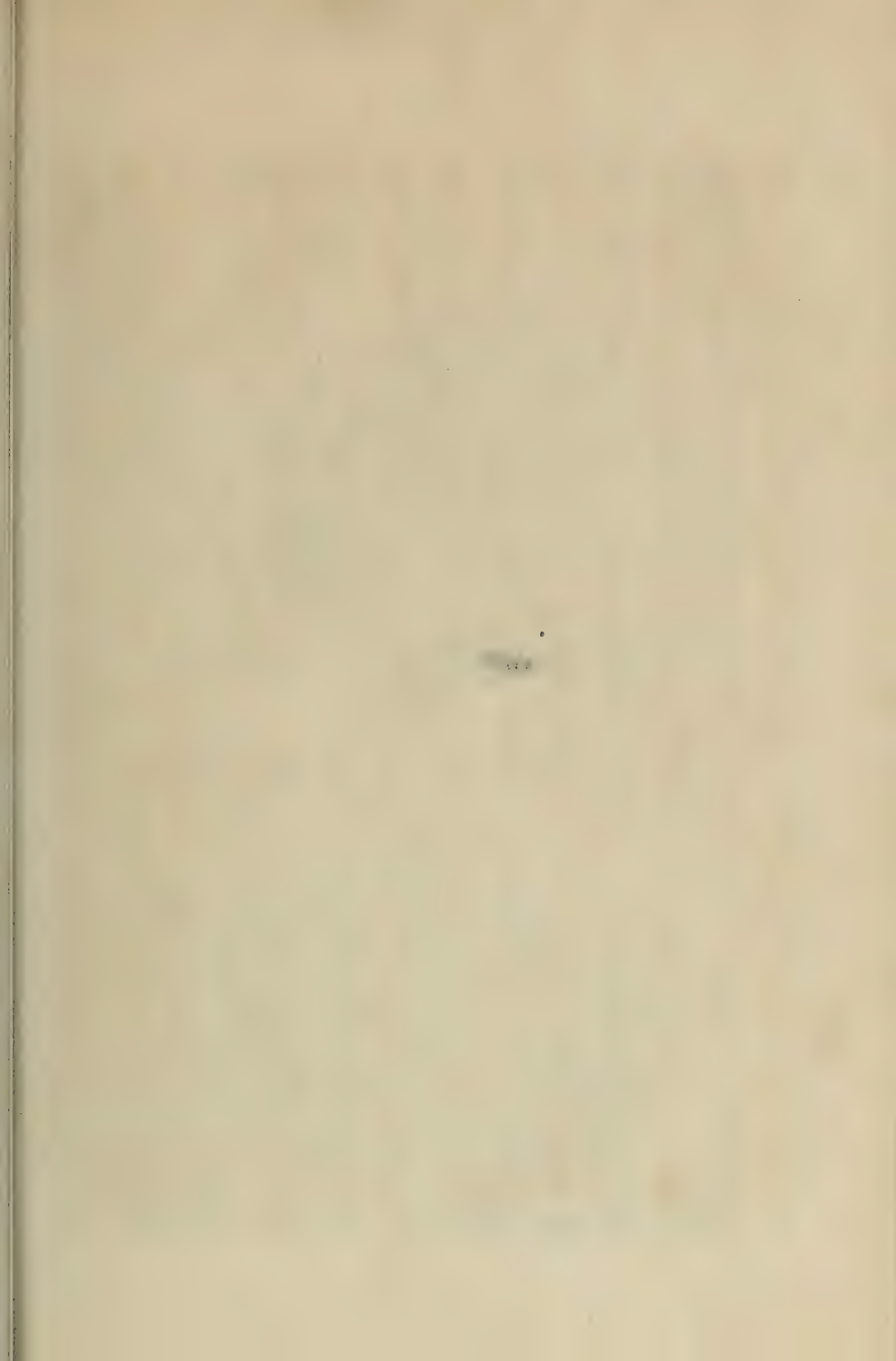
巴黎「ロイヤル」宮苑



同門「ボルトサン」  
マルチン門







巨利市街ニ聳エ、又市店ニハ馬利ノ像、磔刑十字ノ圖ヲ、到ル處ニ陳列シテ、殆  
ト觀ルヲ厭フニ至ル、「プロテスタント宗ハ之ニ反シ、寺ヲ飾ラス、畫像、偶像ハ、  
十戒ヲ犯スモノナリトテ、一切ニ用ヒス、故ニ兩教ノ異同ハ、一タヒ其府ニ入  
レハ、此等ノ外貌ニテ判然タリ、又英米ノ兩國ハ、日曜日ニ至レハ、戸ヲ閉チ、朝  
ヨリ夕ニ至ルマテ、禮拜念誦ヲ務ム、曾テ漫識マンチエストル特府ニテ、日曜日ニ「パーク」ヲ回  
覽セシニ、二三ノ人影ヲミルノミナリシ、巴黎ノ日曜日ニハ、諸遊苑ミナ車馬  
喧鬧シ、男女群ヲナシ、鼓吹舞踏スルアリ、喫茶飲酒スルアリ、眞ニ一週間ノ休  
暇日ナリ、凡米ヨリ英ニ至レハ、信教ノ風一層ヲ減ス、英ヨリ佛ニ至レハ、又一

二層ヲ減ス、爾後歐陸地、ミナ米英ノ信教ニ厚キカ如キ國ヲミサリキ、

○製造ノ諸品ハ、此府ニ於テ務メサルナシ、尤モ風流輕靡ノ工ニ長ス、畫續、彫刻、

ミナ高尙ノ韻致アリ、新奇ノ妙案ヲ出ス、歐洲貴族ノ交際ニ用フル言語ト、婦  
人ノ衣樣、髻鬟等ノ風トハ、巴黎ヨリ流行ス、歐洲ニテ都雅ノ樞軸タリ、家什、珍  
玩、金、銀、銅、玉ノ器、磁器、時儀、冠帽、紐釦、粧飾ノ具、工精ニシテ價廉ナリ、全府ノ利  
益、年年ニ二千五百萬弗ニ下ラス、職人ノ數ハ三十四萬二千五百三十人ニテ、

三億弗ノ價ヒヲ製シ出スト云、○故ニ此府ハ、歐洲全國ノ市場トナリ、歐米ノ  
 工商、荷モ名アリテ其業ヲ盛ニスルモノハ、此府ニ出店セサルナシ、輸入  
 レテ、又輸出シ出ス、歐洲各國、及ヒ歐洲人種ノ住スル國國ハ、ミナ此都ヲ文明都  
 雅ノ尖點トナシ、遠近ニ尊敬セラレ、英人ノ高慢ナルモ、婦人ノ風俗ハ、巴黎ノ  
 新様ヲ摸倣シ、露國ノ強大ナルモ、佛人ヲミレハ都人士トナシ、巴黎ノ麗都ハ、  
 天宮月榭ノ想ヒヲナス、抑佛國ノ歐洲ニ尊敬セラレ、巴黎ハ文明ノ中樞トナ  
 リ、流行ノ利權ヲトルハ、其由來久シキヲニテ、己ニ「チャーレマン太帝カ、三孫ヲ  
 佛、填、以、ノ三國ニ分封シタル後ヨリ、歐洲中原ノ王公貴族ハ、其管下ヨリ出タ  
 レハ、佛語ノ歐洲ニ勢力アル基本トハナリタリ、近二百五十年前ヨリ、佛國ノ  
 光輝、更ニ一層ヲ進メタルハ、「リセリユー」氏カ路易十三世ヲ輔ケ、政法、學藝、經濟  
 ヲ興セシヨリ、人材森森トシテ輩出シ、引續キ路易十四世ノ世ニ至リ、其賢材  
 ヲ登庸シ、王權ノ隆昌ヲ極メ、文學ヲ盛ニシ、藝術ヲ勸メ、土木建築ノ美ヲ極メ  
 タレハ、一千七百年ノ頃ニハ、歐洲中最モ愛スヘキ君ト稱セラレ、榮耀ノ光ヲ  
 日月ニ比スルニ至タリシ、此時ニ日耳曼ノ諸王侯ハ、其友誼ヲ得ムト欲シ、競

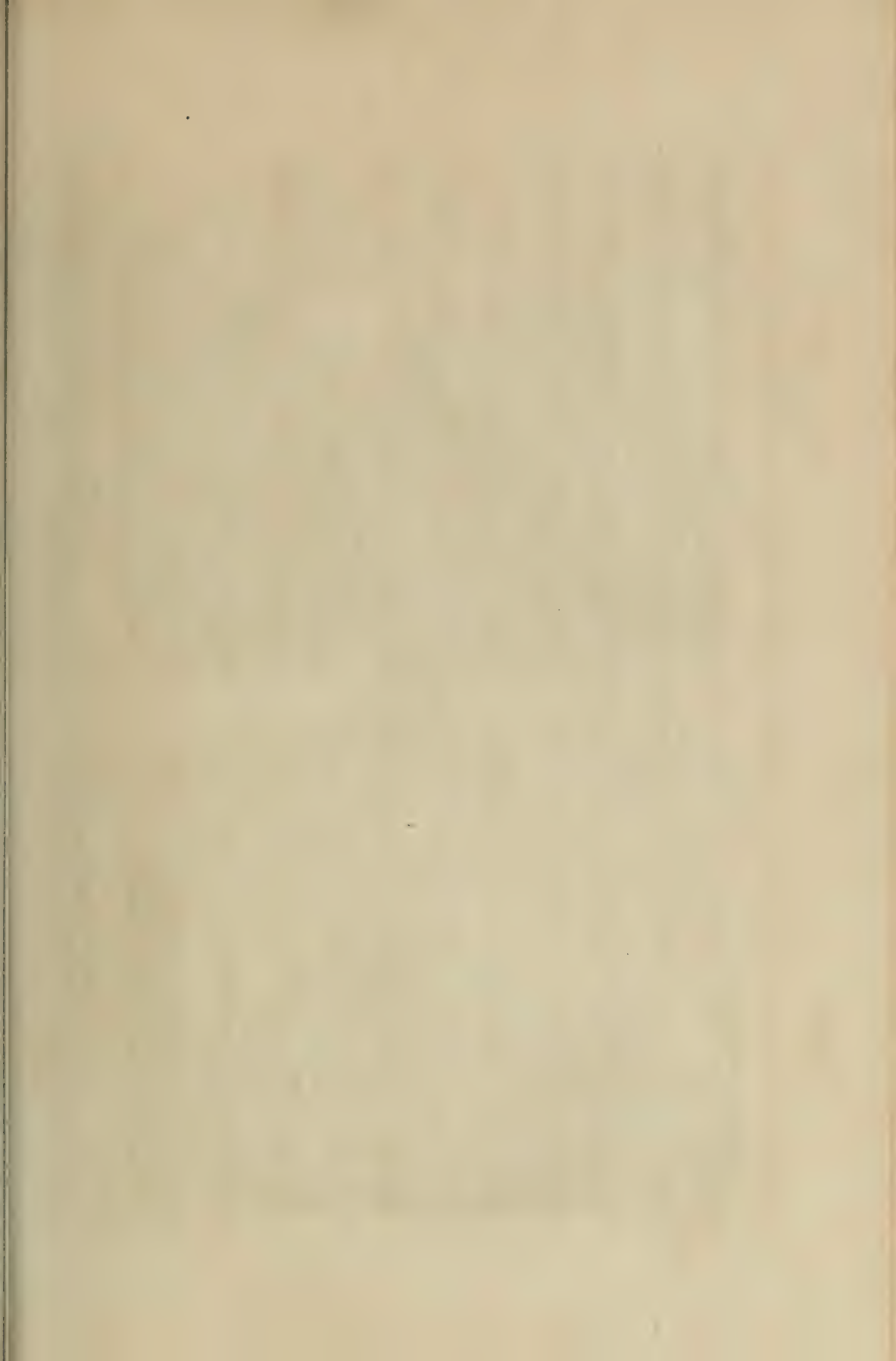


巴黎「ブルヴァール」大通リ  
ノ「巴黎第一美街」



同「カラント、ホテル」  
ノ「巴黎第一繁華場」





フテ巴黎ニ至リ、佛王ノ威權煥赫タルト、宮室官衙ノ峻莊ナルトニ、目眩ミ心  
醉ヒ、皆其國語、威儀、風俗ヲ模範トナシテ、自國ノ官府ニ移用シ、并セテ其專治  
ノ政體ヲ準トナシ、公會ノ制限ヲ脱シテ、從來國民ノ間ニ、議論紛紜タリシハ、  
此外貌ノ虛飾ニテ、壓鎮スルコソ長策ナレト思ヒケリ、左レハ是ヨリ日耳曼  
ノ貴族ハ、佛語ヲ語ラス、佛服ヲ着セス、佛ノ風俗ヲ模倣サレハ、自然ニ發達ス  
ルヲ得サルヲ以テ、少年ノ貴族ハ、巴黎ニ游學シ、ミナ佛國風ニ傾キ、日耳曼ノ  
昔時、學術ニ長セシ人物ノ出タル、富且盛ナル都府モ、漸漸ト荒廢シテ、利益ヲ  
ヲ失ヒ、工商ハ佛國ノ發明ヲ模シテ、利益ヲツナキ、自國ノ技能ヲ弄タレハ、日  
耳曼製ノ物品ハ、漸ニ價ヲ失ヒ、衰微セル故ニ、己ヲ得スシテ、佛國品ノ偽造ヲ  
ナシ、敢テ恥トセス、又新發明ノ物品ヲ出ス力モ、勉強スル心モナク、記號標識  
マテ、佛國ヲ模擬シテ、市場ニ販賣スルニ至リタリ、大學士「ハウス・シニユー・ク氏  
カ著セル日耳曼歷史ニ、之ヲ評シテ曰ク、當時日耳曼ノ貴族カ、有價ノ時日ト、  
難得ノ金錢トヲ浪費シテ、佛國ニ游學シタル結果ハ、他ナシ、只輕佻浪費ヲ事  
トシ、無限ノ嗜欲ヲ養成シ、傲慢無禮ニテ、百物ヲ輕侮シ、廉恥操行ノ心ヲ失ヒ、



放肆淫佚ニ溺レ、笑フヘキ虚儀ヲ、反テ珍重スヘキモノト誤認シ、徒ニ外貌ヲ飾リ、詐僞ヲ事トシ、自國ヲ厭惡シ、外國ヲ羨歎スルノ風習ヲ輸入シタルノミ、他日國政ヲ管理スヘキ人物ハ、皆此貴族輩ニツキテ、學ヒタル人ナレハ、其爲ル所ハ、タイゴヒチ幫間狎客ノ類タルヲ免レス、佛國ノ弊風カ、日耳曼國中ヲ煽惑スルヲ、如此クニシテ、上下ミナ心醉沈溺シタレハ、誠實ノ人モ、據ナク佛國ノ衣ヲ服スルニ至リ、純正ノ國俗ノ存スルモノ殆ト希ナリ、佛國共和政治ノ爭亂ヨリ、日耳曼政府モ、ヤ、自國製品ノ荒廢惡劣ニ陷リタルニ著目シ、キツキ學校ヲ設ケ、之ヲ保存スルヲ謀リタレト、工人等ハ、己ニ貧弱無氣力ニテ、智識淺薄ナルヲ以テ、其益モナカリキ、夫レ日耳曼ノ一國ハ、今ノ塙、實、兩大國ニ跨リ、墮蘭ニ浸淫シ、露西亞ノ帝家モ、亦日耳曼侯家ノ裔ニテ、全歐洲ノ貴人ハ、日耳曼實ニ其根元トナル、故ニ其流風ハ、自然ニ下民ニモ風偃シテ、歐洲一般ノ流俗ヲ醸成スルニ足ル、勢力アルモノナリ、故ニ佛國ノ風、一タヒ日耳曼貴族ノ心ヲ浸漬セルヨリ、歐洲ミナ其風靡ヲ蒙リ、其工技ヲ愛敬シ、其言語ヲ貴重シ、其流行ヲ模倣シ、佛國ノ富強ヲ集成シテ、今日ニ至レリ、現今ノ變化ハ日耳曼ヲ記スルキニ説クヘシ

○倫敦、巴黎及ヒ新約克ハ、世界三大貿易都府ト稱スレヒ、其趣キ自ラ別様ナリ、米國ノ貿易ノ主意ハ、固リ歐地ニ異ナリ、倫敦ハ世界ノ天產ヲ輸入シテ、自國ノ製作力ヲ加ヘテ、再輸出スルヲ主意トス、故ニ之ヲ世界天產物ノ市場ナリト名クヘシ、巴黎ハ之ニ異ナリ、歐洲工藝ノ地ニテ、流行ノ根元ナレハ、之ヲ世界工產物ノ市場ト名クヘシ、將來日本ニ於テ、歐米輸出ノ途ヲ開カンニハ、此ニ注意ヲナスヲ緊要ナルヘシ、巴黎ノ豪商「シュワルト」氏、大使ニ謁シテ曰ク、日本物品ハ、巴黎ニテ取扱フモノハ、中等以下ノ商ノミニテ、上等ノ商モ志ナキニ非サレヒ、價格一定セス、輸出高充分ナラス、期ヲ定メテ送輸スルヲナキヲ以テ、念ヲ絶ツモノ多シ、倫敦ニ於テ、日本物產ノ取扱ヒ、巴黎ヨリ多シト、又或ル商人、大使ニ謁シテ、日本ノ木蠟ヲ盛ンニ輸出アラソクヲ勸メタリ、此品ハ歐洲ニ拂底ニテ、種種ノ製作ニ必用ナルモノナリ、石鹼蠟燭及ヒ其供給ノ高、僅少ナルニヨリ、製作家己ヲ得スニ絶念シ、今巴黎ニ於テハ、施蠟引火籤マツチノ製作ニ用フルノミト、懷中ヨリ其引火籤ヲ出シ示シ、即チ日本ニモ船來スルモノ此蠟ニハ、木蠟ヲ和セサレハ成ラスト謂ヘリ、英國ニアルヒニモ、倫敦及ヒ壹丁堡エヂンボルクニ於テ、

日本木蠟ノ輸出ヲ望ミタル製造家アリ、聞ク西洋ニテハ、骨蠟、石炭蠟ヲ用フ、此ハ所謂ル「ステーリン酸」ト名クルモノニテ、其性柔軟ニテ粘ナリ、木蠟ハ堅硬ノ性アルニヨリ、相和シテ適當ノ蠟ヲナスヘシ、但シ其供給少ク、且年年ニ斷續アリ、定期ナキハ、製造ヲ其主眼ニテ打點<sup>モクロ</sup>ミ難キヲ以テ、其確實ノ仕組ヲ望ムト云爾ス、日本天產物ノ輸出セサルハ、毎ニ此弊ヲ存スルニヨル、

○巴黎ニ賽<sup>マカヒ</sup>寶石ノ製造場アリ、金剛石、瑪瑙、石英等ミナ模造ス、其價甚タ賤シ、其主意ハ、此物ヲ得テ粧飾トセソフヲ欲シ、財力ナキ人ノ心ヲ慰愉スルニアリト、又土耳其<sup>トルキ</sup>及ヒ印度ヨリ、棉絲ヲ組ミテ製セル布ヲ出ス、婦人ノ肩掛トナス、一幅ニテ殆ト千弗ノ價ニ上ル、巴黎ニハ器械ニテ模造ス、其價甚タ賤シ、凡ソ天然ノ產物ハ、人力ニテ模造シ得ヘキモノナラス、又人手ニテ製セルモノハ、器械ニテ模造シ得ヘキモノナラス、若シ是ヲ眞ニ混同スヘキ模造ヲナシ得ルハ、其化力工術ノ價ハ、己ニ盡タリト定ムルナリ、國國ノ人民ニ固有セル、技能ノ各異ナルモ亦然リ、之ヲ百花ノ爛熳タルニ譬フ、一種ノ花ニテモ、其種ニヨリテ、美致ヲ發シ出スカ如シ、日本ノ工產物、其己ニ巴黎ノ市場ニ價ヲ生



シ、貴重セラル、モノモ一ナラス、銅器、七寶器、磁器等、佛英製造場ニテ模造サ  
レルニテ證トナスヘシ、器皿ノ顔貌、書様ノ風致ハ、各國ニ固有ノ美アリ、之ヲ  
美術ト名ク、技能ヲ進メルニハ、其固有ノ美ヲ發揮シテ、益高尚ノ韻致ヲ、發明  
進歩スルヲ主意トス、若シ他國ヲ模造スレハ、是他人ノ聲價ヲ假リ、其下風ニ  
屈スルナリ、是ヲ恥辱トス、自國ノ技倆ニテ他ノ技ニ劣ルナキヲ但、其伎倆ヲ  
用フルニ、常ニ賣與フ地ノ人ノ嗜好ニ、投合スル所ヲ考究スルハ、供給者ノ緊  
要ナル注意タリ、之ヲ聞ク、巴黎ニ日本ヘ輸送スル木棉ヲ織ル所アリ、此ニ日  
本人ノ要求スル印紋排絲ノ見本ヲ集メタルヲミルニ、某ハ江戸ニ流行ス、某  
ハ九州ニ、某ハ畿内ニ需用スルト、細ニ都鄙ノ流行ヲ類別シ、凡襖縞布、オグシマ或ハ紋  
布ヲ織立タリ、西洋ノ工藝ヨク、需用ノ途ヲ廣クシテ、貿易供給ノ數ヲ盛ゾニ  
スル、其用意ヲ此ニテ推考シテ可ナリ、



第四十三卷 巴黎府ノ記二

十二月十八日 晴

十九日 雨

二十日 晴

市中ヲ散見ス、巴黎府中ニ觀ルヘキモノ、實ニ枚舉シ難ケレト、初メテ此府ニ來リ皆託異スル一觀場アリ、人造ニナリテ、天設ヲ欺ク、奇奇怪怪ナルヲ、文明ノ精華トモ名ツクヘキモノニテ、之ヲ「パナラマ」ト謂フ、油畫ノ展覽場ナリ、「シャソゼルセー」通りノ西側、凱旋門ノ近方ニ於テ、傑閣層重ノ中ニ、一箇ノ圓室ヲ起ス、矮<sup>ヒク</sup>キ樓屋ナリ、見料一「フランク」ヲ擲テ、室中ニイレハ、向面ニ一街ヲミル、「アードウル」ニ似タリ、審視スレハ砲丸亂飛シ、兵卒奔走シ、老叟額ヲ傷リ、紅血淋漓タリ、婦泣キ婢悸シ、重車家什ヲ運シテ逃ル、修羅ノ巷ニテ、二年前、普軍圍攻ノ光景ナリ、始メテ共展觀ノ畫ナルヲ悟リ、一託異ヲナス、轉シテ階ヲ拾ヒ、上ルヲ十五六級ニテ、乍チ一箇ノ岡丘上ニ至ル、上ニ「テント」ヲ張り、下ニ欄ヲ



匪シ、榻ヲオキ、休憩ノ所トナス、巴黎府ハ盡ク眼下ニ落ツ、薄霧遠岡ヲ掩ヒ、口  
 光陰映シ、普國ノ軍兵、四周ニ營ヲ連ネ、砲烟處處ニ發シ、爆聲ヲ聞カス、唯火光  
 ヲミル、岡下ニハ、佛兵砲墩ヲ楯トシテ、圍軍ヲ射ル、敵彈飛來リ、一壘方ニ破ル、  
 一營ノ壁毀レテ、破彈瓦石ト共ニ飛ヒ、火燄ハ壘内ヨリ驀起シテ、半燒ニ及ヘ  
 リ、將官敵ヲ睨シ、砲卒玉藥ヲ運ス、躲伏スルアリ、傷斃ルアリ、四望スレハ、府内  
 ノ屋薨湧カ如シ、凱旋門其中ヨリ突出シ、「モンワレヤン」「ザエルサイル」ノ岡、某ハ  
 「ワンセン」某ハ「サンクルー」盡ク指點ニ入リ、正ニ一千八百七十年末ノ光景ナ  
 リ、觀客ミナ驚異セサルナシ、觀畢リテ樓ヲ下リ出レハ、一ノ矮屋ニ上リタル  
 ノミ、其巴黎府ヲ望メルハ、周壁ノ幟<sup>ペリ</sup>畫ヲミタルノミ、此技巧ヲ設ケシハ、己ニ  
 二十年前ヨノヲニテ、始メハ拿破侖第一世、以太利ヲ敗ル圖ヲ畫キシニ、去年  
 ヨリ此圖ニ改メタリト云、

二十一日 晴

二十二日 陰

此日英國辨務使ヨリ、日本ニテ改曆、及ヒ服制改正アリシ、電信到著ノヲヲ報

知アリ、因テ來月三日ヲ新曆明治六年第一月一日トスル旨ヲ衆ニ公布ス、

二十三日 晴

午後第三時ヨリ、接伴掛「シヤノアン」同道ニテ、外務衙門ニ至リ、外務宰相「レミニユ

サ氏ニ應接ス、

二十四日 陰

二十五日 晴

二十六日 陰

午後二時ヨリ、迎接使トナシテ「コンセー氏」「マラー氏」來迎ヘ、甲比丹「デノエー

氏」騎兵二小隊ヲ率ヒ、政府ヨリ馬車ヲ裝ヒ、使節ヲ迎ヘ、途中ニハ騎兵前後ヲ

擁シ、非常ヲ警備シ、威儀ヲト、ノヘテ、大統領ノ館第二至リ「チエル」君ニ謁見

セリ、謁見式ニ  
詳ナリ

大統領「ルイ、アトルク、チエル」氏ハ、高名ナル政治學者ニテ、佛國革命史ヲ著シ

テ、世ニ劇賞セラル、素生ハ寒微ナル貧家ニテ、一千七百九十七年四月十六日

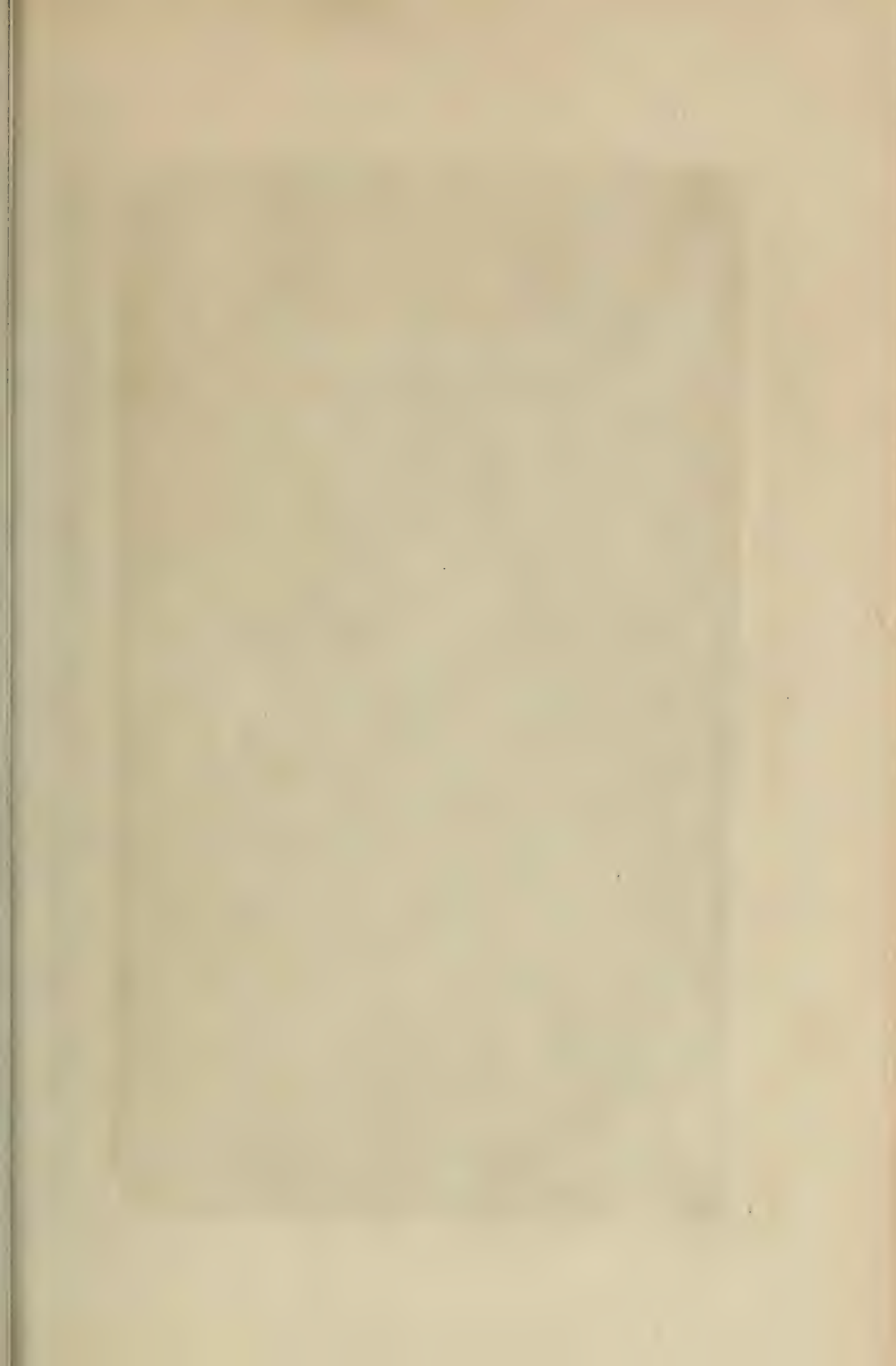
ニ、馬耳塞府ニ生レ、初メハ法律學ヲナシ、狀師トナリタレ、後發達ノ見居モナ

キユヘ、更ニ國法ヲ講シ、政治ノ學ヲ究メ、革命史ノ著述ニ取カ、リシヲハ、二十七歳ノ比ヨリナリ「チャレス第十世ノ代、宰相「ポリグナク」ノ政治ニ不服ヲ懷キ、新聞記者トナリ、之ヲ抗論シタリ、三十五歳ノ比マテハ、甚タ著レサリシニ、路易非立ノ立憲政治トナリテ後ニ、微官ニ用ヒラレ、遂ニ内務宰相マテ登用サレ、四十歳ノ比、議長兼外務宰相トナリ、一時國事ニ管係シ、驥足ヲ展ヘシニ、事故アリテ廢セラレ、千八百四十一年ノ改革後ニ、瑞士ニ謫セラレタリ、其後六十七歳ノ比「セイソ州ノ議員トナリ、改進黨中ニ於テ、卓越ナル辨論家ナル大名ヲ揚ケタルヨリ、國中ニ知ラレ、今度普軍攻圍ノ際ニ、内國防護ノ政府ヲ立タル比、大統領ニ公舉セラレタリ、去年ノ春、普軍ニ和ヲ講シテ、其兵ヲ退ケ、償金ヲ辨償スル等ノ事ヨリ、加フルニ巴黎暴徒ノ鎮定ヲ以テシ、國家艱難ノ際ニ盡力シ「ヴェルサイル」ニ議院ヲ開キ、國憲ヲ制定シ、巨額ノ償金ヲ募リ、并セテ國內ノ利益ニ、退步ノ態ヲ生セシメスシテ、國服ヲ維持シ、進歩ノ機ヲ誤ルニ至ラサルハ、當時此人ノ苦心營慮スル所ニテ、老練熟達ノ政治家ナリ、文學ノ士ヨリハ推服サルレヒ、佛國ニ黨論多ク、兵隊激昂ノ際ニテ、非議スルモノ



佛國  
ヰルサイル宮ノ「オペラ」堂  
當時ハ議政  
院トナレリ





モ少カラス、實ニ佛國ノ艱難ナル厄運ニ際シタリ、「チエル氏當年七十五歳、短  
少ナル老翁ニテ、言容温温、和氣掬スヘシ、

二十七日 陰

二十八日 陰

二十九日 陰

十二月朔日 陰

二日 陰

明治六年一月一日 即チ一千八百七十三年一月一日 陰

此日新年ノ賀祝トシテ「ヴェルサイル」ニ赴ク「ヴェルサイル府ハ、巴黎府ノ西北ニ  
アリ、瀛車ノ往來一時ヲ費サス、府中ノ人口十萬ニスク、路易第十四世ノ宮殿  
アリ、甚タ宏麗ナリ、池形ハ岡阜ニヨリ「モンワレヤン山ノ砲臺ヲ隔テ、巴黎ト  
相望ム、形勢壯ナリ、前年普軍ノ巴黎ヲ圍ムニ當リ、巴黎ノ政府ハ、西南「ボルド  
ウ府ニ立退キ、普王ハ本陳ヲ「ヴェルサイル」ニスエタリ、七十一年一月、日耳曼聯  
邦ノ王公、ミナ勸進ノ表ヲ上リテ、普魯士王維廉陛下ヲ、日耳曼帝位<sup>カイゼル</sup>ニ推戴シ



タルモ、此宮ニ於テセリ、○兩國和成リ、普國軍ヲカヘシ、佛國今ノ大統領、チエ  
ル君ヲ推立シ、共和政治ヲ建テ、政府ヲ巴黎ニ復セシ、議ス、時ニ巴黎府ニ  
ハ「レット、レボアリカン」ノ黨謂暴發ノ共和黨所正ニ煽動シ、騷擾安カラス、「ポルト  
ウ府ハ西南ニ偏在シ、規模陋小ニシテ、全國ヲ控御スルニ足ラス、「チエル君見  
ヲ定メ、「ウエルサイル宮ニ政府ヲ設ケ、其「オペラ堂ヲ以テ議院トナシタリ、爾後  
己ニ二年ヲ經タリ、「レットレボアリカン」黨ノ巴黎ヲ亂妨スルヲ二月ニ及ヒ、常  
ニ兵ヲ西ニシテ、「ウエルサイル」ヲ襲撃セシ、謀リタレト、政府鐵路ヲ絶チ、道  
路ヲ塞キ、「モンワレヤン」ヲ阻シテ、之ヲ掩壓ス、賊近ツク能ハス、諸道ノ兵集リ、  
一時ニ掩壓シテ、賊徒ヲ勦絶シタルハ、「チエル君ノ本謀ナリ、  
佛國ノ政府ヲ共和ニ變セシヨリ、僅ニ二年ニ滿タス、其憲法ハ當時協議中ニ  
テ、未タ定マラス、

## 二日 陰

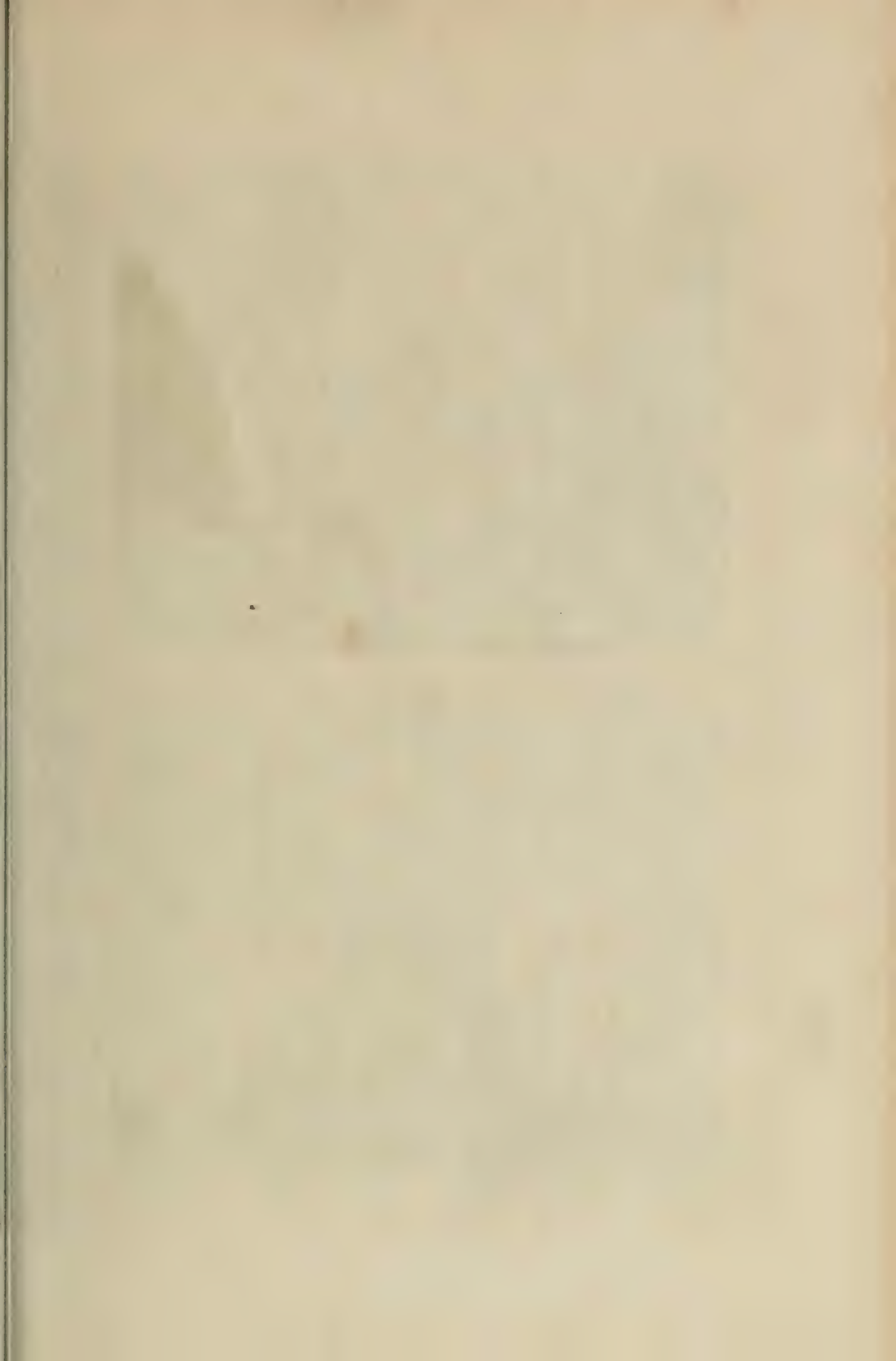
大使ハ、外務省ニ至リ、賀正ス、副使ハ接伴掛「マーシャル氏案内ニテ、「ノートルダ  
ム寺ヲ回覽ス、此寺ハ、巴黎諸寺ノ内ニテ、第一ト稱スル壯麗ナル寺ナリ、「セイ

巴黎ノトラダム寺



ナポレオン・ボナパルト  
拿破侖第一世之墓







ソ河ノ西濱ニアリ、前面ニ雙尖ノ高塔ヲ築キ起ス、外壁ノ雕刻藻艸、精工風致ヲキハメ、内景ノ輪奐、藻繪滿面ニシテ、金光爛然、目ヲ輝カサ、ルナシ、一雙ノ塔頂ハ、未タ完成ニ及ハサレヒ、實ニ美觀ヲ極メタリト云ヘシ、

「プロテスタント敎國ニ、壯麗ナル寺少シ、英京倫敦ニ、一ノ「セントポール寺アルノミ」「ウエストミニストル寺ノ壯美ハ、新敎寺ノ領袖ト云ヘシ」「カドレイキ敎國ニ於テ、都府ノ美觀、常ニ寺刹ニアリ、以太利國ノ如キハ、羅馬ノ「セントピートル寺」「ミロナ」ノ「サンタマリヤ寺」「フロレンス」ノ「サンタマリヤ寺」、ミナ數百年ノ建築ヲ經テ成タル、高大世ヲ驚カスモノナリ、塙國ノ「セントスチュペン寺」、獨逸「スタラスボルク」ノ高寺、白耳義國「ウントウエル府」ノ高寺、及ヒ「プロッセルス」ノ古寺等、ミナ歐洲ニテ屈指ノ大寺ニテ、其建築ノ美、日本ノ本願寺ニ比スレハ、大厦ト草庵トノ如シ、西敎ノ民財ヲ寺刹ニ糜スル、實ニ驚クニモ餘アリ、

### 三日 晴

「マーシャル」ノ案内ニテ「アソファンド」「ツルウエー」ニ至ル、棄兒院ナリ、（記事缺）

午後九時ヨリ、大統領ヨリ饌享ヲ賜フ、

四日 晴

五日 晴

「サンゼルマン」ニ遊フ、此ハ府ノ西方ナル一邑ニテ、地形岡ヲ負フ、路易第十四世ノ宮アリ、前ニ廣林ヲウエ、井井法アリ、樹樹ミナ同則ニ枝ヲ展ヘ、樹陰ヲ掃ヒテ、一塵ヲノコサス、樂堂ヲ設ケ、游人日日清陰ニ彷徨シテ、嵐氣ヲ吸シ、鼓吹歌謠シテ、心意ヲ通暢ス、一面ハ岡坡ニ臨ミ、大野目下ニ開キ、「モンワレヤン」ノ砲臺、突兀トシテ前ニ横フ、瀛車烟ヲ噴キ、遊牧草ニ嘶キ、遙ニ巴黎ノ烟霞ヲ簇ラスヲ望ム、旗亭アリ、食スヘシ、飲スヘシ、路易第十四世ノ遺跡、此亭中ニモアリ、葡萄酒ノ美、劇賞ヲウク、此宮ハ路易十四世誕生ノ地ナリト云、

六日 晴

午後ヨリ駕シテ大書庫ニ至ル、此ハ「パレイローヤル」宮ノ近傍ナル街ニアリ、廣大ノ書房ニテ、五層ノ室室ニ、エビシノ番號ヲ以テ、書籍ノ標題ヲ部分シテ蓄藏ス、總數三百萬部、其書ハ棚ヲ以テ整頓シ、前ニ藻續ヲスカシタル鐵板ヲ

以テ床トシ、人ヲ往來セシム、故ニ上層ノ光明、下階ニ洞達シテ闇カラス、中央  
ヲ空クシ、鐵欄ヲ匝シテ誤墜ヲ防ケリ、欄ノ四隅ニ、鈎斗ノ仕掛アリ、書籍ヲ上  
下ス、書ヲ借覽スルモノアレハ、其書名ノ首字ヲ以テ、目錄ヲ檢シ、其番號ヲ記  
シテ、樓上ニ送レハ、樓上ヨリ即時ニ之ヲ查出シテ、釣瓶ニテ下ス、廣室數階ニ  
充滿セル、書冊ノ中ヨリ、點檢シ出シ、人人ニ借覽セシムルニ、一二分時ヲ待シ  
メルニスキスシテ辨スルナリ、是カ爲メニ人ヲイル、常ニ百六十人ニテ、出  
納ヲ掌ラシム、○此庫ハ、政府ヨリ公稅ヲ以テ蓄ヘタルモノニテ、借覽ノ人ヨ  
リ、借料ヲ收メスシテ、縱觀セシム、庫ノ入口ニ廣堂アリ、四五百人ヲ坐セシム  
ヘシ、榻ト案トヲ備フ、此ニ守人アリ、觀ソフヲ望ム人アレハ、取次テ此ニテ與  
ヘテ觀セシム、持出ルフハ禁制ナリ、○此庫ノ奥ニ、各國ノ書ヲ藏スル一廊ア  
リ、支那書、印度書、緬甸書、亞刺伯書、波斯書ナト、ミナ備ル、日本書ノ棚モアリ、其  
内ニ、慶長年間ニ翻譯セル「キリシタン」教主教ノ書アリ、其文體ハ極テ俚俗解  
シ易キ文ニテ、字樣ハ平假名ヲ用ヒ、曾我物語、太閤記、横本ヲミルカ如シ、一部  
數冊ノ書ナリ、我邦ニテハ久シキ厲禁ニテ、嘗テカ、ハル板本アリシフ、誰モ知



ル人ナキ奇本ナリ、支那書ヲ藏セル廊ニハ、夏禹ノ建タル、嶧山碑文ノ石摺、及  
 ヒ周宣ノ石鼓文ナトヲ首トシテ、三四千年ノ古ヲ温ネテ、今日ニ至ル、此ニ數  
 月留リテ詳覽セハ、和漢ノ奇書モ亦多ク熟覽スルヲ得ルヘシ、○又此ニ一千  
 四百年代ノ地球圖アリ、此時代ノ繪圖ハ、素リ世界ノ圓形ナルヲモシラス、海  
 陸ノ圖取、甚タ麤濶ニテ、支那人ノ地圖ヲミルカ如ク、各國ノ形狀モ誤リ多シ、  
 又歐羅巴ノ圖モ、海濱ハ頗ル詳カナレト、内地ハ模糊ナル所多シ、露西亞、瑞典  
 ノ奥ナトハ、圖ニ入レスシテ略シタリ、又一千七百年末ノ圖アリ、是モ猶迂濶  
 ニテ、我日本ヲ、支那ノ東ニ位スル一大洲ノ如ク、加利福尼亞州カリフォルニアヲ、米ノ西方ニ位  
 スル一大洲ノ如ク畫ケリ、又同時ノ大地球儀アリ、其徑一丈モアリヌヘシ、地  
 理ハ麤ナレト、機巧ハ己ニ至レリ、○此書庫ニ附屬セル博古館アリ、此内ニ蓄  
 ヘタル古器、ミナ類ヲ拔ク、精選ノ珍器ニテ、巴庇倫バビロンノ古代ヨリ、希臘、羅馬、古代  
 ノ純金盃、同ク「オクダニ」ス帝ノ玉器ノ如キハ、世界ニ比類ナキ珍寶ナリ、古ノ  
 金銀幣ハ、其内ヨリ尤モ完全ニテ瑕ナキモノヲ、選ミ備ヘタルモノニテ、尋常  
 ノ古幣ト概見シ難シ、此等ヲ主トシテ、人目ヲ驚カス者甚タ多シ、

西洋ノ日新進步ノ說、日本ニ傳播シテヨリ、世ノ輕佻慮リ短キモノ、遂々然  
トシテ、舊ヲ弃テ新ヲ爭ヒ、所謂ル新ナルモノ、未タ必モ得ル所ナクシテ、舊  
ノ存スヘキモノ、多ク破毀シ遺ナキニ至ル、噫是豈日新ノ謂ナランヤ、進步  
ノ謂ナランヤ、百年ノ大木ハ、一タニシテ成長セス、古ノ萌芽モ、今ニ至テハ  
斧柯ヲ用フ、吾人ノ身ハ、嬰孩ノ長セルナリ、新陳ノ交代ヨリシテ謂ヘハ、頃  
刻モ故吾ナシ、其成形ヨリシテミレハ、昔日ノ嬰孩ナリ、是ヲ進步トイフ、是  
ヲ日新ト云、大陸地方ノ人種ハ、資性重厚ナリ、殊ニ西洋各地ノ民ハ、物ヲ棄  
廢スルニ濫シ、其積成ノ跡ヲミレハ、日新進步ト稱スレト、元ハ磨切ノ功ヲ  
重子テ、光澤ヲ發セルナリ、歐洲ノ中古ニ、夷狄擾亂シテ、古ノ文物ハ、ミナ兵  
燹ニ狼籍シ盡テ、蕩然遺ナキニ至ル、之ヲ闇ノ世界ト謂フ、四百年來、文明漸  
クニ進ミ、博文ノ君子、古ヲ勒シ舊ヲ訪ヒ、史編ノ殘セルヲ拾ヒ、口碑ノ證ス  
ヘキヲ錄シ、廢宅ヲ撥キ、古井ヲ探リ、幾多ノ辛苦探訪ヲ勞シ、然リ而テ往時  
ノ金盃人間ニ出テ、各都府ニ博古博物ノ館ハ起レリ、且又之ヲ聞ク、世ノ開  
明ナルニ及ンテ、人民ノ工價貴クシテ、其工藝ハ却テ劣ルモノ少カラス、希

臘、羅馬ノ雕刻續文、今人之ヲ摸スルモ、遂ニ及ハス、古時ノ藝術、往往ニ其傳ヲ失ヒ、今再ヒ獲ヘカササルモノ多シ、西洋ノ博物家ミナ慨嘆ス、故ニ其我邦ニ來ルヤ、亦其他日此嘆アラソフヲ察シ、古傳ノ漆器、象眼ノ類、今ニシテ其傳ノ廢セス、其物ヲ毀ダラサソフヲ務ムヘキヲ勸ム、ミナ文明ノ篤論ナリ、記傳文籍ノ如キハ、其國ノ時代、升沈ヲミルノ實ニテ、廢紙殘簡モ、亦收録シテ失ハサルヲ務メサルヘカラス、西洋ノ書庫、博物館ヲミル毎ニ、其用意ノ厚キ、我東方ノ遠國ノ物モ、重貨ヲ惜マス、勞苦ヲ厭ハス、收拾採録セリ、以テ我邦人ニ示スニ、往往ニ驚異自ラ知ラス、却テ其解說ヲ聞テ、我内地ノ一ヲ詳悉シ、歸ルニ至ル、西洋ノ能ク日新シ、能ク進步スル、其根元ハ愛古ノ情ニヨレリ、試ミニ見ヨ、凱旋門ノ壯大ハ、羅馬ノ古城門ニ脱化シ、「セイソ河橋ハ「タイハル橋ニ脱化セリ、千○百○年○ノ○智○識○之○ヲ○積○メ○ハ○文○明○ノ○光○ヲ○生○ス○之○ヲ散スルルハ、終古葛天氏ノ民ナリ、

○夫ヨリ「コンセルワトワル」ニ至ル、此ハ農業工藝ノ諸器械ノ常博覽場ナリ、式日ヲ以テ、各科ノ博士、此ニテ諸藝術ノ講譯ヲナシテ、市中ノ人民ニ聞カシム



政府ヨリ公建ノ館ニテ、石造ノ大屋ナリ、此ニ來リ講議ヲ聞クニハ、價ヲ拂ハ  
ハシメス、夜分ニ來リ聞クコナリ、○此館ニ入りテ、諸器ヲ回視セシニ、精粗細  
大ミナ包羅ス、喩ヘハ秤衡ヲ蓄ヘタル室ニハ、百種ノ秤衡、精ハ鎔銖ヲ千萬分  
スヘク、各國ニテ各術ノ爲メニ、各其主用ヲ主トシテ造リ出セルモノ、千百種  
ヲ集メテ、其粗ナルハ、東洋各國ノ常用秤ニ及フ、然レモ其中ニ、我邦ノ秤衡ハ  
見當ラサリキ、學校ノ器ヲ蓄ヘタル室ニハ、日月星ノ運回ヲ象シ、機關ニテ回  
轉セシムル器械モ、三四品アリ、各其工ヲ異ニス、寒暑針、空氣輕重針ナト、異工  
同曲ノモノ幾類ナルヲシラス、樂器ノ室ニ、一ノ奇工アリ、洋琴<sup>ピヤノ</sup>ノ箱上ニ、婦人  
ノ偶像ヲスエ、盛裝華然トシテ、艷容愛スヘシ、高サ壹尺ニミタス、螺旋ヲ以テ  
機關ノ樞ヲ振レハ、婦人逍遙トシテ、左右ニ眊シ、徐カニ手指ヲ動カシテ、絃ヲ  
鼓ス、即チ曲調シ音發ス、宛トシテ活ルカ如シ、傍視シテ曲ノ終ルヲ恨ミ、轉振  
スル二三曲ニテ、而後ニ去レリ、○其他製鐵ノ器ハ、ミナ雛形ヲ具シ、火爐ノ雛  
形ハ、割ルヘク疊ムヘカラシム、農具ヲ集メタル所ニハ、鋤、犁、鍬、耜ノ類、各種幾  
類ナルヲ知ラス、水車、水碓、風車、風磨ノ雛形、相馬ノ圖、土質ノ圖、百穀百艸ノ種

ミナアリ、又蠶ヲ數十倍大ノ形ニ模造シテ、其腸肉ノ機管ヲ示シ、同シク蝶ノ形ヲ造リ、側ラニ繭ノ種類ヲ竝ヘ示ス、○上層ニハ、紡織器、陶器、玻璃器ヲ製造ノ具アリ、其中ニ玻璃ヲ以テ細絲ヲ作り、是ニテ織リタル錦アリ、工藝ノ奇、此ニ至テ極レリト云ヘシ、カ、ハ、ル館ヲ設ケテ、民ニ其理ヲ開キテ、其藝ニ進マシム、民ノ工藝ニ巧ミナルモ、亦宣ナラスヤ、倫敦「サウスケンシントシ」ノ展覽會館ノ設ケト、同趣意ニテ、式ヲ異ニセリト謂ヘシ、

支那、日本ノ農ヲ重ニスルハ、其目的タル生命ヲ保續スルニ止ルノミ、知識ヲ滋養スルニハ、未タ慮リ至ラス、況ヤ快樂ヲ遂ルヲヤ、西洋農業ノ「ハ、己」ニ第十三卷ニ於テ論スルカ如ク、民智ノ進ミ、貿易ノ開ケニ從ヒ、新種ヲ擇ヒ、舊種ヲ弃テ、古拙ノ式ヲ新巧ノ式ニ改革シ、工藝原品ヲ耕シテ、天產食品不足ヲ告ク、是數十年來ノ開化ニテ、工藝ノ益興レルニヨルナリ、工藝博物館ハ、各國政府、ミナ近年ニ建設セサルナシ、其功驗ハ、國民ニ利益ヲ顯シタル「ハ、尤モ明著ナリト稱ス、蓋天產ヲ化治シ、工產トナスニハ、其原品ヲシリ、其形狀ヲ變シ、其技工ヲ美ニシ、之ヲ人ノ嗜好ニ投合セシムレハ、需用盛シ

ニシテ價格ヲ騰上ス、此數項ノ意想ハ、之ヲ天來鑿空ニ得ヘキモノニ非ス、  
必ス其物ヲ知リテ、其形ヲ視、其技ヲ習ハシテ、其好ミヲ察スヘシ、然ラサレ  
ハ、天ヨリ美良ノ物品ヲ國民ニ賜ヒタルモ、術ヲ施シテ天良ヲ發セシムル  
ヲ能ハス、圓ヲ削リテ方トナシ、又其方ヲ削リテ圓トナセハ、天良人ニヨリ  
毀タルハナリ、即チ其形宜シキモ、器械利ナラス、技術麤拙ニテハ價ヲナサ  
ス、又技術精巧ナルモ、眞韻風致ヲ備ヘサレハ、好事家ハ愛顧セス、工藝拙ナ  
レハ天産ハ天産ノマヽニテ輸出ス、是野蠻ノ常ニ歐米人ニ愚弄サル、所  
ナリ、工藝ノ興サシニハ、左ノ四目ハ、一ヲ缺テ不可ナリ、此篇已ニ英國ニ於  
テ、倫敦常博覽會ヲ記シ、又壹丁堡ニテ工藝博物館ヲ記シ、此ニ又「コンセル  
ワトワル」ノ博物館ヲ記ス、館ニ附屬シテ學校アリ、講壇アリ、目ヨリ導キテ、  
耳ニ及ホシ、耳ヨリ教ヘテ目ニ及ホシ、耳目ノ兩竅ニヨリ、直ニ其頭漿ニ開  
明ノ智ヲ輸送ス、是此館ノ大益アル所ナリ、普ノ伯林拜焉バイエロンノ「ミユンヘン」瑞  
典ノ「ストックホルム」モスコ露ノ莫斯科等、ミナ此設ケアリト云、

七日 晴



午後ヨリ「ホテルデモニー」ニ至ル、是ハ造幣寮ノ謂ナリ「セイン河ノ西南岸ニアリ其屋宇ノ宏大ナルハ、英米ノ上ニ出ツ、此寮今ヨリ二百年前ニ、路易第十四世ノ建シ所ナリ、此寮中ニ各國ノ貨幣ヲ集メ蓄フ、スヘテ三四萬種アリ、支那ノ貨幣ハ、王莽ノ契刀錯刀ニ至ルマテ、ミナ備ル、本朝ノ貨幣ハ、新貨幣ノ金銀各種己ニ備ル、古貨幣モ大抵備ル、西洋ハ知ラス、東洋貨幣ノ備ハルヲ、此ヲ最ナリトス、○夫ヨリ金銀銅三品貨幣、及ヒ「メタール」ノ製造ヲ略覽ス、當時職人ヲ入ル三百人ニテ、三十馬力ノ漚輪ヲ轉ス、○佛ノ金幣ニハ、周輪ニ文字ヲ印ス、故ニ貨幣ノ面ニ紋ヲ印スルノ器械ハ、各國トカハリテ、一種ノ奇工アリ、「メタール」ハ、人力ヲ以テ車ヲ振轉シテ、印紋ヲ挫<sup>クシ</sup>キ出ス、漚力ヲ用ヒス、

○夫ヨリ「モントビエター」ニ至ル、質倉ノ謂ナリ、巴黎ニハ、政府ヨリノ仕組ニテ、質物ヲ取テ金ヲ貸民ニ貸ス、故ニ府中ニテ、二十ヶ所ノ貨物ヲ受取ル屋アリテ、其品物ヲ此藏ニ蓄藏ス、貸金ノ法ハ、一年ヲ以テ限リトシテ、百<sup>〇〇</sup>ニ九<sup>〇〇</sup>ノ利ヲ納ム、利金ヲ拂ヒテ年ヲ延レハ、幾十年ノ久シキモ、其質物ヲ流スヲナシ、又一年ノ内ニテ、早ク元利ヲ拂フトキハ、其利金ハ等ヲ以テ差減ス、今日借リテ明

日ニ受ケルモ可ナリ、若年滿チテ元利ヲ拂フヲ能ハサルモハ、半ケ年ハ猶豫  
ヲアタヘテ、其後ニ賣拂フ、其賣拂ヒ代金、若シ元利及ヒ手数料ヲ引キテ、餘分  
アレハ、其主ヘ餘分ヲ送ル法ナリ、

佛國ノ財政ト、貧民救助ノ法トハ、甚タ行届キタルモノニテ、畢竟此國ハ、商  
法ニ巧者ナルカ如ク、經濟學ニ富ミ、多士輩出スルニヨリ、其理財ノ巧ミナ  
ルヲ、深遠奇警ナリ、去年以來、世ノ耳目ニサヘ落膽セル、巨額ノ償金ヲ、日耳  
曼ニ拂入ルヲ約シ、之ヲ辨償スルニ、内國ノ生意ヲ低衰スルヲナキハ、英  
國ノ人モ、意外ト驚キ、日耳曼ノ宰相「ロスマルク」氏モ、一生ノ大失策ナリト  
浩嘆セルニ至ル、其國債ヲ内外國ニ償ルルニ當リ、貸主ハ常ニ先キヲ爭フ  
テ、幅湊シ、券面ノ數ヨリ、常ニ超過シ、往往ニ貸期ニ後レタルヲ失望セルモ  
ノ多カリシト云、其各國ニ信用アル、實ニ驚クニアマリアリ、此國豫定ノ國  
度ハ、平均四億萬弗ノ歲入ニテ、歲出ハ之ニ一二千萬弗ヲ超過スルハ、別格  
ノ入額ニテ補フ、此高約二千餘萬弗ニテ、主トシテ貸金ノ利息ナリ、此貸金  
ハ、蓋シ國民ノ利益ヲ興シ、貧民ノ救助ニ出タルモノニテ、此質倉仕組ノ如

キ項ナルヘシ、國債ニヨリテ國益ヲ興シ、之ニヨリテ貸金ノ利ヲ生シ、  
 ニヨリテ稅額ヲ減シ、而テ其興リタル國益ハ、自ラ國ノ富トナリテ、年年ニ  
 稅額ヲ増ス、此循環ノ理ヲ以テ、理財ノ機括ヲ用フルハ、經濟ノ要領タリ、故  
 ニ佛國ノ財政ハ、常ニ豫算上ヨリ、決算ニ至レハ、不足ヲ生ス、其多キハ六千  
 萬弗ニ及ヒシモアリ、之ヲ償フニハ、一種ノ方策ヲ用フ、是ハ國債ヲ銀行  
 ヨリ借ラスシテ、内外國ニ貸金ニテ產ヲ立ル人ヨリ借入ル、ナリ、其債券  
 ノ利子ハ、年ニ百分三ヨリ、四半マテナリシニ、現今ニテハ多ク百分三ヲ常  
 トス、是モ亦其信  
用アルノ證此法ハ一千一百五十四年、拿破侖第三世ノキニ創メタル、  
 新奇ノ妙策ニテ、爾後六回此債ヲ起セリ、一千八百七十年以後、日耳曼ニ債  
 フタル借金モ、亦此類ノ債券ニテ、内外國ヨリ借入レ、増稅ノ額ト、發行紙幣  
 ノ増額トニテ、其大數ヲ商量シタルモノナリ、戰爭以前ニアタリテ、國債ノ  
 利息ハ、壹億三千萬弗ニ及ヒタレハ、爾後ハ、太タ過超シタルナルヘシ、此等  
 利息ハ、國中ニ散布シテ、民益トナリ、其勢ニ乘シテ、國益ノ仕組ヲ起シ、民產  
 ノ増進スルニ從ヒテ、國度モ自然ニ増進ス、是稅ヲ加ヘスシテ、自然ニ稅ヲ



質倉ハ石造ニテ、高サ四階アリ、各室ニ部類ヲ分チ、質物ヲ藏ス、當時藏スル質物スヘテ、一百五十萬品アリト云、質物ヲ蓄フ、甚タ丁重ナリ、金銀ノ細工物ハ每件ヲ厚紙ノ箱ニ入レ、其外ヲ紙包ニシテ封シ、外ニ符牒ヲ挾ミテ、小綱ニテ縛リ、番號ヲ記シ、挨次ニ棚ノ内ニ列ス、原價二百「フランク」以上ハ、棚ニ戸ヲ鎖シテ錠ヲ下ス、質物ノ内ニテ、此類ノ品尤モ多シ、唯其容積大ナラサルヲ以テ、室房ハ廣カラス、衣類モ大ナル厚紙ノ箱ニ<sup>ケース</sup>イレ、包ミ縛ル、前ニ同シ、巨大ノ器ハ、紙ヲ以テ包ムマテナリ、若シ利拂ヒヲナシテ、年ヲ延ヘルキハ、其時ニ一ノ符牒ヲ添ユル、二十ヶ年モ利拂ヒヲナシテ、元ヲカヘスヲ得ス、符牒ヲ二十枚挾ミタルモノアルニ至レリ、柱ニカケタル蝙蝠傘ノ符牒ヲミルニ、約市中ノ元價ヨリ五分ノ二ホトニ當ル、○此倉ノ口ニモ、質物ヲ受ケ取リテ、金ヲ渡ス局アリ、此ニ至リテ、其受取ル模様ヲミシニ、此時ハ己ニ三百品ヲ受込ミテ、送リタル後ニテ、己ニ質入ノ人モ稀ナリ、唯一二人ノ來リタルニアフ、其始末ヲ此ニ詳記ス、ヘシ、○此局ニ掛ル人ハ、唯七人アリ、一人ハ品物ヲ監定シテ、直

段ヲ定メル人ナリ、此人ノ選ミ、及ヒ給料共ニ重シ、四人ハ取次ヲナシテ、監定人ノ手助ケヲナス、此ヲ甲室トス、其鄰室ニ二人アリ、一人ハ書記シ、一人ハ金ヲ點檢シテ渡ス、此ヲ又乙室トス、兩室ノ間ナル壁ニ、方五六寸ヲ切開キ、上ニ綱ヲカケテ、下ヨリ紙ヲ刎送ルヘカラシム、○甲室ノ前ニアタリ、高サ人面ヲ對スル高サノ處ニ、窓ヲ開キ、窓前ニ案アリ、質オク人ハ、此ニ立テ申入ル、此日質入兩人アリ、ミナ婦人ナリキ、甲ノ一人來リ、鈴ヲ鳴シタレハ、取次人側ニアリ、番號ヲ書キタル札ヲ執リ、起テ應接ス、婦人金ノ袂時計ヲ出シ、鎖リ共ニ渡シタレハ、番號ノ札ト引替ニテ受取りテ、監定師ノ前ニ出シ、先ツ鎖ヲ脱シ、天秤ニテ衡シ、重サ若干ト云フ、監定師執テ、明ニ就テ細看ス、次ニ時計ヲ衡シテ渡ス、即チ其兩蓋ヲ細看シ、次ニ内ノ器械ヲミテ價ヲ定メ、百五十「フランク」ト云ケレハ、取次人ハ起テ之ヲ告ク、婦人許諾ス、即チ之ヲ符牒ス、書記ハ其旨ヲ聞テ、品物ノ價番號ヲ兩牒ニ書シ、一ハ隣室ニ刎遣リ、一ハ品物ニ挟ム、其間ニ一人ハ之ヲ封皮シテ、編筐ノ内ニ投セリ、婦人ハ許諾ノ後ニ、隣ナル乙室ニ至リ、番號札ヲ渡シケレハ、一人ハ隣ヨリ來リタル符牒ヲ書冊ニ寫シ、一人ハ

番號ト金數トヲ書冊ニ記シテ金ヲ改メテ渡シタリ其次乙ノ一婦人ハ金剛石ヲ嵌セル指環ヲ出セリ衡シ改メタル後ニ鑒定師ハ明ニ就テ玉ヲ透シミルヲ甚タ久シ金剛石ノ價ハ非常ニ貴ク美惡ノ差多ノミナラス贗物甚タ多キヲ以テ鑒定モ甚タ難キトナシ

後印度ノ錫蘭ニテ土人金剛石ニ似タル白玉ヲ以テ客ニ買ハソヲ勸ム是ニテ玻璃ヲキリ或ハ鐵版上ニオキテ重力ヲ加ヘテ碎カシメ其眞物ナルヲ示ス然レモ是金剛石ニ非ス一種純白ナル硅質ノ堅石ニテ其價甚タ廉ナルモノナリ凡諸寶石ハ其元質「アルミニウム」ト硅石トノ兩元素ニテナル唯金剛石ハ炭質ノ純粹集凝セルモノニテ絶テ人力ノ模スヘキモノニアラス其剛ナル硅石ヲ截ルヘシ然レモ硅石ノ剛ナルハ其力是ニ亞ス精鋼モ亦然リ故ニ淨沙ニテ玻璃ヲ磨スレハ磷シ鋼刃ニテモ玻璃ヲ截斷スルナリ巴黎ニハ賽寶石製造ノ會社アリテ種種高價ノ玉石ヲ模製シ價ヲ廉ニシテ賣出ス其賽玉一タヒ人手ヲ展轉スレハ似ヲ變シテ眞トナシ狡獪家ノ伎倆ニ落ツ故ニ歐洲ニ於テ賽玉ヲ購フニハ具眼ノ人ニ其鑒識



ヲ乞ヒ、熟察シテ後ニ價ヲ定メルニアラサレハ、往往ニ其伎倆ニ陷ル、唯金  
 剛石ノ玻瓈ヲキルノ一語ヲ特ニ難シ、

此ニテ受取リ、又諸所ニテ受取タル質物ヲ送り來ルヲ、倉中ノ書記局ニ二十  
 五人アリテ、夫夫ニ整理シテ蓄藏ス、又受取ル品ハ、唯八人ニテ査驗シ渡ス、質  
 ノ品ヲ取扱フ室ハ、別ニアリ、

八日 陰

巴黎ノ造幣寮



ピットレーモレ公妃ノ泉







第四十四卷　巴黎府ノ記三

一月九日　晴

此日第三世路易拿破侖、石癰ノ病ニテ英國ニ於テ殂セリ

十日　晴

午後ヨリ某地名ヲ問ノ墓地ニ至ル、此ハ巴黎ノ東方ナル邊鄙ニアリ、小高キ  
岡ヲ占メテ起ス、全域ノ廣サ四十「エーカー」、西洋ニテ墓地ノ修潔甚ダ手ヲ盡  
ス、然レニ英佛ハ、都府盛ンニテ、地面狹縮シタレハ、米國ノ如ク廣區ヲ圍ヒテ、  
清林美苑ノ間ニ埋葬セシムルヲハ能ハサルナリ。○此區域ノ内ニ一條ノ大  
路ト、墓間ノ車路トヲ除クノ外ハ、大抵餘地アルナシ、貧人ハ木ヲ以テ墓標ト  
ス、十字形ヲ造リテ、之ヲ黒ク塗タルモアリ、白キモアリ、中人ハ石塔石龕ヲ建  
ル、大家ハ石ヲ以テ靈室タマヤヲ建テ、約十疊敷計リ、室内ニ石ノ方格ヲ造リ、棚架ノ  
如クシ、棺ヲ葬リ藏ム、此靈室タマヤ一字ヲ建ルニハ、地代百磅ニ上リ、靈室一字ノ費  
五百磅ニスキ、且其地代ハ年年ニ拂フ、其費額ニ堪ヘ難シ、只巨室豪家ノミ、永

少保存スルヲ得ル、一根ノ石塔モ亦之ニ准シテ地代アリ、故ニ中人ヨリ以下  
 ハ埋葬ノ頃ニハ其仕届ケモツケ、ヒ、多年ノ後ハ廢シテ、又他人ノ屍ヲ以テ、  
 其上ニ埋葬スルモノ多シトナリ、○此日一ノ葬送アリ、小家ト覺ヘテ、棺車一  
 輛ニテ親故ミナ步行ニテ送り來リ、棺モ木櫃ニテアリケリ、一處ノ墓地ニ墮  
 ヲ堀ル、深サ六尺許ニテ、此ニ棺ヲ窆下シ、教師呪文ヲトナヘ了リテ、墮ニ臨ミ  
 テ、土ヲ撒スル、一掬ニテ、即チ土ヲ下セリ、其内ニ近親ト覺ヘル婦人五人ア  
 リ、白キ麁布ヲ帽上ニ被リ來リ、窆棺ノ後ニ、涙ヲ拭ヒツ、其布ヲ折リテ、懷ニ  
 シテ去レリ、是ハ若キ婦人ノ喪ナリトテ、葬送ノ人ミナ滿眼ニ涙ヲ浮メタレ  
ヒ、一ノ悲號スルモノナシ、滿場淋岑トシテ哀レナリ、西洋ノ男女ヲ察スルニ、  
 上下老幼孩嬰ニ至ルマテ、平生甚タ活靜ナリ、公苑ニ孩兒ヲ保スルモノ、未タ  
 嘗テ兒ノ啼クヲキカス、又意逆ヒスル態ヲミス、職人ノ事ヲトリ、傭夫ノ重  
 キヲ運フニ、曳也エイヤノ聲ナシ、葬リニ悲號セス、是風習ノ然ルカ、抑モ人種ノ然ラ  
 シムル所ナラン、○此墓地ハ、去年「コンミュン」ノ亂ニ「コンミュン」ノ黨、此ヲ占メ  
 テ屯營トセルヲ、政府ノ兵前後ヨリ回り出テ、烈戰ヲナシ、此墓間ニ於テ、三百

餘人ヲ屠殺セリ其時紅血漂ヒ流レテ莫中ナル大路ノ坂ヲ混混トシテ流レ下リ屍ノ丘ヲ築キヌ此ヲ「コノミュン」ノ亂ノ畢リナリトスルト新戰場ノ語ヲキ、人ヲシテ竦然タラシメヌ、

附テ云巴黎ノ墓地ハスヘテ四ヶ所アル内ニ此ハ其一ニテアルナリ觀象臺ノ近傍ニ又「カタゴム」トテ古代ノ墓地ヲ發見シ白骨ヲ地底ナル隧道ノ内ニ積タル所アルトナリ此中ニハ常ニ人ヲイレヌ此ニ至リシモノ、話シニ中ニ骨ヲ以テ棚ヲ結ヒ垣ヲタ、ミ種種ノ飾リヲナシテ中ニ瓦斯ノ燈ヲ點シタリト開化ノ餘事玩弄ヲ家中ノ枯骨ニ及ホスハ噫亦甚タシ、

○夫ヨリ「ロットシューモン」ノ公苑ニ至ル童岡ノ謂ナリ此苑モ墓所ノ近地ニアリ、巴黎ノ東邊ニテ其一帶ノ地ハ製造所ニテ教育モ十分ナラス近時ニ或ル博士此ニ教育ノ方ヲ施サントヲ思考セシニ今ヨリ手ヲ下シテ八十年ノ久キヲ經ルニ非レハ巴黎一般ノ人民ニ平均シ難シト謂ヘリト○拿破侖第三世在位ノキ巴黎ノ生産ヲ導キ工藝ノ業ヲ盛ノニシテ其利潤ニヨリ金八十萬「フラソク」ヲ費シテ此公苑ヲ築キ職人ニアタヘテ游息ノ地トナセリ第三世



拿破侖ノ政ヲナス、中等以下ノ民ニハ、深ク利益ヲハカリ、「ハイマーケット」モノトビエター」等ノ設ケ、ミナ賤民貧家ノ利ヲウクルモノ少カラサレハ、其德ヲ今ニ仰慕スルトナシ。○此「ビットシヨ」モノハ、往時拿破侖第一世ノ時ハ、普魯西人ノ屯兵所ニテアリキ、岡陵起伏シ、總面積一百「エーカー」ノ廣サアリ、岡上ニ草ヲ蒔キ、樹ヲ植ヘ、岡側ヲ削リテ、岩石ヲ聳カシ、其足ヲサルハ、石灰ヲ以テ石ヲ結合シテ、奇岩ノ嶄嶄タルヲナス、岩壁ノ仄立セル所ヨリ、水ヲ瀉キ下シテ、瀑ヲナシ、岡底ニハ池アリ、環繞ス、瀑水之ニ注キ、池水清淺ナリ、池上ニ一高阜起ル、上ニ遊亭アリ、鐵<sup>クミナハ</sup>繩ノ懸橋ヲ架シテ阜ニ渡ス、此ヨリ俯瞰スレハ、巴黎府ハ目睫ノ間ニ落ル、巴黎ノ游園中ニテ、眺望ノ濶ニシテ、山水ノ奇、雅韻アルハ、此苑ヲ以テ第一トスヘシ、

拿破侖第三世カ、佛國ノ大統領ニ推舉サレシヨリ、遂ニ帝位ニ登リ、「セダン」ノ戰ニ敗レテ、普國ノ軍ニ降リシマテ、二十二年ノ間ハ、正ニ歐洲ノ開化驟進ノ際ニテ、佛國ノ富耀ヲ全クシ、益歐洲ニ輝キシ功業ハ、其治績ノ最モ著目スヘキ所タリ、殊ニ傭工細民ノタメニ、勸奨救助ノ良法ヲ與ヘタル功

德ハ反テ拿破侖第一世ノ上ニ出ルト、世ニ賞譽セラル、廢位ノ後モ、中等以下ノ民ハ、景慕シテ己マス、今日覽觀シタル「ロットショーモン」苑ハ、其美舉中ノ一ナリ、此苑ニ遊ヒ、假山ノ上ヨリ回瞰スレハ、巴黎東南部ノ市街ハ、屋瓦鱗ヲ敷テ、烟突ハ森森トシテ、黒烟ヲ吹キ、清空ニ雨ナラサルノ陰ヲ催シ、夕陽ノ赭瓦壁ヲ映射スルハ、晚霞モ爲メニ黄ナリ、此ハ巴黎製作場ノ集ル所ニテ、此苑ニ盤遊スル住民ハ、平常其中ニ止息シ、勞作ヲナス職工ナリ、馬鈴薯、玉蜀黍ヲ食ヒ、垢衣弊屣ヲ穿テ、烟煤ノ中ニ奔走シテ、場主ヨリ傭給ヲ受ケテ、生計トナスモノナリ、日曜日ニ至ル毎ニ、彼「バーテブロン」苑ニハ、華麗ノ馬車、輪輪相銜ム、此苑ニハ夫婦相携ヘ、爺嬢相伴ヒ、歩シテ逍遙ス、兩苑ノ景象同シカラサレトモ、其繁華ヲナシ、快爽ヲ受ルハ、一ナリ、此景況ノ起作者ハ、即チ拿破侖第三世カ、經濟ノ術ヲ得タルニヨレリ、一千八百四十八年、佛國ノ沸騰ハ、實ニ非常ノ際會ニテ、此時ニ當リ、職工上ニ就キテ、勞動權利ノ説ナルモノ起レリ、其主旨ハ、政府ニ職工ヲ勸獎惠恤スヘキ義務アルヲ推シテ、政府ハ宜ク人民ノ爲メニ、其勞動ヲ遂クヘキ作業ヲ與ヘテ、各人ニ生

活ヲ濟セシムル方法ヲ謀ルヘキヲ主張セリ、抑西洋ノ人氣ハ、商工ノ途  
 ニ、用意甚タ厚ク、工作場ノ主ハ、其職工ヲ保護救助スルヲ榮譽トナス風儀  
 ナリ、故ニ政府モ亦職工小民ニ、勸獎惠恤ノ方法ヲ設ケ、保護ヲナスノ責任  
 アリ、此事ハ國ノ貧富榮辱ニ、關係切要ナル務ナレトモ、其主旨ハ、各人ノ勞動  
 作業スルヲ、勸獎惠恤ス、各人ヘ、勞動作業ヲ打點<sup>モツロ</sup>ミテ、其能力ニ應シ、生計ヲ  
 與フノ責アルニハアラス、然ルニ勞動權利ノ說ニテハ、全國ノ人民ニ、勞動  
 作業ヲ得サルアルハ、之ヲ政府ニ責ムルヲ得ルナリ、其迂濶モ亦甚タシ、經  
 濟ノ要旨ニ達セサル、膏粱ノ君子ハ、徒ニ性理ノ學旨ニ驚シ、仁德恩惠ノ美  
 ニノミ拘泥シ、輒チ如此キ論ヲ沸起シテ、社會ノ間ヲ攪亂シ、小民ニ懶惰ヲ  
 教ヘテ、無望ノ福ヲ希フニ至ラシムルハ、西洋文明ノ國モ、免レサル所ニテ、  
 其論ノ激昂スルニ當レハ、全國ノ騷亂ヲモ引起スニ至ル、佛國ノ内訌ヲ起  
 ス、多クハ此等ノ弊習ニヨル、拿破侖第三世ハ、如此キ際ニ推舉サレテ、大統  
 領トハナリタリ、爾後二十二年間ノ昇平ヲ維持シ、益製作貿易ヲ盛ニシテ、  
 富強ヲ耀シ、初メハ百萬口ノ巴黎、今ハ百八十萬ノ繁昌トナリタリ、此ヒット



シヨ―モノ苑ヨリ目撃スル滿地ノ市街ニ、赭瓦ノ屋壁ヲ建並ヘタル、其初メ  
ニ當リ、如何ナル景況ナリシヤト回想スレハ、「ワンセーソ」「サンクルー」一様  
ノ野ニテアリシナルヘシ、是時ニ當リテハ、地價モ賤シク、人家モ落落トシ  
テ、田舎ノ光景ナレハ、巴黎府中ニ、廣キ地域ヲ要スル製作家ハ、如此キ地處  
ヲ需用ス、因テ職工市街ノ法ヲ勸奨シタリ、職工市街ノ法トハ、各都府ニ於  
テ、會社、若シハ製作家ヨリ、其職工ノタメニ、家屋ヲ建築シ、職工ヲシテ、賃銀  
ノ幾分ヲ積ミテ、終ニ其家主トナラシムル目的ニ出ルモノナリ、曩ニ英國  
「フラットホール」ニ於テ「サー」ノ爵ヲ與ヘラレタル「タイトル」氏カ、紡織場ヲ  
記シタルハ、其最モ周備セルモノニテ、此「ビットシヨ―モノ苑」ヲ環シタル、職工  
市街ハ、其集成ナルヲ觀察スベシ、夫レ惠而不費ハ、政ノ良模ナリ、民ハ可  
使由之、而不可使知之ハ、小民ヲ濟理スルノ妙用ナリ、故ニ曰ク、之ヲ空言ニ  
論スルハ、之ヲ行事ニ示スノ親切著明ナルニシカスト、經濟ノ要旨ハ、性理  
家ノ解シ能ハサル所アリ、各國ヲ歷游シテ、職工ノ情態ヲミルニ、多クハ椎  
魯愚昧ニテ、貧窶不潔ニ安シシ、快ヲ目前ニトリ、永遠ノ慮ナシ、是下等社會

ノ通態ナリ、農家ノ傭作、工家ノ職工、商家ノ從漢、ミナ其情況ハ一ナリ、其職  
 工ヲシテ、賃銀ノ餘ヲ積ミ、家産ヲ興シ、勞動スル能ハサルノ日ニ備ヘシム  
 ルハ、猶傭作ノ小農ヲシテ、豐年ノ穀ヲ蓄ヘ、凶荒ニ備ヘシムルト異ナル所  
 ナシ、職工市街ノ法ハ、正ニ其主旨ヲ達スルモノニテ、常平倉ノ設ケト、旨意  
 相似テ、更ニ高尙ナルモノナリ、其大略ヲ謂フ、都府ノ邊鄙ニ於テ、地價賤シ  
 ク、荒廢ノ地アル所ハ、製造場ヲ建ルニ的當セル地ナリ、會社、若クハ工作家  
 カ、職工ニ保護救助ヲ遂ケ、榮譽ヲ全クセント欲スル志ヲ勸奨シ、如此キ草  
 野ニ、街路ヲ割リ、修繕ノ法ヲ設ケ、而テ之ヲシテ職工ノ爲メ、費用減少シテ、  
 居住ニ便ナル、兩益ニ注意シ、家屋我邦ニテ謂ヲ建築シ、貸與フ仕組ナリ、家  
 屋ノ模様ハ、居住者ノ貧富ト、好惡トヲ厚ク酌量ス、穴倉附ノ上等屋モアリ、  
 之ヲ附サル中等屋モアリ、或ハ二階、或ハ平屋、其分限ニ適當セシメ、職工ヲ  
 其内ニ僑居セシメ、而テ家賃ノ外ニ、毎月若クハ每周ニ賦シテ、若干ノ賃銀  
 ヲ積ミ、數年ノ後ニハ、一字ノ家主トナルヲ得セシムルナリ、故ニ創起ノ時  
 ニアタリテハ、草野ヲ開キ、新路ヲ設ケ、路傍ニ散點セル、赭瓦ノ屋ヲミレハ、

恰モ田舎ニアル想ヲナセモ、路砌ニ燈架ヲウエ、用水ノ唧筒ヲ設ケ、路ヲ堅  
甃シタレハ、雨ニ泥濘ヲ踏ムコナク、暗夜ニ燈ヲ要セス、并セテ游苑ヲ修メ  
テ與フレハ、暇時ニハ此ニ運動スヘシ、從テ教會ヨリ寺ヲ起シ、祭日ニハ詣  
テ法教ヲキクヘシ、會社ヨリ學校ヲ設ケ、子弟ヲ教訓上達セシムヘシ、麵包、  
屠肉、割烹、浴湯、理髮、洗濯、衣服、器皿、應用品ノ商店、書籍ノ縱覽所モ、從テ與リ、  
數年ノ後ニナリテ、回顧スレハ、人口稠密ナル都府ノ中央ニ住居スルヨリ  
ハ、其景況ハ反テ快爽ヲ覺フヘシ、「パーデプロン苑ニ、車塵ノ間ニ孤歩シテ  
游フヨリ、「ピットショーモン苑ニ、憮然トシテ盤游スルノ適意ナルニ如カサル  
ヘシ、故ニ最初下直ノ地モ、年年ニ騰貴シテ、地主ハ自然ニ家産ヲ厚クナセ  
リ、最初減價ノ家屋モ、自己ノ持主トナル頃ニハ、家賃騰貴シテ、家主モ亦價  
アル不動産ノ所有者トナルナリ、是職工市街ノ設ケ、職工ヲ勸獎シ、恩惠シ  
テ、小民ニ勞動作業ヲ積ミ、大ナル利益ヲ受ケシムル所以ナリ、此旨意ヲ推  
シテ、勸獎惠恤ノ方法ハ、固リ一ナラス、貯金預ケ所ノ設ケアリ、共救會社ノ  
設ケアリ、養老金ノ蓄ヘアリ、急備金ノ預リ所アリ、佛國ニ於テ、貯金預リ所



ノ數ハ、一千八百六十四年ニ、四百九十三社アリ、預金ノ高ハ四億七千五百萬「フランク」ニ上レリ、其救會社ハ千八百五十一年マテニハ、二千三百三十七社アリシニ、六十七年ニハ五千五百八十一社ニ及ヒ、資本ノ總額ハ四千萬「フランク」ニ及ヘリ、又千八百五十五年ニ「ワンセーゾ」ウエシチー」ニ於テ、惠恤場ヲ設ケ、職工ノ病身虛弱ナルモノヲ容ル所トナシ、年年ニ平均一萬五千人ヲ容ルト云、國ノ製作ヲ勵マシ、其勸獎惠恤ノ方法ヲ設クル、此等ノ施設ノ如キハ、ミナ良善ノ美事ニテ、歐米各國ノ競フテ、建設スル所ナリ、試ミニ思ヘ、四億七千五百萬「フランク」ノ貯金ハ、皆職工ノ受取ル賃銀ノ積成ヨリ生セルモノニテ、上等社會ニ於テ、其勸獎保護ノ要ヲ得サレハ、皆日日ニ無用ノ價ニ散シテ、放蕩癩惰ヲ買ヒ、遂ニハ酒傷黷毒ヲ醸シテ、其勞動ヲモナス能ハサルニ至ルヘキ、冗餘ノ金ニアラスヤ、

○歸路ニ「レテポットチャー」モン街ナル「ワリコレー」氏ノ製鐵所ニ至ル、此場ハ、屋根ノ幹、屋柱、門扇、窓欄等、總テ屋造ニ用ヒル鐵材ヲ製スル所ナリ、佛國ノ屋造ニ用ヒタル鐵材ハ、其細工甚タ精幹ニシテ、輕靡ナリ、雕縷藻績、風流ヲ極ム、英國

ノ及ハサル所ナリ。○此場ハ四大字ヲ並ヘ、職人ヲイル、三百人ニテ、蒸氣ノ輪ハ、只三十五馬力ナルヲスエ、多ク人力ヲ以テ造成ス、<sup>フリゴ</sup>橐鑪ヲ鑪底ニ施シテ鐵ヲ熔ス、我邦ノ鐵冶ニ似タリ、其鑪ハ地上ニ磚瓦ヲ以テ、土基ヲ造リ、其面ニ木炭ヲ熾シ、底ヨリ空氣ノ筒アリテ、蒸氣輪ノ餘力ニテ、火ヲ吹ク機ヲ施シテ、其筒ノ開闔ヲナス。○此場ニテ、柱付ノ鐵屋根<sup>ヤチ</sup>、其長サ百二十尺、横二十尺ナルモノヲ、正ニ打立テタリ、是ハ玻璃ヲ葺キテ建ル用ニテ、其價ヒ五百磅ナリト云、又己ニ成就セル燈臺アリ、小ナルハ高サ三十餘尺ニテ、價五百磅、大ナルハ百五十尺ニシテ、徑四十尺、上ニ向ヒテ殺滅ス、其價一萬八千磅ナリ、皆中央ヨリ螺旋ノ階アリテ上ルヘシ、以テ山上ニ建テ、或ハ水角ニ建ルヘシ、西洋ニテハ、水鼻山角ノ表トシテ建テ、以テ美觀トナス、猶我石ノ燈籠ヲ飾ルト、一般ノ風尙ナリ。○此場ハ、佛國ニ於テ最大ナル製鐵場ノ一ニテ、近年埃及國ヨリ、四萬八千磅ノ價ニテ、其國王ノ花苑ニ用ヒル、四百五十尺ノ屋根ヲ頼マレテ、成就セリトテ、其門上ノ飾リ、柱ノ彫刻等、ミナ其副ヲ作リテ、留メタルヲ示シス、頗ル手入ノ細工ナリ、

英國ノ工藝ハ、龐大ノ物ヲ製シテ、世ノ需用ニ供スルヲ目的トナス、而テ其巧技ヲ進メテ、華麗纖細ノ工ニイタレリ、商法ノ目的モ亦然リ、多ク食用日需ノ品ヲ貿易シテ、製造ノ細品ニ及フ、佛國ノ工藝ハ、全ク之ニ反シ、華麗纖細ナル手技ニ於テ獨歩ナリ、而テ建築、造船、銃砲、紡織ミナ能セサルナシ、其商法モ、製作品ヲ以テ主眼トナシ、兼テ海商ヲ競フテ、元品、食用品ヲ貿易ス、是兩國ノ相對シテ、富庶ヲ競フ概形ナリ、巴黎ノ各場ヲ回覽シ、其英國ノ如キ、巨大ノ製作場ナキヲ以テ、佛國ノ生理ハ、英國ニ及ハサル遠シトナスハ、甚タ誤ル、

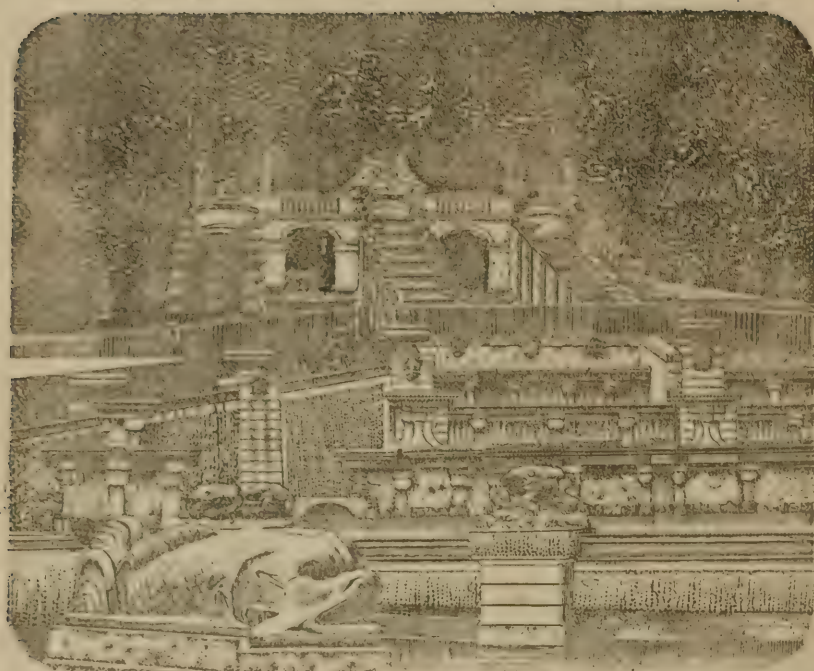
# 十一日 晴

朝十時ヨリ駕シテ「セーアル」ノ製陶場ニ至ラント、巴黎ノ西郊ナル「セイン河」ノ向岸ヲスキ「サンクルウ」ヲ過リ、

○「サンクルウ」ハ、巴黎ノ近郊ニアル邑ニテ「セイン河」ヲ前ニシ、長岡ヲ負フ、此ニ宮殿アリ、一千八百年拿破侖第一世、佛國共和政治ノ「コンシュル」トナリシ時、此ニ政府ヲ設ケ、爾後佛王ノ避暑場トシテ、游豫ノ地トセリ、庭苑ノ設ケ、清麗ニ



巴黎近郊「サンクルー」宮燒跡



同處「セイシ」河ノ野景





高キニ據リテ、宮園ヲカマヘ、結構壯麗ナルヲ、高名ノ地ニテアリシニ、先年  
兵火ニテ、盡ク烏有トナリ、今ハ只地基、石級、殘礎、石像等ヲ存スルノミ、然レモ  
其庭苑ノ景ハ、猶盤桓逍遙スルニ宜シ、巴黎ニアルモノ、暇日ニハ「セイソ」河ヲ  
下リテ、此ニ休憩シ、晚涼ニ棹シテ返ル、猶浪華ノ櫻宮アリ、東京ノ向島アルカ  
如シ、

○「セーブル邑」ハ「サンクルウ」ヨリ岡ヲ隔テタル南ニアリ、此ニ高名ナル陶器ノ  
製作場アリ、政府ノ設ケ立ル所ニテ、此ニ附屬スル學校モアルトナシ、佛國陶  
器ノ精美ナル「セーブル」ノ名ヲ以テ、歐米ニ珍重セラレ、世界陶磁ノ首ト推ス  
ハ、即チ此製造場ニテ製スルモノタリ、○製造場ハ屋宇頗ル廣大ニテ、四層ノ  
高宇ナリ、中ニ廊道アリ、結構傑峨ニテ、陶窯ヲ屋中ニ抱キ、二層三層ヲ貫キ、其  
烟突ヲ棟礎ヨリ出ス、外圍ニ高垣ヲ匝シ、門庭及ヒ玄關ヲ設ク、貴人ノ邸宅ニ  
イルカ如シ、場ニイレハ、中ニ製成ノ陶器ヲ陳列シテ、店肆ヲナス、直ニ買フヘ  
シ、場ノ主長等、導キテ内景ヲ案内ス、數室ミナ陶器ノ陳列場ニテ、其中ニハ數  
千、乃至萬「フランク」ノ精品多シ、油繪ヲ焼付タル額面ノ如キハ、玲瓏洞徹シテ、



眞畫ヨリハ更ニ美麗ナリ、

此場ニテ製作スル、陶磁ノ元料ハ、和合ノ土モ用フレモ、主トシテ「カオリソ」石ヲ用ヒテ作ル「カオリソ」ハ、白泥石ノ名ニテ、此石ニハ適當ナル陶磁ノ質分ヲ含ミ、軟ニシテ細末スルニ易シ、之ヲ水淨淘澄シテ搏泥トナス、其場屋ハ案内ヲナサヘリキ、

陶器ノ製作ハ、人間日用ニツキ、容易ニ發明シ得ルヘキ工タリ、然レモ其精美ノ術ニ至テハ、今日ノ文明ニテモ、猶遺憾ナルコト多ク、西洋ニテハ、己ニ之ヲ美術ノ内ニ畫圖彫刻ノ類人ノ手技ニ出テ精神ヲ寓シ氣韻アル工ヲ美術ト云、論評ヲナシ、支那及ヒ日本古伊萬里ノ磁器ハ、益質分堅緻ニテ、形貌畫樣及ヒ著色ミナ古雅韻致ノ洗動スルコト、一唱三嘆ノ味アリトテ、愛玩當ナラス、佛ノ「セーブル」モ、亦此ニ劇賞ヲ得タリ、故ニ「セーブル」ノ製磁ヲ觀ルニツケテモ、日本磁器ノ巧技ヲ益自ラ珍重シテ、其名譽ヲ保續スルコトヲ思量セサルヘカラス、抑陶器ノ發明ハ、容易ナルモノト謂フハ、粘泥ヲ搏捏シテ、火ノ熱力ニアハスレハ、其泥中ニ含メル、蠟類ノ作用ニヨリ、冷凝スレハ、堅質ヲナスコト、常ニ見ルコトニテ、恰

モ、鑪中ノ燥灰カ、炭火ヨリ發スル蒸氣ノ加減ニテ、石膏ヲナシテ石ヲ結フ  
 カ如シ、此ヨリ發明ヲ生シテ、早キ時代ヨリ、土器ヲ炮烙スルヲハ起ル、今南  
 亞米利加、印度、錫蘭、南洋島ノ蠻民モ、種種ノ土器ヲ製シテ、日需ノ器皿トナ  
 スヲ知レリ、日本ニテ神武紀元ノ以前ヨリ、嚴瓦ハアリ、眞舜ノ泗濱ニ陶ヲ  
 製セルヒハ、己ニ其苦窳ナラサシメル火度ニ進歩シタリ、但シ尋常ノ粘  
 泥ニハ、雜質并セテ金屬ヲ含有スルニヨリ、其有機分ハ火ニ飛散シテ、氣孔  
 ヲ存シ、金屬ノ酸化ニテ色ヲアシクス、是土器、及ヒ瓦質ニテハ、器宇トナシ、  
 水液ヲモルニタヘサル所ナリ、因テ其氣孔ヲ填塞シ、顔色ヲ美ニセント、磁  
 油ヲ發明シタルヲ、陶器ノ始メトス、磁油ハ日本ニテ表藥ト唱フモノニテ、  
 西洋ニテ「カラジュール」ト云、沙泥ノ和調ニ、鹹性ヲ加ヘテ、玻璃質ヲ、土器ノ面  
 ニ熔著セシメルナリ、元來沙ハ、硅石ノ粉ニテ、此モノ鹹ニ和シ、熱ヲ加フレ  
 ハ、熔流ス、己ニ第二十是「カラジュール」ノ根元ナリ、但シ鹹ノ硅分ヲ熔スルヲ、  
 八卷ニ出、顧ル烈火ヲ要スルニヨリ、弱キ火度ニテ燒ク陶器ハ、其熔流ヲ要シ難キニ  
 ヨリ、更ニ鉛ヲ以テ加調シテ、熔著ヲ促ス、醜質ノ陶ハ、顔色ノ美ナルモ、此法

ニテ磁油ヲ施シタルユヘニ、往往ニ器用トナシテ、鉛ノ酸化ヲ混シ、人ニ毒  
 スルコトアリ、是等ノ陶ヲ「フアインセ」ト云、西洋一般ニ用フル陶器、我京都焼ノ  
 如キハ、其上品ナルモノナリ、今戸焼ノ如ハ鉛ノ混化、日本ニテ此術ヲ傳ヘ  
 タルハ、元朝鮮國ヨリス、此時マテハ未タ泥土ヲ擇ミ、粹白ノ質ヲナスコトヲ  
 知ラサリシニ、近ク三百五十年前ヨリ、支那ノ傳授ニヨリ、始メテ白磁ヲ焼  
 クコトヲ知リタリ、支那ノ湖南、福建地方ニ「カオリソ」石ノ礦多シ、因テ其地方  
 ニ、此石ヲ以テ白磁ヲ製スルコトヲ發明シ、其磁油ニハ「カオリソ」石ニ加劑ス  
 ルニ、ユス柞樹ノ皮ヲ燒キタル灰ヲ和ス、蓋シ此灰ニハ、天然ニ「ボッタース」及ヒ加  
 耳ルキ其ヲ適宜ニ含ミタルナルヘシ、其術ヲ肥前伊萬里ノ奥、有田ニ傳ヘ、此地  
 ニ「カオリソ」石礦ヲ發見シ、之ヲ開採シテ磁器ヲ製シ出セルヲ、古伊萬里燒  
 トハ謂ナリ、其加劑ノ灰ハ、日向ノ山奥ヨリ燒キ出スヲ用フ、西洋ニテハ、一  
 種「ヘルトスパート」ト云石ヲ堀リテ、之ニ代用ス、此石ハ「カオリソ」石ニ「ボッタ  
 ース」ヲ含ミタルモノニテ「カオリソ」石ノアル地方ニハ、必スアルモノナル  
 ヲシ、日本ニテモ天草島ヨリ出ス「カオリソ」ノ一種ハ、或ハ此質ナルカ「カオ



リンヲ擲泥トナシ、器ヲ製シ燒キタルニ、再ヒ此磁油ヲ塗リテ燒ケハ、其熔  
解ニヨリ、玲瓏洞瑩ノ質ヲナス、猶紙ニ油蠟ヲ點スレハ、洞明ヲナスノ理ノ  
如シ、此等ノ術ニヨリ、稍經驗熟練ヲ要スルモノナリ、白色ノ磁油ニ、彩色ヲ  
ナスハ、色玻璃ヲ作ルト同シ、銅ハ赤色ヲナシ、滿俺<sup>マンガン</sup>ハ紫茄色ヲナシ、「クロリ  
ム」ハ黃色ヲナシ、黃金ハ艷紅色、及ヒ紫色ヲナシ、「コバルト」ハ藍色ヲナス、ミ  
ナ酸化ニヨリテ發色スル所ニテ、其焙煨久シケレハ、色分ハ酸化シテ游離  
スルノ憂アリ、「只」「コバルト」ノ一種ハ、此憂ナキヲ以テ、從來磁油ニ混シテ、染  
付繪ヲナスハ、此藍色ノミヲ用ヒタリ、所謂ル畫燒<sup>ゴス</sup>青トイフモノ是ナリ、此  
金類ハ支那ヨリ輸入ス、西洋ニテハ、薩撒<sup>サツキセン</sup>ノ山中ヨリ製煉シ出ス、之ヲ「コバ  
ルト」ト唱フレヒ、實ハゴスト同質ナリ、但シゴスハ沙ヲ混合セル未製物ナ  
ルノミ、近年黃金或ハ「クロリウム」モ、染付ニ用フルヲ知り、三四ノ色ヲ發セシ  
メルヲ得ルニ至リタレヒ、五彩眩爛ナル畫繪ヲ施スハ、烈火中ニ於テ熔  
成スヘキモノナラサレハ、再度ノ燒ヲ經タル磁器ニ、更ニ各色ヲ彩色シテ、  
又弱キ火度ニテ熔著セシム、之ヲ錦手ト云、故ニ錦手ノ磁樣ハ「ファインセ」

ニモ施スヘキヲ以テ、西洋ニテハ「フアイソセ」ニ錦手ヲナシタルヲ以テ、普通ノ賣品トナス、其顏色ハ美ナリト雖モ、畢竟土器ニ假粧ヲナシタルナリ、英佛、普、薩<sup>サク</sup>撒<sup>キゼン</sup>及ヒ波希米<sup>ボヘミヤ</sup>等ニテハ、磁質ヲ燒成ス、殊ニ英、佛、ノ磁ハ甚タ美ナリ、支那及ヒ古伊萬里ハ、ミナ此磁質ニ錦手ヲナシ、或ハ全ク染付ニテ、無瑕ノ質ヲ最モ嘉尙シ、一器ニテ千弗以上ノ價ヲ有スルニ至ル、陶家ノ工技モ、此ニ至テハ、理術兼全ク、傳神ノ妙ニテ、爛漫タル天真ヲ發スルニアラサレハ、劇賞ヲ世ニ弘メ難シ、西洋ニテ陶家ノ苦心ハ、此ニテ極レリ、西洋ノ畫風ハ、綺縟ノ弊アリテ、韻致ニ乏シ、畫龍ノ一睛、萬綠ノ一紅、其風品ノ脫俗超凡ナルハ、最モ日本人ノ長技タリ、之ニ古樣古色ヲ加ヘテ、能ク時好ニ投合スルハ、美術ノ妙案ナルヲ察知セサルヘカラス、此ニ佛國製陶ノ一斑ヲ記達シオカゾ、

「カオリン」ノ泥ヲ轉捏シテ、餅ノ如クナラシメテ、是ヲ車牀ノ上ニオキ、足ヲ以テ輓轡ヲ蹴リ回シテ、圓規ノ各形ヲ捏シ出シ、海綿<sup>スポンヂ</sup>ヲ濡シテ、其面ヲ勻圓ニス、大抵英ノ「ストック」ニテミル所ト同シ、○薄質ノ磁ヲ捏造スルハ、別法アリ、石膏

西名「ギフス」ト云  
硫酸石灰ナリ

ニテ型摸ヲ作り、陶泥ヲ水ニ解キ、流動スヘカラシメ、是ニ龍

頭ヲ施シタル瓶ニ盛り、型摸ヲ合結シ、泥水ヲ其口ヨリ溢注シ、オク一一分時

ナラスシテ、之ヲ傾ケ出セハ、型面ニ泥土粘著シテ殘留ス、其乾クヲ待ツ、十分

時間ニテ取出セハ、即チ器ヲナシテ、厚薄ミナ平均ス、屈曲ノ小線、喩ヘハ茶碗

ノ柄ノ如キハ、之ヲ實スレハ重キニ過キ、之ヲ小ニスレハ折レ易シ、因テ中空

ナカケスガシ

ノ物ヲ作ル法ヲ工夫セリ、是モ石膏ノ型摸ヲ用フ、其型ニ兩端ヨリ孔ヲ穿チ、

是ヨリ泥水ヲツ、キ入レ、後ニ孔口ヨリ管ヲ堅ク挟ミテ、口ヲ以テ管ヲ吹ケ

ハ、泥水ハ空氣ヨリ推レテ、他ノ管ヲ傳ヘ、迸リ出ツル、再ヒ其口ヨリ、又吹ク

一回ニテ乾カス、十分時ヲ經レハ、即中空ノ器ヲナス、其蟠屈ハ何狀ナルモ、厭

ハサルナリ、此型ヲ用ヒテ捏造セル器ハ、其質密ナリ、難キヲ以テ、空氣ヲ鼓入

シテ、之ヲ壓縮スル方法ヲ行ヒテ、其質ヲ堅密ニスルニヨリ、反テ人手搏捏ニ

マサル、其面ニ磁油所謂ウハクヲ塗リテ玲瓏ナラシム、

本朝ノ肥前ニ製スル所ノ薄手燒ハ、其質堅密ナルヲ以テ、西洋人はヲ劇賞

シ、其術ヲ傳ヘンコトヲ望ム、恨ラクハ其外面ノ粧飾、甚タ野ナルノミ、



陶面ニ雕刻アルモノモ、亦石膏ノ型摸ニ搏捏シタル陶土ヲ打込ミテ之ヲ略  
 成シ而テ後ニ削リテ器ヲナス、乾泥ノ陶ヲ、轆轤ニテ削ルハ、他ノ技ナシ、只其  
 質ノ平均ヲ忖度シテ、繪圖ニ合セテ些ノ異ナカラシムルニ、雙頭缺ミ、彎形ノ  
 定規等ノ器械ヲ備ヘタリ、蓋シ周密ヲ以テ工ヲ善クスルモノナリ、又兩器ヲ  
 合セテ完器トナス、喩ヘハ柄ヲ粘付シ、口ヲ粘付スルカ如キハ、「コム」ノ液ニ和  
 シテ之ヲ縫合ス、泥土ヲ平カニ展ヘルハ、輓韋ヲ敷キテ棒ヲ以テ之ヲ展フ、○  
 陶器ノ初メテ窯ヲ出タルヲ素焼ト云、其面ニ磁油ヲ塗リテ、再ヒ之ヲ焼キテ  
 後ニ玲瓏ノ質ヲナスモノナリ、佛國ニハ、磁油ニ用フル一種ノ礫石ヲ出ス、即  
 チ「ヘルトスパート」ナリ、此石ハ、天然ニ硅酸礬土ト「ポッターズ」トヲ調合シタ  
 ルモノニテ、之ヲ水ニ解キテ陶器ヲ塗レハ、粹白ニテ玲瓏タリ、火度烈ナルモ  
 其白ヲ失ハス、又洞徹色ナキニモ至ラス、此石ヲ解クニハ、木酢ヲ點滲ス、其力  
 ニテ石中ノ渣滓ヲ底ニ沉下セシム、藻縮ヲ磁油ノ内ニ含マシメ、即チ染付ナ  
ルモノ是ナ  
 リ、或ハ磁油ニ和シテ塗ルハ、顔料ニ濃淡ヲナスコナシ、藍色ノ顔料ハ「コバル  
 ト」ヲ用フ、我邦ト同シ、烈火ノ中ニ焙スルニ堪ヘル顔料少シ、故ニ百彩ノ畫ハ、

磁油ノ上面ニ焼付ル、是ヲ錦手ト云ナリ○陶窯ハ圓塔狀ニ築キ起ス、圓徑約六、メートル周圍ニ四箇ノ火門ヲ開ク、其火門ハ約二尺方ノ火口ナリ、此ヨリ火ヲ燒キテ、其熱ヲ窯内ニ送ル、火ハ多ク薪ヲ燒ク、佛ニ石炭饒カナラス故、此窯ハ二階ヨリ三階ニ貫ク、窯ノ中間ヲ煉火石ニテ隔テ、孔ヲ開キテ火氣ヲ上ニ送ル、上層ハ素燒ヲナス、窯トス、陶窯ノ火度ハ、上ニ至リ益緩ナルヲ以テナリ、火度ハ「サンチグラート」ノ千六百度ヲ極トス、尋常ノ陶ハ、火度ヲ寛ニシテ燒成スレト、上好ノ磁器、或ハ染付ノ精品ニ至テハ、白炎以上ノ熱ニ達シ、二日二夜ヨリ、三日二夜ニ至ルモアリ、○磁器ヲ盛ルニ外套アリ、「ストツク」ト類ヲ同クス、後林及ヒ「フロレンス」ニ顏料ハ種々アリ、化學ノ理ニ明カナルモノハ、略其品類ヲ見ル所モ亦同シ、顏料ハ種々アリ、化學ノ理ニ明カナルモノハ、略其品類ヲ知ルヘシ、然レ火度ニヨリテ色ヲ變スルモノ多シ、是ハ經驗ニ非サレハ知リ難シ、顏料ハ「テレピン」ノ油ニテ、解キテ、陶面ニ畫ク、是ヲ燒付ノ窯ニイレテ、緩火度ニテ燒付ル、燒付窯ハ、又別式ニテ、其口ニ四角ナル小窓ヲ開キ、陶ノ細片ヲ造リテ、之ニ各種ノ顏料ヲ抹シテ、火中ノ壺ニイレ、火ヲイレル後ヨリ、毎一時ニ、一片ヲ鐵叉ニテ取り出シテ、其色ヲ查驗ス、金粉ヲ傳ルニハ、和合ノ石

粉ニ和シ、是蓋シ「硅土」「マンガン」「灰珠」「テレピン油」ニ解キテ塗ル、或ハ銅版ニテ  
 紙ニ印シテ、其紙ヲ陶面ニ水ニテ張り、其粉ヲ擦シテ、陶ニ粘合セシメテ、紙ヲ  
 剝キトル法モアリ、金ニ光リヲ發スルハ、石及ヒ瑪瑙、又銅ニテ磨ク、「ストック」  
 ト同シ、○最上層ニハ、萬國ノ陶器ヲ集メテ數房ニ充ツ、歐洲各國、南北亞米利  
 加、印度、南洋群島ノ土器、瓦器、或ハ古代ノ器ヲ掘リ出セルモノ、精産ヲ集メテ  
 ヨナアリ、日本、支那陶ハ、棚ヲ對シテ集蓄ス、其内ニテ支那ノ陶ヲ誤テ日本ニ  
 入レタルアリ、又日本ノ陶器ヲ、支那ニ混セルアリ、因テ爲メニ訂正セシ内ニ、  
 一陶アリ、底ニ大明成化年製ノ文アレト、明カニ日本産ナルヲ、支那ノ部ニ混  
 セルヲ摘出シタレハ、場ノ幹長、落款アリト、其文ヲ示セリ、因テ其落款ハ、日本  
 ニテ漫ニ書スルヲ習ハセナレハ、證トナシ難キヲ陳シケレハ、幹長沈思シ  
 テ曰ク、此藻○續○ノ○様○ハ、此年代マテ○品ニアルナシ、眞ニ然ルヘシト云ヘリ、又  
 支那ニテ刻セル龍ト、日本ニテ刻セル龍トヲ陳列シテ、兩國ノ造ル所、分明ニ  
 形ヲ異ニス、是何ノ故ト問ヘリ、其陶器ニ研究ノ厚キヲ察スルニ足レリ、○  
 此場ハ一千七百三十年ニ創建シ、大抵年年價二萬磅ノ磁器ヲ造リテ、六千磅



ノ利ヲウルト云、國ノ工産ニテ珍寶タルヲ以テ利益ヲ問ハス政府ヨリ保存  
スルト云此此場ノ磁器其精美ニシテ綺麗ナルヲ目ヲ眩スルニ足ル磁板ニ  
極密ノ油繪ヲ寫セルモノヲ額面トナス活動躍如ナリ一器ノ價必ス二千「フ  
ランク」以上ニ及ヘハ即チ精美ノ器ナリ此ニ及ハサルハ色ナキカ如シ一碗  
ノ價モ二百「フランク」ニ及フアリ而テ其一ヲ以テ退テ我邦ノ陶器中ニオカ  
ハ廉價ノモノト雖モ必ス出色ナルヘシ支那日本ノ陶ハ質美ナルヲ以テ勝  
ツ其工ハ迦カニ及ハサレモ己ニ名ヲ海内ニ得テ此場ニテ百方ニ苦心シテ  
模造ス尤モ花鳥ノ繪ト藻緞花紋ヲ賞翫ス人物獸畜ノ繪ヲ取ラサルナリ、

十二日 陰夕ニ雨

十三日 晴

十四日 晴



一月十五日 薄陰

朝十時ヨリ「シヤノア氏案内ニテ蒸氣車ニテ「ヴァエルサイル」ニ赴キ「エコール」サ  
ンシール」ノ陸軍學校ヲ回覽ス、此校ハ元路易十四世ノ代ニ「マンタンオン」后  
ノ建タル婦人學校ナリシヲ、拿破侖第一世ノ時ニ、廣メテ陸軍學校トナシタ  
リ、故ニ此龔内ニハ教堂アリテ、法壇十字架ナトヲ設ケ「マンタンオン」后ノ墓  
モ、其堂ノ側面ニアリ、軍學校中ニ教堂アルハ、只此校ヲミルノミ、

米國ノ宗教ヲ篤信スルモ、海陸軍校ニハ、教僧ヲシテ關係セシメス、故ニ米  
人ノ篤實ナルモノハ、皆曰フ軍學校ハ人氣惡シ、慎テ其風ニ染ムナカレト、  
佛人ノ宗教ヲ信スルニ薄キハ、米ト反對ノ如シ、然レモ此校ニハ、反テ禮拜  
堂ノ設ケアルハ「カドレイキ」教ノ國ナルユヘナルヘシ、佛國ノ學校ハ、多ク  
僧徒ノ手ニアリ、是又古教新教ノ別ナリ、

夫ヨリ劍法ノ壇ニ至ル、劍ノ突衝法ヲ肄ス所ナリ、往年普國トノ戰ニ、佛兵遠



距離ノ戰ニハ、大砲ノ製造劣リテ常ニ敗レ、接戰ニハ劍法ニ熟セル兵卒乏シ  
 クテ、又敗レタルヲ以テ、當時ハ盛ソニ此技ヲ習ハストナソ、劍法ノ狀ハ、略石  
 敬塘カ著ハセル、紀効新書中ノ圖ト一般ニテ、劍ヲ指揮拂撒スルノ様ヲ、一二  
 ノ序ニテ講シ、又韋ニ毛ヲ包メル、面、胴、小手コテヲ著シテ、雙方互ニ唯合アヒヲナス、面  
 ニハ鍔網ヲ施シ、劍ノ鋒ニハ韋球ヲ冑シ、左手ヲ背ニシテ、右手ニテ伸ヒ込ム、  
 講壇ノ上ニ、兩兩相結ヒテ、之ヲ演習ス、聲ヲ揚サルヲ以テ、滿場鬧ナラス、進退  
 躲避ノ少キヲ以テ、多人ヲシテ一時ニ講セシムヘシ、

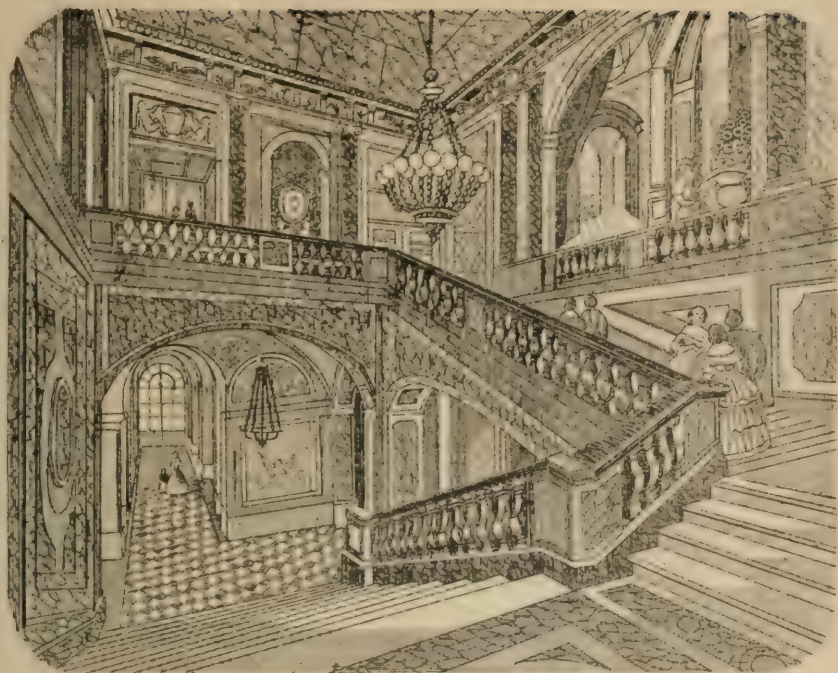
火器ノ發明ヨリ、戰陣束伍ノ法ヲ一變シ、爾來製鐵ノ術、日ニ月ニ進ミテ、三  
 兵ノ法モ、亦從テ變化ス、歐州各國ハ、四疆各勅敵ヲ引受ケ、兵備ノ競勵益盛  
 ソニ、平時ニハ、操練ト器械トノ利否ヲ競較シ、戰鬪起レハ、其勝敗ノ實驗ヲ  
 以テ、更ニ改良ノ法ヲ講ス、兵機ノ事ハ秘密多ク、最モ觀察ニ難シ、此ニ一二  
 ノ記聞ヲ舉載セソ、佛人ノ強兵ヲ以テ鳴リシハ、千八百年ノ比ニ、拿破侖第  
 一世カ、以太利「スリーメー」ノ戰ヨリ、蜂窠布陣ノ法ヲ發明シテ、步兵ヲ編制シ、  
 以テ射程ノ遠クシテ、發射ノ神速ナル、猛威ノ兵器ヲ防キタルニヨル、爾後

各國ニモ益兵器ヲ精ニシ、練兵ヲ勵ミ、其勇氣ハ佛人ニ對抗シテ、敢テ下ヲサルニ至レリ、此峰窠ノ散陣ハ、兵卒カ將士ノ指揮ヲ離レテ猛進シ、不整ニ陷リ、收拾スヘカラサルニ至ル弊アリ、普佛往年ノ戰ハ、佛國ハ兵卒勇シテ、將士ノ劣リタルニヨリ敗レ、普軍ハ將士ノ規律整リタルニヨリ勝タリト云モ、此情實ニ關スルナリ、兩軍相迫リ戰ヒシ時ハ、短兵ノ接戰トナリ、此時ニ銃鎗ノ効用ヲ大ニ著シタリ、「メツ」ノ激戰ニ、兩軍ノ死傷無算ニテ、殊ニ普兵ノ多ク斃レシモ、此等ノ故ニヨレリト、故ニ歐洲ニ於テ、近年劍法ヲ講スルヲ勵ム、短兵ノ利用モ、未タ廢スヘカラサルヲ察スヘシ、騎兵ハ時ニヨリ砲兵ノ助ケヲ用ヒスシテ、突進スヘキ利用アリ、塙國最モ騎兵ニ長ス、一千八百六十六年、普塙ノ戰ニ、普ノ戰略ニテ、騎兵ヲ避ケ、塙ノ長技ヲ用フル所ナカリシニヨリ、一時騎兵ハ己ニ不用ナリトノ論ナリシニ、普國ハ反テ騎兵ヲ精練シ、陰ニ塙國ノ法ヲ摸倣シタリト、普佛ノ戰ニハ、再ヒ騎兵ノ力ヲ著シテ、今ハ益此法ヲ講究スルヲトナレリ、佛國モ塙ノ名將「エーデルンシャイン」氏ノ發明ヲ稱嘆シ、近來ニ此法ヲ實驗シ、採用セント謀ルトナリ、

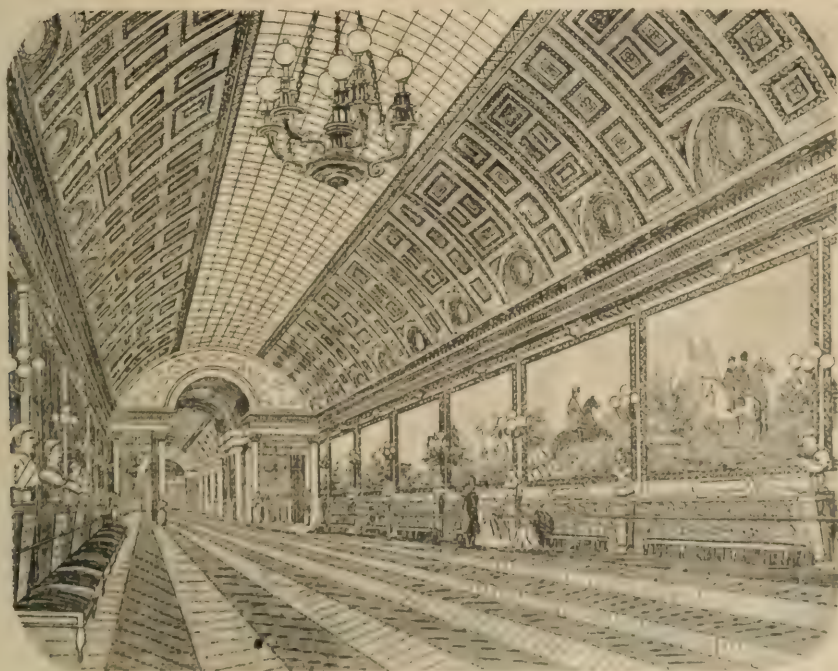
次ニ學寮ニ至ル、生徒ハアラザリキ、佛國ノ形勢ヲ割圖トナシ、白灰土ヲ以テ、其山川凹凸ノ形ヲ摸造シ、每一「メートル」ノ高低ニ、土ヲ高クス、層層トシテ、目ニ國ノ形勢ヲミルヘシ、其外圖引器械多シ、○次ニ開展運動ヲ習ハス、場ニ至ル、高臺ヲ擬作シ、スヘテ三層、此ニ上リテ地上ニ飛下リ、再ヒ走リテ臺ニ上リ、其頂尖ノ抄ニ至ラシム、又繩ヲ垂下シ、之ヲ執ヘテ十餘歩ノ河ヲ飛越スルノ技ヲ示ス、其他繩ヲ攀チ、馬ヲ跳リ越エル等ノ技アリ、○夫ヨリ回覽シテ、彈射場ニ至ル、廐舎ノ一面ヲ、盡ク玻瓈ノ窓トナシテ、其舎中ヨリ窓ヲ開キテ、射梁ニ向ヒ射セシム、寒中ニ手龜スルノ患ヒナカラシムルナリ、○操練場ニハ、銃劍ノ遣ヒ様ヨリ、新兵教練ヲ講ス、七八隊アリ、ミナ新ニ募ラレタル土民ト覺ヘテ、甚タ不熟ナリ、蓋シ生徒ヲシテ業ヲ授ケシムル所ナリ、ミナ藍衣、絳袴、股引ヲ需用ノ草箱ヲ荷ヘリ、○次ニ馬廐ニ至ル、數廐相列ル、馬ヲ豢養スルヲ、西洋ノ最モ長技ナレハ、甚タ肥澤ヲ極ム、其上乗ノアル所ハ、盡ク是驥馱ナリ、然レモ私宅ノ廐ニ比スレハ、尙劣レリ、ミル所ノ馬數モ、百ニ下ラス、每馬ニ名ヲ與ヘルヲ、我邦ニ同シ、此前ノ廐舎中ニ調馬場アリ、廣サ二十「メートル」、長サ







佛國<sup>ロ</sup>ザルサイル宮ノ内景



同畫廊ノ景

六十「メートル」モアリヌヘシ、頓土ヲ以テ地ヲ埋メ、上宇高ク、屋造ハ甚タ美ナ  
ラサレヒ、屋中ニ馬ヲ調スルハ、我邦ノ夢想及ハサル所ナリ、生徒ミナ稽古ノ  
白服ヲ著テ、左右各十餘騎、場ノ兩側ニ並ヒ、遞ニ歩シ、馳シ、驅シ、互ニ入換ル  
アリ、或ハ輪回凡ソ數十ニテ畢ル、其後ニ三馬ヲ繫キ出ス、場内ニ二ノ柱アリ、  
韋ヲ以テ其頭ヲ冒シ包ム、是ニ一馬ヲ繫ク、此馬ハ人ヲ刳落スヲ教ヘ込タ  
ルモノナリ、生徒一名ツ、是ニ乗スレハ、馬即チ力ヲ極メテ刳落サントスル  
ヲ、上ニアリテ乘リシメ、落馬セサルヲ習ス、今日一人モ落タルモノナシ、又二  
馬ニ長キ綱ヲ繫キテ、馬奴ニトラシメ、場中ヲ輪狀ニ驅馳セシム、生徒一名ツ  
ツ、是ヲ逐ヒ、乍チ上リ、乍チ臥シ、乍チ横タハリ、乍チ下リ、後ヨリ飛上リ、前ヨリ  
上ル等ノ技ヲ習熟ス、此校ハ、屋造高大ニテ、場域甚タ廣ク、連隊ノ訓練ヲナス  
ヘシ、校中ヲ周回シ、生徒ノ寮寮寢席ノ設ケ等マテ一覽シテ歸ル、

○歸路ニ「ヴェルサイル」ノ宮中ヲ一覽ス、「ヴェルサイル」宮ハ、當時佛國ノ大政府ヲ設  
ケタル「凡」ニ前ニ詳ラカナリ、此處古ハ佛王ノ小宮アリテ、遊衍ノ地トセシ  
ニ、一千六百六十一年、路易第十四世、此ニ宮殿ヲ造營シ、十一ケ年ノ工作ヲ費

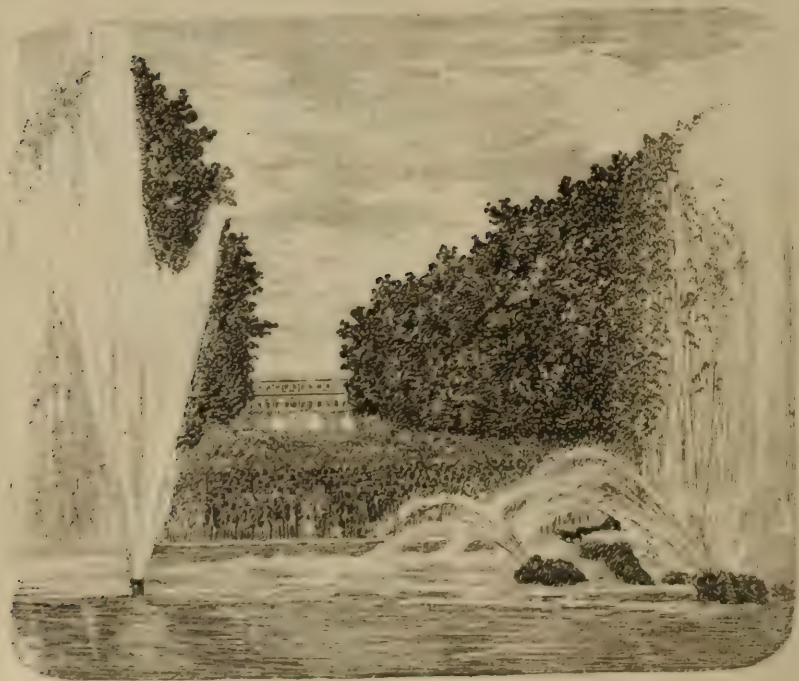


シテ八十一年ニ其工ヲ竣メ「サンゼルマン」ヨリ、都ヲ此ニ移セリ、營造ノ費、ス  
 ヘテ十億萬「フランク」ヲ用ヒタリ、其魏傑宏麗ナル、水石ノ設ケ、林泉ノ致、十分  
 ノ恢濶ヲ極メタル「歐羅巴洲」中ニ其比ヲミサル大宮殿ナリ、此宮ノ盛時ニ  
 當リテハ、全府ノ人口十五萬ニモ及ヒタリキ、路易第十六世モ、國亂ニ逢フマ  
 テハ、此宮ニアリシカ、遂ニ幽囚ノ後ニ弑セラレ、其時ニ此宮ヲ毀タント、議論  
 起リタレトモ、拿破侖第一世之ヲ止メテ、竟ニ保存スルヲ得タリ、拿破侖ノ在位  
 ノ中、之ヲ盛ンニ修メルノ志ナリシニ、折節露國莫斯科ノ破レニ際會シテ、其  
 志ヲ果サス、路易非立ノ代ニ至リテ、其修繕ヲナセリ、此宮ハ小高キ夾壇ノ地  
 形ヲ占メテ起ル、巴黎ヨリ「ヴェルサイル」ニ至ル驛口ヨリ、地勢自然ニ起ル、此ニ  
 一條ノ廣衢ヲ、直線ニ開ク十數町、左右ニ樹ヲ植エテ、一望叢然タリ、夏ハ綠陰  
 清嵐ヲ帶ヒ、夜ハ瓦斯燈星珠ヲ點ス、限リナキノ勝致アリ、街極リテ門庭アリ、  
 滿地ノ甃石砥ノ如ク、濶然タル廣庭ニテ、層層ニ級ヲ逐テ高ク、高處ニ路易十  
 四世ノ騎馬像アリ、左右ニ宰相「リセリュウ」「ルーボア」等ヲ始メ、名臣賢將ノ像ヲ  
 列テ、宮闈之ヲ抱擁シテ起ル、○宮ノ内部ハ、室房甚多ク、一兩日ノ觀盡ス所ニ

ウ  
ル  
サ  
イ  
ル  
宮  
殿



同  
宮  
ノ  
苑  
跳  
水  
ノ  
景







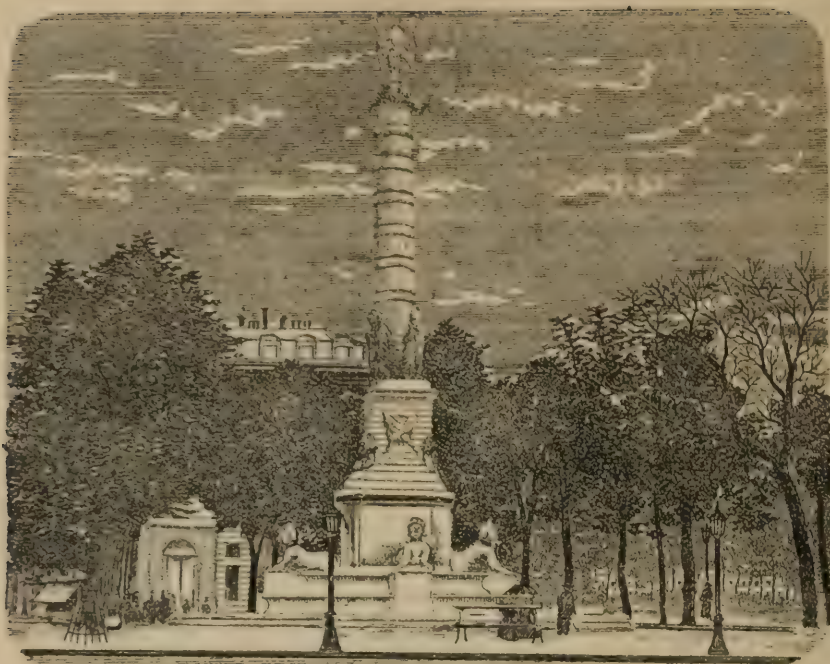
非ス、故王ノ居寢ニハ、其時ノ服御寢席ヲ、其儘ニシテ飾リ付ケ、莊嚴ヲ加フ、美  
ヲ盡シ精ヲ盡シ、雕績滿眼ニテ、金珠ノ光リ目ヲ眩ス、一廣廊中ニハ、佛國戰捷  
ニカ、ル圖ヲ扁額トシテ、數十歩ノ樓上ヲ挾ミ飾ル、其下層ニハ、歷代王族、名  
臣、賢相、雄將、博士ノ石像ヲ羅列シ、大石階ヲ以テ樓上ニツ、ル、宮ノ後面ハ廣  
苑アリ、其大堺域ヲ舉レハ、五方英里ニモ及フ、宮ヨリ正面ニアタリ、水石ノ勝  
ヲ設ケ、庭モ亦層層ニテ下リ、遙ニ數十町ヲ極メテ猶盡キス、綠樹ノ烟ヲ吹テ  
雲ニ際スルノミ、高層ニ圓地アリ、白石ヲ以テ甃シテ、中ニ石像ヲ建テ、噴水ノ  
管ヲ施ス、其次層ニモ亦池アリ、最モ下層ニハ、方塘ヲ鏡ノ如クニ澹<sup>ヌ</sup>ヘテ、遙ニ  
空ニ際シ、左右ノ茂林、之ニ影ヲ涵ス、林樹ヲ植ルニ法アリ、或ハ規ニ合シ、或ハ  
矩ニ叶ヒ、井井トシテ整ヒ、又錯綜シ亂ル、亦一日二日ノ盡ス所ニアラサルナ  
リ、○右ハ、石ノ廣階、兩道ヲ分ツテ下リ、裏門ニ出ル、此仄立ノ崖ニ、石ヲ疊ミ柱  
ヲ支ヘテ、地下ヲ以テ室宇トナス、上面ニハ、甃池水ヲタ、ヘ、草花爛熳タリ、其  
前ハ高爽ノ室宇アリテ、高堂大房ヲ分ツ、此建築ノ絶倫ナル、亦世ニ其類ヲミ  
スト云、左ハ亦園庭アリ、今日ハ其一斑ヲ見ルニモ及ハス、英國ノ水晶宮、或ハ

之ニ比較スヘシ、彼ハ綺麗ヲ以テ勝ツ、是ハ壯大ヲ以テ勝ツ、皆大國ノ美觀ナ  
 レ、其力量ヲ角セハ、遂ニ一頭地ヲ出スヘシ、○此宮ハ一千八百七十一年ニ、  
 普軍巴黎ヲ圍ミシ、以テ本陳トナシ、「ガロリー」デ、グラス<sup>謂ナリ</sup>ニ於テ、獨  
 逸列國ノ君、普王維廉ヲ日耳曼ノ「カイヅル」ニ勸進シタリ、又圍庭ノ池ヘ盛  
 ニ跳水ノ觀ヲナシタリト、

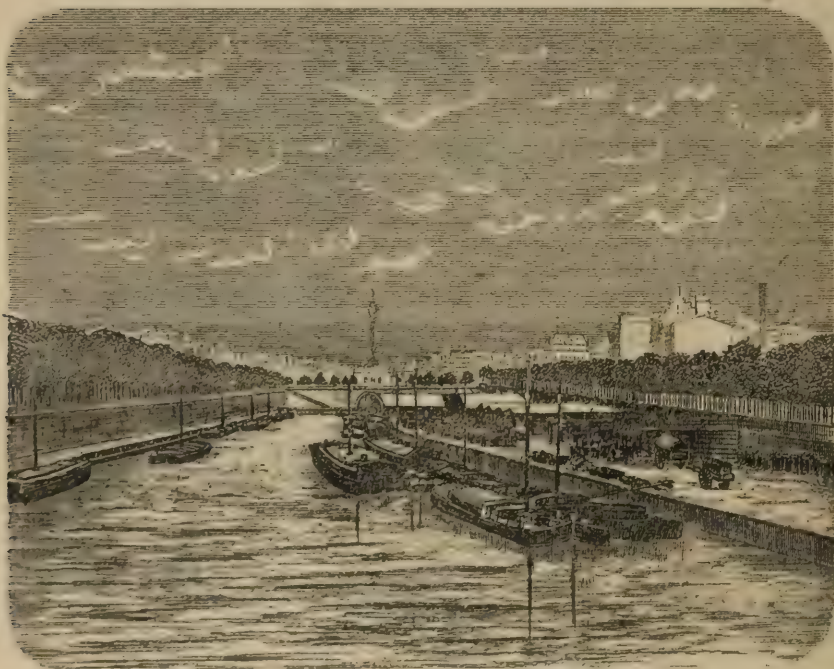
十六日 薄陰

午後ニ、巴黎府中ノ下水隧道ヲミル、亦巴黎ノ壯觀中ノ一タリ、其隧道ハ、地底  
 ハ「メートル」ノ底ヲ回ル、大溝、中溝、小溝アリ、又細支アリ、各街ヨリ溪ヲナシテ  
 下リ來リテ小溝ニ入ル、小溝ノ幅ハ中溝ニ同シケレ、左右ノ人道狹キノミ、  
 中溝ノ幅一「メートル」半モアルヘシ、深サ四尺、左右ニ道アリ、ミナ灰土ヲ鞏固  
 シ、石ヲ以テ砌トシ、底トス、周圍ノ字ハ、大ナル弧形ノ洞ナリ、高サ一身有半ニ  
 テ、灰土ヲ塗り、上水ノ管、及ヒ電線ヲ此ニ結架シテ、隧中ニ徧ネシ、○大溝ハ、即  
 チ諸溝ノ下水ノ滙スル所ニテ、幅一丈一尺、其深サハ中溝ニ同シ、滔滔トシテ  
 流レ去ル、常ニ人夫五百二十人ヲイレテ、其底ノ芥ヲサテヘテ、流レヲ壅塞セ

巴黎セイン河岸ノ遊苑  
此コリ下水ノ  
施ニ下リ入ルノ



同運河岸ノ眺望







サラシム、ミナ機械アリ、中小ノ二溝ハ、車頭ニ孔ヲ穿テル板ヲ横へ、是ヲ水底ニ下シテ流ヲ塞キ、水ハ孔ヨリ逆リ出テ、芥ハ板ニサ、ヘテ留ラシメ、二人アリ、鍬鉤ヲ以テ、水中ヲ搔攪シ、而テ進ミ、而テ退キ、芥ヲ放解シ流スノミ、大溝ニハ船ヲ浮ヘテ濬ユ、其工ハ略車ノ理ニ同シ、○溝ノ兩厓ハミナ石ヲ疊ミ、上ニ鍬軌ヲ敷キテ車ヲ行ル、車ハ人力車ナリ、此日二車ヲ以テ、我一行ヲ載セ、中溝ヨリ小溝ヲ回リテ、遂ニ大溝ニ出テ、船ニ上リ、百餘歩ヲ下リテ、而テ出ツ、下水ニ糞便ノ臭ナシト雖モ、萬汚ノ聚ル所ニテ、自ラ穢氣アリ、久シク隧中ニ在リ難シ、洞ヲ出ルモニハ、皆人ノ膚、血色ナカリキ、○佛國ニ雨少シ、然モ雨水流ルハ、モハ、水勢遽ニ増加シテ、人ノ脛ヲ沒スルニ至ル、驟雨暴ニ至ル際ニハ、隧中陰晴ヲ分タス、水ノ遽ニ増加スルヲミテ出レハ、軸ヲ碎ク雨中ナリト、○此水道ハ一千八百五十年、拿破侖三世ノ勅意ニテ、七千五百萬「フランク」ノ金ヲ費シ、鑿成セリ、此隧道ノ中ニ落込ム、府中雜物ヲ混シタル汚水、日ニ總テ一億「メートル」立方ヲ收メテ、之ヲ府ヲ離ル、約七英里「アニヤ村」トイフ處ニ至ラシメ、近傍村里ノ耕作肥料トナシ、剩餘ハ「セイソ」河ニ注入スルト云、

倫敦府ノ下水ハ、綠威向岸ノ地マテ、樋ヲ傳ヘ來リタルヲ、地底ノ池ニ窖藏  
 シ、退汝ニテ達迷斯河ニ送り出、己ニ四十卷ニ記ス嚮ニ此地ヲ回り、此話ヲキ、頗ル  
 疑フ、英國ノ地ハ肥腴トセス、勸農ノ業ハ務メサルトセス、年年秘魯ペリウノ海鳥  
 ノ糞二千萬噸ヲ輸入シ、其價ハ秘國貨幣七百六十「ピアステル」ヲ費スト、然ル  
 ニ全京雜汚ノ糞水ヲ退汝ニ付スルハ何ツヤ、今佛國ニ來リ、此下水隧道ノ  
 設ケヲミルニ、地下ニ落ル水ハ、全ク汚水ノミニテ、糞矢ハ未タ樋ニ落サル  
 以前ニ、役半車ニテ田舎ニ運フトナリ、又下水道ハ、府内ノ汚穢ヲ漏洩シテ、  
 健康ヲ理シ、而テ其水ヲ村里ノ肥料ニ灌瀉スル、ミナ腐ヲ化シテ靈ニ反ス  
 ノ道ト云ヘシ、農學家ノ說ニヨレハ、英國ニ於テモ、市街ノ周圍ニ、汚水ヲ貯  
 フ所ヲ設ケ、牧野ニ沃キ易カラシムトナリ、然則綠威ノ下流ニテ見タル所  
 ノ汚水池ハ、其殘剩ヲ引落スノ設ケニスキサルナリ、佛國ノ農業ハ、堆糞ヲ  
 家家ニテ造ル、佛國ヘ海鳥糞ノ輸入ハ、殆ト獨逸ニ倍スレト、英國ニ比スレ  
 ハ一半ニスキストナリ、



十一時ヨリ馬車ニ駕シテ、府ノ西鄙外ナル「モンワレヤン」ノ砲臺ニ至ル、此ハ凱旋門ヨリ約二英里許ノ西ニアリテ、突兀ノ岡上ヲ占メテ築キ起ス、路易非立王ノ<sub>ル</sub>ニ成リタルモノニテ、巴黎周圍ノ要害ニ於テ、最モ肝要ナル地形ヲ占メ、其備ヘ嚴重ナル<sub>ル</sub>、名高キ砲臺ナリ、去ル七十一年ニ、普國ト媾和ノ議ヲハシメシ<sub>ル</sub>、普ノ執政「ビスマルク氏カ、此山ヲ普國ニ渡サハ、和議ヲト、ノフヘシトテ、和議ヲ拒ミシモノナリ、○此岡ノ地形ハ、漫坡ニテ漸ヲ以テ特起シ、遠望ノ美ナル、富嶽ヲ鋸シテ、其裾野<sub>ス</sub>ヲノミ存セルニ譬フヘシ、其頂上ノ平面ニ、砲臺ヲ設ク、此岡ノ位置ハ、正南「サンクルウ」ニ臨ミ、正西ニ「サンゼルマン」ニ望ミ、西南ハ則チ「ヴェルサイル」ト相距ル<sub>ル</sub>九千「メートル」、北ハ平原相連リテ坡陀タリ、東ヨリ東南ニ、巴黎ノ市塵ヲ湧起シ、岡ハ甚タ高カラサレ<sub>ル</sub>、特ニ超然トシテ、巴黎ノ近郊ニ抽ツ、實ニ形勝ヲ得タリ、○往年普國ノ軍「ヴェルサイル」ヲ本陣トシテ、巴黎ヲ圍ミシ<sub>ル</sub>、此ト遠ク九千「メートル」ヲ距テ<sub>我二里半ナリ</sub>相射ル、砲彈ノ達セル<sub>ル</sub>モアリキ、然レ<sub>ル</sub>此時ニハ格別ノ大功ハアラザリキ、和陸後ニ佛ノ政府ヲ「ヴェルサイル」ニ遷シ、巴黎府ニ「コムミュン」黨ノ暴發セシ<sub>ル</sub>、此砲臺ハ

政府ノ藩屏トナリテ、大ニ功ヲ奏シタリ、○此岡ト巴黎ノ外郭トノ外ニ「セイ  
ン河アリ流レ、一揆ノ兵隊、河ヲ渡リテ十字ノ辻ニ至ル、此堡ヨリ兵ヲ出シ  
テ、其「ザエルサイル」ヘ赴ク路ヲ遮リテ烈戰シ、此岡ノ麓ニテ、多少ノ賊軍ヲ惱シ  
タリト、堡ヲ守ル」セネラール」指點シテ物語レリ、

此處ノ屯兵所ハ、甚タ宏壯ナラス、戍兵ハ常ニ一千五百人ヲ備フ、營前ニ大砲  
百二十門、砲車約五百ヲ蓄ヘタリ、先年敗軍ノ後ニテ、古製ノ砲多ク、新奇ノ雄  
砲ハ多クアラサリケリ、武庫ノ中ニ「シヤスポー銃六萬挺ヲ蓄フ、此銃ハ普ト  
戰爭以前ヨリノ軍用銃ニテ、里昂<sup>リヨン</sup>其他ノ都府、四ヶ所ニ製作所アリテ、一口ニ  
一千挺ヲ造リ出セシニ、今廢シタレハ、其價下落シテ、一挺五「フランク」ニ至ル、  
製作ハヤミタリ、○「パトロソ」ハ、黃色ノ厚紙ニテ製ス、此紙ハ韌ニシテ燒ケ易  
キヲ主トシテ製ス、一彈ニ二十四「キロカラム」ヲ裝フ、「パトロソ」ヲ多ク藏セリ  
○堡ノ北面ニ「アメリカ新發明ノ砲身ヘ、佛ニテ後裝機關ヲ工夫シ、製成セシ  
大砲ヲ備フ、是ハ頗ル利用ヲ著シタル砲ナリ、此處ノ石面ニ、普軍ヨリ、射彈セ  
ル、砲丸ノ痕ニアリ、此砲丸ハ三千五百「キロカラム」ノ藥ニテ打シモノニテア

リシト、又「ザエルサイル邊ニハ、巴黎ヨリノ彈ノ達セシ痕アリト、九千「メートル」ヲ隔テ、相射ルトハ、誇大ノ言ニ非ルナリ、

砲兵ハ步兵ヲ助ケ、輕重互ニ相待テ、敵ニ猛銳ナル勢力ヲ與フルモノナルハ、固リ論ヲ待ス、此砲兵ノ野戰砲ニ於テハ、西洋各國ハ、全ク鋼製ノ後裝式ニ改革シ、銅製、鑄製ハ、己ニ廢物ニ屬シタリト想像セシニ、左ニモアラス、己ニ英國新城府ニテ、「アルムストロンク氏」ノ口頭ヨリ、親シク聞シモ、英ノ巴<sup>バイ</sup>力門<sup>レメント</sup>ニ於テハ、未タ巨砲ニ後裝ヲ用フルヲ許サ、ルトナリ、今此「モンワレヤン」ノ武庫中ニ、銅製、鑄製ノ、大砲ヲ多クミル、想フニ是マテ軍備ニ實用セシナルヘシ、(後露國ニテモ、小砲ニハ新製ノ銅製砲ヲ多クミタリ)聞ク銅砲ノ射力、及ヒ距離ハ、鋼製ニ讓ルヲナシ、只堅牢ヲ讓ルノミ、然レ鑄造ニ易ク、一鋼砲ノ時間ニ、三砲ヲ製スヘシ、今佛國ハ急成ヲ要スルニヨリ、此等ノ古砲ヲ重鑄シテ、再ヒ軍用トナシ、三分ノ二ハ銅砲ヲ用ヒル目的ナリト、佛國ノ製造所ニ於テ、新發明ノ砲式、及ヒ鋼砲ノ製造ニ注意シテ、普國ノ「クルッ

プ砲ヲ壓倒セソ」ヲ謀ルト、普國ハ往年ノ戰捷後ニ、益改心アルモ亦故ア



屯兵ノ庵舎ハ、甚タ麤糙ナリ、大抵木製ノ低屋ニテ、兩側ニ微斜ナル床ヲ張リ、此ニ寢床ヲモ置ス。「フランクット」ヲ茵トシテ臥セシム、此側ニ焚出シ小屋アリ、「スーフ」ヲ煎ル釜、只四アリ、圓經尺五寸ニ、高尺二寸、四釜ニテ全營ノ人ニ食セシムルニ足ル、肉脂ニ番薯、人參ナトヲ切込ミ、煎調シテ、一人、鍍錫鍍盃一杯ツツヲ與ヘテ、麪包ヲ食セシム、是平日ノ兵食ナリ、西洋ノ平食ニ飲料少キヲ以易ナ麪包ヲ煉ル、一場ノ製作所アリ、此ハ堡中ノ兵ニ食セシムルノミニアラス、巴黎ノ總名ニ食セシムル製造場ノ一ナレハ、頗ル大ナリ、凡ソ麪包ヲ煉ルニハ、二階ヨリ穴ヲ穿ツテ、其底ヨリ布索ヲ低レ、上ヨリ麥粉ヲ傾ケイルレハ、索ヨリ下リ落ルコ、花粉擲盤ニ受ケテ、其量ニ充ツトキニ、索口ヲ括シテ前ニサシオキ、麥粉ニ水ヲ注灌シテ、之ヲ攪セ、餅ヲナシタル後ニ、幾回モ力ヲ極メテ、之ヲ擲シテ上ニ擡ケ、力ヲ加ヘテ、盤ニ擲ツ、數回ナリ、是麪ノ麩筋、即チ膠質ヲ發セシメル所ナリ、其後之ヲ平キ方形ニ捏シテ、傍ナル鑪口ヲ開キ、其中ニイレテ焙ス、鑪ハ磚瓦ヲタ、ミテ築キ、數十口ヲ開キ、徒テ焙シ、徒テ出ス

ヘシ、火度ハ、砂糖ヲ和セヌ麵包ハ、三四百度ニ上ルヘシ、英國ノ第四十卷中ノ「ウレツチン邑」ノ記ヲミ  
此一塊ヲ以テ、二日ノ食ニアツルト云、

航米以來ハ、麪包ヲ常食トシタレトモ、其製造ヲミタルコトハ、前後只此處ニテ  
一アルノミ、麪包ハ貴賤ニ通シタル常食ナレハ、其製作モ、上下ノ差等ニ數  
數アリ、又米英ト佛ト獨逸ト、各名産アリテ、其製ヲ異ニス、大抵英米ニテハ、  
食ニ臨ミ截リテ、人人ニ配ル、此堡ニテ製スルモノモ、亦其部分ナリ、佛國貴  
人ノ食案ニハ、搏捏シテ一握大ニ、長サ五六寸ナル餅ヲ造リ、其質粹白ナル  
ヲ供ス、獨逸ハ團圓トシテ饅頭形ナルニ、胡麻ナトヲ撒シタルヲ、貴人ノ案  
ニ上ス、ミナ最上品ナリ、露瑞噠塊麪包ヲ製スルハ、小麥ノ花粉ヲ用フ、他ノ  
麥ニテ製セルハ、別種ノ麪包ナリ、此花粉ハ米歐上下ニ通スル常食品ナレ  
ハ、其製造場ハ、各郡邑ニ大小數十百場アルコト、我米搗キ所アルカ如シ、或ハ  
水力ヲ用ヒ、或ハ風車ヲ用ヒ、己ヲ得サレハ蒸氣器械ヲ設ケ、米國ノ郡村ニ  
テハ、盛大ナル花粉ノ製造所ヲ、處處ニ設ケタリ、白耳義ハ小麥ニ不足ノ國  
ナレハ、輸入ノ小麥ヲ花粉トナシテ輸出シ、利益ヲ得ル、ホソカリ加利ハ、歐洲ノ農

野ナレハ、水車、風車ニテ花粉ヲ製スル場甚タ多ク、填國ヨリ佛國ニ輸入シ、  
 民食トナル、麥ヲ耕作スル國ハ、花粉製造ヲ興サ、ルヘカラス、其器械ハ務  
 メテ費用ヲ省減スルヲ計ラサレハ、利益ナカルヘシ、花粉ノ剩餘ハ、牛馬  
 ヲ飼秣スヘシ、日本ノ常食ハ、稻米ニアルヲ以テ、麥ニ良種乏シク、并セテ耕  
 作麤雜ナリ、且花粉ヲ製スルニモ拙ナリ、西洋ノ花粉ハ、麥粒ヲ乾燥シ、水分  
 ヲサリテ磨礱セルヲ以テ、袋ニ盛リ、久シキヲ經テ霉敗スルヲナシ、日本ニ  
 テハ水ニ濡シ磨礱セルヲ以テ、乍チ霉敗ス、是器械ノ力弱キヲ以テ、其挫碎  
 シ易キヲ貪ルニ出ル、愚民習慣シテ悟ラス、或ハ謂フ麥粉ヲ用フルニハ、其  
 質元濕ヒタルヲ挽ケハ、麩筋ヲ發スルニ宜シ、燥粉ニハ麩筋ニ乏シト、是大  
 ナル惡癖ナリ、抑日本ノ農産、ミナ遠輸ノ利益ヲハカルモノナキニヨリ、一  
 モ輸出トナルモノナシ、農産遠輸セサレハ、國利興ルニヨシナシ、且麥ハ穀  
 物中第一ニ貴用セラル、モノナリ、日本ノ民ハ、稻ニ偏ナルヲ以テ、燥田ハ  
 ミナ不墾ニ委シ、遠輸運送ヲ務メサルヲ以テ、貴重ノ水力ヲ僅僅ノ稻田ニ  
 飛灑ス、此兩弊ハ貧弱ノ大根本ナルヘシ、農耕ノ産ハ、食品ニ止ラサレモ、稻



田ノ業ヨリ、麥田ニ赴クハ、順序ニ於テ最モ近ケレハ、麥田ヲ廣メ、花粉ヲ製スルハ、當今緊切ナル經濟ノ端ナルヘシ、

此堡ニテ軍兵ノ的打ヲミル、距離百「メートル」ニテ射ル、的中少ク、又新募ノ土兵ナレハ、往往ニ目ヲ塞キテ射ルアリ、銃口下ニ突込ムアリ、固リ稱スルニ足ラス、此射梁ニテ奇ナルハ、矢廻リノモノ、爲メニ、的ノ下ニ深キ孔ヲ堀リ、其孔ニ伏セシメ、玉來ルヲミテ、即チ起テハ、首僅ニ孔ヲ出ルニスキス、麾ヲ以テ中リノ處ヲ示ス、危險ニ似タレトモ最モ平安ナリ、

## 十八日 陰

十時ヨリ、馬車ニテ東方ノ郭外ナル「ワンセーヌ」城ノ兵營ニ至ル、

「ワンセーヌ」城ハ「チャールス」第五ノ時ニ築造セル城ニテ、高サ五十四「メートル」ノ高櫓アリ、盡ク石ヲ以テ築キ起ス、石階二百六十級ニテ、上頂ニ達スヘシ、此ヨリ一望スレハ、巴黎府ヲ隔テ、「モンワレヤン」ノ砲臺ト正ニ相對ス、巴黎東方ノ一要害ナリ、先年普軍圍攻ノキ、此城ト全ク相射ルコトナク、此城ノ西ナル、岡上ノ壘ト相射シヲ以テ、獨リ完存スルヲ得タリトナシ、○此城ハ、路易十四

世ノ代ニ兵學校トセシヨリ以來、今ニ相仍ル、城内ニ兵三百人、内士官六十人ヲ屯セシムルニスキス、城外ニハ平野曠濶ナリ、其所ニ一萬二千人ノ兵ヲ屯シ、此城ヨリ其調度ヲナス、其食ヲ製スルハ「モンワレヤン」疊ト相同シ、○城中ニ武庫アリ、四萬五千ノ小銃、五六千ノ短筒ヲ藏ス、又普ト戰フハ陰ニ米國ヨリ買入クル「レミント」銃モ藏セリ、大砲ヲ蓄ヘタル數モ亦多シ、此ニ蓄ヘタル砲ハ、「モンワレヤン」ヨリ精美ナルモノヲ多クミル、其中ニテ高名ナルハ「クライユル」砲ナリ、「クライユル」砲ハ、砲身ニ銃孔ヲ穿ツ、五五二十五、正方形ニ並フ、砲後ニ經三寸計ナル、同位ニ孔ヲ穿テル銅面アリ、是ニ「パトロソ」ヲ填シテ、砲後ニ押入レテ、螺旋ノ輪ニテ轉發ス、緩ナレハ連發シ、急ナレハ齊シク發シ、此砲ハ普軍ト戰ヒシハ、多少ノ敵ヲ殺セリトナシ、然レ遠距離ニ達セサルヲ以テ、勝敗ニ益ナカリキ、

西洋各國ノ交際禮ハ、チノロマチツク陽ニ親睦公年ヲ表スルモ、陰ハ常ニ權詭相猜ス、一旦不虞アルニ臨メハ、局外中立ノ義ヲ立ルモ、亦只陽面ノミ、米國ニアルハ、我馬關償金ノ件ヲ、華盛頓府ノ上院ニテ議セルヲキクニ、其南北戰爭ノ際ニ

アメリ、歐洲ノ強國、陰ニ南方ヲ唆動シ、或ハ裂地ヲ圖リシトヲ、某州ノ元老ノ發言中ニ枚舉セリ、英國「アラバマ船」ノ疑議ハ、其破綻ノ一ナリ、今此「ワンセー」城ニ觀レハ、米國ヨリ買入ヲ、普軍ニ抗セル戎器アリ、皆中立ノ恃ニ足ラサル明徴ナリ、露國「セハステポール」ノ戰爭ハ、英佛合従スルト云モ、實ハ佛其中ニオリ、陽ハ英ニ結ヒ、陰ハ露ヲ援ケタリト、歐洲兵機ノ權謀ハ、詭譎百端ナリ、當時佛、日、露、墮、皆全國皆兵ノ法制ヲ立テ、邊ニハ戊隊ヲ森羅シテ不虞ヲ警ス、白、蘭、墮、瑞士ノ小國ハ、蝟猪ノ毛ヲ張ルカ如クニ、國ヲ堅ム、公法ヲ締約シテ、和平ヲ持シ、國勢ヲ平均シタルモ、曾テ胃紐ヲ緩スルヲ得ス、嗚呼、是各國ノ氣ヲ張り志ヲ厲シ、駸駸富強ニ競進スル所以カ、

OL「ワンセー」城ノ外ニ、十餘町ヲ隔テ、「ヂューナスチック」ノ教練スル場アリ、  
「ヂューナスチック」ハ開展運動術ト譯スルモノニ、校ニ樓門アリ、高サ四層、前ニ乾壕アリ、  
テスヘテ手足ノ運動我柔術ノ如シ、校ニ樓門アリ、高サ四層、前ニ乾壕アリ、  
深サ八尺、刎橋ヲ設ケテ門ニ入ル、門庭甚タ廣シ、此ニ運動ノ稽古ヲナス、生徒  
三百餘人ヲ立シム、白布ノ衣ヲ著テ、各前後ニ距離ヲトリテ羅列ス、手ヲ揚ケ  
足ヲ刎ル等、スヘテ十餘則ノ教練ヲナス、夫ヨリ場合ノ内ニテ、棒ヲ攀チ繩ヲ



攀チ或ハ跳下シ、或ハ跳上シ、乍チ下リ、乍チ躲避シ、横トナク、縦トナク、指力腕力ニテ、木架懸繩ニ立ッ術ヲ習ハシム、又板壁ニ切形アルヲ手攀リテ、之ニ上リ、或ハ懸繩ヲ執ヘテ、走リカ、リニ、傾斜急ナル板ヲ階トシテ上ル術ヲ講ス、○再ヒ場ニ出テ、劍法、蹴足、拳法ヲ習ハシ、獨木ノ橋ヲ走リ、渡リ、垣牆ヲ飛越エ、壁上ヲ上ルノ術ヲ習ハシ、乾壕ノ中ニ入りテ、樓屋ヘ上リ、窓格ヨリ入ル等、百般ノ健捷術ヲ肄ハスヲミル、○夫ヨリ前ナル廣場ノ内ニテ、壕ヲ飛越エ、丘阜ヲ跳越スルノ術ヲ習ス、一回ヲ見ル、

○此邊ノ廣場ニテ、兵屯ヲ設ケ、一萬二千人ノ兵ヲ屯セシム、解舍二百餘アリ、ミナ長サ二十餘間ニ、幅五間餘、ミナ木製ノ假屋ニテ、僅ニ風雨ヲ防クニ足ルノミ、其假屋ノ内ニ、士官ノ營モアリ、板ヲ張リテ床トナシ、壁トナシ、榻案モ松板ヲ以テ、假ニ造レルモノナリ、只玻窓一口ツ、ヲ開キ、看書作字ヲナスヘカラシム、卒ノ屯所ハ「モンワレヤン」ニ同シ、一隊一解ヲ分チテ、二人駢寢スルニ足ルノミ、士官ノ營ニ、一ノ食堂アリ、瓶盂刀匕ヲ具フ、將士導キ示シ、午餐ヲ望マハ、此ニテ營中ノ食ヲ供シテ、會喫セント云ヘリ、其意氣壯厲ナル、甚タ人意ヲ

快クス、巴黎ノ峻宇雕壁ヲ出テ、此板舎艸席ニ坐ス、佛人嘗瞻ノ志ヲ思想スレハ、慨然トシテ涙出ツ、是ニアラスンハ、佛國ノ佛國タルヲ保ツヲ得ンヤ、他ノ列國ニ觀ルニ、兵營壯麗ニシテ、銃器精銳ナレト、猶太平ノ劇タルヲ免レス、

○軍病院 ハ「ワソセー」ン城ヨリ、巴黎府ニ入ル、郭門ノ邊ニアリ、屋造宏大ニテ、高サ五階、中ニ廣庭ヲ包ミテ、横縦各六十間許、室ヲ分ツテ病人ヲイル、一室ニ四十ノ寢床ヲ安ソス、全院ニ二百人ヲイル、藥劑店ノ室、臺所、洗濯所、浴湯所、ミナ廣大ナリ、病房ニハ、ミナ耶蘇磔刑ノ圖ヲカ、ケ、看病婦人（所謂ル「ノソ」ナルモノ）ニテ看護ス、「カドレイキ」教國ノ風俗ナリ、又男看病人モアリ、





第四十六卷 巴黎府ノ記五

一月十九日 陰リ夕ヨリ雨フリ風烈ナリ

午前九時ヨリ、蒸氣車ニテ「フォンテンブロー」ノ王宮ニ赴ク「フォンテンブロー」邑ハ、巴黎ヨリ東北三十六英里四分ノ三ニアリ、里昂リヨン馬耳塞府マルセルヘ赴ク鐵路ニカ  
ル、此沿途ハミナ平野ニテ、村村ノ民、耕種ヲ勉メ、且此邊ノ土壤ハ、佛國中ニ  
テ、最上ノ肥壤ナリト云、巴黎近傍ノ野ヲミルニ、英國ノ野ヨリハ、耕作ノ法、周  
密ナルヲ覺フ、麥田アリ、菜畦アリ、畔ニ樹ヲウエ、枝ヲ芟テ薪トナシ、蘗芽ヲ長  
セシム、水岸ニハ楊樹ヲウエ、其炭ヲ以テ火藥ヲ製ス、鋤犂ヲ牛ニ服セシメテ  
耕スモノモアリ、菜蔬ノ畦ニハ、玻璃盂ヲ覆燾シ、累累層層トシテ、畝ニ盈ツ、風  
ヲ避ケ温ヲ蓄ヘ、日光ヲ障遮シメサル工夫ナリ、玻璃ノ質ハ、微青色ヲ帶フ、雜  
品ナリ、肥料ハ堆糞ニ和シタル培壤ヲ用フ、水糞ヲミス、

歐洲人、東洋諸國ヲ評シ、農國トイフハ、農ニ巧ナルニ非ス、農業ノ一途ノミ、  
ヤ、開ケタルナリ、猶匈加利國ヲ評シテ、歐洲ノ農野ト謂フト同シ、歐州厚

生ノ道ニ於テ術ヲ盡スハ、當ニ工商ノミニアラス、只其地味瘠薄ナルヲ以テ、収ムル所ハ勞スル所ニ比セス、各國収獲表ヲミルニ、每「ヘクタール」ニ付、英ハ三十「ヘクトリットル」、白蘭ハ二十五「獨逸」ハ二十、佛ハ十八、米ハ地價廉ニ、廣大ノ地面ヲ耕スヲ以テ、収獲ハ反テ十「ヘクトリットル」ニスキストナリ、會テ之ヲ算スルニ、一町歩ニシテ、米國ハ六石ヲ収メ、英國ハ十八石ヲ収メルニスキス、我邦ノ収獲ハ、常ニ倍蓰ス、是其地ノ瘠薄ナルニヨルノミ、怪ムヘキハ、英ノ耕野ヅミルニ、佛ノ耕野ノ種藝周密ナルカ如クナラス、然ルニ其収獲ハ、相反スルモノハ何ソヤ、豈佛人ハ、耕作樹藝ヲ并セテ、其収ムル利益ヲ較スルニ、兩端ニ分レタルニヨルカ、之ヲ聞ク、獨逸人方今其國疆ヲ佛ニ較スルニ相匹ス、収獲モ亦劣ラス、而テ實利ハ常ニ及ハサルヲ以テ、畢竟氣候ノ不良ニヨルナラント、本年ヨリ十一ヶ年ノ實測ヲ積ミ、其方法ヲ覓メント計ル、其費十二萬弗ヲ要ストナリ、歐洲ノ農業ヲ務メルヲ、年年ニ精ニ入ル如此シ、

○「カレントソ」「ボルノー」「ムルソ」等ノ驛ヲスキテ「フオンテンブロー」邑ニ達ス、此邑

ノ人口九千七百八アリ、驛口ヨリ馬車ニテ、村路一英里許ヲ走リテ、佛ノ王宮ニ達ス、沿途ハ市街苑園ニテ、頗ル商店モ<sup>ニキヤ</sup>闊カナリ、街車ノ設ケモ備ハレリ、此「フオンテンブロー」ノ王宮ハ、元「フランク」第一世ノ築キタル、古キ宮殿ニテ、匠工ノ法ヲトル造營ナリ、其後代代ノ佛王、修メテ之ヲ美麗ニス、第一世拿破侖、甚タ此宮ヲ好ミ、數此ニ居住セリ、「ウットルロー」ノ敗軍ニ逃歸リテ、此宮ニ入リ、帝號ヲ去リ、將卒ニ訣別ヲ告シ所ナレハ、新古ノ歴史ニ關シ、并セテ採風ノ士ノ必觀スル名所ナリ、○此宮ノ地域廣ク、外垣ヲ回ス、綿亘甚タ長シ、樓門ヨリ入レハ、中ニ一庭ヲ抱ク、石ヲ甃シテ路トシ、碑ヲ峙シテ庭トス、宮殿ハ庭ヲ擁シテ起ル、外壁ハ煉化石ナリ、即チ紀元六百年代「フランク」王家ノ經始セルモノニテ、古キ建築ナリ、白石ノ階ヲ疊ミテ宮ニ登ル、階ノ形式奇ナリ、兩階彎形ヲナシ、中ニ方庭ヲ抱キ、螺旋シテ上ル、石面ミナ雨露ニ霑シテ、黒苔斑斑タリ、是尤モ學者ノ賞珍スル所ナリト、○カハル古色黯然タル所ヨリ、宮中ニ入レハ、室室ノ内景、乍チ爛然トシテ、綺縟日ヲ耀ス、柱面ミナ密雕アリ、石像ヲ安シ、棟宇柱壁、一トシテ雕鏤ヲ極メサルナシ、室室様ヲ異ニシ、房ヲ分ツテ、續



緋ヲ變ス、長廊ニ至ルマテ、美麗ヲ盡サ、ルナシ、王宮ヲ見ル、前後ニ多ケレ  
ル、其續緋ノ極ヲ論セハ、此宮ヲ以テ第一ト云、モ可ナリ、其内ニ付テ記スヘキ  
ハ、第一世拿破侖ノ對面所アリ、議政ノ院アリ、私寢アリ、皆大案ヲ陳シ、華榻ヲ  
列シ、華燈ヲ鈎下シ、爛トシテ目ヲ射ル、各國ノ珍寶器皿ヲ置テ室ヲ裝フ、日本  
古代蒔繪ノ漆器モアリ、其后ノ寢房ニハ、錦ヲ以テ壁ヲ張ル、是ハ婚姻ノキ、某  
王ヨリ贈レル贖物ナリ、錦帳繡茵、儼然トシテ其時ノマヽニテ存ス、其粉裝ノ  
室ニハ、玻黎ノ鏡ヲ以テ、上宇ニ張ル、周壁モ亦皆鑑ナリ、人ヲシテ水光ノ中ニ  
游衍セシムカ如シ、此ヨリ拿破侖ノ書齋ニ接連ス、其帝號ヲサルキ、文案ヲ書  
セシ、小案アリ存ス、○書房ニ至レハ、長サ三十餘間ノ廣キニ、書棚ヲ造リテ、ミ  
ナ文籍ヲ充テ、中央ニハ長案アリ、器什アリ、石像アリ、巨瓶アリ、路易十四世、其  
王子ニ地學ヲ授ケシ、地球儀アリ、數代ノ王ノ石像アリ、長廊ノ内ニハ、石像ヲ  
集メ、書額ヲ集ム、上層ヲ回レハ、百般寶器ヲ攤列シ、房房亦皆美麗ナリ、第一世  
拿破侖婚姻ノキニ、獨逸薩撒王ヨリ贈リシ、精良磁盂數十枚ヲ以テ、周壁ト天  
井トニ嵌シテ、華嚴ノ壁トナセリ、○別一廊ニハ、歷代ノ戰爭繪圖ヲ張ル所ア

リ、又一兩室ニ、日本支那ノ器什ヲ集メタル所アリ、漆器、漆板、屏風、銅器、陶器、及ヒ支那ノ畫等ナリ、○此宮ノ庭苑ハ、區域甚タ廣ク、大池アリ、方塘鑑ノ如クニ涵シテ、大船ヲ浮フヘシ、水中ニ小亭アリ、水ヲ擁キテ、林樹清嵐ヲ吹ク、水石、樹木、花卉、其勝タル、歩歩ニ一顧、徑徑ニ一竝シテ、終日之ヲミルモ盡サストナン、此日雨フリ、風烈ニシテ、此庭苑ヲ一周觀スルヲ得サルヲ恨ム、○是ヨリ宮前ノ「ホテル」ニ於テ、食ヲ辨シテ、夜蒸氣車ニ上ル、此時雨益ヲ傾ケテ來リ、風怒リ、樹狂ヒ、時ニ雷聲ヲ聞ク、咫尺暗黒、簷溜繩ノ如シ、而テ車中ニ安臥シ、咫尺闇黒ノ途ヲ走リ歸ル、蒸氣車ノ便利モ亦極レリ、在歐中ニテ、猛雨如此キハ、前後ニ只此雨アルノミ、

## 二十日 晴

十一時ヨリ馬車ニ駕シテ、建築學校、礦山學校ニ至リ、歸路ニ「レキセンブルー」ノ王宮ヲ見テ歸ル、

○建築學校ハ、「セイーン河」ノ西ニアリ、橋梁屋作、及ヒ河渠ノ建築ハ、佛人長技ノ一タリ、此校ノ盛ナルヲ、想像スルニ足ルナリ、此校ニテ教導スル事件ハ、橋梁

鐵路ヲ架シ、水門、船廠ヲ築キ、燈臺ヲ建ツル等ノ業ニテ、政府ヨリノ公費ナリ。給金ヲ除クノ外ニ、政府ヨリハ四拾萬「フランク」ヲ付ス、其他ハ寄附金、寄附地代ニテ用ヲ足ラス、官ヨリ命セラレタル生徒七十四人、私費ノ生徒六十人、官費ノ生徒ハ、移學スルヲ禁止ス。○此學ニ要スル教師ハ九家アリ、重學、理學、度學、化學、地質學、水學、礦學等ニテ、ミナ其一ヲ欠ケハ、建築ハナシ能ハサルナリ、此日教師皆禮服ニテ接伴ヲナシ、甚タ嚴整ナリ、學者ノ儀表ヲ覺フ。○此校ノ章程ニテ建築セシ、橋梁、水門、燈臺等ノ雛形、又發明ノ造營器械ノ雛形ハ、ミナ其圖ヲ并セテ之ヲ蓄フ、其大ナルハ、馬耳塞近傍ノ古キ大橋梁、高サ九十「メートル」ニ及フモノ、全所ノ石橋高サ六十「メートル」ナルモノ、其他ノ鍊橋、懸橋、鐵雞橋、開闔橋、是ハ橋身ニ轆轤ヲ設ケ中央ニテ開闔スヘキ橋ナリ蘭國ニ行ハル苟モ工ノ異ナルハ、其縮形ヲ存シテ示ス、水平ヲ測ル器械、轆轤、滑車、槓桿ノ類、水底ヲ測リ、大石ヲ掀ケ、鍊橋ヲ組立ル器械、各般使用ノ器械ハ、皆集蓄ス、水門、船廠、燈臺等、地方ニテ高名ナルハ、亦收蓄ス、礦石ヲモ備ヘタレヒ、是ハ一般ヲ示スニ過キス、カ、ハル百般ノ物ヲ集メテ、其理ニヨリ、其工作ノ方法ヲ講究スルヲ以テ、建築ノ功、年ヲ逐テ盛



大奇秘ヲ極ムル所ナリ、○圖引寮ニ於テハ、等ヲ分ツテ、造營ノ圖ヲ描寫セシハ、各國ニ新建築アレハ、往テ其圖ヲトリ來リテ、之レヲ講究討論ス、一書生アリ年二十四五、已ニ大學ニテ上等ニ上リ、又此ニ入りテ學フ、特ニ一寮ヲ分ツテ之ヲ置ケリ、

○礦山學校ハ「リックセンブルク」ノ宮苑ノ南ニアリ、屋造ノ大ナルコハ、建築學校ニ相比スレハ、更ニ大ナリ、此ハ金、銀、銅、銕、土、石ヲ穿チ堀リ、土質地味ヲ考ヘ、開礦器械ノ運動ヨリ、土質、土宜ノ吟味、スヘテ地土ノ性質モ、此ニテ研究ス、是モ政府ヨリ設ケ立タル公校ナリ、室房ノ壁ニモ、地ノ層累石ノ紋理ヲ畫キテ、飾リトナス、二階三階ニハ、礦石、海石、化石ヲ集メ蓄ヘテ、棚架箱筐ニ陳列ス、スヘテ十六七ノ廣房ニ充滿ス、其種類ヲ數フレハ、五六萬種ニ下ラス、譬過シテ過ルモ、亦神ヲ疲ラス、前後礦石類ヲ見ル多ケレヒ、此礦ノ盛ナルカ如キハ、實ニ其比ヲミス、又數房ヲ分チテ、礦山器械、礦中ノ隧道地層派理ノ形ヲ造リ、或ハ佛國山野ノ縮形ヲ模作シタルアリ、○講堂ノ正面ニハ、佛國ノ地圖ヲ掲ク、扁幅廣大ナルヲ以テ、彈キ金ノ輪ヲ仕掛ケ、其紐ヲ張弛シ、自在ニ卷張スヘシ、此

圖ハ各州郡ノ土質地味ヲ查驗シ、色分ケニテ示シ、兼テ土宜ノ產物ヲ表明スルモノナリ、佛國ノ廣大ナルモ、此校ニ入り、此地圖ヲミテ、吟味ヲナセハ、瞭然トシテ詳明ナリ、如此ク周密ナル國圖ヲ製シタルハ、歐州各國ニ於テモ、佛國ヨリ備ハルハナシ、故ニ歐洲陸地ハ、ミナ佛ヲ艶稱シ、文明國ノ最上等トシ、英國ノ如キハ、富強ナレモ、内治ノ一般ヘ詳密ニ届キテ、人氣ノ都雅ナルハ、佛ニ及ハスト謂ナリ、英佛ノ優劣論ハ、其人ノ主トスル所ニヨリテ、軒輊アレモ、内政周密ニト、キタルト謂ハ、或ハ當ニ然ルヘシ、近來日耳曼ノ政治ヲ察スルニ、佛國ヲ學フ所多シ、獨逸ノ開化ハ、佛國ヨリ感動サレタルト云モ、信ニ然ルヲ覺フ、近年獨逸ニモ、地質圖ヲ成就シテ、刊布セルモノアリ、○分析場ノ設ケ、甚タ廣大ナリ、此ニテ全國ノ土地ノ質ヲ研闡ス、詳ニ詳ヲ加ヘ、并テ外國ニ及フ、故ニ國中ニテ、少シク奇異ノ土石アレハ、即チ郵送シテ此寮ニ輸ス、年月ノ久シキ以テ、此盛大詳備ヲ致シ、而テ今モ猶絶ヘス、查驗ヲ加フナリ、此ニテ化學ノ術、六七ヲ試驗シテ示セリ、

○レキセンブルク<sup>セナート</sup>ノ王宮ハ、西巴黎ノ故宮殿ニテ、今ハ以テ、元老會議ノ院トナ







巴黎「リュクセン」堡宮 ホルク



同宮苑

シタリ、各室房ニハ、畫圖ヲ集蓄シ、器什ヲ陳列シ、此宮ノ苑ハ、區域大ニシテ、艸ヲ蒔シ、池ヲ甃シ、水跳リテ、石像立ツ、樹木ハ多カラス、西巴黎ニ於テ第一ノ大苑ナリ、スヘテ西巴黎ニハ、學校多ク、書生徘徊シ、自ラ軒昂氣ヲ盛ソニシテ、肩ヲ張り歩ヲ高クスルノ狀アリ、暇時ニハ、酒店ニ上リ、麥酒ヲ一嚙シ、醉ヲ盡シテ歸ル、イツクモ書生ノ狀態ハ、カハルイナシ、且此邊ハ巴黎ノ狹斜巷ニテ、一二ノ街ニ共窩アリ、妖婦四モ出テ、客ヲ拘引ス、

二十一日 薄陰午後雨フル

十時ヨリ馬車ニ駕シテ、「パンクデ、フランセ」ニ至ル、「パンクデ、フランセ」ハ、佛國ノ國立銀行ニテ、「チュロリー宮」近傍ナル「シチー」内ニアリ、一千七百十五年ニ開業ス、第一世拿破侖在世ノ際ニモ、甚タ此銀行ニハ注意ヲ加ヘタリ、此後マテモ、佛國ニハ州立銀行アリテ、各獨立ニテ其紙幣ヲ發シタリシニ、是ハ千八百四十八年ニ廢シテ、此銀行ニ合シテ、支店ノ名義ニナシ、是ヨリ國立銀行ノ權ヲ完全セリ、以後十五年ヲ期限トナセシカ、同五十七年ノ議定ニヨリ、四十ヶ年ノ延期ヲ許容シタリ、○此銀行ノ建築ハ、英國ノ國立銀行「パンク、オフ、エン

「ゲラント」ニ比スレハ、壯麗ヲ讓ル、屋作ノ模様ハ、三層樓ニテ、磚壁ヲ以テ成レリ、每層ニ室房ヲ分チ、廊道ヲ以テ繋連シテ、甚タ迂回ナレトモ、各房ヘ目的ヲ定メテ赴クニハ、高キ三階ノ上ト雖モ、亦出入ニ易シ、其全局ノ結構ハ、一見ノ能ク了スル所ニ非ス、兩替爲替ヲ取扱フ所ハ、三階ノ上ニアリ、此銀行ノ屋作ハ、第一世拿破侖苦心ノ圖取ナリ、○此銀行ニ金ヲ託スルハ、全ク其保護ノ固キト、危險ノ憂慮ヲ免ル爲ニ出レハ、銀行ヨリ利足ヲ拂フヲ約スルナシ、證券ハ兩契一樣ノ書ヲ作り、其正ハ金主ニ渡シ、副ハ此内ニ留ム、是預リ證券ナリ、又別ニ一札ヲ添ヘテ渡ス、此證札ハ拆シテ小券子トナスヘシ、毎小券ニ、金高ヲ割リ付テ書載セタリ、其割付ノ高ハ、金主ノ好ミニ從フ、亦正副アリテ、副ハ留メオキ、預ケ主、後日肝要ノキニハ、預高ノ幾部分ヲ拆キ、他人ト取引ヲナストモ、此券子ヲ渡セハ、其人券子ヲ持來リテ、銀行ヨリ其金額ヲ受取ルナリ、金高ヲ書スルニハ、各其國ノ貨幣ニ立直シ、假令ハ塊地利人ノ託スル金ナレハ、本書ニハ塊ノ「フロレン」ニ立直シテ、若干「フロレン」ト書シ、其留メオク證券ニハ、「フランク」ニテ書載シオクナリ、若シ證券紛失スルコトアルモ、此副券ヲ證トシ、



受取ヲ得ヘシ、小券子ヲ拆テ、他人ニ渡シ、其人受取ニ來ル時ニハ、副券子ト  
番號記標ヲ合セ、截殺ノ印ヲ押シ、兩券子ヲ一所ニ留メ置ク、他日本人正證書  
ヲ持來リテ、金高ヲ受取ルトキハ、是ヲ證トシテ差引ヲナスナリ、此兩券子ヲ  
一所ニ留置テ、證券ハ厚板ニ狹ミ、番号ヲ記シテ、金網戸ノ内ニ藏セリ、外ヨリ  
露レテ視ルヘシ、此房ノ下ニテハ、其證券券子ヲ印刷ス、大抵婦人ヲシテ工ヲ  
ナサシム、○佛國通用ノ紙幣ハ、此内ニテ製造ス、即銀行ノ證券ナリ、英國ノ紙  
幣ヲ「パンク、オフ、エンゲランド」ニテ製スルト同シ、此兩國ノ紙幣ハ、銀行ニテ  
其權ヲトル、仕組甚タ嚴確ナルヲ以テ、通用甚タ宜シク、英國ノ紙幣ハ、正金ヨ  
リ價貴キニ及ヘリ、佛ハ去年破衄ノ餘ニテ、國帑窮シ、銀行ヨリ金ヲ價シ、其代  
ニ紙幣ノ額ヲ増セシヲ以テ、當時通用ノ正金ト、僅ノ差ヲ生セリ、以テ平生ノ  
裕通ヨカリシヲ想像セラル、英ノ札子ハ白紙ニ漉キ出シノ文字紋樣アリ  
テ、其面ニ金額名記符號ナトヲ印ス、外見ノ文樣ハ、甚タ簡素ナレトモ、紙ノ製法  
ニ多少ノ匠心器械ヲ勞スルヲ以テ、模造シ難シ、其細小ノ札子ハ、五磅ヲ限ル、  
佛ノ紙幣ハ、各國ニ製造セル紙幣ト一般ニテ、文字繪樣ニ精微ヲ極メテ、數十

ノ器械ヲ傳ヘテ成ル、其内ニ一ノ肝要ナルハ、紙面ニ獅子ノ圖ヲ、恰モ漉出シタル如ク、紙質薄ロキテミユル繪様アリ、此工ヲナスニハ、獅子ノ形ヲ雕タル、鋼型凹凸ノ兩様アリ、雕刻絶精ナリ、其凹盤ノ上ニ紙幣ヲオキ、銅ノ細鋼ヲ以テ覆ヒ、小錐ヲ以テ獅子ノ周圍及ヒ皺皺ヲ刺シテ、其上ニ凸雕ノ獅子ヲ壓下スレハ、紙ノ面、其凸起ノ所ノミ伸ヒテ、其質ヲ薄クス、其施工實ニ周密ヲキハム、總テ紙幣ヲ印スルニ、二十馬力ノ蒸氣輪ヲ運シ、人ヲイル、男女三百五拾人、按スルニ是ハ全屋ニ製シ出ス所ノ札子、戦争ノ後ヨリ、額數多分ニ增多セリ、其全數詳カナラス、○記録所ニテ預リ、證書ヲ出シタル毎ニ、其證券ノ番號ヲ案シテ、此寮ノ札牒ニ書寫ス、其法ハ番號ヲ以テ、牒簿毎冊ノ紙ヲ次序シ、其毎葉中ニ又番號アリ、又小番號アリ、證書ニ副ヘタル番號ノ數ノ如シ、是ヲ冊子トナシテ、又番號ヲ加ヘテ、冊ノ小口ニ金字ヲ以テ凹拉シ、長サ十餘間ニ及フ、筐中ニ整頓シオク、此銀行ハ、政府ト與ニ永久ニ保續スルヲ謀レハ、金ヲ託セル人モ、亦悠久ニ亘ルモノアルヘシ、而テ其中ニ於テ、券子ヲ持來リ、金ヲ受取ルヲ望ムトキ、其券子ハ何百何十番ノ證券中ニテ、何番ノ券子ナルヲ驗

シテ、此札ヲ按スルキハ、即チ何番ノ書中ニテ、幾葉目ナルヲ、即時ニ知ルヘカ  
ラシメ、因テ速ニ其金子ヲ渡シテ、其簿記ヲ得ルナリ。○此寮内ニ、死幣寮アリ、  
證券、券子、爲替札ノ不用トナリタルハ、此ニテ札ノ兩傍ニ、二ノ圓孔ヲ切り洞  
シテ、此ニ持來リ、札數ヲ査シテ、切り棄ル、札數ヲ數フタメニハ、人毎ニ一室ヲ  
仕切り、周圍ニ金ノ網戸ヲ鎖ス、是ヨリ金ヲ出納スル寮ニ赴ク。○最後ニ金庫  
ヲ示ス、金庫ノアル所ハ、市街ニ近シ、一二寮ヲ經テ、廊道アリ、其側ニ鐵戸ヲ鎖  
ス、高サ六尺、二人ヲイル、幅ハヤ、狹シ、之ニ入レハ又戸アリ、三戸ヲ入レハ、  
銀ヲ藏セル庫ニ至ル、棹銀ニテ積ミ、又銀幣ヲ布袋ニ盛ツテ堆ス、室内微闇ナ  
リ、燈ヲ假テ始メテ明ナリ、此ヨリ又戸アリ、階ヲ以テ上層ニ上リ、又下層ニ下  
ルヘシ、上層ノ庫ニ至レハ、又銀幣アリ、袋ニ盛リタル金幣モアリ、是ヨリ又戸  
アリテ、其奥ニ、棹金ヲ棚上ニ積ム、棹一箇ニテ、小ナルハ五千弗、大ナルハ壹萬  
弗、總テノ蓄金壹億九千萬弗、文書局ニテハ貳億萬ト云フ、預リ金七億九千萬、「フランク」即壹  
千八百萬弗、ナリト云、此庫ノ下層ハ、即地底ノ窖ナリ、其内景イカンヲ知ラス、拿破  
侖第一世ノ苦心ハ、此庫ノ造營ニアルヘシ、去年巴黎ニ「コムミユン」ノ黨起リテ、



處處ヲ亂妨ナシタレハ此金庫ニ至リテハ動スヲ得サリキ、口下ニミコル所ニテハ未タ甚タ秘奥ヲ覺ヘス、下層ノ害ニ於テ、奇秘ノ結構モアルヲニヤ、

「パンク」ハ即チ銀行ナリ、銀行ニ三種アリ、爲替銀行、會社銀行、及ヒ大銀行ナ

リ、此外ニ小金ヲ預カル「セーピソ」パンク「ナドアレハ是ハ貿易ノ本領ニ、關

係少ナレハ略ス、凡商業ニ規律アリ、官ノ保護モ周密ニテ、一般ノ人民、其隆

盛ヲ希望スル國國ニテハ、商買ニツキテ、取引ノ際ニ、契約ノ取換シ、簡易ニ

テ明確ヲ要シ、証書券子ノ法能行ハル、如此キ國ニハ、相互ノ間ニ、信用ヲ生

シ、其證券ヲ抵當ニ、金子ヲ貸シ、取引ヲ引受ケテ、相疑ハサルニヨリ、利分ヲ

抽ツル方法モ行ハル、是銀行ノ因テ起ル所ナリ、兩商ノ間ニ取組タル證券

ヲ取テ、金子ノ融通ヲナスヲ爲替銀行トス、是ハ小資本ニテモ取立レハ、其

財本ハ、務メテ融通セシメサレハ、自ラ利益減スルニヨリ、時アリテ金子出

拂フテ、休業スルニ至ルモノナリ、因テ此爲替銀行ノ資本ト證券トヲ抵當

ニ、又金子ヲ融通シ、利益ヲウクル方法ヲ存立ツ、是ハ頗ル大資本ヲ要スル

ニ、ヘ「アシション」會社株ヲ發シ、集金シ、數十萬乃至百萬圓ノ會社ヲ組ミテ、銀行

モ亦取引ノ輻輳スルキニハ資本拂底シ休業ニ至ルハ必スアルヘキナ  
リ故ニ政府ヨリ其資本最大ニテ最モ確實ノカアル社ニ紙幣發行ノ特權  
ヲ免許シ財本ヨリ三倍マテノ紙幣ヲ通用スルヲ許ス之ヲ大銀行ト謂  
フ即チ國立銀行ナリ歐洲ニテ昔時以太利「ヴェニチヤ」即「ヴェニチヤ」共和政治國ノ盛大ナ  
リシモ早ク大銀行アリ歐洲中ニ著名ナリシニ一千七百九十七年ニ佛帝  
拿破侖其地ヲ攻取リ其共和政府ヲ廢シテヨリ大銀行モ廢業セリ現今歐  
洲ニ大銀行八社アリ佛蘭西銀行英倫銀行アムステルダム特坦銀行ハムボルク獨逸伯  
林銀行リッ普維納銀行ゾリー那不兒銀行ネーデル以露西亞銀行ナリ紙幣ヲ發行セル國モ  
之ト同シク七ヶ國アルノミハ「普」ト獨逸ト銀行ニ大中小ノ三種行ハル、主  
義ハ佛國ノ經濟學士「モリス」氏ノ解說甚タ明白ナレハ此ニ其說ヲ  
撮錄セン商業ノ目的ニ於テハ貨幣モ物品モ常ニ融通シテ姑クモ己ノ手  
ニ淹滯セサルヲ尙フハ皆人ノ識ル所ナルヘシ今此ニ仕立衣服ヲ家業ト  
スル人ヲ以テ譬ヘン其人カ他ノ注文ヲ受ケテ數十領ノ衣服ヲ仕立ルタ

メ、羅紗商ヨリ羅紗ヲ求メントスルニ、資本不足ナルモ、後日ニ拂フコトヲ約シ、其約定書ヲイレルヲ談スルヘシ、羅紗商モ、其人ヲ信スレハ、其談ヲ承諾スヘシ、否ラサレハ、羅紗ヲ賣捌ク機會ヲ延遷スレハナリ、是ニ因テ商業上ニ後拂ヒノ證書起ル、此證書ハ三個月ヲ定限トナス、羅紗商ハ已ニ品物ヲ賣與ヘタル時ハ、又羅紗製造場ヨリ仕入ルコトヲ謀ルヘシ、空ク證書ヲ守リ、三個月ヲ空過セサルナリ、故ニ仕立師ヨリ、受取ルヘキ證書ヲ以テ、製造所ニ品物ヲ引取ルコトヲ談シ、示談ト、ノヘハ、其證書ニ裏書シテ、製造所ニ渡スナリ、製造所ニ於テハ、又之ヲ目的ニ、羊毛ヲ仕入ルコトヲ謀リ、又裏書シテ、毛商ニ渡ス、如此ク一ノ注文ハ必モ注文ニニヨリ、數ノ商人、融通ノ便ヲ生シテ、其價ヲ拂フハ、只一ノ後拂證書ニヨル、三個月ノ後ニ、仕立師ヨリ毛商ニ代ヲ拂ヘハ、四人ノ利益ヲ完クス、是商業融通ノ道ナリ、然モ現實ニ於テ四人ノ求ムル所ハ、盡ク同物同價ナルモノニアラス、千圓ノ證書ニテ、五百圓ノ仕入ヲナシ、五百圓ノ證書ニテ、各種ノ物ヲ、各人ヨリ仕入ル、コトアリ、據ナク其証書ヲ以テ、貨幣ヲ調達セサルヘカラス、故ニ其貨幣ノ商ヲ業ト



スルモノヲ生ス、是則銀行ナリ、銀行ハ金銀貨幣ヲ貸シ、商人ニ融通ヲナシ  
テ、利息ヲ収メ、渡世スル商業ニテ、其數甚タ多シ、之ヲ爲替銀行トス、其利息  
ハ相場アリテ一定セス、借人多ケレハ、百分ノ十二上リ、少ケレハ百分ノ二  
ニ下ル、佛蘭西ニテハ百分ノ五乃至六ヲ通制トス、爲替銀行ニ於テ、現金ヲ  
貸拂ヒタルキニハ、姑ク休業スルノ外ハナシ、因テ此銀行ニ融通スルノ目  
的ニテ「アツサツシヨ」銀行ハ起ル、即チ會社銀行ナリ、此會社ハ株券募金ノ法  
ニテ起ル、大抵一株ヲ二百弗ト定メ、五百株百萬弗ノ聚金アレハ、多少ノ世  
用ニ供スヘシ、然レモ商業ノ繁盛ナルニ於テハ、此銀行ニテモ拂切リテ、休  
業スルノ患アリ、因テ一ノ至大ナル銀行ヲ創設シ、政府ヨリ之ニ紙幣製造  
ノ特權ヲ許ス、之ヲ大銀行トス、（即國立銀行ナリ）銀行規則ニ、元金三倍以上  
ノ紙幣ヲ製造スルヲ禁ス、紙幣ノ信用ハ、元金ト、商人ノ持出ス証書ト、<sup>ポル  
トブル</sup>  
エノ兩箇ニアリ、即チ此高ニテ三倍マデノ紙幣トナリテ融通スルナリ、大  
銀行ニ來リ、正金交換ヲ乞フキハ、千ニ付テ、五十ヲ引テ、九百五十ヲ渡ス、其  
五十ハ銀行ノ利益トナルナリ、<sup>百分五ノ</sup>銀行ノ景況ハ、新聞ニテ每周ニ刊

行シ、衆人ニ安堵セシム、大凡六千萬弗ノ現金ヲ恒ニ貯藏セサレハ、世ニ信ヲ取ニ足ラス、夫商人ハ恒ニ金銀ヲ運動スルヲニ注意ス、朝ニ得レハ夕ニ運轉シ、其機活ハ只証書ヲ融通スルニアリ、萬般ノ商品ハ証書ニ化シ、其証書ハ銀行ニ至リテ、紙幣ニ化ス、大銀行ニ於テ、其証書ヲ確實ナリト看認ルニハ、三ヶノ商人ニ保證ヲナサシム、喩ヘハ仕立衣服ノ証書ヲ、羅紗商ニ渡スルハ、兩人互ノ信用ニテ看認タルモノナリ、其羅紗商カ、之ヲ以テ爲替銀行ヨリ金ヲ求ムルキハ、其銀行ニ於テ、兩商ノ信用ヲ看認メテ渡ス譯ナリ、此爲替銀行ニテ、急金ノ入用アルキ、大銀行ヘ其証書ヲ持出ス、此時ニ其裏書ニハ羅紗商ト爲替銀行トノ調印アリ、仕立師ヲ合セテ三人ノ調印ヲ以テ看認ム、是ヲ三人ノ調印アルニ非サレハ、大銀行ニテ交換ハセサルト謂フ理義ナリ、歐洲ニ大銀行只八アリ、其發行スル紙行ノ最モ信用セラレタルハ、英國銀行紙幣ナリ、獨逸ノ紙幣モ、國內ニテハ正金同様ニ行ハルレト、外國ニハ信用ナシ、佛國ノ紙幣ハ、當時少シク下落シタレト、些少ノ差ニテ、漸漸ニ回復ノ勢ナリ、蘭國ノ紙幣モ相場アシ、塙國紙幣ハ、殆ト十二テ

九ノ價ニ落ルヲアリ以國ハ各聯邦ニ獨立ノ銀行アリテ發行セシ紙幣ヲ一統政治ノ後ニ未タ消サス現地ニテ十二九ノ價ヲ有シ其都府ヲ出レハ通行セサルニ至ル露國紙幣ハ國度ノ竭盡ニヨリ造リ高ノ度ヲ超ヘ十二九ノ價ヲモ有セス瑞典、噠馬、白耳義、及ヒ瑞士ニ紙幣ヲ發行セス自主ノ小國ハ財用ノ政甚タ周密ニテ融通ノ法ヨク届キタリ瑞典ノ「ストックホルム」銀行ノ長我大藏ノ理事官ニ對シテ瑞典ノ銀行規則ハ甚タ周備ニテ古來未タ倒産セルヲナシト話セリト銀行ノ設爲ニ於テハ必モ紙幣ヲ發行シテ其總括ヲナサハルモ融通ノ規則方法ハ「チェツキ」ノ流通ニアルヲナルヘシ、





一月二十一日

(前卷ヨリノツ、キ)

「ゴブラン製造場ハ」「セイソ河ノ北岸ニアリ」「ゴブラン」トハ、羊毛ノ絲ヲ以テ織タル、文錦ノ名ナリ、其織法ハ、日本ニテ西京ノ襪<sup>ツ</sup>、襪<sup>レ</sup>ノ錦ニ似タリ、錦ノ織紋ニテ、油繪ヲ寫シ出シ、宛トシテ描ケルカ如ク、數間ヲ隔テミレハ、其織出シナルヲ知ラス、直ニ油繪ノ精ナルモノト、看認サ、ルモノ殆ト希ナリ、其精美ニシテ、織巧ヲ極メタルヲ、實ニ布帛類ノ絶品ニシテ、其價尤モ不貲ナリ、一小幅ヲ以テ扁額トナシ、大幅ナルハ壁ニ張ル、王公貴族ノ宮館ニ「ゴブラン」ヲ壁ニ幀セルハ、奢靡ノ最上頂ト謂フヘシ、各國ノ王宮ニ往往ニ是ヲミル、此技術ハ、各國ニモ學ヒ摸スレヒ、佛國ノ精美ニ及フヲ能ハス、○「ゴブラン」ヲ織ニハ、木棉絲ヲ經トシテ、上ヨリ垂レ下スヲ、日本ニテ疊表ヲ織ルニ同シ、織工ハ其背ニ坐シ、傍ニ織文ノ見本ヲ張り、是ニ照シ合セテ、日本ニテ網ヲ編ムニ用フル如

キ串ニ、各種ノ絲ヲ纏ヒテ、左手ニ綜ヲ引キ、右手ニテ絲ヲトオシ、則チ木片ヲ執テ、毎經絲ノ間ヲ、各各ニ推シ鎮ム、畫紋ハ前ニ織リ出テ、背ニハ各絲糊塗ナリ、畫ニ明暗アル所ハ、毎緯ニ絲ヲカユ、各色ノ絲一色ツ、畫樣ヲ逐テ織リ上ル、故ニ織リタル線ハ、常ニ凹凸參差タリ、カハル所ハ、其凹凸ニ任セオキ、後又絲ヲカヘテ織リ埋ム、大抵一月ニ織ル所、一寸有半ニスキス、三疊敷ニ足ラサル「エブラソ」モ、二年三年ヲ經テ成ル、此日正ニ織タル内ニ、兩織工ニテ己ニ十八ヶ月ヲ經タルトテ、僅ニ二分ノ一ヲ織成セルアリ、其工料雜費、月ニ二千五百「フランク」ヲ用フ、然則二年ノ星霜ニテ、其工費一万「フランク」ヲ用フヘシ、○又一種ノ「エブラソ」アリ、是ハ表面ニ毳毛ヲ起シテ、畫紋ヲ織ル、天鵝絨ビロイトニ同シ、之ヲ織ルハ、表面ヲ前ニナシ、繪ヲ案シ、緯絲ヲ織リサルヲハ、前術ニ同シ、鍔針アリ、一面ハ刃ヲ施ス、是ヲ其表ニ織リ込ミテ、後ニ抽キトレハ、絲ハ斬レテ毳毛ヲ起ス、其毫ハ缺ヲ以テ截チサリテ、之ヲ均平ニス、此日ハ二間半ニ、五六間モアル、一幅ノ絨ヲ織リ居タリ、五人ニテ工ヲトル、初テ機ニ上セシヨリ、己ニ三年ヲスキタリ、更ニ今ヨリ二年ヲ經テ成就スヘシト云、○此場ニ工ヲ施ス



「畫法、綜法、織法」ミナ精ヲ極ムレト、綜ヲ理スルニ深訣ナシ、色絲ヲ染ルノ術、尤モ肝要ナリ、一色ノ染汁ニテ、濃ヨリ淡ニ至ルマテ、漸ヲ以テ減殺シテ、十餘種ニ染成シテ、竟ニ色ナキニ至ル、次第ニ之ヲ列スレハ、濃色次第ニ模糊トナル、其一二ヲ執ヘテ、濃淡ヲ辨スル事ハ、甚タ難シ、此法ナケレハ、畫紋ノ面ニ、陰陽明暗ヲナシ難シ、西洋ノ畫ハ、陰陽明暗ノ光線ニ妙アリ、故ニ絲ヲ染メ錦ヲ織ルモノ、染法ニ多少ノ苦心ヲ費ス「ナリ」「ゴブラン」ハ、歐米ノ豪家ヨリ囑シテ、十萬二十萬弗ヲ擲チテ、之ヲ買取り以テ額トシ、壁トシテ、美觀ニ備フ、織工ノ業、此ニ至リテ其精極ル、佛國殊ニ此術ニ獨步タリ、然レトモ其業ハ甚タ精美ニテ、其價甚タ不廉ナルヲ以テ、私社ノ能ク利益ヲ謀ルヘキニ非ス、國ノ名譽ヲ存セソカ爲メニ、政府ヨリ是場ヲ建テ、國ノ美術ヲ保存ス、故ニ利アリ損アリ、年ニヨリ一定ナシトナン、

「セーブル磁」「ゴブラン」ハ、巴黎ノ雙美ト稱スル、殊勝ノ工産ニテ、文藝工産ノ盛ナル國ニ、如此キ物ヲ出スハ、實ニ政府ノ保護ニヨルト謂ハサルヲ得ス、如何トナレハ、此二品ハ、器械ノ助ケヲ要スル「甚タ少ク、只人手ノ技工ヨ

リ成出ルモノニシテ、半開世界ノ工産ナレハナリ、半開世界ニハ、人ノ備直  
 賤シク、生意淡泊ニテ、機巧アル者ハ、終身ノ精神ヲ二三ノ物品ニ用ヒ、糟糠  
 飽サルモ恬然タルニヨリ、能此工産ヲ生スレヒ、文運ノ進ムニ從ヒ、萬般ノ  
 嗜好、其情欲ニ感觸スルモノ森出スレハ、淡泊變シテ競勵心トナリ、備直輒  
 騰貴ス、是ニ於テ此等ノ物ヲ製作シテハ、利益ナキヲ以テ、其技ヲ廢シ繼ク  
 ナキニ至ルナリ、以太利ニ、此ニ類スル工藝品多シ、羅馬佛稜府ノ雜綴嵌石  
 「ウエ子シヤ」ノ雜綴玻璃等是ナリ、以國ハ、土地富沃ニ、人民懽懽ナルヲミレハ、  
 猶自ラ餘暇アリテ、此等ノ工ニ從事スルニ足ルヘシ、羅馬時代ノ嵌石畫額、  
 露國「セントピートル」府露西亞、土耳其ニ、纖細ナル雕眼ニテ、金銀ヲ鏤シ、印  
 度ニ棉絲ヲ組シ、玉石ヲ綴ル、英ノ「サウスケン」博覽會ニ列品ス、支那ノ雕眼十二重ノ象  
 牙球、荷蘭海牙博物館ミナ畏ルヘキ精密ノ工ナレヒ、畢竟人工ノ備直至廉ナルニ  
 出ツレハ、國ニ此等ノ物産ヲ出スハ、他ノ工産未タ興ラサルヲ證スルニ足  
 ル、日本ノ陶器、漆器、七寶、嵌鑲ノ諸器、其歐洲ニ稱美セラル、モ亦コレガ爲  
 メナリ、顧フニ世開明ニ赴キ、諸工ミナ振興シテ、利益ヲ増加スルニ至レハ

等ノ工ヲナスモノ益減シテ、絶ルニモ至ルヘシ、其廢絶ニ至ラサルハ、他  
ノ工産ノ未タ興ラサルニヨル、試ミニ以太利ヲミヨ、其物産ハ人ノ指頭ニ  
成ルモノ猶多シ、故ニ農耕情ニ、礦物生セス、物貨ノ價格未タ定ラス、市ニ情  
居ノ商アリ、野ニ懶眠ノ農アリ、是其人技ノ未タ廢紕セサル所ナリ、佛國ノ  
盛ナルニ、此伎倆ヲ保存シタルハ、實ニ嘉尙スベシ、而テ其精美ナルモ、亦從  
テ知ルヘキナリ、

○「チヨコレート」製造場ニ至ル、是モ佛國ノ名産ナル菓子ナリ、「チヨコレート」ハ、熱帶  
地ニ産スル、豆ノ一種ニテ、南亞米利加ノ屬地「マルチンキウエ」及ヒ「カルデロー  
ペ」等ニ、此樹ノ培植ヲ盛ソニセリ、千八百七十二年ニ「マルチンキウエ」ヨリ輸出ノ  
高ハ、三十四萬二千六百九十一「キログラム」ニ及ヘリ、「カルデローペ」ニテハ暴  
風雨ノ害ニヨリテ、大ニ損亡ヲ致セシモ、近來ハ其培植ニ甚タ注意盡力シタ  
ルニヨリ、同年ニハ十萬三千「キログラム」ノ高ニ回復スルヲ得タリ、此地ハ佛  
國ヨリ「チヨコレート」ノ外、咖啡、棉花、及ヒ沙糖ノ培植地ナリシモ、ミナ此暴風雨  
ニヨリテ、一時大ニ利ヲ失ヒ、近年ニヤ、挽回ニツキタリト云、○「チヨコレート」



ノ製作ハ此場ニテ其豆ヲ熬リテ粉末トナシ、沙糖ニ和シ、型ニ打込ミ、種種ノ形ヲ結成ス、其味香ニシテ、些ノ苦味ヲ帶フ、西洋ニテ食饌ヲ供スルニ、必ス菓子ノ臺アリ、猶我蓬萊臺ニ類ス、是ニ盛ル用トナル、錫紙ニテ包ミ、表ニ石版ノ彩畫ナドヲ張リテ、其美ヲナス、極上品ノ菓子ナリ、○此菓子ハ、人ノ血液ニ滋養ヲアタヘ、精神ヲ補フ功アリ、佛國ノ名産ナレハ、製作スル場ハ猶多ケレト、此場ヲ最大ナリトス、人ヲ用ヒル百五十人、蒸氣輪モ二十馬力ニ上ルベシ、些ノ小菓子モ、之ヲ全歐地ニ運派スルニハ、如此キ大場アリ、歐洲ニ物貨ノ裕通甚タ盛ナルヲ想像スルニ足ルナリ、

佛國屬地五大洲ニ普ク有シタレト、英國ノ如ク廣大ナラサルヲ以テ、世人ハ多ク忽略シタリ、佛國ノ屬地ヨリ、其利ヲ收メルコト亦甚タ豐ニ、中ニハ「マルチンキウ」<sup>エ</sup>、ノ「チ」<sup>コ</sup>コレート」ノ如ク、種種ノ奇品モ多シ、此ニ其略ヲ記シテ、物産ヲ繁殖スルニ、多方ノ利益アルコトヲ示サシ、○亞弗利加洲ノ屬地ニ於テハ、<sup>アルセリヤ</sup>阿爾及ヲ首トス、乾棗、烟草、亞麻、<sup>ヤリ</sup>コロッア皮、<sup>ヤリ</sup>橄欖油、及ヒ、イスパルト」トイフ、紙ヲ製スル植物ヲ名産トス、次ハ塞内牙ヨリ、<sup>グルミヤシウ</sup>胡桃、椰子、棉實ノ油、及ヒ、「イ

ソチヤラバゴム」ヲ出ス、「レウニオン島ニ元ボウルボ、ノ島ト云、咖啡、丁子、「ハニルラ」及  
ヒ沙糖ヲ出ス、亞米利加州中ニ於テ「マルチンキウエ」ニ「チヨコレート」桂子、藥  
艸、沙糖、火酒ヲ出シ「ガルテローペ」ヨリ、咖啡、棉花、沙糖、及ヒ「チヨコレート」ヲ出  
ス、此他「シイ子ヤ」ノ地方廣ケレト、其出產ハ未タ聞カス、亞細亞州中ニ於テ  
ハ、交趾コナンチヤイナ支那（即チ安南）ヲ東洋ノ穀倉ト稱シ、盛ンニ稻米ヲ輸出ス、又胡椒、白  
荳蔻、食根ノ菜、絹絲、及ヒ製鹽等ノ利アリ、此他東洋群島ニ屬地散處シタレ  
ト、未タ其詳ナルヲ得ス、○抑アルセリヤ亞爾及ハ、佛國ト地中海ヲ隔テ、相對セルヲ、猶  
日本ノ朝鮮ニ於ルカ如シ、其全土ハ六十七萬方「キロメートル」ニ及ヘト、其  
土民ハ回教ノ徒ニテ、佛國ノ殖民土着ノ地ハ、一萬二千三百四十三方「キ  
ス」軍ヲ以テ之ヲ壓服シ、佛國ノ殖民土着ノ地ハ、一萬二千三百四十三方「キ  
ロメートル」ニスキス、大小麥、及ヒ鋤、銅、鉛ヲ產ス、此地ニ植タル棗ハ、四百五  
十七萬本、烟草ノ耕作六千七百町、亞麻ノ耕作三千四百六十町ニ及ヘリ、「イ  
スバルト」ハ、元西班牙ニテ、筵、沓、籠ヲ編ミ、イカリツナ碇綱ニ用ヒタル織緯艸ナリシニ、  
一千八百五十六年ニ、英人以テ紙ヲ製スルヲハシメ、其利益アルヲ察シ、

此地ニ繁息セシメ、今ハ四千五百萬「キロガラム」ヲ產出セリ「キルク」(即チ「コロッフ」)ノ栓子ニツキテハ、已ニ第三卷ニ記シタルカ如シ、○塞内牙ノ胡桃油モ、頗ル莫大ナルモノニテ、其實三千〇七十萬「キロガラム」ヲ出シ、其内ヨリ油ニ製セル高モ、五十六萬四千「キロガラム」ニ及フ「レウニオン」島ノ丁子ハ、元七十二萬八千「キロガラム」ヲ出セシガ、今ハ其二十分ノ一ニモ及ハス、其利益ノ減シタルナルヘシ、○「マルチキウエ」ニテハ、沙糖ニテ酒ヲ釀シ、火酒トナス、其高五百六十五萬九千「ヘクトリットル」ニ及フ、○交趾支那ハ、胡椒最モ地ニ適ス、稻米ト共ニ國ノ大利益タリ、近年養蠶ノ仕組ニ注意シナスト云、文明ノ開ケニ從ヒ、歐洲ノ衣食住、ミナ其度ヲス、メテ、一般ニ費消スル高ハ、増アリテ減スルヲナシ、歐洲ニハ之ヲ製作シ、之ヲ消費スルノ民ナリ、其元品ハミナ細、弗、米、及ヒ豪ノ諸沃地ヨリ輸入ス、其發明ノ初メ、歐洲ニ嗜好ヲ生セル際ニ於テハ、一時其出產ノ地少キニヨリ、價ヲ格段ニ騰貴スルニヨリ、人ミナ競フテ其利ヲ開キ、十年後ニ、其產出豐多ヲナセハ、其需用益廣マリテ、價格ハ年年ニ減スルヲ常トス、此ニ於テ、其物品ハ一ノ國益



ヲナシテ、一部ノ人民、其生意ヲ増スヲ得ルナリ、貿易ノ理ハ、其價ノ高貴ニテ、需用ノ狹カラシヨリ、其低減ニツキテ、供給益廣キヲ眼目トスヘシ、英佛人、屬地ニ物産ヲ興スハ、常ニ其地出產ヲ極メテ廉價ニ仕出シ、元價ト市價トノ兩利ヲ、本國會社ヨリ專權シ、價ノ平均スル日ニハ、已ニ共會社ニ巨大ノ富ヲナシテ、最モ下低ノ價ニテ、其物品ノ利ヲ保ツヲ、貿易ノ眼目トセリ、是英佛諸國ノ屬地ニ於ル、必ス其貿易ヲ制限シテ、自國ノ外ニ輸送スルヲ禁スル所以ナリ、自主ノ國ハ、此情宜ヲ常ニ洞知シテ、其隙ニ投スルノ機ヲ失フナカルベシ、

## 二十二日 朝雨午晴

午後ヨリ馬車ニ駕シ、南走スル十五分時ニテ、「オフスセル、ウエルトア」ニ至ル、即チ巴黎府ノ天文臺ナリ、○天文臺ニ至レハ、官長四人案内ヲナシテ、臺中ヲ示ス、望遠鏡ノ大サハ、英國ノ綠威ニ同シ、此臺ニテ、近三十年來發明セル星ハ、スヘテ一百〇六アリ、其他ノ望遠鏡數種アル内ニ、重サ四千「キログラム」ニ及フモノアリ、又一千八百六十九年ニ「フーコー」氏發明ノ、望日鏡アリ、時計ノ齒輪

ノ如キ仕掛ヲ以テ、日光ヲ逐ヒテ、鏡面ヲ轉旋セシム、他ノ一鏡ヲリテ、日光ヲ透シテ、此鏡面ニ映射セシムル器械ナリ、○往時「コンミュン」ノ亂ニ、賊ヨリ小銃ヲ打掛ケ、亂妨ヲナシ、其彈丸ニテ碎カレ、今ハ廢物トナリテ、壁ニカケタルアリ、前年佛國ノ亂ハ、普軍ノ禍ヨリ「コンミュン」ノ禍ヒ尤モ猛ナリ、文明ノ國モ、中等以下ノ人民ニ至リテハ、猶冥頑ニシテ驚悍ナルヲ免カレス、西洋各國上下ニ通シ、風俗美ナリト謂ハ、亦大ナル誤リナリ、○其境內ニ、約我三疊敷程ノ假木屋アリ、輕便ニ組立テ、長サ二尺五寸許ノ望遠鏡ヲ安ソス、其外電信線、觀象必需ノ具ヲ備フ、是ハ旅行シテ、佛國處處ヲ回り、測量ヲナサシムル用トテ、石造ノ窖中ニ備ヘ付タリ、此器械一組ニテ、價六千「フランク」、

天文、醫科、化學等ニ用フル鏡、其精ナルハ、必ス巴黎人ニ囑シ製ス、佛國又天文觀象ノ學ニ達ス、寔ニ文明ノ魁トナリ、歐洲ノ中心ナルヲ以テ、精微ノ學ニ於テ、常ニ他國ニ超ス、故ニ佛國ニ碩學ノ士多シ、仰キテ象ヲ天ニ觀ル、天文ノ學アリ、俯テハ法ヲ地ニ察ス、地理、礦山ノ學アリ、天ノ高キ、地ノ厚キ、之ヲ研究シテ、及ハサル惟恐ル、亦文明ノ文ナル所ナリ、東洋ノ古ヘ、天文學

夙ニ開ク、宣夜、蓋天、渾天ノ説、是ヲ數千年ノ今日ニ照シテ、未必シモ大誤アラス、人ミナ曰、堯舜ノ治ト、堯ハ羲和ヲシテ四隅ニ度セシム、度トハ測量ノ謂ナリ、其用意ヲ推スニ、亦歐州ノ小屋ヲ搬送シテ、處處ニ觀象スルト同シ、西洋ノ天文學ハ、<sup>ハビロン</sup>巴庇倫ノ時ヨリ其端アレヒ、<sup>ギリキ</sup>希臘ノ時ニ興リテ、中世ニ廢シ、今日ニ又興ル、堯ノ時代ハ、巴庇倫ニ先ツテ興ル、而テ後人佚情ニテ、之ヲ繼テ進歩セス、以テ今日ニ至リテ、殆ト天地ノ何物タルヲ知ラサルニ至ル、豈東西洋ノ人智ニ優劣アラシヤ、勤惰ノ二分レテ此盛衰ヲナセルナリ、夫人ハ天空氣ノ中ニ棲息ス、固ニ天文知ラサルベカラス、地ノ毛ヲ食フテ生活ス、固ニ地理知ラサルヘカラス、礦學ハ利益アリ、天文ハ無益ナリトテ務メサルハ、豈ニ文明ノ謂ナラシヤ、此ニ前ニハ礦山學校ヲ記シ、後ニハ天文臺ヲ記ス、宜シク文明ノ至リ、其術ニ於テ究メサルナキ實ヲ瞭スヘシ、此臺ニカ、リタル官員ハ、長官一人、天文家四人、並文教師一人、其他ハ種種ノ補助役ノモノナリ、年年ニ天文臺ノ統計ハ、計簿ヲ以テ工部宰相ト、外國ノ觀象局ニ報告スルナリ、



○「ロールト・デ・アスエー」ノ裁判所ニ至ル、此ハ佛國裁判所ノ首ニテ「セイソ河島」ノ上ニアリ、其建築ハ市街ヘ凹狀ヲ面シ、正面ニ廣キ、石階アリテ、禮拜堂ニ入ル、四百年前羅馬「カドレイキ」教全盛ノ時ニ當リテ、佛國ノ富強ヲ輝カシ造レル所ナレハ、其莊麗ナルヲ名狀スヘカラス、滿室ノ雕績、光華目ヲ眩ス、其結構ハ「羅馬法」ノ「アルチ」（彎弧形ノ柱立テ）ヲ輾シ柱トシテ、雕鏤ヲ盡サ、ルナク、壁トシテ藻績ヲ極メサルナシ、此ニ古來ヨリ酷罰慘刑ノ狀ヲ畫ク、大木ヲ抱カシメテ壓挫スルモノ、首ヲ斬リ飛スモノ、烙シ殺スアリ、燒キ殺スアリ、締ルアリ、裂クアリ、以テ後來ノ刑ヲ掌ルモノ、戒トス、裁判所ノ正堂ヲ以テ、禮拜ノ堂トナスハ、米歐各國ノ通例ナリ、蓋シ至誠天ニ誓ヒテ、訟獄ヲ判決スルニ起ル、且此堂ハ、年ニ一度ツ、議院ニ出席スル面面、此ニテ誓ヒヲナストナリ、○夫ヨリ裁判ノ廳ニ入レハ、此時正ニ夫ヲ殺セル婦人ヲ糾問中ニテアリケリ、裁判役五人ハ、正面ニ列席シ、檢事ハ左ニ坐ス、證人「ザエリー」（代言師）其前ニ分レテ席ヲ占メ、罪人ハ右ニ出テ、「ポリス」之ヲ護衛ス、英ノ裁判席ト位置小異アリ、此婦人ハ英國ノ生レニテ、佛人ノ妻トナレルモノナリ、歐洲ニテ夫ヲ弑虐セル婦

ハ人ハ其原因多クハ夫ノ財産ヲ貪リ之ヲ殺シテ其遺金ヲ占領シ而テ後ニ他ニ嫁スルノ慾情ヨリ出ル日本ノ奸淫ヨリ原スルト其情ヲ異ニス

西洋ノ裁判ニハ刑事ニモ代言師アリテ罪人ニ代リテ辯スレハ罪狀ニ紛冗ノ憂ヒナシ「ヂュリー」アリテ其情偽ヲ審聽シ是カ允諾ヲ待テ後ニ罪狀ヲ定ム冤枉ナカルベシ證人アリテ其事實ヲ當面ニテ保證ス誹誑ノ弊端ヲ繁クシ難シ必ス數人ノ裁判役ニテ聽ク偏聽ノ恐レナシ其法定ニ周備ナリト謂ヘシ然レモ此法ヲ日本ニ行ハントスレハ蓋シ亦難キモノアリ全國法律ノ學ニ通シ代言師免許ヲ與ヘテ法庭ニ出席セシムルヘキ人ナシ「ヂュリー」ヲ舉レハ官ヲ恐レテ唯唯スルニ過キス其強項敢言ノ者ヲ選スルモ法理ニ闇ク道德上ノ論ト葛藤ヲ繁クシ必ス互ニ相諍論シテ不用ノ地ニ言ヲ勞セシ證據人ニ至リテハ實ヲ以テ吐露スルモノナカルベシ其罪科輕ケレハ憎ミヲ隣里ニ得ル若重ケレハ怨ミヲ黃泉ニ獲ル是ミナ人情ノ尤モ畏ル所ナリ然ハ則西洋人ハ人情ナキカ是ハ然ラス西洋ノ十戒アル日本ノ五倫アルカ如シ十戒ノ其一ニ曰ク妄證スル勿レ裁判役ノ

前ニ出テ、眞實ヲ證認スルハ戒ノ一タリ、相習フヲ二千年、人ミナ以テ宣  
 ク然ルヘシトス、猶日本ニテ道德上ニ關スルヲハ、敢言シ顧ミサルモノ、  
 衆ニ悅ハル、如シ、而テ日本ノ習ヒニ於テ、人ノ難ヲ保隱スルヲ義トシ、計  
 テ以テ直トスルヲ憎ム、此等ノ風尙ヨリシテ、罪ハ隱スヲ義トシ、道トスル  
 多シ、安ソソ敢テ言ソヤ、東西洋ノ風俗毎ニ相反ス、此ニ類スルヲ多シ、西洋  
 ノ良法善制ヲ取テ、之ヲ東洋ニ行フニハ、其形跡ヲステ、其旨意ヲトリ、能  
 ク酌量シテ行ハサレハ、往往ニ柄鑿合セサルモノアリ、達者ハ必ス此ニ其  
 宜ヲ酌量スル所アルヘシ、

○夫ヨリ牢獄ニ至ル、此ハ「アリゾソ、デ、ラサソ」ト名ク、巴黎ニテ第一ノ大牢獄ナ  
 リ、其總積スヘテ二萬五千方「メートル」約我七千五百坪、共造營ハ、大約英國漫識第二  
 十七卷ノ牢獄ニ似タリ、三階ノ屋ニテ、七面ヨリ輻輳ス、其中央ニ說教ノ壇ヲ  
 ニ出、是カ爲メニ楊ヲ層層ニ列セリ、法僧アリ來リテ說教ヲナス、人民ノ宗ト  
 スル教ニ種種ノ異アレハ、法壇各各ニ設ケヲ異ニス、然レモ佛國ノ宗教ハ、羅  
 馬「カドレイキ」教ナル故ニ、是ヲ正壇ニ設ケテ、其他ノ法壇ハ、別房ニ設ケテ小



巴黎大審院



同牢獄





ナリ。○此牢ニハ、死罪ノモノヲ入レス、大抵入牢一年以下ヲ限ル、是ヨリ以上ハ、別ニ牢アリテ、此ニ移ス、即輕罪人ノ懲役場ナリ、此ニ入牢スルモノ、其群居ヲ好ムモノハ、大室ヲ與ヘ、獨居ヲ欲スルモノハ、小室ヲ與ヘテ錮鎖ス、在牢中ニハ、種種ノ苦役ヲ課ス、其長スル所ニ從フ、衣服ヲ縫セ、履ヲ造リ、引火籤ヲ製シ、彫刻ヲナス等、百藝ミナ宣シ、一日ニ定課アリ、而テ其給料ヲ一「フランク」ト定メテ、半ヲ政府ニ收メ、半ヲ罪人ニ給シ、出牢ノ時ニ齎シ出シム、牢室ノ數、大小五百區アリ、現ニ入牢ノ罪人、一千百人アリ、一ケ月ニ一度ノ洗浴ヲ許ス、入湯室アリ、甚タ清潔ナリ、書庫、及ヒ讀書ノ室モアリ、罪人ノ望ニマカセテ、書房掛リヨリ書ヲ借シ與ヘテ讀マシムル、總テ當牢ノ入費ハ、年ニ八百萬「フランク」ヲ用フ、

附錄「エルビユー」府羅紗織場

○本日ニ伊藤副使「エルビユー」ヨリ歸ル、

「エルビユー」府ハ、「セイソ」河ノ下流ニヨリ、「セイソ」アンヘリユール州ノ南部ニアリ、人口二萬四千アリ、此州ハ、英吉利岔ニ濱セル地ニテ、「セイソ」河ノ、海峽ニ



注ク所ニアリ、製作貿易共ニ昌盛ナリ、「エルビュー」其地タルヤ、林岡ノ麓ニテ  
 「セイソ河ノ左ニ位シ、對岸ノ地ヲ「サソウカーバン」ト云フ、其河ニ數橋ヲ架ス、其  
 尤ナルヲ「ボン（シヨスペンギユ）」ト名ク美懸橋ノ義ナリ、一千八百六十二年「エル  
 ビュー」府ニ於テ、<sup>イルマンザイ</sup>諾曼的州ノ人民會議ニヨリテ、商賈利益ノ爲メ架セル所ナリ、  
 且此橋ヲ架シテ、往來運輸ヲ便ニスルハ、特ニ「エルビュー」府ノ利益ノミナラス、  
 近鄰ノ耕作ノ爲メニモ、亦大ナル利益ナリ、○此地ハ、往古ハサシテ有名ノ地  
 ニモアラザレ、只羅紗ヲ織成ス、ハ、古來ヨリ盛ナリシガ「プロスタント」教  
 禁制ノ令ヲ下セシヨリ、其後ハ羅紗製造モ、大ニ衰ヘタリシ、二千八百年初  
 メニアタリ、漸ク舊ニ復スルヲ得タリ、千八百〇二年ニ拿破侖第一世曾テ  
 此地ノヲヲ談セシ、必ス一遊シテ人民ノ勉強ヲ見ルベシト謂シ、アリキ、  
 此地ニアル羅紗、及ヒ絹製造場ノ盛ナルヤ、蒸氣機械ノ數九十一、其力ヲ平均  
 スルハ、一機械ニ付、凡七千四百四十九馬力、之ヲ盛ニ運スルハ、殆ト千馬力  
 ニモ及フヘシ、又水力器械五ヶ所アリ、此力ハ平均二十馬力ヨリ、二十五馬力  
 ニ至ル、此等ノ機械、ミナ他方ヨリ輸入セル、獸毛ヲ羅紗ニ製スルニ用フルモ

ナリ製造場ノ中ニテ尤モ著名ナルハ「ヒクトルガランドン」テラドールセ  
ネロウエル「シヤルルフラビニ」等ヲ首トシテ其他枚舉ニ遑アラス○即  
今市街ノ繁昌ニシテ家屋ノ多キハ皆羅紗製造ノタメニ生活ヲ計ルモノナ  
リ其徴ヲ舉シニハ染房ヲ業トスル家二十一軒絲線ヲ業トスル家十二軒機  
械ヲ用ヒス人力ノミヲ以テ羅紗ヲ織ル家五十軒機械ヲ製スル鍛冶屋三軒  
瓦斯製造家一軒ニテ其瓦斯ノ高四十萬メートル<sup>方立</sup>方ヲ此般ノ家及ヒ郊ノ内  
外ニ分送ス○此地ニ於テ輸入スル所ノ羊毛ノ價ヲ平均スルキハ一年ニ付  
四千三百萬「フランク」是全國羊毛ノ入五分ノ一ハ此府ニ用フルナリ此内佛  
國內地并ニ所屬地ヨリ輸入スル所ノ毛千六百萬「フランク」日耳曼ヨリ八百  
萬「フランク」豪斯多利亞ヨリ千二百萬「フランク」露西亞ヨリ二百萬「フラ  
ンク」西班牙ヨリ二百萬「フランク」土耳其諸國ヨリ百五十萬「フランク」其他各  
地ヨリ九十萬「フランク」○製造場ニ於テ從事スル所ノ職人凡二萬四千八十  
人見積リ平均シ毎年出ス所ノ產物ノ價八千五百萬「フランク」ヨリ九千萬「フラ  
ンク」ニ至ル且製造ノ爲メニ消却スル所ノ物品ヲ概算スルニ油二千五百萬

「キロガラム」我二十萬石ヨノ高ヲ費ス、此油ハ多ク英國、及ヒ佛ノ北部ヨリ輸入ス、○市中ニ一細流アリ、此水ハ染物ノ用ニ適當ス、其他人工ニテ穿ツ所ノ井九ヶ所アリ、一分時間ニ出ス所ノ水三百「リットル」ヨリ、四百「リットル」ニ至ル、此水ヲ染物ニ用ヒタル後ハ、市中往來ノ傍ヲ流レテ、竟ニ「セイソ」河ニ注キ流レ逝ク、



第四卷十八 巴黎府ノ記七

一月二十三日 晴

十一時ヨリ駕シテ「キリストツフル社」ノ金銀銅器製造場ニ至ル「コンセルワ  
トワル」ノ近街ニ自鑄ノ大銅像ヲオキ標トス、歐陸地第一ノ名譽アル製造場  
ニテ、英國北明翰（ベイミン・ハム）ノ「エルキンストン社」ノ製造場ト相比較スルニ足ルヘシ、日ニ  
職人ヲイル、男女總テ八百人、平均ニ一日ノ給金八百弗ヲ費ス、蒸氣ノ輪ハ、  
十馬力ナルモノ一箇、八馬力ナルモノ一箇アリ、

英佛ノ製作家ヲ評スレハ、英ハ人力ヲ以テ器械ノ及ハサルヲ助ケ、佛ハ器  
械ヲ以テ人力ノ及ハサルヲ助ケ、ルト謂ヘシ、英ニ鐵ト石炭トヲ出ス、夥  
シ、人心自ラ鐵ヲ容易ニ用ヒテ、石炭ヲ濫リニ燒ク、故ニ倫敦ヲ首トシテ、各  
都邑ニ至レハ、石炭ノ烟ハ天ヲ薰シ、雲霧モ爲メニ黒ク、往ク、處ミナ製鐵場  
アリ、而テ彫刻、畫繪、文錦、嵌鏤ノ纖細密緻ノ工ニ至リテハ、是ヲナスモノア  
リト雖モ、其長スル所ニ非ス、諸器ノ精細ナル工ニ至テハ、必ス佛人以太利

人ヲ雇フテナサシム、佛國ハ然ラス、石炭ト鐵トヲ產出スル、頗ル多ケレト、  
 内國ノ用ヲ足ラスニ止ル、巴黎ノ府中ニ、煤烟ノ天ヲ薰スルヲミス、其室内  
 ノ爐ニハ薪ヲ燒ク、薪材ハ在在所所、田野ミナ之ヲ植エ、森林ノ法制嚴ニシ  
 テ、秋冬ノ際ニ林ヲメクリ、其繁ヲ殺シ、其枝ヲ洗シテ輸シ出ス、英國ニテ樹木ヲ種ル少シ  
 蘭、白、北獨逸モ亦然リ、其製作ハ多ク人力ヲ以テナス、之ヲ補助スルニ、便  
 利ノ器械ヲ以テスルノミ、必ス大力ヲ要スル事ニシテ、始メテ瀛器ヲ設ケ  
 タリ、故ニ英國ハ、平均十一口ニ一馬力ノ器械ヲ具有ス、佛國ハ九十五口ニ  
 一馬力ニアタルト云、佛人モ紡績織組ニ長ス、ミナ人力ニテ製ス、家家ニ之  
 ヲナス街アリ、里昂府ノ織絹モ亦然リ香奩、香具、金銀ノ雕鏤、玉石玻璃ノ器、剪綵ノ花等、  
 ミナ人民ノ五指下ニ成ル、其精工ハ歐洲ニ艶稱セラレテ、無雙ノ評アリ、全  
 ク英國ト其趣キヲ異ニス、

此場ニハ、銀、銅、白銅、黃銅等ニテ、百般ノ家什ヲ製シ、濕電ノ仕掛ニテ、金銀ヲ鍍  
 シ、又傍ラニ銃劍ヲ製ス、佛國ノ銃劍ハ、英米ト異ニ、又獨逸トモ異ナリ、各國工  
 藝ヲ競テ、他國ノ餘唾ヲナメルヲ耻ツ、必ス其國ニテ創製セシモノヲ

用トナス、歐洲自主ノ民、獨立ノ氣象ヲ養フ、宜ク此氣慨ナカルヘカラス。○此  
場ニテ銀銅ノ製造ハ、ミナ英國北明翰府ハーミントンニテ視タルト大同ナレトモ、亦其異モ  
少カラス、英國ニテハ、諸器皿ヲ鋼鐵ノ型模ニ打込ミテ製スルモノ多シ、此場  
ハ重ニ「ゴッタベカ」ノ型模ヲ以テ、「コッタベカ」ノ「ハ」已ニ第三 濕電法ニテ製ス  
ルモノ多シ、凡ソ「ゴッタベカ」ノ型模ヲ青礬水中ニ蘸シオキ、電氣ヲ通スル「十  
五」分ナレハ、厚サ一分餘ノ銅皮ヲナスヘシ、銀ヲ濕電ニテ鍍スルニハ、五分時、  
乃至十分時ニテ成ル、金ハ尤モ遊離シ易シ、十五秒時ニテ鍍金已ニ成ル、每一  
日ニ金銀器ヲ焼付ル「七」千箇ヲ平均トスルト云、○我邦ノ鑲嵌ガウレンシツボウ七寶塗ノ細  
工ハ、西洋ニテ劇賞トナル「已」ニ英國北明翰府ハーミントンノ記ニテ知ラレタリ、此場ニ  
テモ頻リニ之ヲ模造ス、場内ニ、手本ノ爲メニ蓄藏セル支那ノ七寶塗ト、日本  
ノ七寶塗トヲ並ヘ、相較シ、我一行ニ示シテ「イフ」日本ノ七寶塗ハ、支那ヨリ  
細工殊ニ美ナリト、我國ニテ七寶塗ハ支那ヨリ傳ヘタル術ナルヲ以テ之稱  
ヲ賞シ其價ニ大差アリ、西洋ニテハ其價正ニ相反ス、稱  
嘆シヌ、○此場ニテ日本ノ禽鳥畫帖二冊ヲ、金百弗ニテ買ヒタリトテ藏シ以  
テ職人ニ其畫ヲ學ハシメ居タリ、之ヲ審視スレハ、嘉永ノ末ニ、名畫手ノ筆ニ



テ寫シタル極彩色ノ禽鳥帖ヲ何人ナルカ複寫ナシテ秘藏セルモノニテ其  
 内ニハ嘉永癸丑ノ歲米人ノ示セシ外國ノ異鳥モ書キ入レタリ然レモ寫手  
 ハ格別畫ニ巧ミナラサルト覺ヘ筆跡甚タアシ、只其尤モ寫生ニ近キヲ以  
 テ之ヲ手本トシテ學ヘリ西洋ノ人ハ兎角ニ寫生畫ヲ賞ス運筆ノ發揮ヨリ  
 學ヒイラサルニヤ其日本畫ヲ臨摸スルヲミルニ西洋ノ執筆法ニテ竹幹草  
 莖等一揮毫ニナリテ運筆ノ妙ニ巧拙ヲ分ツモノヲ摸シ幾度モ塗りテ其形  
 ヲナシ或ハ定規ヲ用ヒテ共同シカラフヲ希望ス笑フヘキニ似タレモ其  
 困苦勉勵ニ至リテハ實ニ感スルニ餘リアリ○ソウガン鑲嵌ノ法ニ至リテハ日本人  
 ニテミレハ佛ニテ贗作セルモノ却テ眞ヨリ美ナルヲ覺フ其法タル初メ銅  
 器ニ雕刻ヲナシタルモノヲ型ニテ刻セ取テ其雕紋ニ於テ先ツ銀ヲ鑲嵌セ  
 ント欲スレハ其鑲嵌スヘキ部分ノミヲ殘シテベニオ國亞細亞ノ「ワーコン」  
 ト云漆ニテ他ノ面ヲ塗り隠シテ濕電法ニテ銀ヲ鍍スルヲ多時間ヲ以テス  
 レハ其雕刻ノ凹處ニ銀ヲ填メテ高ク凸起ス因テ其面ヲ削リテ平カナラセ  
 メ再ヒ金ヲ錯ヘ鍍スルニモ同法ニテ填嵌シテ而後ニ磨琢ヲ加ヘ成就スレ

宛トシテ一時ニ鑄セルカ如シ、鑲嵌ノ畫樣、必ス日本ノ畫樣ヲ用フ、竹ニ雀アリ、或ハ四君子等ヲ以テス、佛人殊ニ繪ニ工ミナリ、日本ノ畫ヲミテ、其位置按排ノ妙ヲ稱シタイフ、其巧思神ニ入り、實ニ西洋人ノ思ヒモヨラサル落想ヲナスト云ナリ、北明翰ノ「エルキントソ社」ト此「キリストッフル社」ノ「コッタベカ」摸寫法、日本ノ鑲嵌七寶ノ摸造、第ハ維納博覽會ニテ劇賞ヲ得タリ

○啞院ハ大裁判所ノ西南ニアリ、「イノステチュ」ヨ、デ、ハスト」ト云、一千七百三十四年ニ「シャール・ユッパ」ヘンイル」氏ノ建タル校ナリ、此人ハ葡萄牙出生ニテ、啞人ニ教育スルヲ苦心思慮シテ、其術ヲ研シ出シ、諸國ヲ回歷シテ、學校ヲ取立タル人ナリ、此人子ナシ、是ヲ以テ後ニ遺シテ、世界ノ啞兒ヲ救ヘリ、○此校ノ建築頗ル壯大ニテ、高サ五層、門庭ニ一樹アリ、天橋トシテ雲ニソヒエ、其根幹四人ヲシテ合抱セシムヘシ、歐洲ニ喬木少シ、如此キ樹ハ、以テ希有ノ大木トス、校ノ建築高ケレト、此樹ハ特ニ屋上ヲ抽テ、枝ヲ交ヘタリ、校中ニ生徒五百人アリ、然レモ是ヲ以テ限リトスルニハ非ス、有産ノ家ニ啞子アルモ、亦此ニ入レテ教フ、學費ハ一ケ年ニ一千「フランク」ヲ額トス、貧家ノ子ニハ學費

ヲ収メス〔授クル所ノ業ハ〕指狀ヲ以テ言ニカヘ、文字ヲ教ヘテ書ヲ讀ミ文ヲ  
 ツヽラシメ、夫ヨリ導キテ木ヲ斲リ、地ヲ墾シ、樹藝ノ法、雕刻ノ術ヲ授ケ、石像  
 印板ヲ刻シ、書籍ヲ製シ、標紙ヲ製シ、畫圖ヲ寫シ、剪綵花ヲ作ル等、甚タ多シ〔校  
 中ニ場ヲ分ツテ製作ヲナサシム、其給料ヲ定メテ、其半ハ政府ニ収メ、其半ハ  
 出校ノキニ與ヘテ、以テ家業ヲ起サシム、在校ハ三年ヲ一期トス、大抵十七八  
 歳ニナレハ、業成リテ校ヲ出ルト云、○校中ニ大ナル庭園アリ、以テ遊歩ノ地  
 トシ、又此ニテ樹藝培養ノ術ヲ教ユ、其他ハ米國ニテ見タル所ト異ナルナシ、  
 但シ此校ノ規則ハ、時代最モ先ニ成リタル、故ニ指狀ニテ言語ニカヘルニ腕  
 ヲ揮ヒ身ヲ動カシテ、甚タ勞スルノミナラス、其啞タルヲ認ム、米國ニテ教ヘ  
 ル所ハ、五指僅ニ動ヒテ、意ハ已ニ通ス、傍人ヨリミテ、其啞ナルヲ知ラス、只以  
 テ沈黙ノ人トスルノミ、是新發明ノ勝リタル所ナリ、

此歸路ニ盲院ニ至レ、休業日ニテ他日ヲ期シテ歸リ去レリ、

二十四日 陰

二十五日 晴



午後二時ヨリ、盲院ニ至ル、盲院ハ之ヲ「インステチューション、デ、プライン」ト云  
第一世拿破侖ノ墓ノ近傍ナル街ニアリ、佛國ノ風習、古來ハ盲者ヲ輕蔑スル  
一甚タシク、宴會ニ盲人ヲ招キ、種々ノ狀態ヲサセテ玩弄トナシ、座興ヲ助ケ  
タリ、佛人「ウアレシタイン、ホーイ氏常ニ之ヲ哀レミ、イカニモシテ教育ヲナス  
工夫アラント、他年思ヒヨツミ、卒ニ凸字法ヲ發明シ、一千七百四十五年ニ、會  
社ノ力ヲカリテ、此校ヲ建タリ、今ニ其發明ニテ製セル、山川國界ヲ雕出シテ、  
地理ヲ探ラシメシ地圖ハ、ミナ校中ニ存セリ、此舉甚タ國人ニ稱セラル、千七  
百九十一年ニハ、官立學校トナリ、啞院ニ合并シタレヒ、幾クナクシテ又分チ、  
今ノ校ハ建立ニナリタリ、○屋造ノ美ハ、啞院ニ一等ヲ讓レヒ、其廣サハ略同  
シ、男女ヲ分ツテ寮ヲ定ム、其費ハ政府ヨリ出セヒ、有産ノ家ヨリハ、學費ヲ出  
サシム、衣服ハ費中ニテ製セルヲ衣ス、衣襟ニ一定アリ、男ノ服ハ、木棉ニテ藍  
ト白トノ小縞ヲ表衣トス、女ハ、黒ト茶トノ錯セ織リナリ、校內ノ接遇ハ、貧富  
ニテ等差アル事ナシ、大抵八九年ニテ出校ス、

學校ヨリ生徒ニ衣服ヲキセルハ、軍學校ノ外ニ此例ナシ、且其服甚タ麗ナ

リ、蓋シ盲人ノ不熟ナルモノハ、衣ヲ汚ス多キヲ以テ、就業中ニ之ヲキセル所ナラン

盲ニ書ヲ讀シムルハ、凸字ノ法ヲ用フルヲ、各國ノ普通ナリ、此校ニ銅製ノ地球儀アリ、紙ニ凸稜ヲ起シテ畫キタル、地圖モ數様アリ、巴黎府ノ圖ヲ板ニ雕タルアリ、スヘテ是ヲ探リテ按知セシム、蓋ミナ「ホース氏ノ發明ニカヘル、抑育盲ノ趣意ハ、第一ニ教門ノ經文ヲ探リ讀シメ、常人ト同ク眞神ノ德ヲシリ、人タルノ道ヲ知ラシメルニアリ、兼テ各種ノ書ヲモ讀マシム、第二ニ其生業ヲ授クルニ至リテハ、目ニ盲スルモノハ、耳ニ聰ヲマシ、指ニ慧ヲマスヲ以テ、音樂ヲ教ヘ、婦人ニハ唱歌ヲ兼教シ、說教ノ伶人ヲツトメシムルヲ以テ主トス、其他盲男ニハ、轆轤ノ細工、麥稈ムギワラヲ編ミ、綱ヲ結ヒ、活字ヲ填シ、藤榻フジ稈ワラニ麥稈ムギワラヲ編ミ、席ヲ織ルノ類、盲女ニハ組織ノ技藝ヲ授ク、第三ニハ生涯ヲ送ルニ、務メテ不自由ナカラシメンタメ、坐臥、飲食、筆算等ヲ慣ハシム、第四ニハ人間交際ニ於テ、務メテ不足ナカラムシルニアリ、○盲男ノ寮ニハ、スヘテ二百餘人アリ、此日ハ正ニ運動ノ頃ニ至リケルニ、學寮ノ間ナル板ノ廊中

ヲ二、人ツ、手ヲ連ネテ歩セリ、大抵十歳前後ノ盲兒多ク、未タ校中ヲ諳ンセ  
サルモノハ、兩側ノ壁ヲ手執リテ歩ス、然レモ頗ル活撥ニシ、屈スル容ナシ、ミ  
ナ兩側ヲ往來スルヲ以テ、中央ニ一人ノ歩スルモノナシ、此時我一行ノモノ、  
セント寮ノ戶外ニ立チタリシニ、幾人トモナク、皆人其運動ヲ躲避  
來リ觸ル、ヲ以テ、遂ニ中央ニ立テ見物セリ、○夫ヨリ諸業ヲナス所ヲ回  
ル、諸工作ハ畢竟精工ヲミサレモ、其業ニ習熟シ、出校ノ後ハ、家ニアリ終日工  
作シ、以テ自ラ活スルニ足ルト、一室ニ寫本ヲナス所アリ、一盲人左手ニテ書  
ヲ按シ、右手ニテ紙ヲ突キ、字ヲ寫ス甚タ神速ナリ、左右手一時ニ、兩ノ神經ヲ  
分運ス、亦驚クヘシ、又盲人ニ尋常ノ文字ヲ書セシムル器械アリ、其狀ノ大略  
ハ、半弧ノ黃銅ヲ臺ニ緊釘シテ、其面ニ孔ヲ穿チ、每孔ニ長針ヲ貫ク、三十餘、  
其末ハ臺ノ中央ニ於テ、方形ニ孔ヲ穿チテ、此ニ攢マラシム、針ノ中ヲ空クシ  
テ、墨汁ヲイレ、之ヲ突ケハ、針末ヨリ墨汁一點ヲ沁シ出ス、針頭ニハ球形ノ帽  
アリ、盲人其臺ヲ紙上ニ安シテ、定規ヲ定メテ、其針頭ノ帽ヲ五指ニテ按シ  
テ、敲ク、（ヒヤ）洋琴ヲ鼓スルカ如シ、即チ紙上ニ細點ヲ以テ、字畫ヲ沁シ出シ、文ヲ  
ナセリ、其器械ノ製巧ミナリト雖モ、米國ニテ用ヒタルモノ、簡易ニ讓ルタ



覺フ、○盲女ハ一百餘人アリ、女教師アリテ之ヲ授業ス、授クル所ノ業ハ、讀書、算筆ノ外ハ、歌謠ヲ首トス、其他ハ絲ヲ以テメリヤスヲ組ミ、諸般ノ編組ノ布ヲ作り、活字ヲ摺リ、網ヲスク、又針黹ノヲモ教フ、出校ノ後ハ、終日此操業ニ從事シ、常人ヨリハ專一ニ勉勵スルニヨリ、其成果ヲ増シテ、自然ニ一巳ノ自活スル業ヲウルモノナリ、殊ニ盲女ハ姪慾ナキユヘ、説教ノ樂師ニハ恰好ナリト云、盲女モ亦運動中ニテアリシニ、甚タ沉靜ニテ、男生ノ活撥ナルニ似ス、教師イフ、婦人ノ明ヲ失ヒタルモノハ、自ラ心ヲ屈シテ、更ニ自主ノ氣慨アルナシ、衆人ニ交ルモ、自ラ羞愧シ、婚嫁シテ子ヲ育スルノ責任ニタヘサルヲ知リ、其念ヲ止メテ奮發ノ氣ナク、往往ニ精神ヲ傷シメ、多病羸弱ナルモノ多ク、出校ノ後ハ、婚シテ家ヲナスモノ、千人ニ一モナシ、憐ムヘキノ甚シキモノナリ、男ハ是ニ異ナリ、其氣象自ラ不屈ニテ、出校ノ後モ、妻ヲ娶リテ家ヲ起スモノ多シト云、凡ソ男女明ヲ傷リ、已ニ不治ト診定シタラハ、一日モ盲院ニ入ラシムルヲ要トス、一日ノ延遷ハ、多日ノ苦ヲ増シ、荏苒スレハ盲癱ヲ生シ、自主心ヲ失ヒ、終身ノ難義ヲ引起スモノナリ、○盲女ニ木棉ノ染絲ヲ以テ色ヲ排シ

テ、種種ノモノヲ編ミ成サシムルヲ教ユ、工藝ノ秀タルハ、衣ニ紅布ノ片ヲ縫シ付ケテ賞トス、其製セルモノヲ陳羅シテ示セシニ、頗ル巧ナルモノアリ、然レモ熟視スレハ、一二ノ誤組セル所アルヲ免レス、又精細ノ工ヲナスニ至ル能ハス、五年前ニ歐洲ニ公布セルモノアリテ、蒸氣ヲ用ヒスシテ、是ニ換ル重力ノ器械ヲ作り、盲人ニ字ヲ書シ、彩色ヲ施スノ法ヲ發明スルニ至ラスハ、未タ開明ノ世界ト云難シト、是此公告ノ後ニ發明セルモノ歟、○此日樂堂ニ於テ、盲男ニ樂ヲ調シ、盲女ニ歌ヲ諷シテ、數閏ヲ奏セリ、玲瓏縹緲トシテ、他ノ樂ヨリ、殊ニ清穆聞ヘキヲ覺ヘヌ、盲人ノ音樂ニ聰慧ナルハ、實ニ天ヨリ此職業ヲ命セシモノ、如シト、西洋ニテモ稱美スルトナリ、周公ノ制ニ、樂官ヲ瞽師ニ託ス、眞ニユヘアルナリ、○此堂ニ出ルモ、男ハ獨歩シ來レモ、女ハ教師首ニ一人ノ手ヲ牽キ、他ハ魚貫シテ來ル、西洋ノ盲女ハ、氣象殊ニ弱ナルヲ覺フナリ、○生ナカラニシテ盲セルモノハ、是ニ教ヘルノ初メハ、甚タ澀ケレモ、後ノ成業ハ優劣アルヲナシ、又佛國ニテ盲トナルモノヲ計較セル數ハ、二千人ニ一人ノ平均ナリト云、○食堂ヲ一見ス、匙ヲ以テ吸ヒ、又ヲ以テ食ヒ、刀ヲ

以テ切り、食ヲナス。ト他ト異ナルナシ、只初メ其法ヲ教ヘルノミ、

二十六日 晴

二十七日 晴

二十八日 晴更ニ寒ヲ増ス

當國「プロテスタント」教會ノモノ旅館ニ來リテ、大使ニ謁見シ、「スピーチ」ヲ演ス、大使之ニ答辭アリ、

二十九日 陰寒

三十日 雪降ル

三十一日 雪晴

夕ニ諸省ノ長官ヲ招宴ス

二月一日 晴

二日 雪晴

「ボアデナロン」ノ苑ヲ散駟ス、此苑ノ光景ハ、己ニ前ニ記ス、此日ハ雪後ニテ、一ノ風趣ヲシヘタリ、○此苑ノ近地ヘ、新ニ一ノ禽獸園ヲ設ケ、鳥獸ヲ集ムル頗





ボクシ公苑



同所吹上ノ瀑



ル備ル、駝鳥ニ車ヲ服シ、四人ヲ牽キテ走ラセルヲミル、又一室ニ鶏ヲ養フヲミル、圓キ臺ニ層層ノ棚ヲ作り、格格ニ仕切りテ、一鶏ツ、ヲ埒セシメ、畜養スル人一名アリ、乳酪及ヒ牛乳ヲ器盂ニモリ、毎鳥ヲ執ヘテ、其嘴ヲ開カシメテ、其液ヲ注キコミ、臺ヲ圓環シテ飼ヘリ、謂フ是ハ近年ノ發明ニカ、ル、如此クシテ養ヘハ、卵充實且大ニシテ多ク産スト、佛國近年鶏卵ノ産高ヲ増進シタルハ、此術ニヨルモノ歟、

三日 陰

四日 陰

「プロフ<sup>エ</sup>ツツル<sup>ル</sup>モリス<sup>ス</sup>、プロック氏ヲ訪フ、<sup>後一再訪問ス</sup>佛國ニテ高名ナル經濟

學士ナリ、會計學ニ長シ、著ス所ノ政治字書、世ニ稱セラル、

五日 陰リ大霧夜雨

六日 陰

七日 陰

八日 陰リ雪霽



九日 雪尙已マス

「フロフェツル」フロツク氏ヲ招宴ス、

十日 陰

午後ヨリ蜂蜜王社ノ香水製造場ニ至ル。○此場ハ、巴黎ノ東南ナル郭外ニアリ「サンテニス街」ノ三蜂ヲ畫キテ記號トス、場内ニ職人ヲイル、男女百五十人、乃至二百人ナリ、其給金ハ勞動スル十二時間ニテ、男ハ三「フランク」半、女ハ二「フランク」ヲ給ス、但シ毎日、正午ニ一時ノ休ヲ與ヘテ食ヲナサシム、西洋ニテ傭工ノ勞動時間ヲ定メルヲ、大抵此ニ倣フ、一歳ニ製スル所ノ香水、石鹼、スヘテ原價二百萬「フランク」ニ及フト云、

香水ハ、百般草木ノ花實ヨリ、其香粉ヲ分離シテ、水ニ和シテ用フ、香ヲ取ルニハ、黃銅、或ハ銅鍋ヲ用ヒテ、蒸餾ノ術ニテ収メトルナリ、初メハ香料ヲ「アフシト油」或ハ橄欖油ナドニ漬シ、香粉子ヲシテ油ニ沁シ入ラシメ、其油ヲ再ヒ「アルコール」ニイレテ引分ケ、其「アルコール」ヲ蒸餾シテ香ヲ収メ、水ト共ニ瓶ニ藏ス、銅製蒸餾罐ヲ八九箇設置セリ、此ヲ觀ルルモ、其法ヲ詳ニ説キタレモ、密閉

シタル罐内ノ伎倆ナレハ、詳カニ了解シ難シ、凡香水ヲトル原種ハ、四十餘ニ  
スキス、是ヲ純香水トナシ、大玻璃瓶ニイレ、密封シテ場屋ノ最上層ニ藏ス、此  
室ニ入レハ、密封嚴ナレト、猶香ヲキク、香ノ尤モ烈ナルハ、麝香ニ及フモノナ  
シ、其甚タ烈ナルヲ以テ、特用シ難シ、只調和ノ劑ニ供スルノミ、花卉ヨリトリ  
タルモノ尤モ艷美ナリ、中ニモ印度ノ花卉、最モ芳香アリ、香料ノ原品ヲ、馬耳  
塞兒港ヨリ輸入スル、甚タ夥シ、日本ニモ之ニ適スル產物ハ多カルヘシ、日  
本ニテハ香ヲ用ヒルニ、其雜質ヲ并セテ用フ、西洋ハ只其香粉子ヲ収メテ調  
合ス、是其以テ艷美ナル所ナリ、

香膏ハ、凝結セル肉脂ニ木油ヲ和シ、温火ニテ煮テ、香ヲ和シ、カゲボシ壺ニモレハ、即チ  
又柔軟ナル凝脂トナル、「ウアニー」ト云、香草アリ、其莖ヲ蔭乾ニシタルヲ、石ノ

「ロール」ニテ糜爛シテ、香膏ニ和スルナリ、香膏ハ西洋○石鹼ハ處處ニ製作ス

レト、此場ノ製スル所、最モ精品タリ、其製作スル伎倆ノ一般ヲ示セル、大略左  
ノ如シ、牛脂若クハ豕脂ノ精製ナルモノニ、炭酸曹達ト、小量ノ石灰ライムトヲ和シ

テ、大鐵釜ニイレ、文火ニテ煉ル、煉リ畢リテ、長サ六尺、徑一尺二三寸、厚サ三尺

ノ方染ニ凝固セシメテ、其乾燥スルヲ待ツ、約一百日ヲ經ルノ後ニ、截テ小塊トナシテ型ニ入レテ打固ム、其精ナルハ、以前ノ大塊ヲ截テ「ロール」ノ仕掛ニテ削リ、薄片トナシ、香ヲ傳ルモノハ、之ニ香水ヲ撒シ、然ル後ニ石臼ニイレ、器械ヲ以テ舂ク、更ニ器械ノ内ニ盛リテ、強ク壓攪スル、多時間ニテ、其質ヲシテ、稠密軟熟ナラシム、此受器ニ機關アリテ、之ヲ振レハ、器内ノ石鹼、傍ナル孔ヨリ壓出スル、巨麴ノ如シ、之ヲ取テ、其煉熟ノ都合ヲ檢査シ、其孔ヲ閉チ、更ニ側ナル長方形ノ口ヨリ押シ出セハ、前ニ輪刃アリ、回リテ、是ヲ三四寸ツ、ニテ切り落ス、其片片ヲ型ニ打込ミテ、文字ナトヲ印起シ、婦人ヲ役シテ、其周圍ヲ削リ、紙ヲ以テ包ミテ、紙函ニ入レ封ス、是ヲ最上ノ石鹼ト云、其價十二ニテ十五「フランク」ヲ上トス、

石鹼ノ製造ハ、歐洲ニテハ、紀元前ノ古代ヨリ發明シ、貴賤ヲ論セス、皆之ヲ消用シ、洗濯用アリ、沐浴用アリ、藥用アリ、文明ノ進ムニ從ヒ、清潔法モ進ミ、石鹼ヲ廢消スル益多シ、因テ石鹼製作ノ多寡ニテ、國ノ文明ヲ差等スルニ至レリ、日本ハ東洋ニテ清潔國ナレト、古ヨリ石鹼ヲ發明スルヲナク、今ニ



至リテ石鹼ヲ用フ<sub>レ</sub>之ヲ製スルヲ知ラス、氣風ノ相異ナル如此キハ、奇ト云ヘシ、西洋ニテ石鹼ヲ製スル、其方甚タ多シ、之ヲ要スルニ、曹達「ライム」ヲ油ニテ煉ルノ術ニ外ナラス、米歐ノ鄙ニテハ、木灰ヲ水ニ浸シ「カリ」即チ<sub>ア</sub>沸ヲトリタル沈澱ノ渣滓ニ、獸脂ヲ和シテ、軟石鹼ヲ作り、鹽ヲ之ニ和シテ、凝固セル石鹼トナストナリ、西洋ハ植物ノ油高價ナリ、若シ日本ニテハ獸脂ニ代用スルニ、植物ノ氣發油ヲ以テセハ、更ニ良質ノ石鹼ヲ得ルヘシ、近年西洋ニテ曹達ノ製造容易ニナリ、因テ石鹼ヲ製スル<sub>レ</sub>モ、亦容易ニナレリ、然レ脂油ノ乏シキニ苦シム、精良ノ石鹼ハ「オリーフ

油ヲ用フ、其他胡麻油、芥油モ亦可ナレ<sub>レ</sub>、ミナ高價ナルヲ以テ、近年獸脂ヲ精製スル法ヲ發明シテ、之ヲ用フルト云、

香粉ハ、稻米ノ粉ヲ以テ製シ、之ニ香水ヲ撒シテ薰セシム、白鉛ハ屋ヲ塗ルノ用タリ、之ヲ「オキサイド、レット」ト云、人身ニ害アリトテ畏ルヘナリ、凡金屬ノ内、錫、汞、亞鉛ミナ以テ白粉ヲ製スヘシ、汞ハ大毒アリ、亞鉛ハ臭シ、只錫ハ毒ナク、且光澤ヲ生スルノ質ナレトモ、傳粉ノ用ニハ價貴シ、故ニ西洋婦人ノ施粧

ニハ、米ノ浮粉ヲ專用スルナリ、○此場ノ窖中ニハ、牛脂、豚脂、香料ヲ蓄ヘ、又、アルコールヲ十餘ノ大樽ニ盛リテ蓄フ、屋ノ上層ニハ、紙ヲ蓄フ、其内ニ日本ノ雁皮紙、薄葉、美濃紙等ヲ多ク細束シテ蓄ヘタリ、紙ヲ用フルノ費ハ、一年ニ五萬「フランク」ニ及フト云

日本ノ紙ハ、元初ハ朝鮮ヨリ傳習シテ、世ニ廣マリシモノカ、其製法支那ニモ似ス、絶テ歐洲ニ似ス、其元品ノ良優ナルヲ以テ、已ニ先年巴黎博覽會ノキニ、第一等ノ褒章ヲウケタリ、然レモ是ハ油漆ヲ以テ製セル紙母ノ類ニシテ、尋常ノ紙ニハ及ハサリキ、然ルニ其後西洋人ノ日本紙ヲ賞美スルヲ、往往ニ聞ク、倫敦府ニモ、亦日本紙ノ問屋アリト、或ハ云、雁皮紙ハ、西洋ニテ古、時ニハ、此紙ヲ製シ用ヒシニ、後世費用ノ數甚タ夥シク、其木ヲ伐リ盡シテ種絶ヘタリシニ、今日本ニ其種ヲ發見セリトテ、深ク艶稱スルト云、話モアリ、惜ムラシハ、抄紙ノ始メニ漂白ノ術ヲ知ラス、纖維ヲ細精ニスルニモ巧ナラス、紙トナシテ其幅狭キユヘニ、其質美ナレモ、歐人ノ嗜好ニ歎足セス、且元品充分ナラス、價位足ラス、因テ大ニ輸出スルニ至ラザルナリ、西

洋人或ハ日本ニテ紙ヲ漉シ原品ナル楮皮ハ紡織ノ原品ニ適セント思量スルモノアリ、佛ノ經濟學士「フロッグ氏」ハ切ニ其法ヲ試ミント謂ヒシ「モアリ、楮皮ノ質ハ水ニ弱シ、恐クハ紡績ノ用ニナラス、

十一日 晴

十二日 薄陰

十三日 陰

午後ヨリ「サンクルー邑」ノ「パトロソ」製作場ニ至ル、此場ハ「ムソー氏」ノ社ニテ、一大區域ヲ占メテ「セイソ」ノ河西ニ場屋ヲ起ス、職人ヲイル、一千五百人「パトロソ」ノ種類百三十一種アリ、蒸氣ノ器械一百馬力ナルヲ運ス、紙ヲ以テ作ルアリ、黃銅管、銅管ミナ備ル、其板ハ「ロール」仕掛ニテ、之ヲ展ヘ、之ヲ切り、我用、獵用、短銃、小銃、長彈、圓彈、榴彈、燒玉等、ミナ備ル、之ヲ世界ニ賣リ出ス、只國中兵卒ノ用ノミニアラス、新發明ノ烙丸アリ、鐵板ヲ穿テル餘勢ニテ、紙ヲ貫クハ百餘葉ノ後ニ、爆發スルモノヲ試ミテ示セリ、

十四日 晴



十五日 晴

十六日 朝陰夕晴

夕ニ大統領「チエル君ヨリ饌饌ノ享アリ」

前編ニ於テ已ニ米國ヲ評スルニ、歐洲ノ開拓地ヲ以テシ、英國ヲ世界ノ貿易場トシ、佛國ヲ歐洲ノ大市場トセリ、此三大國ハ地廣ク民多ク、其營業ノ力ハ、常ニ滿地球ニ管係ヲ及ホス雄國ナルヲ其記實ヲミテモ益著明ナルヘシ、我日本ハ其地其民其物産ヲ以テ此等ノ大國ニ比較スルニ未タ必モ甚タ遜レサルヘシ、願フニ其民著眼ノ小ナルト、協同耐忍ニ薄キトヲ以テ其營業力ニ乏シク、國勢ニ於テ敢テ當ルヘカラサルノ情態ヲ露シタリ、今此ニ三國ノ巡回ヲ畢リテ、一二ノ小國ヲ經歷セントス、即チ白耳義<sup>ベルギー</sup>、荷蘭<sup>ホルラント</sup>陀是ナリ、此兩國ハ其地ノ廣サト、其民ノ衆キトヲ語レハ、我筑紫一島ニ較スヘシ、其土ハ瘠薄ノ濕野ナリ、然レモ能ク大國ノ間ニ介シ、自主ノ權利ヲ全クシ、其營業ノ力ハ、反テ大國ノ上ニ超越シテ、自ラ歐洲ニ管係ヲ有スルノミナラス、世界貿易ニ於テモ影響ヲナスハ、其人民ノ勉勵和協ニヨルニアラサルハナシ、其我ニ感觸ヲ與フルヲ反テ三大國ヨリ切ナルモノアルヘシ、此ニ其記述ニカ、ラソ、

○白耳義國ハ幅員一萬千三百八十二方英里、人口ハ一千八百七十二年ノ計算

ニヨルニ五百〇八萬七千百〇五人アリ、歐洲獨立ノ國ニテ尤モ小ナル一國

ナレト土地ノ割ニ人口ノ多キヲハ歐洲第一等ニテ、日耳曼ノ薩撒國サクセンノ繁庶

ナルモ此國ニハ及フ能ハス、○四至ノ境ハ南ハ佛朗西ニ界ヒ、東南「レキセン堡

日耳曼領ノ「アルサス」ロルライン州及ヒ西普魯士プロイスニ界ヒ、東ハ荷蘭陀ト壤ヲ

分ツ、海濱ノ線ハ北方僅ニ四十英里ヲ有ス、故ニ海軍ヲ備ヘス、猶七艘ノ軍艦

アリ、港口ヲ固ム、陸地ノ界線ハ山脉河流ノ阻テ天然ノ分域ヲナセルニ非ス

強國ノ間ニ介シテ獨立ノ權利ヲ屈撓セサルハ、陸軍ノ力尤モ充備ヲ要スル

ナリ、○「ヘルチックス人ハ豪健ニシテ能戰フ、生業ニ勵ミ、自奮ニ勇ナリ、羅馬ノ

非該撒シーザルカ征服スル所トナリ、已ニ健兵ノ譽レヲ得タリ、其後「フランクス人種

ノ混入スル所トナリタレトヤ、東北ニ移リサリ、東北荷蘭陀ト相共和シ、早

ク南部北部ノ稱アリ、佛國ノ起ル、其征服スル所トナリ、後久シク「アルコンシ

侯ノ所領地タリシカ、其緣故ニヨリ、煥帝ノ所領ニ歸シ、尋テ西班牙ノ領ニ歸

シ、亦煥ノ血ホーランド一千六百六十年ノ頃ニ、又煥領ニ復シ、煥太利ノ低地ト稱セルヲ



八十四年ナリ、佛帝拿破侖ノ興ル以前ニハ、西班牙ニ屬セシニ、拿破侖ノ侵略  
スル所トナリ、一千八百十四年、維納會議ニテ、荷蘭陀王維廉第一世ニ屬シ、舊  
低地ノ南部北部混一シ、一政府ヲ奉スルヲトナリタレト、白耳義ノ民ハ、到底  
久ク人下ニ屈スヘカラス「ワートルロー」ノ戰ニ奮闘シテ、佛軍ヲ破リ、大ニ其  
兵威ヲ顯ハシ、爾後蘭國政府ト協セス、宗教ノ論ニテ、殊ニ紛紜ヲ滋生シ、自由  
ノ論モ從テ盛ソニ、蘭人ハ之ヲ凌駕セントシ、白人ハ剛毅ニテ屈スル能ハス  
性質、風俗、言語、教門、判然黑白ヲナシタレハ、一千八百三十年ニ至リ「プロッセル  
ス府」ニ於テ、大變革ノ論起リ、十月四日ニ、白耳義ノ全部獨立ノ政府ヲ立テ、其  
主意ヲ公布シタリ、是ヨリ蘭國ノ聯邦瓦解シテ、黨論蜂起シ、兩國相戰ヒ相誼  
シ、多年寧歲ナシ、白耳義人ミナ謂フ「國ニ一定ノ王アリテ、法ノ基本ヲ託セサ  
レハ、國本動搖シテ、常ニ安堵ナラスト、翌三十一年六月ニ、日耳曼ノ薩撒「コー  
堡公」リオポルト「ヲ迎ヘテ、王冠ヲ奉リシニ、佛國王路易非立<sup>ヒリッ</sup>ノ第二子「子モー  
ルス丟克」之ヲ不可トシ、歐洲列國ミナ其獨立ヲ許認セス、然レト國民ノ議、此  
ニ一致シテ「リオポルト王」ノ下ニ、定律王國ノ政治ヲ協立シタルカ、今ニ至ル

マテ此國ノ根基トハナレリ、爾後蘭國ト、鷸蚌相持セシニ、佛人ハ白ヲ救フテ、  
 蘭兵ヲ敗リ、三十九年四月ニ至リ、英國ノ中裁ニヨリ、倫敦ニ於テ條約ヲ結ビ、  
 兩國ノ和成リ、各國ミナ其獨立王國タルヲ許認シタリ、是今ヲサルニ僅ニ三  
 十三年前ノナリ、○白耳義人ハ、又ミナ謂フ、國ニ自主ノ民乏シケレハ、國力  
 衰弱シ、國ヲ保存シ難シト、政體法規ミナ自主力ヲ養フヲ目的トナシテ協定  
 シ、上下心ヲ合セ、互ニ粹勵風ヲナシテ、自主ノ業ヲ植エ、一千八百二十五年ノ  
 頃マテハ、此地ノ人民、生産ノ業ニ薄ク、地ヲ耕シ、穀物ヲ植エルノ外ハ、製産只  
 陶器アルノミナリシニ、此頃ヨリ製作ニ力ヲ盡シ、兼テ耕藝ヲ勤メ、富庶丞丞  
 トシテ日進セリ、今全國ノ生口繁シト雖モ、自主ノ民殆ト其半ニ及フト云、○  
 故ニ此國ノ定律王國政治ハ、他ノ帝王國トハ、大ニ其趣キヲ異ニシテ、國民ノ  
 自主ニ於テハ、反テ共和國ニ優ル、歐洲中ニ於テ、此國ノ選舉王ト、瑞士ノ共和  
 政治ト、薩撒ノ舊王國ハ、其政教風俗、互ニ相同シカラサレモ、其ニ最モ繁昌富  
 有ノ國ニテ、文明ノ最上等ニ位ス、然則國ノ盛衰ハ、政治ノ影響ニアラスシテ、  
 國民ノ和協セル影響ヲ、政治ニ著スノミ、諺ニ曰ク、政府ハ人民ノ影ナリト、旨

哉言ト謂フベシ「白耳義王」リオポルト「第一世」ハ佛國王路易非立ノ女ヲイレ  
テ后トセリ、路易非立ノ佛國ニ立憲政治ヲ立ルヤ、國論常ニ艱難トシテ寧靜  
ナラス、因テ數數王威ヲ以テ、國民ヲ壓制スル政ヲ行ヒ、遂ニ破レニ至レリ、白  
耳義モ亦黨論ノ沸起セル際ニテ「リオポルト王」ハ常ニ人民ノ自主ヲ旨トシ  
テ、之ヲ統御シタリ、路易非立ハ書ヲ贈リテ、其長策ニアラサルヲ忠告シタ  
レ、敢テ其意ニ從ハス、終ニ國論ヲ安ンシ、今日ノ富強ニ至リシハ、白國人ノ  
之ヲ愛敬スルノミナラス、歐洲自主ノ論家カ、嘖嘖トシテ其美德ヲ稱賛スル  
所ナリ、一千八百三十一年「リオポルト第一世」ノ下ニ定メタル憲法ハ、立憲ノ  
代人政府ナリ、王位ハ薩撒コー堡<sup>ボルク</sup>家正統ノ男子ヲ、長幼ノ序ニヨリテ繼承ス、  
若シ男嗣ナケレハ、議院ニテ選舉ス、王崩スレハ、議院徵集セラレスシテ會シ、  
嗣君ト執政ト誓約ヲ結フマテノ間ハ、執政ト議シ、國民ノ名ヲ以テ國王ノ政  
權ヲ行フ、嗣君未タ十八歳ニナラサレハ、攝政官ヲ公選ス、嗣君モ、攝政モ、議員  
ノ會ニ於テ、法律及ヒ政體ヲ檢査シ、國民ノ自由、國土ノ充全ヲ保タノカ爲メ、  
誓約ヲ結ハサレハ、其職掌ヲ行フヲ得サル法ナリ、國王ヲ聖體ト稱シ、政事ニ



ハヨナ執政ノ責任トナシ國王ノ處置モ其主任ノ執政加印ヲナサレハ行  
 ハルハヲ得ス國王ハ歲俸六十六萬五千弗ニテ其權ハ議員ヲ徵散シ文武官  
 ヲ命シ軍事ヲ督シ和戰ヲ宣告シ外交條約ヲ結ヒ赦宥ヲナシ爵位ヲ授クル  
 權アリ然レモ特別ノ權ヲ國人ニ附與スルノ權ナシ故ニ白國ニ於テハ貴爵  
 ヲ授ケラレタル人ハ甚タ多ケレモ其榮ヨリ生シテ國中ニ曾テ別段ナル權  
 アルナシ是他ノ王國ト風ヲ同クスレモ其實ノ異ナル所ナリ日耳曼全地ハ  
 封建ノ餘ニテ華胄甚タ多ク某ハ「フリンス」某ハ「パロン」ト交際ノ間ニモ榮ヲ  
 生シ勳章ヲ掛テ官服所謂ル大ヲ飾ルハ人目ニ光耀アルト門閥ヲ尊フノ餘  
 習ナリ故ニ白國ニ於テ爵位ノ榮ハ國中ニ權利ノ異ナル所ナキモ亦外交ニ  
 管シテ自ラ光耀アリ共和民主ノ風ハ歐洲ニ適當セサルト此等ニテモ知ル  
 ヘシ○立法官ハ上下兩院ヲ分ツ上院ハ下院ノ半員ヲ取テ之ニ充ツ凡ソ下  
 院ノ代議士ハ白國ノ居住人權利満足ニテ少分ニテモ直稅ヲ出スモノハ二  
 十五歳ノ男子上四萬人ニ一人ノ割リニ公舉セラル其選マレシ員中ヨリ  
 年齡四十歳直稅二千百「フランク」我四百ヲ拂フ以上ノモノヨリ選フ一州内  
 年此

キ人民少ク其數六千人ニ一人每年十一月ニ徵集シ、少クモ四十日間ハ開院  
ニ及ハサルモ其ハ其中ノ重稅者  
ス、○行政官ハ、外務、會計、司法、工部、內務、陸軍、ノ六省ニテ、其一人ヨリ參政議事  
ノ官ヲ命セラル、即チ執政ナリ、今ノ執政ヲ「パロン、タ子ータン氏ト云、○白耳  
義國ハ、通シテ平坦ノ野ナリ、西南ノ地方ニ「アルランダス一脈ノ山アリ、後ニ詳ナ  
リ北方ヘ次第ニ傾キ、海濱ニハ五六十尺ノ沙坡ヲナシテ、以テ海水ノ汎濫ヲ  
免カル、蘭國ノ境モ亦然リ其他ハ、沿途平曠ノ原野ニテ、遠ク望メハ、岡坡ノ起伏スルヲ  
見ルト雖モ、絶テ山巒ヲミルコトナシ、「レメーセ」「スケルト」ノ兩河アリ、下流ニハ  
堤塘ヲ築キ水患ヲ防キ、河流ヲ引テ、運河ヲ縱横ニ貫通セリ、此大兩河ノ本支  
流ヨリ鑿通セル運河、ノ内ニ、大ナルハ「ブリゼス府ヨリ」「ガント府ニ漕シ」「ガン  
ト」ヨリ他ノ運河ヲ合セテ「スケルト河口ニ漕スルモノナリ、全國運河ノ長サ  
三百英里ニ及フ、○道路ノ修繕モヨクト、キタリ、未タ詳カナル統計ヲ得ス、  
○鐵道ノ建築ハ、其盛大ナルヲ、歐陸各國ニ冠タリ、是白國ノ地形、四通八達ノ  
平野ニ位シ、鐵ト石炭トニ富メルニヨル、一千八百三十四年ニ、始メテ「プロッセ  
ルス」ノ首府ヨリ「マリンス府マテ、五百六十」キロメートル」ノ鐵道ヲ開キシヨ

リ、今ニ至ルマテ、政府及ヒ政府ヨリ會社ニ費用ヲ貸渡シテ、架設セル本道ノ  
總長ハ、七百四十八「キロメートル」七ニ及ベリ、一千八百六十年ノ統計 最初鑛道ノ業ニ

取カ、ル初メニアタリ、國法ヲ定メテ、鑛道ハ政府ヨリ架設ノ責ニアタリ、其  
建築費用ハ、其利益ニテ贖ヒ、他ノ稅項ニ混スルヲ得ス、大抵其盛業ノ經費ハ、

一「キロメートル」ニ付、二萬三千五百弗

一里ニ付テ  
九萬四千弗

平均ニテ、毎年ニ八百餘

萬弗ノ運賃ヲ收メ、雜費ヲサリテ、純利三百七十五萬弗ニスクト云、其他政府  
ヨリ免許ヲ得テ、會社ヨリ架設セル支道ハ、千三百四十五「キロメートル」ニ及  
ヒ、多クハ英國ノ會社ニテ落成セリ、此分ハ本道ニ比スレハ、費用モ少クシテ  
成リ、又利益モ少シ、此公私ノ鑛道ハ、其總長二千〇九十二「キロメートル」九ニ  
及フ、(即英里ニテ一千四百里弱)

米歐各國ニテ、鑛道ヲ建設スルニ、其法三アリ、一ハ政府ニテ建築開行スル  
モノナリ、二ハ會社ニテ建築開行スルモノナリ、三ハ政府ニテ建築シ、會社  
ニテ開行セシムルモノナリ、第一ノ法ヲ主用スルハ、白耳義ナリ、第二ノ法  
ハ、英、佛、及ヒ米ノ合衆國ニテ主用ス、他ノ諸國ハ、三種共ニ行ハル、英國ハ、近



年鐵道ヲ悉皆政府ニ買上ル說アレトモ未ダ實行スルニハ至ラス、白耳義ニ  
テ政府ヨリ鐵道ヲ架スルニハ、土功ヲ興シ、應用品ヲ購フハ、時時ノ適宜ニ  
ヨリテ、便利ヲ採用シ、工事ヲ一人ニ託セス、數人ニ分命ス、應用品ハ、仲人ノ  
手ヲ經ス、直ニ買取ラシム、故ニ工業ニ付テハ、貧富ニ平均シテ、請負ヲ得  
ヘク、或ハ兵卒ヲシテ土功ニアタラシメ、或ハ刑徒ヲ用フルモ可ナリ、第二  
ノ法ニヨリテ、會社ニ委ルノ不利ハ、會社ニテ利潤ト認メサル線路ハ、建築  
ヲ肯ンセス、自然ニ政府ノ補助ヲ仰キ、之ヲ開行スルニ、人力ヲ勉強セシメ、  
節儉ヲ旨トシ、全國永久ノ利ヲ圖ルヨリ、一時證券ノ價ヲ較スル弊アリ、又  
會社ニテ建築シテモ、後日損失ヲ生スルハ、政府ヨリ買取テ保存セサル  
ヘカラス、若シ其利大ナレハ、會社益富ミ、鐵道ノ事務ニ於テハ、政府ノ指令  
ヲ奉セサルニ至ル、即チ米國ノ如キハ、鐵道會社ノ力盛ンニシテ、政府ニ凌  
駕シ、英國モ亦鐵道會社ノ勢力盛ンニ、數運賃ヲ變更シ、自由ヲ主張スル弊  
害ヲ受タリト、且會社ノ金ハ、外國ノ入金ナキモノアラス、米國ノ鐵道入費  
甚タ莫大ナリ、他一旦國ニ兵革起ルハ、會社ハ唯己ノ利ヲミテ、政府ノ便  
ノ諸國モ亦然リ

ヲ顧ミス、是尤弊ノ大ナルモノニテ、防禦線ニ至テハ、斷斷政府ニテ線路ヲ所用シオカサルヘカラス、是白耳義國ノ定論ナリ、然レモ政府ヨリ會社ニ免許ヲ與ヘテ、建築スルニ如カスト謂モ亦其說アリ、政府ノ官吏ハ、練達ノ人ナキニ非レモ、自力ニテ身ヲ立ル念薄ク、年齡高邁ノ者多ク、常格ヲ固守スルユヘ、到底政府ニテ、人ヲ勉勵セシメ、新發明ニ工夫ヲ凝シ、進歩奮勵ノ策ニ乏シ、會社ハ利益ヲ大ニスル念ヲ主腦トナスニヨリ、思慮練熟シ、新法ヲ求メ、使役ノ者ハ、自家ノ浮沈ニ關スレハ、奉務ニ心ヲ勤メ、百事奮勵シ、益良善ノ方ヲ考ヘ進歩ス、是第二ノ法ノ便ナル所ナリ、且會計ノ事モ、政府ハ自然ニ疎略ニ流レ、時價ノ變、技術ノ差等、詳細ニ届カス、往往ニ非常ノ雜費ヲ生ス、會社ハ委細ノ廉マテ、用意密ナレハ、後口損失ニヨリテ、政府ヨリ買上ルモ、費用ヲ預知スルニ便ナリ、鑛道ノ建築ハ、政府ニテ主行スルモ、會社ニテ主行スルモ、如此クニ利害互ニ備ルヲ以テ、他ノ諸國ハ、三種共ニ行ハレ、緊要ナル線ハ、政府ニテ辨シ、或ハ第三ノ法ニテ、建築ノ後ニ會社ニ託スルモアリ、白耳義ニテモ、本線ノ成就セル後ハ、唯地方ノ利ニカ、ル支線ハ、

會社ニ委シ、年年ニ建設ノ盛大ヲ増セリ、是畢竟其國民ノ景況ト、線路ノ都合トニヨリ、其適宜ヲ酌議ス可キナリ、各國相競ヒ、鐵道ヲ盛ンニセシニハ、工事ヲ會社ニ委託スルノ便ハ、經濟上ニ於テ判然ナリ、政府ニテ建築スルハ、其力限リアリ、此說ニ偏倚スレハ、鐵路ノ盛ヲ致スヲ難シ、白國ノ鐵道モ、後來會社ニ許可シテ設ケタル線ハ、其長サ自築ニ過ルニテ察スヘシ、

○農牧ノ業ハ、元來此國ノ地味タル、粘泥多ク、往往ニハ沙壤アリ、沃饒ノ土少ク、一町步ニ四石日本石ノ地力ナレト、耕稼ノ業ハ、國人ノ尤モ勉強スル所ニテ、

實收ハ町ニ十五石ヲ收ムルニ至ル、近國ニ稱セラレ模範トナスト、隣畝相連リ、村落所所ニ散在シ、田ヲ畫スルニ小溝ヲ以テシ、多ク廣葉樹ヲ植エテ、畛域ヲ分ツ、道路往ク所ニ、叢然トシテ樹枝ヲ錯ユ、牧場少クシテ、耕稼ノ田多シ、田ニ畝ヲ作ルコト、日本ニ似タリ、只水田ナキノミ、田家ハ土壁ニテ瓦宇ナルモノアリ、壁低クシテ宇深シ、亦日本ノ農村ニ似タルモノアリ、

此國ノ富殖ハ、農耕ヲ務メテ、以テ製作ニ及フ、天利ニ不充分ナルモ、地ノ便利ト、人力ノ勉勵トニヨリ、殆ト國ノ遺利ナカラシメ、農耕ニハ、近年良巧ナル器



械ヲ用ヒテ、大ニ其功ヲ進歩セリ、但シ此國ハ貿易ノ便、甚タ宜シキ要衝ニテ、國產ノ價ハ益低減ニツキ、今ハ上等巧者ナル農民ノミ利益ヲ得ルヘシ、全國ノ民口四分ノ二ハ農牧ニ從事シ、四分ノ一ハ工商及ヒ礦業ニ從事シ、其他四分ノ一ハ國益ヲ起サ、ル民ナリ、年年ニ民ノ都府ニ輻輳スルコト多ク、郡村ハ漸クニ減ス、（歐洲ノ通例）是其人口稠密ニテ、生理ヲ進達シ、最上等ノ國タル所以ナリ、○農耕ノ產物ハ穀類ニ於テハ、燕麥ヲ最トス、凡ソ白國穀類ノ產出高ハ、

燕麥 八百四十九萬六千「ヘクトリットル」約我五百十萬石

玉蜀黍 六百三十八萬六千「ヘクトリットル」同三百八十萬石

小麥 五百十六萬五千「ヘクトリットル」同三百萬石

大麥 百三十三萬三千「ヘクトリットル」同八十萬石

雜穀 百九十五萬三千「ヘクトリットル」同百二十萬石

年年ニ平均一億二千八百五十萬「キログラム」ノ穀物ヲ輸入ス、（約百五十萬石）「アントウエル」「アラバント」「兩」「フランデルン」「リンボルク」「レキセンボルク」州ニハ、水利充分ナルヲ以テ、小麥粉ヲ挽ク、水車ノ設ケ盛ノニ、輸入セル小麥ヲ粉トナシ、國

民ノ食量ニ充タル餘ヲハ、花粉ニテ佛、獨、蘭、暹、露、米ノ輸入品ト貿易シ、一大利ヲ得ル、又穀類ノ釀酒モ盛ナリ、<sup>ホツプ</sup>秣穗モ亦耕作ス、曾テ「リッツ」府ニ赴ク鐵道ノ上ヨリ、野ニ小キ木竿ヲ束シ、箇箇ニ立タルヲ見テ、何用ナルヤト問ヘハ、是秣穗ノ蔓ヲ扶クル用ナリト云、千八百七十年「ホツプ」ノ產出高十八萬担<sup>セント</sup>麥酒七百萬「ヘクトリットル」其外「フランドー」諸火酒類ヲ并セテ、輸入ノ穀ヲ消費スル高ノ一項ニテ、再ヒ國益トナルモノナリ、故ニ之ヲ概論スレハ、全國人民ノ八分七ハ、耕耘ノ利ニヨリテ生活スルトナリ、烟草ハ、兩「フランドル」及ヒ「ヘン」子カリ州ニ產ス、其高二百二十萬「キロガラム」ニ及ヒ、其三十二萬ハ輸出シ、價百四十萬「フランク」<sup>二十八萬弗</sup>ヲ収メ、而テ輸入高ハ五百七十萬「キロガラム」ニテ價九百四十萬「フランク」<sup>百八十八萬弗</sup>ニ及フ、甜紅燕薈ヲ榨シテ沙糖ヲ製シ、國內ニ山少ケレトモ、木材ニ乏シカラス、沙壤ニハ松ヲウエ、其製作元品ニカ、ルモノハ、亞麻ノ產ヲ第一トス、

牧業ハ、濕地ニ於テ牛ヲ畜フ、荷蘭ト同シ、燥地ニハ馬羊ノ牧ヲナス、大抵歐洲ノ農業ハ、牧業ヲ兼テ算ヲ立ルモノニテ、牛百二十五萬七千六百五疋、羊五十

八萬三千四百八十五疋、豚四十五萬八千四百十八頭ヲ數フ、荷蘭ニ比スレハ  
 僅ニ少數ナルノミ、牧馬モ亦健ナリ、騎乘運搬共ニ用フヘシ、民又犬ヲシテ車  
 ニ服セシムルアリ、○米ヨリ英ニ至レハ、滿野ニ牛羊蓄トシテ壯長ス、耕田ノ  
 利ハ、牧畜ニ及ハサルモノ、如シ、佛國ニ入り、白國ニ至レハ、牧田少クシテ、稼  
 穡甚タ務メ、地ヲ墾培スル甚タ至ル、然則各土宜ニ適スルモノヲ耕スノミ、必  
 モ牧畜ノミ利アルニ非ルナリ、且英國ノ勸農ハ、佛白ヨリ年曆廻ニ後レタル  
 ヲ以テ、猶一般ニ普カラス、當時農術ノ進步ハ上等ニ居レハ、人氣ノ重ニ趨ク  
 所ハ、牧畜ト礦物ノ製作ニアルヲ以テ、都府ニ聚ルモノ多シ、村邑ニハ寥落ノ  
 狀ヲ現ハセリ、佛國ノ民モ、製作ヲ勉勵スレハ、其原品ヲ内地ニ資シ、兼テ外國  
 ヲリ輸入シ、不足ヲ備フノ注意ヲ有シ、農ノ勉勵スル所モ、重ニ製作品ヲ耕種  
 スルヲ以テ、村邑平均ニ繁庶シ、田野ノ墾鋤ミナ至レリ、白國ノ民ハ、佛國ト風  
 習ヲ同クス、近年益、鑽利ヲ興シ、製作ヲ盛ンニスルハ、英國ニ彷彿タリ、故ニ村  
 邑一般ニ繁庶シテ、都府ノ繁昌モ亦盛ナリ、是其人口ノ他ニ超越セル所以ナ  
 リ、山林ノ制ハ、歐洲ニテ、近年ニ注意ヲ生セル所ニテ、英國ノ如キハ、其保護ノ



制未タ周備セサルヲ以テ、田野ニ樹木ヲ植エタルヲ未タ著シカラス、佛ヨリ  
白蘭ニ至レハ、又樹木ヲ植ルヲ務ム、道路膝畔、ミナ廣業樹ヲウヘ、其枝柯ヲ切  
テ薪トナス、家常ニ石炭ヲ用フルヲ少シ、肝要ナラサルヲマテモ、石炭ヲ多ク  
糜用スルハ英米ノ風習ナリ、

○白耳義ノ鑛産ハ、全國ニ其數少カラス、中ニモ貴重スヘキ鑛、石炭ニ富ム、「リイツ  
ツ州」ノミニテモ、鑛ノ出産ハ、年年二十萬噸ニ及フ、「ナムル」ニモ鑛盛ナリ、全  
國ノ產出高ハ、平均五十六萬噸ヲ出ス、石炭鑛ハ此國産業ノ基トナル、大利ニ  
テ、國中ニ「ハイノート」「リッツ」及ヒ「ナムル」ノ三州ヨリ出ツ、其鑛數二百八十六  
ヶ所ニ及フ、一千八百七十一年ニハ、一千三百七十三萬噸ヲ出セリ、英國ヲ除  
クノ外ハ、歐洲最良ノ炭質ナリ、其内三分ノ二ハ、自國ニ費用シ、其餘ハ重ニ佛  
國ニ輸出ス、蘭、噠、瑞典等ニモ亦輸出ス、其他多量ノ錫ヲ出ス、歐洲第一ナリ、銅、  
鉛、亞鉛、<sup>マンガン</sup>滿俺、明礬、硫磺、石盤ノ材、大理石、建築用ノ石材ヲ出ス、

滿俺ハ即チ過酸化滿俺<sup>礬石</sup>ナリニテ、此モノ酸素ト抱合力ノ弱キヲ諸金屬第  
一ノモノニテ、此物ヲ投シ、他ノ酸素ト抱合力強キモノヲ和スレハ、游離ノ

酸素乍ニ他ト抱合シテ分離ス、喩ヘハ、鹽酸ヨリ水素ヲサリテ「コロール」トナシ、漂白粉ヲ製スルカ如キハ、滿侖ヲ必用品トナス、而テ殘留ノ質ハ、玻璃ニ美好ノ色ヲ與フ、故ニ其需用甚タ多シ、米國ヨリ多ク輸入スル、工業上ノ一大產物ナリ、明礬ノ染料ニ親和スル、染織家ノ必用品トナリ、礬礦ハ第一ニ硫酸ノ原品ナレハ、ミナ利益ノ廣キ礦產ナリ、

製作ノ業ハ、比年頻リニ進歩シ、第一ニ盛ナルハ、製鋅ノ業ニテ「リッツ」府ニハ、十餘ヶ所ノ鑄熔場、冶鋅場アリテ、諸般ノ鋅器ヲ出ス、次ハ紡織ナリ、兩「フランドルス」州ニ於テハ、棉花ヲ紡織シ、亞麻布<sup>リンデル</sup>ヲ出ス、「フラバント」州、即チ國都ノ近方ニ於テハ、線<sup>レース</sup>織ヲ組織シ、精好ノ譽レアリ、「ト、ルネー」ニハ、陶器ヲ出ス、其他玻璃ノ製作モ近年甚タ盛ンニ、又首府「アロツセルス」ニハ、陶器「レース」、輪車、刀刃、鋏、及ヒ材木ノ斷成等、ミナ歐洲ニ名譽ヲ布ケリ、一千八百六十六年ノ統計ニテ、石炭ヲ燒ク場、百五十五ヶ所、職人八萬六千七百二十一名ニテ、一千二百七十七萬ノ材料ヲ用ヒ、一億五千百萬「フランク」ノ原價ヲ出セリト云、此ハ今ヲサル「十八」年前ナレハ、更ニ其數ヲ增多セルナルヘシ、○此國ニ一種ノ特產

ハ、藁ヲ組織スル功ナリ、是ハ「アストリット」ニ於テ、重ニ製作ス、此地ニ生スル麥  
藁ハ、其色甚タ鮮白ニシテ、其質ハ屈曲スルニ易キニヨリ、此工技ヲナシ、年ニ  
四五百萬「フランク」ノ價ヲ得ル、麥藁ノ編組ニテ、帽ヲ製シ、組片ヲ打ツ、ハ、當  
時英國ニモ盛シニ行ハレ、又獨逸、以太利、瑞士ニモ行ハル、頗ル需用ノ廣キモ  
ノナリ、白國ハ、如此ク他ニ得難キ地質ヲ有スルニヨリ、更ニ技能ヲ逞クセリ、  
○白耳義ハ、阿蘭陀ト離レテ獨立スルニアタリ、其要港アル海邊線ハ、ミナ蘭ニ  
歸シ、其塞ク所トナリ、物産吐納ノ口ヲ失ヒタリ、是ヨリ陸地ノ運漕ニ注意ヲ  
碎キ、運河ヲ修メ、鐵道ヲ興セシニ、幾クナクシテ各國ノ公議ニヨリ、開港ノ公  
法ヲ改革シタルヨリ、有名ナル「アンウエル」港モ、又其繁昌ヲ回復セリ、○貿易ノ  
業ハ、前ニモイヘル如ク、歐洲四達ノ衝ナルヲ以テ、陸路ノ貿易ニ、天然ノ利ヲ  
具シタルハ、物産ノ裕通ニ缺乏ノ憂ヒナシ、海港ハ、只「アンウエル」ノ一口ニテ、  
其商事ハ、英人、蘭人ノ手ニテナス、ト多シ、此國ノ商業ハ、佛國ノ真制ニ倣ヒ、普  
通貿易ト、別格貿易ト、二類ニ分ツテ計筭ス、其普通貿易ハ、千八百六十七年ヨ  
リ三ケ年ノ平均ニテ、二十五億「フランク」ノ總高ナル内ニ、過半ハ輸入品ナリ、



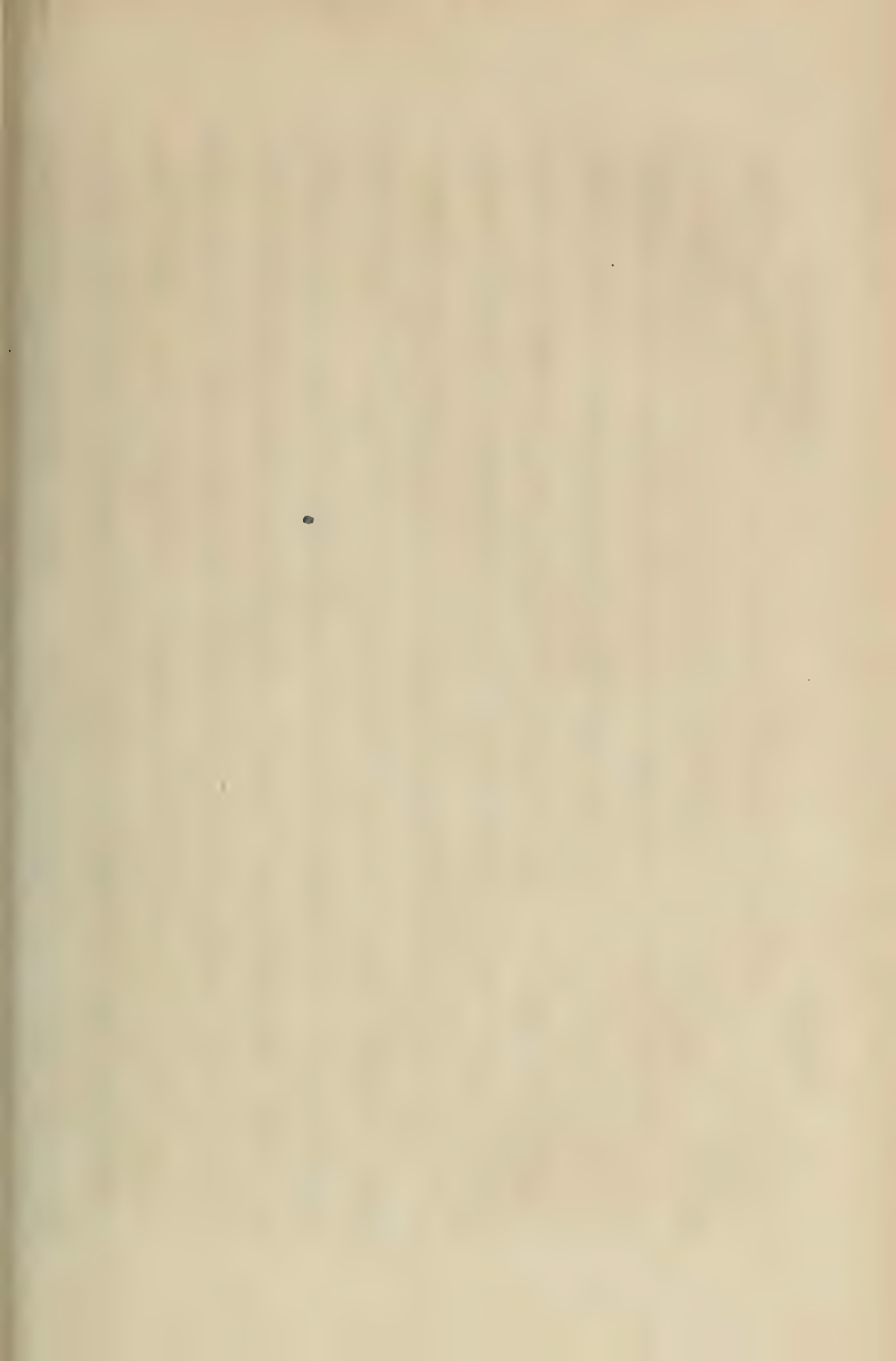
別格貿易ノ價ハ、十四億「フランク」ニテ、輸入品亦其過半ニオル、一千八百六十九年中ニ全國ノ交易ハ輸入十七億一千二百二十萬「フランク」輸出十四億九千〇五十萬「フランク」海港貿易輸入五億五千八百六十萬「フランク」輸出四億四千五百六十萬「フランク」其別格貿易（國內ニテ捌クヘキ、輸入品ト國產ノ輸出ナリ）ハ、佛國ト最モ盛ナリ、其次ヲ英國トス、英國ヨリ輸入品ハ、近年ヤ、盛ンニ一億「フランク」ニ及フ、輸出ノ數モ亦増シ、二億三千五百萬「フランク」ニ及フ、六十九年輸出ノ重ナルハ、絹帛、毛絲、棉絲、麻絲、及ヒ農產ニテ、輸入ハ毛布、棉布ナリ、佛國ノ貿易ハ、殆ト之ニ倍スト云、其次ハ獨逸、荷蘭、及ヒ露西亞、米國ナリ、

○白耳義ノ人民ハ、三種ノ言語ヲトル、佛國ノ境ヨリ、中央ノ諸州ハ「ベルヂエツク」人種多ク、佛語ヲトル、今政府、官廳、學校、ミナ是ヲ以テ國語トス、南方「レキセン堡」國ニ附近ノ州ニテハ「ワルロン語」ヲ操ルモノ、百八十餘萬人ニ及フ、東方「アンウエルフ」ニ近キ州ニテハ「フレシス語」ヲ操ルモノ、二百四十萬人ニ及フ、此語ハ蘭語ニ似タレヒ、佛音ヲ帶フト云、地理全誌ニ、此國人ヲ評シテ、謀生勤苦、性好動、輕然諾、寡信義ト云、是正ニ白國人ノ氣象ナリ、然ヒ信義ニ薄キハ、豈獨リ此國ナランヤ、中人以下ハ、往處ニ然ルモノアラシ、殊ニ佛國ノ近傍ハ、人氣活潑

ニテ、自ラ輕諾シ輕棄スルノ弊アリ、此國民ハ、元荷蘭ト興廢ヲ同クスルト雖  
モ、氣象自ラ同シカラス、爾ハ獨逸人ニ近シ、白ハ佛蘭西人ニ近シ、而テ謀生ノ  
勤苦ヲ厭ハサルハ、獨逸ノ性質ヲ兼タリ、

○全國羅馬「カドレー」キ教ヲ奉スルモノ多シ、然モ他教ヲ禁止セズ、「プロテスタ  
ント」教一萬三千人、猶太教二千人アリ、之ヲ概シテ、人民信教ニ薄シ、學校ノ教  
育ハ「カドレー」キ教僧侶ノ掌ル所ニテ、未ダ十分ニ遍カラサレモ、羅馬教國ニ  
テハ、白國ヲ以テ第一ニ教育ノト、キタル國トスルナリ、一千八百六十五年  
ノ檢閲ニテ、五十六萬ノ童生、ミナ學校ニ上ル、此數ハ、全國人員ノ十分ノ一ニ  
及ヘリ、國內ニ三ノ大學校アリ、「ゲント」「リイッツ」「アルニッセルス」書庫ニ藏スル文籍モ、亦富ム、  
大略佛國ノ學風ニテ、國語ハ開化セズ、其文學ヲ論スレハ、荷蘭ニ及ハサレモ、  
工藝ノ術ニ至リテ、亦之ニ超越セリ、

○貨幣度量衡ミナ佛ト同シ、





第五十卷 白耳義國ノ記上

二月十七日 晴天

午後二時半ヨリ、佛國巴黎ノ「レデプレスボルク」ノ館ヲ發シ、南驛ヨリ蒸氣車ヲ雇ヒテ、三時四十五分ニ發車シ、東北ニ走ル、佛ノ東境、ミナ平野ニテ、殊ニ觀ルヘキモノナシ、薄暮ノ後ニ、佛國境ニ至レハ、白耳義國政府ヨリ、接伴トシテ、「リュ―デナンド、コロネル、バロン、ギョリー」「パロン、アネサン氏、及ヒ書記官ト、驛マテ出迎フ、停輪ノ間ニ款接ヲナシ、又發シ「モンズ驛ニ至ル、

巴黎ヨリ「モンズ」マテ鐵路程百三十六英里

○「モンズ驛ハ、白耳義ノ國境ニテ、頗ル一庶邑ナリ、此驛ニ「ゼネラル、某氏盛服シ兵隊ヲ率ヒテ整列シ待ツ、白ノ兵裝ハ黒衣ニテ金釧、帽形突角ナリ、驛中ノ男女、兵隊ヲ狹ミテ、堵牆ヲナス、此ニテ車ヨリ下レハ、樂隊樂ヲ奏ス、驛舍ニ入リテ「ゼネ―ラール」ト款接ス「スピーチ」アリ、畢リテ車ニ上リテ發ス、夜十一時半ニ、白耳義ノ都府「プロッセル府ニ著ス、政府ヨリノ手當ニテ、王宮ノ側ナル「ホ

タル、デ、ベルウェー」ヲ以テ館トス、其室房ハ、政府之ヲ辨シ、飲食ノミ使節ヨリ之ヲ辨ス、此夜寒嚴ニシテ、外氣三十六度ナリ、

「モンズ」ヨリ「プロッセルス」マテ鐵道程六十一英里、巴黎ヨリ百九十七英里、

十八日

午後一時ニ、宮内省ヨリ乗車二輪ヲ差派シ、御者ミナ緋衣金裝シ、護衛兵隊ヲ具シ、宮内長官來リ迎ヘ、王宮ニ至リ「レオポルト第二世陛下ニ謁見ス、事ハ謁見式ニ見ユ

○「プロッセルス」府ハ、北緯五十一度十一秒、東經四度二十一分十秒ノ地ニ位シ、人口十七萬一千三百七十七人アリ、其地形、半ハ海平ヲ出ル、二百二十尺ノ岡上ニアリ、是ヲ新部トス、半ハ平衍ノ地ニアリ、是ヲ舊部トス、○舊部ノ平地ハ、府ノ西方ニテ、市塵大小密接シ、街路モ狹隘ニシテ、不規則ナレト、總テ石ヲ甃シテ、人行車轉ヲ利ス、「セントギユフル」ト云古キ大寺アリ、突然トシテ隣次セル屋薨ノ上ニ拙テ、其他一二ノ大寺アリ、堂尖ヲ聳セリ、極西ニハ「セーソ」河アリ、紆餘曲折シテ數島ヲ作ル、○新部ノ高地ハ、府ノ東方ニアリ、南ニ王宮ヲ起

白耳義國「フランクフルト」府ノ王宮



同府中ノ眺望







ス、外窓眼ハ三層ニシテ、煉火石ヲ以テ築成シ、塗ルニ聖灰白鉛ヲ以テス、皜ト  
シテ白石宮ノ如ク、壯麗ヲ極ム、宮外ニハ廣衢アリ、滿地ミナ甃石ニテ、數萬人  
ヲ屯セシムヘシ、前ニ廣苑アリ、樹木陰森トシテ、數條ノ道路ヲ繞ラス、中ニハ  
甃池ヲ設ク、噴水ヲ跳ラスベシ、環スニ鍊柵ヲ以テシ、柵外及ヒ樹間ニハ白石  
ノ彫像ヲ羅列ス、ミナ名手ノ彫刻ナルヘシ、此時正ニ沍寒ノ候ナレハ、藁ヲ編  
ミテ包ミ、凍裂ヲ防キタリ、樹木モ凋落シ、園内雪泥乾カス、游衍ノ人モナケレ  
ハ、苑中寂寞ヲ免レス、想フニ春末ノ新翠、夏令ノ綠陰ニハ、遊屐群ヲナシ、靚粧  
連歩シ、府中ノ樂地トナルヘシ、○此苑ノ西ニ南北ヲ貫ク一條ノ廣街アリ、「ルエ  
ウローヤル」ト名ツク、此街ハ新部ノ西界線ヲ行ク、此街ノ西側ヨリ地形遽ニ  
低下シ、全府ノ連甃ハ湧カ如クニ脚下ニミユ、街ニ巨大ノ銅標ナトアリ、府中  
第一ノ眺望ヨキ夾街タリ、此玻ニ草木園ヲ設ケ、中ニ玻瓈ノ巨窖ヲ築キ、山岡  
ニヨリ、谷坡ニ亘リ、窖中ニハ草木紛雜愛スヘシ、又集畫院アリ、白耳義ノ畫ハ、  
高名ノ技ニテ、往往ニ名手ヲ出ス、此院ニツキテ觀ヘシ、又病院モアリ、尤モ壯  
麗ノ市街ナリトス、○府中ニ白石ノ屋、石聖ノ屋多シ、到ル處ニ皜然タリ、造營

ノ風ハ「ミナ佛國」ノ建築ヲ學フ、人民ミナ佛語ヲ操ル、風俗活潑ニシテ、工藝ヲハゲミ、市中處處ニ廣街ヲ開キ、綠樹ヲ植エ、樹間ニハ楊ヲオキテ、游衍スヘシ、醫部ノ地ニ於テ、繁華ナル區中ニ、「サンニユベルト」街ト名ル所ハ、玻璃ヲ以テ街上ヲ覆フテ、長キ一字トシテ、兩側ノ店ニ、百貨ヲ陳列シ、金玉ノ飾具、綺羅彫鏤ノ工ヲ、左右ニ眩耀シテ賣ル、最モ繁昌ナル商場ナリ、夜ハ瓦斯燈爛然トシテ、市上常ニ譁然タルヲ、ミナ巴黎ノ餘韻アリ、世ニ此府ヲ目シテ、小巴黎ト謂フト、眞ニ誣サルナリ、

十九日 陰

朝十時ヨリ、接伴掛「ザヨリー」氏、「グルート」氏ノ案内ニテ、皇帝ヨリ乘御ノ蒸氣車ヲ仕立テ、東北ニ走ル、二十五英里ニテ、十一時半ニ「ガソド」府ニ至ル、

○「ガソド」府ハ、白耳義國東北ノ一都會ナリ、人口十二萬千四百六十五人アリ、東「アラソ」デル州ノ首府ニテ、白國第三ノ都會タリ、全郡ノ人口八十二萬九千三百八十七「スケルト

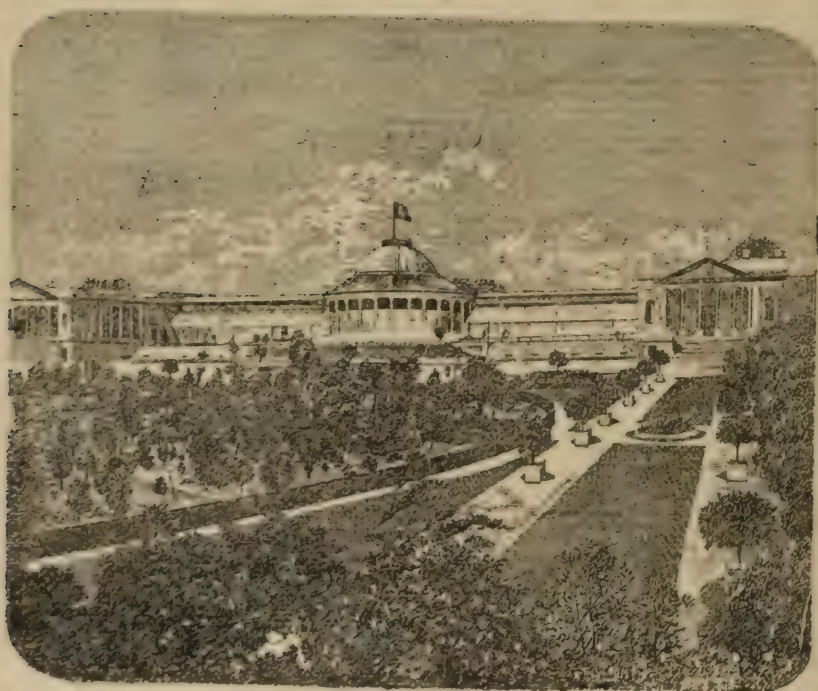
河ニヨリテ府ヲ開ク「メヨ」及ヒ「ハンプトン」氏等、驛ニ出迎フ、

○夫ヨリ馬車ニテ「ハンプトン」氏會社ノ棉花紡織場ニ至ル、場宇廣大ナリ、中ニ





フロッセルス府ノ「マシラ」寺



同草木苑



蒸氣ノ輪、一千馬力ナルモノ一ツ、五百馬力ナルモノ一ツヲ仕掛ケ、職人ヲイ  
ル、一、一日ニ二千人ヨリ二千五百人ニ至ル婦人ヲ役スル、其半ハニスク、  
其給料ハ、男子一人ニ付、一周日ニ十五「フランク」婦人ハ之ニ半ハス、一周日ニ  
織リ出ス所ノ棉布大約三千本ノ多キニ及フト云、○棉花ハ、亞米利加洲ノ「ギ  
ユバ島」西班牙領西印度ニアリ及ヒ東印度ヨリ仕人ル、此地ハ、英國ノ<sup>チヤンチル</sup>岔海ニ接近シ、英國  
ト六時間ニテ往來ヲナスヘシ、故ニ府内ノ民ト、英人トノ往來、互ニ絶ヘス、民  
ハ英佛ノ兩語ヲ兼ルモノ多シ、棉花ヲ仕入ル、ハ、英ノ<sup>リヴァプール</sup>里味陂ニ往來シテ、彼  
地ヨリ輸シイル、一多シ、英ノ<sup>メンチエフル</sup>漫識特府ハ、棉花紡織ノ名所ナリ、彼地ヲ巡回  
セシトキ、二三ノ製造場ヲ回覽シタレヒ、此邑ノ製造場ノ如ク、廣大ナルモノ  
ヲミサリキ、然レヒ是ハ只一場ノ大小ヲ較セルマテニテ、紡織ノ盛ナルヲハ、  
畢竟彼地ニ三舍ヲ避ケルトナソ、○場屋ハ、五層ノ建築ニテ、宏大ナレハ、遍ク  
回覽スルヲ得ス、一場ノ内ニ設ケタル器械ハ、初彈ノ器十二、初紡ノ器械五十、  
再紡ノ器械四十餘ヲ、鞣鞣トシテ運轉ス、第三紡ノ器械ニテ、大絲トナル、此器  
械ハ一箇ニ四十二管ヲ具ス、總テ四十箇アリ、四紡シテ小絲ヲナス、此器械一



箇ニ七十管ヲ具ス、總テ十箇アリ、五紡シテ細絲ヲナス、其器ヲ數フコトヲ失セリ、絲ヲナシテ後ニ、或ハ絲ニテ細シ出シ、或ハ織テ布トナス、絨機ノ數ハ、總テ一千四百乃至一千五百機ニテ、幅ハ二「メートル」三分ノ一ニ及フモノ多シ、一時間ニテ二「メートル」ノ長サヲ織ルニ至ルト云、尋常ノ白布ハ以テ齒トシ、枕袈トシ、<sup>ハダギ</sup>襯衣トス、<sup>アヤ</sup>綜ヲ錯シテ綾紋ヲ起セルハ、袈ヲ覆ヒ、案ヲ罩シ、食巾、帨巾トナス、其用甚タ廣シ、

「スケルト河ハ幅二百尺モアルヘシ、河流頗ル急ナリ、此下流ハ、白耳義ノ地境ヲ經テ「アンウエル」<sup>エル</sup>府ヲスキテ、荷蘭ノ「スケルト灣」ニ合注ス、此河ニ臨ミテ「トリロナル」ノ裁判所アリ、石造ノ館ニテ、造營頗ル壯美ナリ、又病院アリ、積磚瓦ヲ以テ築ク、新造ノ屋ニテ、廣大潔美ナリ、又堅石ヲ以テ嚴重ニ築起セル、牢獄ヲミル、時迫リテ只外形ヲ瞥シ過ルノミ、

○夫ヨリ「ハンプトン」氏ノ花園ニ逍遙ス、園内ニハ奇樹數根アリ、外親甚タ美ナラス、花窖七八宇アリ、玻璃ヲ以テ葺キナス、中ニ棕櫚ノ類、蘇鉄ノ類、椿類、其他熱帶、溫帶國ノ名木、同類ニテ異種ナルヲ備ヘテ、窖ニ充ツ、馥郁トシテ常ニ春

ナリ、椿ノ芳香アルモノハ、婦人ノ首飾トナシテ、甚タ高貴ナル價アルモノナリ、又岩ヒバノ一種ニテ、苦幹ノ直立スル丈餘ナルモノアリ、謂フ己ニ一百年ニ及ヒテ、此大ヲナセリト、窖外ニハ葡萄ノ垣籬ヲ多ク結ヘリ、園圃ニ瀝罐アリテ、温ヲ各窖ニ送り、電氣力ヲ以テ水ヲ播送スル仕掛ヲナセリ、此花園ハ職工市街ノタメニ、游衍場ヲアタヘタルニハ非ス、全ク花卉ヲ養フ目的ナリ、常府ハ、植物培養ニ高名ナル地ニテ、植學ノ新聞紙ヲ刷出シ、奇木異花ヲ諸方ニ鬻ク、甚タ盛ナリトス、

夫ヨリ「タウンホール」ニ於テ、晝食ノ供アリ、「メヨ」上席ニテ、會食スヘテ二十五人、饌モ亦芳美ヲ盡セリ、

○「ラリス氏會社」ノ麻製造場ニ至ル、此場ハ歐洲ニ於テ、第一ノ大場ナリト云、蒸氣輪スヘテ三アリ、合セテ一千六百五十馬力、屋宇ハ七層五層ニ築ケル、煉化石ノ屋五六宇アリ、烟突ノ高キ雲ニ入ル、職人ヲイル、日ニ男女二千五百人、織機ノ數ハ、二千二百挺アリ、兩「アランドル州」ノ地ハ、織美ナル亞麻ヲ産スル名所ナリ、其原因ハ、河水ノ質分ニヨルヲナルベシト云、此地方ニテ亞麻ヲ耕

作スル地ハ、五萬七千〇四十町「ヘクタール」二千三百七十一萬〇二百七十五「キロ  
 ガラム」ヲ獲ル、大抵場中ニ製作スルハ、郡中ニテ耕作スルヲ用フ、歐州ノ公評  
 ニテ第一等ノ譽ヲ得タリ、其不足ハ、露西亞、印度ヨリ輸入ス、十分ノ一二ニス  
 キス、○麻ヲ紡シテ絲トナス器械ハ、英ノ「ソルテヤ村」ニテ「アルパカ」ヲ紡スル  
 器械ニ似テ簡易ナリ、麻ハ彈シテ放鬆ナラシムルヲ要セス「ロール」ノ輪際ニ  
 オキ、轉軋シテ其纖維ヲ挫シ、輭鬆ナラシメ、而テ後ニ鋼製ノ針ヲ攢立セルモ  
 ノニテ、纖維ヲ梳シテ引切り、其切レ端ノ參差タルヲ、交互相接シテ、是ヲ「ロー  
 ル」ノ輪際ヨリ挾ミ出セハ、連綿トシテ條ヲナシ出ル、○麻ノ纖維修長ナル分  
 ハ、攢針ニ梳シテ、引切りタルマ、ニテ輸シ出ス、是ハ手紡トナス料ナリ、麻布  
 ノ密緻ナルハ、手紡ス、其價貴シ、其麁ナルハ「ロール」ニテ絲條トナス、其價卑シ、  
 紡絲ノ法ハ、長條ヨリ、次第ニ引伸テ小條トナシ、大絲小絲トナス、棉ヲ紡クト  
 同シ、又針ニテ切タル屑ヲ、再ヒ針頭ニ梳シ、之ヲ理シテ「ロール」ニテ條トナス  
 アリ、其法ハ「ロール」ノ後ニ、長キ箱アリテ、三女ヲシテ、麻ノ短キモノヲ盛り、次  
 第二送ラシメテ「ロール」ヨリ挾ミ出ス、是ヲ再ヒ輪環ノ鎮櫛ニテ梳リテ、以テ



大絲トナシ、中絲トナシ、其細絲トナルニ當リテ、器械ノ内ニ箱アリ、溫湯ヲ蓄  
ヘ、其氣中ヲ過キテ紡シ出テ、管ニ卷キトルナリ、○凡ソ器械ニテ紡スル所ノ  
麻絲ハ、其質粗ニ、其色粹白ナラス、後ニ標白ノ法ヲ以テ、之ヲ白クスルト雖モ、  
畢竟粹美ナルモノニ非ルナリ、麻苧ヲ梳理スルニ、第一ニ纖維修長ナル分ヲ  
梳シテ、手紡ノ料ニ輸出ス、精良ノ布ハ是ニテ紡織ス、其屑ヲ梳理シ、絲トナシ  
テ輸出ス、ヤ、鹿ナル布ハ、是ニテ紡織ス、更ニ其屑ヲ梳理シ、絲トナシタルヲ  
以テ、鹿布ヲ織成ス、最鹿惡ナルモノハ、穀物果實ヲ盛ル袋トナス、ヤ、鹿ナル  
ハ、綱條ニ綯シ、帆布ヲ織リ、稍美ナルハ衣服トナス、其純美ニ至リテハ、粹白ノ  
布トナシ、線<sup>レース</sup>縹トナシテ、一幅ノ價モ、千金ニ及フニ至ルナリ、歐洲ニ器械ノ利  
アリテ、麻皮ヲ以テ長纖維ノミヲ引切りテ、其屑ヲ更ニ用ニ供シ、己ニ引切り、  
其至短ノ纖維トナルモ、亦用アリ、竟ニハ製紙場ヘ送ルニ至ル、故ニ工省キテ、  
其美ヲ盡スヲ得ルナリ、○各國ニ産スル所ノ亞麻ハ、所謂ル「リン子ン」ナルモ  
ノニテ、其樹ヲ「フラッキスト」云、日本ノ麻苧ニ比スレハ甚タ鹿ナリ、我越後<sup>カラトシ</sup>杵皮  
ノ如キハ、其光澤絹ヲ欺ク、西洋人ノ瞳目シテミル所タリ、只其製絲ノ術ニ巧

ミナラサルヲ以テ、布トナルノ後ニ、反テ遠ク及ハサルニ至ル、天産ノ乏シキニ非ス、人工ノ及ハサルノミ、

○四時ヨリ「ガン府ヲ發シテ、五時ニ歸館シ、服ヲ改メ、夜王宮ニ赴キ、皇帝ヨリ「ソワレー」ヲ賜フ、「ソワレー」トハ、酒果ヲ以テ會宴スルヲ云、夫ヨリ舞踏會アリ、文武百官、男女三百人、正服ニテ集ル、燭光宮ヲ照シ、萬技ニスク、盛會ナリ、二十日 陰

九時二十分ヨリ、接伴掛兩人ノ案内ニテ、例ノ如ク、蒸氣車ニテ東走スルヲ五十二「キロメートル」約英ノ三十三英里ニテ某驛ニ至ル「メヨ」迎テ馬車ニ上リ、三「キロメートル」英ノ二英里ヲ走リテ「バツカット」ノ砲臺ニ至ル、此邊一帶ノ地ハ、ミナ沙漠ニテ生草ナク、耕スヘカラス、疎疎トシテ矮松ヲ生セルノミ、十五年ノ前ヨリ、此ニ砲臺ヲ築キテ、砲兵「チイルリ」隊二百人士官二十人ヲ以テ常戍トシ、此野ヲ以テ訓練場トナセリ、此日此ニテ砲射ノ技ヲ示ス、○此日ハ風吹キ、雲ヲ飛シ、霧起リテ、空氣清カラス、寒冱ハ面ヲ削ルカ如シ、第一ニ野戰ノ的打ヲナス、野面ヲ以テ步兵戰隊ト看做シテ、孔經四寸ノ施線砲四門ヲ、六馬ニテ率カシメ、野上

ニ備ヘテ、擲發彈ヲ裝填シテ射ル、最初ニ射發スルヲ三度、其彈丸ノ落ルヲミテ、距離ヲ量リ、一千百五十「メートル」ナルヲ算定セリ、是ヨリ十三發ヲ射出ス、其内ニ十一發ハ的中シ、一發ハ側面ヲ射ル、只一發ノハヅレナリ、○隊長指揮シテ砲隊ヲ進メテ又射ル、最初三發ニテ、七百七十五「メートル」ノ距離ナルヲ量定シ、而テ後ニ二十一發ヲ射出ス、十三發ハ的中シ、只三發ハ、ヅレタリ、合セテ三十四發ニテ、三十發ノ中リニテアリケリ、○夫ヨリ場所ヲカヘテ、施線鑄鍊砲ニテ、運動ノ的ヲ射ル、是ハ白國ノ新工夫ナリトテ、高サ一「メートル」半、長サ十二「メートル」ノ船形ヲ造リ、長キ綱條ヲ繫キテ、四馬ヲシテ曳キ走ラシム、是ヲ的トシテ射ルナリ、初メ距離ヲ一千二百七十「メートル」ト量定シテ、射ルヲ四發ノ後ニ、船ハ運動ヲハシム、遂ニ四十「メートル」許ヲ進ミ來リテ、林樹ノ蔭ニ至レリ、而テ砲ハ射ヲトメ、霧深クシテ、的射甚タ難シ、十發ノ内、四發ハ纔ニ及フ、二發ハ蹴リテ中リ、一發ハ器械ニ中ル、二發ハ前落シテ飛越セリ、○是ヨリ彈ノ速力ヲタメス、「プランチエ」氏新發明ノ器械ヲ以テ、十二「サンチム」三尺三寸ヲ百分セルヲ「サンチム」トス、施線綱砲ヲ用ヒタリ、是ヨリ十二「サンチム」約我三寸九分六里ナリ



リ遠町ノ的打ヲナス、又十二「サンチーム」ノ砲ヲ用ヒテ、一千二百三十「メートル」ノ距離ニ的ヲオキ、林樹ヲ隔テ、之ヲ射ル、其矢サキヲ測度スルモノハ、高地ニオリテ矚望シ、電信ニテ丸ノ著落ヲ報知ス、一發ハ右ノ手ニハヅレ、一發ハ五十「メートル」ノ前ニ落チ、三發ハ的中セリ、

白耳義國ノ人民ハ、健ニシテ善ク戰フ、狭小ノ國ヲ以テ、大國ノ間ニ介シ、其國ヲ立ルヤ、自ラ守ルヲ以テ主トス、元來此國ハ地勢平衍ナレハ、佛ヨリ兵ヲ東ニスルニ「メッツ」スタラスポルクノ險隘ハ、進軍ニ宜シカラサレハ、必ス路ヲ此國ニトル、其形勢タル春秋ノ鄭國ノ如シ、常ニ血戰ノ衝タリ、近年歐洲列國ノ會盟ニ此國ヲ以テ進軍ノ路トセサルヲ約セリ、然レモ戰時ニ當リ、敵國ノ兵士、意氣ミナ張ルノ際ニ於テ、中立ノ權ヲ全クスルニハ、必スヤ其力能ク四境ニ溢ル、ノ銳ナクソハ、安ソソ能ク中立ヲ守ルヲ得ソ、白國ノ氏、ミナ兵ニ慣ヒ、的射ノ集會行レテ、一般ミナ武ヲ嗜ミ、其兵役ニツクヤ、意氣剛壯ニテ、技術ニ閑熟セルヲ、大國モ及ハサル所アリ、白國ノ軍備ハ、平時ニ三萬九千名、戰時ニハ九萬八千八百名ナリト云、

射畢リ、士官ノ會堂ニ於テ、晝食ノ供アリ、夫ヨリ驛ニ至リ、蒸氣車ニテ歸走スルヲ、十五分時行ニテ、一ノ砲臺ニ至ル、

○此砲臺ハ、一千八百六十五年ニ「アンウエルプ」府ノ周圍ニ、スベテ八箇ノ新砲臺ヲ築キタル共一ナリ、輓近ノ火技益進ミ、舊製ノ砲臺ハ、多ク用ヲナサス、故ニ新工夫ヲ以テ築成セルモノナリ、砲臺ハミナ土ヲ以テ平原上ニ築キ起シ、重壕ヲ鑿リ、只砲門ノ周圍ニ、煉化石ヲ築固ス、平時ニハ四百人ノ兵ヲ置キテ戍ラシム、戰時ニハ一千五百人ヲイル、ヘシ、大砲ヲ備ヘタルヲ一百三十門、大ナルハ百磅ニ及フモノアリ、此國砲臺ノ嚴重ナルヲ、一行ノ目ヲ驚カセルモノ多シ、

六時ニ蒸氣車ニ上リテ、約三十五分時ニテ歸館ス、

## 二十一日

朝八時ヨリ、例ノ如ク蒸氣車ニ上リテ、東微南ニ走ル、此日曉寒ニテ、沿途ミナ積雪アリ、電信ノ線、叢樹ノ枝、ミナ氷凍リ、雪撒シテ、玉ヲ結ヒ、柱ヲ低レ、萬木千草ミナ銀花ヲ開キテ、車中ノ眺メ奇絶ナリ、此日經過セル所ノ地ハ、半途ヨリ

以後ハ地勢隆起シテ、鑛路ハ多ク切通<sup>キリトツ</sup>シノ間ヲユク、此ハ即チ白耳義ノ東南ヲ貫ク「アルラン」テス山脈ノ餘支ニシテ、此山「リイチ」ニ達シ、其尤モ高キハ「タウエトツ」山トナリ、海面ヲ拔ク一、一千尺ニ至ル、國中ニテ最高ノ地ナリ、○進行スル五十四英里ニテ、十時半ニ「リツチ」府ノ驛ニ達ス、此邊ニ達スルコロヨリ、地上ニ斑雪ヲミス、蓋シ北海ノ風ニテ雪ヲ送り、此ニ達セスシテ力絶ヘタルナリ、

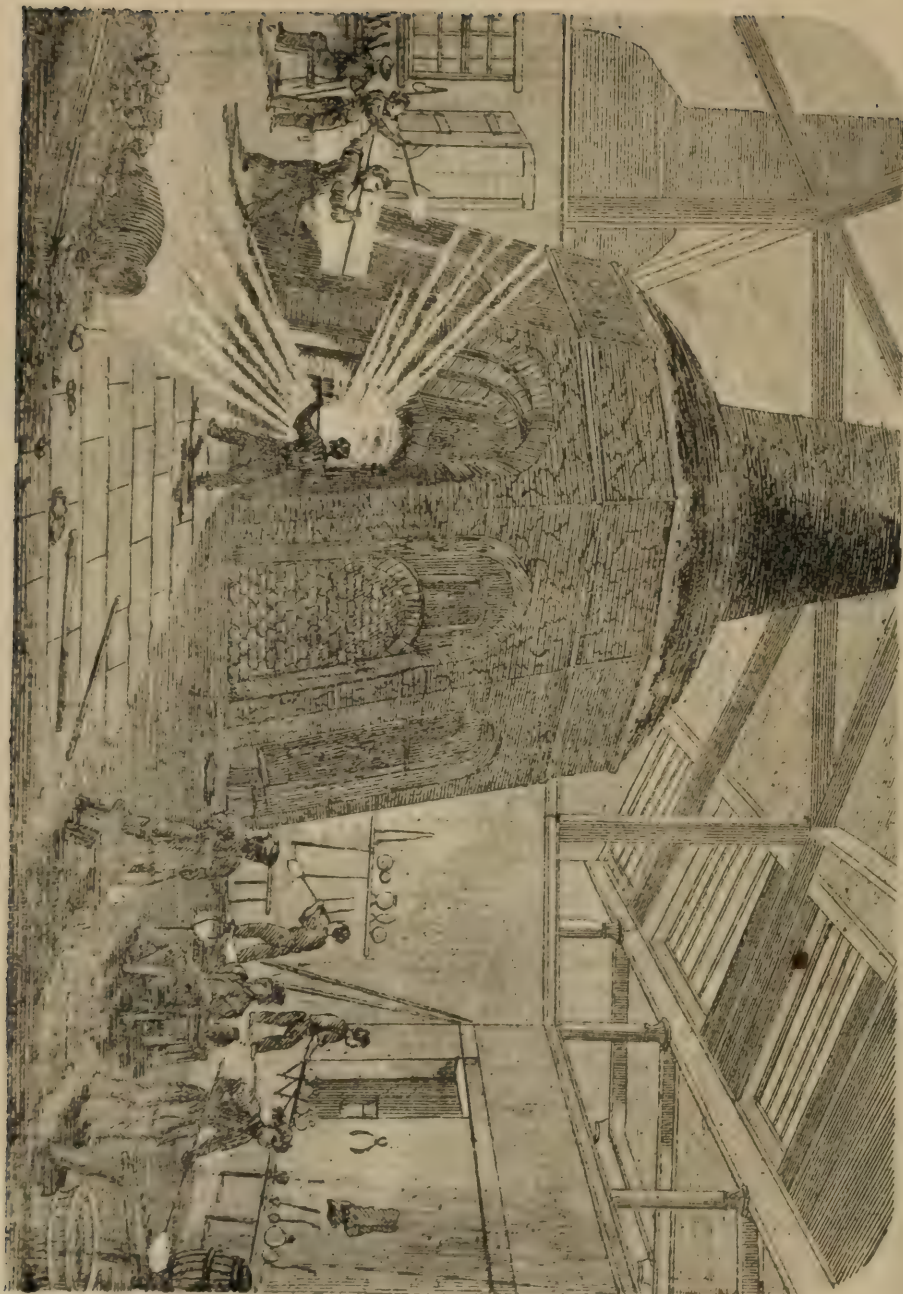
「リツチ」府ハ岡陵ヲ負フテ起ル、阜嘴參差トシテ、繞環シ、人家ハ其谷ニ滿ツ、其地ハ北緯五十度二十七分、東經五度三十分ニ位シ、人口十〇萬六千四百四十二人アリ、白國第四ノ都會ナリ、「レメー」セ河ノ岸ニヨリテ府ヲ開ク、河幅二百五十尺ニ及フ、水ハ急流ナリ、此河ハ白ノ南境ヲ流レテ、荷蘭ニ至リ、來因河ニ會シテ「レメー」セ灣ニ注ク、此邊ニ於テ、最大ノ河道タリ、此驛ニテ馬車ニ上リ、河ニソフテ遡リ走り、長橋ヲ越ヘ、總テ四英里ヲ經テ「ソー」ラン村ニ至ル、沿途ニ石炭ヲ積テ山ヲナシタル所ヲ、幾箇トモナク見ル、烟ハ處處ニ薰シ、製造ノ盛ナルヲ目撃スルナリ、



○ソーラン村ノ「ワルサル會社」ノ玻璃製造場ヲミル、此場ハ日ニ職人ヲイル、  
一千七百人、製造スル玻璃ハ、總テ「コップ」「水呑」「ガラス」「酒盞」「酒瓶」「藥瓶」、一切ノ房  
室飲食器等ニテ、場場并セテ十一箇宇アリ、磚瓦ニテ圓鑪ヲ起シ、之ヲ環シテ  
玻璃ヲ熔シ成ス、一ノ職人ニ、幼童數人ヲ付ス、童子モ亦能ク其技ニ慣熟セル  
モノアリ、玻璃工ノ子第ハ、玻璃場ニ於テ育成ス、管子ノ所謂ル幼ニシテ習フ、  
其心安スルノ意ナリ、玻璃ヲ製スル元料ハ、玻璃石ノ末（即チ白沙石）ニ「ボッタ  
ース」ヲ和シテ熔ス、所謂ル「ボッタース」玻璃ナリ、凡ソ「ボッタース」玻璃ノ質ハ、無色  
ニテ品美ナリ、器皿ノ用ニハ此質ヲ主用ス、曹達玻璃ハ、少ク藍色ヲ帶フ、窓櫺  
ノ用ニハ、此質ヲ主用ス、丹鉛ヲ和スレハ、質軟ニシテ熔解ニ易シ、施巧ニ自由  
ナリ、此場玻璃ノ元料ヲ調合スル處ヘ導キ、參和物ヲ陳列シテ示セリ、白石末、  
「ボッタース」、丹鉛ヲ主トス、丹鉛ヲ盛リタル箱中ニハ、玻璃ノ片落ヲ混シタリ、  
蓋シ玻璃ハ、再三熔スレハ、其質次第ニ粹美且堅牢ヲナスト云、製造スル所ノ  
玻璃ハ、無色ニテ玲瓏タル尋常ノ質モアリ、又白色ニテ模糊タルモノアリ、此  
質ヲ以テ製スルモノハ、磁器ノ如シ、其他紅アリ、紫アリ、黃アリ、綠アリ、一質ニ

數色ヲ合成セルアリ、瑩然トシテ文ヲナス、巴黎府ノ玻璃器ハ、多ク此ヨリ輪  
 シ入ルモノト云、○水呑「ガラス」ハ、鍍型ノ中ニ入レテ打出ス、兩人一型ヲ共ニ  
 ニシ、一人ハ「ガラス」ノ溶料ヲ分量シテ、型ニ落シコメハ、一人ハ機關ヲ弛メテ、  
 壓下ノ軸ヲ下ス、此型ヨリ打出シタルニ、又臺ヲ付ルニハ、又一人アリ、其側ニ  
 於テ、棒末ニ玻璃料ヲ點シテ、其底ニ粘付シテ、臺ヲツクルナリ、○玻璃ヲ磨ク  
 ハ、輪轉ノ鍍筒アリ、上ニ漏斗ヲ下シ、其内ニ砥粉ト、石末トヲ水ニ和シテ盛り、  
 其下口ニ草管ヲ施シ、水ヲシテ滴滴沁下セシメ、玻璃ヲ輪鍍ノ面ニアテ、磨磨  
 ヲ加フ、砥粉ノ色ハ、赭赤ナリ、蓋シ「オキシット、フェール」ノ類ナラシ、又黃黑色ナ  
 ルアリ、蓋「エモリー」石（即チ金剛沙）ノ粉ナルヘシ、○玻璃ノ面ニ畫ヲ雕スルニ  
 ハ、鋼ニテ製シタル、細小ニシテ薄キ小輪ヲ振轉シ、其輪ノ周圍ニハ、鋸齒狀ヲ  
 ナシ、凹凸力ヲ起セルモノ、精粗大小數十アリ、畫ノ模様ニ從ヒテ輪ヲカエ、玻  
 璃器ノ己ニ磨成セルモノヲ以テ、鋸輪ニアテ、「エモリー」石ノ粉ヲ水ニ和シテ  
 注キ以テ、刀刃ニカヘテ、刻畫ス、鳥ヲ畫キ、花ヲ畫キ、文字ヲ刻シ、直、圓、屈曲、宛轉、  
 盤回、ミナ意ノ如クナラサルナシ、堅鋼ハヨク玻璃ヲ截ル、「エモリー」石モ亦然

玻璃製造場ノ内景







リ、玻璃ノ滑ニシテ硬ナル、刀刃モ入ラサルカ如クナレ、尋常ノ玻璃ハ其硬  
サヲ金石類中ニ較シテ、之ニ較ヘキモノ一二ナラス、精良ノ玻璃モ、猶堅鋼ノ  
刃ニテ截ルヘシ、金剛石ノミ、玻璃ヲキルトイフハ、通論ニアラス、  
此場ニテ晝食ノ供アリ

○是ヨリ車ヲ回シ「リッチ」ノ製鋳場ヲミル、○「コッケリル社」ノ製鋳所ハ「リッチ府  
ノ鄙ナル「レメー」セ河濱ニアリ、此邊ニ鋳礦アリ、石炭ハ場中ヨリ出ル、「リッチ  
府」ノ製鋳所スヘテ十二箇所アリ、其内ニテ此場ヲ最大ナリトス、○此場ハ、一  
千八百十七年ニ、英人「コッケリル氏」始テ掀起ス、此時マテハ猶荷蘭ノ領地ニテ  
アリシニ、後白耳義國ヲ分立セシヨリ、政府精ヲ盡シテ製作ニ用意シ、カ、ル  
大場ヲナセリ、全場ノ地一百九十二「エーカー」、我七十八町許ナリ此ニテ製造スル所ノ  
鋳器ハ、種類甚タ夥多シ、車輪、瀝罐、車軸、車床、屋幹、鋳板、鋳軌、ミナ作ラサルナシ、  
場ヲ分チ、房ヲ並ヘテ、治成ス、「ハクトー」即チ「ハマー」ノ佛語ナリノ大ナル十五  
噸ニ及フ「ロール」ノ仕掛種種アリ、鋸スルニ「ダライバソク」アリ、輪ヲ鍛成スル  
ニ「プレッチン」マシイネ」ヲ以テシ、運搬スルニ「ルフテゾ」マシイネ」ヲ以テス、鋳

軌ヲシキ、瀛車ヲ運シ、地上ヲ行キ、屋上ヲユク、槌聲ノ鏗鏗タル、輪轉ノ轆轤タル、壯大人ヲ驚カサ、ルナシ。○設クル所ノ蒸氣輪ハ、毎廩ニ一箇ヲ付ス、其大ナルハ四千八百馬力ヨリ、小ナルハ三百馬力ニ至ル、職人ヲ用ヒル、日ニ九千人、一歳ニ給金ヲ給與スル、スヘテ六百萬「フランク」製スル所ノ器械、スヘテ其價三千萬「フランク」ニ上ル、日口ニ石炭ヲ燒ク、一千噸、鑛礦モ此傍ノ山ニアリ、石炭ヲ燒キ、瓦斯ヲ送リテ、全場ノ爐ニ送り、其燒殻「コー」ヲ以テ、鑛石ニ和シテ、猛風爐中ニテ熔スル、六時ニテ、爐口ヲ開キ、之ヲ沙型ノ内ニ熔注ス、凡ソ鑛ヲ鎔スルニハ、重ニ石炭ノ「コー」ヲ以テ、炭索ヲ親和セシム、木炭ヲ用ヒルハ、其精ナルモノ、ミニ於テス、○是ヲ熱鑛トナスニハ、鼓風罐アリ、即チ「ベシマ」ノ法ナリ、罐ニ七噸ヲ盛ル、炭素ヲ吹キ離シテ、三稜玻璃ヲ以テ、其火光ヲ照視シ、獨逸ノ「スボー」クル、ヤイムス」ヲ和ス、ミナ英國ニテ見ル所ノ如シ、第二十  
十六卷 石炭モ亦場内ヨリ出ル、炭層ノ厚サ「メートル」礦夫ヲイル、日ニ一  
千五百人ノ蓋シ九千人ニテ、地底六百「ヤールト」ノ下ヨリ堀リ出ス、即チ我三百  
三十間ノ地底ナリ、



西洋人ノ物産ヲ論スルニ、皆謂フ國ニ鍊石炭ヲ出スハ、富饒ノ源ナリト、凡  
百物ノ民力ヲ助クヘキモノ、一ニシテ足ラス、一得アレハ一失アリ、石ハ硬  
固ナレト碎ケ易ク、木ハ堅緻ナレト撓ミ易ク、革ハ強韌ニシテ柔ナリ、諸金  
ハ或ハ軟或ハ脆、只鍊ハ此數利ヲ兼タリ、鍊ノ利ハ石炭ニヨリテ著ハレ、石  
炭ノ用ハ鍊ニヨリテ生ス、炭鍊ノ歐洲ニ於テ、工藝ヲ補助シ、國民ニ營業力  
ヲ増加セシムルヲ、其功用ハ實ニ莫大ナルモノナリ、夫世運日ニ進ミ健ニ  
シテ息マス、人民ノ智識ハ、駸駸トシテ開明ニ赴キ、四肢ノ勞ヲ賴マスシテ  
物力ヲ借ルノ術ヲ求メ、鍊ノ利用是ニ於テ顯ル、東洋ノ俗ハ古ヨリ道德政  
治ヲ主トスレト、厚生利用シテ、正徳ヲ以テ之ヲ幅飾スルハ、三代政治ノ本  
領ナリ、當時ニ遡リ、之ヲ夷考スルニ、鍊冶ノ業モ夙ニ與レリ、鑒鑄シテ鼎鑊  
ヲ造リ、槌鍛シテ斧鋸犁鋤ヲ造リ、刀刃針釘ヲ造ル、四口ノ家モ鍊ナレハ、生  
活頓ニ困ス、其利已ニ著シ、然ルニ中世ヨリ退步ニ属シタルハ、蓋シ他ノ故  
ニアラス、工藝ノ業ヲ奢靡ノ淫巧ト誤認シ、元來工ハ民用ヲ足シ、國ノ營業  
力ヲ増ス、必要ノ職ナルヲ知ラス、只人力ノミ是疲ラシ、物力ヲ借ルニ怠リ

シニ因ルナリ、抑助力ノ器ニ三アリ、槓桿、活車、斜面トス、槓桿ノ理ニヨリテ、  
 輪軸ヲ作ル、力ヲ軸ニ托シテ、勢ヲ輪ニ發ス、重車走り、鍊船行キ、以テ碌碌ト  
 ナシ、以テ齒輪トナシ、氣、水、火、電、ミナ人ノ營業力ヲ培養スヘシ、活車ヲ輪軸  
 ニ託シ、千仞ノ底ヨリ重ヲアケテ、千尺ノ高キニ運スヘシ、斜面ニヨリテ、劈  
 鑿ヲ生シ、螺旋ヲ製ス、長廊空ヲ行キテ、墜落ノ危キナク、巨橋自ラ運シテ、河  
 流ヲ開闢ス、其天巧鬼設トモ賞賛スヘキ工ヲナシタルモ、其功用ハ、鍊ノ利  
 ニ基カサルハ、アラス、米、歐諸國ニ鑄冶ノ盛ナル、刃鋸ノ類ヲ製シテ、匠工ヲ  
 助ケ、鋤犁ノ類ヲ製シテ、農利ヲ利シ、又「シザイルインギニヤ」ノ場アリテ、凡ソ  
 濟世ノ器械ヲ作ル、輪軸トナシ、氣罐トナシ、屋幹ノ材、船舶ノ具、唧筒、螺旋ノ  
 用ヨリ、鑄鍊ノ場ニ至ルマテ、皆專科ノ製作場アリ、細大ミナ備ル、一邑ニ數  
 場、一都ニ數十場近キハ、鞴鞴鑿鑿ノ音ヲキ、遠キハ、炎炎赫赫ノ燄ヲ望ム、  
 人民其功ヲ睹ルノ著シキ、ミナ其用ヲ廣クスル方ヲ營求シ、政府其利ヲ受  
 ルノ大ナル、其法ヲ嚴ニシテ保護ス、故ニ大工場ニハ、砲銃ヲ鑄鍛シ、礮艦ヲ  
 裝成シテ、國ヲ防衛シ、船舶海ヲ歩シ、舟車陸ヲ走り、鐵路縱橫ニ亘リ、漏器累

落<sup>レ</sup>シテ運ス、橋ヲ架シ、屋ヲ支持スルヲモ、鋳ナリ、紙ヲ漉キ、書ヲ印シ、棉毛  
ヲ紡シ、布帛ヲ織リ、器皿ヲ製シ、木材ヲ鋸ス、ミナ、鋳ノ力ニヨル、其剛ナルハ、  
石ヲ鋸シ、玻璃ヲ截ル、其彈力ヲ起スニ至リテハ、力ヲ虛無ノ地ニ起シテ、器  
械自ラ運ス、以テ車廂ヲ受ケ、以テ寢床ヲ受ケ、以テ輪軸ヲ轉シ、以テ機ヲ發  
シ止マス、時儀ハ自轉シ、窓櫺ハ自卷ス、總テ米歐ノ地ヲ回リ、凡ソ坐臥心目  
ニ感觸スル、治安ノ效、文明ノ華、ミナ、鋳ノ變形シテ、此景象ヲ幻出セルノミ  
顧テ東洋ノ濟生治安ノ狀ヲミルニ、人ミナ四肢ヲ疲シテ、手技ニ食ス、鋳利  
隱レテ、牛馬モ力ヲ用フル所ナシ、猶是無懷氏ノ民ナリ、米歐各國ニテ、博物  
館ヲ設ケテ、國ノ厚生利用ノ開化セル次第ヲミルニ、鋳ノ發明ハ、常ニ銅ニ  
後ル、歐洲ノ古ニ當リテハ、鋳ヲ採ルノ術ヲシラス、地ニ自然鋳ヲ生スルモ  
ノ少ク、或ハ天ヨリ隕タル鋳石ヲ以テ、寶器ニ製スルナリ、羅馬ノ時ニ  
至リ、始メテ沙石ヨリ鋳ヲ採ルノ法ヲ知ル、昔時英國ニ於テ、大ニ冶鋳ヲ起  
シ、其煉漉ノ餘ヲ拋棄スル、丘山ノ如クナリキ、後世英人、是ニヨリ冶鋳ノ業  
ヲ興シテ、遂ニ今日ノ盛ニ至レリト云、東洋ノ鋳利ハ、西洋ニ後レタルニ非



ス。禹貢已ニ鑠鉄ノ貢アリ、是支那ニ鉄ヲ發明セルハ、四千年以前ニアリ、大  
 公望カ、九府ノ圖法ヲ以テ齊ヲ興スヤ、鉄與レリ、其後管仲桓公ヲ助ケテ、齊  
 國ヲ富マス。三十年、其資スル所ハ、鹽鉄ノ利ニアリ、輕重篇ニ、是ヲ論スル  
 一詳カナリ、漢武帝富強ヲハカリ、工藝ヲ作シ、貿易ヲ講スル、物議囂然、是ニ  
 ヨリテ、鹽鉄論ヲ政治家ノ間ニ起セルハ、鉄利一頓ノ始メニテ、實ニ羅馬鉄  
 利ヲ起ス年代ニアタレリ。本邦ノ鉄治ハヤ、後レ、朝鮮ヨリ其術ヲ傳ヘタ  
 ルハ、應神天皇ノ朝ニ興ル、猶是羅馬ノ盛時ニカ、ル、其後以テ甲兵ヲ作ル  
 一ヲ發明シ、其國ヲ防護スルニ大用アルニヨリ、冶鉄ノ業ハ、衆民ノ著目ス  
 ル所トナリ、刀刃ノ工ニ精ナルハ、世界ニ冠タリト云モ可ナリ、因テ其餘利  
 ハ、匠耕ノ器械ニ波及シ、之ヲ支那ニ比スレハ、器械ノ便ハ數等ヲ超タリ、試  
 ミニミヨ、支那ノ工技ハ、日本ノ刀刃犀利ニテ、手技敏巧ナルニ及ハス、其雅  
 致アリト謂フモ、實ハ刃ノ鈍ク劣レルニヨルノミ、工藝ヲ作スノ目的ハ、國  
 ノ奢靡淫巧ヲ勸ムルニハアラス、國民ノ生産上ニ、其營業力ヲ増サシメ、需  
 用ノ器ニ満足セシムルニアリ、人馬ノ荷駄ハ、車力ノ重ヲ致スニ及ハサル

ハ器械ノ效ナリ、即チ工藝ノ利益ナリ、是鍊ノ大用アルノ明證ニアラスヤ  
日本ノ民ハ、幸ニ東洋中ニ於テ、最モ製鍊ノ進歩ハ上等ニオリ、之ニ加フニ  
工技ニ長シ、物産ニ豊ナリ、今ヤ開明ノ運ニ際シ、鍊石炭ノ兩利ヲ開キ、刀刃  
斧、鑿輪、軸、螺旋、ミナ内國ニ製作シ、三業ノ民ニ利用ヲ與ヘ、農耕、紡織、建築、家  
什、運送ノ百需ニ充分ナラシムルヲ務メハ、國產是ヨリ増シ、其利益ハ反テ  
米歐ニ被ラン、若夫レ然ラス、徒ニ手技ノ巧ヲ善ヒ、陶、銅、漆ノ工ニテ些少ノ  
輸出ヲナシ、工藝ハ此等ノ業ニアルト謂フハ、大ナル誤リナリ、此篇前後製  
作場ヲ記ス、其本ハ鑛利ニアルヲ以テ、此ニ痛論スル所ナリ、

「コツケル氏ノ始テ此場ヲ起セルヤ、英人はヲ憎疾シ、愛國ノ本心ヲ失却セ  
リトテ、一時甚タ議論ヲ受ケタリキ、遂ニ是ヲ以テ白耳義ノ富強ノ基本トナ  
レリ、今ニ至リ白耳義ノ製鍊ハ、歐陸地ニ於テ第一ノ盛ヲナセリ、





第五十一卷 白耳義國ノ記下

二十二日 陰

朝九時ヨリ、例ノ如ク、蒸氣車ニテ、西北方ニ走リ、「フライン」府ヲスキ、「クロセー」村驛ニ至リ、板玻璃ノ製作ヲミル。○此製作場ハ、今ヨリ五年前ニ、新圖シ、金ヲ集メ、場ヲ造リ、三年ヲ經テ後ヨリ、製作ニ取カ、リ、僅ニ二年ノ星霜ヲ經タレ、其進步意外ニ拙<sup>ハカ</sup>取レリト云、

西洋人ノ事業ヲ起ス、其目論見ヲ立ルルニ、甚タ周密ニ思慮ヲ盡シテ、事事詳慎ナルヲ、殆ト日本人ト反對ノ性質ナリ、其考案商量ヲ積ミ、其成果アルベシトスレハ、雛形、圖取ヲナス、己ニ英國ノ第<sup>ニ</sup>二十七卷ニ出、演說ヲ書立テ、會社ヲ募リ、釀金ヲ集ム、此ヲ著手ノ始メトス、是ヨリ免許ヲウケ、假木屋ヲタテ、器械ヲスエ、兩三年ノ星霜モ費シ、徐徐ト事業ニカ、リ、進步ヲ謀リ、其事業ト利益トノ計算ニヨリ、益共、場屋器械ヲ堅美充全ニナシテ、榮譽ヲ世ニ示スニハ、少クモ十年ノ功程ヲ經ルヲナリ、日本ノ人ハ、未タ利益ヲ起スノ實際ニ達セ

ス、利益ハ容易ニ得ラルベキモノト思ヒ、俄ニ目論見ヲ起シ、忽チ會社ヲ設ケ、火急ニ事業ヲ取擴ケ、一年ナラサルニ、壯麗ノ場屋ヲ建並ヘ、人目ニ眩耀スル頃ニハ、其利益ノ實際ハ、已ニ衰滅ヲ徵セリ、是其人氣ノ活撥輕佻ナルニヨルト雖モ、實ハ未タ利益ノ眞理ヲ解セサルニ出ル、此條ノ二三語ヲ玩味シテ可ナリ

此場ニテ調合スル玻璃ハ、白沙石末ニ石灰、曹達及ヒ木炭末ヲ和シテ、土壺ニ盛リ、三日三夜ノ間、爐中ニ熔解スト云、即チ曹達玻璃ナリ、其鎔料ヲ、鏡盤面ニ「ロール」ニテ展ヘル、ミナ英國ニテ見シ所ト異ナルヲナシ、英國ハ、鏡盤ト冷シ、竈トノ間ニ、距離ヲ存ス、此ハ直ニ竈口ニアリテ工ヲナス、輕便ヲ覺フナリ、

○磨礬スルニハ、第一次ハ沙ノ粉ヲ以テシ、次ニハ「エモリー」石ノ粉、第三次ハ「オキシット、フエール」ヲ以テ磨ク、第一次ノ礬ヲ施スニハ、器械ヲ以テス、此器

械ヲ施設運動スルニ奇巧アリ、木材ヲ以テ磨礬臺ヲ作り、其上ニ磨礬スル玻

璃ヲ貼付ケ、磨礬シテ工ヲ畢レハ、其臺ヲ繚覆シ、鈞ヲ以テ倒ニツリアケ、其具

下ニ、別ノ一臺ヲスエ、ツリアケタル臺ヲ、徐徐其面ニ下スニ、玻璃板ハ木板ニ

觀貼シテ落チス、蓋玻璃ノ平滑ナルニヨリ、平臺ノ面ニ觀貼シ、其間ニ空氣ナケレハナリ、因テ上ナル臺板ヲ離シトレハ、玻璃板ノ表ト裏トヲ反シタリ、○再磨ハ、人力ヲ用ヒテ、石牀ノ上ニテ磨ス、婦人幼童ヲ使フ、三次ニ至リテ、又石ノ磐アリ、之ニ「オキシットフェール」ノ粉ヲ、水ニテ注灌シテ磨ク、是ハ赭赤色ノ粉ニテ、略英國「セントヘーレン」ニテ見ル所ニ同シ、彼場ニテハ床動キ、磨刷ハ動カス、此場ハ之ニ反セリ、

場中ニテ製スル所ノ玻璃板、方一「メートル」ニテ、價五十「フランク」ナリ、巴黎府ノ鑑板ハ、此國ノ玻璃ヲ輸入シテ、之ニ水銀ヲ摺リ、裝飾ヲナスノミ、巴黎ニ玻璃ノ大製場ナシト云、此場ハ猶草創ナレハ、職人ヲイル、日ニ二百五十人ニスキス、

○是ヨリ約二英里ヲ驅シテ「フロビデンス」ノ製鍊場ニ至ル、此處ヲ「マルシーネ邑」ト云、人家ハ多ク矮屋ナリ、途上ニ石炭礦ヲミル、又鍊鑛モアリト云、「フロビデンス」ノ場ハ、此邊ニテ三ヶ所ノ製鍊場ノ一ナリ、三社ニテ職人ヲイル三千人、此ハ其八百人ヲ役ス、此場ニテハ、重ニ「ワクセン」及ヒ鍊線ヲ製ス、「ワクセ



「ハ木口<sup>コナマ</sup>同狀ニシテ、引展ヘタル鍍條ニテ、之ヲ組ミ立テ、屋根ヲ造ル、大ナルハ棟ニカヘル等、種種建築ノ用ニ供ス、又他ノ用ニモ合ス、大小數等アリ、其他屋宇ヲ作ル種種ノ鍍材モ製ス、當時南亞米利加ヨリノ頼ミナリトテ、方十間ノ屋根ヲ組ミタテ居タリ、其價ハ六百弗ナリ、

場内ニ於テ「ガハナル」ヲ始メ、同席ニテ晝食ノ供アリ

○「カントスラソバー」氏會社ノ薄板玻璃製造場ニ至ル、場宇亦廣シ、此製作ハ、英國ノ「チャンセ」氏ノ場ニテ製セルト同シク、大ナル圓筒ヲ吹キナシテ、其兩端ヲサリ、一面ヲ割シテ、罐内ニイレテ平展ス、○玻璃ヲ熔スル土壺ハ、銅型ヲ安シテ、上ニ棉布ヲシキ、白色ノ結麗土ヲ以テ、壺ヲ製スル料トナシ、一婦一童ヲシテ、其土ヲ搏捏シ、棉布上ニ縝密ニ塗り立ル、我邦ノ<sup>ヘツジイ</sup>廚突ヲ塗ルニ似タリ、<sup>ヤ</sup>「チンヒ」氏ノ如ク土壺ヲ作ル器械ナシ、白耳義ハ、職人ノ工料賤キニヘ、器械ヲ省キテ、人力ニテ造ルモノ多シ、器械ハ便ナレ<sup>ヒ</sup>、修覆シ、蒸氣力ヲ費シ、鍍冶ノ盛ナル地ニモ、利益ヲ計算スレハ、反テ人力ヲ利トスルモノナリ、○玻璃面ニ白泥ヲ塗リテ、種種ノ紋ヲ燒付ル、此料ニ用フルハ、一種ノ泥アリ、其法ハ問フヲ失セリ、○場内

ニ職人ヲイル、日ニ六百人、一ヶ月ニ給スル所ハ、一人ニ五百「フランク」ヲ平均トス、其内ニテ筒ヲ吹キ成ス職人ハ、給金甚々尊シ、一人ノ給料、月ニ一千二百「フランク」ヲ給スル者、十餘人アリ、此等ハ多ク、玻璃ヲ吹テ、大圓筒ヲ作ル工ナリ、板玻璃ハ大小ニ截リ、箱ニイレテ仕出ス、約長サ一「メートル」、幅一「メートル」平ノ方板ヲ、三十箇入ニテ、價七十五「フランク」ト云、

玻璃ノ製作ハ、其術東洋ニ傳ハラサリシヨリ、世ミナ貴重奢靡ノ品トナシタリ、然ルニ方今ニ於テハ、西洋ニテ其製造益盛ノニテ、且巧者コッシャニナリ、賤價ニテ製シ出スニ至リタレハ、固リ貴キ品ニアラス、器皿、窓櫺ノ用ニ消費スルヲ、年年ニ増加スルハ、疑ヒヲ容レス、是ヲ盡ク輸入ニ仰クハ、經濟ノ目的ニアラス、且世ニ不便ヲ與フルヲモ少カラス、玻璃ノ製造ハ、早晚ニ興サ、ルベカラズ、且日本ハ玻璃ヲ製スルニ、不適當ナル國ト謂フヘカラス、試ミニ其地ヲミヨ、質花剛石層ヲ露出シ、山河ノ表面ニ、淨砂雪ノ如キヲミル、又「カオリソ」「ヘルトスパート」等ノ陶石ヲ處處ニ産シ、白堊土石灰ニモ乏シカラス、玻璃ハ、硅土、石灰「ポッターズ」、曹達ト、白堊土トニテ、製作ノ器具ハ備ハ

レリ、此外ニ其製作ニ於テ、大ナル器械ヲ要スルニモアラサルナリ、英國以後ニ、玻璃ノ製作ヲシハシハ記シタレハ、其梗概ハ知ルベシ、只玻璃調合ノ方ニ於テ、各場ミナ詳説ヲ告ケサリシニ、此ニ塙國「ナーゲルベルク」ノ法ヲ得タレハ、其一般ヲ記シテ考ニ備ヘシ、

「ポッタース玻璃ハ、硅石百磅ニ付テ「ポッタース」二十五磅、石灰二十五磅、曹達五磅ヲ和シ、之ニ砒石八「ロール」、約我三十七錢三酸化ニックル」半「ガラム」ヲ和ス、

曹達玻璃ハ、硅石百磅ニ付テ、岩鹽六十磅、曹達五磅、石灰十二磅、木灰五磅ヲ和ス、

此兩種ヲ雜用玻璃ノ元質トナス、第二十八卷塙國ニ岩鹽多シ、故ニ曹達ニ

ヲ見合セ

ハ此物ヲ和劑スレト、英白ニテノ實見ニヨレハ、曹達ノ製作ニ饒カナル地ハ、必スモ岩鹽ヲ要セサルヲ知ル、聞ク塙國ニテハ、曹達ハ英國輸入品ヲ用フルト云、各國ニテ其和劑ニ異アルハ、畢竟賤價ニテ製成スル、經濟利益ノ巨的ニ出ルヲ察スヘシ、○著色ノ玻璃ヲ製スルニハ、頗ル經驗熟練ヲ要ス、元來石質ニ顔色ヲ著ケルハ、酸化金屬ヲ用フルモノナリ、烈火ノ内ニハ



炭酸充滿セリ、其中ニ於テ酸化金屬ヲ保全シテ、其目的ノ色分ヲアタヘシムルヲ理上ノ談ノミニテハ悟リ難シ、如何トナレハ、玻璃ノ原質ヲ熔解スルニハ、其質ニ含メル金屬ノ雜質ヲ、火ノ炭酸ニ媒助シテ壤離セシメ、渣滓トナシテ除キサル術ヲ施ス、著色ハ之ニ反シテ、酸化ノ金屬ヲ保全ス、是其術致ナカルベカラス、凡ソ紫色ノ玻璃ニハ、酸化滿俺ヲ加フ、之ニ酸化鐵ヲ加ヘ、少量ニ用フレハ黄色ヲナス、此酸化滿俺ヲ加ヘテ、熔煉スルニハ、尋常ノ熔化法ニテ、較易シ、壤國ニテハ、七十ノ一ヨリ、百ノ三マテノ結晶土、粘土ヲ加フト云、赤色玻璃ハ、酸化銅ノ發色ナリ、銅ノ酸化ハ、炭酸ニ壤レ易シ、故ニ玻璃ノ破片ヲ以テ元料トシ、之ニ「ボッターズ」硝石ヲ加ヘ、密封シテ熔ストナリ、藍青色ノ玻璃ヲ「コバルト」<sup>ゴス</sup>ニテ著色スルモ、亦然リ、又骨灰及ヒ錫ヲ和スレハ乳白色ヲナス、玻璃面ヲ蝕剝シテ、不洞明質ヲナサシメルニハ、「フロリン」酸ヲ用フ、是ハ海鹽、及ヒ其製シタル餘水ヨリ製法ス、○玻璃ヲ熔スニ、其火度ハ白炎以上ニ達セサルベカラス、故ニ其熔シ壺ト、竈ノ材料モ擇ハサルヘカラス、皆剛泥ノ白色ナルモノヲ用フ、即チ白堊土ナリ、又礬土<sup>トモ</sup>

之ヲ摺捏スルニ三分一ノ量ニ、破損セル壺ノ粉末ヲ加フルトナリ、凡ソ玻

璃モ壺モ其熔煉ノ度重<sup>タヒカサナ</sup>ル毎ニ質分精好トナル、白耳義ニ於テハ、玻璃末ヲ

原料ノ硅石末ニ混シタル<sup>ニ</sup>壺國ニテハ、一旦熔解セルヒニ、渣滓ヲサリテ、

原料ト等分ニ、玻璃屑ヲ加フト云、竈モ白堊土ニテ、圓形ニ築キ、中ニハ八壺

ヲイル、大サニ作り、務メテ餘隙ヲ少クシテ、火燄ヲ蓄フル面積ヲ減ス、焚

材ハ、石炭、薪材、及ヒ泥炭ミナ宜シ、玻璃ノ熔煉ニハ、火烟ノ清淨ナルヲ要セ

サルニヨリ、賤價ナル焚材ニテ可ナリ、只火力ノ弱キヲ好マサルノミ、○原

料ヲ板トナスハ、職工ノ技術ニカ、リ、固リ理上ノ談ニ非ス、顧フニ日本ニ

テハ、此工ヲナス職工ナキニアラス、和劑、熔解、未タ十分ナラサルノミ、

○此日ハ「フロッセル府中ノ諸製造會社ヨリ、必ス一顧ヲ要シタルヲ以テ、使節一

行ヲ兩伍ニ分チ、分籤ニテ、木戸副使ノ一伍ハ、府中ヲ回覽セリ、

○首ニ鑢<sup>ブリツキ</sup>錫鑢器ノ製造場ニ至ル、鑢ノ薄板ニ、錫ヲ鑢シタルハ、共ニ人身ニ無毒

ナル鑢物ナルニヨリ、西洋各國ニテ、飲食日用ノ雜器孟ハ、ミナ鑢錫鑢ノ器ヲ



用フ、之ヲ日本ニテ比スレハ、木桶、及ヒ銅鑢<sup>カラカチ</sup>ノ諸器ニ代用スルユヘニ、貴賤ニ

通シ、需用甚タ多ク、製作モ亦盛大ナリ、其製作ニハ、格別ニ記スヘキ伎倆ナシ、  
○銅鍍類ハ酸化シ易ク、其酸化液ハ、大ニ人身ノ毒ヲナスモノナレハ、食飲ノ  
器ニ用フルハ、西洋人ハ忌嫌フナリ、日本ニテモ、宜シク鍍錫鍍、及ヒ鍍器ニ  
改革スルヲ務ムベシ、鍍錫鍍ノ價ハ、一噸ニ付、英國ノ相場ニテ百磅ニスキ  
スト云、

○夫ヨリ寄木<sup>ヨセキ</sup>細工場ニ至ル、寄木ノ細工ハ、歐洲大陸地方ニテ、大ニ流行スルモ  
ノニテ、佛國以西ハ、上等ノ家屋ハ、斃石ニ代ヘテ、寄木ノ方形板ヲ、斃石法ニテ、  
牀板上ニ張り、其面ヲ磨鑿シタレハ、滑澤ナルヲ履ヲスベラス、花毯ヲシキタ  
ルハ、中等以上ノ家屋ナリ、寄木ノ細工ハ、線鋸ヲ用フ、線鋸トハ、鋼鍍ニテ線ヲ  
鍛成シ、是ニ鋸齒ヲキリ、兩輪ニテ張りテ旋轉セシメ、板ヲ其線ニアテ、截ル  
モノナリ、大小種種アリ、或ハ弓弦ノ如クニ製セルモアリ、又斃板ヲ製スルニ  
ハ、良材ノ薄板ニテ、喩ヘハ黃質ノ板ニ、黑質ノ板ヲ以テ、紋様ノ嵌鑲スル<sup>キメコミ</sup>ハ、  
黃ト黒ト、板ヲ交互ニ重ネ、上ニ畫紋ヲ畫キ、其様ヲ按シテ、線鋸ニテ鋸シサリ、  
畢テ後ニ、上面ナル一枚ノ板ヲ去レハ、畫紋ノ分ノミ留ル、因テ之ヲ鑰覆シ、上



ニ凸出スル畫紋ノ板ヲトリテ、最初ニ去リテ、板ニ嵌鑲スレハ、他ハミナ畫紋ノ分、黃黑ノ位置ヲ悉ク黃色黑紋ニナリタリ、其縫合ノ處ハ「テール」ノ煉物ノ如キモノニテ糊ス、是ニテ寄木細工ノ一斑ヲ察スヘシ、

○夫ヨリ針製作場ニ至ル、縫帶用ノ針ヲ製作スルニハ器械アリ、巧致絶捷ナリ、其大概ハ、最初鋼線ノ線ヲ製鍊所ヨリ仕入レ、「ロール」ニテ鑄ヲサルコトハ、釘ヲ製スルニ同シ、英國第三十八卷ヲ見合其鋼線ヲ兩針ノ長サニ截テ、其正中ニ於テ、孔ヲ穿ツキ、并セテ之ヲ斷テ兩箇トナズ、錐ヲ用フ、其錐ハ、形ヲナス、左右ノ錐尖ハ些シク抽テ、之ヲ雙旋セシメ、鋼線ヲアツレハ、錐ノ入ルニ從ヒ、中央ナル刃モ下リテ、鋼線兩斷スルキ、己ニ施眼ノ針頭ヲナセリ、○其針末ヲ尖銳ナラシメルニハ、之ヲ鍊ニテ製セル小欄ノ眼ニ挾ミ、アサ駢列シ、左右ヨリ鍊ヲ以テ之ヲ揉ム、此鍊ノ面ハ上ヨリ漸漸ニ微斜セルモノニテ、相合スレハ、狀ヲナスヘキモノナリ、故ニ針ハ之ニ觸レ、各自ニ旋回シテ、尖銳ナル末ヲ磨礱シナスナリ、○此針ヲ磨クニハ「セム」ノ片ヲ以テ針ヲ束シ、中ニ砥粉ヲ撒シ、堅ク包ミテ、一握ノ卷軸ノ如クナシ、之ヲ「ロール」ノ際ニオキ、強ク揉メハ、中ニ包メル針、ミナ

相互ニ磨勵ヲ加ヘテ、須臾ニ開キミレハ、銀光ヲ發スルニ至ル、如此キノ器械  
ニテ製作スルヲ以テ、巧精ニシテ價廉ナルヲ得ル、日本ニテ針ヲ製スルヲミ  
ルニ、一丁ノ職工ニテ、微小ノ一針ヲ把テ、之ヲ治シ、之ヲ鑪シ、錐ヲ回シテ之ニ  
眼ヲ開ク等、實ニ精細ノ工ヲ疲ラシテ、些少ノ價ヲ獲ル、甚タ不便利ナレハ、西  
洋ニテハ、別ニ簡捷ノ工アラソトヲ思ヒシニ、此場ノ製作ヲミレハ、摩姑ヲ倩  
ヒ痒ヲ搔カ如シ、妙ト呼ハサルヲ得サリキ、

## 二十三、日雪

午前九時ヨリ馬車ニテ、西走スル十二英里ニテ「ウートルロー」村ニ至ル、此ハ一  
千八百十五年ノ六月十五日ニ英ノ大將丟克オフ、ウェーリントン氏、佛帝拿破  
侖第一世ヲ破リタル、高名ノ戰場ナリ、此邊ノ地勢、ミナ平坦ナル原野ニテ、漫  
坡起伏シ、處處ニ林村アリ、一望曠然タル地ナリ、村野ハ路ニ沿ヒテ、數百家ア  
リ、ミナ一味ノ野村ニテ、其内ニ一大寺アリ、是ヲ「ウェーリントン氏ノ本陣トス、  
○村ノ盡ル所ニ「ホテル」アリ、此ニテ小憩ス、是ヨリ大路ヲ貫キテ、西ニ向ヒユ  
ケハ、一路アリ、右ノ方北ニ走ル、此路ヲ走レハ、一ノ瓦壁ヲ匝セル廢屋アリ、元

ハ豪家ノ別墅ナリシニ、戦争ノキ、英人はニ據リテ佛軍ヲ拒ミ、壁ヲ鑿ツテ砲眼トナシ、佛兵ヲ射タリ、其砲眼ミナ存セリ、全壁ニ佛軍ヨリ射タル彈痕ハ、雨斑ノ如クニ存ス、其門前ニハ、當時森林ニテアリシニ、今ニ生存セル樹ニハ、皮ニ彈痕ヲ帶ヘ、生長ニ從ヒテ半ハ滅セリ、此前二十町餘ヲ隔テタル高所アリ、林アリテ村ヲナス、此ヲ佛帝拿破侖ノ本陣ナリトス、六月十五日ノ戰ニハ、佛軍ハ、黎明ヨリ英陣ニ迫リ、其銳兵ヲ以テ烈戰シテ、其目的ハ急ニ捷ヲ決スルニアリ、故ニ佛軍ヨリ、烈シク此陣營ヲ攻メ、後門ヲ奪ヒテ、九タヒ入ルヲ、九タヒ拒ミ、佛軍ハ門ヲ出ル毎ニ、英軍ヲ桃ミテ出戰ハシメントスルヲ、百方ナレ、英將ハ全軍ノ怒氣ヲ抑制シ、敢テ出スシテ、其銳ヲ挫折シタル、有名ノ戰場ナリ、○此屋ヲ出テ、南スレハ、坡面漫斜ヲナス、此ハ英軍ノ備ヘタル所ナリ、此ハ蘇格兵ノ備ヘタル所ナト、其戰狀歴歴トシテミルカ如シ、其南五六町モ隔テタル原野中ニハ、一ノ高冢ヲ起ス、此處ハ兩將雌雄ヲ決シ、死屍山積ノ中心ナルヲ以テ、戰捷ノ後、一千八百十八年ニ、高冢ヲ築成シテ、其蹟ヲ表セルナリ、冢頂ニ方石ノ基、丈八尺ナルヲスエ、上ニ銅製ノ獅子、砲丸ヲ踏ミ、西方



白耳義國「ワトルロオ」村



同英將「ローリント」本陣ノ寺





巴黎ヲ睨ミタル像ヲ生ス、家ノ南ハ即チ前ニ謂フ西行ノ大路ニテ、拿破侖此路ヲ開キテ、巴黎往來ノ道トセリ、西側ノ樹木鬱葱タリ、其間ナル廣平ノ原ヲ、騎兵烈戰ノ場ナリトス、六月十五日ノ朝ニハ、拿破侖十分ノ精銳ヲ鼓舞シ、此日ノ白日中ニ、英兵ヲ蹂躪シテ、英獨逸ノ烏合ヲ蹴散サント、黎明ニ白馬ニ跨リ、陣ニ臨ムニ、不幸ニシテ、其晨ニハ雨降り、支度ニ障リ、兵隊ヲ繰出スヲ遲延シタリ、頓テ旌旗ヲ整ヘ、鼓聲ヲ震ハシ、直ニ「ウェーリントン」ノ營ヲ衝「ウェーリントン」ハ、拿破侖カ餓虎ノ勢ニテ、其利ハ急戰ニアルヲ以テ、萬馬ノ奔騰スルカ如キ軍勢ヲ抑壓シ、務メテ山靜動カサルノ膽力ヲ持重シ、兩軍原野ニ相鬪フ、佛軍ノ銳騎、死力ヲ以テ英陣ニ狂入ス、英軍之ヲ拒止ス、兩將ノ營、相距ルヲ數町ニ迫リ、佛軍ノ銳ナル、一ヲ以テ十二當ラサルナク、死屍山ヲナシ、流血川ヲナシ、跳濤ノ岩礁ニ觸ル、カ如ク、拿破侖モ親ヲ進ンテ、路西ナル農家マテ來リ「ウェーリントン」ノ營ハ、家前ニアタル道傍ノ農屋ニ陣ス、兩屋相距ルヲ僅ニ百五十尺ノミ、英軍烈戰、且進ミ且退キ、凡三回マテ、拿破侖ハ進ンテ路西ノ屋ヲ奪ヒタリト云、頂上ヨリ望メハ、當時ノ戰狀、歴歷トシテ猶眼前ニアルカ



如シ、○道ノ南ニ、野ヲ隔テ、村林アリ、其日ノ昏黃ニ、普魯西ノ軍、此ヨリ進  
テ、佛軍ヲ横撃シタリ、拿破侖ハ銳ヲ盡シテ、英將ノ本營ニ迫レ、此英軍拒戦シ  
テ敢テ退カス、又敢テ進マス、夕陽ニ際スルマテ、勝負決セス、拿破侖早ク普軍  
ノ來ルヘキヲ知ル、其路程ヲ數フニ、黃昏ニ至ラサレハ、能至ルヘカラサルヲ  
以テ、之ニ先タツテ、英軍ヲ破ラソフヲ期セシニ、意外ニ延遷シ、己ニ暝ニ及ン  
テ、普軍ノ旌旗ミユ、拿破侖ハ事ノナラサルヲ知リ、車馬ヲ弃テ、逸足ニ佛國ヲ  
サシテ歸去レリ、佛ノ軍人モ、曾テ其歸リシヲ知ラス、夜ニ入リテ烈戦猶盛ナ  
リ、普軍新手ヲカヘテ横撃シ、英軍息ヲイレテ又戦ヒ、銃丸雨ノ如ク、萬馬馳突  
シ、其日ノ烈戦ハ、夜九時マテ勝負ヲ決セサリキ、此家前ニハ、兩軍ノ死屍枕藉  
シテ、十二時間ノ烈戦ヲツケタル所ナリ、○冢ノ高サハ、級ヲ拾フニ二百二  
十五ニテ、其頂ニ達ス、獅子ノ銅像ハ、其重サ四万六千磅「リッ府ノ製造家、英人  
「コッケリル」ノ鑄造セルモノナリ、其巴黎ヲ睨ミタル面目甚タ雄ナリ、佛人此日  
ノ敗ヲ憤リ、此像ヲ憎惡ス、其後白國ノ民、荷蘭ト絶テ戦フキ、佛人援兵ヲシテ、  
克捷ノ後ニ、此像ヲ毀タントナシ、一度ハ火藥ヲ伏セルヲモアリタレ、此白國

白耳義國「ワトルロオ」之高塚



同英將守戰之營跡







人保護シテ毀タシメサリキ、今ニ至ルマテ、此ニ佛人ノ訪ヒ來ルモノナシ、而テ獨乙、英國ノ男女ハ、來リテ弔古ヲナスモノ、日日ニ絶ヘストナリ、是ヨリ大道ヲ歩シテ歸ル、右ナル道傍ニ一屋アリ、是ハ佛ノ病院トセシ所ナリ、此日ハ雪後ニテ、野面ニ雪泥斑斕トシテ、天陰リ氣濕ヒ、殊ニ意象慘淡ヲ覺ヘタリ、

## 二十四日 雪

朝九時ヨリ「フロッセル府」ヲ發ス、接伴掛リミナ送り來リ、二十七英里半ヲ走リテ「アンウエル」府ニ達シ、源車ヨリ下レハ、府知事、及ヒ將士、驛マテ迎ヘ、馬車ニテ共砲臺ニ至ル、

○「アンウエル」府ハ、白耳義國物產ノ吐納、タ、此一港ヲ要スル衝地ニテ、北緯五十一度十三分、東經四度二十四分ニ位シ、人口十二万六千六百六十三人アリ、「フロッセル」府ニ亞スル大都會タリ、「スケルト川」ノ下流ニヨリ、府ヲ開ク、古時ハ歐洲有名ノ貿易場ニテ、一千七百年末ニ、佛國所領ニ歸セシ比ハ、佛帝拿破侖第一世、深ク此港ニ注意ヲ加ヘテ、諸ノ便利ヲ興セシヲ以テ、一時ハ大ニ繁華ヲキハメ、二十餘万口ノ大都會ヲナシ、港内ニハ、二千五百艘ノ商舶ヲ碇舶セ

リト、今ニ其築キシ船廠、砲臺、エキステンダ「タウンホール」等、宏大日ヲ驚カス  
 所甚タ多シ。○抑白耳義國ハ、歐洲四通八達ノ衝ニテ戰時ニハ、列國流血劇戰  
 ノ場トナルカ如ク、平時ニモ往來運輸ノ盛ナル他ノ地方ニスクレタリ、故ニ  
 此國ノ民口ハ非常ニ繁庶ヲナシ、鐵路ハ蜘蛛ノ網ヲミル如クニ架シテ、政府  
 一項ノ經濟トナリ、州郡ニ大都會多キモ、ミナ白國人民ノ氣力勉勵ニヨルト  
 雖モ、亦地勢ノ然ラシメルト謂ハサルヘカラス、巴黎ヨリ蘭ノ奄特坦アムステルダムニ赴ク  
 ニモ、獨ノ伯林ニ往來スルモ、ミナ白國ニ路ヲトル、南ハ來因河ノ下流ニ控ヘ、  
 南方獨逸ノ物貨モ集リ、不來梅、佛蘭克佛及ヒ哥羅尼ケルント互ニ相往來シ、陸路ノ  
 貿易甚タ盛ナリ、海口ハ僅ノ水邊線ヲ有スレモ「アンウェルフ」港ノ安全ニシテ  
 形勢ヲシメタルヲ、此邊ニ無雙ニテ、英國倫敦及ヒ東ハ荷蘭、獨逸、西ハ佛國、西  
 班牙ノ商船至ル、北海第一ノ要港ナリ、故ニ佛帝拿破侖ノ注目シタル所ニテ、  
 今ニ此港ノ繁華ナル所以ナリ、白國ノ荷蘭ト絶テ自立セル始メニアタリ、「ア  
 ンウェルフ」ノ港口ヲ荷蘭ノ塞ク所トナリテ、十年間漸ニ衰頽シ、憐ムヘキ狀ヲ  
 ナセシニ、二十年來開港ノ公法ヲ除キテヨリ、再盛ノ運ヲ挽回シ、人口年年ニ

増加スルトナリ、

○「アンウ<sup>エ</sup>ルフ」ノ砲臺ハ、佛帝拿破侖第一世ノ築キシ、大城砦ニテ、以テ全府ヲ匝繞ス、星形ノ大壘ナリ、此城砦及ヒ船廠ノ設ケニ、總テ五千万「フランク」ヲ費セリト云、白國ノ政ハ、權利ヲ守ルヲ目的トス、大國ノ間ニ介シタル平地ナレハ、國力ヲ盡シテ砲臺ヲ設ケ、其堅牢壯大ナルヲハ、歐洲ニ於テ無雙ナリト云モ可ナルヘシ、此日ハ只其一部分ヲ回覽ス、内ニ屯卒千二百八十八ヲオク、戰時ニハ増シテ三千人ニ至ルヘシ、大砲ハスヘテ二百八十五門ヲ備フ、内ニ六十磅ノ施條後裝砲多ク、彈藥庫四戸アリ、武庫ニハ小銃二万四千挺ヲ蓄ヘ、又刀槍、野戰砲、臺場砲、馬具等ヲ蓄フ、其他砲車、砲床ハ、多ク彈藥倉ノ近傍ニ蓄ヘタリ、「ロヤルエキステンヂ」及ヒ「タウソホール」ニ至ル、上下ノ議堂ニ、二三百年ノ古畫多シ、「エキステンヂ」ハ一千八百六十九年ヨリノ再建ニシテ、白石ヲ以テ築キ、頗ル宏大ナリ、

博物館ニハ、多ク古畫ヲ集ム、白國ノ人ハ、畫技ニ精ナリ、其有名ナル畫工「ロヘン氏」ノ畫アリ、其他各國ノ名畫多シ、此館ニ於テ、畫ヲミテ模造スル、縱觀人ノ



内ニ一男子アリ、年四十餘、家ハ素封ナレト、生來兩手ナシ、足ヲ以テ手ニカヘ、諸用ヲ辨スルコト、曲折ヨク至ル、剃刀ヲ以テ鬚ヲ剃ルニ至ル、刀モ畫ニ巧ミナリ、館中ニテ畫ヲ寫スニ、足ニテ筆ヲ運シ、彩ヲ施ス、手ニ異ナルコトナシ、其寫セシ畫ハ、後ニ齋シテ宮内省ニ獻上シタリ、今ニ此府ハ、書學ノ盛ナルコト、頗ル歐洲ニ高名ナリ、又府中ニ建タル大寺ハ、直立四百四十五尺ノ高塔ニテ、歐洲第三ニオルモノナリ

カスナレ

知事ノ宅ニ於テ、晝食ヲ享シ、三時四十分ニ驛ニ至リ、接伴掛ト別レ、是ヨリ發

車シテ、荷蘭國ニ赴ク、田畝漸ニ盡キテ、松樹ノ平林ニアフ、數英里ニ連リ、松、鵝、鵝、タリ、滿林ノ樹ハ、ミ十年壽穉シ、十餘年來ニ植エタル林ナルヘシ、蓋シ此邊ハ海濱ニ近キ沙壤ニテ、耕牧ニ適セヌ廢地ナリ、歐洲農業學ノ進步セルニ從ヒ、山林ノ育養モ、次第ニ術ヲ得テ、沙壤ノ地ニハ、先ツ生殖シ易キ草ヲウエテ土ヲ變化シ、從テ樹木ヲ植付ケ、漸漸ニ巧ヲ收ム、松ハ生植シ易キ木ナルヲ以テ、カ、ル地ニハ、松苗ヲ仕立テ培植ス、皆官ヨリ植付ケニ著手スト云、白耳義ハ、平地多ケレト、山林ノ數ハ、頗ル廣シ、佛國ノ山林ハ、全地百分ノ十六ニス

キサレヒ、白耳義ハ百分ノ十九半ニ及フ、官有ノ林少クシテ、私有ノ林多シ、全國山林百分ノ六十五半ハ、私有ニ屬ス、凡ソ材木ノ價廉ニシテ、林多キ地方ハ人民ミナ思慮ナク之ヲ用フルニヨリテ、速カニ缺闕ニ至リ易シ、私有地ノ林ニハ、人民必ス廣葉樹ヲ多ク植エテ、速ニ斬伐シ、利益ヲ得ルヲ謀ル、又農牧ノ利益ニ奔赴シテ頻リニ、山林ヲ開墾スルハ世ノ通弊ナリ、歐洲ニ於テモ、往時ハ工業未タ開ケス、鐵材ニテ材木ニ代ルノ利ヲシラス、山林ヲ斬伐シ、希臘、西班牙、佛國、及ヒ英國ニテ、其大害ヲウケタリ、此等ノ弊ヲ鑑ミテ、山林ノ制度ヲ興シ、方今ハ歐洲ニ自由政治ノ益行ハルニ反對シテ、唯山林樹木ノ制ニ於テハ、往時ノ自由ヲ廢シテ、束縛抑制スルノ政度ヲ立ルニ至リシモ、畢竟ハ衆庶ノタメニ、永利ヲ圖レル所ナリ、佛國ヨリ白國ノ野ヲスキルニ、樹林甚タ希ナリ、之アルモ廣葉ノ樹林ニテ、年年ニ其枝ヲ斬リ、數年ノ後ニ、其幹ヲ斬ルヘキ利益ヲ主トセルモノニテ、喬木ノ林、及ヒ針葉ノ樹林ハ、甚タ少キノミナラス、殆ト之ヲ見サリシ、此邊ノ沙壤ニ於テ、始メテ松林ヲミルハ、即チ歐洲ニ山林保護ノ法ニ、注意ヲ生シタル年代ヨリ、植付タルト察セラレタリ、當今ニ至

テハ、私有ノ樹林モ、樹林ノ官ニテ法ヲ立テ、制限規律ヲ設クルヲ謀ルト云、  
 全國ノ利益ヲ保續シ、人民ノ自由ヲ完全ニスルニ於テハ、政府ノ配意、益周密  
 ヲラサルベカラズ、白耳義ハ、共和制ニ近キ、自主政治ノ國ナレト、其實際ニ於  
 テハ、亦其自由ヲ規則スルヲ謀ルハ、實ニ山林ノミナラサルヘシ、



# 第五十二卷

## 荷蘭<sup>ホレランド</sup>他國總說

「ホルランド國ハ、又、ネーデルラント國<sup>ニ</sup>云、我所謂ル「オランダ國是ナリ、此國ハ、歐洲列國中ノ一小國ニテ長サ百六十英里、廣サ一百英里ニ及ヒ、幅員一萬二千六百二十〇方英里ノ土壤ヲ領シ、又白耳義、佛朗西、兩國ノ界ニ、國王「オレチ家ノ所屬タル「レキセン堡國、幅員九百九十四方英里ヲ兼領シタリ、其總地積ハ一萬三千五百十四方英里ニ及フ、白耳義ニ比スレハ、土壤ノ廣キヲ二百百餘方英里ナレ<sup>ニ</sup>、人口ハ反テ及ハス、一千八百七十一年ノ檢閱ニ、三百八十五萬八千〇五十五人アリ、其内二十萬六千九百八十五人ハ「レキセン堡國ノ人民ナリ、○此國三百年前ニハ、一時威力ヲ逞フシ、海外ヲ航シテ諸方ニ屬地ヲ轄有セシニ、其後一時衰亂ニアヒ、其屬地モ、多クハ英國ノ占據スル所トナリタレ<sup>ニ</sup>、猶今ニ東西印度、及ヒ亞弗利加洲ノ兩境ニ、六十五萬一千二百六十七方英里、人口ハ一千八百三十七萬一千二百人ノ屬地ヲ所轄セリ、其内ニモ東方ノ府庫トナシタル屬地ヲ瓜哇<sup>ジャバ</sup>トス、此國ハ二百年以前ヨリ、我日本ニ航

通シ、毎年一隻ノ商船ヲ送リタルモ、即チ瓜哇ヨリ仕出セシ船ナリ、當時我邦ニハ、外交ヲ拒絶シ、獨此國ノミ航渡ヲ許セシヲ以テ、日本ノ產物、歐洲ニ傳播セルハ、ミナ其利權ヲ此國ニ占領シ、大ナル利益ヲ受タリ、

○此國成立ノ根元ハ、略白耳義ト史傳ヲ同クシ、佛、填ニ屬シ、後西班牙ニ屬セリ、西班牙政府ヨリ總管ヲ差派シ、諸州ノ長ヲ管領セシメ、州州ノ政府ハ、固有ノ政治ニ仍シニ、<sup>ヒリツフ</sup>非立第二世、殘虐ニ教門ノ苛禁ヲ設ケシニヨリ、北部七州連合シ、西班牙ニ叛キ、共和政治ノ國ヲタテ、今ノ「オレチ家」ノ祖、<sup>ツリヤム</sup>維廉第一世ヲ奉シテ「ステート、ソルデルス」トセリ、（鎮臺ノ義ナリ）是一千五百七十九年ノ「ニテ、荷蘭獨立國」ヲナシタル原始ナリ、「オレンチ家」ハ、日耳曼ノ「オレンチ」及ヒ「スチャーロン」族ノ家筋ニテ、佛國ノ境ニ、豐沃ナル所領地ヲ有シ、此時ヨリ荷蘭「ソルデルス」ノ權ヲ有シ、維廉第三世ハ、英國王<sup>チユームス</sup>惹迷斯第三世ノ女、馬利ト婚セシニ、此后後其王位ヲ襲フヘキ權ヲ得テ、維廉モ馬利ト共ニ、其王冕ヲ繼ケリ、此時ニハ、英、蘭併合シテ一王トナリ、之ヲ維廉、馬利ノ世トイフ、一千七百四十七年、維廉第四世ノ代ニ至リ、「ソルデルス」ノ名ヲ「オレチ家」ノ世襲爵位トナシ、九十

五年ニ至リ、佛國共和ノ大統領拿破侖第一世、兵ヲ舉テ來侵シ、荷蘭ヲ敗リ、維廉第五世ハ、夫婦逃レテ英國ニ走リ、全國佛領トナリシニ、千八百十三年十一月、拿破侖ノ戰敗ニヨリ、各國公使、維納ニ會議ヲナシ、荷蘭共和國ヲ存スルニ決シ、維廉第五世モ、舊領ヲ復シ、且白耳義ノ地ヲ并セテ、一ノ王國ヲ立ヘキニ決シ、十五年ニ「ワートルロー」ノ戰ニ於テ、佛軍ニ當リ、烈戰シテ之ヲ敗リ、其翌年三月十五日ニ、列國再ヒ維納ニ會議シ、此時ニ蘭白合併ノ王國ヲ、維廉第五世カ君臨スルヲ看認メタリ、是ヨリ維廉第一世ト稱ス、<sup>ウィリアム</sup>一千八百三十年ニ、白耳義國、叛キテ分立シ、南北相爭フ、九年ノ後、一千八百三十九年四月、倫敦ノ會議ニテ、今ノ國境ハ定マレリ、○此時ニ「オレンヂ家ノ舊封」レキセン堡國モ、舊ニ仍テ其兼領タルヲ看認メタリ、其國ハ日耳曼聯邦ノ中ニテ、<sup>チェーグ</sup>丟克爵ナル一國ナレハ、蘭ニ於テハ、王ト稱シ、日耳曼ノ會盟ニテハ、丟克ニテ列席セシニ、六十七年ニ、日耳曼改革ノ時ヨリ、聯邦ノ會盟ヲ離レタリ、此「レキセン堡」ハ、王家ノ繼續ニ附屬シタル地ナレハ、若シ王統ノ他ニ移ルヲアレハ、其國ハ他ノ聯邦中ヨリ、丟克ヲ擇ムヲニ定マレリ、今ハ此ニ蘭國ヨリ兵ヲ出シテ、其保護



ヲナス、

荷蘭ノ國王ハ、元共國民ノ選舉ニヨリテ「ステート、ソルデルス」トナシタルヨリ、權利ヲ得タレ<sup>ニ</sup>、爾後其權ヲ世襲スル<sup>コト</sup>二百餘年ニ垂レ、佛帝拿破侖第一世ノ亂ニ、維廉第一世ノ軍功ヲ以テ、維納ノ會議ニヨリテ、王爵ニ上リ、爾後相傳フル、己ニ三世ナリ、其國民ノ上ニ、權力ヲ有スル<sup>コト</sup>ハ、白耳義王ヨリハ較重シ、王ノ歲俸ハ只二十五萬弗ヲ、毎年ノ公費中ヨリ領取スル定マリナレ<sup>ニ</sup>、オ<sup>ン</sup>チ家ノ親族ハ、皆巨大ノ房產ヲ所有シ、其私租ノ入ハ、甚タ豐多ナリ、是ハ維廉第一世、荷蘭ノ商業ヲ振起セ<sup>ン</sup>カ爲メニ、施シタル計策ニ出ル<sup>コト</sup>ナリ、○立法官ハ、各地方ノ荷蘭人中ヨリ、僧侶、裁判官、州知事ヲ除クノ外ハ、八弗二十五錢<sup>セント</sup>以上ノ納稅者、四萬五千人ニ一人ノ割ヲ以テ、公選シテ、下院ノ議員トス、上院ノ議員ハ、三十九人ノ定員ニテ、地方官ヨリ、各州中ニテ最モ多キ納稅者ノ内ヨリ選舉ス、新法ヲ創定スル<sup>コト</sup>ハ、下院ノ權ニアリ、政府ノ宰相ト協議シテ、草案ヲナシ、上院ニ於テハ之ヲ討論可否スルマテニテ、改正スルノ權ナシ、○行政官ハ、國王ノ命ニテ舉任ス、歲俸五千弗ツ、ナリ、內務、會計、司法、屬地、外務、

海陸軍ノ七人ニシテ、兩院ノ會議ニハ、出席シテ其議ニ與ル、討論辯駁スルヲ得ス、是荷蘭政治ノ大概ナリ、

○地球ノ上ニ、種種ノ國ヲ形成シ、種種ノ民族住居シ、各風俗生理ヲ異ニスルヲ、意態萬狀ニテ、百花ノ爛漫タル觀ヲナス、歐洲各國ノ如キハ、元一樣ノ政化ニ似タレトモ、其國ノ異ナルハ、即チ生理ノ異ナル所ニテ、己ニ白耳義人ハ、我日本ノ築紫一島ニ比スヘキ、平野ノ面ニ、粹勵自主スルヲ見テ、又荷蘭ニ至レハ、九州ノ筑肥四州ニ比スヘキ、人口ニテ、塗泥ノ中ニ、富庶ヲ謀ル景況ヲ見ル、皆我ノ耳目心思ニ、多少ノ感ヲ與フルナリ、嗚呼、天利ニ富ルモノハ、人力ニ惰リ、天利ニ儉ナルモノハ、人力ヲ勉ム、是天ノ自然ニ平均ヲ持スル所歟、之ヲ聞ク支那ニ就シ、揚子江口ニ至レハ、淤泥ヲ海面ニ露出シテ、淼茫タル廣澤ヲミル、其地面ハ、江蘇、浙江ニ連リテ、深ク、湖南、湖北ニ至ル、其地積ハ、日本ヲ兼倍スルヘシ、之ニ生スル人民ハ、殆ト億ニ及ヒテ、其地ヲ稻田ニ化シタルハ、十ノ二三ニスキス、無量ノ富壤ハ、之ヲ荒草ニ飽カシメ、天時僅ニ不和ナレハ、流移餓殍路ニヨルト、荷蘭ハ、正ニ其一部ノ地ヲ、北方寒冷ノ緯度ニ有セルナリ、塗泥モ化

シテ稻田トナスベカラス、甘蔗棉花モ亦生セス、礦金モナク、石材モナク、又山林モナシ、而テ其人民ノ勉強儉勤ナル、世界富國ノ一ト推サレタリ、蘭人ノ心ヲ以テ、支那ノ野ニ住セハ、其幾百ノ荷蘭國ヲ東方ニ生スルヲ知ラサルナリ、願フ我日本ノ如キモ、亦荷蘭ノ勉メタルニ比スヘキ歟、抑支那ノ情ナルノ類ナル歟、此ニ荷蘭ノ地形ヲ記述スルヲ觀ルヘシ、○「ホルラント」トハ、卑地ト云義ナリ、白蘭ノ兩國、スヘテ濱海ノ卑地ナルユヘ、「ホルラント」ノ南部、北部ト稱ス、南部「フラソデルス」ハ、今白耳義ノ地ニテ、猶高爽ニ屬ス、北部ヲ荷蘭國ノ地トス、西北一帯、ミナ北海ニ濱シ、水邊ノ線ハ、海岸ノ凹凸屈曲甚シク、之ヲ全括スレハ、五百英里ノ長サニ及フヘシ、濱海ノ部分ハ、地形甚タ低シ、又來因「ミユース」スケルト兩河ハ白耳義ヨリ來ル「アムステル」等ノ河水、ミナ此國ニ至リ海ニ注ク、故ニ内部ニハ、河流ノ淤泥ヲ積ミ、外邊ニハ、海潮ノ斥鹵ヲ寄セ、以テ此一國ヲナセルト謂ヘキ地勢ナリ、海口河岸ニ墳塘ヲ築キテ、海水ノ泛濫ヲ防キ、其間ニハ、天然ノ地形ニヨリ隄防ヲ全クスルモノモアレヒ、過半ハ人造ニ成リ、木材、石材、及ヒ土ヲ以テ築固シ、基ノ廣サ七丈ニ、高サ三丈ノ長堤ヲ回シテ、圍繞シ、



其上ニ大路ヲ通セル處アリ、國ノ中部ニアタリ、一ノ内海ヲ抱ク、之ヲ「シンデル、シー」ト云、廣サ一萬二千方英里、殆ト全國ノ地積ニ超ユ、此處古代ニハ「一ノ沼湖アルノミナリシニ、洪水ニ因テ數度ノ衝壞ヲ蒙リ、後一千二百八十二年ノ大洪水ニテ、七十二邑ヲ全ク沈沒シテ、海底ニ陷レ、十萬餘口ノ生靈ヲ海藻トナシタリ、○蘭國ノ卑濕ハ、實ニ意想ノ外ニ出ツ、國民多分ニ、水平線ノ下ニ居住スルト謂モ可ナリ、外濱ハ堤防ヲ築キ、内部ハ風車ヲ設ケテ、水ノ汎濫ヲ防キ、川澮ハ地上數尺ノ上ヲ流ル、田野ニハ溝洫ヲ堀リ、縱橫基局ノ如ク、以テ畛域ニカヘ、牛羊ヲ放ツテ牧ス、牛羊溝ヲ隔テ、相呼フ、土壤ハ多ク塗泥ノ濕地ニテ、沙壤ヲミル希ナリ、海牙<sup>ハーグ</sup>ヨリ「シンデル海<sup>シール</sup>」ノ洲岬<sup>シール</sup>一帯ハ、大低沙壤ニテ、頗ル岡坡ヲナシ、海潮ノ濱モ、白沙皚トシテ雪ノ如シ、獨逸ノ境ニ接シテ、頗ル岡巒アリ、白耳義ノ境ヨリ、南北「ホルランド州」其他西方ノ半部ハ、生口繁クシテ、貿易諸業皆盛ナリ、奄特坦<sup>アムステルダム</sup>、鹿特坦<sup>ロッテルダム</sup>、海牙「レーデン」等ノ大部邑、皆此ニアリ、東北ノ諸部ニ至レハ、地味惡ク、人口モ希少ナリ、氣候ハ土地ノ卑濕ナルト、北海ニ濱セルトヲ以テ、他邦ヨリ、來寓スルモノニハ、甚タ快暢ナラサレ、恒風絶

ルナク吹渡リテ、鬱蒸ノ水氣ヲ拂フヲ以テ、動植ノ健康一害ナシ、且此利ニヨリテ、風車ノ設ケヲナシ、日夜風力ニヨリテ、水ヲ掀撥シ、汎濫ノ憂ヲ免ル、然レモ西及ヒ西南ノ風、年年ニ暴颶ヲ起シテ、植物ニ害ヲナシ、堤防ヲ破毀スルヲモ少カラス、又昏霧ヲ起シテ、空氣ノ清暢ヲ妨クルハ、此國、及ヒ噠馬ノ患害ナリ、我一行ノ佛國ニアルヒ、噠蘭ニ、大風暴潮ノ新聞アリ、北海ノ岸ニ、其衝破ノ跡ヲミタリ、然レモ之ヲ東南洋ノ颶母ト、津波トニ比スレハ、亦淺淺ナルノミ、太平洋、印度洋ノ廣淼ヨリ、時トシテ障礙ヲ生スルハ、北海、氷洋ト同一ニ談シ難シ、寒暑、及ヒ雨水ノ平均度ハ、白耳義ト相同シ、冬季ノ寒、シハ、甚ク嚴ニ、晴天ハ、一年中ニ僅ニ四十日ニスキスト云、雪少クシテ霜嚴ナリ、「シンデル」ノ海水ハ、第一月ノ比ニハ、堅氷ニ閉ラレ、「グレードヘルデル」渠ノ水ハ、氷ヲ結フヲ三ヶ月ヲ亘ルトナリ、我一行ハ、二三月ノ交ニ、此國ニ滯リシニ、兩雪陰寒ノ日多カリキ、

○此國ノ地形ト、土質トヲミルニ、我日本ニ移セハ、稻米、棉花ニ適セル地ニ似タレモ、歐洲ノ緯度高ク、水田ノ業ヲナスハ、トルキ土耳其、ローマ羅馬、ニヤ尼及ヒ以太利邊マテ行

ハルノミ此國ハ五十一度ヨリ、五十三度半ノ地ニ位シ、北海ニ面シ、元來耕作ノ業ハ、地味ニ適セス、全國ニ産スル穀物ノ高ハ、一千八百七十年ノ計算ニ

燕麥

四百〇九萬三千四百〇七「ヘクトリットル」

裸麥

三百八十九萬二千三百十一「ヘクトリットル」

小麥

二百〇五萬六千二百二十二「ヘクトリットル」

大麥

百八十五萬四百三十〇「ヘクトリットル」

「スペル」小麥ノ一種

玉蜀黍 百萬「ヘクトリットル」

此總價ハ統計家ニテ、前十ケ年ノ平均ヲナセシニ、農産ノ總價ハ、一億七千二百十七萬五千六百九十「ギユルテン」ニテ、近三年ハ次第ニ減シタリ、之ニ反シテ、此國ノ繁榮ナルニ從ヒ、穀物不足ノ高ヲ増シ、同年輸入ノ高ハ、四百三十八萬二千三百五十三「ヘクトリットル」ニテ、殆ト其價ハ一億「ギユルテン」ニ及ヘリ、○全國濕潤ノ地多キニヨリ、牛牧ノ業ニ適セリトテ、大ニ其業ヲ務メ、歐洲ノ牧國ト稱ス、同年ノ計算ニ、

馬

二十五萬二千〇五十四



驢<sup>ドンキー</sup> 百四十一萬〇八百二十二

騾 四十萬三千百九十三

牛 百五十四萬七千七百五十一

羊 九十〇萬〇百八十七

豕 三十二萬九千〇五十八

野羊 十萬六千九百三十〇

此使用獸畜ノ價ハ、一億六千萬「ギULDEN」ニ當ルト云、全國ノ野ハ、春夏ノ候ニ至レハ、牟牟ノ聲ヲ四境ニ滿ツ、其乳ヲトリテ乳酪<sup>ボートルチーズ</sup>乾酪ヲ製ス、其牧畜ノ利ハ、生獸ニテ、英國及ヒ獨逸ニ輸出ス、乳酪ハ、歐洲各地ミナ製セサルハナケレト、蘭國ノ産ハ特ニ別品ナリ、英國ヘ出ス價モ六百八十萬弗ニ及フ、屠肉諸畜ノ價ハ反テ之ニ及ハス、五百四十餘萬弗ニスキス、乾酪ノ美ナル、蘭國ニ旅寓スルモノ、旅館ノ食饌ニ於テ、此品ヲ食フヲ樂ム、英國ヘ乾酪ノ輸出モ四百七十萬弗ニ及フトナリ、○北海ノ濱ニハ、漁業ノ利アリ、重ニ鱈白ヲ名産トス、此國ノ漁民ハ、小艇ニテ常ニ白耳義、佛蘭西、及ヒ英國ニ向ヒ、生魚ヲ賣ルヲ猶房總

人ノ日本橋ニ魚ヲ輸スルカ如シ、千八百七十二年ニハ、一歳ノ總高價二百三十萬「ギユルデン」ニ上ル、漁業ノ官ヲ設ケテ、魚ヲ養成スルトナリ、○耕稼ヨリ生スルハ、亞麻、蘿蔔、甜紅燕、芥子、烟草、コロウエルノ實ニテ、烟草ハ六萬、セント子ル「出ス、又瓜哇<sup>ミヤ</sup>馬尼刺<sup>ニラ</sup>ノ輸入ニテ、其製造高ハ大ナリ、國人ノ烟草ヲ吸フ、一年一人ノ平均四斤四分ノ三ニモ及フ、歐洲ニテ第一ニ烟草ヲ嗜ム國ナリ、麥酒ヲ飲ム量ハ之ニ反シ、一年一人ニ四「リットル」ニモ及ハス、麥酒ノ釀造高ハ、百三十五萬六千「ヘクトリットル」、其他釀造蒸餾物ノ製ニ長シ、名酒多シ、

礦物ハ、全國ニ絶テナキニ近シ、只陶泥ヲ出ス、上品ニアラサレハ、蘭國ノ陶、頗ル世ニ布ケリ、家屋ヲ築ク石材ニモ乏シ、隄塘建築ノ用ニハ、石ヲ他邦ニ仰ク、木材モ亦然リ、南方ハ、日耳曼地方ヨリ、河下シニテ來ル、東北ハ、瑞典、那威、露西亞ヨリ、鑛ト木ヲ輸入ス、然レモ國民ノ勉強ニヨリ、都邑ニハ普ク鑛石ノ路ヲ修メ、濱海ニハ大堤ヲ起シ、陸ニ屋、海ニ船、ミナ鑛石ヲ牢固セルハ、勉メタリト謂フヘシ、

○製作ノ業ハ、千八百七十年ニ、製作場ノ數一千五百〇六ヶ所ニテ、蒸氣器械

ノ數千九百二十三、其馬力ハ二萬二千〇十七ナリト云、○此國ノ長技ハ一ナ  
 ラス、其一ヲ晒白ノ方トス、西洋ニ「コロール晒白」ノ法ヲ發明セサル以前ハ、布  
 ヲ漂スルヲ專テ此國ニテナス、之ヲ煮、之ヲ漂シ、之ヲ野ニ晒シ、反覆七十餘日  
 ヲ經テ、皎白ノ布トナス、之ヲ野晒方ト云、此國ノ地ニ水氣多ク、且民性ノ勤勉  
 ニテ、精ヲ用フルニ耐ヘルヲ以テ、佗ノ諸國ミナ及フ能ハス、次ハ蠟ヲ晒白ス  
 ルニ巧ミナリ、日本ノ木蠟ハ、此國ノ奄特坦ニ輸入シ、晒白シテ他ニ出ス、蠟燭、  
 石鹼ノ製作モ、亦大ナリ、又金剛石ヲ磨琢スルモ、亦此國ノ特技ナリ、植民地ヨ  
 リ棉花ヲ輸入シテ、棉布ヲ織出ス、質美ニ價廉ナリ、亦名産ノ一タリ、其他毛ヲ  
 織リ、麻ヲ紡シ、硝革、沙紙ノ業、搏陶釀造ノヲ、ミナ務メサルナシ、特ニ輸出ノ盛  
 ナルハ、牛羊ノ牧ト、牛酪ノ美トヲ最トス、造船ノ業モ亦長スル所タリ、内國ニ  
 其材料乏シケレバ、之ヲ隣邦ヨリ取テ造成ス、兼テ綱具ヲ綯シ、併テ他國ニ賣  
 出スニ足ル、○植民地ヨリ得テ、再ヒ輸出スルモノハ、咖啡、砂糖、木棉、烟草、鼈甲、  
 香料等ナリ、ミナ國人ノ製作元品トナリ、利ヲ他國ヨリ収ム、瓜哇、蘇莫答刺<sup>シモダ</sup>ヨ  
 リ産スル、咖啡、ハ百四十一萬、セント子ル<sup>アムステルダム</sup>、奄特坦ト、白國「アントウェル」ヲ市場ト



ス兩國ミナ此ヲ茶ニ代用ス、近代ニ至ルマテ我日本ノ貿易ハ此國ニテ專ラ  
ニセルヲ以テ、其利柄ヲ占メタルモノアリ、醬油ノ如キハ此國ニ專商アリテ、  
之ヲ日耳曼、瑞典等ニ賣出ス、各國ニハ贗製アリテ、併セテ其國國ニ行ハル、  
ニ至ル、近頃ニハ「エム液」ヨリ精製シテ、日本ノ漆器ヲ模造ス、甚タ巧ミナリ、本  
年填國ノ展覽會ニ列品セル漆器ハ、其精巧人目ヲ驚カセリ、

○貿易ノ業ニ長セル「歐洲各國中ニテ第一ナリト謂ヘシ、國內ニ於テモ、操舟  
ノ利、河道ノ便、自在ナルヲ以テ、貿易盛ノニシテ、國ニ遺利ナシ、故ニ漕運ノ方  
ハ、國人ノ殊ニ意ヲ致ス所タリ、「グレード・カナール」ノ如キハ、長サ五十一英里  
ヲ漕シ、其河幅十二丈五尺ヨリ、深サハ二丈四尺ニ及ヒ、「ブリガ」テ船二艘ヲ  
駢行シテ餘裕アリ、此ヲ首トシテ、奄特坦府ニ輾スル、運河ノ線數條アリ、旅客  
ヲシテ、一時間四英里ノ割ニテ、諸邑ニ往來ヲナサシム、河濱ハ海岸ノ隄塘上  
ニ於テ、大路ヲ開キ、沙石ヲ以テ修繕シテ、人行車轉ヲ快通ス、其地ノ濕淤ナル  
ヲ忘ル、○鐵道ハ、一千八百七十年マテニ、架成シタル線ハ、千六百六十九「キロ  
メートル」ノ長サニ及フ、(即チ英里ニテ一千〇三十八里ナリ)其内ニ官築ノ正

路ハ八百十五「キロメートル」ニテ、資本ハ一億千三百七十萬「ギルデン」ヲ費シ、毎年ニ約三百三十七萬餘ノ收納アリト云、電線ヲ設ケタル數ハ一萬千二百七十六「キロメートル」ニテ、二百六十四ノ電信局ヲオク、内地及ヒ外國ヘノ郵便局ハ、一千〇九十ニコエ、三千八百九十七萬ノ書狀ヲ配達シ、其利益三十萬弗ニ及フトナリ、

蘭國一般ノ貿易ハ、一千八百七十一年ノ算ニ、輸入品ノ總價ハ、七億四千五百四十九萬千〇五十二「ギルデン」、其内ニ六億四千二百五十二萬六千三百二十八「ギルデン」ハ、國內ノ需用ヲ給スル物タリ、輸出品ノ總價ハ、六億四千二百五十萬六千三百二十八「ギルデン」ニテ、其三分ノ二ハ、海上貿易ニカ、ル、其詳カナルハ、輸入、輸出、其ニ百分ノ内ニ、英國ヨリ三十二、日耳曼ヨリ二十二、白國ヨリ十二、露國ヨリ六、米國ヨリ四、佛ヨリ二、合テ八十八、外十二ハ瓜哇ヨリ輸入スル高ナリ、又日耳曼ヘ四十二、英國ヘ二十五、白國ヘ十三、佛國ヘ二、露國ヘ二、及ヒ瓜哇ヘ十六輸出ス、○蘭國ノ商船ハ、近年ヤ、減少セリト稱ス、千八百七十二年ニ、商船ノ數ハ、千九百〇二艘、二十六萬〇五百四十九噸ノ内、三桅船、及

ヒ「パスルイス船三百五十七、三桅船ハ其十三萬七千二百二十三噸、蒸氣船五十九艘、一萬八千三百三十二噸ナリ、其港内ニ出入スル商船ハ、其前年ニ於テ、内海運漕ノ商船ヲ除キ、外國貿易ニ管スル運漕商船ノ輸入九千五百六十七艘、二百七十二萬噸、内自國ノ船ハ三千〇五十一艘、七千一萬五千噸ナリ、輸出ハ四千〇〇二艘、百五十〇萬千噸ノ内、自國ノ船ハ、四十九萬千噸ナリ、

○此國民ハ「テウドニツク」ノ種ナリト云、自ラ一種ノ言語アレヒ、獨逸人ノ一種ニ屬ス、容貌美ニシテ、性質沈重ナリ、婦人殊ニ佳麗ナリ、其事業ニ於ル、沈靜ナルヲ以テ、遲鈍ニ失ス、白國ノ活潑ナルト全ク相反ス、白國ヨリ此境ニ入レハ、即チ其異ヲ覺フホドナリ、然レハ順遜勤儉ニテ、久シキニ耐テ倦マス、精密ナル氣稟ナルヲ以テ、文學ニ深ク、商賈ニ長ス、凡ソ米歐ニテ、有名ノ都會ハ、其起リヲ推究スレハ、多ク此人民ノ開ケルニカハル、英ノ倫敦モ、蘭人移リテ其盛ヲナシ、米ノ新約克ハ、元蘭人ノ開ケル地タリ、蘭英相合シテ、恰モ商法ヲ精クスルノ人ヲ生スル歟、航海ノ利開ケルニ從ヒ、世界ニ往來シテ商賈ヲナシ、能ク久シキニ耐テ倦マサルモノハ、只英蘭ノ兩國ノミ、獨リ能ク日本ニ通商シ



タルノミナラス、東西洋ノ港ニ、蘭人ノ跡ナキ所ナシ、此民マタ潔ヲ好ム、家屋  
 ノ造構、スベテ雅麗ナリ、日ニ戸庭ヲ掃ヒ、窓櫺ヲ拭ヒテ、屋廬市街常ニ修潔ニ  
 テ、一塵ヲ著ケス、歐洲各國中ニテ、尤モ潔癖ノ民ト稱ス、其家常日用、ミナ儉ヲ  
 極メ、冗ヲ省ク、至ラサルナシ、米ヨリ英ニ至レハ、日常ノ儉約ニシテ、緝密ナ  
 ルヲ覺フ、英ヨリ蘭ニ至レハ、英人ノ家常モ、亦豐侈ニシテ、遺算ノ多キヲ覺フ  
 ナリ、

教育ハ、歐洲國中ニ於テ、最上開化ノ地位ニオル、此國ノ民、苟モ恒産アルモノ  
 ハ、不學ナル男女甚タ少シ、一千八百七十一年、全國ノ學校ハ、三千七百二十七  
 ケ所、教員男女一萬〇九百人、生徒ノ數ハ、五十萬千八百八十一人ニ及フ、「レー  
 デン」「ユトレヒト」郡ノ名ニテ、首府モ亦同「グローニンゲン」上ニ同シ「レーデン」  
名ナリ、人口六萬五千餘ニ亞スル人口アリ  
 ノ三地ニ、大學校アリ、其名歐洲ニ高シ、碩學ノ名士ヲ多ク出ス、

教門ハ「プロテスタント」教ヲ以テ國教トス、重ニ「ルユデラフ」「カルウヒン」スチ  
 ヲ「」ノ兩派行ハル、全國ノ民十分ノ六ハ、此教ヲ奉ス、他ハ羅馬「カドレイ」キ徒ノ  
 民ナリ、猶太教ノ徒モ、亦六萬三千五百名ニ及フ、一般ニ信教ノ風ハ、獨逸ニ相

類ス、

○度量衡ハ、一千八百二十年以來、佛國ノ制ヲ取用シタレト、其舊名ヲ存シテ、「メートル」ヲ「エル」ト稱シ、之ヲ十「パルム」自「ドイム」ニ分ツ、平方尺「アール」ヲ「ヒーカントロイテ」ト稱シ、「ヘクタール」ヲ「アンドンル」ト稱ス、積量「リットル」ヲ「カン」ト稱シ、「ヘクトリットル」ヲ「ウェート」ト稱ス、重量「キログラム」ヲ「ホソド」ト稱ス、名ノ異ナルノミ、實ハ同一ナリ、去ル七十年ニ、舊名ヲ廢スヘキヲ命シタレト、十年間ハ、新舊共ニ用フルヲ許セリ、○貨幣ハ、南獨逸諸國ト同シク「ギュルデン」ヲ用フ、「フロレン」ト云、其百分ノ一ヲ「セント」ト云、十二「ギュルデン」ニテ英ノ一磅ニ換フ、紙幣モ國內ニ行ハル、近年價格著ク落タリ、

二十四日（白耳義ヨリ  
ノツ、ヘキ）

三時四十分「アンウエルプ」驛ヲ發シ、四時四十分ニ蘭ノ國境「クロセンタウン」ニ達ス、蘭國ヨリノ接伴トシテ、元日本公使「フロスネロク」氏、元日本領事官「ハンデル、タック」氏、此マテ出迎ヘ、驛舍ニ於テ款接ス、兩國ノ鐵路ハ、軌ヲ相接ス、國境ニテ軌ヲカヘルノ煩ヒナシ、旅客ハ驛舍ニテ、稅吏ヨリ荷物ヲ改メ抽稅シ、査

驗了リ即チ發車スルナリ、兩國ノ境ニ際シ、平坡松林アリ、數英里ニ連ル、林盡  
 レハ即チ平田トナリ、田間ニ溝澮アリ、田中ニ畝アリ、水ノ地ヲサルヲ數寸ノ  
 ミ、地味ハ、一般塗泥ニテ、一面平平トシテ、澤地ノ景ニ入ル、農家ハ麥稈ヲ以テ、  
 屋宇ヲ葺キ、磚瓦ヲ以テ壁トス、壁ノ高サ三尺餘ニスキス、村ヲ環シテ樹アリ、  
 多ク風車ヲオキテ水ヲ掀撥ス、○己ニシテ瀛車ハ「メーセ河ヲ渡ル、河幅千二  
 百「メートル」、漫漫トシテ海ノ如シ、大橋ヲ架シテ上ニ鑛道ヲ敷ク、此橋ノ建築、  
 甚タ高名ナリ、磚瓦ヲ疊ミテ、水底十二「メートル」ノ下ヨリ、橋柱ヲ築キ起シ、柱  
 ノ中ヲ空クシ、上ヨリ光線ヲ引キテ、明ヲトリ、人ヲシテ下リ入ルヲ得セシ  
 ム、兩欄ハ、鑛條ヲ縱横ニ編成シテ支持ヲナス、人行ニテハ、十分時行ニテ僅ニ  
 橋ヲ盡スヘシ、瀛車モ、橋上ニテハ行ヲ緩ニシ、三分時間ヲ費ス、車橋ノ中腹ニ  
 至ル比ニハ、兩岸ミナ水線ニ没シテ、四顧ミナ水ノ淼漫ナルヲミル、宛トシテ  
 洋海ヲ飛越スルカ如キヲ覺フ、一分時間ニ及フナリ、此橋ハ蘭人誇リテ世  
 界第一ノ橋ナリト云、實ニ壯觀ナリ、此河ハ「メイセ」ト名クト雖モ、實ハ來因河  
 ノ吐口ニテ、水勢ノ大ナルヲ、此行ニテ前後ニ見サル所ナリ、○橋ヲスキテ後



ハ、地ハ益塗泥ノ濕田ニテ、水平ト、地平ト、殆ト辨スルナシ、縱横ニ溝ヲ鑿リテ、以テ水ヲ疏ス、十五分時行ニテ、又一河ヲ渡ル、地ノ塗泥愈甚シ、淤泥ヲ積ミテ、此國ヲナスト評スヘシ、一望目ニ上ルモノハ、林樹ノ枝ト、風車ノ扇トアルノ、ミ「レ」ル「エ」チ」ノ河岸ニ達シ、鑛道盡ク、此驛ニテ車ヲ下リ、渡航ニ上リ、河ヲ濟リテ、<sup>ロツトルダム</sup>鹿特坦府ノ岸ニ達ス、此河岸ノ馬頭<sup>ミナト</sup>ヨリ、府中ヲスキテ、蒸氣車驛ニ至ルマハ、馬車ニテ接渡シ、鹿特坦ノ市街ハ、河渠交錯シ、市塵ハ水ヲ挾ミテ建ツ、我東京ノ本所深川ニ彷彿タリ、<sup>詳カナルハ</sup>後ニ記ス

是ヨリ再ヒ蒸氣車ニ上リ、八時三十分ニ、海牙府ノ「ホテルフォーレー」ニ宿ス、旅館ハ政府ヨリ供シ、食飲ノミヲ使節ニテ辨セシム、

「アンウエルプ」ヨリ、<sup>ハーベ</sup>海牙マテ、鑛道ノ距離七十二英里半、「プロッセルス」ヨリ、一百英里



第五十三卷

海牙鹿特坦及ヒ來丁ノ記

二月二十五日 雪猶ヤマス

海牙府ハ、或ハ呼ソテ「ヘックト云、蘭國ノ京師ニテ、國王此ニ居住ス、其地北緯五十二度四分二十秒、東經四度十六分ニ位シ、人口九萬〇三百七十七人アリ、府中ハ處處ニ溝渠ヲ回シ、水澹トシテ渠ニ滿チ、樹木鬱蔥トシテ岸ヲ匝リ、蘭人ハ潔癖ナルヲ以テ、樹ニ廢枝ナク、水ニ塵芥ナク、街路ミナ一塵ニ汙レス、氣象自ラ清潔ナリ、府中ニ車馬ノ馳行甚タ少シ、終日喧囂ノ聲ヲキカス、其家屋ニハ恢濶ニ窓眼ヲ開キ、全屋ミナ窓ナリ、壁ハ賴瓦ニテ築ク、石造屋少ケレト、美麗ノ館第頗ル多シ、其建築ノ法ハ、自ラ英佛兩國ニ異ナリ、新約克ノ市街ヲ回想スルニ、其光景自ラ相肖タルモノアリ、彼地ハ曾テ蘭人ノ開ク所ナレハ、其遺風ヲ猶存セル歟、市街ヲ開ク法モ、亦佛國ニ異ナリ、街路錯雜ナル處ハ、其幅僅ニ兩車互ニ馳スルニ足ルノミ、街頭處處ニ廣域スケソヤヲ存シ、石像銅像ヲ環立シ、植ルニ綠樹ヲ以テス、其廣街ハ、樹茂シ沙潔ヨク、一ノ長苑ヲナス、蘭國ニ樹少



シ、甚タ樹ヲ愛惜ス、老幹槎牙タルモノ多シ、

四時ニ宮内省ヨリ乗車ヲ裝ヒ、騎兵ヲ護衛トシテ、宮内ノ長官來リ迎ヘ、王宮ニ至リ、維廉第三世陛下ニ謁見ス、謁見式ニ見ユ海牙ノ王宮ハ、市中ニアリ、規模褊小ニテ、建築モ宏壯ナラス、其造構ニハ、一種ノ形式ヲ用ヒ、英佛諸國ノ王宮ト異ナリ、

○夜外務宰相バロン倫爵名ヘリーキテ、ヘルウェイチン氏ノ邸宅ニテ「ツワレイ」ノ享會

アリ、

二十六日 朝雨夕ニ晴

曉來寒氣頓ニ減ス、九時ヨリ旅館ヲ發シ、蒸氣車ニテ鹿特坦府ニ赴ク、途上ミナ塗泥ノ田地ニテ、溝渠縱横ナリ、村落處處ニアリ、風車閃閃トシテ、林樹ノ上ニ抽テ、水道ハ堤上ヲ流レ去ル、蘭國ノ平地ハ、水面ヨリ低シトハ此等ヲ謂フナリ、鐵路ハ地上ヲ築上クルヲ三尺有餘ニテ、沙ヲ撒シ、地ヲ鞏固シ、修繕甚タ手ヲ盡セリ、

蘭國ニ山ナシ、急流ナシ、隄防ノ設ケハ、溝渠汎溢シ、水郷トナルヲ拒ムノミ、

荷蘭國海牙府ノ王宮



同海牙森







風車ノ轉纜ニ絶レハ、國中其害ヲ受クルモノアリ、日本ノ銚子口、越後河末  
及ヒ兩肥ノ海濱ト、其地勢ヲ同クスルモノアリ、又日本諸州ノ河道、乍チ漲  
リ、乍チ涸レルカ如キハ、蘭人ノ夢ニモ見サル所タリ、蓋シ日本ハ大洋海ノ  
熱帶ニ面シ、雨水ノ分量ハ大陸地ニ十倍ス、其水利ノ術モ、亦其致ヲ異ニス、  
蘭ノ水利家、此等ノ說話ヲ聞キ、愕然タラサルモノナシ、此實ヲ知ラサル人  
ハ、蘭人ノ水利ニ長セルヲ聞テ、其技術ニヨリテ、我邦ノ水ヲ隄通センヲ欲  
スルハ、木ニ攀テ魚ヲ求ムルノ譬ニ同シ、

ロツトルダム

鹿特坦府ハ、北緯五十一度五十五度分、東經四度二十九分ニ位シ、人口十一萬  
六千二百三十二人アリ、荷蘭ニ於テ第二ノ都會ナリ、屋宇ノ建築ニ奇觀ナシ、  
幅ハ三四窻ヲ存シ、高サ五六層、積瓦ヲ以テ、狹長ニ築キ並ヘ、每街ノ屋、ミナ溝  
渠ノ水ニ鑑ミ、轟然トシテ仄ツ、大廈壯屋少シ、溝渠ノ岸ニハ、樹ヲ植エテ街路  
ヲ界シ、車行少ク、歩行多ク、河道交錯シ、漕舟ヲ以テ重車ニカユル、故ニ河ニ架  
セルノ橋ハ、其中腹ニ鑠活ヲ施シ、上ニ槓桿ヲ植エ、船來レハ開キ、船去レハ閉  
ルノ便ヲナス、處處ニ風車ヲ設ケテ、水ヲ引キ落ス、○此府ハ「レメー」セ河ノ支

流ニ控ヘテ、貨物吐吞ノ口タリ、此日ハ、其河岸ニ河蒸氣船ヲ艤シ、我紅日ノ章ヲ飄シテ待ツ、是ヨリ上船シテ河ヲ下リ、一英里許ニテ造船場ニ赴ク、此河ノ廣サ五六百「フイート」、橋礎ヲ植エテ、鐵道ヲ架成セントスルヲ見ル、是ヨリ市塵盡キレハ、老樹叢然トシテ、平坦ナル道ヲ挾ミ、長塢ノ河岸ニ連リタル處ヲ駛行ス、

○「マーシバツペー」會社ノ造船場ハ、職人ヲ入ル日ニ一千人ナリ、造船ノ都合ニヨリ、増シテ一千五百人ニ至ルヲアリ、定員ナシ、其給金ハ、日ニ四「ギULDEN」ヨリ、一「ギULDEN」半ニ至ル、<sup>十二「ギULDEN」ヲ以テ英ノ二十「シルリン」即チ一場内ニ、</sup>外國ノ人ヲ用フルヲナシ、<sup>磅ニカユ我三十七錢半ニテ一「ギULDEN」ナリ</sup>是ハ其抗議ヲ生シ、沸騰ヲ生シ、易キヲ以テナリト、云、蓋シ歐洲列國、各公法ニ依リ、禮儀ヲ守リテ、交際スルカ如シト雖モ、内實ヲ察スレハ、強弱相凌キ、其自主ノ權ヲ全クスルヲ得サルヲ比比コレアリ、況ヤ人民ノ相交ル、細故ニ於テハ、大國ノ民ハ自ラ強傲ニシテ、小國ヲ睥睨スルヲ免カレス、且英蘭兩國ノ如キ、一ハ活潑、一ハ澀遲、性質相反シ、而テ國ノ大小相懸スレハ、自ラ屈ヲ甘ンセサルノ情アリ、必ス抗論ノ起リ易キアラシ、夫西洋

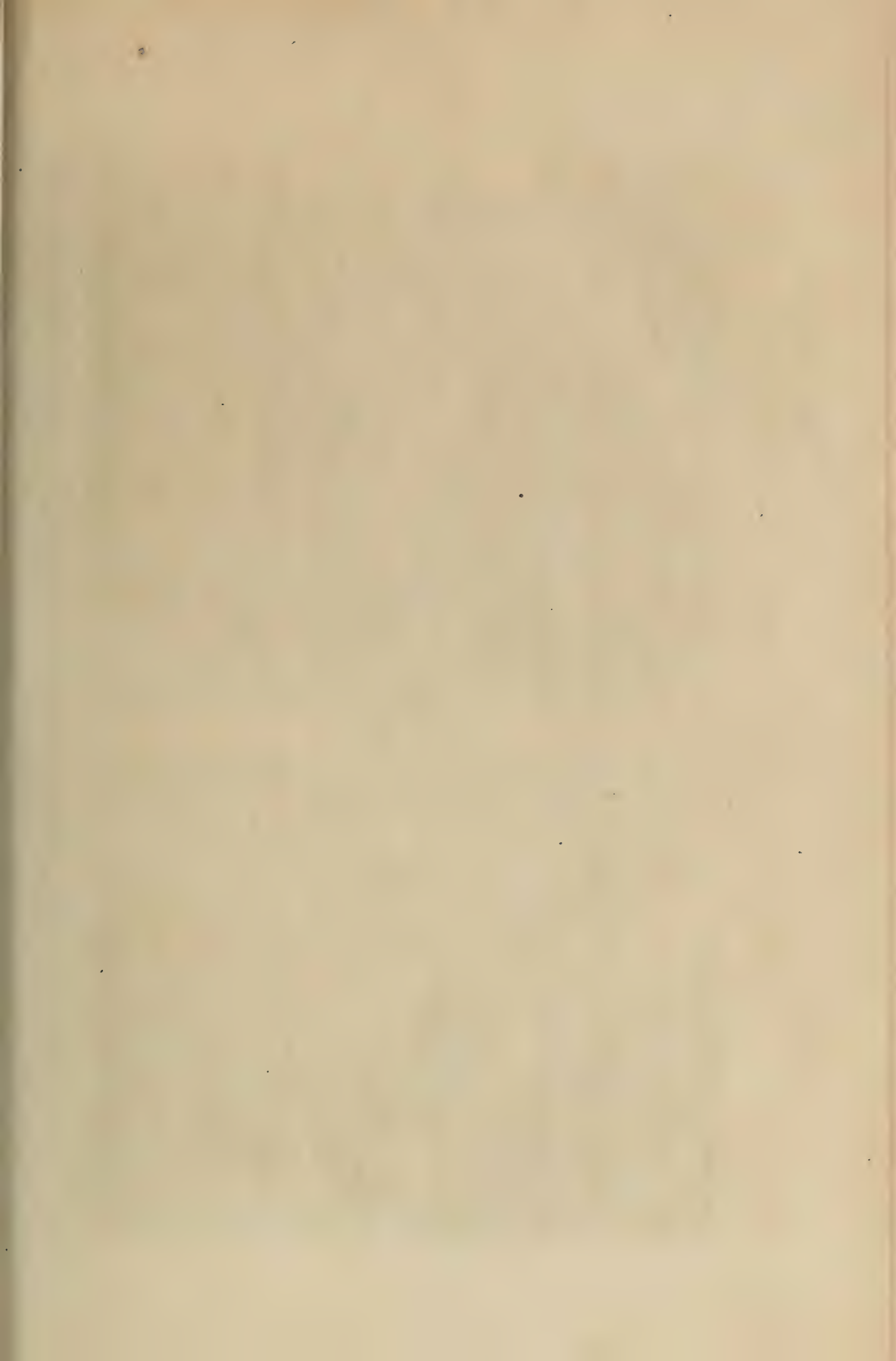
鹿持坦府ノ市街



同風車運河ノ景







ノ政ハ兄弟ナリ、其人種モ亦同類ノミ、而テ其國情ノ異ナル、相雜處スレハ、混雜ヲ生シ易シ、宜ナリ、東西洋ノ交リ、妥靖ヲ闕クイヲ、○蘭國ニ鐵ヲ生セス、鐵ハ英國、白耳義國ヨリ輸入ス、獨逸ヨリモ仕入レ、其質柔ニシテ劣レリ、瑞典國ヨリ來ル鐵ハ、最モ上品タリ、故ニ裝飾ニ用フルノミ、蘭國ニ又材木乏シ、國產ニテ需用ニ足ラス、<sup>ノレウエイ</sup>那威國ヨリ仕入レ、亞米利加ヨリ仕入ル、ミナ良材ニハ非ス、印度地方ヨリ來ルモノヲ以テ最良トス、其質ノ堅密ナルヲ以テナリ、

蘭國ノ船ヲ製スルヤ、其材ミナ他國ノ產ヲ仰ク、而テ其船舶ノ多キト、海外ニ航跡ノ交ルトハ、米英ニツ、ク、漕運貿易ノ利ハ、豈ニ天然ニ與奪アラフヤ、只人ノ勤惰イカンニアルノミ、

蘭國ニ又石炭ヲ生セス、コレヲ英白ノ兩國ヨリ仕入ル、故ニ場内ニ蒸氣ノ輪ヲ設クル、甚タ少シ、只四箇アルノミ、合セテ七十五馬力ニスキス、以テ鐵版ヲ曲ケ、孔ヲ鑿開シ、之ヲ鋸シ、之ヲ鉋シ、凡ソ多人ノ力ヲ要スル、大工作ノ用ニ供ス、<sup>プレッヂン</sup>「マシイ子」<sup>プレール</sup>「マシイ子」等ヲ設ケタリ、○場内ニ人カヲ用ヒテ、工ヲナス、<sup>ト</sup>甚タ多シ、蒸氣ノ罐ヲ緊釘スルモ、<sup>プレッヂン</sup>「マシイ子」ノ力ヲカ

ラス、職人釘装スル罐前ニ立チ、鐵鎚ヲ地ニ堅植シ、罐ヲ其上ニ横ヘ、一少年ヲシテ、釘ヲ紅烙シ持來リ、倒ニシテ罐下ヨリ孔ニ挾ミ、緊ク之ヲ拉持スレハ、其釘末ハ上ニ向ヒテ抽ルヲ、二人ニテ連槌ス、其他ノ諸工事、ミナ人力ニテナス、  
 一甚タ多シ、蒸氣ハ人力ノ及ハサルヲ助クルノミ、凡工作ノ要ハ、職人ノ勉勵スルト、精美ヲ務ムルトニアリ、此主意ヲ達スルヨリシテ、器械ノ良ヲ要スルニ至ル、所謂ル工其事ヲ善クセント欲シ、先其器ヲ利スルノ義ナリ、○木製場ハ、場舎ノ上層ニアリ、蒸氣ノ餘力ヲ分ツテ、轆轤、線鋸、輪鋸、錐鑿ヲ運ス、又齒輪ノ齒ヲ鋸成スル器アリ、其他ハ人工ニテナスモノ多シ、

○造船廠ニ於テハ、當時打立中ノ船ニアリ、瓜哇國政府ヨリ、四艘ノ船ヲ囑セラレテ製造ス、其二艘ハ奄特坦府ニテ打立テ、二艘ヲ此府ニテ打立ル、去年五月ヨリ工ヲ施シ、來年三月ニ至リテ成就スヘシ、其價三萬磅、船ノ大サハ舢ヨリ艦マテ、三十餘間ノ船ニテ、其一艘ハ己ニ九分ノ成就トナレリ、

瓜哇國ハ亞細亞當時、オセオニヤ洲即チ豪斯多ノ南洋、マレイ群島ノ一ニカ、ル、荷蘭ノ屬地中ニテ、最要ナル地ナリ、八箇ノ大島ニ、無數ノ小島ヲ、星



布シタル内ニ、瓜哇島及ヒ「マチラ島ハ、全ク蘭人ノ支配下ニ屬ス」「マチラ」ニハ史冊アリ其廣サハ我日本四分ノ一ホドニテ、人口千七百二十九萬八千餘人アリ、共千七百二十三萬七千ハ土人ニカ、ル、蘭國及ヒ他ノ歐洲人種二萬九千人、支那人十八萬七千人、其他南亞細亞ノ回徒等二萬二千人雜居ス、此國ノ政府ハ、蘭國ヨリ派遣セル、蘭領印度地ノ總都督ノ下ニ、副官及ヒ四人ノ「メソバー」ヲナシ、地方官モ蘭人ニテ、二十三縣ヲ分チテ、本國ヨリ試験ニテ命ス、兵及ヒ募兵三萬、海軍ニ軍艦三艘ヲ繫キ、一億餘萬「ギルテン」ノ歲入ヲ消費ス、甚タ威權アル政府ナリ、其都ハ瓜哇ノ「バタビヤ」ニアリ、此ニ流ル河ヲ「ジャガタラ河トイフ」支那人ハ此河傍ニ居住シテ生理ヲナシ、陶器ヲ製造シ、稻米ヲ買入ル、世ニ此島ヲ「ジャガタラ」ト云ハ、支那人ノ呼稱セル所ナリ、此國ノ土人ハ、重ニ稻米ヲ耕作シ食料トス、其產出甚タ豐多ナリ、重ニ支那「ボルネオ」及ヒ英國ニ輸出ス、蘭國ニ於テ、一千八百二十四年ニ、國王維廉第一世ノハカテヒニテ「子ーデルラント、スハソデン、フースカッフェー」會社ヲ奄特坦ニ設ケ、王モ其社中ノ一人トナリ、瓜哇貿易ノ事務ヲ、此商會ニテ擔當シ、王

ヨリ其株高百ニ付、四朱半ノ利ヲ保證シ、事業ノ繁昌ニ至ルマテハ、王庫ヨリ補償セリ、因テ瓜哇ニハ、勸農ノ法ヲ行ヒ、其主意ハ、土人ノ食料ヲ充分ニシ、歐洲ノ市場ニ、人好ニ適スル產物ヲ耕作セシムルニアリ、此社ハ爾後益盛大ナル商會トナリヌ、此勸農法ハ、瓜哇政府ノ基礎トナリ、其事務ハ甚タ瑣末ノ事ニモ及ヒ、且土地ハ、在住蘭人所有ノ外ハ、大抵官有ニ屬シ、各地ノ縣官、土人ノ酋長ト商議シテ、田地強作ノ法ヲ行ヒ、沙糖、咖啡、烟草、胡椒、草藍、茶樹ヲ耕藝セシメ、商會市價ヲ定メテ買揚ケ、奄特坦ニ輸送ス、一千八百七十二年ニ、瓜哇領咖啡樹ノ數、三億七十四萬三千五百餘、蔗糖ノ高一億三千八百七十九萬千五百「キログラム」、烟草ノ高九百萬「キログラム」、藍ノ高三十萬「キログラム」、茶ハ近年蕃殖シ、九十一萬六千七百六十七「キログラム」ヲ出セリ、胡椒ノ高ハ詳ナラス、椰子樹ハ二千九百四十一萬九千本アリ、米及ヒ雜穀ハ二千〇五十六萬四千五百十七「キログラム」ノ内、英國ヘ輸出セル代價ハ二百三十五萬八千弗ナリ、其他支那「ボルネオ」ヘノ輸出ハ、總輸出入半高ニオアル、重ニ米ナリ、前年ニ於テ、此國貿易ノ高ハ、輸出三千八百〇二萬三

千弗輸入ハ二千二百四十四萬八千弗ナリ、

夫ヨリ鑄物ノ場ニ至ル、此場合ノ設ケハ頗ル大ナリ、此場内ニテ地上ニ日本使節幸ニ來ルノ文字ヲ、灰土ニ印型シオキ、我一行ノ場ニイル後、熔鐵ヲ流シ込ミタレハ、紅字ヲ灰土ノ内ニ露シテ炎ヲ吐ケリ、職人ミナ一齊ニ帽ヲ執リテ祝聲ヲ揚タリ、

是ヨリ英國ノ郵船ニ上リ、晝食ヲ享シ「スピーチ」アリ、瓜哇産ノ沙糖漬ヲ供セリ、此港ヨリ英ノ倫敦ヘ、郵船月ニ三四發ス、航程百八十英里、二十分時ニテ達スヘシ、上等ノ船賃ハ三弗、中ハ六「ギル」テシ、即チ英ノ半磅ナリト云、三時十五分ニ蒸氣車ニ上リテ、四時半ニ歸館ス、

二十七日 晴

午後ニ海軍所ニ至ル、旅館ノ前ナル苑域ノ向ヒニアリ、蘭國ノ昔時共和政治ナリシ比ハ、海軍ノ盛ナルヲ、歐洲ニ超駕シ、屢英國及ヒ西班牙ヲ破リ、積年驥足ヲ海外ニ展タリ、其有名ノ歴史アル、英國「テームス」河ノ戰ニ分捕セル、英艦ノ器械及ヒ船艦ノ雛形モ多ク、此ニ藏セリ、其他燈臺ノ雛形、大砲、小砲、劍、旗、分



捕ノ海軍兵仗ナドノ類ヲ五六室ニ蓄フ、蘭國ハ日耳曼ノ西北部ノタメ、北海ノ陰蔽トナリ、其海軍ノ責ニアタリ、且海商ヲ主トスル國ナレハ、國勢ノ割リニハ、海軍ニ力ヲ用ヒタリ、軍艦ノ數六十七艘、此内ニ甲鐵艦十六艘、其六ハ四百馬力ノモノニテ、其十ハ四百四十馬力ノモノナリ、之ニ備フ大砲五十四門アリ、其外ハ種種ノ軍艦ニテ、六百馬力ヲ首トシテ、二百五十馬力ニ至ル、之ニ備フ大砲三百八十門、注進船、及ヒ運送船ハ、此數外ニアリ、

○旅館ノ東ニ樹苑アリ、之ヲ「ハーヘ」ノ森ト云、老樹深鬱トシテ、甚タ幽邃ナリ、地勢少シク起伏シテ、山中ノ意象アリ、縱横ニ道路ヲ通シ、廢葉地ヲ埋メ、風聲爽然ナリ、此苑中ヲ全ク徘徊スルニハ、八時間ノ歩行ヲ費シ、始メテ全局ヲ回リ了ルト云、

此森ノ西北ニ王宮アリ、「クイーンパレイス」ト名ク、宮ノ建築ハ、甚タ壯大ナラサレヒ、森樹ノ風籟刁刁トシテ、常ニ爽氣ヲ送り、内景ノ粧飾モ、亦清楚ヲ主トシテ、雕飾ヲ絶ス、和蘭ノ畫工ニ、一ノ妙技アリ、淡墨ヲ以テ隈ヲトリ、人物ヲ畫キ、陰陽ノ映射ヲ摸スルニ巧ヲ窮ム、此畫ヲ以テ壁ニ幀シ、「アルチ」ノ内ニ張ル、離

レテ之ヲ見レハ、白石ヲ以テ雕刻シタルモノ、如ク、人物皆儼然トシテ、表面ニ隆起ス、諦視ノ後ニ非レハ、其畫タルヲ辨セス、一二ノ房ハ、是ヲ以テ壁トナス、名工ノ精雕セル石屋ナルカト疑ハシム、此畫術ハ獨逸地方ニモ流行ス、○一房ノ内ニハ、東洋ノ物品ヲ以テ、室内ニ羅列セリ、日本產ノ名器モ數品アリ、ミナ精良ニテ價アル品タリ、當國ハ日本ト交通獨リ久ケレハ、積年貿易セル佳品中ヨリ、殊ニ精選シテ、王家ノ什物トナシタルニヨリ、此ニ入レハ、日本ノ工產モ、亦一層ノ色ヲ生スルヲ覺フナリ、正寢ニハ數幅ノ油繪アリ、其大サハ壁ヲ專ラニス、名工筆ヲ逞クシ、仰視俯覽、終日觀ルモ倦マス、樓上ニモ名畫ヲ多ク蓄フ、今ノ皇后、夏日ニ至レハ、此ニ來リテ暑ヲ避ルトナリ、

二十八日 美晴

朝九時ヨリ「ドクトル、ボンペー氏」ノ案内ニテ、馬ニ駕シ、來<sup>レイデン</sup>丁府ニ趣ク、○「ボンペー氏」ハ曾テ我長崎ニ來リテ、醫業ヲ人ニ授ケルヲ八年、本朝醫學ノ進ミニ於テ、頗ル力アル人ナリ、一千八百六十二年ニ歸國ス、當時年六十餘、其健ナル壯士ニ同シ、來丁ニユク馬車路ハ「ハーヘ」ノ森ヨリ馳セテ東ニ赴ク、老樹森森

トシテ大路ヲ挾ミ、路ハ沙ヲ撒シ爽塏ナリ、時ニ林丘ニアヒ、清流ニアフ、王族貴戚ノ邸館アリテ、修繕甚ク潔ク、勝致多シ、是ヨリ沿途ノ田野モ、ヤ、爽塏ニテ、水平ヲ抽ツル尺ニ過ク、牧草地ニ滿チ、牛羊ノ群スルヲミル、村落ハ處處ノ林藪ニ起リ、高塔ノ抽ツルヲミル、南北蘭ノ州州ニ於テ、爽土ニ屬ス、十英里行ニテ來丁ニ達セリ、

來<sup>レイデン</sup>丁府ハ、人口三萬八千九百四十三人アリ、荷蘭國第五ノ都會ニテ、來因河ノ下流ニヨレリ、此來因河ハ、獨逸西方ノ大河ニテ、源ヲ瑞士蘭ノ「ボーチン」湖ニ發シテ、北流スルヲ九百六十英里、有名ナル一大河ナリ、其河口ハ蘭境ニ至リ、數派トナリテ海ニ注ク、各其名稱ヲカヘ、而テ此邑ニ來ルモノ、獨リ其名ヲ有ス、然レモ河水ハ、此ニ至リテ甚ク小ニ、尋常ノ一川ニ過キス、○此邑ハ蘭國ノ鄒魯ナリ、古ヘ一千六百年代ニ、西班牙ノ兵、蘭國ニ侵入セシキ、此地ノ兵勇コレヲ拒ミ、勇健ニシテ善ク戰ヒ、遂ニ寇ヲ卻ケタリ、政府其功ヲ賞セント欲シ、何ヲ以テスルヲ知ラス、欲スル所ヲ邑中ノ民ニ問フ、ミナーノ學校ヲ起シテ、宋世ニ惠セソフヲ願フ、因テ其望ミニ隨ヒテ、此ニ大學校ヲ起セリ、其後文學



來丁ノ市街



同運河ノ岸





盛ニ邁ミ、有名ノ博士ヲ出ス、今ニ陸續トシテ名譽ヲ墜サス、

世界各國ノ民ハ、其宗教ノ信向ニ於テ、人心ノ固結セルヲ、殆ト堅牢破ルベカラサルニ近シ、其管係ハ人民交際、及ヒ政治兵力ニ影響ヲナス、多少ノ勢力アルヲ、東亞細亞ノ道德政治ニ生長セル人ハ、殆ト意想シ能ハサルベシ、歐人ノ事務ヲ論スルニ、必ス宗教ヲ審ニスルハ、甚タ故アルナリ、中古ニ當リテハ、歐洲十字軍ノ亂、近古ニ當リテハ「プロテスタント」ノ亂、人ヲ殺ス草管ノ如ク、數百年ノ鮮血ヲ流シタリ、近クハ佛帝拿破侖第一世、露西亞ヲ攻タリシキ、拿破侖ハ、其軍兵ヲ鼓舞スルニ、佛國ノ兵威ヲ耀カスハ、此戰ニアルコ以テシ、其愛國ノ精神ヲ盛ニセシニ、露國ハ僧徒ヲシテ、希臘教ノ法敵彼ニアリ、此一戰ハ正教ノ興滅ニ係ルヲ以テシ、其敬神ノ誠ヲ篤クセシメシニ、衆ミナ怒氣天ニ翀シ、一齊ニ法敵ト罵リシ聲ハ、萬雷ノ如ク、佛軍ヲ壓セリ、翌日ノ戰ニ、佛軍健闘スルト雖モ、露人ハ固ヨリ宗教ヲステ、生活スルノ念ナシ、一兵斃レハ、一人其銃ヲ取テ進ム、勢威當ルヘカラス死屍山ヲナシテ、佛軍竟ニ潰エタリ、其他歐洲ノ戰ヲミヨ、其民心ヲ一致スル力ハ、常



ニ宗教ニアリ、而テ宗教上ノ戰ニ於テ、民心ノ怒氣盛ナルヲ、獅虎ノ狂スル  
 カ如シ、蘭國ノ民ヲミルニ、其性情激烈沈溫良ニシテ、文ニ長シ、白耳義ノ强健  
 ナルニ似ス、然ルニ西班牙王非立<sup>ヒリッフ</sup>當時西班牙ニ没日ナシト謂フ、強大ノ勢  
 カヲ以テ、此彈丸ノ地、百餘萬ノ民ヲ征シテ、其威ヲ逞スル能ハサリシモ、宗  
 教ノ力ナリ、非立ハ國內ノ回徒ヲ殘害シ、其慘刻苛虐ヲ極メ、并セテ「プロテ  
 スタント教徒ノ蘭國ヲ自己ノ羅馬教ニ就カシメント、暴威ヲ用ヒシモ、三  
 軍可奪帥一夫不可奪志、況ヤ人民ノ宗教ニ熱心セルオヤ、蘭國ノ自主ヲ遂  
 ケタルモ、此一役<sup>レレ</sup>ニアリ、又其慘毒ノ兵燄ヲ蒙リシモ、亦此一役ニアリ、爾後  
 拿破侖ノ兵ヲ受ケシキニ當リテハ、朽ヲ拉スルカ如ク挫敗セリ、後各國聯  
 合ノ兵ニ、率先健闘シタレ<sup>レ</sup>、國威ノ管係ハ、宗教ノ如クニ、人心ヲ奮興セシ  
 ムルニ足ラサルモ亦明カナリ、○白蘭ノ兩國ハ、兄弟ノ國ト看做セ<sup>レ</sup>、其人  
 種、風俗、絶テ同シカラス、白ハ武國ナリ、其境ニ入レハ、即チ意氣凜森ノ狀ヲ  
 ミル、蘭ハ文國ナリ、其境ニ入レハ、意思縝密ノ狀ヲミル、本日海牙ヨリ來丁  
 ニ至ル途上ニ、砲兵數隊道ヲ過キルニアフ、其行軍ノ容儀亦曩日白國ノ兵

隊ニ似ス、蘭國ノ兵ハ、常備軍六萬ニ及ハス、專ラ義兵ヲ主トシ、徵兵ハ二十  
歳ヨリ、五年間ノ役ニ服スル法ニテ、實ハ一年間練練ノ後ハ、家ニ歸リ、四年  
ノ間ハ、年ニ六度ノ練兵ヲナスノミ、然レモ全國ノ民丁、甚タ徵兵ヲ厭ヒ、兵  
ヲ逃ル、モノ益多キヲ加ヘ、軍醫ノ檢査弊害百出シ、武官モ苦心ヲ極ムト  
ナリ、民兵役ヲ逃ル、弊ハ、各國ミナアル通患ナレモ、蘭國ノ甚シキカ如ク  
ナラス、故ニ兵隊ノ氣炎モ、自委靡シテ振ハサルヲ覺フ、

府中ノ街路ハ、廣豁ナラサレモ、修刷甚タ潔シ、大街ハ溝渠ヲ挾ミ、水清クシテ  
流穩カナリ、樹ヲ河岸ニ植エ、磚瓦ヲ道ニ敷ク、蘭國ノ都府ハ、一種ノ街法ニテ、  
河渠ヲ以テ車道ニカエ、行人ハ兩岸ノ街上ヲ歩ス、車馬ノ喧鬧少クシテ、男女  
歩ヲ拾フテ行ク、故ニ街上甚タ清潔ナリ、日ニ道ヲ拂ヒ塵ヲ洗ヒ、時アリテ車  
來レハ、隣隣ノ聲ハ遠キニ至ルマテ聞ユ、中ニモ此府ハ貿易ノ盛ナル地ニア  
ラサレハ、殊ニ清潔ヲ完クスルヲ得ル、眞ニ講文ノ郷ニヨロシ、

○此府ノ大學校ニ附屬セル博物館ハ、諸物ノ討搜ニ富ミタルヲ、歐陸地ニ於テ  
高名ナリ、此日先ツ此館ヲ回覽ス、動物ノ室ニハ、巨大ノ尤物ヲ中央ニオキ、或

ハ之ヲ鉤下ス、細小ノ羣物ハ、左右ニ玻璃ノ棚ヲ設ケテ陳羅ス、象ノ大ナルハ一丈五尺ニ及フ、犀ノ大ナルハ一丈ニス、此等ヲ魁トシテ、巨獸數十アリ、ミナ乾藏法ニテ貯ヘ、又獸角ヲ集ム、角ノ形狀種種幾十百様ナルヲ知ラス、一種ノ玲瓏トシテ洞明ナルアリ、此角ヲ戴シ獸ハ「アントロク」ト名ツク、喜望峯ノ地方ニ生スルト云、諸國ノ博物館ニ、日本ノ動物ハ甚タ希ナリ、此館ニ猿類ノ無尾ニシテ赭顔ナルヲミル、之ヲ問ヘハ、即チ「シーボルト氏日本ヨリ送り致セルモノナリ、猿類ハ多ク熱帶地方ニ生ス、總テ日本ノ種類ト同シカラス、此館ニ蓄ヘタル内ニハ、日本猿類モ頗ル多シ、其他禽鳥類ニハ、鶉ノ内ニ亦日本ノ鶉アリ、鶉ヲ馴使スル術ハ、支那ノ發明ナリト云、○博物館ヲ回リテ、動物ノ形狀ヲミルニ、實ニ化工ノ奇ヲ弄スル、愈出テ愈變化ナルヲ感ス、毛羽鱗ノ三族ハ、膚相骨格ノ異、元來懸殊シテ、絶テ相似サルカ如クナレ、アシカ海狗、ラッコ、アザラシ鰻、アザラシ鰻ノ族ハ、毛族ニテ水居ス、而テ水禽海族ノ類ニハアラス、南亞米利加洲ニ生スル羽族アリ、翼ニ翅ナシ、全身ニ毳毛ヲ生ス、其形甚タ「ラッコ」ニ類ス、只其足ト嘴トハ尙ホ水禽タリ、此鳥ハ翼ト足トヲ以テ、水濱ニ歩行ス、水族ニアラス、



野獸ニアラス、羽禽ノ内ニテ此兩族ニ近キモノタリ、一變シテ「ラッコ」トナル、其異ナル所ハ嘴ナク、且毛ヲ生シテ羽ヲ生セサルニアリ、再變シテ獺トナル、野獸ト異ナル所ハ殆ト希ナリ、更ニ變シテ鯉魚ノ族トナル、鱗甲ヲ以テ毛羽ニカヘル、即チ間生ノ類タリ、又變シテ蝦蟇トナリ、蜥蜴トナリ、蛇トナリ、輾轉相仍ル、造化ノ工モ亦奇ナリ、○生魚ハ火酒ニ漬シテ蓄フ、蜘蛛ノ類モ亦然リ、蟲蛾ノ細ハ、之ヲ筭中ニ針釘シテ蓄フ、スヘテ二十餘筭ニ及フ、介蟲ノ屬ハ稍少シ、此館ノ集ムル所甚タ廣ケレト、猶日本ニテ常常ニミル動物ニテ、闕ケタルモノモ亦多シ、天ノ地方ヲ限リテ物ヲ生息ス、其數ハ眞ニ極リナキヲ覺フ、

○博古館ハ別ニ一館アリ、此ニ蓄ヘタル、瓜哇ノ石佛像ヲミルニ、甚タ我邦ノ浮屠ニ似タリ、熟視スレハ、跣下ニ頭顱ヲ踏ミ、觀音ノ手ニ枯槁體ヲ提ク、象首人身ナルモノアリ、其他蛇神、獸鬼、ミナ怪醜ミルヲ厭フ、西洋人ノ所謂ル偶像ヲ拜スル俗、其厭惡スヘキヲハ、此ヲ見テ始メテ知ラル、ナリ、埃及ノ古代器ヲ三室ニ蓄フ、中ニ古棺、并屍所謂「マミ」十餘アリ、室ヲスキテ穢ヲ覺フノミ、希臘、以太利ノ古物モ頗ル多シ、石像ハ各國ノ博物館ヨリ摸セルモノ多シ、

○東南洋ノ博物館アリ、是ハ首トシテ「シーポルト」氏ノ集メタル日本ノ諸物品ヲ蓄ヘ、數室ニ充ツ、已ニ十餘年ヲ經タルハ、多ク色變シ形傷レテ、見ルニ足ラス、畫ハ拙畫多シ、狩野家某ノ馬ヲ畫キタル金屏風一雙アリ、頗ル佳ナリ、西洋人ハ甚タ此畫ヲ珍賞シ、名手ニ非レハ能ハスト稱嘆スルトナリ、貨幣ヲ集メテ甚タ備ル、只少シ支那錢ヲ混シタルヲ遺憾トス、西洋人ハ支那日本ノ史傳ヲ熟知セサルニヨル、一千八百〇六年ニ著シタル、源某ノ和蘭對譯書アリ、「シーポルト」氏我邦國禁ノ嚴ナル日ニ當リテ、多少ノ艱苦ヲ閱シテ、此一館ヲ觀ニ供スルモノヲ集ム、其篤志ハ贊美スルニ餘リアリ、其他南洋諸島ノ器ニ至リテハ、鄙粗ニテ看ルヘキナシ、

三月一日 美晴

朝海牙ノ博物館ニ至ル、此館ニハ日本支那ノ物品ヲ集メ甚タ富ム、是ヲ以テ名ヲ著シタル館ナリト云、日本ノ物品ヲ、此館ニ備蓄セルハ、皆精美ノ品ニテ、他國ニテ未タ見サルノミナラス、日本ニアリテモ、博ク古器骨董ニ達セルモノニ非レハ、往往ニ未タ見知セサルモノ多シ、此館中ニ一奇ハ、兩頭ノ蛇、龍ノ

肉身、鬼ノ生首、及ヒ人魚ヲ藏ス、皆地球上ニ曾テ無キ物ナレトシテ、其狀宛トシテ  
 眞物ヲ乾貯セルモノニ似タレハ、最初輸渡セシキ、蘭國ノ諸博士、ミナ集リミ  
 テ、甚タ奇怪ノ思ヲナシ、竟ニ一ヲ切破リ、其肉質ヲ試ミシニ、一膜ノ裏ハ、ミナ  
 紙ヲ以テ造レル、假製ノ物ニテアリケリ、白晝ニ衆人諦觀シ、其假製ナルヲ  
 覺ヘシメサルハ、日本人ノ機工驚嘆スヘシトテ、猶棚上ニ保貯セリ、○支那ノ  
 物品モ、亦精美ヲ擇ミ集ム、陶器ノ精ナルニ至リテハ、日本ノ古陶モ及フ能ハ  
 ス、象牙ヲ精刻シテ、十二重ノ球、七重ノ球ヲ製セルアリ、重重ミナ中ニ包ミ、互  
 ニ離レ、滿面ミナ雕眼ヲナシ、空隙ヲ透シテ、十二ノ重重、歷然數フベシ、球ノ兩  
 樞ニ、徑七八分ノ孔ヲ開ケル外ハ、全球混圓ニテ、絶テ縫接ノ痕ヲミス、蓋シ一  
 塊ノ象牙ヲ以テ、小刀ニテ外面ヨリ刻縷セルモノナリ、西洋人之ヲ觀ルモノ、  
 是兩半球ヲ合縫セルモノニテ、其接合ニ秘アラント云モノ多シト、然レモ畢  
 竟合縫ニ成リタルトハ覺ヘス、支那人ニ問暇多ク、且彫刻ニ勞苦ヲ厭ハス、刀  
 下ニ刻成セル所ナリ、西洋人ハ寸暇ヲ惜ム、慮リ此ニ及ハサルモ亦宜ナリ、  
 ○夫ヨリ藏畫館ニ至ル、歐洲ニ高名ナル「ポットル氏」ノ、柳陰ニ牛羊ヲ牧スル圖、レ



シアランド氏ノ人體ヲ解剖スル圖ノ如キ、ミナ此院ニアリ、拿破崙第一世ノ歐洲ヲ席卷セル時、各國ノ珍寶ヲ集メシニ、此牧羊ノ圖ハ、歐洲第二ノ名畫ナリトノ鑒定トナリシヲ以テ、四十萬弗ニテ買取ントセシニ、蘭人與ヘサリシトナリ、此圖ノ大サ、豎七尺、幅一丈五六尺モアルヘキ大額面ナリ、坊間ニ其縮模圖ヲ油摺ニシテ鬻ク、

午後ニ皇太子「プリンスオレンジ公ニ謁ス、

夕ニ又博古館ヲ一見ス、埃及、希臘、羅馬ノ古器ヨリ、諸國ノ古器ニ及フ、來丁ニテミル所ヨリ更ニ備リテ美ナリ、

二日 陰

十時十五分ヨリ蒸氣車ニ上リ、接伴掛兩人ノ案内ニテ奄特坦府ニ赴ク、途上、ミナ平衍ニテ、溝澮縱横ニ通シ、水ハ地上ノ塢ヲ流レユク、岸ニハ楊樹ヲ種ユ、楊樹ハ生長シ易キ木ニテ、萌蘖ノ力強ク、之ヲ矮林トナシ、年年ニ其技ヲ芟取ベシ、其技ハ、焰硝ヲ製スル木炭ニ最良ナレハ、軍備ニ必要ノ產物ナリ、英佛ノ野ニモ、水岸ニハ楊樹ヲ繁育シ、岸ノ土泥ヲ固メ、併セテ枝ヲ芟ル用ニ供スルト云○途上ニ一條ノ長塢ヲミル、是ハ奄特坦府ヘ漕送ノ運河ニテ、蒸氣船烟ヲ吹キテ、楊樹ノ際ヲ行ク、處處村樹ノ中、田澮ノ傍ニハ、風車ノ閃クアリ、荷蘭ノ境ハ、到ル處ミナ窪下ノ澤郷ニテ、風車ノ下ニ居住ヲナス、其光景ハ常ニ此類ナリ

○奄特坦府ハ北荷蘭州ノ首府ニテ「シンデル」ノ海灣ニ控ヘタル當國第一ノ都府タリ、昔時ハ以テ王都トセシヲモアリ、歐洲中ニテ切要ナル貿易ノ都會ナ

リ其地ハ北緯五十二度二十二分、東經四度五十三分ニ位シ、人口二十六萬四  
 千六百四十九人アリ、府中ニハ灣海ニ注ク江港ヲ交錯シ、或ハ弓彎シ、或ハ斗  
 出シ、水光澹トシテ、地中尺餘ノ下ニ湛<sup>タ</sup>ヘ、洲嘴互ニ相望ミ、峯巒ノ前後ニ映對  
 スルナシト雖<sup>モ</sup>、樹陰倒ニ影ヲ鑑ミ、參差トシテ遠キニ連リ、水晶館ヲ起シ、草  
 花苑ヲ開キテ、水崖ノ勝ニ接連シタレハ、河岸ノ眺覽モ麗ニ、我東京深川靈岸  
 島ノ光景ヲ緬像スルナリ、此港ノ貿易ノ盛ナルヤ、一潮ノ來ルニ從ヒ、百艘ノ  
 船ヲ入ルヲ常トシ、時ニハ是ニ倍蓰スルニ至ル、港中ニ碇舶セル船ハ、六百艘  
 ヨリ少キ日ナシ、此海ニ牡蠣ヲ產ス、歐洲ノ美ナリ、其價モ亦貴シ、歐人牡蠣ヲ  
 賞美ス、蘭國以テ利ヲウク、米洲ニ於テハ、新約克ノ海岸ニ多ク生ス、往時蘭人  
 長崎ニ來リ、肥前ノ牡蠣ヲ買フテ輸送セルモ、其利ヲ獲ルニ慣ヘル故ナリ、○  
 港水ハ府街ニ入りテ、溝渠縱橫ニ縈ル、鹿特坦<sup>ロツトルダム</sup>府ニ比スレハ寬濶ナリ、全府中  
 ニ交ハル溝渠ハ一千ニ及フ、之ニ架セル橋梁三百餘アリテ、各街ニツヘル橋  
 梁ニハ頗ル建築ノ力ヲ盡セルモアレ<sup>モ</sup>、概シテミナ木橋ニテ、中門ニ天秤ノ  
 仕掛ヲ以テ、橋板ヲ開闔シ、溝渠ヲ漕スル船ヲ通ス、是荷蘭都府ノ橋制ナリ、市



中ノ屋造ハ、多ク磚瓦ヲ以テ疊成ス、往往ニ石造屋ヲミルハ、ミナ府中有名ノ大館ナリ、白蘭二國ハ皆澤國ナレトモ、白國內ニハ礦物饒カナリ、又建築ノ石材ヲ出ス、故ニ其大都ニ石屋多シ、蘭國ノ礦物ハ、僅ニ陶ヲ捏スル白泥ヲ出スノミ、石造ノ材モ資スルニ由ナシ、然レモ此大都府ノ市街ニ、往ク處ミナ石ヲ斃シテ、路ヲ修メ、街頭ニ廣達ヲ開キ、滿面石ヲシキ、高厦大屋ヲ聳カシ、往往ニ石造ノ館ヲミル、實ニ勤メタリト云ヘシ、市中一般ノ屋作ハ、幅狹クシテ窓濶ナリ、高サ五層ニスキルナシ、其溝渠ノ前ニ、參差トシテ叢立スル模様ハ、我東京ノ江戸橋ヨリ、河岸ノ諸倉ヲ望ムニ彷彿タリ、「ヒール街」「カイザル街」「プリレセ」スグラーカー」ノ三大街ハ、歐洲ノ大府中ニテ、高名ノ街ト比肩スルニ足ル、府中ノ地、水平ト相距ル尺ナラサルモ、屋ヲ起スニハ、亦必ス地中ノ窖ヨリ始ム、瓦石ヲ疊ミテ水濕ヲ拒ミ、其内ヲ以テ藏庫トシテ物ヲ蓄ヘ、或ハ人ヲ住マシム、西洋一般ノ風ト異ナルヲナシ、

日本ニ土倉ヲ建テ、火災ニ備フ如ク、西洋ニハ屋下ニ窖ヲ造リ、物ヲ蓄フ、是都府ノ地價、非常ニ貴キニヨル、窖ノ周圍盡ク瓦石ヲ密疊シ、灰土ヲ塗ル、土

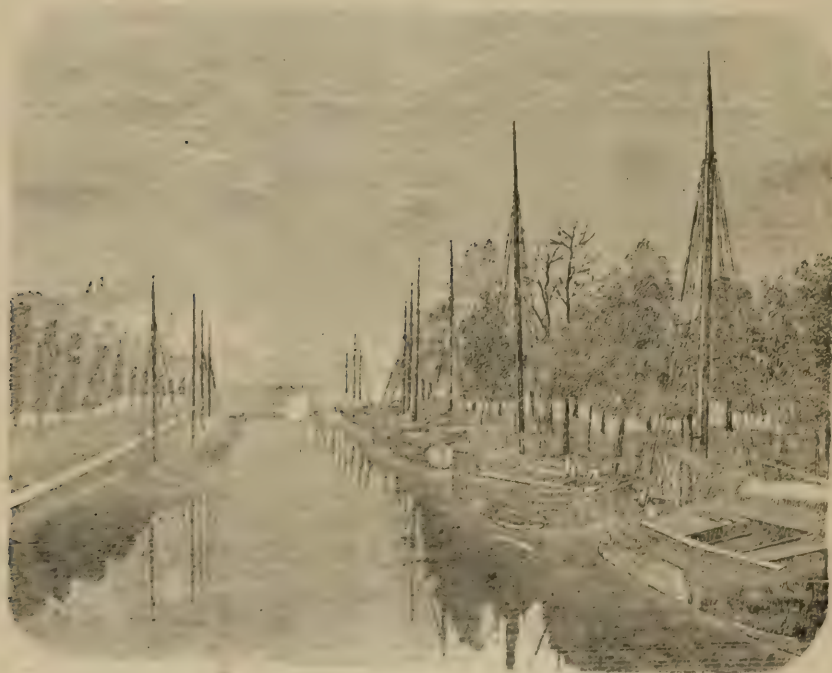
中ニモ亦爽暢ヲ失ハス、西洋ノ建築ハ、瓦料ノ泥ヲ擇ミ、石材ノ質ヲ擇ミ、務  
 メテ屋内ノ爽暢ヲ主トス、故ニ文房書庫ノ類、年年ニ風ニ乾カシ、濕ヲ防ク  
 ノ用意ナシ、是歐地ノ空氣乾燥ナル、日本ト雲淵相異ナルノミニ非ス、亦屋  
 作ノ精、然ラシムルモノアリ、我土壁ノ如キハ、晴ニハ濕ヲ散シ、雨ニハ濕ヲ  
 蓄フ、屋内ノ空氣、必ス水分ヲ増加セルベシ、故ニ大氣ノ中ニ、倉庫ヲ建ルモ、  
 蓄フ處ノ器件ハ乾燥ヲ加サレハ、霉敗ヲ免レス、日本ニテハ、空氣ノ濕フノ  
 ミニ非ス、抑屋作ノ爽暢ニ注意セサルニ因ル瓦壁石造ノ屋ハ、火災ヲ防キ、  
 兼テ水濕ヲ防ク、是其利多キ所以ナリ、

○奄特坦ノ王宮ニ至ル、宮ハ府ノ中心ニアリ、長サ二百八十二尺、廣サ二百三十  
 五尺、高塔ノ抄ハ高サ百二十尺ニ及フ、元ハ府ノ町會所ナリシヲ、修メテ以テ  
 王宮トナセリ、今ニ其時ノ會議堂ハ、存シテ宮内ニアリ、二百年前ノ建築ニカ  
 ハ、ル、宮ノ内景ハ、金色眩爛ナラス、只白石皜然トシテ、窓明カニ室潔ク、却テ清  
 麗ヲ覺フナリ、畫額ヲ以テ飾レル室アリ、文絹ヲ以テ張レル壁アリ、其尤モ廣  
 敞ナルハ會食堂ナリ、正ニ高塔ノ下ニ位ス、其穹宇ノ高サ十丈ニ及フ、此頂心

荷蘭陀ノ奄特坦王宮  
アムステルダムパレス



同府海岸ノ景







ヨリ金ノ長鎖ヲ以テ、瓦斯燈ノ大叢枝ヲ釣下ス、全牀ミカハ寄木板ヲ張り、圓活ニテ足ヲ失ハントス、此ハ先代未タ海牙ハーグニ都セサル以前ノ王居ニテ、遷都ノ後モ、猶修治シテ以テ別宮トナセリ、

○集畫院ニ至ル、名畫古畫ヲ二層ナル高宇ノ樓ニ蓄フ、常ニ府中ノ畫人來リ、就テ摸寫シ、其法ヲ學ヒテ、美術ヲ講究スル爲メニ設ク、他ノ記スヘキナシ、此外府中ニ於テ回覽スヘキハ、「パーク」海軍局、猶太寺、及ヒ船廠等、ミナ著名ナリ、奄特坦銀行、東洋商會第五十三卷ニ出等ハ、甚タ盛大ナリ、此日ハ時促シタレハ、一

ニ回覽ニ違アラサリシ、「アムステル、ホテル」ニ至リ、晝餐ヲ辨ス、此ハ港江三又ノ前ニ建テタル、五層ノ大館ニテ、府中ニテ一二ヲ爭フ旅館ナリ、窓櫺ミナ水光雲影ヲ入レ、水晶館前ニ兀立シ、柳垂レ草媚ヒ、水紋澹澹トシテ、烟霞ヲ拖キ、船舶ノ往來スルヲミル、府中ノ風景ノ地ナリ、

○水晶館ハ、當府ニテ鼻目トスル壯美ノ館ナリ、以テ遊衍ノ場ニ供ス、中央ニ巨塔ヲ起シ、全屋ミナ鉄ヲ以テ幹トシテ、玻璃ヲ以テ覆フ、皎瑩ニシテ甚タ淨シ、英國水晶宮ノ小ナルモノナリ、中堂ヲ廣廊ニシテ、木板ヲ以テ下牀トシ、正面

ニ樂壇ヲ設ク、此日正ニ一幫ノ樂隊、樂ヲ調シ、府中ノ遊人、男女集リ、聞キ居タリ、頗ル鬧劇ナリキ、兩側ノ廊ニハ、酒、茶、呵啡ヲ販クモノアリ、又一二ノ畫房アリテ、名畫ヲ羅張ス、此額畫ノ内ニテ、一ノ記録スヘキハ、當國孝子ノ圖ナリ、二百五十年前ニ、西班牙ノ兵、蘭國ノ境ニ侵入セシキ、兵卒ハ抄掠ヲ極ム、鄆村ニ一男アリ、耳順ノ母ト居ル、母ヲ手車ニ載セ、自ラ推シテ河水ヲ渡ルトキ、西兵ノ認ムル所トナリテ來リ、掠略セントス、孝子言ヲ盡シテ是ヲ辨解セシニ、暴卒モ爲メニ感動シ、助ケテ逃レシメタルハ、荷蘭國ノ史ニ於テ、一ノ美談トナレリ、此ハ其狀ヲ圖セリ、母ノ老態、孝子ノ誠懇ナル、兵丁ノ暴戾ナル、其面目宛トシテ眞ニ迫ルノミナラス、併セテ精神ヲ露セリ、英佛以來、畫圖ヲミルヲ多シ、其所謂ル名畫ハ、法教神像ニカ、ルヲ除ケハ、裸躰ノ婦人、時ニハ醜猥ノ狀ヲ續セルアリ、此畫ノ如キハ西洋人ノ孝德ヲ描ク、甚タ珍希ニ嘉尙スルヘキモノナリ、

○ヂヤモント金剛石ノ磨礮場ハ、府中ノ第一ナル高名場ニテ、歐洲各國ニ於テ、金剛石ノ流行ハ甚タ盛ソナレト、是ヲ磨琢シ粹玉トナスヲハ、此場ニ非スハ、成ス能ハス



奄特坦ノ水晶宮



同開闢橋





トナシ、此場ハ四十年前ニ、ユストル氏ナルモノアリ、佛國ノ領事官トナリ、初  
メテ此製造場ヲ建起セリ、現ニ職人ヲイル、日ニ三百十五人、蒸氣ノ輪三十  
六馬力ナルヲ安ソス、

金剛石ノ物タル、硬石ノ殻ヲナシテ、其中ニ蘊藏ス、猶木實ニ仁アルカ如シ、殻  
石ハ黃黑色ナリ、之ヲ破リ示セシニ、一點ノ金、剛石ヲ含メリ、其質模糊タルヲ、  
又猶木實ノ仁ノ如シ、磨礪ヲ極メテ後ニ、玲瓏瑩徹、暗中ニ光ルニ至ルナリ、支  
那ノ古時ニ、夜光璧ヲ記ス、恐クハ此金剛石ナラシ、唐詩ニ葡萄美酒夜光杯ト  
ハ、ギヤマン細工ノ玻瓈杯  
ナリ、此石ノ質タル、地球上ニ其堅剛ヲ比スルモノナシ、是金剛石ノ名ヲ得タル  
所ナリ、故ニ是ニテ他ノ堅硬ノ物ヲ截ルヘシ、磨スヘシ、而テ之ヲ磨礪スルモ  
ノハアラサルナリ、只金剛石ヲ以テ、兩兩相磨スルヲ得ルノミ、故ニ磨礪ヲ施  
スニハ、兩根ノ木丁アリ、堅材ヲ以テ製ス、其名ヲ聞  
モラセリト云、黃黑色ナル石末ヲ  
練リ、餅ノ如クシテ其頭ニ冒ス、此物ノ質タル、熱火ニ熱スレハ、熔解シ、是ヲ口  
ニ含ミ冷ナラシムレハ、即チ固結シ石ノ如シ、是ニ金剛石ヲ嵌シテ相磨軋ス、  
○其後ニ鋼鏡盤ヲ、蒸氣力ニテ旋轉セシメ、其上面ニ於テ、鉛ヲ以テ金剛石ヲ



嵌シ其稜角ノ一面ヲ盤上ニ向ハシメ、金剛沙ノ末ヲ水ニ和シテ、其隙ニ沃灌スレハ、盤ノ轉スルニ從ヒテ、金剛石ノ一面、其磨擦ニヨリテ光澤ヲ生ス、一面了リテ、他ノ一面ニ至リ、一沙粒大ノ石ヲ磨ク、數日ヲ兼子テ纔ニ成ル、其用工ノ精ナルヲ察スヘシ、現ニ磨礱セル石ニハ大塊ナシ、一箇小指頭ノ如キ、黃色ノ金剛石アリ、其價四十萬「フランク」ナリト云、○此場ヲ創メシヨリ以來、磨成セル内ニテ、最大ナル尤物ハ、經七八分ノ塊三箇アリ、一ハ英國、一ハ佛國、一ハ露國、此三國ノ帝王ノ寶トナレリ、ミナ世界中ニ屈指ノ至寶ニテ、其狀ミナ同シカラス、其價ハ二百萬「フランク」以上ニ及フ、此場ニハ玻璃ニテ其形ヲ模造シ、柵中ニ存シ藏ム、

○是ヨリ車ヲ回シ、接伴掛「ハンデル、タツク」氏ノ宅ニ赴ク、夕饌ノ享アリ、九時半ニ瀛車ニ上リ、十一時ニ歸館ス、

三日 薄陰

二時ヨリ馬車ニ駕シ「フロスブロク」氏ノ案内ニテ、海牙ヨリ東北ニ走ル五英里許ニテ「ボーシポテン」村ニ至リ、銀器ノ製造ヲミル、

「フアンパン氏ノ銀器製造ハ、村中ニ一區ノ地域ヲ占メ、樹ヲウエ草ヲ植エタル苑中ニ、幽雅ナル屋宅ヲ建ツ、即チ其私宅ニテ、此背ニ一字ノ製造場アリ、四十年前ニ、剏建ス、場内三十馬力ノ蒸氣輪ヲ設ケ、職人ヲイル、百五十五人ナリ、銀ハ獨逸ヨリ輸入ス、此ニテ製スルハ純銀ノ細工多シ、器械ハ英國ノ北明<sup>バイミン</sup>翰府ヨリ仕入タルモノ多シ、○銀ヲ熔スルニハ、電氣法ヲ以テス、銀板ハ「ローレン」ニテ展ヘ、之ヲ鋼型ニ打込ミテ器ヲナス、磨スルニハ、鍍軸ヲ振回セシメ、其頭ニ圓形ノ革ヲ施シ、銀器ヲ革ニアテ、是ニ石末灰土ヲ撒シテ磨ク、此灰沙ノ調合ヲ問ヒシニ、秘法アリトテ、語ラス、酸化鍍礦ヲ用フルナラソ、<sup>第二十八</sup>見ヨ、○粗雜ノ器ハ、堅木ノ材ヲ以テ型ヲ造リ、鍍軸ヲ以テ強壓シテ作ルアリ、器面ニ細紋ヲ雕刻スルニ器械アリ、齒輪數十枚ヲ疊ミ、每齒ミナ同シカラス、其上ニ定規ヲオキ、輪回ニ從ヒテ、定規ハ移リ、前ナル又頭ヲ動シ、器面ニ紋ヲナス、此器械ハ三四種アリ、甚タ精工ナリ、西洋ノ諸器ハ、磨粉ニ參和ノ藥アリテ、其光ヲ發セシメ、花紋ヲ刻ムニモカ、ル器械アリテ精雕ヲナス、電氣ノ法、「ゴツタベカ」ノ型等ニテ、工ヲ省キテ器ヲ美ニス、精ヲ求メテヤマス、故ニヨク

其美ヲナスナリ。○此場ニテモ、亦丹礬水ニ電氣ヲ仕掛テ、銅器ヲモ製造ス、瓜哇國ヨリ囑ナリトテ、大銅像ヲ鑄成スル型ヲ作り居タリ、

#### 四 口 薄 陰

外務省ニ於テ應接、

夕ニ海牙ノ王宮ヲ回覽ス、夜元日本公使「フロスブロク氏」ノ宅ヨリ招宴アリ、  
五日 大霧、晝ヨリ薄陰トナル

此日ハ海牙ノ北方ナル海濱ノ光景ヲ一見ス、

木戸副使ハ、蒸氣車ニテ奄特坦府ノ近方ナル鄙村ニ赴キ、新鑿ノ運河ヲミル、  
○此運河ハ、北海ノ濱ヨリ奄特坦マテ、二十五「キロメートル」ノ距離ナル地ヲ開鑿シ、深サ七「メートル」、幅六十「メートル」ノ河道ヲ通シ、歐洲北方ノ船舶ヲシテ「シンデル」海程ヲ迂回セスシテ、直ニ奄特坦港ニ達セシムルヘシ、此距離中ニ、陸地ハ只六「キロメートル」、其他ハ沼澤ナリ、河ノ開鑿ハ、已ニ成就セリ、當時ハ水ヲ汲ミ乾カシテ、沼澤ヲ乾土トナサント、其工作ニ多少力ヲ用フルトナリ、○一千八百六十五年ヨリ、此土工ヲ起シ、今ヨリ更ニ五年ヲ經テ、而テ後ニ



功ヲ竣ムルベシ、此工費スヘテ二千七百萬「ギULDEN」ヲ用フ、世界ニテ比類ナ  
キ大工作ナリ、一時ハ金集ラスシテ中止セルヲモ兩年餘アリテ、特ニ年月ヲ  
糜セシニ、英國ノ富商、更ニ金ヲ醵シテ、竟ニ其成業ヲナスニ至レリト云、○海  
角ニ波戸ヲ築キ出ス、此邊ノ北海ニ濱セル地ハ、ミナ沙岡ヲ隆起シテ、一帯ミ  
ナ沙灣ヲナス、其沙ヲ以テ石ヲ製シテ築石トナス、此石ハ水ニ入ルヲ愈久ケ  
レハ愈堅シ、製石ノ場アリ、河岸ニ鑛道ヲ綴リ、六七「キロメートル」ヲ走リテ、海  
岸ニ達ス、沙ヲ以テ石ヲ製スルニハ、噴火山ノ灰石ヲ輸入シ、之ニ沙石ヲ混和  
シ、水ヲ灌キテ木型中ニ盛リオケハ、數分時ヲスキテ硬キ石トナルナリ、蘭國  
ニ石ナキモ、幸ニ沙アルヲ以テ此法ヲ以テ滿灣ノ沙ヲ化シテ、築石ノ用トナ  
ス、物理ノ秘ハ、苟モ其蘊ヲサクレハ、妙用夫レ窮アラザヤ、

築石ノ波戸ハ、海濱ヨリ門關狀ニ、海ニ斗出シテ、海水ヲ抱カシム、長サ四五町  
モアルヘシ、去十一月ノ大風濤ニテ、波戸ヲ破毀シタリトテ、其破毀ノ處ハ數  
ヶ所アリ、因テ一層堅固ヲ加ント、當時評議中ナリト云、是ヨリ運河ニ入ルヲ  
十町許ニテ、石ヲ築キテ堰トナシ、河ヲ遊斷ス、中央ニ石築ノ船槽アリ、槽中ニ

恰モ一大舶ヲイルヘシ、前後ニ門アリ、水關トナシ、巨大ノ鍊鑠ヲ以テ、兩扇開闔スベカラシム、槽ノ左右ニモ、亦水門ヲ設ケ、開闔ノ戸ヲ施ス、北海ノ潮ハ、「シソデルシー」ト高低同シキヲ得ス、故ニ潮ノ都合ニヨリ、往來ノ船ヲ此石槽ノ中ニ入レ、前後ノ門ヲ開闔シ、潮水ヲタヘシメ、干潮ヲ變シテ、滿潮トナスノ工夫ナリ、其理ハ水學中ノ行舟山ヲスキシムルノ法ニ出ツ、只其建築ノ宏壯牢固ナル、人ヲ驚カスノミ、○此日築場ノ番宅ヨリ、我輩ノ來ルヲ喜ヒ、親ラ案内ヲナシ、小憩ノ際ニ美酒ヲ享シテ款待セリ、此近傍ハミナ蘭ノ田家ニテ、三三兩兩村落ヲナシ、此日ハ天薄陰ニテ、風淒其タリ、一味ノ野趣蕭疎ヲ覺フ、野徑ヲ歩スル、一英里餘ニテ、氣車驛ニ至リ、午後五時ニ歸館ス、  
夜「プリンス、フレデレ」キ世子ノ邸第ニテ、饌享ヲ賜フ

六日 陰

此日木戸副使ハ奄特坦府ニ赴キ、禽獸園ヲミル、此禽獸園ハ、歐陸ノ地ニテ、第一ノ評ヲ得タル所ナリ、園中ミナ平地ニテ、山丘ノ設ケナケレバ、樹ヲ植エ池ヲ匝シテ、盤桓スヘシ、其他ニマサル所ハ、禽獸ヲ蒐集セルノ多キト、豢養ノ其

術ヲ得テ、ミナ肥澤ナルニアリ。○江豚ヒボボハ室中ニ磐石ノ池ヲ作りテ養フ、牝牡一耦アリ、今ニ至ルマテ十二回子ヲ舉ケタレヒ、只一匹ヲ育セルノミ、此子ハ英國ヨリ買入レタリトナシ、園中ニ獸類甚タ夥多シケレヒ、此獸ヲ以テ第一ノ巨觀トス、「シーアラ」ト云馬ハ、全身ノ毛ニ、虎紋ヲナシ、軀軀ハ常馬ヨリ小ナリ、英佛各國ノ禽獸園ニ於テモ、是ヲ馴セシメゾトスヒ、到底馴性ナシ、人騎スレハ輒チ刎落シ、近クベカラサルモノナルニ、此園ニ蓄スル十四匹ノ内ニ、一馬ハ竟ニ馴セシメタリ、猛獸ヲ豢養セル室ニ、一犬アリ、他ノ異ナシ、之ヲ問ヘハ、元王宮ニ養ヒタリシニ、人ヲ傷リタルヲ以テ、此園ニ送り致セリト云。○禽鳥ノ類モ甚タ多シ、鶴ノ一種ハ、南亞米利加ノ産多シ、中ニ丹頂白羽ニテ、黒羽ノ尾アルハ、題シテ日本ノ産ト標セリ、猿獐類ハ多カラス。○園中ニ一館ヲ起シ、外國ノ異貨ヲ集ム、日本ノ物品モ多ク集メタリ、江戸ノ生人形アリ、銅佛像大小數アリ、ミナ日本ニアリテハ精工ト稱セラルヒ、此内ニアリテハ、何管ニ僉父ノ面目ノミナラシヤ。○一ノ長解ニハ、玻璃ヲ嵌固シ、鎗管ニテ蒸氣ノ温ヲ送り、熱地ノ動物、及ヒ樹木ヲ養フ、巨蛇數頭アリ、大ナルハ、其園



尺有半ニ及フ、慘惡憎ムヘシ、猿猱モ此解ニ養フ、又魚兒ヲ養フ室アリ、蘭國ハ歐洲ノ漁業國ニテ、夙ニ其利ヲ興ス、近年獨逸、露西亞地方モ、魚類ヲ成育スルニ注意ヲ加ヘ、農業學中ニ、養魚科ノ一派ヲ開キ、蓋發明ヲス、メ、人力ヲ以テ河魚ヲ繁息セシメ、官ヲ設ケテ之ヲ保護スル、山林ノ虞衡ニ比ス、魚ヲ養フハ、樹ヲ育スルカ如シ、土性ノ肥瘠ヲ相シ、養魚ノ池ヲ造リ、溫度陽光ヲ差シ、風ヲ防キ、雨ヲ收メ、水草ヲウエ、森林ヲ蔭シ、肥壯ノ魚、雄雌ヲ放ツテ交尾セシメ、其蛋卵ヲ生セシメ、之ヲ孵化シテ、鰕トナシ、別池ニ送リテ成長セシム、猶樹苗ヲ作ルカ如シ、惡魚水獸ノ害ヲ防キ、禽鳥ノ來リ食フヲ護シ、育成スル、三年ニテ池ニ放ツ、是各地方養魚ノ大略ナリ、近年獨逸ノ發明ニテ、交尾シタル魚ヲ割キテ、其蛋卵ヲトリ、肉ヲ以テ溫養シ、雄卵雌卵ヲ水中ニ動搖シ、媒助交合セシメテ、孵化ヲ促ス術アリ、此園ニ養フ魚兒ハ、即其法ニテ孵化セルモノナリ、早孵ノ魚兒ハ、己ニ魚形ヲナシ、新ニ孵セルハ、頭大ニ體小、腹ニ腹ヲ帶ヒタリ、未孵ノ卵ハ、菽豆大ニテ、黃赭ノ色ヲ含メリ、粗ニ鋏線ヲ織リタル簀上ニオキ、清水ニテ輕輕ニ動搖シ、水ノ新陳流レカハラシム、孵化スレハ、魚兒簀ヨリ

漏レテ、水中ニ墜ツ、須臾ニシテ活潑トシテ、水ヲ游キ、下ナル水盤ニ來ル、凡ソ  
魚ハ卵ヲ水草ニ産ミ傳ル、<sup>ツク</sup>陽光ニテヨク煦スレハ、十六七日ニテ孵化スルモ  
ノナリト、養魚人懇懇ト其術ヲ語リタレヒ、詳悉ス能ハス、其概略ヲ記臆セル  
分ヲアク、窖中ノ温ハ「ハ」氏ノ六十度ナリキ、

西洋ハ肉食ノ俗ニテ、獸肉ハ日本ノ稻米ニ比ス、鳥肉ハ反テヤ、貴シ、日本  
ノ魚肉ニ比スヘシ、魚肉ハ最モ賞味セラル、西洋ニ魚肉ヲ食フハ、近年漸  
クニ盛ソナリ、凡ソ各國民食魚ノ景況タル、上等ノ人モ鹽魚ヲ食ス、<sup>ニシ</sup>鮮魚ハ  
ヤ、下等ノ食ニアツ、故ニ其醃魚ヲ消費スル高モ甚タ大ナリ、其鮮魚ニ至  
テハ、貴人ノ食案ニ賞翫セラレ、<sup>サケマスヒヲメダラ</sup>鮮、鱈、比目魚、鱈等ヲ多ク宰ス、是歐洲ノ河海  
ニ尤モ多キ故ナリ、歐洲北洋ノ濱ニ漁業少シ、漁利ハ「ポルチツ」海及ヒ北海  
ノ濱ト、黑海、地中海ニアリ、英、佛ノ如キハ、其輸入ヲ仰ク、米國、加拿佗ヨリ、夥  
多ク鹽魚ヲ輸入ス、米國ノ漁利モ、總價一千萬弗ニ下ラス、遠國ノ魚ハ、鮮食  
スヘカラサルヲ以テ、歐陸地ニ於テハ、河池ニ養魚ノ法ヲ設ケ、海濱ニハ漁  
業ノ制度アリ、近年魚肉ヲ食フノ盛ナルニ從ヒ、法ヲ設クルハ亦嚴ニ數罟

窪池ニ入ラサルノ意ヲ實行セリ、

夜王族「ヘンデリ」キ族ノ邸第ニ招請アリ、饌享ヲ賜フ、

七日 薄陰

朝八時ヨリ海牙ヲ發シ、日耳曼ニ赴ク、日耳曼帝ヨリ招接トシテ、宮内ノ官  
「カンヌケ」氏、海牙ニ來リ、其ニ車ニ上ル、接伴掛兩人モ亦送り來ル、東南ヲ走ル  
ト一時間行、澤地ヤ、ツキテ平岡トナル、沙土多ク膏腴ナラサレト、松ヲウエ  
林ヲナス、是ヨリ漸クニ平原トナリ、河道交リテ草茂セリ、「アイズム」河橋ヲコ  
エテ、午後ニ「ベンゼイム」驛ニ至リ、此ニテ蘭ノ接伴掛ハ告別シテ去レリ、



第五十五卷 普魯士國ノ總說

歐洲大陸地ニ於テ中央ノ大原野ハ、獨逸人種ノ住スル域ニテ其全土ハ甚タ廣ク、中古ヨリ帝王侯伯互ニ盛衰ヲナシ、他ノ諸列國ノ君主モ、ミナ是ト姻婭ヲ結ヒテ、瓜分ヲ全歐地ニシキタレハ、獨逸ノ歐洲ニ關係アルヲ甚タ緊要ナリ、今モ全地ニ貴族多ク、侯伯數十國ニ分ル、其南方ノ部分ハ、オ、ストリヤ墺地利聯邦ヲナシ、其中央ヨリ佛國境ニ至ル山原ハ、ライン來因同盟ヲナシ、南方日耳曼ト稱ス、其西北ニ散處スルヲ、北方日耳曼トイフ、北方日耳曼中ニ、最大ナル王國ヲ普魯士トス、近年普魯士ノ勢益盛大ヲナシ、去ル一千八百七十一年ヨリ、南北日耳曼ヲ統一シテ、日耳曼聯邦ノ帝位ニ上リ、首府柏林ベルリンニ、聯邦ノ公會ヲ設ケタリ、故ニ外國ニ對シテハ、單ニ日耳曼ノ名ニテ交レ、カイゼル內國ニ於テハ、舊ノ如ク各國ノ治ヲ分ツ、此ニ其日耳曼ノ帝位ニ上リタル、普魯士王國ノ大略ヲ記述シテ、日耳曼ノ前記トセシ、

○普魯士國ノ形ハ、斷片ヲ闕縫シテ、一幅ノ帛ヲツクレルカ如シト、是ハ九十年

前ニ普魯士王「フレデルヒ第二世カ評セシ言ナリ、今ニ至リテモ其形ヲ同ク  
 セリ、一千八百七十三年ニ於テ、普魯士ノ版籍ハ、北緯四十九度十三分ニ起リ、  
 五十五度五十三分ニ至リ、緯威ヨリ、西經五度五十二分ニ起リ、二十三度〇ニ  
 至ル、其總地積六千三百十一方日耳曼里八分八、(即チ十三萬七千〇六十六方  
 英里)其人口ハ二千四百六十九萬三千〇六十六人アリ、此土地ヲ比較スレハ、  
 正ニ我日本ト相匹ス、其人口ハ少キヲ約一千萬ナリ、○此一大國ヲナシタル  
 ハ、近ク二百年間ノヲニテ、歷代ノ君臣、政略ヲ施シ、鬪縫ノ斷片ヲナセシヲハ、  
 當時口耳曼ノ帝位ニ登リシ、普國王家ノ史乘ニ管セル要件タリ、其地形ヲ詳  
 カニスルニハ、其史ヲ并セ説カサルヲ得ス、普魯士ノ王家ハ「タヒルン侯ノ裔  
 ト稱ス、紀元九百八十年ニ於テ「フレデルヒ第一世、其領地「ダニユ―ア河源ノ地  
 ニ於テ「ホ―ヘンツルレン家ノ居城ヲ築キ、因テ「ホ―ヘンツルレン家ト稱ス、  
 此領地ハ、二十一方日耳曼里一五(即チ四百四十三方英里)ヲ存シ、瑞士スイス、巴威里バイリヤ  
 兩國ノ境ニアリ、先王「フレデルヒ維廉ウリヤム第四世ノキヨリ、普國ノ版圖ニ收メタ  
 リ、○「ホ―ヘンツルレン家ノ第十三世「フレデルヒ第三世ハ、日耳曼ノ侯伯ゲリンスニ

列シ「ノルン堡侯ノ爵位ニ登ル」第二十五世「フレデルヒ第六世ニ至リ、千四百十五年ニ、日耳曼帝「シジスモウント」ニ寵遇セラレ「アランデン堡州ニ封ラレタリ、因テ「アランデン堡國ト稱ス、是今ノ「アランデン堡州ニ一縣ノ地ニテ「ポッダム」ニ首府ヲオケリ、此二十五世ノ間ハ、普ノ舊地ニハ、方隅割據ノ侯伯五十餘アリ「ホーヘンツルレン家モ、其一枝ニスキサリキ、○「アランデン堡ノ國ヲ建ルニアタリ「ボルチック海ノ濱ニハ、<sup>チユトニツグ</sup>丟度泥<sup>ナイト</sup>奈的ハ軍戸ト名クル、饒勇社アリ、普魯生州ノ地ヲ領セシニ、一千五百十一年ニ「ホーヘンツルレン家ノ季子「アルベルト」ヲ奉戴シテ、社長トナジタリ、其後「アルベルト」ハ、遂自立ルテ、普魯生侯國ヲ立テ、其位ヲ世襲セシニ、其系統絶ヘ、國ヲ舉ケテ「アランデン堡侯ニ附屬セリ、是今ノ東西普魯生州、<sup>プロイセン</sup>四縣ノ地ナリ、當時ハ波蘭國ノ勢強、普魯生國ハ、其隸屬ノ侯伯タルニスキサリキ、○「アランデン堡國ノ壤地ハ、其廣サヲ樺太ニ比スヘシ、普魯生國ハ、北海道ニ相匹ス、此兩地ヲ合セテ、當國ノ根元トハナリタリ、此時ニアタリ、日耳曼ニ「プロテスタント教起リ、<sup>サッピセン</sup>薩撒ノ「ルーザー」カ一派、正ニ蔓延ス、因テ兩地ニハ、寺院ノ所領ヲ舉テ、其新教ニ歸依シ、其教



徒ノ領袖トナリテ、北方日耳曼ニ聲望ヲ收メタリ、是當國政略ノ一端ヲ啓キ  
 シモノニテ、今ニ至ルマテ、羅馬教會ト、新教トノ關係ニ於テ、普國ハ常ニ其部  
 臬タル所以ナリ、一千六百年代ニ「フレデルヒ維廉ハ」<sup>ウリヤム</sup>「ゼ、グレート、イレクトル」  
 大王ト稱シ、雄略材武ノ君ナリ、「レホルムト宗」<sup>プロテスタント</sup>別派ヲ信シテ、荷蘭人ノ  
 心ヲ繫キ、兵制ヲ振興シテ、始メテ常備軍ヲ編成シ、益疆土ヲ廣メ、五十九年ニ、  
 波蘭ヨリ普國統轄ノ權ヲ許サレ、是ヨリ自主ノ色ヲアラハセリ、歐陸地ニ常  
 備兵ヲオクフハ、蓋シ此ヨリ始マル、○一千六百八十八年「フレデルヒ第一」  
 即位セルキニハ、此國ノ幅員四萬二千七百七十六方英里、人口百五十萬、精兵  
 三萬八千人アリ、<sup>人口四十人</sup>一兵ナリ、亦剛悍英邁ノ君ニテ、軍功ヲ振ヒ、一千七百〇一  
 年ノ一月、東普魯生州ノ「ケーニングス堡府」<sup>ベルヒ</sup>ニ於テ、普魯生國ノ王冕ヲ服シ、是  
 ヨリ普魯士王國ト稱ス、此代ニ地ヲ廣ムルヲ六百餘方英里、嗣王「フレデルヒ  
 維廉第一世」ハ、奢靡ヲ好ミ、兵事ニ怠リタレト、父祖ノ餘烈ニ因テ、貨財ヲ積ミ、  
 九百萬「ターレル」ヲ蓄ヘ、其五百萬ヲ出シテ、土地ヲ買入レ、歲入六百萬「ターレ  
 ル」ヲ増加シ、其四分ノ三ヲ軍費ニ支消シタリ、○一千七百四十年「フレデルヒ

第二世即位ノ時ニハ、幅員四萬五千九百方里、人口三百二十四萬ヲ領有セリ。  
即チ今ノ「フランドン」堡、普魯生兩州、及ヒ「ホメラニヤ」州ノ一分、及ヒ波森<sup>ボーセン</sup>薩撒<sup>ザン</sup>  
州ノ幾分ヲ有セルノミ、然レモ其地タル、黃海濱ノ濕野ニテ、一二ノ川流ニヨ  
リ、僅ニ地方ノ運搬ヲ通スルニ足ルノミニテ、三分一ハ、疲瘠不毛ノ土ナリ、其  
三分ノ二モ、森林、沼澤、河溝ヲ除クノ外ニ、耕耨ヲ用フヘキ田野ハ、又其三分ノ  
二ニスキス、燕麥、小麥ヲ生シテ、民食ヲ充ルノ外ハ、非常ノ勞作ヲ盡シテ、菜蔬  
果實ヲ收ムルヲ得ルヘシ、一般ノ民ハ、皆鄙陋鹿野ニシテ、只健啖豪飲ニ沈溺  
シ、朴魯貧窶ニテ、獨立ノ生計ニ足ルモノ幾クナク、只兵伍ニ身ヲ編シ、鹿暴放  
恣ナル風俗ナリキ、「フレデルヒ」第二世ハ、一世ノ豪傑ニテ、熱心ニ功名ヲ好ム、  
英雄ノ主ナリ、父王ノ奢靡ヲ鑒戒トシ、儉素ヲ以テ身ヲ律シ、兵備ヲ振ヒ、政略  
ヲ展ヘ、國威ヲ奮興セント、國政ヲ改革シ、外國人ヲ延テ、官途及ヒ學校ニオキ、  
普魯士ノ文化兵制ヲ啓キシハ、此君ノ力ニヨル、即位ノ始メヨリ、四隣ノ「シレ  
セン」<sup>瑞典</sup>、<sup>瑞典</sup>及ヒ獨逸ノ「ケルドルス」ノ地ヲ侵略セント、  
權謀ヲ用ヒ、先ツ<sup>ポヘミヤ</sup>、<sup>波蘭</sup>、<sup>ホメラニヤ</sup>ノ領、<sup>波蘭</sup>、<sup>波希米</sup>ニ入り、一千七百

四十一年ヨリ同五十七年マテ、全十五年、烈戰ヲナシ、遂ニ「シレセン」ノ地、四分ノ三ヲ版圖ニイレタリ、今ノ普國「シレセン」州、一萬五千七百六十二方英里ノ地是ナリ、其後七十二年ニ、墮露兩國ト合シテ、波蘭ヲ伐テ其地ヲトリ、波森州ノ大半モ此代ニ削取セリ、是ニ於テ、普國ノ版圖ハ「シレセン」波森ニ跨リ、七萬五千百七十五方英里、五百四十三萬ノ生口ヲ有シ、殊ニ「シレセン」ノ繁盛ナル南境ノ府庫トナシ、實ニ中興ノ君タリ、今ニ至ルマテ、國人此王ヲ景慕シ、嘖嘖トシテ已マス、當帝ノ日耳曼ニ雄略ヲ展ヘタルモ、其遺烈ニカール、○嗣王「フレデルヒ維廉第二世ハ、懦弱ニテ國勢振ハサリシモ、アンスパーテ「ベールュス」兩侯國ヲ并吞シ、波蘭ヲ滅シテ、其地ヲ露墮ト瓜分シ、幅員二萬餘里ヲ廣メタリ、此頃ヨリ佛帝拿破侖<sup>ナポレオン</sup>第一世起リ、「フレデルヒ維廉第三世ノ時ニハ、其兵ヲ蒙リ、一時其所領ノ半ヲ侵削セラレ、佛兵「ポツダム」ニ入り、城下ノ盟ヲナシ、一億「ターラー」ノ償金ヲ奪ハレタレヒ、君民共ニ奮フテ屈セス、一千八百十五年列國聯合シテ「ワートルロー」ニテ、拿破侖ヲ破リシキハ、普軍ト英軍トノ戰功、律ヨル、是ニ於テ列國維納ニ會議シ、其舊領ヲ復スルノミナラス、瑞典國所屬ノ





ヲ再興シ、維廉王ニアタヘ、日耳曼一統ノ政府ヲ伯林ニ設ルヲトハナリヌ、  
○普國ハ「元」アラソデソ堡國ヨリ起リ、地ヲ四方ニ兼并シタル疆域ハ、今州縣ノ

分チニヨリテ、之ヲ知ルヲ得ルヘシ、此ニ其概略ヲ舉ケン、人口ハ一千八百

「アラソデソ堡州」 一、五六一〇 方英里 二八六、三四六一 人

是ヲ舊侯國ノ本部トス「ボッダム」ヲ首府トシ、伯林府、及ヒ二縣ヲ分ツ、

普魯生州 プロイセン 二、五〇三三、 三一三、七四六〇、

是ヲ黃海饒勇社ノ舊地トス、四縣ヲ分ツ、首府ヲ「ケーニッグス堡」トス、北方濱

海ノ濕野ニテ、荒寒ノ郷ニカ、ル、後露國ニ赴クニハ、此州ヲスク、第六十卷ニ出

薩撒州 サヘセン 九七〇〇、 二一〇、三六五五、

薩撒ノ削地ナリ、大サ薩撒ノ本三縣ヲ分ツ、首府「マクテ堡」ハ、人口八萬五千、ベルヒ

毛麻織ノ名所ナリ、伯林ヨリ薩撒波希米ニ赴ク路線ニカ、リ、繁昌ナル街地

ナリ

波森州 ボイセン 一、一四〇一、 一五八、三六五四、

是ヲ波蘭國ヨリ瓜分ノ地トス、二縣ヲ分チ、首府「ポーゼン」ハ、人口五萬五千、

露國地及ヒ中南部ト貿易ノ衝地ナリ

「シレセン州

一五七六二、

三七〇、七一四四、

是ヲ壤國「シレセン州ヨリノ削地トス三縣ヲ分チ、首府「プレスロウ」ハ、人口二、十萬八千アリ、伯林ノ東南、百餘英里ノ上流ニヒカヘ、百般ノ製作甚タ盛ンニ軸普國ノ大市場ニテ、繁昌ナル地ナリ、普國ニテ第一

「ホンメルン州

一二二九四、

一四三、一五〇八、

是ヲ瑞典ノ舊屬地トス、

普魯生州ノ西「ナラント」堡ノ北「メクレン堡國ノ東黃海濱ノ濕野ナリ、三縣ヲ

分チ、首府ヲ「ステッチン」トス、露國ヨリ歸途ハ此州ヲスク、第六十六卷ニ出

ウエストフアーレン  
西華蓮州

七八一九、

一七七、五三七九、

日耳曼ノ舊地ナリ、四縣ヲ分チ「ミンステル」ヲ首府トス、

來因州

一〇三五二、

三五七、八九六四、

右ニ同シ、此兩州ハ佛帝拿破侖第一世侵略シ「セーロムボナバルテ」ヲ封シタル舊國地トス、來因州ハ、六縣ヲ分チ、首府ヲ「エブレノツ」ト云、普國ニテ第一ノ入口稠密ナル地タリ、棉麻ノ紡織盛ンニ、大都會多シ、荷蘭ヨリ來路ニ、此州地





テ、薩撒ノ國都ヲ經テ「スゲレイ河」ヲ并セ、旱堡<sup>ハズンブルグ</sup>ノ埠頭ヨリ海ニ入ル、長サ六百九十英里ノ長流ニテ、伯林「ドレスデン」<sup>ノ都</sup>、薩撒國旱堡ノ大都會、ミナ此流ニヨル、東方ニアリテハ「オデル河」、壤國ノ境ヨリ來リ「ウアルチヤ河」ヲ合セテ「ステッチ」ノ内海ニツ、ク、長サ五百五十英里、「シレセン」ノ大都會「ブレスロー」府、及ヒ東「フランキホルト」府等、ミナ此流ニヨル、其他極東ニハ、露國ヨリ來ル「ローチスチエ河」アリテ、兩國ノ物產ヲ漕運吐納シ、西ニハ「ウエツセル河」アリ、不來梅<sup>アレメン</sup>府ニツ、キ、又歐洲ニ著名ナル、來因河<sup>ライン</sup>ハ、南獨逸ヲ縈繞ジテ、最モ利潤ノ廣キ河ナレト、獨逸各聯邦ノ部分ニ屬スレハ、普國ノミニ掲載シ難シ、上文ニ詳言セ、ル若干ノ河道ニヨリ、更ニ溝渠ヲ開キテ、運河ヲ通ス、伯林、及ヒ「ブレスロー」ノ諸府ニ向ヒテ、有名ナル運河少カラス、内國ノ漕運ハ、ミナ天然ノ河ト、人工ノ渠ト相錯リテ、到ル處ニ利便ヲアタヘタリ、鐵路ハ一千八百七十二年マテニ、八千三百四十九英里（即千八百十六日耳曼里）ニ及ヘリ、其内日耳曼里ニテ九百九十里ハ、私社ニテ架成セル二十七線ニテ、社主自ラ執行スルモノタリ、其三百〇二里半ハ、私社ニテ架成セル三線路ニテ、政府ヨリ預リ統理スルモノ

ナリ、政府ノ築造セル線ハ十二條ニテ、皆本線ニカ、ル、總テ五百二十三里、先年「ハノーヴァル」「ヘッセン」及ヒ「ナッソウ」ヲ滅シ、其領地ノ線路ハ、ミナ政府ノ所有ニ歸セリ、當時ノ國議ニハ、全國ミナ國有トナス目的ナリト、獨逸ノ鐵道ハ、甚タ迅疾ナルヲ主トセス、「エキスプレス」ト稱スル、長程急行ノ車モ、大抵一時間ニ二十五英里ヲ走ルヲ以テ、平均トス、國人謂フ、鐵路走行ノ度ハ、此ニテ足レリ、英佛ノ車迅疾ナレ、毎車人ヲ傷ル數モ、亦小少ナリトセス、獨逸ノ如キハ、瀛車人ヲ傷ル數ハ甚タ少シト云、

○氣候ハ北ニ傾斜シタル、大野アルヲ以テ「ボルチツク海」及ヒ北海、ミナ北氷洋ヨリノ寒風ニ向ヒ、冬季永ク嚴寒ニテ、江河ニハ氷ヲ閉テ、重車ヲ其上ニ驅ルニ至ル、平地モ、亦年々三四ヶ月ハ、深雪ニ埋壓セラル、所多シ、我一行ノ伯林ニ逗留セルハ、三月中ナリシニ、著後數日ハ、頗ル餘寒ニテ、野ニ白霜ヲフミ、又深雪ニモヒアタレ、日ヲ逐フテ融和シ、春服ヲ催スニ至リシニ、又露西亞ノ北部ニ、春ヲ動カスニ際シテ、雨雪數日ニ亘リ、ヤ、温和ニ赴ケリ、冬季ノ寒ハ、如此クニ嚴ナレ、夏令ニ至レハ、其暑モ亦頗ル酷ニシテ、暑寒共ニ氣候ノ快



暢ヲ欠ク、故ニ伯林ノ地位ハ、倫敦ニ比スレハ、更ニ北ニ偏スルヲ緯一度ニ及  
ヘ、年中温度ノ平均ハ、寒ハ三度、計ニヨル百度表ノ低ク、而テ暑ハ反テヤ、高度ナリ  
ト云、南境及ヒ西南ノ山原ハ、地燥ニシテ風土美ニ、人ノ健全ニ可ナリ、往往ニ  
温泉ヲ出シ「バーデンバーテン」及ヒ「ヴィスバーデン」等ハ、歐洲ノ避暑場ニテ、  
薩撒ノ山水ノ如キハ、瑞士ニ亞スル勝地タリ、之ヲ「サッピセン」「シワイツ」ト云、雨  
水ノ量ハ、一年ニ二十一「インチ」雨天ノ數ハ、年ニ百五十二日、蘭白ノ兩國ヨ  
リハ較乾燥ノ地ニ位セリ、

○普魯士ノ全土、多クハ平野坦衍ニシテ、一望天ニ亘リ、山ヲミサル所ナレ、地  
味ハ腴ナラサルヲ覺フ、西方佛國、及ヒ白蘭ノ界ニテ、來因河兩岸ニソフタル  
地方ヲ、最モ沃饒ナル土味トス、人口モ亦從テ繁昌ナリ、總テ此國、及ヒ日耳曼  
諸邦ヲ合セテ、農業ニ名高キ國トナスナリ、今日耳曼ニカ、ルヲ除キ、普國  
ノミノ農業ヲアケントス、往々日耳曼ト混一シテ記載セルハ之ヲ除ク後編ヲ見合此ニ普國ノ其耕稼地  
ノ統計ヲ獲タレハ、左ニカ、クベシ、

### 耕田園圃

六千九百〇七萬モルゲン

牧場

二千五百二十八萬モルゲン

森林

三千百八十五萬モルゲン

濕地水田

百七十四萬モルゲン

荒蕪地

十四萬モルゲン

合計一億二千八百〇八萬「モルゲン」即佛ノ三千二百七十萬「ヘクタール」ナリ一「モルゲン」ハ七百六拾步ニ當ル一「ヘクタール」ハ三千〇十五步ニ當ル故ニ約數ニテ較スレハ四「モルゲン」ハ一「ヘク」一「ヘク」ハ我一町ナリ

日耳曼ノ農野ハ佛國北部ノ土宜ニ同シ穀物ハ從來豐年ノミ輸出スルヲ得ルノミナリシニ工業貿易ノ進歩ニ從ヒ農業モ亦進歩シ現今ニ於テハ毎歲ニ輸出ノ高多シ英國重ニ其穀ヲ輸入ス蘭白佛モ之ニ次ク其產出ノ概高ヲ「ヘクトリットル」ニテ算シ第一ハ裸麥ニテ九千四百萬「我五千六百萬石」次ハ燕麥ニテ八千萬「我四千八百萬石」小麥三千四百萬「我二千「スペル」ト云小麥一千五百萬「我九百萬石」大麥三千萬「我千八百萬石」ニテ其半ハ普魯士國ノ出產ナリ全地ニ農業會社行ハレ近年ニハ農業小學ノ設ケ盛ンニ又周遊教員アリ各地ヨリ招待サレ農事ヲ

致へ、官ヨリハ試験場、大學校ヲ處處ニタテ、此進歩ヲ促セリ、又農業ニ機械ヲ用フルモ、年年ニ増加ス、穀類ヲ粉トナスモ、往時ハ手挽ノ車ヲ用ヒタリシニ、今ハ大ナル製作場ヲ用フルニ至リ、殊ニ中部北部ニ盛ナリ、普國ノ麪包モ、頗ル稱美セラル、名品タリ、○大麻、亞麻ハ、日耳曼ノ西南部ニ多ク産ス、普國ハ第三等ニ位ス、其耕地二萬町アリ、<sup>「アルサス」「ロルレイン」</sup>州第一ニテ烟草ノ耕作モ頗ル盛ナレト、未タ詳報ヲ得ス、<sup>「ホッパ」</sup>荳稔ハ、「ハノーザル」地方ヨリ、西南ニ於テ多ク出ス、葡萄園ハ、重ニ西南來因河ノ谿谷ヨリ、南日耳曼ノ境ニソフテ最モ豐熟ス、普魯士ノ本土ハ、重ニ麥酒ヲ釀シテ飲料トスルヲ、英國ト同シ、但英國麥酒ノ如ク、氣味濃稠ナラス、淡薄ニテ芳烈ナリ、往時ハ農民家家ニ釀造シ、其品下劣ナリシニ、近代大製場ヲオコシ、器械ヲ備ヘテ釀製シ、年ニ三億餘萬「ガルロン」ニ上ル、然レ英國ノ釀造高ニ比スレハ、猶三分ノ一ナリ、葡萄ヲヲ釀スル量ハ、佛ノ一支ニアタラス、日耳曼ノ農産ニテ名高キハ、甜紅燕菁ニテ製スル沙糖ナリ、其產出ノ數、今ハ佛國、露國ニ較<sup>ヤ</sup>讓レト、此發明ヲナシタルハ、日耳曼ニテ今ヨリ百年前ニ、製作ヲハシメ、今ハ全日耳曼ニ三百二十八箇



所ノ製作場ニ萬噸ノ輸出ニ及フ山林圖森ノ利ハ近年政府ニテ厚ク注意ヲナス所ナリ○公國ノ地、平野多キカ如クナレトモ山林ハ尙共四分ノ一ニ及フ、前ノ表此内公有、私有、約相半ハス、公有山林ノ内、三分二ハ政府ニ屬シ、三分一ハ村邑ニ屬ス、皆嚴重ノ山林律アリテ、培育ヲ墾到シ、斬伐ヲ時ニス、私有山林ノ法モ、亦ヤ、整理シ、濫伐シテ眼前ノ利ヲ攫セシメス、其物産ノ價、年年ニ六千萬弗ニモ及フ、山林ハ南境「シレセ」州西方ハ「ハノーザル」以西、來因屬地及ヒ「アルサス」州來因ノ地方ニ多シ、獨逸地方ノ平地ハ、元森林ナリシニ、人口ノ増スニ從ヒ、斬伐シテ、田畑牧野ニ開拓シ、當今ニ至リテハ、其存スルモノ四分ノ一ニスキサルニ至リ、樹木ノ希少ナルヲ致シタリ、因テ近年ニハ、山林保存ノ法ヲ設ケ、斧斤時ヲ以テ入り、官ヨリ苗植繁茂ヲ務ムルヲトナレリ、○「ポルチツ」海、及ヒ北海ノ漁業ハ、殊ニ「ポールスタイン」（馬境ノ一國ナリ）ヨリ歸セシヨリ、此邊ノ地方ニ最モ盛ナリ、○總テ全國ノ人口中ニ、農業ノ民、一千百五十二萬七千口、山林ノ業ハ十二萬九千口、漁民ハ五萬三千口アリ、一千六十七年ノ統計ニカハ、ル今ハ増タルベシ

牧畜ノ業ハ、常ニ農業ト相仍ルモノニテ、獨逸ノ原野ハ、元牧畜ニ適シ、土民ノ閑習セル業アリ、國土ノ開ケ、生口ノ鳩ルモ、此業ヨリ導カレタリ、一千八百六十七年ノ統計ニ、全國ニ馬ヲ産スル二百三十一萬三千八百十七頭、驢九千〇六十頭、騾七百四十七頭アリ、中ニモ騾ハ新地ニ於テ多シ、牛七百九十九萬六千八百十八頭、英國ノ次ニオル、全獨逸ニテハ歐洲第三等ニ位ス、羊二千二百二十六萬二千〇八十七頭アリ、全日耳曼ヨリ出ス、羊毛一億八千萬磅ニ及フ、此内六分ノ四半ハ、普國ヨリ出ス高ナリ、獨逸ノ羊毛ハ、盛ンニ英佛ニ輸出シタレトモ、今ハ自國ノ紡織盛ナルニヨリ、更ニ一千三百五十萬磅ヲ外國ヨリ輸入シ、年年ニ其高ヲ増加スルトナリ、此他野羊<sup>ヤキ</sup>百三十四萬餘、豚四百八十七萬五千百十四頭アリ、肉食ノ行ハル、一モ益盛ンニ、普國一年中ニ、六箇月以下ノ牘ヲ屠ル一ヲ除キテ、屠畜ノ數ハ、千四百五十四萬八千七百六十五頭ニ及フ、

○普魯土ノ礦物ニ富ミタル一、歐陸ノ國ニテ第一等ニオル、南境「エルスヘビル」ヘ山脈（即チ薩撒山脈）ヨリ、西境「ハルエス」山脈ニ、礦業ミナ盛ナリ、西境ニ於テハ、金、銀、銅、亞鉛、白鉛、石炭、硫磺、岩鹽、及ヒ明礬ヲ藏ス、南境ニモ種種ノ金屬、寶石、

岩鹽ヲ藏ス。○一千八百七十一年ニ、石炭ノ礦、四百四十六箇所アリ、五億千九  
 百三十四萬担。「セント子ル」即チ百「アント」英ノ「ホン」其價六千〇九十一萬五千  
「ドルドウェー」ニ粗同シト知ルヘシ  
 「クレール」ヲ收メタリ、此ニ使役スル職人、十三萬千五百七十五人、此外ニ「リッ  
 ナイト」ト稱スル下等ノ石炭（我唐津石炭ヨリ以下ノモノ是ナリ）ヲ出ス、礦ハ  
 五百二十二箇所アリ、使役ノ礦夫ハ、一萬六千八百五十五人ニテ、一億三千七  
 百五十二萬五千担、其價六百九十六萬六千「ターレル」ヲ收ム、之ヲ總テ、普國ノ  
 石炭ハ、英國三分ノ一ニオリ、白國、佛國ニ比スレハ一倍半ニスク、歐陸第一ノ  
 石炭國ニテ、最モ來因州ニ多シ、其「ドッセルドルフ」縣ノ炭礦ハ、二十英里ニ亘リ、其  
 產出ハ五千年ノ久キニ及フニ足ルヘシ、西南境「サール」河傍ニ於テハ、炭脈「パ  
 イエロン」ヨリ、佛國ニ亘リ、全國ノ產額、十分ノ六ハ此ヨリ出ル、故ニ來因地方  
 ノ製作繁昌ハ、年ヲ逐テ盛ナリ、次ノ卷ヲ「ミルベシ」今ヨリ十年前マテ、產出ノ高ハ、去ル  
 七十一年ノ高ニ比スレハ、九分ノ五ニスキカリシ、其年年ニ増加スルハ、工業  
 ノ進ミヲ徵スルモノナリ、○鐵ハ千二百二十六礦アリ、二萬六千二百五十九人  
 ヲ使役シ、五千八百四十萬五千五百担ヲ出ス、其價八百四十七萬「ターレル」、佛



國ト相比較ス、近年ニ鑛鑄製造製作ノ場ヲ増加シテ、六十九年ニハ、千〇九十六箇所アリ、其產出ノ價、一億〇五百六十四萬千五百「ターレル」ヲ收メタリ、或ル統計ニヨレハ、六十七年ヨリ七十一年マテニ、鋼鐵ヲ煉成セル價五百萬、乃至八百五十萬「ターレル」、鑛鐵二千三百五十萬、乃至二千五百五十萬「ターレル」、鑄鐵千百萬、乃至千八百萬「ターレル」、煉鐵五千六百萬、乃至八千五百萬「ターレル」ナリ、製鐵ノ業盛ナルニヨリ、產出ノ高ヲ輸出スルヨリハ、輸入ノ數ハ、猶多量ニオルト云、○獨逸ノ銅ハ、露國ヨリ少ク、佛國ヨリ多シ、全量十七萬五千担ヲ煉成ス、鉛及ヒ亞鉛ハ、各國中第三等ニ位シ、鉛鑛百五十二箇所、亞鉛鑛五十九箇所アリ、使役ノ礦夫二萬七千八百人、之ヲ鑛成スル高ハ、鉛百〇六萬八千、亞鉛百七十萬八千担ナリ、其價ハ千六百八十四萬「ターレル」ニ及フ、故ニ普國ノ黃銅、及ヒ賽金粉ノ工ハ、歐地ニ有名ナリ、錫ハ白耳義ニ比ス、八千百三十四担ヲ出シ、價四十六萬七千「ターレル」ヲ收ム、普國ノ白銅ハ、高名ナル產物トナル、此他明礬ヲ出ス、價十四萬八千「ターレル」、綠礬ヲ出ス、價二十五萬四千「ターレル」、貴金ハ銀ニ富ム、一萬三千三百三十九担ヲ出シ、三百九十七萬四千「ター

レル」ヲ收ム、總テ礦金ノ利ハ、一億六千八百九十三萬四千八百「ターレル」ニテ、之ニ使役スル職人ハ、除ク十一萬七千七百八十八人アル、○製鹽ノ場三十

三箇所アリ、一千八百五十一年「スタップホルド」ニ發見セル鹽岩ハ、厚サ八百尺ニ及ヒ、去一箇年ニ高五萬噸ヲ出セリ、全國製鹽ノ高ハ四十萬噸ニ及ヒ、價二百十八萬「ターレル」ヲ收ム、又「ポタシウム」鹽ヲ出シ、肥糞ニ用ヒ、大利ヲ得タリ、鑛泉ハ「パーテンパーテン」「グイスバーテン」「アキストラチャーペル」「ホン保ベルヒ」及ヒ「セル

デルス」等ニテ、歐洲ノ游浴場タリ、全國礦業ニ從事スル民、六十三萬人、

○製作ノ業ハ、普國ト薩撒サヒセントヲ推テ、獨逸第一トス、先年「アルサス」「ロルライン」ノ

兩州ヲ、佛國ヨリ歸シ、此地方ヨリ來因州ニソフテ、製作最モ盛ナル地タリ、東南ハ伯林「アレスロー」及ヒ「マクテ堡モ、亦工業ノ地ナリ、其巧技ノ風ハ、一千七百年間ニ、佛國ヲ模倣セルニヨリ、甚タ聲價ヲ落シタレヒ、近來ハ國ノ本技ヲ輓回シ、一ノ風致ヲナシ、富麗綺縟ニテ、縝密ナルニ長ス、棉花ハ、北方不來海プロメンヨリ、亞米利加輸入ヲ仕入レ、又「アルサス」ヨリ、來因州ニ於テモ紡織ス、南境ニ於テハ、壤國「トリエスト」港ヨリ、陸地運送ニテ、薩撒「シレセン」ニ輸送スルモノナ

リ、羅紗ハ元手織ヲ用ヒタリシニ、近年ハ器械ヲ用ヒ、大ニ進歩シタリ「シレセ  
ン」「サヒセソ」ノ兩州ト來因州以西ニ盛ンニ、來因ヨリハ凡價二千五百萬「ター  
レル」ノ品ヲ賣出ス、麻、亞麻ノ紡織ハ、日耳曼ノ產、古ヨリ名アリ、然レハ此業ニ  
於テハ、各國ニテ著ク進歩ヲミスト云、「クンスドゥール」トテ、毛織ノ屑布ニ、新  
羊毛ヲ混シ、紡織スルヲ發明シ、殊ニ伯林ニ行ハル「ゴム」ノ製造ハ、年尙淺ケ  
レハ、製造高ハヤ、盛ナリ、其他各種ノ礦物ヲ製作スルノ外ニ、理學化學ノ術  
ヨリ、美術ニカ、ル物品多シ、伯林、及ヒ「マイッセン」薩撒ノ陶器、及ヒ「シレセン」名郡  
ノ玻璃ハ、烈火ニタヘルヲ、歐洲各地ミナ及フ能ハサル名品ナリ、礦物植物ヲ  
化シテ、顏料ヲ製スル妙ヲ得タリ、石炭「テール」ヨリ「アニリン」ヲ製シ、賽金粉ハ、  
黃銅青錫ノ和、或ハ硫化錫ヨリ製ス、植物ヨリ製スル染色料ハ、此國ノ空氣之  
ニ適シ、出產夥多シク、南歐羅巴ニハ、重ニ輸出ス、一千八百七十一年ニ洋藍二  
萬五千担「セント子」、下同シ、洋紅六千担、他ノ諸顏料七萬担ヲ製出セリ、然レハ其製造  
方法ハ、未タ英佛ニハ及ハスト云、

草藍ハ、東印度「シャワマニラ」、瓜哇、馬尼刺「呂宋」及ヒ「サンシバル」ノ產物ニテ「コーセニール」



ハ、洋紅ノ原料ニテ、又瓜哇馬尼刺<sup>ジャワマニサ</sup>ノ產物ナリ、南亞墨利加、西印度ニモ、亦洋地ヲ歷、西洋紡織ノ盛ナルニ從ヒ、染料ヲ需用スルヲモ、年年ニ盛ナリ、其原料ハ、内地ニモ耕種スレ<sup>ニ</sup>、良好ノ品ハ、陽光回射ノ烈ナル地ニ生スルモノナリ、磁油ノ如キモ、亦獨逸ノ名產ニテ、是ハ礦物ヨリ化製ス、

如此クニ、化學術ノ產物ニ精ヲ用ヒ、并セテ金銀珠玉ノ翫具、器粧ヲ細工シ、抄<sup>カミ</sup>紙<sup>スキカワナメシ</sup>、硝革<sup>ツクリハナ</sup>、染布<sup>レンクラ</sup>、剪綵花、火磚ヲ製スル、ミナ名產タリ、一箇年ニ、硫酸一億七千五百萬磅<sup>ポンド</sup>、曹達類<sup>ソード</sup>、重炭酸<sup>ボンド</sup>、硫酸<sup>ソード</sup>及ヒ<sup>カウスチツク</sup>等、二億萬磅<sup>ポンド</sup>、漂白粉<sup>サラシゴ</sup>、<sup>キ</sup>「コロールカル」類ナリ、百二十萬磅ヲ製スルニ至ル、是ニテモ其盛ヲ察スヘシ、○軍用ノ器械ハ、第一ニ、近年世界ニ高名ナル「クロツプ氏カ」エッセン府ニ製スル大小砲ハ、其銳利ナルヲ、他國ミナ逡巡ス、小品ノ細工ハ、海石ヲ煉リテ、烟斗泥ノ烟管ヲ製シ、木ヲ彫彫シテ時辰儀ヲ製シ、麥ヲ編シテ、帽ヲ製シ、帛ヲ剪テ花ヲ製ス、近年ニ發明シタル、藥水ヲ以テ、生花ヲ乾藏シテ、色光ヲ失ハシメサルハ、其妙技ニ屬ス、去ル七十一年己ニ巴黎ニ克テ、兵氣ノ揚揚タルノミナラス、工藝ノ術モ、佛國ヲ日下ニ見ル意思アリ、佛ノ技倆ハ輕シ易カラサレ<sup>ニ</sup>、是ミナ方今其盛ヲ致シタル、證候ト

ナヘ本年於國ノ展覽會ニ於テ、全國ノ工産ヲ列品セルヲ甚ク夥多シ、其公  
布ニイフ、本邦近年不幸ニシテ、鄰國ニ隙ヲ生シ、屢凶器ヲ動カセルヲ以テ、世  
ニ我邦人民ノ務メル所ハ、兵力ヲ生トスルト謂フモノ、如シ、我國ノ趣意ハ  
豊ニ此ニアラシヤ、文武兩輪、偏廢スヘカラス、武ヲ講シテ國威ヲ保チ、文ヲ崇  
シテ國歩ヲス、ム、ミナ我輩ノ注意スル所ナリ、十年以來、國內ノ人民、製作貿  
易ニ心ヲ用ヒタルノ積成ハ、此場ノ陳列スル所ニ於テ、公然ト世ニ信セラル  
、所アラント、一千八百六十七年ノ統計ニ、全國ノ職工五百四十三萬八千二  
百四十三人アリ、是全國生口ノ五分一ニアタルモノナリ、

○普國ノ貿易ハ、一千七百七十年以後ノ近況ハ、日耳曼全國ノ景況ニ混同スル  
ヲ以テ、分別シ説クヲ難ケレト、日耳曼貿易ノ過半ハ、此國ニカ、ルト知ルヘ  
シ、重ニ陸路貿易ヲナシテ、境、露、佛ト相通ス、海上ノ貿易モ、英、佛、及ヒ蘭ニ次テ、  
此國ヲ最トスベシ、旱堡、不來梅、共ニ日耳曼ノ獨立都府ナリヨリ、米洲ヘノ郵船ヲ仕出シ、日  
耳曼ノ移民ヲ送り、并セテ荷物ヲ輸出シ、製作元品ヲ輸入スルハ、重ニ普國民  
ノ所業ニカ、ルト、「ボルチツ」海ニヨリ、露、瑞、那、噠ト貿易スルハ、過半普國人ナリ、

中ニモ露國ノ始メテ興ルニアタリ「ポールスタイン家ノ姻婭ニヨリ、後露國  
 ニ詳ナリ甚タ彼國ニ權力ヲ生シ、露都ノ士商ニハ、口耳愛人多ク、其籍ヲ移ス己  
 ニ三世ナルモ、涇渭ノ清濁判然タリ、富商大店ハミナ其會社ニアラサルハナ  
 シ、南方ニ於テハ「エルス」ノ山ヲ分ツテ、<sup>ホベミヤ</sup>波希米「モラヒヤ」、獨逸ノ薩撒（巴威  
 里ト、普ノ「シレセン」ハ、互ニ繁昌ヲ競ヒ、而テ細弗兩洲ヨリ、元品ヲアトリヤチ  
 シ海ヨリ、<sup>トリエスト</sup>港ヲ經テ輸送ス、北海ニ於テハ、各港ヲ經テ、米洲ノ  
 產物輸入ス、歐洲中原ニ位シ、貴族大姓多ク、物品ノ消費多ケレハ、歐洲ノ全貿  
 易ニ於テ、甚タ緊要ナル國タリ、○一千八百六十七年、普國人民ノ職業表ヲミ  
 ルニ、商賈八十三萬○四百九十八人、會社ノ差配人十四萬七千四百四十人アリ、  
 會社ノ株金十五億六千七百七十七萬六千「ターラー」、銀行ノ資本一億二千○八  
 十八萬「ターラー」、紙幣爲替券ノ流布ハ一億九千九百八十九萬「ターラー」、銀行  
 十一年ノ統計又七十年ニ普國ニ出入セル、船舶ヲ算スル數四萬三百十七艘、其噸數  
 百六十七萬四千七百○九「ラスト」<sup>十二噸</sup>、出港ノ船ハ、三萬八千七百九十六艘、噸  
 數百四十二萬二千六百六十三「ラスト」ナリ、其内荷船ノミヲ擧レハ、出港ノ數



ハ却テ入港ヨリ多シト云、貿易ノ高ハ全日耳曼ニカ、ル統計ノ外ハ近年ノ報告ヲシルニ由ナシ、

○普國ノ人民七分ノ九ハ獨逸人種ニテ、稟性愿慤、事ニ澁鈍ナレトモ、勤苦シテ事業ニ堪ヘ、孜孜トシテ倦マス、活潑ノ氣象ナケレトモ、繩墨ヲ守リ、順序ニ從ヒテ、粗漏ノ失ナシ、高地ノ民ハ、語音ヤ、柔カナリ、其稟質モ亦ヤ、清輕ナリ、日耳曼全地中ニ於テ、普魯士ハ、濕地ニ際シテ、地味尤モ惡ク、民ノ生業ニ刻苦スルヲ以テ、日耳曼ノ良質ヲ研シ得テ、文武共ニ進ム、其能ク順序ニ從ヒテ、刻苦スルノ性ヨリ出テ、文學ニ精研シテ、餘蘊ヲ闡發シ、沈潛反覆倦マス、故ニ普魯士ノ文學、碩儒達識ノ輩出スルヲ、歐洲ニ冠タリ、其能繩墨ヲ守リテ、勉勵スルノ性ヨリ出テ、武技ヲ鍛練シ、兵ニ節度アリ、能ク難ニタヘ、戰ヒニ勇ニ、勝敗ニ色ヲ變スルナク、以テ威力ヲ伸ヘテ、今歐洲ニ勇名ヲ轟カセリ、其異種ノ民ハ、波蘭人種アリ、東北波森州ヨリ「シレセン」東普ノ地ニ雜處スルモノ、二百三十萬餘ニ及フ、北方ニ「ダニース」人十四五萬アリ、其他「ツェン」「ウエンデン」等六種ノ民アレトモ、此ニ似タル些少ノ數ニテ、填國ノ各州異族相雜ルカ如クナラス、是ニ

ヨリ政治上ニ於テ、大ニ障害ヲ免レタリ、

○教育ハ、歐洲中ニテ最上等ニ位ス、政府ノ特ニ心ヲ致ス所ニテ、各郡邑ノ人民、必ス租税ヲ以テ扶助シ、小學校ヲ立テ、地方ノ官吏ハ、必ス學校維持ノ務ヲ兼管セザルヲ得ス、父母タルモノハ、必ス其子ヲ學校ニ出サ、ルヲ得ス、政府歳入ノ百分ノ二ヲ費シテ、貧窶ノ幼童ヲシテ、公費ニヨリテ上校シ、教育ヲ受ケシム、村邑學校ノ謝金ハ、一週ニ一「ゴロセン」、都府ハ十「ゴロセン」ヲイル、國內學年ノ人員六分ノ一ハ、不斷學校ニアリ、而テ全國ニ文字ヲ寫ス能ハサルモノ甚タ稀ナリ、千八百七十年ニ、全國小學校ノ數、二萬五千四百八十箇所、三萬千〇五十三人ノ教師ニテ、二百九十八萬五千八百七十八人ノ童男女ヲ教ユ、是ヨリ上等ノ學校ニ至テハ、前文ノ如キ嚴法ヲ設ケテ迫ルヲナシ、中學校ノ數、一千八百六十四年ニ、五百八箇所、教員一千七百九十七人ニテ、生徒九万八百九十九人ナリ、其他技術學校、羅甸語學校等、尙三百〇二箇所アリ、教員二千八百七十二人ニテ、生徒五萬五千七百八人アリ、大學校ハ全國ニスベテ十箇所アリ、其地ハ伯林「ボーン」「プレスロウ」「グライフスウワルテ」「ケーニングス堡」「ミンス

タル「キール」「ゲツチンゲン」「マルボルヒ」等ニテ、博士一千百五十四人、生徒一萬三千九百二十人、一千八百七十年

教門ハ「プロテスタント」宗即チ「ルーザー」教ヲ以テ國教トス、全國三分ノ二ハ此信徒タリ、其十分ノ一ハ、羅馬カドレイキ教ヲ奉ス、其他猶太教三十一萬五千、希臘カドレイキ「其他諸宗モ、些少ノ人員アレヒ、一一ニ録スルニ足ラス、一般ノ民風、宗教ヲ篤信スルヲ、米英人ノ如クナラス、學者多ク羅馬教會ノ弊ニコリ、往往ニ之ヲ論シ「モラルヒロソヒ」ヲ以テ、風教ヲ維持スルノ說アリ、婦人モ禮拜日ニ寺ニ詣リ、說教ヲキクニ怠ルモノ多キニ至ル、近年政府ト、羅馬法王トノ間ニ、不和ヲ生シ、是カタメニ大ニ國安ヲ動搖サレ、現今ニモ其紛紜未タ已マス、○此他ノ風俗モ、英米トハ甚タ異ナル所モ多キ中ニ、婦人ヲ尊フ儀甚タ簡ナリ、伯林ニテハ婦人ト雖モ、亦米英ノ人カ、婦人ニ卑屈スルヲ笑ヒテ、奇俗トスルニ至ル、總テ歐洲大陸ノ地方ニ至レハ、其風俗毎ニ米英ニ異ナル、此ニ類スルヲ多シ、

○日耳曼ノ貨幣ハ、各國一ナラス、亦新古各異ナリ、普魯士ハ「ターラー」ヲ用フ、約



英ノ三「シルリン」ニ比シ、稍輕シ、其三十分ノ一ヲ一「コロセン」トス、十「コロセン」ニテ英ノ一「シルリンク」ニ比ス、近來改革シ、其十「コロセン」ヲ以テ一「マーク」トシ、二十「マーク」ノ金錢ヲ鑄ル、以テ英ノ一磅ニ比スレ、實ハ二十「マーク」ニ分ノ一ニテ、一磅ニ交換スル價格ニスギサレ、坊間些少ノ賣買ニハ、直ニ一磅ニ較シテ收納スルモノアリ、紙幣ノ價ハ、本貨ト差異アルナシ、

尺度ハ、去一千八百七十一年、第四月二十一日ノ布令ニテ、日耳曼聯邦、ミナ佛ノ自然尺法ヲ用フルニ一定シテ、今ハ全國此ニ準用スヘキ法ヲ協定シタレ、其發令ヨリ日尙淺シ、舊來沿用ノ度ニヨルモノ尙多シ、舊普國ノ一「エル」ハ、佛ノ一「メートル」四九九九四ニテ、英ノ三「フィート」一八六二ニアタル、普ノ里法一「マイル」ハ、佛ノ七千五百「メートル」ニテ、英ノ四「マイル」五弱ニ當ル、斤量ノ一「ポント」ハ、佛ノ半「キログラム」ニテ、英ノ一「ポント」ニニアタル、

三月七日 陰

此日荷蘭ヲ發スヘキヲ、電信ヲ以テ、日耳曼ノ公使館ヘ報シタレハ、日耳曼帝ヨリ、宮内省ノ官屬「カンスケ氏」ニ命シ、迎接トシテ、昨日海牙府ニ至レリ、因テ瀛車ヲ共ニシテ、海牙ヲ發ス、事ハ前記ニ詳カナリ、日耳曼ノ境「ベンゼム」驛ニ至レハ、接伴トシテ「コロネル、ライト氏」同「ローテルサン氏」及ヒ元日本領事官「キニフル氏」ミナ盛服ニテ驛舍ニアリテ待ツ、此ニテ車ヲ下リ、款接ヲナシ、共ニ發車ニ上リテ發ス、驛傍ノ人民、ミナ蟻群シテ見物セリ、

○此ヨリ進行ノ地ヲ西華蓮州<sup>ウエストフアーレン</sup>ノ境トス、此邊ノ地形ハ、大抵平衍ニテ、只漫坡ノ起伏スルアルノミ、野ニハ麥ヲ種エ、畔ニハ樹ヲ植エ、時ニ叢林ヲ錯ユ、廣葉林アリ、針葉林モアリ、

獨逸山林學家ノ言ニ、土地ヲスギ、針葉樹林ノ森蔚タルヲミレハ、其地ノ官有ナルヲ知ルベシト、針葉樹トハ、松、檜ノ屬、葉形針ノ如ク尖リ、萌蘗力ナク、

年輪ノ著シキ樹ヲ總稱ス、歐洲近年、山林ノ繁殖ニ注意ヲ生シ、山林法律ヲ  
 タテ、保存斬伐ノ節度ヲナス、耕種ニ適セサル瘠地沙壤ニハ、樹木ヲ種付  
 ルヲ務ム、已ニ五十一卷ニ記ス、此邊ノ地方ニ、松林ノ森森タルハ皆是ナリ、私有地  
 ニモ、亦山林法律ヲ及ホセ、較簡ナリ、此邊ノ原野ヲスキルニ、廣葉樹ノ林  
 アルハ、大半私有地ニ係ル、廣葉樹トハ所謂ル夏木類ニテ、此種ノ樹ハ、萌蘖  
 カノ強キヲ以テ地主ヨリ種附テ、中林、矮林ヲ作ル、中林トハ本幹ヲ存スル  
 七八尺ニテ、年年ニ其枝ヲ芟取テ、薪材トナシ、本幹ノ長大ナルキニ并セテ  
 之ヲ斬伐シ、種換ルナリ、此材ヲ以テ百般需用ノ材トスルヲ、日本ノ材木ニ  
 同シ、佛白ヨリ獨逸ノ野ヲスキルニ、田圃ノ境及ヒ路傍ニ、此種ノ行樹及ヒ  
 林地ヲミルヲ甚タ多シ、後露國ニ赴クニハ、其枝ヲ芟取テ、本幹ノ兀立セ  
 ルヲミル、森林ハ、全野ニ廣葉樹ヲウエ、時ヲ以テ斬洗シ、打ヲナシタルヲ斬  
 伐シ、萌蘖ヲ養ヒ、或ハ種換ルモノナリ、矮林トハ、根ヲ存スル二三尺ノ株ト  
 ナシ、年年ノ萌蘖枝ヲ、樹頭ヨリ斬去リ、又翌年ノ萌蘖ヲ生セシムルモノナ  
 リ、日本ノ楊、株桑株ノ如シ、又歐洲ノ街路ニ、多ク白楊ヲウユ、是ハ矮林ニ非



ス其幹ハ後ニ諸木工ニ供ス、劈割力多ケレハナリ、英國ノ野ニ樹林少ナシ、民多ク石炭ヲ焚材トナシテ、村僻ニ達ス、佛國ヨリ以後ハ、樹林多シ、野村ノ焚材ハ、多ク其枝ヲ用フ、巴黎ノ都ニモ、半ハ薪材ヲ燒ク、獨逸ハ殊ニ山林多ク、中國ニテ、山林ノ法律モ、亦注意甚タ厚シト云、

普國此邊ノ領地モ、亦上壤トハ覺ヘス、往往ニ荒蕪地アリ、又沙多キ坡地、野地ニハ、松苗ヲ養ヒ、針葉林ヲ作ル、松ハミナ直幹ニテ、叢枝ヲ生ス、日本ノ杉樹ノ如ク、圓錐形ヲナス種ナリ、龍鱗蟠屈ノ松ヲミルヲナシ、歐洲全地ミナ然リ、田野ニハ、大抵ミナ麥ヲ播種セリ、歐洲ノ北部ニ於テ、十月ヨリ十一月初メマテニ、麥ヲ播キ、翌年ノ七八月ニ至テ熟成ス、一周年ノ作物ナリ、當時農業ノ較其歩ヲ進メシニヨリ、輪種ノ法ヲ發明セリ、輪種トハ、年年ニ作物ヲカエルヲニテ、例ヘハ、初年ニ小麥ヲウエ、次年ニ有莢類ヲウエ、豌豆蠶豆三年ニ牧草ヲウエ、之ヲ艾取タル餘ヲ燒キ、四年ニ甜菜、若クハ馬鈴薯ヲウエ、五年目ニ大麥ヲウエルカ如シ、農家ハ、牧畜ト耕作トノ兩業ヲ兼テ計算ヲタツルヲ普通トス、其耕作ノ肥糞ハ、牧畜ノ藉艸ヲ堆シ、堆糞ヲ製シテ用フ、其田地廣ク、堆糞ニテ不足

ナルハ、肥糞ヲ買入ル、骨粉、及ヒ雀糞<sup>ツァン</sup>ノ類、種種ノ製造糞ヲ販ク家アリ、近年獨逸ニテハ、磷酸石灰ノ礦ヲ發見シ、大ニ農業ノ利益ヲ與ヘタリ、此糞商ニハ、種種ノ姦詐行ハル、モノナルヲ以テ、農業會社ニ於テ、肥糞檢査ノ仕組ヲナシ、地方官モ之ニ權ヲアタヘテ、其弊害ヲ防クト、是村邑ノ政治、經濟ノ目的ニ於テ、甚タ緊要ナル務メノ一タリ、○此邊ニテ麥ヲ耕種スルハ、皆田中ニ畝蒔<sup>ウチマキ</sup>ニス、米利堅ノ農、廣キ田野ニ撒蒔スルカ如キ、龜ナル耕法ニハアラス、農丁ノ野ヲ鋤スルハ、鋤犁ヲ兩馬ニ服ス、英國ト同シ、歐洲ノ農ハ、必ス耕牧ヲ兼ヌ、力作ノ業ハ、馬力ヲ以テ營業ヲ助ケテ、其糞培ヲ収ム、是西洋ノ通法ナレトモ、東洋ノ人ニハ提醒ヲ煩ハサ、ルヲ得ス、又大陸地ノ土壤ハ、概シテ軟鬆ナリ、日本關八州ノ野ニ類ス、其瘠薄ナルハ、小石ヲ雜ユ、日本沿海岸ノ如キ植土ナシ、是歐洲中央野ノ概形ナリ、故ニ肥糞ヲ用フ分量ハ、概シテ日本ニ六七倍セリ、○南走スルハ約二時間ニシテ、一ノ都會ヲスシ、驛標ニ「ミンスター」ノ字ヲトム、是路ヲ迂シテ、西華連州<sup>ウエスファレン</sup>ノ中央ヲ經過セルヲ知ルナリ、「ミンスター」府ハ、州ノ首府ニテ、人口二萬六千、「エムス河濱」ニヨリ、西方來因河<sup>ライン</sup>ノ運漕ニツヘル、昔時

日耳曼新舊教ノ大爭亂ニテ、多年慘血ヲ流セシ後ニ、各邦此府ニ會シテ、兩黨  
ノ和議ヲ協セリ、歷史上ニ高名ナル地ナリ。○是ヨリ路線ヲカエテ、來因州ノ  
東境ヲ走ル、來因州ハ普國西方ノ所領地中ニ於テ、最モ繁昌ナル大州ナリ、其  
廣サ殆ト白耳義一國ニ比スヘシ、其人口三百五十八萬ニ及フ、昔拿破侖一世、  
此州、及ヒ西華蓮<sup>ウエスハーレン</sup>ヲ合セテ、一國ヲナシ、已ノ兄弟ヲ封セシ美地ナリ、其西南ハ、  
去年佛國ヨリ還シタル、アルサス<sup>アルザス</sup>「ロル」來因ノ二州ニテ、幅員ハ來因州ヨリヤ  
、大ナリ、其民口ハ合セテ六百三十萬アリ、此新地ハ、別ニ一ノ獨立地トナシ  
テ、南方日耳曼ノ一ニオク、此邊ハ、獨佛ノ爭フ、繁昌ノ衝ナル「フ」察スヘシ、來  
因州ハ、土地ノ豐沃ナルノミナラス、又石炭ニ富ム、西方來因ノ河濱ニ於テ「トッ  
セルドルフ」縣ハ、石炭ノ名所ニテ、物産製造ノ地ナリ、又漕舟ノ要衝ニ位シ、貿  
易盛ノニ行ハル、百三十萬ノ人口ハ、此縣内ニ集リ「トッセルドルフ」府ノ人口六  
萬三千アリ、來因ノ貿易ニ要衝ヲシム、其上流ニ於テ「ゲルン」府ハ、鐵路四達ノ  
衝ニテ、佛、白、蘭ヨリ、伯林ヘノ往來、日夜絶ヘス、人口十二萬九千ノ大都會ヲナ  
シ、土產ハ香水ニ名アリ、ミナ「エッセン」府ト、距離甚タ遠カラスト云、其東ニ於テ



ハ「アルベルフェルト府」及ヒ「ハルメン府」共ニ人口六萬五千ノ都會ニテ、棉麻ノ紡織及ヒ染色ノ業ニ精ナリ、普國ノ漫識特府ト稱ス、故ニ「ミンスター驛」ヨリ、西ニ駛行スレハ、鐵路ノ驛站ニ、石炭ヲ堆積シ、荷車累累トシテ、鐵軌ノ淤線ニ連リ、處々ニ黒烟ノ突上ヨリ、蒸起スルヲミル、此邊ニ一週ヲト、メテ、回覽ヲナサハ、普國製造ノ盛ナルヲ實檢シ、益ヲ得ルヲ多カルベシ、○午後五時半ニ、「エッセン府」ニ達ス、此府ハ高名ナル「クロッフ砲」ヲ製造スル地ナリ、「クロッフ氏ヨリ、馬車ヲ以テ迎へ、殆ト一英里ヲ走リ、「エッセン府」ノ同氏製造場中ノ客館ニ宿セシム、書記官數名ヘハ、別ニ市中ノ「エッセン、ホテル」ニ宿セシメ、會社ヨリ接伴シテ、百般皆「クロップ氏」ヨリノ饗應ナリ、

來因州ノ西南、新ニ佛ヨリ取タル兩州ノ地ハ、亦繁昌ノ地ニテ、「メッツ」スタス堡ヲ首トシテ、都會ノ地多ク、製作貿易共ニ盛ナリ、「スタラス堡」ノ紡織ハ、歐洲ニ高名ナリ、麻、亞麻ヲ產スルヲ殆ト全獨逸ノ半ニオル、此邊ノ諸都府ハ、陸地貿易ニ管係シ、海上ノ貿易ハ、不來梅<sup>ブレメン</sup>及ヒ蘭白ノ諸港ニアリ、兩國ノ繁昌スル所以モ、亦此ニヨル、來因河流ニヨリ漕運ノ利アリ、并セテ佛、蘭、白

日耳曼来因河ノ景



西並魯士哥羅尼府







ト互ニ交通スル衝要ノ地タリ、歐洲濱海ノ埠頭ヲ越ヘ、内地ノ陸路貿易ニ注意ヲナスモノハ、最モ記憶セサルベカラサル都會ナリ、此ヨリ來因河ヲ遡レハ、山水秀美ニテ、葡萄ヲ産シ、森林多ク、獨逸ニ遊フモノ、喜ンテ路ヲトル所ナリト云、

## 八日 快晴

「エッセン」邑ハ普國西部來因州ノ一都會ニテ、來因河ニ近キ地ニアリ、北緯五十二度二十八分、東經七度十分ノ地ニ位ス、人口ハ五萬一千五百二十六人アリ、此地ニ石炭及ヒ鐵ヲ出ス、「アルブレット」シロップ氏、因テ銃砲製造ノ業ヲ創メ、此ニ大製鐵場ヲ起シ、近十年來、頻リニ盛大ヲ致シテ、世界無雙ノ大作場トナレリ、英國ニ製鐵ノ業盛ナリト雖モ、之ニ及フ大場ナシ、府中ノ市店ハ、甚タ寥々ナレトモ、職工、居、三千軒ニ及フ、皆、シロップ氏ノ建タル家ナリ、生意淡泊ナル賤民多キヲ以テ、繁華ニ乏シキナリ、朝餐ノ後ニ、其場ヲ回覽ス、

當場ヲ創起セシマハ、一千八百四十八年以來ナリ、今ハ四百町ノ區域ヲ占メ、一場ニテハ、砲ヲ鑄造シ、又一場ニテハ、小銃ヲ製スルトナリ、兩場ニ總テ職人

ヲイル、日ニ二萬人ノ内ニ、此場ニハ一萬二千人ヲイル、凡製作場ニ、萬人以上ノ傭夫ヲ役スルニハ、是ヲ衛スル邏卒ナカルベカラストテ、太政府ノ特許ヲ受ケテ、場内ニ邏卒ヲ設ケタリ、此場ニテハ、重ニ大砲、砲車、砲床、砲丸、及ヒ鐵軌ヲ製ス、別一場ニテハ、銃及ヒ劍ヲ製スルトナリ、○場内ノ一廂ニ、七噸入ノ「ベシマ」法鼓風罐六對ヲ仕掛ケテ、不斷ニ熟鐵ヲ熔成ス、其中央ナル地上ニ、鑒型アリ「スチーンプレイ」ヲ以テ、熔鐵ヲ運搬ス、鼓風罐ノ傍ニハ、蒸氣ノ管ヲ回シ、其力ニテ罐ヲ乍チ擡ケ乍チ横ヘ、罐内ノ鐵ヲ搖動シテ、空氣ヲ受ケル坐ヲカヘシム、如此クナレハ、鐵ト炭酸ト分離ニ宜シトナシ、此搖動スル仕掛ハ、他ノ「ベシマ」法ヲミタル場場ニテ、皆ナキ仕掛ナリ、○鐵軌ヲ展ヘテ、冶成スル場合モ數字アリ、第一字ニテハ、八稜角ノ棒ニ鍛ス、是ニ用ヒル蒸氣輪一ツニ蒸氣一千馬力ヲ加ヘ、巨輪ノ經一丈五尺ニ及フヲ振回シ、大ナル「ローレンマシイ子」ヲ轉シテ、其際ニテ輾軌シナス、第二字ニテ、再ヒ同力ノ蒸氣輪ヲ設ケ、「ローレン」ヲ轉シ、前ノ八稜角ヲ展ヘテ鐵軌トナス、二十四時間ニ、一千條ヲ鍛ヒ出ストイフ、其壯大ナルヲ己ニ人ヲ驚カセリ、○次ニ大砲ヲ鍛鑄スル場ニ

至ル、此ニ五十噸ノ「ハマー」ヲ仕掛タリ、即チ八百人ノ力ヲ集メテ、僅ニ扛ケルヘキモノナリ、其長サ十尺、是ヲ擡ケテ鐵砧ニ壓下シ、砲身ヲ鍛フ、其蒸氣ノ力ハ八百噸ヲ具スルト云、英國以來「ハマー」ヲミル、其最大ナルハ三十噸ニ至ル、己ニ哀然タル尤物ニテ、一大場舎ヲ專ラニス、今此場ノ「ハマー」ノ大ニ比スレハ、猶兒孫ノミ、此日二百磅ノ砲ヲ鍛鑄セリ、大砲ノ身始メテ模型ヨリ脱セルヲ、大火鑪内ニテ熔シ、全質ミナ紅炎ヲ吐ク輪車ノ仕掛ニテ持來リテ、鐵砧上ニオキ、之ヲ展轉シテ槌ヲ受ク、職人五六人ヲ勞スルノミ、製鐵場ニ「ハマー」ノ大ナル、此場ト同シキモノハ、露西亞ニアルノミ、○此他「ハマー」ノ槌二十五噸、二十噸、十五噸、處處ノ場宇中ニ仕掛ケ、以テ車臺、野戰砲臺、其他ノ輪軸、諸器械ヲ槌シ成ス、大小ノ烟竈、參差トシテ、場屋ノ上ヨリ秀テ、其最大ナルハ、其基ノ方面三十尺、高サ百四十尺ニ及フアリ、又蒸氣ヲ噴出スルアリ、白氣黒烟、亂レテ空中ヲ攪亂シ、滾滾トシテ上朝ス、場内廣大ニテ、廨舎ヲ縱横ニ立居ヘ、三日ノ間ヲ費スニ非レハ、其全局ヲ盡スニ足ラス、只一般ヲミテ回レルノミ、○場中廨舎ノ間ニ一小合アリ、矮壁ニ數窓ヲ開キ、其狀ハ都府ノ邊鄙ナル街ノ民



家ニ似タリ、是ハ「クロップ」氏ノ舊宅ニテ、此屋ニ出生ナセリ、其業ノ盛ナルニ及ヒテモ、舊ノ如クニ改造シテ、懷舊ノ跡ヲ留メタル所ナリ、「クロップ」氏四十年前マテハ、家ニ蓄財ナシ、鐵冶ヲ業トシテ、六人ノ職人ヲイレ、鐵器ヲ鍛鑄シ、自ラ是ヲ沽賣シ、時ニハ英國ニ赴キ、生理ヲナセルヲ數十年ナリシカ、其間ニ種種ノ工夫經驗ヲ極メ、遂ニ自力ヲ以テ其場ヲ設ケ二十五年間ニ此盛ニ至レリ、場ノ工作入費ヲ年年ニ償ヒテ、其餘ヲ會計スルニ、百萬弗ツ、ヲ贏ストナシ、○是ヨリ砲彈ヲ製シ、野戰車ヲ製スル場ニ上ル、屋造三層ニテ、上層ニハ砲彈ヲ製ス、其頭ヲ鋼ニシテ、其身ヲ鉛ニス、近年ハ專ラ是ヲ主用スルトナリ、次層ニハ砲車ヲ製ス、木製ノ車床ハ、重クシテ折レ易シ、因テ鋼ヲ以テ之ニカヘ、其中ヲ空クシテ合鍛シ成ス、輕クシテ堅剛ナリト云、其他野戰用、砲臺用、種種ノ製アリ、一ナラス、○別一大屋中ニテハ、砲身ヲ削リ、鑿砥シテ成就スル所ナリ、砲ヲ鑄シ且孔ヲ穿ツ場ヲミス、孔徑八寸ノ砲、百番以上ニ及ヒ、更ニ小ナルモノハ四百六十番ニ及フ、維納ノ博覽會ニ送ル大砲ヲ、己ニ成就シタルヲ示セリ、其砲ハ孔徑十二寸、彈ノ重量一千磅、擲發ニテ八百磅、長サ二十尺、全砲ノ重サ三千噸、其價

四萬五千「ターラー」即チ三萬二千弗ナリ、○夫ヨリ砲ノ打試ヲナス場ニ至ル、此ハ岡坡ヲ截リテ、其側面ヲ射架ニカヘ、隴斷ヲ曲折シ、土中ニ洞道ヲ作リテ、往來スベカラシメ、電線ヲ施シテ、點火ノ用ニ供ス、此日孔經八寸ノ砲ニ、十七「キロカラム」ノ火藥ヲ以テ裝填ヲナシ、衆皆洞ヲ出テ躲避シ、電線ヲ掣シテ點火ヲナシタレハ、一發地ニ震ヘリ、即チ入テ之ヲ查驗ナスニ、砲發ノ力猛烈ナリト雖モ、大地ノ厚サヲ以テ、是ヲ屏障シタレハ、人物ヲ破傷スルノ患ヒアルナシ、其後野戰砲ノ早打ヲナシ示セリ、一分時ニスヘテ九發ス、

午食ノ後ニ、鑄砲場ニ至ル、幅約百尺ノ場屋ヲ、縱橫十字形ニ建テ、其中ノ地中ニ、火鑪ヲ設ケ、口ヲ開ク二百アリ、コレニ千二百ノ「クルシブル壺」己ニ第三十六卷ニ出ヲ容レテ、鋼鐵ヲ熔シ、九百人ノ職夫ヲイレ、一齊ニ鑪口ヲ開キテ、壺ヲ手車ニテ持來リテ、直ニ型中ニ鑄シイル、英國ニテ別大鍋ニ鐵花噴飛シ、全場爲メニ紅ヒナリ、此場ニモ又「クルシブル」ヲ製スル場合アリ、器械ニテ盛ソニ製シ出ス、一タヒ用フレハ、弁ルト云、其形ハ八稜角ナリ、英國ノ圓形ナルニ同シカラス、

普魯士國連年武功ヲ耀カセシハ「フレデルヒ第二世」ノ政略ヲ繼承シ名相「ビスマルク氏」名將「モルトケ氏」等ヲ登用シ君臣協和シ神算妙機ヲ運セルニヨル「固リ論ヲ待ス其三兵ヲ精練シ之ニ猛銳無比ノ器械ヲ鍛練精製シ與ヘタルハ此製作人「クロップ氏」非常ノ巧術ニヨル西普魯士ノ鄙ニ二萬ニ餘ル職工ヲ使役シ一ノ闇熱場ヲ開クニ至リシハ普國ノ武名ト共ニ不朽ナルベシ普國ニ於テ一千八百六十六年、塙國ノ戰ニ先タチ步兵用ノ小銃ヲ「ニードルゴソ」(即チ針打銃)ニ改革シ此銃ヲ以テ大ニ塙國ヲ敗リシヨリ歐洲各國ニ後裝式ノ銃ヲ用フルトナリ英國ニ於テハ「スナイドル銃」ヲ製シ佛國ニ於テハ「シヤスポウ銃」ヲ製シタリ然ルニ去ル七十年普佛ノ戰ニテハ佛國「シヤスポウ銃」ノ射力ハ針打銃ニマサリ千歩ノ外マテモ猶佛ノ銃兵ニ近寄ル「能ハサリシ」是ニ因テ普國ニハ「マウセル銃」ヲ發明シ并セテ針打製ヲ改製シ新製ヲ常備兵ニ與ヘ改製ヲ護國常備軍ニ與フル「ニ決セリ」大砲ハ「クロップ氏」ノ新式甚タ精良ニテ方今其右ニ出ルモノナシ「クロップ氏」ノ鋼鐵ヲ練成スルニハ西班牙ヨリ一種ノ鐵ヲ掘出シ之ヲ參和ス



ルニヨリ、其質堅剛粘韌ニテ、無雙ノ砲材ヲナス、他ノ諸國ノ及フ能ハサル所ナリ、佛國モ敗北後ヨリ、大砲ノ製造ニ注意ヲ加ヘ、亦自國ノ製造場ニ於テ「クロップ」形ノ鋼砲ヲ製造スルトナリ、然レハ鋼製砲ハ、工ヲ費シ速成ニ難キヲ以テ、即今ニ國力ヲ保全スルタメ、鋼砲ノ後身ヲ製シ、青銅ノ砲ニ改裝シ用フ、是少シク堅牢持久ヲ讓レハ、發射ノ勢力ハ劣ルヲナシ、露國ノ野戰砲ハ、猶銅製ヲ用フ、其幾分ヲ「クロップ」氏ニ囑シテ鑄造セシムト、英國ノ製鐵ニ長スル「クロップ」氏ノ力ヲ仰カサレハ、其他ノ小國ハ、ミナ此人ノ模範中ニ入リテ、國威ヲ補フヲ免レス、故ニ「クロップ」氏ノ製作ハ、國政ニ管係シテ、重ナル勢力ヲ有スルトナリ、

是ヨリ「クロップ」氏ノ宅ニ延キテ夕饌ノ享アリ、宅ハ場ヲ離ル十數町ノ野ニアリ、河水ニヨリ、岡上ニ兀然トシテ築キ起ス、尙造營中ニテ、其規模壯大ナレハ、未タ全豹ヲミルニヨシナカリキ、○七時半ニ「クロップ」氏ヲ辭シ、八時半ニ「エッセ」驛ニテ、九時發ノ蒸氣車ニ上リ、次ノ驛マテ至リ、佛國往來ノ車ニ移リテ東走ス、此車ハ「エキスプレス」トテ、一時間ニ三十英里行ノモノニテ、頗ル快ナリ

西華蓮州ヨリハントワル哈諾威州ノ境ヲ走ル、夜中ナレハミル所ナシ、

凡佛國ノ境ヨリ、白蘭獨逸ノ北境ヲ經テ、露國ニ至ルマテ、所謂ル歐洲ノ中央野ハ只漫坡ノ略起伏ヲナセル平地ナレト、地味ハ肥沃ナラス、國民ノ農耕ニ勤勞スルヲ以テ、能ク禾麥ヲ生スルニ至リシ、

普國人民ノ營業ハ、重ニ農牧ニアリ、全國人員ノ半數千二百萬人ハ、農ヲ業トスル家ナリ、此國ト英國トノ貿易ニテモ知ルベキカ如ク、農産ノ高ハ、有餘ヲ輸出スルニ足ル、此利益ヲ本トシ、兼テ礦業及ヒ製作ヲ務メテ、外國ニ貿易シ、海外ノ遠地ニモ航通スレト、英佛ノ兩國、海商ヲ事トシ、製造元品ヲ、常ニ遠地ヨリ輸入シテ、自國ノ製作ヲ加ヘ、又外國ニ輸送シ、市會ノ利ニヨリ、國ヲ富スノ目的トハ異ナリ、是ヲ以テ其武巧ノ外ハ、甚タ遠國ニ著レザレト、其國是ヲ立ルハ、反テ我日本ニ酷ク類スル所アリ、此國ノ政治、風俗ヲ、講究スルハ、英佛ノ事情ヨリ、益ヲウルヲ多カルヘシ、抑歐洲ニ於テ、經濟家ノ說ニヨレハ、國ニ農民ノ甚タ多キハ、美事ニアラス、其工業ニカハ、ル民口ト、比較イカンヲ察スヘシ、例ヘハ農民百人ノ比例ニ、工業ニカハ、ル民ノ比

較ハ、瑞士ハ七十六人、白耳義ハ六十人、薩撒ハ六十四人アリ、是ミナ最上國ナリ、日本ノ如キハ五六人ニスキサルベシ、普國ハ千二百萬ノ農ニ、五百四十萬ノ工アリ、農民ノ内ニ、土地ヲ所有スルモノ五百萬人ニ及フ、其廣キ地面ヲ所有セルハ、唯東普魯士ノ地方、露國ニ連リシ所ノ、人口希少ナル瘠野ノミニテ、其中部西部ハ、其土ヲ最小ノ區分ニ割テ、一百十萬ノ地主ニ配布シ、各人ノ平均ハ「五」モルゲン、日本ノ一町三段ニスキス、人口ノ最モ繁庶ナルハ、來因州ニテ、其「トッセルドルフ」縣ハ、一方里ニ居民ノ平均ハ、全國ノ同平均數ヨリ四倍ス、是ハ其地ニ製造ノ盛ナルニヨルナリ、普國ノ民、年年ニ村邑ヲ離レテ、都邑ニ住スルモノ、數ヲ増スフ、英佛諸國ニ同シ、一千八百七十一年ニ於テ、國內ノ都邑ハ、千二百八十四府アリ、之ニオルモノ七百九十六萬八千五百四十五人、而テ村邑（即チ「コムミュン」）ノ數ハ、三萬八千〇三十二ヶ村ニテ、之ニオルモノ一十六百六十三萬七千六百五十二人ニスキス、農民ノ耕作セル天產ヲ、釀造、若シハ製作シ、其營業力ヲ以テ、價ヲ増シテ輸送ス、是其國利ノ益盛ナル所ニテ、其徵ハ都邑ト村邑ト、住民ノ比較ニ著ハル、是此國



ノ民業統計ノ大要ナリ、

「エッセン」ヨリ伯林マテ距離三百九十四英里、荷蘭海牙ヨリ五百九十八英里





伯林府  
ウシテルデン街  
ホテル  
羅馬



同  
フランデンホルケルトール門



第五十七卷 柏林府總説

九日 晴

此曉ニハ、蒸氣車己ニ「フ」ラソテン堡州ノ地ヲ走ル、猶廣平ノ大野ニテ、時ニ濕澤アリ、此ハ「ボ」タム縣ニ屬ス、柏林ノ西郊ニテ、湖沼ノ景勝アル所ナリト、此晨ニハ白霜野ニシテ、寒氣頗ル凜タリ、七時ニ柏林ノ驛ニ達スレハ、在府ノ辨務使、書記官、及ヒ在留學生マテ、ミナ驛ニ出迎フ、日耳曼國人ハ、帝王ヲ尊敬シ、政府ヲ推奉スルヲ甚タ篤シ、故ニ本國使節ノ來ヲキ、留學書生ヘハ、其教師ヨリモ、故ニ休暇ヲアタヘテ、其公館ニ伺候セシメ、在鄙ノモノモ、遠ク此府ニ集來シ、或ハ是ヲ怠リ、我學事ニ關係ナシトイフモノハ、反テ道ヲ知ラスト論斥スルニ至ルトナリ、英米ニテハ、反テ書生輩ノ此等ノ送迎ヲ勉ムルヲ笑フ、每國ノ人氣、其異カノ如シ、

旅館ハ、宮内省ヨリ手當ヲナシ、「ウ」ンテルデン、リンデン街ナル「ホ」テルデ、ロー「マ」ニ定メ、室房ヨリ食飲ニ至ルマテ、盡ク同省ヨリ調辨シ、使節ト書記官トヘ

各自ニ別食堂ヲ設ケ、旅館ノ口及ヒ「ホテル内ノ廊ニ、直丁數名ヲ差シ、交番ニ護衛ヲナシ、應用ノ勞ニアタラシム、其接遇ノ厚キ、他ノ諸國ニ超エタリ、

○伯林ハ、普魯士ノ國都ニテ、今ハ以テ日耳曼聯邦ノ首都トナセリ、其地ハ「アラソデンベルヒ州ノ「ポツダム縣内ニアリ、其全地二十五方英里、我二里「スプレー河ノ上流百九十五英里ノ内地ニアリ、抑普國ハ元「プランデンベルヒ州ヲ領シ、侯國ニテアリシキ、此地ハ一ノ村落ニテ、一千七百年以前「フレデルヒ維廉

ノ代マテハ「ポツダム城ヲ以テ居城トナシタリ、此府ヲ開キシハ「フレデルヒ第二世ノ代ニ、年年四十萬弗ヲ費シテ廣拓セリ、一千七百十七年ニアタリテハ「ポツダム全縣ノ人口七十二萬ニスキサリシニ、國ノ盛大ナルニ從ヒテ、此府ノ繁昌、駁駁トシテ進ミ、今ハ其時全縣ノ民數ヨリモ猶多キ人口、只此一府ニ聚マリ、歐洲第四番ノ大都府トナリタレヒ、實ハ僅ニ百二十三年ニ足ラサル新都府ナリ、○此府ハ、北緯五十二度三十分、東經十三度二十四分ニ位シ、周圍ニ匝ラセシ墩壁、長サ十一英里ニ及ヒ、是ニ十六ノ關門ヲ開キテ、往來ノ口トナス、府中ノ生口ハ、一千八百七十一年ニ、スベテ八十二萬六千三百四十一人ア

伯林「グンデン大通リ」フレデリヒ彫像



同「ルストガーデン」劇場







リ○府内ノ地ヲ五區ニ分ツ第一ヲ伯林ノ本部トス此ニ寺院學校武庫病院孤院等アリ第二ヲ「コローン、オンセ、スプレー」トス帝宮及ヒ帝家ノ菩提寺等此ニアリ第三ヲ「フレデルヒ、ウエルデン」トス皇帝ノ別宮醫學校運上所造幣局等此ニアリ第四ヲ「ドローツェン、ス、ダット」トス新府ノ謂ナリ此ニ帝家ノ學校天文臺解剖所等アリ此ニ建タル城門ヲ「アランデンブルゲル」ト謂フ府内ニテ最モ美觀タリ第五ヲ「フレデルヒス、ダット」トス此ニ金銀器ノ細工所及ヒ大裁判所等アリ第四第五ノ兩區ハ後世ニ開キタル地ナレハ街衢壯濶ニシテ殊ニ府中ノ勝地タリ「フランドンブルケル」ノ城門ヨリ一條ノ大衢ヲ通ス之ヲ「ウンテルデシリンドン」街ト云府中第一ノ廣街ナリ中央ヲ輕車ノ路トナシ其兩側ニ樹ヲウエテ一雙ノ長苑ヲ存シ遊歩ノ地トナシ其側ニ重車ノ道アリ物置ノ地アリ布店前ニ人行ノ道ヲ修ム道路ノ尤モ全備セルモノナリ此街ニ廣廈大屋多ク市塵モ亦繁昌ス我一行ノ旅宿モ亦此街ノ中間ニアリ街盡テ一渠ヲ越ユレハ第二區ニ入ル此ヨリ市塵密接シテ生理最盛ナル地タリ第一第三ノ區ミナ人家稠密ナレハ街路狹隘且不規則ニシテ運河縱橫

ナル地多シ、スヘテ府中ニハ「スプレー」河ノ本支ニヨリ、多ク溝渠ヲ開キ、漕運ヲ利シ、其溝渠ニ架渡セル橋梁、四十餘アリ、其光景タル、荷蘭ノ諸都府トハ、面目ヲ異ニシ、亦英佛ノ諸都府ニモ異ナリ、此府中ノ屋造ハ、英佛兩都ノ如ク、石造ノ大屋ヲ聳カシ、金光爛然、雕續滿眼ノ飾リ少ケレト、亦價アル大廈多シ、伯林ニテ巧ミニ磚瓦ヲ燒ク、以テ屋壁ヲ粧飾シ、花紋ノ雕眼ヲ起ス、又石雕ニ巧ミナリ、屋檐柱題ノ上ニ、石像ヲ立テ、飾トナセルアリ、道路ノ甃石モ、大概ミナ至レリ、但石ヲ甃スルコト、均平ナラス、頗ル鵲突ノ所多シ、

此府ハ、新興ノ都ナレハ、一般人氣モ、朴素ニシテ、他大都府ノ輕薄ナルニ比セカリシニ、繁華ノ進ムニ從ヒ、次第ニ澆季シテ、輒近殊ニ頹衰セリ、且近年頗ニ兵革ヲ四境ニ用ヒ、人氣激昂シ、操業粗暴ナリ、○府ノ四邊ニ、多ク遊苑ヲ修ム、必ス麥酒釀造ノ家ヲ設ク、都人男女ノ來遊スルモノ、庭上ニ羅坐シ、一小案ヲ對シテ、麥酒ヲ酌ミ、啜飲一頓、以テ快ヲトル、演劇場ノ内ニモ、男女酒ヲ飲ムヲ厭ハス、英米ノ風ト、頓ニ面目ヲ異ニス、飲酒ノ盛ニ流行スルコトハ、歐洲ニテ第一等ノ國ナリ、普國ノ人民ハ、一年飲酒ノ量、一人ニ平均四「ヘクトリットル」ヲ飲



ミ薩撒人ハ六「ペクトリットル」ヲ飲ム、英國人ノ麥酒ヲ嗜ミ、釀造ノ夥多シキモ、  
反テ一「ペクトリットル」ニスキス、其差異此ノ如シ、又烟草ヲ喫スルトモ、荷蘭佗  
人ノ次ニオル、一年ノ喫烟量ハ、一人ニ平均三磅八ニ及フ、其國內ニ產出ノ高  
モ、歐洲ノ高等ニオル、○此府ノ人氣粗率ナルハ、第一ニ兵隊學生ノ跋扈スル  
ニヨル、兵隊ハ數戰ノ餘ニテ、左モアルヘキナレトモ、學生ノ氣モ亦激昂ナリ、還  
卒モ學生ニ對シテハ、權力ニ乏シ、蓋佛國ノ革命ニアタリ、其自由ノ說獨逸ニ  
波及シ、普國ノ立憲政體ニ改革スルキニアタリ、他ノ各國ノ如ク、甚シキ擾亂  
ニハ及ハサレトモ、大學生徒、及ヒ社會ニテ、政府ヲ衝動セルニヨレリ、此等ノ因  
縁ヨリシテ、學校ノ勢力ハ甚盛ナリ、遊園ニ劇飲シ、醉ヲ帶ヒテ高吟朗謠、或ハ  
路傍ニ便溺ス、又兵隊ハ、暇日毎ニ盛服シテ、遊園ヲ彷徨スレハ、冶婦ノ過ルモ  
ノ、ミナ一眴シ情ヲ送ル、俳優ニ似タルアリ、○淫風ノ年々ニ盛ナルハ、政治家  
モ實ニ蹙額シ、其制防ノ良法ヲ、宇內各國ニ廉訪シ、我寛永年間ニ、江戸ノ吉原  
ヲ設ケシ規制ヲ賞嘆シ、其意ニ倣ヒ、適宜法ヲ設ケゾトヲ議セシトアリト、曾  
テ「ウンテルデソ、リソデソ」街ノ寫真店ニユギシニ、ミセノモ店夥醉テ秘戯ノ寫真ヲ、公

然ト賣ントセシ<sup>イ</sup>アリ、歐洲ノ各都ニテ、春畫ヲ公然ト人ニ販クニアヒシハ、只此府アルノミ、

○此府ノ繁昌ハ、近年國勢ト共ニ駁進シ、倫敦、巴黎ト、殆ト相較セントスル勢ナレ<sup>ヒ</sup>、尙第二等ニオキテ論ゼサルヲ得ス、製造品ハ、絹帛「アルパカ」諸毛ノ織物、麻布「メリヤス」木棉、敷物、金玉ノ器、烟斗、泥管、<sup>キセル</sup>鋼刃、鐵槌、鑄銅ノ工、學術器械、精好、玻璃、及ヒ鏡、紙、革、硝藥、帽子、時辰儀等、其他猶多シ、中ニモ名高キハ、<sup>ベルリンセヴエルリ</sup>伯林化冶ト稱シテ、鑄鐵ノ諸品ヲ稱美セラレ、陶器ノ精良ナル<sup>イ</sup>、薩撒ニ抗ス、木棉ハ「タン子ノベル」會社ノ製造、最モ盛大ニテ、年ニ價二百八十萬「ターラー」ノ多キニ及ヒ、總テ紡織物ノ價、年ニ百八十萬「ターラー」ニ及フ、磚瓦、土器ヲ燒クニ妙ヲ得タリ、磚瓦ハ無論、甃地、雕壁、欄檻ノ用、化學製作、及ヒ室ヲ暖ムル爐マテ、皆製造ス、石雕、油繪、銅、鋼板ノ繪モ美ナリ、賽金粉、顏料、香水ハ、此國ノ長技ニテ、白銅ハ、獨逸「メタール」ノ美ヲ歐洲ニ播ス、ミナ此府ニ製作シ、或ハ近郡ヨリ集ル、○抑日耳曼中衰ノ後ハ、各邦ミナ封建ノ弊ヲウケ、貴族ハ培克シ、僧侶ハ侵漁シ、上等ノ民ハ、ミナ學藝ヲ助成スルニ、意思ヲ用フル<sup>イ</sup>ナク、下等ノ民ハ、自主ノ

氣象ニ乏シク、墮々タルヲ數百年ナリシニ、千七百年代ニ、貴族巴黎ニ遊學シ、其文物ヲミテ、始メテ羨望ノ心ヲ發シ、是ヨリ佛國ノ藝術ヲ摸寫シ、スヘテ學藝工術ハ、同國ヨリ輸入シタリ、元來獨逸ニハ、自ラ固有ノ伎倆アリテ、別ニ一種ノ面目ヲ存シタルモ、此時ノ人氣、靡然トシテ佛國ニ沈醉シ、自國ノ美ヲ保續スル念ナク、其品ハ益衰滅シテ、只佛國ノ摸偽ヲナシテ、曾テ恥トスル氣象モナカリシ、是ニ因テ工産ノ利柄ハ、佛國ニ專權セラレ、其富ハ盡ク彼國ニ輸出シ、全國ミナ貧瘠ニ陷リ、元氣久ク復セサリシニ、先年普佛ノ戰爭ニテ、佛國ニ移住シタル職工、ミナ放逐セラレテ、國ニ歸リシヨリ、大ニ製作ヲ隆盛スルノ機會ヲ得テ、今ハ駸々ト旺盛ニ赴キ、固有ノ工技モ、亦其聲價ヲ復スルノ勢ヲナシタレ、政府富ミテ、人民ノ貧ハ猶依然ヲ免レサレハ、其佛國ニ超駕スルハ、猶永キ年數ヲ要スヘシト、然レ、佛國ニ戰捷ノ後ハ、人民ノ氣象、己ニ佛ノ工藝貿易ヲ目下ニ視ルノ氣慨アルニ至リシハ、其利益ヲ孕ムノ端モ、亦大ナリト謂ヘシ、

○當時此國ノ創痍ヤ、復シ、府中太平ヲ鳴シタレ、猶一ノ禍根ヲ陰伏シタル



ハ、羅馬教會トノ間ニ生セル紛紜ニテ、此教會ハ、四百年前「プロテスタント」教  
 ノ日耳曼ニ起リシヨリ起原シ、常ニ日耳曼中ノ新教諸國ヲ敵視シ、墺佛、西ノ  
 三國ヲ唆動シテ、之ヲ壓伏スル陰詭ノ謀ヲ藏ス、先年墺國ト戰ヒ、後佛國ト戰  
 フルモ、此教會ヨリ、陰ニ其端緒ヲ挑ミタリキ、佛國ニ克テ後ハ、宰相「ビスマル  
 ク」氏、其謀ヲ破リ、其禍根ヲタハント、剛毅ノ論ヲ持シ、己ニ去年ノ五月ニ「デュ  
 イツ」教會ノ徒ヲ、日耳曼國ヨリ放逐シタリシニヨリ、其論駁詭謀モ益劇ニ、己  
 ヲ得ス宰相ヲ退キシニ至レリ、今ニ其紛紜ヤマス、「カドレイキ」黨ハ、常ニ「ビ  
 マルク」氏ヲ狙撃セシメ、企ツルニ至ル。○柏林府中ハ、信教ノ念ニ甚タ乏シ、  
 曾テ府中ノ民籍ニヨリテ較セシニ、寺僧ニヨリテ婚姻ヲナスモノ、百人ニ十  
 五人ニスキサリキ、一千八百六十八年五月ニ、三條ノ法ヲ定メ、男女ノ婚姻ハ、  
 府廳ノ許可ヲ請ヒ、教會ノ手ヲ經ス、教會ヨリ學校ニ關スルヲ制シ、并ニ宗派  
 ニ關スル憲律ヲ定メタリ、教會ノ學校ニ關與スルハ、人民ノ心智ニ害ヲ生ス  
 ルモノニテ、最モ弊アルヲナリト云、

今ヲ距ル十九年前、我安政二年ノ秋、普國ノ軍艦、始メテ長崎ニ入港シタル

ハ我日本ニ此國ノ名ヲヨリヨ始メナルヘシ其後七年ヲ經テ一千八百六十一年一月ニ和親交易ノ條約ヲ結ヒシ頃ハ人ヤ、歐洲ニ此國ノ強名アルヲ聞知セルノミナリシニ六十六年、壤國ヲ敗リシ新聞ニテ此國ハ歐洲ニ國勢ヲ振ハスヲ旭日ノ勢ナルヲ評說シタルモ其英佛ト比較スル大國タルヲ衆ニ知ラレタルハ去ル三年前ニ雄名世界ニ轟キシ佛國ヲ敗リシヨリノナリ然レモ此國ノ名ノ我日本國人ニ知ラレタルハ其政略ニ長シ文學盛シニ兵制ノ振ヘルヲ以テ稱賛セラルノミ其和親締約ノ主旨タル貿易ノ管係ニ於テハ猶漠然ニ付セルヲ免レス顧フニ普國ト日本トノ貿易ハ其盛ナル米英佛及ヒ荷蘭ノ管係ト敢テ比例ヲ讓ラサルナリ試ミニ一千八百七十一年ノ比較ヲ舉クレハ日耳曼ノ船舶ハ我開港場ニ入タルモノ八十三艘二萬七千噸ニテ佛國ト同等ナリ其支那ニ入港セルハ千三百〇四艘三十七萬餘噸ニテ佛國ニ殆ト五倍セリ此國ノ東洋交易ニ於テ其隆盛ナルヲ米國ノ次佛國ノ上ニアリ其直接ニ商船ヲ往來スハ北海ノ旱堡<sup>ハムベルヒア</sup>不來梅<sup>レメン</sup>ヨリ仕出スモノニテ航路ハヤ、荷蘭ヨリ迂回セル

モ、猶且此ノ如シ、三年前ニ、蘇士<sup>ハウエス</sup>ノ海峽ニ、運河鑿開ノ巧、全ク成就シ、亞細亞  
 ト歐羅巴トノ交通ハ、直ニ此運河ヨリ「アトリヤ海濱ヘ、船舶ヲ出入スヘシ」  
 塙、以ノ兩國、因テ東洋ノ交易ニ深ク注意ヲ生シタレハ、此航路ヨリ、間接ニ  
 普國ヘ物品ヲ貿易スルコト、是ヨリ益盛ナルベキヲ兆ス、左レハ歐洲ノ貿易  
 ニ於テ、英佛ヲ經スシテ、東方ニ新ニ一ノ市場ヲ開クヘキハ、伯林、及ヒ維納  
 兩大都府ヘ、陸路貿易スル線路ニアリ、日耳曼ノ形勢ヲ察視スルモ、此ニ注  
 意ヲナサハ、ルベカラス、伯林府ハ北海ノ港口ナル、旱堡ヨリ殆ト二百英里  
 ノ内地ニアリ、南境ニ「エルスベヒル山脈ヲ負ヒ、塙國ト背脊ジ分チタレヒ」  
 鐵路ノ線ハ、十分ニ備ハリテ、陸運ノ便ヲ開キタレハ、伯林ヨリ「マクテ堡<sup>薩</sup>  
 州<sup>州</sup>ノ夫ヨリ薩<sup>サヒセン</sup>撒ノ「ドレスデン府ヲスキ、波希米<sup>ボヘミヤ</sup>ノ「プラーク」ヨリ、維納府ヘ、  
 行旅貨物ノ運送ハ、日夜ニ殷殷輻輳タリ、傍線ハ伯林府ヨリ、伯勞<sup>ブレスロワ</sup>州<sup>州</sup>ノ首府  
 ヲ經テ、塙ノ「シレセン」及ヒ「モラヒヤ」ニ綴ル、亦繁昌ノ地ナルコトヲ記憶セサ  
 ルベカラス、且西洋都會ノ盛衰ハ、其原因タル東洋ニ異ナリ、又米國ニモ異  
 ナリ、東洋ノ都會ハ、其生意ノ目的ハ、政府用度ノ管係ニアリ、米國ノ都會ハ、



豪商大姓ニアリ、然ルニ歐洲各都ハ王侯貴族ニアリ、日耳曼ノ各首府ニハ、ミナ侯伯貴族ノ居アリ、甲第ヲ國都ニ興ス、各都府ニ貨賄ノ注輸ハ、常ニ之ニ歸源ス、伯林繁華ノ進ミ、一千八百年ノ比マテハ、猶一小都會ナリシヲ、同五十年ニハ、四十二萬四千口ヲ有シ、又二十年ニテ、今ハ其倍數ニ及ヘリ、是ハ近年歐洲封建ノ餘習ヲ除キ、工商ノ自由ヲ寬ニセシヨリ、營業ヲ競ヒ、製鐵器械ヲ興シテ、便利ノ具、滋美ノ味ヲ製シテ、人民ノ嗜欲ニ投シ、奢侈ノ度ハ、年ヲ逐テ增長スルヲ、奔馬ノ制スベカラサルカ、如ク、都府ノ繁昌ハ、之ニ從フモノニテ、倫敦、巴黎ヨリ、伯林ニ至レハ、其都府ノ外貌ハ、猶質素ヲ主トスルニ似タレヒ、奢靡淫侈ノ增長ハ、舊面目ニアラストナシ、蓋シ普國ノ政治ハ、「フレテル」ヒ第二世ノ遺業ニヨルモノニテ、此王ハ父ノ奢侈ヲ鑑ミ、儉素ヲ以テ身ヲ律シ、外貌ヲ修飾スルヲ嫌ヒ、死後ニ一ノ新衣モナカリシト、故ニ今ニ至ルマテ、要路ノ君相ハ、其遺風ヲ守レヒ、元來澀濁儉勤ノ質ヲアラハシタル、獨逸人種ハ、外感ニ心ヲ移シ、易キ性ヲ具セリ、「フレデル」ヒ第二世曾テ曰ク、普魯士ノ人ハ、平日質朴ナルモ、其好ム所ニアラス、僅ニ財ヲ

有スレハ、力ヲ極メテ外貌ヲ修飾シ、高帽、長靴、小杖、輕衣シテ、意氣揚揚タリト、此言其證トナスベシ、日耳曼ノ貴族、佛國ノ文物ニ心ヲ蕩シ、塙國ノ貴族、金衣玉食ニ沈ム、ミナ獨逸人ノ性質ヲ察スヘキモノナリ、況ヤ人ノ常情タル、一タヒ覺ヘタル、便利ハ、又棄ルヲ得ス、一タヒ生シタル嗜好ハ、又洗フヘカラス、方今歐洲ノ民ニ、便利嗜好ヲ投セル、製作ノ元品ハ、外國ヨリ輸入シタルモノナリ、棉、毛、麻、絹、藍、茜ノ紡織ニ於ル、樹膠、菜油、木蠟ノ製作ニ於ケル、糖、烟、茶、咖啡ノ飲量ニ於ル、皆內國ノ供給スル所ハ、僅僅ノミ、果酒、穀酒ノ釀造モ、亦必ス內國ノ供給ノミニテ足ルベカラス、其元品ヲ輸入スルハ、兩印度ニアラサレハ、東洋ナリ、曩ニハ歐洲ト、日本トノ交易ヲ、荷蘭ノ一手ニ制限サレシヲ、英佛首ニ之ヲ開キ、次ニ其利ヲ分タシ、競ヒシハ、普國ナリ、方今ハ歐洲ノ各國、東洋ニ一ノ大市場ヲ開キテ、製作元品ノ不足ヲ充分ニセシトスルノ機會ニ迫レリ、然則曩ニ倫敦、巴黎ヲ注視シタル眼孔ハ、分テ伯林、維納ニ顧照セサルベカラス、伯林、維納、生意ノ管係ニテ、「エルスベヒル山」ノ陰陽ハ、貨物吐納ノ盛衰ヲナス所ナリ、此回ニハ道路ノ順序ニヨリ

テ、此一方ノ回覽ヲ略セルニヨリ、伯林ヲ記スルニ於テ、并セテ之ヲ略說ス  
ルト云爾、

十日 晴

十二時ヨリ、接伴掛「コロ子ル、ライト氏、其外ノ案内ニテ、禽獸園ヲ一覽ス、  
禽獸園ハ、府ノ西廊ニアリ、此ニ赴ク路ハ、前ニ記セル「アラソデソ、フェルゲルト」  
ノ門ニ由ル、是ハ石造ノ城門ナリ、其建築ノ法ハ、羅馬ノ遺法ヲ模倣シタルモ  
ノニテ、門上ノ平臺ニ、銅製ノ女神、駟馬ニ駕セラル像、四十二「フィート」ナルヲオ  
ク、佛ノ凱旋門ニアスヘキ大石門タリ、門内ハ廣達ヲ開キ、樹木鬱蔥タリ、此銅  
像ハ一千八百〇七年、佛軍ノ伯林ニ入シキ、掠メ去リシヲ、十五年ノ戰ニテ快  
復シタルモノナリ、去年普軍ノ佛都ニ入ルヤ、又其城門ノ像ヲ掠メ來リテ、國  
都ニ持歸リ、戰閥ヲ耀示ストナソ、

○城門ヲ出レハ「チュエル」ノ大公園アリ、府ノ西南ニ於テ、一ノ廣域ヲ占メテ、巨樹  
ヲウエ、鬱蔥トシテ、二三方英里ニ亘ル、禽獸園モ其園ノ一部分ニ屬ス、園ノ區  
域甚タ廣ク、門ニ入レハ休憩ノ店アリ、酒果ヲ喫スヘシ、園内ニハ、沼池ヲ堀リ、



州嶼ヲ築キ、水ヲ噴飛シ、瀑布ヲ作ル、池上ニ山アリ、山後ニ坡アリ、徑ヲ回シ、場  
 ヲ開キテ、處處ニ亭榭ヲ作り、禽獸ヲ其内ニ豢養ス、獅子、虎、豹、數偶アリ、一偶ノ  
 獅子ハ、此園ニテ生育スルモノナリ、其他豺狼、熊、羆、山猫ハ、鐵圍ノ内ニ咆哮シ  
 山羊、水牛、駱駝、麋鹿ハ、圀場ニ奔走ス、象ノ大ナルハ、屋ヲ專ラニシ、野牛ノ毛ノ  
 長キ、地ニ低ル、日本安藝ノ產ト題セル鹿アリ、蓋シ宮島ヨリ購ヒ來レルモノ  
 ナリ、金鷄一偶ヲ草樹ノ園ニ圈養ス、是ハ支那ノ禁制品ナルヲ、百磅ニテ買ヒ  
 來ルト云、白孔雀ハ、佛國ニテモ觀タリ、此園ニモ亦一偶アリ、是ハ尋常ノ孔雀  
 ナリシニ、此園ニ於テ白羽ニ變セリト云、○此園ハ區域ノ廣キト、泉石ノ巧ミ  
 ナルト、禽獸ノ多キトハ、荷蘭ノ奄特坦府ニ越エベシ、然レニ同種ノ禽獸多シ、  
 各種ヲ討搜シタルヲハ、彼ニ及ハス、江豚ノ類ヲミス、穴居獸、鶴、鷺ノ類モ亦備  
 ハラサルヲ覺フ、鶴ハ亞米利加ニ產スルモノ數種アリ、荷蘭ニテハ、日本ノ鶴、  
 數種ヲ蓄フ、鶴ノ風彩ハ、日本產ヲ美ナリトス、此園ニハ是ナシ、○園内ニ豢養  
 掃修ノ費、年年一萬五千「ターラー」ヲ備フ、園ヲ開キ禽獸ヲ購ヒ入ル、價ハ此  
 外ニアリ、近來開修中ニテ、處處ニ匠工ヲ入レタリ、

○「チエル」ノ公苑ハ、府中ニテ第一ノ大苑ナリ、「ブラデソフェルゲルト」ノ門ヲ出レハ、直線ノ大道アリ、西ニ走ル、此路一獨逸里ニテ、「シヤルロットベルヒ」ノ別宮ニ連ル、此ハ「フレデルヒ」第二世ノ修築セル宮ニテ、宮殿ハ宏壯美麗トセザレド、庭苑森鬱ニテ清麗ナリ、佛國ノ「サンゼルマン」宮ニ比較スベシ、近西ノ岡上ヨリ、湖河ノ沙磧ヲ見晴シテ、景勝宜シ、伯林府ノ遊衍場ナリ、沿路修廣ニシテ、市街モ粗相接連ス、苑ニ入レハ、老樹其道側ヲ挾ミ、坦直ノ平路ニテ、晝ハ綠枝陰翳シ、夜ハ瓦斯燈連珠ヲナシ、遙渺トシテ空際ニ入ル、街車ノ鐵軌アリテ、往來頻繁ナリ、此路ヨリ旁岐シテ、左右ニ屈曲ノ二徑アリ、中ニハ池水アリ、廣場アリ、石像ヲオキ、塔柱ヲ建ルノ外、一般ノ苑地ハ、老樹森森トシテ、枯葉ヲ拂ヒ、蕪草ヲ削リ、一味清絕ス、其趣キ巴黎ノ「ボアデプロン」ノ苑ニ頗ル類似シ、鬱蔥タル大苑ナリ、

○夜水族觀ニ至ル、是ハ「フランデソ、フェルゲルトール」(城門通り)ノ廣街ニアリ、四層ノ屋造ニテ、其屋中ヲ分區シテ、人造ヲ以テ石ヲ築固シ、天然ノ岩洞ヲ造成シテ、上層ヨリ下層ニ下ラシム、恰モ山中ノ岩壁間ニ、羊腸ノ路ヲ下ルカ如ク、

初次ニ樓梯ヲ上リテ、一廊ヲ行ク、兩側ニ玻璃ヲ固メテ、大蛇、蟻、蛙ヲ蓄フ數室  
 アリ、一巨蛇アリ、圓經ハ五寸餘、長サ丈五尺ニ餘ル、從來ニ諸觀ヲ回リ、巨蛇ヲ  
 ミル多シト雖モ、如此ク大ナルモノヲ見ス、此圈內ヘ一小兔ヲ放チタリシニ、  
 兔ハ躊躇シテ、其盤渦セル背上ニ上ル、須臾ニシテ蛇ハ首ヲ擡ケ、身ヲ轉シテ  
 兔ヲ抱擁シ、乍チ其腹ニ喰ヒツキタレハ、兔ハ一聲叫ヒテ、目ヲ張リ困ム、蛇ハ  
 口ヲ離サスシテ、共生血ヲ吸ヒ盡ス、三四分時ニテ、兔ハ死シテ一塊ノ皮毛ヲ  
 存スルノミ、其慘惡ノ狀憎ムヘシ、大蛇ハ多ク熱帶ノ國ニ生ス、西洋各國ニテ、  
 之ヲ窖室中ニ養ヒ、食餌ニハ鼠ヲ與フ、蛇ハ動物ノ生肉ヲ啖フコナシ、只共生  
 血ヲ吸フノミ、小ナル蛙ノ如キハ、之ヲ吞トナン、俗間ニ蟒蛇ノ怪ヲ談スルモ  
 ノ、毎ニ謂フ人ヲ吞ムト、夫レ人ヲ吞ムノ蛇ハ、必ス其身ハ經尺ニ餘ルベシ、是  
 ミナ耳食ノ談ニテ、目撃ノ說ニ非ルヲ知ル、支那閩越ノ地、熱帶ニ近ク、巨蛇ア  
 リ、古來此地ヲスキルモノ、蛇ノ奇ヲ誇言シテ、其異聞ニ誇ル、亦支那人固有ノ  
 虛說ノミ、信スルニ足ラス、○廊ヲ盡セハ岩壁アリ、懸川アリ、瀉瀉淙淙トシテ、  
 下ル、此ニ鸚鵡ノ類ヲ養フテ、樂啄セシム、其聲甚タ耳ニ喧シ、是ヨリ階ヲ下リ、



地下ノ層ニイレハ、鐵網ヲ以テ、諸禽ヲ蓄ヘ、唳唳嘖嘖タリ、其園ヲ回リ、曲折シ去レハ、水族ヲ養フ所ニ至ル、水族ヲ養フ、英ノ水晶宮ニテ見ルニ同シ、空氣ヲ以テ水ヲ攪シ、新陳交代セシム、スベテ一百十室アリ、奇巖洞ヲナシ、屈曲シテ蹊壑ノ趣キヲナシ、中ニ路ヲ開ク、處處ニ瓦斯燈アリ、光射ノ術ヲ以テ、五彩ノ光ヲナサシム、宛トシテ海底ノ洞ヲ回リテ、落照ノ反射ヲミルカト疑ハシム、英佛ニ水族室ノ設ケアリト雖、二十餘室ニスキス、此觀ハ之ニ五六倍ス、且屋中ノ造巧ニ至リテハ、實ニ世界第一ノ觀ト云モ亦誣サルナリ、

十一日 晴

午後一時ニ、宮内省ヨリ六馬ノ車二乘、二馬ノ車四乗ヲ備ヘ、御者ミナ盛裝シ、騎兵ヲ護衛トシ、宮内ノ長官來リ迎ヘ、「コーニングスパレイイス」ニ於テ、維廉第一世皇帝ニ謁見ヲナス、謁見式ニ詳カナリ

夜、皇帝ノ劇場ニ赴ク、是ヲ「オヘラ」ト云、諸種ノ芝居中ニテ最上等ナルモノ、猶我猿樂ノ如シ



第五十八卷 伯林府ノ記上

三月十二日 朝晴午後ニ過雨アリ夜晴

午後一時ヨリ盛服ニテ、又「コーニンクス・パレイス」ニ至ル、此宮ハ、普國王ノ本宮ニテ、表向キノ朝儀ヲ取行フ所ナリ、「一ニオペラ・パレイス」トモ名ツクトナリ、此日ハ文武百官、ミナ教會堂ニ集メテ禮拜ノ式ヲ行ハル、因テ其儀ヲ一見ナシ、夫ヨリ宮中ヲ一覽セリ、○此宮ハ、赤色ノ煉化石ニテ疊ミ起シ、長サ四百七十「フート」約我七十九間、寬サ二百八十四「フート」約我四十七間ニテ、中心ニ大圓堂ヲ聳起ス、高サ百〇四「フート」アリ、前ノ廣達ニハ「フレデルヒ、セ、クレート王ノ騎馬像アリ、廣渠ノ前ニ兀立シ、規模稍宏ナレヒ、外景ハ甚タ美ナラス、苑園ノ設ケモナシ、其内景ノ美ハ「フレデルヒ」第二世以來、世世王費ヲツミ修美ヲ加ヘ、雕刻精ヲ盡シ、金銀珠玉ヲ飾リ、爛然烜然トシテ、目ヲ耀カスハ、佛ノ「フォンテンブロー」ノ宮モ曄若タルニ近シ、室房ニ無數ノ畫額ヲ集メタルヲ、猶佛ノ「ウエルサイル宮」ノ如シ、盛ソナル書庫モアリ、此ニ先年佛國ト戰ヒヲ起スノ初メ、拿破侖



第三世、遽ニ戰ヲ布告セシ文ノ寫シヲ、飛報ニテ伯林ニ到着セシキ、今日耳曼帝ハ、別宮ニ遊衍中ニアリシニ、之ヲ聞クヤ、直ニ馬ヲ鞭チ、蒸氣車驛ニ至リ、戰ヲ決スル檄ヲ發セリ、戰勝ノ後ニ、拿破侖第三世戰ヲ布告スル文ヲ草シタル、几案ヲ分捕シ來リ、其鞭ト共ニ宮中ニ飾レリ、

其後會議堂開ク、各國ノ公使、皆盛服シテ共ニ集觀ス、皇帝ハ高壇ニ臨御アリ、日耳曼同盟ノ「チャンセロル宮」ビスマルク氏ヲ始メ、文武百僚皆集リ、日耳曼列國ノ議員モ亦集ル、帝ヨリノ「スピーチ」アリ、其後ニ政事ノ大略ヲ演說シテ徹セリ、

日耳曼ノ帝位ハ、カイソル一千八百〇六年ヨリ、中絶セルヲ六十四年ヲ經テ、第七十一

佛ノ去ル七十年十二月ニ、南北日耳曼ノ諸國、協同シテ、普王維廉ヲ推テ、日耳

曼帝位ニ即シメ、ツカ第四十三卷ヲミヨ、因テ中央政府ヲ伯林ニ設ケ、聯邦各國ヨリ代議官

ヲ出シテ、同盟會議ヲ設ケタリ、國民ヨリ代議士ヲ公舉シテ、國民會議レイチス・ダガヲナス、

是ヲ立法官トス、其行政ノ權ハ、帝チャンセル及ヒ執政ニ歸ス、執政ハ「ビスマルク侯」其職

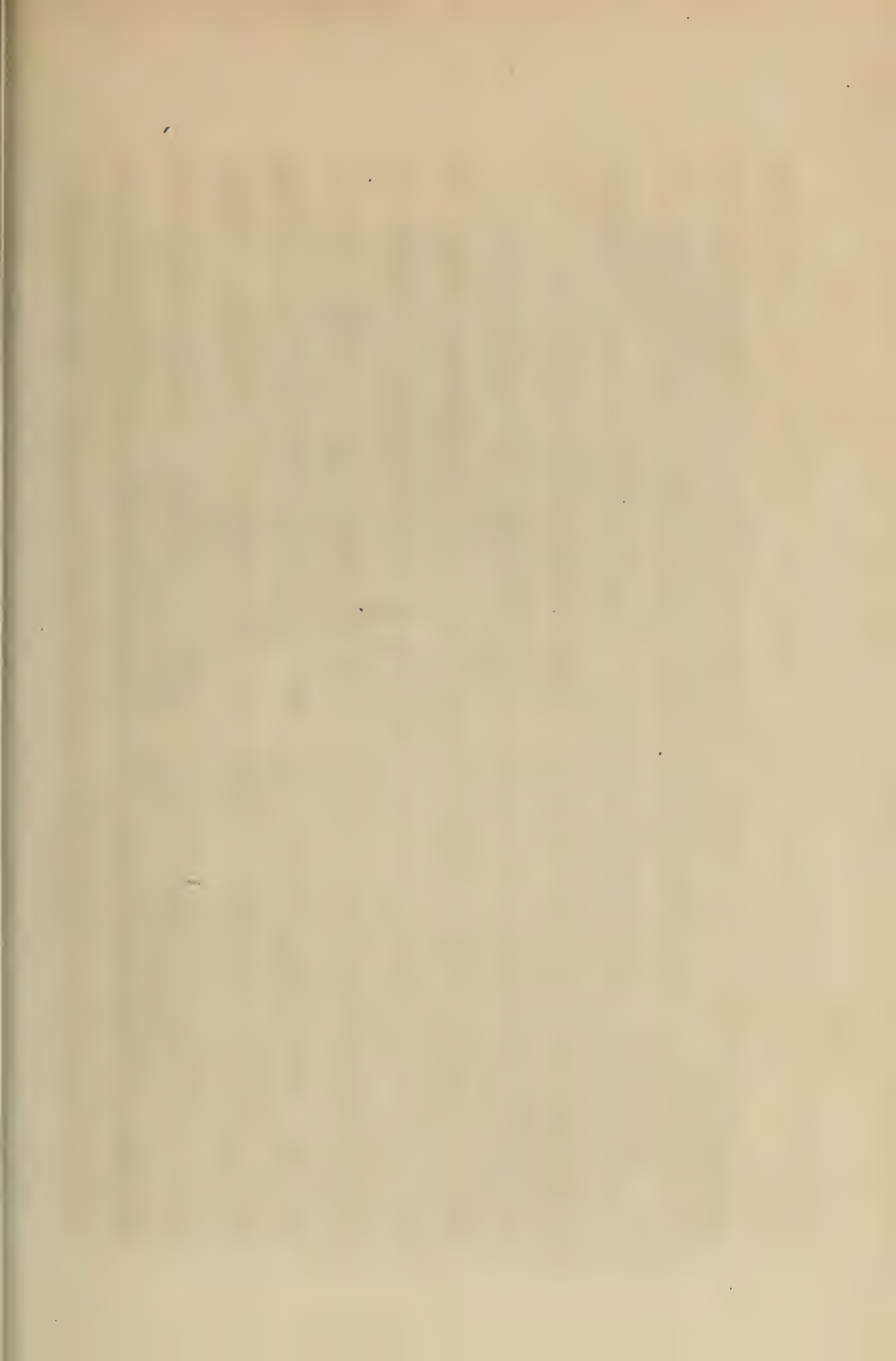
ニ任セラレタリ、國帝ハ外國ニ交リ、同盟ノ名ヲ以テ、興軍スル權アリ、但シ内

伯林ノコロニングス宮



同太子ノ宮







國ニ侵撃ヲ蒙ルル外ハ、立法議官ノ協議ニテ、許諾ノ後ニ決行ス。立法官ニ於テ、代議官即チ上院ノ分課ハ八アリ、海陸軍、租稅、貿易、會計、法律、民法、刑法、外交、及ヒ鑛道、電信、郵便ノ事務ナリ、是ニテ日耳曼中央政府ニ、統フル所ノ事務權限モ、從テ知レルヘシ、一千八百七十年十二月ニ制定セル中央政府ノ用度ハ、港稅、國稅、約四千八百六十萬「ターレル」ヲ本トナシ、之ニ印稅、郵便、電信、利益、雜稅ヲ加ヘテ、約五千百七十萬「ターレル」七十萬圓、此分派ノ制ニ於テ、南方獨逸ノ三國ハ、猶制外ニテ、鐵道、郵便、及ヒ酒稅ハ、自國ニ收入スルト云、

日耳曼政府ト、普魯士國政府トハ、固リ各別ナリ、普國ノ政府モ、伯林ニアリ、是モ「コーニンクス宮」ニ設ケルカ、普國ノ立君政治ニ於テハ、世襲ニ王位ヲ繼グ、「ボーヘンッルレン」家ノ男統、十八歲以上ノ人ニテ、年長ノ序ニ因テ傳フ、女王ヲ立ルヲナシ、國王ハ行政ノ全權ヲスヘ、宰相及ヒ內閣大臣ヲ任シテ、事務ヲ掌ラシム、又立法權ノ一分ヲ有ス、其政體ハ、一千八百四十九年「フレデルヒ維廉」第四世ノキニ定メタル、立憲政治ヲ潤修シテ遵行ス、○立法官ハ、貴族院ト民代院トニニ分ル、貴族院ハ、即チ上院ニテ、王族、公族、貴族部長、國王ヨリ命セラル貴族

豪姓ノ議官貴族豪農巨商ノ内ヨリ王命州舉ノ貴族是ハ八州毎ニ地主中大  
 學校ノ代人僧侶ノ長大都邑五萬口以上長及ヒ國王ヨリ命セラレタル元老議官  
 ニテ局ヲナス民代院ハ即チ下院ナリ其公舉ノ法ハ國民三十歳以上ノモノ  
 民權ニ欠乏ナク刑法ニ觸レルヲナク且三年間租稅ヲ満足ニ納メタル人ヨ  
 リ選マル之ヲ撰舉スルニ選權者ヲ間撰者ト直撰者トニ撰リ分ルナリ各地  
 方ノ男子二十五歳以上ニテ其地方ノ撰舉ニ選權アルモノハ盡ク間選者ト  
 ナル其總員ヲ三級ニ區別ス此區別ハ納稅ノ多寡ニヨリテ定ムルモノナリ  
 總員ニ課スル直稅ノ合セ高ニ付至高三分一ニ及フマテノ重稅ヲ納ルモ  
 ノヲ第一級トス次等ノ重稅第二第三ノ區域マテヲ第二級トシ一切ノ低稅  
 ヲ納ルモノヲ第三級トシ間撰者二百五十人ニツキ直撰者一名ヲ舉ル各  
 其級ニヨリ分テ撰舉ノ隊ヲナジ一隊五百人ニスキサラシム一隊ニ直撰者  
 一名ヲ舉タルヲ投票法ニテ議員ヲ公舉スルナリ凡金錢計算ノコハ下院ニ  
 テ起草シ上院ニテ取捨ス之ヲ改正スルノ權ナシ法律ノ議ハ兩院ノ權ニ歸  
 ス毎歲十一月ニ誥命ニテ徵集スルヲ常例トス國ニ大事アレハ臨時ニ徵集

ヲナスヲアリ、○行政官ハ國王ノ撰任セル八ノ長官ニテナル、外務、會計、海陸軍、内務、司法、教育、勸農、及ヒ商工事務ノ八省ナリ、

四時ヨリ「クラオン、プリンス」太子ノ謂ナリ及ヒ妃ニ謁見ス、款待甚タ丁寧ナリ、

其後帝宮ニ於テ享饌ヲ賜フ、帝后、太子、太子妃、皆臨御アリ、各省ノ宰相及ヒ大將「モルトケ氏」ヲ始メ、會食スルモノ百五十人、六時半ニ徹筵シ退ク、

○此夜雨霽雲収リ、月色水ノ如シ、此頃ハ太子「フレデレツキ」不豫ナリシニ、此節平愈アリテ、昨日伯林ノ宮ニ歸御アリシヲ以テ、市街ミナ旗ヲ舉テ祝ス、此夜學校ノ教師生徒、皆之ヲ祝スルカ爲メ、教師官屬ハ、車馬ニ服シ、生徒ハ松明ヲ手ニシ、列ヲナシテ「フランデソフェルゲルトール」通ヲ歩シ、太子ノ宮ニ至リ鼓樂シテ祝聲ヲ揚ク、滿街甚タ鬧カナリキ、

十三日 晴

午後ヨリ、王弟「プリンス、カールス公」普國砲兵大元帥王姪「プリンス、アルベルト公」王從弟「プリンス、アレキサンドル公」及ヒ「プリンス、ギョーチ公」ニ謁見ス、

○夜曲馬場ニ招請アリ、伯林ノ曲馬場ハ、殊ニ大觀場ニテ、甚タ壯美ナリ、貴人モ



亦就テミル、西洋ノ風ハ、牧畜ニ長シ、馬ヲ嗜ム、曲馬ノ技ヲ愛スルヲ、上下ニ通シテ行ハル、我邦ノ古ヘ、武家ノ庭ニ角力ヲ設ケテ、劇觀トナセシカ如シ、

# 十四日 雪

朝十時半ヨリ、接伴掛ノ案内ニテ、電氣機器製造場ニ至ル、

○ジーマンス氏社ノ電氣機器製造場ハ、蒸氣ノ輪五十馬力ヲ設ケ、職人ヲイル、日ニ八百人ナリ、製シ出ス所ノ器機ハ、スベテ電氣ニカ、ル、機關ノ具ニテ、尤モ多數ナルハ、電信ノ器機ナリ、

電信ノ機器ハ、其裝置ニ種種アリ、或ハ野畫ヲ抹シ出シ、或ハ點ヲ穿チ出シ、或ハ文字ヲ印シ出シ、或ハ字ヲ指シテ回ル等、各國各人ニテ、發明ヲ異ニス、各得失アリ、又鐵道ニ用フル、合圖ノ電信ハ、一定ノ符號アリ、事件繁ナラザルヲ以テ、其器械、尤モ簡易ナリ、此器械ニ付テ、本年ニ始テ發明セシ裝置アリ、之ヲ施設シテ示セリ、○燈明臺ニ、電光ニテ點光スルノヲ示セリ、其燈ハ、三稜ノ玻璃ニテ、外圍トナスヲ、尋常ノ燈臺ニ同シ、其中點ニ引電器ヲ通シ、蒸氣力ヲ以テ、電氣ヲ中心ニ鍾ムレハ、其電氣ハ、空氣ニ觸レテ、徑二分許ノ孔ヨリ、白光ヲ發

スルヲ甚タ強ク、全室ノ暗キモ、白晝ニ異ナラス、之ヲ正視スレハ、目ヲ傷ルヘシ、其光力ノ距離ハ、英ノ十英里普ノ十「マ」ノ外ニ達スト云、○電氣ニテ火藥ノ強弱ヲタメス器ヲ試ミテ示セリ、以テ一抄時ヲ幾分スル若許ノ遲速ヲ驗シ出ス、裝置甚タ精ニテ、遽ニ悟リ難シ、又水電ヲ海底ニ沈メ、岸上ヨリ遠眼鏡ヲ以テ、兩所ヨリヲラ覗ヒ、三角形ノ尖樞ヲ以テ量定シ、敵船ノ水雷上ナル點ニ達スルヲ視レハ、互ニ電氣ニテ報告シ、線ヲ掣シテ火ヲ放ツ、仕掛ノ雛形アリ、又同法ニテ、海上ノ距離ヲ測定スルニモ、此法ヲ用フルト云、

○夫ヨリ大病院ニ至ル、大病院ハ、一千七百七十年「セ、クレート、フレデル」第二世ノ代ニ、叛建シタルモノナリ、伯林ノ本部ニ於テ、邊鄙ノ地ニアリ、其地域ノ内ハ、廣苑ヲ帶ヒ、周圍ニ市塵ノ鬧ヲ絶ツ、屋造ハ四層ノ高宇ニテ、磚瓦ヲ壁トシ、白鉛漆粉ヲ塗リタレハ、白石屋ニ彷彿トシテ壯麗ナリ、近年ニ増建修造シタル屋ハ、上宇ヨリ空氣ヲ流通セシムルヲ主要トシ、以テ建築ス、此ハ米利堅國ニテ發明セル屋造式ニテ、近年病院ノ建築ニハ、重ニ此法ヲ用フルトナリ、蓋病ヲ治シ、建康ニ復スルニハ、空氣ノ功最モ著大ニテ、藥石ノ力ハ、遠ク及ハ

サル、近年ニ益實驗シタルヲ以テ、漸ニ此式ノ屋ニ改革スルト謂ヘリ。○全  
院ニ病室七百アリ、病人二千人以上ヲイル、ヘシ、現ニ入院ノ病人、一千六百  
人アリ、衣服、衾、茵ヲ洗濯スル室、十一个所、一歳ノ費用四十萬弗、日耳曼ノ貨幣  
セサルハ伯林滯在中ニ獨逸語ニ通セルモノニ乏シク常ニ英語ニ其内ニ、改  
テ應答セルヲ以テ其答語モ故ラニ「ターラー」ヲ弗ニ改メタルナリ  
府ヨリハ其八萬弗ヲ拂ヒ、他ハ病院ノ所有財産ヨリ生スル利ニテ辨ス、病人  
ヨリ入費ヲ収ムルヲナシ、入院ノ病人ニ、宗門ノ限制ナシ、看病人ノ給料ハ、年  
給八十弗許ナリ、○臺所ニハ、正釜六个ヲ連ヌ、大ナルハ圓徑七尺、小ナルモ六  
尺ニ及フ、以テ「スープ」ヲ煎ル、此數釜ニテ、千五百人ノ食ヲ調スルニ足ル、西洋  
ノ風ハ、常食ニ麪包ヲ用フ、故ニ臺所ニテハ、只羹ト肉汁トヲ調スルニ過キス、  
是ヲ以テ庖廚簡易ニシテ善辨スルヲ此類ナリ、其竈ノ火ヲ導キ、地底ヨリ洞  
ヲ掘リテ、半英里外ノ地ニ達シ、其地ニ烟突ヲ築キテ噴出セシム、炭酸瓦斯ヲ  
シテ、院内ノ空氣ヲ攪亂セシムルヲ免ル爲メナリ、

空氣ハ、人ノ健康ニ於テ、第一ノ功用ヲナスモノニテ、病ヲ療スル力モ、藥劑  
ニ超越ス、又炭酸瓦斯ノ人身ニ害アルヲ等、少ク物理ト生理トノ一般ヲ窺



ヒタルモノハ了解セルヘシ然レヒ世人ハ未タ其故ヲ知ラサルモノ多ケ  
レハ此ニ其略ヲ論シオカソ世人ミナ謂ヘシ人ノ健康ヲ保ツニハ飲食コ  
ソ第一ノ効用ナルヘシ如何トナレハ飲食ノ人ヲ養フハ人皆日夕ニ之  
ヲ目睹スレハナリ空氣ノ人身ヲ養フモ飲食ト同ク日夕不斷ニ其効ヲ  
現セリ人之ヲ目睹スルヲ得サレハ知ルニ及ハサレヒ試ミ思ヘシ食ヲ斷  
ツト數旬ナルモ猶死セス氣息ノ呼吸ヲ斷テハ須臾ニ死ス是空氣ハ人身  
ニ最モ緊要ナル明證ナラスヤ空氣ハ目ニ視ルヘカラサレヒ其體質アル  
ヲ水ヲ拒ミ膚ニ障ルニテ知ラレタリ此體質ヲ吟味スレハ二个ノ瓦斯ニ  
テナル酸素一ト窒素三トノ調劑ナリ是ヲ清淨ノ空氣トス動物不斷ノ氣  
息ハ此空氣ヲ吸ヒ内部ニテ其酸素ヲ肺管ノ鼓動ニカケ又胃中ヨリ送り  
タル食物ニ含ミシ炭氣ニ調和シ炭酸瓦斯トナシテ再ヒ呼ヒ出ス故ニ人  
ノ呼吸ハ其吸フ所ニ入ルモノハ酸窒ノ清氣ニテ其酸素ハ内部ニ入リテ  
種種ノ効用ヲアタヘ而テ呼フ所ニ出ルハ炭素ニ抱合シテ炭酸瓦斯トナ  
リ人身ニ効用ナキヲ以テ直ニ輸シ出スナリ試ニ密閉ノ小室又ハ箱内ニ

スリ、居ルヲ數時ナレハ、氣ヲ閉テ死ス、是他ノ故ニアラス、其内ニアル清淨ノ空氣ハ、己ニ吸ヒ盡シ、跡ニハ呼出シタル炭酸瓦斯トナリ、其内ニ充滿スルユヘナリ、凡地上ノ空氣中ニハ、常ニ炭酸瓦斯ノ混スルヲ免レス、其原因ハ種種アリ、或ハ人物ノ呼出ス氣息ヨリシ、或ハ火ノ燄ヨリ生シ、或ハ物ノ腐爛朽敗ヨリ生ス、如此ク炭酸瓦斯ノ生スルヲ多ケレバ、人ヲ毒スルニ至ラサルハ、空氣ノ分量多ク、又風ニ動搖サレテ散シ、又其氣ノ質重クシテ地上ニ沈下スル等ニヨル、且炭酸瓦斯ハ、草木ノ肥養ニハ、反テ第一ノ効用ヲナスモノニテ、凡草木ハ、常ニ葉ヨリ此氣ヲ吸ヒ、其炭ヲ収メテ、木質トナシ、酸ヲ呼出ス、動物ノ氣息ト相反スルヲ以テ、地上ノ炭酸瓦斯ハ、草木ニ吸取テ清淨ナル酸素トナシ、空氣中ニ呼出シ、人ノ滋養ヲ造ルモノナリ、故ニ病院ハ、草木多キ地ヲ選ミ、市塵ノ烟火ヲ離ル、處ヲ選ム、是清淨ノ空氣ヲトルタメナリ、烟突ヲ遠サケ、病室ノ穢氣ヲ交代セシムル設ケヲナスハ、炭酸ノ毒ヲサケルナリ、ミナ府中ニ上水下水ノ管アルカ如シ、患人ニ藥力ヲアタヘル、最第一ナルモノナリ、此理ヲ推考シテ、人ノ居常ニモ、能ク空氣ヲ清

淨ニシ、炭酸瓦斯ヲ除クニ、心ヲ用フルヲ要ス、疫病瘴毒ノ流布モ、此氣ヨリ生ス、病ノ傳染モ、此氣中ニ感ス、是人ノ目ニ視ルヲ得サル所ナレハ、往往ニ知覺セスシテ、自ラ己ニ毒スルモノ多シ、慎マザルヘカラサルナリ、

○新病院ハ、今ノ皇后ノ建タル院ナリ、此日ハ皇后ヨリ、特ニ接伴掛ニ囑シテ、我使節ヲ案内シ、一見セシメ給ヒシ、○此院ハ、一千八百六十七年ニ造起セルモノニテ、庭園宏恢ニ、樹木森沈タリ、屋宇ハ甚タ大ナラス、病室ミナ米國式ノ造作ニテ、病人八十五人ヲイルハ、ヘシ、現ニ六十人ノ入院アリ、此院ニ入ルモノハ、病人ヨリ月ニ一千弗ヲ納メシム、故ニ入院ノ人ハ、ミナ有産ノ人ノミニテ、其接遇甚タ鄭重ナリ、全院ノ費用ハ、其大半ハ、府中ヨリノ寄附ニテ辨ス、○院中ニ禮拜堂アリ、病死ノ人ヲ殯スル所アリ、庖廚及ヒ窖藏ニ至ル迄、ミナ清麗ニシテ、器皿盡ク整備ス、又洗濯室ニハ、五六名ノ女工ヲイレテ、洗濯ヲナサシム、洗濯器械ノ設ケナシ、手ニテ洗濯シ居タリ、此ニ仕使セラル婦人ハ、多ク貴族豪家ノ寡婦トナリタルモノ、施濟ノ爲メニ、此ニ入リテ事ヲ探ルモノナリ、此日我輩ニ院中ヲ接伴セルハ、四十餘ノ婦人ニテ、容止嫺雅ナリ、貴族ノ寡小



君ナリト○此朝モ我輩ニ先タツテ、皇后親ラ病室ヲ見舞リ、歸御アリシ後ナリキ、大抵一ヶ月ニ三四度ハ病人ヲ見回り、問訊アルトナシ、一統此ニ名ヲ題署シテ歸ル、此時ハ飛雪紛紛ニテ、院ノ庭園ヲ一見スルニヨシナカリキ、

○午後ヨリ、博物館ニ至ル、亦高名ナル大館ナリ、其屋造ノ宏大ナルヲハ、英ノ「ブリッチ・ミジャム」ニモ超越スヘシ、館前ニ廣區ヲ存シ、石ヲ斃シ草ヲ種エ、此ヲ匣シ、三面ニ廣廈大館ヲ并ヒ起ス、博物館ハ其一ニテ、殊ニ廣大ナリ、館前ニ徑十八尺ニ及フ、白花剛石ノ石鹽アリ、各國ニテ大石鹽ヲ見タル内ニ、此ヨリ大ナルモノナシ、又二個ノ大銅像ヲ安シ、石階ヲ插ミ相對ス、外面ノ氣象己ニ壯大ナリ、○館内ノ廊廊ハ皆石造ニシテ、磐スルニ密石ヲ以テシ、光滑ニシテ玉ノ如シ、中ニ大小ノ石雕像ヲ蓄フ、其數一千五百ニ上ル、希臘、羅馬ノ古雕刻、各國ニ存畜シ、高名ナルモノハ、皆之ヲ模造シテ、此ニ集畜ス、眞ノ堀出シ古物ハ、其數五分ノ一ニ及ハス、○上層ニハ、油繪ヲ集ム、古今ノ名畫多シ、又銅版ノ墨畫ヲ一兩室ニ蓄フ、此銅版畫ハ伯林ノ妙技ナリ、此樓口ナル壁ニ、古今歷史上ニ有名ナル人傑ヲ集メ畫ケル圖アリ、是ハ甚タ名譽ナル畫ニテ、各國ノ畫師、

古來人傑ノ像ヲ畫クモノハ、此畫ニ就テ、其丰神ヲ摸寫スルト云、古器古物ヲ集メタル室モ數廊アリ、スヘテ器物ノ數ハ、六七千ノ多キニ及フ、陶器モ亦多シ、然レモ皆歐洲各國ノ產ニテ、東洋ノ品ナシ、又三大室内ニ、<sup>アラビヤ</sup>阿剌伯、以東、印度、南洋、東洋諸國ノ物ヲ陳集ス、概シテ粗笨ノ物件多シ、殊ニ南洋諸島ノ部ニハ、枯髑髏アリ、乾キタル肉首アリ、人ノ齒牙ヲ連貫シ、珠子<sup>ジュズ</sup>狀トナセルアリ、ミナ諸島ノ野蠻、常ニ相鬪ヒ、屠殺セシ、仇人ノ首級、齒牙ヲトリ、室中ニ蓄ヘ、服飾ニ用ヒ、其勇ヲ誇耀スル、瘴惡ノ風俗ヲ示セル所ニテ、此室ニイレハ、慘怪久シク見ルニ忍ヒス、其隣室ニハ、日本支那ノ物品ヲ集メテ雜陳ス、此部分ニ於テハ、ヤ、出色ノ物多シ、寔ニ東南洋中ニ於テ、文明國ナルヲ徵スルニ至ル、○埃及ノ古棺、及ヒ石屍モ、亦一室ニ滿ツ、其他石彫、銅器、陶瓶、銅人、玉人、ミナ古今ヲ網羅ス、此等ノ物ハ、英佛ノ備リタルニハ比セサレ、<sup>ヒ</sup>亦能ク、搜羅セリト云ヘシ、

十五日 雪晴薄陰

十時十五分ヨリ、接伴掛ノ案内ニテ、陶器製造場ニ至ル、

・陶器製造場ハ、「チエル公苑」ノ外ナル、河邊ニアリ、元ハ伯林府中ニアリシヲ、七

年前ニ此ニ移セリ、屋宇新築ニテ、且政府ノ保護ニテ建タル故ニ、其規宇甚々  
 大ナルヲ、佛國ノ「セーブル」ニモ超越ス、○陶泥ハ、白石ト鼠色ノ石ト、及ヒ灰色  
 ヲ帶ヒタル石ト、三種アリ、又己ニ碎粉シタル白石末ヲモ資用ス、灰色石ヲ碎  
 シ器械ハ、石臺ノ上ニ、大ナル盤ヲ坐シ、鋼盤上ニ兩個ノ剛石輪ヲ、互ニ輾軋セ  
 シメテ碎末ス、(所謂ル「モーレン」鼠色ノ石ハ、ヤ、堅硬ナルヲ以テ、鍍輪ヲ鍍盤  
 ノ上ニ轉シ、其下ニテ碎ク、二石皆純白ナラサレト、水調シテ陶ヲ捏スルニ至  
 リテハ、皎白トナル、○右ノ諸石末ヲ水淨スル場ハ、其裝置宏大ニシテ、且便利  
 ナルヲ、從來英佛ニテ未タ見サル所ナリ、一二ノ廣場内、ミナ人造石ヲ以テ、甃  
 石ニカヘ、中ニ水流ノ溝ヲ縈回シ、方形ナル水櫃ヲ、同様ノ人造石ニテ造ル、西洋  
 ニテ人造石ヲ作ルハ日本ニテ灰土ヲ石櫃ノ形ハ、猶我神祠ニアル水盥ノ如  
 輦シタル所謂ル叩キ土ノ精ナルモノ、シ、其底ニ樋口アリ、鹽ノ内部ヨリ、螺旋ノ管ヲ貫キ、之ニ「ゴム」ノ蛇管ヲ接シ、其  
 管頭ニ銅管ヲ旋シ、之ヲ鹽椽ニ擡ケカクルヘシ、如此キモノ五六個アリ、第一  
 番ノ鹽ハ、底淺クシテ高シ、此鹽上ニ大ナル桶ヲ横タヘ、桶内ニ輪ヲ回シ、其輪  
 ノ中ニ、石末調和ノ泥水ヲ注入シ、フリマハシカキマハ振轉滾攪スレハ、輪軸内ニ施セル空管アリ、



泥水ハ管ヨリ流レテ、鹽中ニ滿チ、鹽口ヨリ漂ヒ滴リ、次鹽ニ入ル、此時ニ石粉  
ノ粗ニシテ重キハ、ミナ沈澱シ、只其細ニシテ輕キモノ、ミ、水ト共ニ漂ヒテ  
流レ落ル、此口ニ布ヲ張ル、故ニ泥水自ラ漉シ出テ、次ノ鹽ニ入ル、○次ノ鹽ハ、  
稍廣シ、泥水ハ其内ニ流レ鍾リ、久シクシテ石粉ハ水底ニ沈澱シテ、水ハ上ニ  
澄ム、此時ニ鹽内ニ仕掛タル「エム」ノ管ヲトリテ、水面ニ沈ムレハ、水ハ管内ヲ  
傳ヘテ、底ヨリ流レ出ル、水漸クニ盡レハ、管ヲ漸クニ下ケ、水ト石粉ト相分界  
スル線ニ至リテ止リ、管ヲ執テ縁<sup>フチ</sup>ニカクレハ、鹽底ハ皆石泥トナル、其石泥ヲ  
攪セ漉シテ、更ニ第二ノ鹽ニイレ、再ヒ前ノ如クニ澄シメ、其水泥ヲ「ポンプ」ニ  
テ第三ノ鹽ニ集メ、搾泥ノ器械ニテ、其水ヲ搾シ出ス、○搾泥ノ器械ハ「英國」ス  
トットン邑ノ發明ニシテ、兩分スヘキ木箱ヲ製シ、兩面ニ木棉布ヲ圍ヒ、上ニ  
孔ヲ穿チ銃彈ヲ鑄ル型ノ如シ、此箱ハ其厚サ約四寸許ナリ、之ヲ十餘個合セ、  
豎ニオキ、器械ヲ以テ搾スレハ、水ハ布ヨリ沁シ流レ、箱中ニハ石末ノミ殘ル  
ナリ、此泥ヲトリテ平鹽ニモル、○陶ヲ造ルハ、皆英佛ニ全シケレト、陶窯ノ設  
ケハ、全新工夫ノ製ニテ、石炭瓦斯ノ火ニテ燒ク仕掛ナリ、其窯ハ之ヲ樓上ニ

設ケ煉化石ヲ以テ低キ室房ノ如クニ築キ成シ中ニ仕切ヲナシテ數區トナス、猶室内ニ諸房ヲ分ツカ如シ、每區ノ左右ヨリ瓦斯ノ管ヲ引キテ火ヲ送り出ス、凡ソ一面ノ竈ニ六區ヲ分チ、一區ニハ正ニ火ヲイレ、一區ハ已ニ火ヲ退ケテ器ヲ出ス、一區ハ素焼ヲナシ、一區ハ捏成ノ器ヲ陳スル等、展轉遞ニ交換スヘシ、瓦斯ノ根元ハ一管ニシテ螺旋ノ開塞ヲ以テ文武ノ加減ヲ自在ニス、甚タ便利ナルヲ覺フナリ、○陶窯ニ火ヲイレルヲ通常ノ陶ハ十二時間ニテ止ムト云、陶窯ノ口ニハ火候ヲ睨ヒ、試験ノ片ヲ出入スル爲メ、小窓ヲ開キ、傍ニ十二時ノ表盤ヲオキテ、毎時ニ一個ノ試験陶片ヲ抽キ出シテ盤上ニオキ、挨次ニ並ヘサル、是ハ著色ノ料、火候ニヨリ變色ノ狀ヲ察スル所ナリ、○陶器ヲ竈内ニ盛リ積ムハ、紫黑色ノ粗陶ニテ作りタル、外衾ニイレルヲ、英佛ニ同シ、窯口ニ小ナル口ヲ開キテ、黃色ノ玻瓈鏡ニテ火光ヲ望ム、是モ三稜七色ノ中ニ幻スル光帶ヲ見ルナリ、焼付繪ノ窯ハ、別ニ一窯アリ、是ハ薪ヲ以テ燒ク、○此場ニテ製スル所ノ陶ハ、其質分最上品ニハアラサルヒ、化學ノ伎倆ニ用ヒ烈ナル火度ヲ加ヘテ、碎裂セサルヲ以テ、伯林ノ陶器ハ、歐洲ニテ評判ノ

陶器ナリ、○場内ニ人ヲイル、一日ニ三百人、去一个年ニ、陶器原價二十萬弗分ヲ出セリ、職人ノ給料ハ、畫工尤モ豐ナリ、一月二百弗ヲ給スルアリ、其他ハ是ヨリ減ス、最モ劣ル者モ三十五弗ヲ給ス、分柝局アリテ顏料ヲ調合ス、

○集畫館ハ、王宮私宮

前ニアリ、建築ノ宏大ナル、府中ニテ眉目トスル屋觀ノ一ナリ、三層ノ廊房ニ、石刻、畫額ヲ集蓄ス、大抵此ニ集メタル畫ハ、近代及ヒ現今ノ名畫ナリ、此ニ男女ノ人ニ、給料ヲ與ヘ、裸體ニテ立チ、或ハ臥シ、或ハ踞セシメテ、其皮肉筋骨ノ眞態ヲ模寫ス、石雕師ハ泥ヲ以テ之ヲ模造ス、此日ハ一ノ美婦人アリ、裸體ニテ床ニ臥シ、畫工ノ粉本トナレリ、穩臥シテ動カサルヲ、一時半ニテ一休ヲナシ、毎日全樣ニテ、一周日ニテヤメ、或ハ久シキハ、七周日ニモ至ルトナリ、人ノ肉體ヲ寫スコトハ、畫工ノ最モ心ヲ盡ス、伎倆ナリ、然レモ其精ヲ求ムル弊ハ、此醜狀ニ至ル、頗ル厭フヘキヲ覺ヘタリ、

○夜外務宰相「ビスマルク」侯ヨリ招宴

「ビスマルク」侯ハ、一千八百十五年四月一日柏林府ノ出生ナリ、「グッチレセン」交校ニテ、法律學ヲ學ヒ、又語學、交際學ニ達ス、三十三歳ニテ國會ノ議員ニ舉



フレ三十六歳シ時ヨリ、佛國ノ在留公使トナリ、四十四歳ノ時ヨリ、露國在留  
 公使ニ轉任セリ、千八百六十一年、當日耳曼帝維廉第一世ノ代トナリ、再ヒ佛  
 國ノ在留公使トナリ、巴黎ニ使スルト二ヶ月、兩國ノ間ニ往來セル時、己ニ暗  
 ニ國勢ヲ權衡シ、政略ヲ用フルノ志謀ヲ回シタリ、六十二年ノ九月ニ、外國事  
 務長官兼內閣總裁ニ登用セラレ、帝ヲ輔佐シテ、其志ヲ伸ヘ、六十四年ニ、噠馬  
 ヲ破リ、獨逸ノ兩國ヲ復シ、六十六年ニ、墺國ヲ破リ、之ヲ獨逸ノ盟會ヨリ離シ、  
 七十年ニ佛國ヲ破リ、「アルサス」「ロルライン」ノ地ヲ獨逸ニ復シタリ、此侯ノ威  
 名ハ、方今世界ニ轟キテ知ラレタルカ如シ、○本日ノ享會ニ於テ、侯親ラ其幼  
 時ヨリノ實歷ヲ話シテ言フ、方今世界ノ各國、ミナ親睦禮儀ヲ以テ相交ルト  
 ハイヘヒ、是全ク表面ノ名義ニテ、其陰私ニ於テハ、強弱相凌キ、大小相侮ルノ  
 情形ナリ、予ノ幼時ニ於テ、我普國ノ貧弱ナリシハ、諸公モ知ル所ナルヘシ、此  
 時ニ當リ、小國ノ情態ヲ親ラ閱歷シ、常ニ憤懣ヲ懷キシトハ、今ニ耿耿トシテ  
 腦中ヲ去ラス、カノ所謂ル公法ハ、列國ノ權利ヲ保全スル典常トハイヘヒ、大  
 國ノ利ヲ爭フヤ、已ニ利アレハ、公法ヲ執ヘテ動カサス、若シ不利ナレハ、翻ス

ニ兵威ヲ以テス、固リ常守アルナシ、小國ハ孜孜トシテ辭令ト公理トヲ省顧  
シ、敢テ越エス、以テ自主ノ權ヲ保セント勉ムルモ、其箠弄凌侮ノ政略ニアタ  
レハ、殆ト自主スル能ハサルニ至ルヲ、毎ニ之アリ、是ヲ以テ慷慨シ、一度ハ國  
力ヲ振興シ、一國對當ノ權ヲ以テ、外交スヘキ國トナラント、愛國心ヲ奮勵ス  
ル、數十年ヲ積テ、遂ニ近年ニ至リ、纔ニ其望ミヲ達シタルモ、只各國自主ノ權  
ヲ全クスルノ志願ニスキサルナリ、然ルニ各國ハ、ミナ當國ノ兵ヲ四境ニ用  
ヒタル跡ヲ以テ、漫ニ憎惡シ、軍略ヲ喜ヒ、人ノ國權ヲ掠ムルモノト、非議スル  
ト聞ク、是全ク我國ノ志ニ反セリ、我國ハ、只國權ヲ重ソスルニヨリ、各國互ニ  
自主シ、對當ノ交リヲナシ、相侵越セサル公正ノ域ニ住セシヲ望ムモノナ  
リ、從來ノ戰ヒモ、皆日耳曼ノ國權ノタメ、已ムヲ得サルニ用ヒタルヲ、幸ニ世  
ノ識者ハ察スル所ナルヘシ、聞ク英佛諸國ハ、海外ニ屬地ヲ貪リ、物産ヲ利シ、  
其威力ヲ擅ニシ、諸國ミナ其所爲ヲ憂苦スト、歐洲親睦ノ交ハ、未タ信ヲオク  
ニ足ラス、諸公モ必ス内顧自懼ノ念ヲ放ツハナカルナラン、是予カ小國ニ  
生シ、其情態ヲ親知セルニヨリ、尤モ深ク諒知スル所ナリ、予カ世議ヲ顧ミス

シテ國權ヲ完ニセル本心モ、亦此ニ外ナラス、故ニ當時日本ニ於テ、親睦相交  
ルノ國多シトイヘ、凡國權自主ヲ重ニスル日耳曼ノ如キハ、其親睦中ノ最モ  
親睦ナル國ナルヘシト謂ヘリ、交際ノ使臣、相宴會スル際ニ、此語ハ甚タ意味  
アルモノニテ、此侯ノ辭令ニ嫺<sup>オラ</sup>ヘルト、政略ニ長セルトヨク識認シテ、玩味  
スヘキ言ト謂ツヘシ、



第五十九卷 伯林府ノ記中

十六日 陰

十二時ヨリ駕シテ武庫ニ至ル、其建築ハ中央ニ方庭ヲ抱キ、四周形ノ屋造ナリ、門ヲ入レハ庭ニ銅製ノ獅子ノ巨像アリ、高サ丈餘、是ハ昔時馳馬ヨリ普魯士ヲ攻テ勝利ノキニ其戰捷ヲ祝シ、兵器ヲ銷シテ此像ヲ製シ、之ヲ國都ニ建テタリシヲ、一千八百六十四年ノ戰ニ普國ノ馳馬ニ勝チシキ、其像ヲ俘獲シ來リテ此庫ニ納メタルナリ、

西洋各國分立シ、互ニ相競フテ屈セス、數百年ノ久キモ、亦之ニ報スルヲ忘レサルハ、國人其國ヲ愛スル心ノ甚タ篤キ所ニテ、其能獨立ヲ全クスル基本ハ、實ニ此ニアリ、愛國ニ熱心ナルハ、西洋ノ人ハ、東洋人ヨリ甚シキヲ覺フ、合衆國ノ議事堂ハ、英軍ニ捷チタル圖ヲ張ル、故ニ英人ハ此堂ニ入ルヲ悦ハス、白耳義ノ「ワートルロー」ニハ、英人古ヲ吊ヒ來ル者、日ニ絶ヘスシテ、佛人ハ跡ヲ絶ツ、白耳義國ヨリ建タル「ワートルロー」家上ノ獅子ハ、巴黎

ヲ睨ミテ立ツ、佛人之ヲ惡ミテ、破毀セントシタレモ、白人力ヲ極メテ保護シ、永ク其佛國ニ勝タルノ烈ヲ存ス、佛人曾テ普ヲ破リ、伯林ノ「フランドルフエルゲート」上ノ銅像ヲ分捕シテ、王宮ノ門ニオキシヲ、一千八百十五年ノ戰捷ニ、持歸リテ舊ニ復シ、又先年普軍佛都ニ入リシキ、佛都城門ノ銅像ヲ分捕シ歸レリ、勝ツ者ハ之ヲ誇耀シ、敗レル者ハ憤恨シ、一ノ銅像互ニ奪ヒ互ニ復セント、怨恨ノ種ヲウエテ、世ヲ畢ルマテ除カス、抑是ヲ毀ツテ恨ヲ銷サハ、豈他日保和ノ善謀ニアラサランヤ、西洋列國ノ政ハ、民ニ聽テ成ル、血ヲ喋ミテ凱旋スル際ニハ、人氣激昂シ、此等ノ舉ヲ快クスルニ非サレハ、軍氣ヲ鎮スベキナキ歟、將來伯林ノ銅像ヲ、佛人再ヒ之ヲ佛國都ニオカシヲ欲シ、此庫ノ銅像、噫人モ亦之ヲ其都ニ恢復セント欲スル念、曾テ己マサルナリ、是豈終極アラシヤ、

庫内ニ支那砲アリ、是ハ地金ヲ買ヒ入レタルトキニ雜リタルモノナリト、先度佛ヨリ分捕セル、二十五孔ノ砲、百九十九磅ノ大砲アリ、「ワートルロー」ニテ分捕ノ旗、白絹ニ金文ヲ書セルモノナリ、其他諸戰ノ捕獲甚タ多シ、普國ハ二

百年來戰伐甚タ多キヲ以テ、庫中ニテ人ニ誇耀スヘキ物モ亦多シ、歴史ヲ按  
シ、一一ニ詳聞ヲナセハ、多少ノ感觸ヲ生シ益ヲウクヘシ、○此内ニ蓄ヘタル、  
小銃合射ノ車式、其種類甚タ多シ、合衆國「カナデカ」州ニテ發明セル、一千  
八百六十五年製ノ十發銃車アリ、白耳義ニテ同六十五年ニ發明セル、三十一  
孔銃車アリ、其他猶數式アル内、最モ珍奇トスルヘキハ、一○千○六○百○四○年○ニ○造  
レ○ル○六○十○四○孔○ノ○銃○車○アリ、此ハ今ヲ距ル、二百七十年前ナルニ、己ニ此奇巧  
アリ、因テ知ル、今ノ新式モ、其發明ノ端ハ、舊式ニ基キテ進步セルモノナルヲ、  
又三百年前ノ大砲數門アリ、ミナ拙惡ナリ、其後代マテモ、銃身ニ麻綱アシツナヲ卷テ、  
分裂ヲ防キ、或ハ鑄銅ノ砲、空ヲ仰キ石ヲ彈射スル物ナド、古拙ナル砲モアリ、  
古今火技ノ進步ヲ察スベシ、曾テ英ノ倫敦古城内ニテ、一千六百年代ニ製セ  
ル、後裝式ノ銃ヲミル、各國ノ武庫ヲ回レハ、武器ノ歴史ヲ目睹シテ、俯仰ノ感  
少カラス、○樓上ニハ、武器ヲ藏スレモ、輒近ノ廢物、甲冑、劍戟ノ類多シ、其内ニ  
テ實用ノ物ハ、「ニードルゴ」銃萬餘挺アリ、此銃ハ墺國、及ヒ佛國ヲ敗ルニ、功  
ヲ奏セル物ニテ、今ハ更ニ新發明ノ銃アリテ、又之ニ改革シタレハ、是モ亦不



用ノ銃トナレリ、

スベテ國都武庫ノ設ケハ古今ノ武器ヲ備ヘテ弄テス以テ戰伐ヲ表シ、博物ニ存スル所ナリ、當時實用ノ兵器ヲ蓄フ所ハ、別ニ海陸ノ軍ニ、其庫ノ用意アリ、米ノ「スプリングヒル」、佛ノ「ワンサン城」ノ如キ是ナリ、英ノ倫敦古城、「ウオリッキ古城」及ヒ伯林ノ此武庫ノ如キハ、古來ノ功ヲ録セルモノニテ、全國今日ノ兵器ヲ蓄フニハ非ス、此後壤國ノ武庫、及ヒ瑞士「セ子ヴァ」ニモ、同様ノ武庫ヲ一見シタリ、夫古人精血ノ存スル所ハ、言行モ猶書ニ筆シテ、其不朽ヲ謀ル、況ヤ其戰伐ノ劍戟オヤ、武庫ノ古器ヲ撥キ出シ、或ハ之ヲ燒燬ニ付スルハ、野蠻ノ風ト謂ベシ、

○「モンビシュ」城ハ普魯士ノ始王「フレデリヒ」第一世、曾テ此城ヲ作リテ、屯營シタル所ニテ、假ノ宮城ナレハ、屋宇矮ニシテ厩舎ノ如シ、此内ニ耶路撒冷<sup>シエルサレム</sup>セパステボール等ノ雛形圖アリ、又石像、陶器ナドノ什物ヲ藏ス、其内ニ支那日本ノ陶器多シ、「フレデリヒ」第一世ノ用ヒタル、馬車數輛アリ、製作ミナ甚ダ古拙ナリ、其一ハ馬形ヲ造リ、其脊ヲ剝リ人ヲ坐セシメルモノナリ、車蓋ヲ建タル

車ナドアリ、ミナ百五十年前ノ製作ニテ、車廂ヲ受クルニ彈キ金「スプナシ」革  
ヲ以テ鈎シテ激動ヲサクルノミ。○奥ニハ「フレデルヒ第二世」ノ畫像蠟像アリ、  
蠟像ハ首ト手ノミヲ製ス、宛トシテ活ルガ如シ、一箇ノ人首臺上ニアリ、眼  
ヲ開キ人ヲ睨ム、其狀慘怪、西洋古賢ヲ追慕スルニ、此慘狀ヲ作りテ怪マス、風  
俗ノ異モ亦奇ナリ、其他王族ノ蠟人十餘アリ、是ハミナ全身像ニテ、衣ヲ著セ  
テ立シム、ミナ眞ニ迫ル、日耳曼人ハ畫ニ巧ミニシテ、偶像ノ刻ニモ巧ミナリ、  
其伎倆ヲ以テ論スレハ、英國倫敦ニ高名ナル「ベカ街」ノ蠟人形ニ超越スルヘ  
シ、此ニ又當時薩撒國ノ王、宰相「ヒスマルク」、大將「モルトケ」等功臣數人ノ大畫  
像モカ、ゲタリ、

### 十七日 薄陰

朝九時四十分ヨリ駕シテ曹達水製造場ニ至ル、是ハ「ソルトメン」ノ會社ニテ、  
府中ニスヘテ三場アリ、每場ヨリ年ニ百萬壘ノ「セルツ、ワーサー」「ゼルマン」語ニテ曹達水  
ヲ呼フ此ヲ製シ出ス、皇帝、太子、及ヒ宰相等、ミナ是ヲ以テ飲料トスルトナリ、  
ノ如シ、此場ハ其一ニテ、職人ヲイル、日ニ五十人、一日ニ七百壘ヲ製シ出ス、○其製

造スル法ハ、蒸溜水ノ罐、圖徑五尺、高サ丈五尺ナルヲ首トシ、大小五箇ヲ安シ、又水ニ藥ヲ調和スル釜六箇ヲ安ソス、其製造ニハ唧筒ヲ以テ、蒸溜水ヲ鍊罐ノ内ヨリ引キテ、調和ノ釜ニイル、此釜ハ四周ヲ密封シ、數條ノ細管ヲ施シテ、是ヨリ流動曹達、或ハ他ノ藥水ヲイル、釜中ニ車アリ、轉回シ、藥料ヲ水ニ調シ、滾和スルハ半時間ノ後ニ、下ナル龍頭螺旋ヲ弛メテ、堰ニ盛リ、「キルク」ノ栓ヲ急ニ塞キテ、木槌ニテ之ヲ打込ム、一人アリ之ヲ鍊線ニテ緊縛ス、○堰ハ、多ク酒邊ノ廢物トナリタルヲ持來リ、此ニテ盤湯ニ浸漬シ、刷毛ノ車ヲ回シテ、每堰ニ貫キ、中部ヲ洗剝シ、清水ノ桶ニイレ、一洗シテ即チ用ニ供ス、○製スル所ノ曹達水、其尋常ナルハ只「カルボニック・アシット」複炭酸曹達ヲ和ス、藥用ニハ溫泉ノ水ヨリ採リタル、硫鹽ヲ和スルアリ、「マグニット鹽鍊」ヲ和スルアリ、其外種種ノ調劑アリ、日耳曼國中ニハ礦泉多シ、(總說ヲミヨ)此ハ其礦泉ヲ服スルニ代ヘシメント、工夫ヲナシタルモノナリ、

○「プリンチン・オッフィース」ハ、(印書寮ノ謂ナリ)政府ヨリ建テタル寮ナリ、此ニテ國債證券、紙幣、諸證券、郵便切手ヲ印刷シ出ス、四層ノ屋造ニテ、建築新ニ、規模



宏大ナリ○郵便切手ハ印摺ノ紋間ニ凸稜ノ白紋ヲ隆起セシメ宛トシテ彫刻セシカ如シ之ヲ印スルニハ器械ヲ以テ銅版ヲ上下シ下面ニ紙ヲオキ上ヨリ壓スル仕掛ニテ印シ出ス各國ノ銅版印刷ト異ナリ是ヲ切手ノミニテ分派スルアリ又書翰袋ニ印刷シ封皮ニテ分派スルアリ又尋常ノ消息ハ書翰ノ案文ヲ印刷シテ之ニ證印ス印刷シテ分派スルアリ端書紙モアリ○封袋ヲ作ルハ初メ紙ヲ菱形ニ截テ其面ヘ淡墨ニテ二行ノ文ヲ印ス以テ贗造ヲ防キ兼テ用フル人人ニ證印ヲ印スル位地ヲ指示スルナリ此文ニツヒテ證印ヲオシ而テ後ニ其紙ヲトリテ器械ニ上スレハ自ラ折レ封袋トナリ出ツ其器械ノ大略ハ書翰封袋大ノ方孔ヲ穿チタル鎮盤アリ印紙ヲ其方孔上ニオケハ上ヨリ同度ノ方鎮アリ下リ入ルニ從ヒ紙ノ四隅ナル三角形ノ分ハ皆上ニ仰キテ孔中ニ入ル因テ其方鎮ヲ擡ケ再ヒ下セハ此時ニハ最初紙ノ四尖上ニ向ヒテ其尖リミナヤ、伏シタル其上ヲ一壓スルニヨリ自然ニ封袋ヲ折ナシテ盤ノ下ヨリ斜メニ刳出ス○案文ヲ印刷セル端書紙ニハ人間交際ニ於テ普通ノ書狀假令ハ享宴ノ招狀暑寒ノ見回ナド歐洲ニテハ殊

ニ定リタル案文多ケレハ是ヲ印刷シ并セテ證印ヲ押シタル、大幅ノ切手ナリ、是ニ二三字ヲ補ヒ、姓名ヲ記シテ郵便箱ニ投スヘシ、○紙幣ノ製作ハ各國ニテ各其巧ヲ異ニス外國ノ模造ヲ防ク所ナリ、佛國ノ紙幣ハ、紙面ニ畫ヲスカシ出スニ巧アリ、獨逸ノ紙幣モ、略佛ニ同シケレト、當時ニ行フモノハ影寫ノ人面ヲ重疊シ、刷シ出ス巧アリ、是此國ノ新發明ニテ、彩影法ヨリ來ル、影寫ノ人面トハ、同シキ人面ヲ相對セシメ、左右ニ各三四箇、相重疊スルヲ、數燈ノ前ニ、人影ノ映寫セルカ如シ、前ナルハ大ニ、後ナルハ稍小、如此ク次第ニ縮小スルノミシテ、其面貌ハ些モ異ナル所ナシ、此ニ秘訣アリ、摸シ難キ所ナリ、之ヲ印刻スルニハ、玻璃ヲ以テ、其面ニ藥水ヲ塗リ、寫サント欲スル人面ヲ畫ケルモノ、或ハ彩影セル紙ヲ日光ニ映シ、鏡ヲ以テ其影ヲ玻璃面ニ映射スレハ、藥水之カ爲メニ褪消シテ、其影ヲ存ス、因テ「ガルボニツ」水ヲ以テ、其面ヘ銅ヲ燒付レハ、其顔ハ影ノ如クニ、銅面ヘ凸稜ヲ起シ、是ヲ精刻シテ板トナス、地圖ヲ縮寫スルニモ、今ハ此法ヲ用ヒテ、大ニ工ヲ省キテ、眞ヲ失ハサルヲ得ル、紙幣ニ用フル印刻ハ、單ニ此法ノミヲ頼ムニハアラス、更ニ秘術アルヲナリ、故

ニ尤モ價作ニ難シト云、○國價ノ證券ニハ、六色ノ彩色ニテ錯雜ニ印刷セル案文、及ヒ花紋アリ、是ハ六稜角ノ輪アリ、毎角ノ面ニ、一ノ印板ヲ貼付シ、毎面ニ其印刷ノ液色ヲカヘテ、之ヲ印シタルヲ輪次ニ轉シ、券紙ヲ輪下ニオキ、一轉一壓シサレハ、輪軸ノ定規ニヨリ些ノ差異ナク、六色錯綜ノ紋ヲナスヲ得ルナリ、

○暮ニ天文臺ニ至ル、伯林新府ノ南鄙ニアリ、正午測量ノ鏡、大小一个アリ、大ナルハ長サ七尺許、小ナルハ五尺有半、瓦斯ノ火ヲ以テ、車輪ノ中ニ光ヲ通シ、筒内ヲ照シ、兼テ左右輪ノ分度ヲミルヘカラシム、此火光圓鏡ノ中ヲ照セハ、輪面ニ反射シテ、其面ニ刻畫シタル、分度ノ抄毫ヲ映射シ、數倍ノ大ヲシテ、一目瞭然トシテ視ルヘシ、鏡ヲ離シテ視ント欲スレハ、眇小ニシテ認ムヘカラサル、細纖ノ彫刻ナリ、○此臺ニテ、近年發明ノ鏡アリ、以テ星光ヲ照ス、此鏡ハ、ベシマ法ニテ、熟鍍ヲ製スルキニ用ヒル鏡ニ同シ、英國「セツフィールド」此鏡ニテ諸火光ヲ照セハ、其燃料ノ原質ニヨリテ、七彩ノ暈中ニ、種種ノ光帶ヲ幻スルヲ、一條、或ハ二條、三條ニ至ル、之ヲ化學ニ用ヒテ、其効少カラス、更ニ此鏡ヲ以



テ、日星ノ光ヲ照シ、其光ノ原質ヲ窺フト云、此鏡面ニ幻出シタル、光帶ノ圖ハ、己ニ窮理書中ニ印寫シ出セリ、○望星ノ臺ハ、上層ニアリ、瓦斯ヲ燒キ、其餘力ヲ以テ、傍ナル一舍ニ齒輪ヲ轉シテ、之ヲ鏡ノ臺ニ接シ、鏡ヲシテ星行ヲ逐テ轉回セシム、佛國ニテ蒸氣力ヲ用フルト一般ナリ、望星鏡ノ大サハ、正午測量ノ鏡ヨリ廻ニ大ナレ<sup>ニエーカッソル</sup>、英ノ新城府ニ備ヘタル鏡ニハ、一等ヲ讓ルヘシ、綠威、巴黎ノ鏡ハ、遠ク及フ能ハス、此日黃昏ニ水星ヲ照シミシニ、大サ恰モ五六日ノ弦月ノ如クニ見ヘタリ、○此臺ニ輓附スル電線、スベテ二十九條アリ、以テ各國ノ天文臺ト互ニ報告ヲナス、

十八日 薄陰

朝八時半ヨリ駕シテ、府ノ西南邊ナル「フランチカセル」ノ兵營ニ至ル、此營ハ磚瓦ヲ以テ築キタル、五層ノ大屋ニテ、全營ニ七千人ヲイル、ヘシ、屋作新ニシテ美ナリ、中ニ廣庭ヲ抱キ、以テ大隊ノ訓練場トナスニ足ル、伯林ノ四周ニ、兵營甚タ多キ中ニ、此營ヲ最大ニシテ美ナルモノトス、此日一小隊ノ技藝ヲ肆ス、一回、步練ヲナス、一回ス、其後ニ新兵、及ヒ方陳ノ開闔等ヲナス、步足

ノ整整タル進止ノ亂レサル殊ニ目ヲ醒セルヲ覺フ、

兵營ノ内、下ヨリ第四層マテハ、ミナ兵卒ノ止宿スル室タリ、上層ニハ衣服、履工、洗濯屋ヲオキテ、調度ヲナス、兵卒ノ寢床ハ、鋲ヲ柱トシテ、二段ニ齒ヲ設ク、佛國「ワンサン」ノ兵營ト美惡ヲ懸殊セリ、地下ノ窖ニハ、酒肆アリ、下等士官ノ管轄トナシテ、營内ノ兵卒來飲ムヲ待ツ、蓋シ兵卒ノ飲食ハ、一般一定アリ、若シ別ニ欲スル所アレハ、兵給ヲ以テ此ニ就テ買ハシメ、他出シテ恣ニ飲食スルナカラシム、○開展運動ノ場アリ、普ノ運動式ハ、佛式ヨリ簡ナリ、然レモ綱ヲ攀ギ上リ、棒ヲタドリ、四尺ノ梁ヲ超ル等ノ稽古アリ、又革ノ面胴ヲ施シテ、銃劍ヲ講スルヲハ、佛ニ同シ、

○ヘルリヤンシス、トラーヌ街ナル、騎兵屯營ニ至ル、此ハ一面ニ石造五層ノ大館アリ、中ニ壘臺ヲ起シテ、城ニ似タリ、其建築ハ前ノ「フランチカセル」ノ營ヨリ更ニ美ナレモ、其廣サハ四分ノ一ニ及ハサルヘシ、前ニ馬廐アリ、門狀ニ建テタル二階ノ屋造ナリ、下ニ馬ヲ繫キ、二階ニ秣ヲ蓄フ、厩間ノ地ヲ調馬埒トナス、此ニテ輪馳シ、連馳シ、步線ヲ習ハシ、中間ニ柵ヲ植エ、一路ヲ開キ、高サ三

尺餘ノ土梁ヲ起シテ、之ヲ飛越ス。○廐内ニ繋ケル馬六百餘疋アリ、新入ノ兵ハ此ニテ木馬ヲ習ハス、又廐内ニモ馬ヲ調習スル土間アリ。○此ニテモ亦歩線ヲ習ハス、蓋シ騎兵モ時アリテハ馬ヲ弄テ、戰フコアルヲ以テナリ。普國ノ兵制ハ二千八百十四年以來、國中ノ男子、兵器ヲ執ルニ堪ユルモノハ、悉ク兵卒ノ教線ヲウケ、少クモ一年間ハ常備軍役ニ服セシメ、全國ミナ軍人ニ練磨セラル、モノナリ、六十六年填地利ニ勝チ、北日耳曼聯邦ヲ統轄シ、ミナ普國ノ兵制ニ從ハシメ、同盟國ノ總兵員ハ、民口ノ百分一ト定メ、總テ常備軍三十一萬九千八百二十四人、之ヲ率フル士官一萬三千八百〇四人、軍馬七萬三千三百〇七疋ニテ、戰時ニハ増テ七十萬人ニ至ル、當今マテノ兵制ハ、概畧此ノ如シ、去ル七十一年佛國バイエロンウエルサイルバーテンカッセルノ同盟ヨリ南日耳曼聯邦モ、普國ノ統轄ニ從ヒタレト、只巴丁バーテンカッセル埃塞二國ノミ、陸軍ヲ普ニ引渡シ、一統ノ軍令ニ從ヒ拜焉バイエロン。ウルテンベルヒ二王國ハミナ自國獨立ニ兵權ヲ有ス、只普國ニナラフテ改革ヲナシタルノミ、全日耳曼平時ニハ二十九ヶ所ノ鎮臺ヲオキ、其軍屯スベテ三百〇九ヶ所アリ、一旦不虞アレハ直ニ其戰處ニ集ルコトヲ規律



ノ後ハ、未タ全日耳曼ノ兵制ヲ改正スルコアラサリシニ、此後一千八百七十四年二月、軍事總裁「グラーフ、モルトケ氏」全日耳曼ニ四十萬一千人ノ常備兵ヲ増シ、オクヘキコヲ、日耳曼ノ議院ニ持出シタリト、如此ク莫大ノ常備兵ヲオク所以ハ「モルトケ氏」議院ニ演舌セル議ニテ、現今歐洲ノ情實ヲ察スルニ足ルヘキニツキ、此ニ撮略シテ記シ、オクベシ、其議ニ曰、政府タルモノハ、惟儉約ノミヲ主旨トシ、國債ヲ減シ、租稅ヲ薄クスルコトノミヲ慮ルヘカラス、其歲入ノ額ハ、悉ク國ノ急務ニ充テ、國ノ權勢ヲ境外ニ振ハスコトヲ務メサルヘカラス、法律、正義、自由ノ理ハ、國內ヲ保護スルニ足レト、境外ヲ保護スルハ、兵力ニアラサレハ不可ナリ、萬國公法モ、只國力ノ強弱ニ關ス、局外中立シテ、公法ノミ是循守スルハ、小國ノ事ナリ、大國ニ至テハ、國力ヲ以テ、其權理ヲ達セサルヘカラス、今夫レ兵備ノ費ヲ惜ミ、平和ノ事ニ充ルハ、誰カ之ヲ欲セサラン、一旦戰起レハ、多年儉勤セル貯蓄ハ、倏忽ノ間ニ蕩盡スルニアラスヤ、拿破崙帝カ我兵ノ寡ク、軍費ノ乏シキニ乘シテ、此貧小ノ普國ヨリ、一億弗ノ償金ヲ

奪ヒタリ、是自國ヲ衛ル費ヲ節約シ、十倍ヲ以テ他國ノ兵備ニ資セルナリ、方  
 今國內士氣ヲ培養鼓舞シテ、人心一和シ、教化ノ美ナルニヨリ、堅牢ナル基ヲ  
 ナシタレト、只境外ヲ顧レハ果シテ如何ッヤ、太平ノ兆ヲトシ、常備兵ヲ解シ  
 一ハ、後世ニ希望スル所ニテ、固リ當今ニ行フヘキニアラス、先ツ兵備ヲ嚴ニ  
 シ、武力ヲ以テ歐洲ノ太平ヲ護スルヲ專要トス、今我獨逸國ノ爲ス所ハ、歴史  
 上ノ大勢ニ關シ、半年間ニ兵器ヲ勞セル所ノモノハ、半百年間ニ兵器ヲ以テ  
 之ヲ護スルヲ要ス、是實際ニ於テ、人ヲ欺カサル論ナリ、抑我國、幸ニ大捷ヲ得  
 タルモ、適ニ人ノ耳目スル所トナリ、我ヲ親愛スルモノ安クニアルヤ、四隣ミ  
 ナ我ノ強大ヲ畏レ、憎ムコト、惡魔ヲ壁ニカケルカ如シ、其證ヲ舉ルニ、白耳義ハ  
 今ニ佛ニ與スルモノ多ク、獨逸ニ黨スルモノ少ク、獨逸ヲ憚レト、我獨逸ハ佛  
 國ヲ抑ヘテ、白耳義ヲ護スルモノナルヲ知ラス、荷蘭ノ水路疆界ヲ造ル、我國  
 ニ備フナラン、此水路ハ、當代ノ初メニ領略セシコトアルト、實ハ荷蘭ノタメニ  
 ナス所ナリ、我獨逸ニ於テ、豈ニ荷蘭ヲ取コトヲ謀ルモノアラザヤ、馳馬カ海軍  
 ヲ皇張シ、海防ヲ固ムルモ、我獨逸ヲ畏レテナリ、果シテ如此クナラハ、獨逸ハ

露西亞ノ東海岸ヲ掠メ、壤地利モ版圖ニ歸セシムルモノナラシカ、豈ソレ然  
ラシ、殊ニ佛國ハ、近來大ニ兵制ヲ一變シ、曩ニ圍城ノ際ニ、衣服ヲ與ヘ還セシ  
捕獲ハ、佛兵改革ノ萌芽トナリ、其方法ハ、外ハ己ノ意思ニ出ルカ如クスレト、  
内ハ實ニ我制ヲ摸セリ、全國徵兵ノ法ヲ定メ、我十二年ノ兵期ヲ佛ハ二十年  
トナシ、其役ヲ畢リタル者ヲシテ、非常ノ兵隊トナス法ヲ定メ、今戰兵百二十  
萬ニ及ヒ、地方兵丁ハ百萬ニスク、常備兵員ハ、步卒三十六聯隊ヲ増シ、騎兵十  
四聯隊ヲ制シ、砲兵百十九隊ヲマセリ、議院ニ於テハ、國財ノ多小、朋黨ノ別ナ  
ク、一心協力シ、佛軍ヲ皇張スルノミヲ主トシ、軍事主任ノ目的ニ任セ、一千  
七百萬「ターラー」ヲ許シ與ヘ、市廳モ報國心ノ深キニヨリ、練兵場、士官遊會所  
ヲ設ケ、武庫ヲ建タリ、議員、新聞ハ、陽ニ太平ヲ主トスレト、固リ其意ニアラス、  
政權ヲ握ルモノハ、桓桓タル武將ニテ、巴黎ノ人氣ヲ察スルニ、政府モ、人民モ、  
一ニ非常ノ志ヲ抱キ、「オーゲシエ」ノ山脈外ノ景況ハ、只國辱ヲ雪クニテ是唱  
フニアラスヤ、我今其所爲ヲ學ヒテ、増兵ヲ要スルニハアラス、其員ハ只四十  
萬一千人ニテ満足ナリ、諸君ヨク此形勢ヲ熟察セヨ、此ヲ過冗ノ員數トスル



カ其入費ヲ年年ニ與フヘキカ、速ニ決定セラルヘシ、現今ノ形勢ヲ度ルニ、十二年間、亂ナキヲ保チ難シ、一旦平和ヲ隣國ニ失フヲアレハ、速ニ戰フヲ善トス、是他ナシ、我國威ヲ萬邦ニ輝カシ、且我人民ハ名譽勝利ヲ貪ルモノニアラス、只太平ヲ好ム人民タルヲ世ニ顯明ナラシメント欲スルナリ、今此ニ希望スルハ、特ニ太平ヲ保ツノミニアラス、此太平ヲ管領シ、萬國ヲシテ、獨逸ハ歐洲ノ中心ニ位シ、全歐洲ノ太平ヲ保護スルモノナリト謂ハシメント欲ス、是軍備ヲ振整スルニアルノミ、

○電信寮ハ、陸軍ノ管轄ニテ兵卒ヲシテ之ヲ主掌辨理セシム、電報ハ軍機ニ於テ肝要ノ器ナレハ、兵卒ノ内ニ、此技術ニ閑熟セサルヘカラス、且兵卒ハ無事ニ倦ミ易ク、又他ノ技藝ナケレハ、他日ノ生活ニ術ナシ、此等ノ爲メ便利ヲナサント、此仕組ヲナセリ、○寮ノ屋造ハ、英國ノ上ニ出ル、スヘテ四層ナリ、電器ノ設ケハ、各國ト同シ、遠方ノ報知ニハ、畫引ノ文字ヲ用フ、文字ヲ印シ出ス器械ニテハ、技術最モ閑熟セザレハ、紛誤ヲ生スル多キヲ以テ、多分ニハ設ケス、各國モ各地ヨリノ電線ヲ表格ニ集メ、一目ニ瞭視シ易カラシメ、若シ其線ノ

響カヌトアレハ、表ニ栓ヲサシテ、其線ヲ止メシムル、是ハ表格ヲ司ルモノニ  
テ、之ヲ主掌ス。○樓上ヨリ、電報ヲ下層ニ送リテ、使ヒノ者ニ付スルニハ、空氣  
管ノ設ケアリ、英米ニテハ昇降ノ挾ミ板、地底ニ施セル空氣管モアリ、是ハ一  
千八百六十四年ニ、日耳曼人始テ發明シタルヲ、英人倫敦ニ仕掛ケテ用ヒタ  
リ、其後ニ伯林ニモ用フルトナリヌ、然レモ伯林ノ電報ハ、倫敦ノ夥多キカ  
如クナラサルヲ以テ、常ニ用フルトハ希ナリト云、第二編第二  
十四卷ニ出

○造幣寮ハ、其建築佛國ノ大ナルニ及ハサレモ、頗ル工力ヲ費シテ建テタルモ  
ノナリ、太子宮ノ近傍ニアリ、溝渠ヲ隔テ、王宮ニ向フ、近年貨幣ノ改革ニ因  
リ鑄造盛ノナリ、黃金地金ハ四千「ターラー」ヲ一棹トセルモノ、スベテ五六百  
本アリ、銀ハ囊ニ盛リテ堆積シタレモ、其量却テ少シ、職人ヲイル、日ニ二百  
人、四十馬力ノ蒸氣輪ヲ設ケ、一器ノ力ニテ、一日ニ二百「フランク」佛語ニ譯シ  
テ其價ヲ云  
ヘルナリ「フランク」ヲ造リ出ス。○金幣ノ鑄造ハ、銀幣ニ比スレハ、工ヲ經ル  
ヲ鑄ルニハアラス、「フランク」ヲ造リ出ス、○金幣ノ鑄造ハ、銀幣ニ比スレハ、工ヲ經ル  
精詳ナリ、已ニ「ロール」ニ展ヘ、圓規ニ切り出シテ、後ニ之ヲ秤スルニ、數回ノ手  
ヲ經ル、第一度ノ秤衡ニテ、重キモノハ其面ヲ削リテ平均ナラシメ、之ヲ他ニ

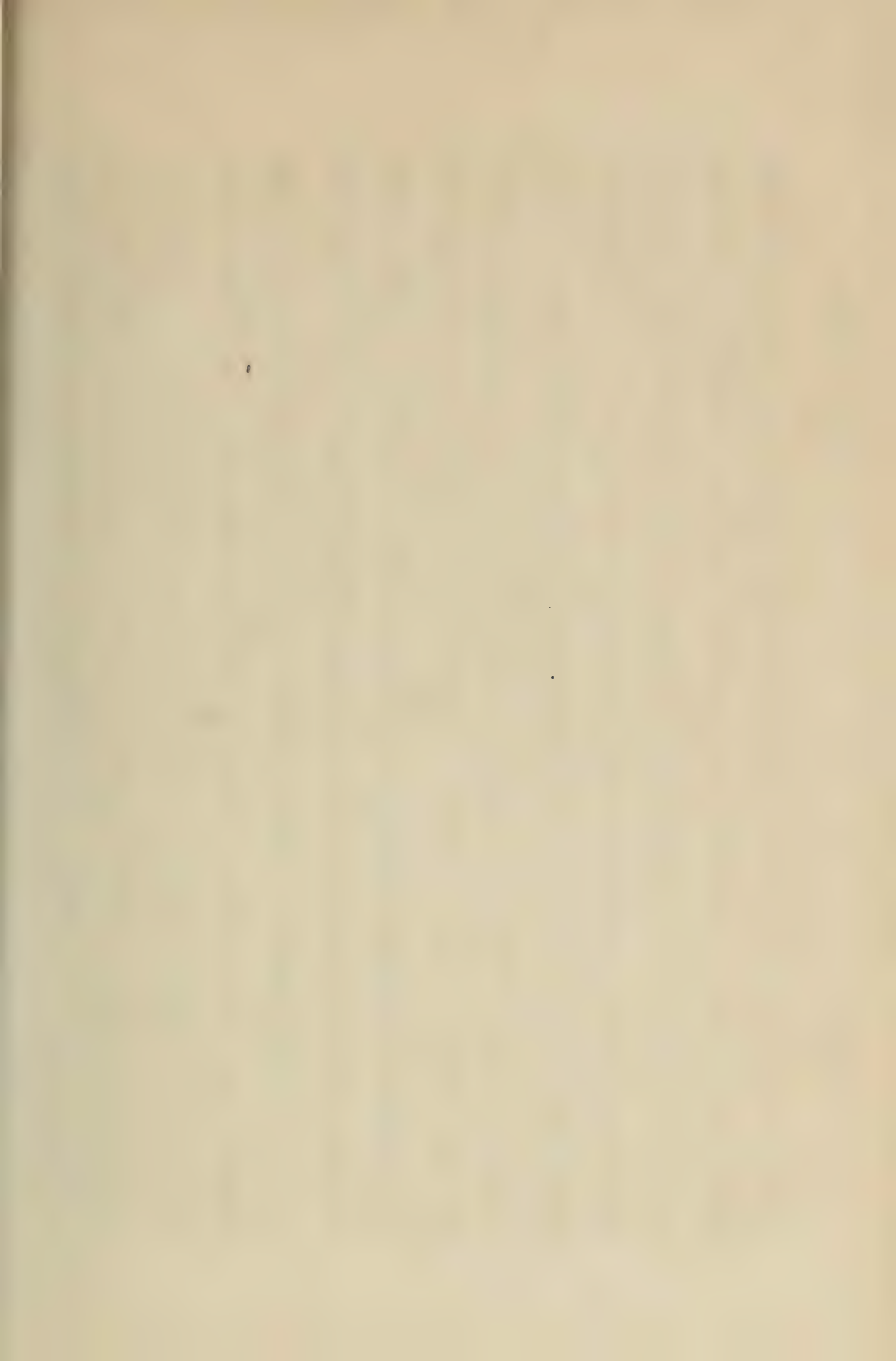
送り致セハ、第二度ニ精密ノ秤ニカケ、鑪ヲ以テ更ニ重キ分ヲ削リテ、些少ノ差ヲ平均ス、第三度ニハ、十箇ヲ一秤ニテ衡シ、輕重ノ差ヲ六等ニ分チ、彈キ出ス器械ニ上ス、此器械ハ、埃國ノ發明ニテ、工思ヲ運スル甚タ精妙ナレハ、言説ノヨク詳カニスル所ニアラス、一箇ニテ其價二千五百「ターラー」ナリト云、〇三秤セル後ニ、其金幣ヲ型ニイレテ、其周輪ノ縁ニ文ヲ印シ出ス、此器械ハ横ヨリ挾ミテ、輪圍ニ凸字ヲ起サシム、佛幣ノ周圍ニ凹字ヲ打込ムヨリモ機巧ナリ、又此施工ノキニ、周輪ノ規ヲ定ム、若シ些モ大ナル所アレハ、其金圓ハ型ヨリ出テ傍ナル孔ヲ傳ヘ落ルキ、其孔ニ入ルヲ得スシテ止ルナリ、掇孔ヨリシリ出タルヲ取テ、希硫酸水ニテ一洗シ、銅盤ノ中ニ盛リ、磨澤ヲ加ヘテ後ニ、兩面ニ文字畫紋ヲ打出ス、〇是ヨリ分析察ヲ一見ス、白金プラチナニテ製セル小壺ヲ示ス、諸金類中ニ、強酸ニ壞爛セサル質ハ、白金アルノミナリ、故ニ他ノ金ヲ酸液ニ浸シ、烈火ニ煮ルニハ、白金ノ壺ヲ用フルナリ、其製ハ各國普通ナレハ、鐵記セス、又各國ノ貨幣ヲ集メタル房アレト、時迫リテ往キ覽ス、〇日耳曼ノ貨幣ハ、四ノ王國、二ノ上公國、ミナ之ヲ鑄造ス、此度ノ改革ニテ、四國ミナ同法ノ



幣ヲ鑄ル、只其面ニ印スル所ノ像ハ、各其國ノ王ヲ畫ケルノミ、日耳曼中ニ八  
ヶ所ノ造幣寮アリ、普魯士ニ三ヶ所、スヘテ月ニ百七十五萬箇ヲ造成ス、其内  
ニ伯林ノミニテ百萬ヲ出ス、全國ニテノ最大ノ場ナリ、拜焉國ハ「ミュンヘン」  
ニテ二十萬箇ヲ造成ス、薩撒國ハ「ドレスデン」ニテ十八萬箇ヲ造成シ「ウルデ  
ンベルヒ國ハ「スチューツガル」ニテ十萬箇ヲ造成ス、ミナ金銀兩幣ヲ并セタル  
筭ナリ、巴丁國ノ「マンハイム府、梅格稜堡國ノ「シュウエーリン府ニ於テ、造成スル  
銀幣ノ高、合テ九萬箇ナリ、總計一月ノ出ス所二百二十萬箇ナリト云、

十九日 陰

二十日 雪ヲ飛ス



二十一日 陰

午後三時ヨリ、駕シテ牢獄ヲミル。○伯林ノ牢獄ノ周備セルハ、早ク聲譽ヲ播セシモノナリ、瀛環志略ニモ己ニ其場所ハ「プランドルフエルゲート」ノ門ヲ出テ、西北十町餘ノ邊ニアリ、外垣内屋ミナ煉化石ニテ建築ス、外垣ノ高サ丈五尺ニ及フ、上ニハ赤瓦ヲ葺ク、日本ノ塀ニ全シ、是ニ樓門ヲ設ケ、銃戸ヲ以テ鎖鑰ス、門内ニ廣庭ヲ設ケテ、其前ニ官衙アリ、官衙ノ奥ヨリ、八稜角ノ半形ニ、五條ノ牢屋ヲ建ル、牢ノ建築ハ、ミナ地下ヨリ五層ノ屋造ナリ、其形式ハ米國費拉特費ヒサナシヒヤ、英國漫識特府マンシトノ牢ニ同シ、牢牢スヘテ五百〇八室アリ、己決ノ罪囚ヲ此ニイル、即チ懲役場ナリ、現ニ入牢ノ罪人四百九十人、女牢ハ別區ニアリ、此牢ニカ、ル諸官吏ハ、門番ニ至ルマテ、スヘテ四十九人アリ、費用ハ入牢ノ罪犯一人ニ付テ、一年ニ九十三弗ヲ用フ、半額ハ官費ニテ補ヒ、半額ハ罪人ノ工作ニテ償ハシム、牢中ニテ職業ヲ課スルハ各國ニ同シ、○牢室每一個ニ、



一人ツ、ヲ入ル、牢室ノ中ハ諸器械ヲ用フル、自在ナリ、各室ヲ開キ、罪犯ノ居住セル様子ヲ示セシニ、茵蓐食器ミナ備ハリ、玻璃ヨリ明ヲヒキ、夜ハ瓦斯燈ヲ點スヘシ、又籠鳥ナドヲ養ヒテ玩フモノ多シ、一犯アリ、己ニ入牢十一年ナリ、是ハ人家ヲ焼タル罪科ニヨリテ、十二年ノ入牢ヲ科セラレタリト、凡ソ放火ノ律ニ付テ、東西洋ニ大ナル事情ノ間違ヒアリ、西洋ニテ人家ヲ焼キ、其罪ニ服スレハ、其代ヲ償ハシム、往往ニ數萬金ニ及フ、故ニ其人ノ財産ニテ抵當セサレハ、入牢苦役ヲ以テ之ニ抵償ス、米國ノ一士費拉特費府ニ於テ、十二年ノ入牢ヲ科セラレタルモノアリ、其人生平讀書ヲ好ミ、或家ニ寓居シ、讀書ニ耽リ、「ストップ」ノ火ヲ漫ニシテ、其家ヲ燒ク、因テ此罪科ヲ受ケタリトナシ、此等ノ罪犯ハ、放火律ニカ、ルト雖<sup>タツ</sup>モ、其實ヲ原ヌルニ、我邦ノ盜竊、火災ノ擾亂ヲ倖ヒニ、財寶ヲ盜マント巧ミタル、放火ノ罪トハ、大ニ其實ヲ異ニセリ、此牢ニモ放火犯ノモノ二人ニ面接セリ、ミナ共入牢永シ、其人ノ動作ヲミルニ、未必モ盜竊ヲ事トスルニ非サルニ似タリ、○牢ニ連リテ學堂アリ、說教壇アリ、此ニ罪犯著席ノ榻ヲ層層ニ設ケ、其式兩様アリ、輕罪ノモノハ、專堂學堂ノ

如ク、榻ヲ列ネテ聽聞セシム、重罪ノモノハ、一人ツ、板ノ仕切ヲナシ、此ニ著席シテ、講釋ヲ聞カシム、是ハ其罪犯ノ互ニ交際スルヲ禁止シ、弊害ヲ閑防スル所ナリ、又罪犯所用アルキハ、牢番ニ陳辭シ、牢内ヲ徘徊スルヲ許セヒ、牢室ヲ出ルキニ、牢番ヨリ覆面巾ヲ被ラシメ、他人ヲシテ其面ヲ認ルヲナカラシムトナリ、學堂ニハ、大抵諸科ノ教師ヲ備ヘテ來講セシム、說教ノ壇ニハ、十字架圖ヲ掲ケ、樂器ノ設ケアリ、此ニテモ板ノ仕切ヲ設ケテ、重罪ノ人ヲイル、設ケヲナセルヲ、學堂ニ同シ、

牢屋ノ最下層ニ於テ、懲具ヲ備ヘタル室アリ、懲具ニハ、カリマタ雁又アリ、是ハ入牢ノ罪犯、モシ番人ニ手向ヒヲナスキハ、銃ヲ以テ射殺ヲ許ス法ナレヒ、人命ヲ重ソスルカ爲メニ、成丈ハ此又ヲ以テ、壁ニ押付ケテ取押ヘル用ナリ、一ノ木臺アリ、革ヲ以テ其上ヲ茵覆ス、罪犯牢内ノ規則ヲ違犯セルキハ、此臺上ニ伏セシメテ鞭ツ具ナリ、近四年來ハ廢シテ用ヒス、又厚キ革ヲ以テ製セル服アリ、是ハ罪犯ノ暴行ヲナスカ、或ハ怯ニシテ自殺スルノ心アルモノナドニ、此服ヲ衣スレハ、兩手ヲ緊束シテ、運用ノ自由ヲ失フ、罪犯懶惰ニシテ、課ニ怠ルモ

ノヲ入レ、懲治スル室アリ、室内ニ木床木枕ヲ設ケ、他ノ需用具ハ備ヘス、此ニ  
 イレテ窓ヲ鎖闔スレハ、室中常ニ黑夜トナル、此ニイル、一五日乃至七日ノ  
 懲治ヲナス、若シ猶改メサレハ、又一室アリ、此ニハ三角ノ木ヲ密布シテ床ト  
 ナシ、室内ニハ寢床モナク、四壁堅滑ニテ、物ノ攀ベキモノナシ、罪犯ヲ跣足ニ  
 ナシテ此ニイレオク、皆牢内ニアリテ惡行ヲ働キタル罪犯ヲ懲治スル所ナ  
 リ、○此牢ヲ造營スルニ、五十萬弗ヲ費シタリ、伯林ノ獄トテ、世ニ音高ク、其後  
 米國費拉特費府ノ人、之ニ摸倣シテ、潤色ヲ加ヘ造營セシヨリ、遂ニ英佛諸國  
 ニ及ヒ、近年ニ至リ、諸國郡漸クニ各國ノ式ヲ潤酌シ、改築スル所多ク、牢獄建  
 築ノ學ハ、一科ヲ開クニ至レリ、

米國費拉特費府以來、牢獄ヲ見シ、甚タ多シ、皆各國ニテ、最モ周備シタル  
 名譽ノ牢獄ニテ、己決ノ罪犯ヲイル、懲役場ノミナリ、未決罪犯ノ死刑ニ  
 モ處スヘキモノヲイル、牢ニハ非ス、米國桑方西斯哥<sup>サンフランシスコ</sup>及ヒ「カンザーキーム」  
 ニテ、一行ノ内ヨリ、裁判所ノ牢獄ヲミタルモノアリ、此ハ未決ノ重罪人ヲ  
 イル、牢ニシテ、其嚴重ナルヲ、廣室内ニ、石室ヲ作り、上ニハ大石板ヲ覆ヒ、



中ヲ區畫シテ室トナシ、寢席ノ外ハ一切器械ヲアタヘス、牢戸ヲ閉レハ、室内闇黒ニテ、便溺モ室内ニテナサシム、背後ニ灰土ヲ鞏固セル溝アリ、汚物ハ此ヨリ流レ出ル、番人ヲシテ常ニ清淨ニ掃除セシメ、且滅臭ノ法、通氣ノ利セルヲ以テ、汚穢ヲ免ル、牢戸ハ鎖ヲ以テ製シ、一小方孔ヲ開ク、此ヨリ光線ヲイル、ノミ、此孔ニ鎖扇ヲ施シテ窓ナシ、其扇ヲ開キテ机ニカヘ、聖經ヲ讀ムヲ許ス、又喫煙モ許ストナリ、牢室己ニ嚴重ナリ、更ニ其外室ヲ嚴鎖シ、隅ニアタリーノ凸窓ヲ開キ、牢番ノモノ此ニアリテ、晝夜守衛ス、其外ノ出入口ニハ、守犬ヲ養ヒ、罪囚モシ逸スルヲアレハ、吼ヘシメルヲ馴ハス、重罪ノ人ヲ待ニハ、其嚴重ナルヲ宜ク如此クナルヘシ、憶フニ他ノ諸國ニモ、如此キ牢アルヘシ、但シ使節ノ觀ニ供スヘキモノニ非サルヲ以テ示サ、ルナリ、

## 二十二日 陰

此日ハ、皇帝ノ天長節ニテ、帝宮ニ於テ、宴ヲ賜ハリ、府中ミナ旗ヲ揚ケ、夜ハ各店頭ニ、瓦斯ノ火ヲ以テ、花紋文字ヲ畫キ出シ、或ハ各彩ノ火烟ヲ燒キテ、街頭

ニ嵩呼萬歲ヲ唱へ、四街ノ燒燈、眞ニ白日ノ如クナリキ、

## 二十三日

朝十時ヨリ小學校ニ至ル、生徒ヲイル、一千人、政府ヨリ設ケタル大校ナリ、  
 ○夕ニ「ユニヴァルシチー」ニ至ル、高名ノ大學校ニテ、生徒二千人ヲイル、其外不  
 規則ニテ出席スルモノ千餘人アリ、教講ノ室二十五、教官スベテ六十五人、造  
 營ノ廣大ナル「ウンテルデソリンデソ」街中ニテモ、第一ニ矚目スル建築ナリ、  
 ○生徒試験ノ後ニ、進等ヲ申渡ス堂アリ、此ニ一千八百十三年ヨリ、十五年マ  
 テ、佛國トノ戰ヒニ、學校ノ生徒ヨリ出軍シテ、討死セシ人人ノ名ヲ、金字ヲ以  
 テ大牌ニ勒シ掲ケタリ、今度佛國ヲ攻ルノ役ニモ、亦出軍シ戰死セルモノ、  
 爲メニ當時其牌ヲ造ラントスルト云、○三層ノ樓上ニハ、禽、獸、蟲、魚、鼈ヨリ、  
 卵、蛋、巢窩ニ至ルマテ、採訪搜羅シテ、是ヲ十餘ノ大室ニ蓄フ、荷蘭國來丁邑ヨ  
 リ、更ニ盛ナルヲ覺フ、其内ニテ奇異ノ動物モ、數ヘ難キ内ニテ、最モ奇ナルハ、  
 前世界ノ鳥卵トテ、人頭大ノ卵アリ、南亞米利加<sup>ブラシル</sup>ノ伯爾西國ニ産スル水禽ニ、  
 翼アリ飛スシテ水居スルモノアリ、其毛羽甚タ美ナリ以テ、服飾トナシ、甚タ

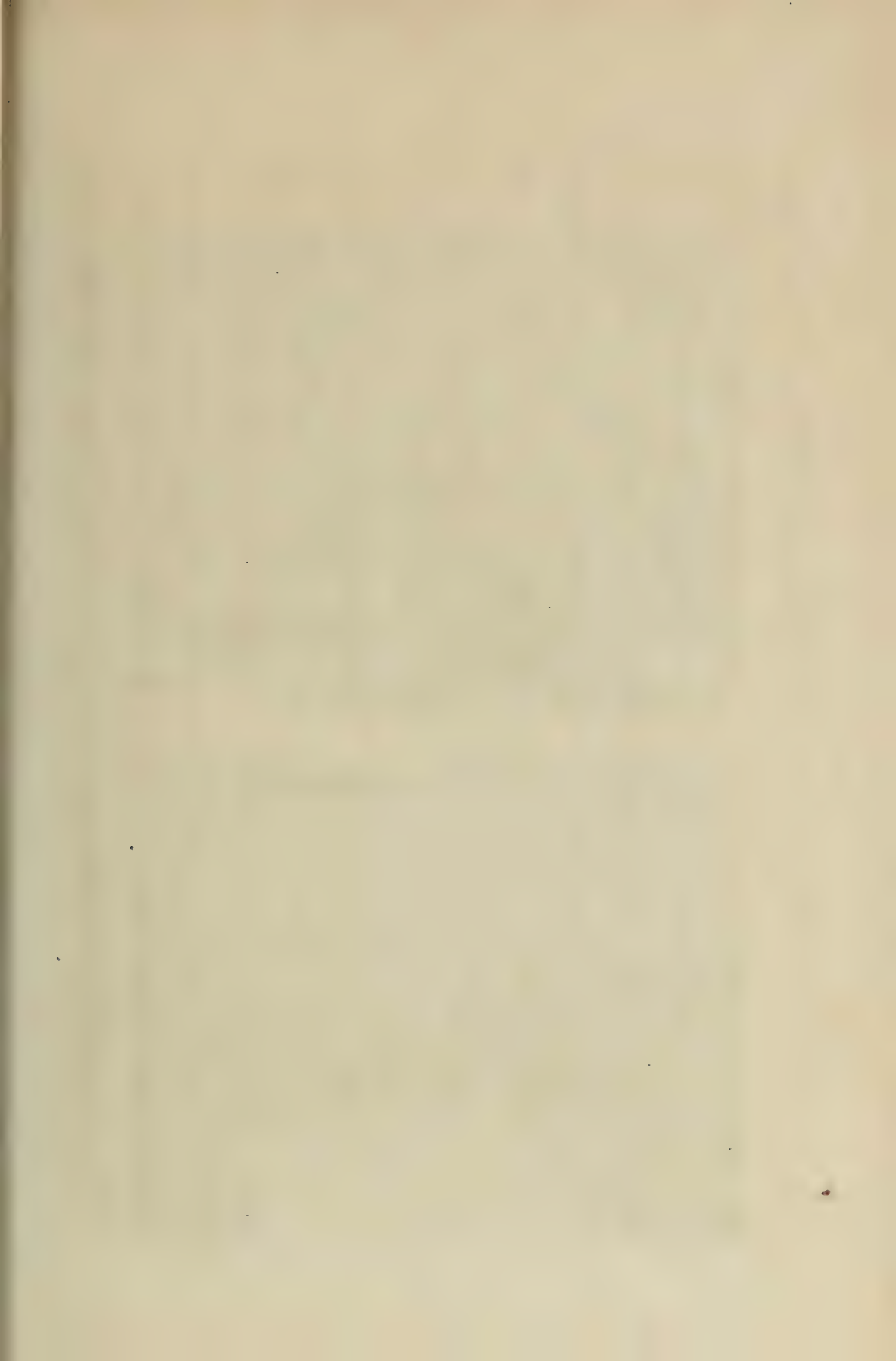
伯林大學校  
ユニヴァーシティ



同建築學校  
「スプレー」運河向岸  
ニ博物館ミユ







貴重ノ價アリシヲ以テ、土人之ヲ獵シ、遂ニ其種ヲ盡シタリ、近年伊太利王ヨリ百萬「フランク」ノ價ヒヲ以テ、其一疋ノ全羽ヲ買取レリ、此校ニモ其全鳥ノ羽ヲ藏セルヲ、教師取出シテ示シタリ、其他ノ奇禽、羽毛、其華麗ナル花ノ如キモノ甚タ多シ、○礦石ノ室モ亦十餘室アリ、天ヨリ墮タル石ヨリ、百種ノ礦石、化石等、珍奇ヲ盡セリ、

○夕五時ヨリ諸省ノ長官ヲ招キテ「ホテル」ニ於テ招享ヲナス、  
二十五日 晴

十二時ヨリ駕シテ消防社ニ至ル、伯林府ニ布置セル消防ノ社ハ、其屯所ノ大ナルモノ五ヶ所、小ナルモノ四十ヶ所アリ、此ハ其五ヶ所ノ一ナリ、常ニ消防丁三百人、士官五人ヲシテ勤番セシメ、日日ニ繰練ヲナス、兵卒ト相似タリ、服ハ紺衣銀釦ニテ、黒革ノ兜ヲ冠シ、手ニ雙頭ノ鎌、或ハ鉞ヲ持シ、隊長アリ、樂隊アリテ、指揮ヲ聞テ一齊ニ働ク、スヘテ四十八時ツ、勤番シテ一交ス、○此ニテ消防丁ノ繰練ヲナシテ示セリ、其技術ハ步練ト、開展運動トノ兩科ナリ、開展運動ハ、スヘテ屋ニ上リ、馬ヲ超越シ、塀ヲ跳上スル等ノコヲ習ハス、梯子ハ

丈五尺許ニテ、頭ニ鉤アリ、其鉤ヲ窓ニ掛ケテ、梯ヲ攀上ル、甲上リテ窓ニ至レハ、窓ニ据リテ乙ノ梯ヲトリ、上層ナル窓ニ掛ケテ又上ル、乙ハ第一ノ窓ニ至リ、又如此クニシテ丙モ上ル、失火ノ電報アレハ、即チ馬車ニ駕シ、消防ノ具ヲ車箱ニ備ヘ、一隊叙ノ如クニ車ニ上リテ、門ニ面シテ立ツ、門開ケハ即チ馬ヲ驅セシメ、逸驅シ赴ク、此日偶失火ノ電報アリテ、ミナ疾急ニ用意ヲナシタルニ、小火ニテ、他ノ小社ニテ鎮防餘力アルヲ以テ出テサリケリ、

○夫ヨリ伯林ノ府廳ニ至ル、此ハ近年ノ新造營ニテ、普魯士流ノ煉火石ヲ以テ彫畫藻續ヲナシ、外表ヲ飾リ、内景ハ石ヲ以テ作ル、石柱、礮石、ミナ其美ヲ盡シ上宇周壁ニハ、畫彩爛然タリ、其費用八十萬弗ヲ費セリト云、伯林ノ屋作ハ、煉火石ニテ花紋ナドヲ隆起セシメ、種種ノ飾リヲナス、他ノ諸國ニテ見サル所ナリ、伯林ノ磚瓦製作場ノ新發明ニテ、煉火石ニハ中ニ方孔ヲ明ケテ、中空ノ方瓦ヲ製ス、如此クスレハ、火度均平ナルヲ得テ、瓦質甚タ堅牢ナリト云、

○夫ヨリ漁業會社ノ展覽場ニ至ル、本口ハ開場ニテ、皇帝モ臨御アルヘキヲ以テ、其時刻ニ至ランヲ接伴掛ヨリ期約アリ、場ニ至ルトハ、男女ノ群集己ニ



夥多シ、少<sup>シバコフ</sup>焉アリ、皇帝、及ヒ皇族ノ婦人ト、共ニ通常ノ服ニテ臨御アル、場内ハ群集ニマカセ、曾テ人ヲ拂フコトモナク、隨員三四名、簡易ニテ正門ヨリ入御アリ、場内ノ人ハ、兩側ニ片寄リテ、一條ノ道ヲ開キ、敬禮スルノミ、君民交和シテ相親ムノ狀殊ニ感悅スヘシ、我使節一行モ、同様ニ敬禮ヲナシタレハ、皇帝大使ニ向ヒ、溫問ヲ賜ハリキ、○場内ニハ、生魚ヲ生鮮、或ハ乾藏物ニテ、各種品列シ、漁舟、漁具、海岸ノ雛形ヨリ、近國ノ漁具ヲ備ヘ、并セテ南東洋ノ漁業ニ及フ、日本ノ風帆船、及ヒ漁舟ノ雛形、漁家、及ヒ海濱酒樓ノ雛形モ陳列シタルハ、實ニ感心スヘシ、歐洲ニテ漁業盛ナル國ハ、<sup>ノルウェー</sup>那威ニテ、之ニ次クハ瑞典、<sup>ポールスタイン</sup>噠馬、荷蘭、日耳曼ノ北部ナリ、露西亞ノ漁利ハ、黑海ニアリ、荷蘭ノ漁舟ハ、英國ノ小船ヲ摸シテ、輕小ニ製セルヲ、日耳曼ニモ倣ヒ用フ、瑞典、那威ハ、兩國各船製ヲ異ニス、網ヲ編スルニハ器械アリ、兩三年來ハ、一般ニ其網ヲ用フ、<sup>ポールスタイン</sup>黑城ニ於テハ、漁網ノ製造所ヲ設ケ、木棉、麻絲、兩樣ノ網ヲ製造スルトナリ、其外釣鉤、釣竿ヨリ、海濱ニ網ヲ下セル縮形ヲ造レルモノナトアリ、○地下ニハ、石ヲ以テ密室、魚池ヲ造リ、鮮魚ヲ氷ニテ蓄フ、海舟ノ伯林ニ達スルニハ、數日ニテ始テ達ス、

海生ノ鮮魚ヲ食フニ、容易ナラサルヲ知ルヘシ、池ニ河魚ヲ養育スルヲ、獨逸、墾地利ニテ、大ニ行ハル、此審室中ニ、魚卵ヲ清水中ニテ動搖媒合セシメテ、孵化スル設ケアリ、荷蘭ノ奄特坦<sup>アムステルダム</sup>ニテ見タルニ同シ、漁業ノ制、養魚ノ方近年歐洲ニテ次第ニ精密ニナリ、北海、ホルチック海ニ、漁業ヲナスモノハ厲禁アリテ、魚ノ減少スルヲ防キ、漁業學并セテ養魚ノ學アリ、獨逸、露國、特ニ進歩セリト云、文明各國ノ生理ニ用心ノ周密ナル、利用貿易ノミナラス、厚生ノ道、ミナ考究ヲ盡サ、ルヲナキ、此類ナリ、

○夫ヨリ「モアピート」ノ製鍊場ニ至ル「モアピート」ハ府ノ西北ナル村ニテ「スプレー」河ノ下流、チエル園ノ北ヲ流レル北岸ニアリ、此ニ製鍊場ヲ設ケ、某氏ノ私社ニテ、其家ノ取立タル場、スヘテ四ヶ所アリ、スヘテ日ニ三千人ノ職人ヲイル、此ハ其一ニテ、七百人ヲイレ、九百馬力ノ蒸氣輪ヲ仕掛ケタリ、其製作ハ人工ニテ鍛冶シナスヲ、蒸氣器械ニテ成スモノヨリ多シ、スヘテ蒸氣車ノ機械ヲ作ル場ナリ、

此場内ニ玻璃ノ大窖アリテ、百種ノ花ヲ植エ、正ニ躑躅<sup>ツ、ジ</sup>ノ花満開ニテ、種種ノ

花ヲ錦ノ如クニ開キテ、窖中甚々華然ナリ、高塔ヲ作り、巨樹ヲ其内ニ植ユ、熱帶ノ樹ヲ窖養ス、府中ニ用フル花ハ、此園ヨリ賣リ出スモ、最モ多シ、府中遊觀ノ一場ニテ、政府ヨリ助力スルトナン、

二十六日 晴

近口ハ連晴、氣候温暖ニシテ、和風駘蕩ノ象アリ、春服ヲ促セリ、室外ノ溫ハ、六十度ナリ、

二十七日 晴

十一時半ヨリ、皇帝ノ乗用蒸氣車ニテ、西南ノ驛ヲ發シ、二十餘英里ヲ走リテ、「ボツダム」府ニ赴ク、沿途ミナ平坡ニテ、沙壤多ク、松ヲ植エタル林岡多シ、「ボツダム」府ハ、「フランドン」堡州<sup>ベルビ</sup>「ボツダム」縣ノ首府ニテ、并セテ州ノ首府トナス、府中ノ人口三千七百八十四人アリ、普國王ノ祖先「フランドン」堡候タリシ<sup>件</sup>ニハ、此ヲ居城トナシタリ、後伯林ノ都ヲ開キシ後モ、別宮トナセリ、且此邊ニハ丘阜起伏シ、沼湖アリテ環繞ス、普國ノ地ニハ平野多ク、殊ニ伯林ノ近傍ハ、ミナ平野ニテ、絶テ景勝ナシ、此地ノ山水ハ、風景殊勝ノ地ナルヲ以テ、國王



貴族ミナ別宮莊墅ヲオキテ、納涼遊衍ノ地トナス。湖ニツヒ岡ヲ占メテ、王宮數ヶ所アリ、先ツ貝珠殿ニ至ル、

○貝珠殿ハ「フレデリ」第二世ノ建タル宮ナリ、一千七百六十三年ヨリ、六十九年マテ、七ヶ年ニテ成ル。普國此頃ハ、壤地利ニ兵ヲ用ヒ、國內カ瘴レタル後ニ、築ケルモノナリ、然レモ此邊ノ諸宮中ニテ、尤モ大宮ナリ、宮中ノ室房二百餘、今日ノ回覽セル所ハ、其五十ニスキス、前ナル庭園ニ石像ヲ建ル、四百餘、前後ノ王宮ニ石像ヲ叢立スル、如此ク多キヲミス、○宮ノ正面ノ堂ハ、柱壁ミナ貝ヲ以テ裝飾シ、中ニ珠玉ヲ嵌ス、夜間ニ燈火ヲ點スレハ、其光ハ貝面ニ反射シ、炫爛相映シテ、甚タ親美ナリト、此ニ二十年前、露國ヨリ送りタル陶瓶アリ、高サ六尺アリ、室房ニハ諸名器ヲ飾ル、他ノ王宮ト一例トナリ、中ニ「フレテリ」ビ維廉第一ノ居寢アリ、多ク名畫ヲ蓄フ、此王ハ甚タ犬ヲ愛セリ、其居榻アリ、犬ノ嚙ミキリタルマ、ニテ存ス、

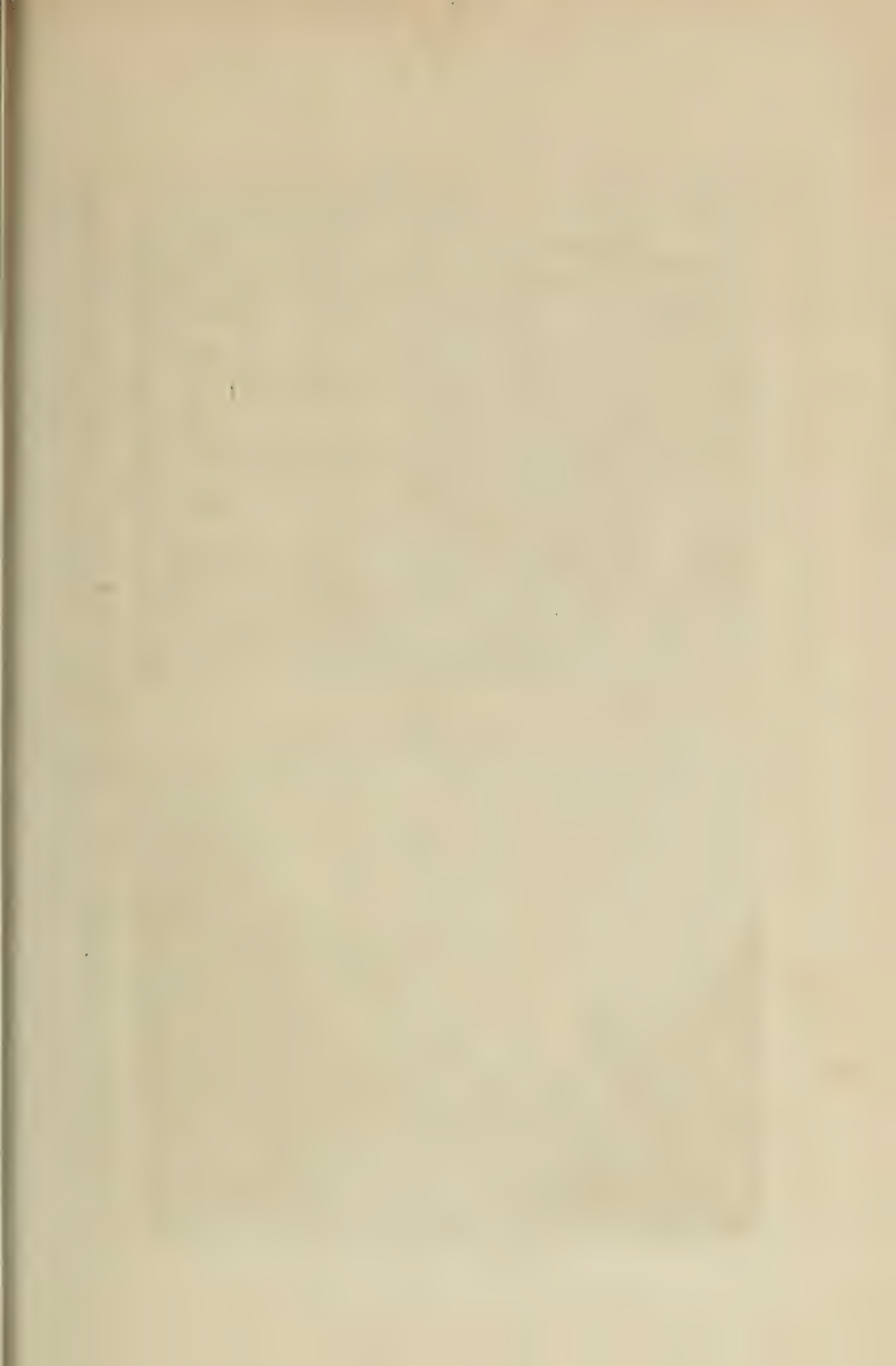
○是ヨリ北ハ、園樹鬱鬱トシテ、中ニ大路ヲ通シ、東ニ折レハ一長岡アリ、此ニ「フレ」デリビ維廉第二ノ宮アリ、是ヲ「オレンデ」宮ト名ク、左右ニ長廊アリ、玻璃ヲ

普國 ボンダム府ノ貝珠殿  
パール・ルーム



同 ワンズリーチー宮之大跳水  
フレデリック・ストーン







以テ葺キ其内ニ橙樹ヲ桶ニ栽エテ、數十百ヲ蓄ヘタリ、夏日ニ至レハ車ニテ牽出シ、園内ニ列ネ、實ヲ結ハシム、是オレンヂ宮ノ因テ名ヲ得タル所ナリ、普國ノ緯度高キモ、如此ク勉強シテ橙果ヲ得ルハ、南方諸國ノ意想シ至ラサル所ナリ、○宮ハ岡上ヲ占メテ、前ハ「ポソダム」ノ野ニ臨ミ、南方ノ沼澤森瀾トシテ、岡坡起伏シ、樹木鬱葱タリ、其前ニ陰映シ奇眺アリ、中堂ニハ「以太利人」ヲハイ氏ノ畫ヲ首トシテ、名畫ヲ蓄フ、各室房ノ内ハ見ルヘキ少シ、

○此ニツ、キテ一宮アリ、「サンスーダー」宮ト云、是ハブレデーヒ第二ノ造營セル居宮ニテ、王ハ一千八百八十六年八月十七日此宮ニテ歿セリ、王平日甚タ質素ニテ、死後ニハ一ノ新シヤツモ「ナキニヨリ」侍臣ヨリ貸與シテ、埋葬ノ禮ヲ行ヒシ、其臨終ノキニ倚リシ榻子アリ、此榻子ニテ血ヲ吐テ死セリ、其血痕ハ猶左傍ノ絹ニ染ミ、模糊トシテ存ス、其時ノマ、ニテ飾置セリ、置時計モ、其時ニ卷キタルマ、ニテ止メタリ、ミナ蠱惡ナルモノニテ、國王ノ家什トモ覺ヘス、又東ナル一室ハ書房ナリ、是モ其居住ノ時ノマ、ニテ存ス、「フレデリヒ」維廉第四ノ歿セシ片、殯セル寢床アリ、其時ニ飾リシ革ノ繩ナドヲ載セタルマ

マ、ユテ、屏風ヲ圍ヒ存ス、當時ヲ回想シ、人ヲシテ悵然タラシム、西洋人ノ悵終追遠ノ情、其摯ナル如此キモノアリ、

此宮ノ西ニ、一風車アリ、「フレデリヒ維廉第四ノ宮ヲ修繕スルヒ、此邊ノ地主買入シニ、此風車、庭園ノ觀ヲ妨ケルヲ以テ、車主ヲシテ取除ケシメシニ、車主是ヲキ、他ノ答ナシ、只曰ク、伯林ニハ一人モ法律家ハナキ歟トテ、肯テ取除ケス、此事遂ニ政府ノ議トナリシニ、國王ノ權ト雖ヒ、人ノ家産ヲ取除ケシムルヲ能ハスト決シ、遂ニ其儘ニ取除ケスシテ事濟ミヌ、此事今ニ傳ヘテ美談トナリ、風車ハ其家ノ子孫ニ傳ヘテ所有ナシ、猶兀然トシテ立テリ、○宮ノ前ハ、前村ニ湖水ヲ見晴シテ、眺望快ケレヒ、一層ノ高カラサルヲ恨ムルナリ、正面ニ石階アリ、層層ニ平園ヲ設ケ、七層ニテ下ルヘシ、此每層ニ、夏ハ「ヨレチ宮ノ橙樹ヲ出シテ列スルトナリ、石階ノ正面ナル平地ニ跳水ノ池アリ、水ノ跳上スル、高サハ十丈ニ上ルト云、

園ヲ下リテ東スレハ一室アリ、此ヨリ、石階ヲツクリ、數折シテ下ル、即チ一ノ藏畫館ニ至ル、圓穹ノ宅ニテ、雕績甚タ華麗ナリ、中ニ集メタル古畫多ク、二幢







「ポツダム」之「マルモル宮」



同望湖觀

ノ春畫アリ、前后ノ畫額ニ、淫褻ノ畫ヲミルヲ甚タ多ケレト、其甚シキ如此キ  
モノハ、只一タヒミタリキ、以太利ノ古畫、人ノ肉身ヲ畫クノ功ヲ爭ヒテ、往往  
ニ醜ニ亘ル、頗ル風教ヲ妨ケルモノ多シ、

○是ヨリ東シテ、一小村ヲスキ、北ニ折ルレハ、沿途ノ樹林森森トシテ、丘岡左ニ  
起リ、前ニ立チ、西北ハ曠然タル平野ナレト、頗ル眺望アリ、行フ一英里許ナラ  
スシテ、一ノ高臺アリ、丘岡ノ上ニ起ス、是ヲ「ピンクス、ハルク」ト云、フレデリヒ  
維廉第四ノ建タル、遠望ノ臺ニテ、双臺アリテ三層ニシテ上ル階數スヘテ百  
六十二級アリ、臺ハ白石ヲ以テ造リ、之ヲ望メハ皎然トシテ、兩臺ハ耳ノ如ク  
ニ聳ユ、此ヨリ北方ノ湖水ヲ望ム、我宇治<sup>ヒラカダ</sup>牧方ノ景ニ彷彿タリ、東北ニ岡ヲ隔  
テ、煤氣ノ空ヲ染メタルアリ、即チ伯林府ナリ、東南ニハ「ポッダム」ノ村邑、寺  
塔參差トシテ眼下ニ聳エテ、其望ミ<sup>ホゾウ</sup>敵カナリ、此觀臺ニハ只茶ヲ喫スヘキ小  
房アルノミ、居寢ノ設ケナシ、

○是ヨリ東南ニ一宮アリ、白大理石ヲ以テ造築セルヲ以テ「マルモル、パレース」  
ト云、フレデリヒ維廉第三ノ築キシ宮ナリ、石柱石壁粹白ニテ、風致蕭洒タリ

埃及國ノ黃野ノ景ヲ寫シタル書額、數枚ヲ掲ク、此宮ハ湖ニ望ミテ聳エ起ル  
 宮中ノ景甚タ清潔ナレト、雕刻ノ精、金珠ノ華然タルナシ、宮ノ欄ハ湖上ニ出  
 ツ、欄ニヨリテ垂釣スヘシ、湖ハ大ナラス、我東京ノ不忍池ヨリモ小ナリ、○此  
 邊ノ湖水ハ、乍チ窄ク亦廣ク、若干ノ葫蘆形ヲ集メテ、勝境ヲ作ル、宮ノ左ニ長  
 橋アリ、蜂腰ノ地峽ヲ越エ、岡丘洲角參差タリ、其洲角ヲ占メテ、諸貴族ノ別墅  
 モアリ、今皇帝ノ別宮ハ、其尤モ風景ノ地ヲ選ミテ起ル、

○「バーベルス・ベルヒ」ハ今皇帝ノ建築ナセシ別宮ナリ、湖ヲ望ミ山ヲ負テ起ツ、  
 希臘風ノ建築ニテ、煉化石ヲ以テ表トシ、木材ヲ以テ裏トナス、甚タ素朴ニテ、  
 風景ニ奢ナリ、湖水北ヲ浸シ、西ニ繞リ、東ニ衝嚙シテ、一斷ノ虹橋、其腰ヲ往キ、  
 岡脊洲嘴ノ斗出弧彎セル、其上ニ負フニ綠樹ヲ以テス、夏ハ納涼ニヨロシ、冬  
 ハ觀雪ニヨロシ、花晨月夕ミナ勝絶ノ地ナリ、○宮内素朴ニテ、天然雕飾ヲ絶  
 ス、春ナル岡ニ樹蔭ヲ作ル、清樾人衣ヲ侵ス、其寢室ニハ、布衾木牀ヲ安ンス、絶  
 ヘテ錦繡ナシ、雕セス、續セス、花布ヲ以テ飾リトスルニ過キス、伯林ノ人「ポツ  
 タム」ヨリ歸ルモノニ向ヘテ、當帝ノ宮ヲミタルカ、亦甚ダ素朴ナラスヤトテ、



嘆美スルトナン、○太子ノ居寢ニハ、滿室ミナ戰圖戎具ヲ陳列ス、一千八百六十六年ニ、塙地利ノ戰ヒニ用ヒタル砲彈ヲ以テ、燭臺ノ基トナス、武ヲ好ムト謂ヘシ、舞蹈ノ室アリ、其側ニ食堂アリ、ミナ木材ノミヲ用ヒタリ、此宮ニ麥酒ヲ飲ム杯アリ、其大ナルハ長サ一身ヲ專ラニス、伯林人ハ、麥酒ヲ嗜シテ豪興ヲヤリ、議論激昂ノ後ニハ、帝ノ前ニテ劍ヲ雌合ヒ、論ノ勝敗ヲ決スルト言フ、亦其說ノ妄ナラサルヲ徵スヘシ、

○「ボツタム城ハ「フレデリヒ維廉、稱「ブランデン堡侯ニテアリシ、一千六百年ノ季ニ、此城ヲ築ケリ、佛帝拿破侖第一世、普魯士ヲ攻シ、此城ヲ以テ本陳トナシタリ、其時ニ寢タル寢床アリ、其マヽニテ存ス、其毀チシ「ブレテリヒ維廉第一ノ几案アリ、普ノ大將「プリーヒヨル氏ノ石像アリ、此人ハ普軍ヲ率ヒテ拿破侖ヲ敗リタル、名高キ武功ノ人ナリ、○當時ハ此城ヲ以テ兵營トナス、前ノ廣庭ニ於テ操練ヲナシ、試驗ヲナシ、進等ヲ申渡スナドヲナスト云、  
四時半ヨリ驛ニ歸リ、帝ノ休止所ニ憩ヒテ、蒸氣車ニ上リ、五時半ニ伯林ニ著シ

二十八日 陰

八時ニ、大久保副使ハ、<sup>マイン</sup>米因ノ佛蘭克弗ニ赴キ、歸朝ノ程ニツク、夜十一時半ヨリ、伯林ヲ發シテ、東南ノ驛ニ至リ、十一時五分ヨリ、別段車ノ二輪ヲ用意アリ之ニ上リテ發車ス、接伴掛、<sup>ライト</sup>氏、<sup>ロー</sup>テルサン氏、<sup>カン</sup>スケ氏、ミナ車ヲ同クシテ送り來ル、

二十九日 晴

朝五時ニ、己ニ黎明トナリ、正ニ平曠ノ野ヲ走ル、是元ハ、<sup>ホル</sup>チック海濱ノ饒勇社ニテ所有セル野地ニテ、<sup>普</sup>魯<sup>西</sup>初<sup>興</sup>ノ<sup>領</sup>分ニカ、<sup>ル</sup>松林ノ平岡アリ、面面ノ田畑ニハ、麥種ヲ蒔キ方ニ針ヲ抽テタリ、半ハ牧畜ノ場多シ、田畔ニハ萌芽カアル樹ヲウエ、正ニ其枝ヲ斬ルヒニテ、禿株ノ兀然タルモノ多シ、歐洲大陸ノ諸國ニテ、樹林ヲ保育スル方法ノ一ヲ察スベシ、

嚮ニ英國ニ航渡セシハ、去年第八月<sup>西</sup>曆中旬ニテ、方ニ麥ヲ芟ルヒナリシ、本年ノ一二月ニ、佛國ノ郊ヲスキレハ、堆糞ニ麥種ヲ和シテ、田ニ撒布スルヲ

ミル、今ヤ三月ノ季ニ、麥苗針ヲ抽ツ、歐洲北部ニ於テ、田園ノ月令ハ、正ニ陽

曆ノ紀月ト相符スルヲ知ルヘシ、東洋ハ初冬ニ麥ヲ蒔キ、初夏ニ熟ス、是ヲ農隙ノ耕種トナシ、仲春ニ田ヲ墾シ、季春ニ稻種ヲ下スヲ、農家ノ本業トス、亦陰曆ノ紀月ト符ス、今ノ時ニアタリ、東西耕稼ノ民ニ、授時勸農ノ方向ヲ教ヘルモノ、察セサルベカラザルナリ、若夫レ田塍ニ樹ヲウエ、其枝ヲ斐リ、其椽ヲ存シ、或ハ天然ノ森林ヲ保護シ、或ハ萌蘖ヲ繁クスル矮林ノ法アリ、山林樹藝ノ法モ、英國以來見ニ觸レテ聞ク所ヲ記シタレハ、亦彼是相參シテ互ニ考フ所アルベシ、

此ハ東普魯西洲ノ疆域ニテ、地勢ハ海ニ濱セル平野ナレハ、四方ニ山ナシ、大河ヲスキ「マレン堡邑」ノ橋ヲコエ「エルヒン邑」ニ至ル、此邊ニ沮澤荒原多シ、十時半ニ「コーニングス、ベルヒ」ノ海灣ヲミル之ヲ「フリスチュ海灣」ト云、普魯西ニテ肝要ノ一港ナリ、此邊ハスヘテ平野ニテ、海灣ヲ隔テ、一岑ナシ、森森トシテ洋面ヲミルカ如シ、○「コーニングス、ベルヒ府」ハ、北緯五十四度四十二分、東經二十度三十分ノ地ニ位シ、人口十一萬二千百二十三人、普魯生州ノ首府ナリ、普國ニテ第四ノ都會ナリ、一千七百〇一年ニ「フレデリヒ第一世カ、普魯



士國ノ王冕ヲ着セシハ、此都府ノ宮ニ於テセリ、此驛ニテ午食ヲ辨ス、伯林ヨ

リ此マテ獨逸里ニテ八十里、英里ニテ三百八十九「マイル」ナリ

是ヨリ鍍軌ヲカヘテ東ニ走ル、一水ノ西流スルニ逢フ、四時半ニ「エイト」コノ  
子ノ驛ニ達ス、此ヲ獨逸ノ終驛トス、伯林ヨリ、一百里ト誌ス、此驛ニテ接伴掛  
三人ヨリ、晩饌ヲ享シ、別盃ヲ舉ケテ別ヲナス、此驛ニ鍍軌ノ輻輳スル甚タ夥  
シク、前後一英里間ニ連レリ、此ヨリ二英里、餘ニテ露國ノ境ニ達ス、

スヘテ伯林ヨリ國境マテ、鐵路ノ程四百四十八英里

太政官少書記官久米邦武編修

明治十一年十月刊行

御用刊行所

東京銀座四丁目

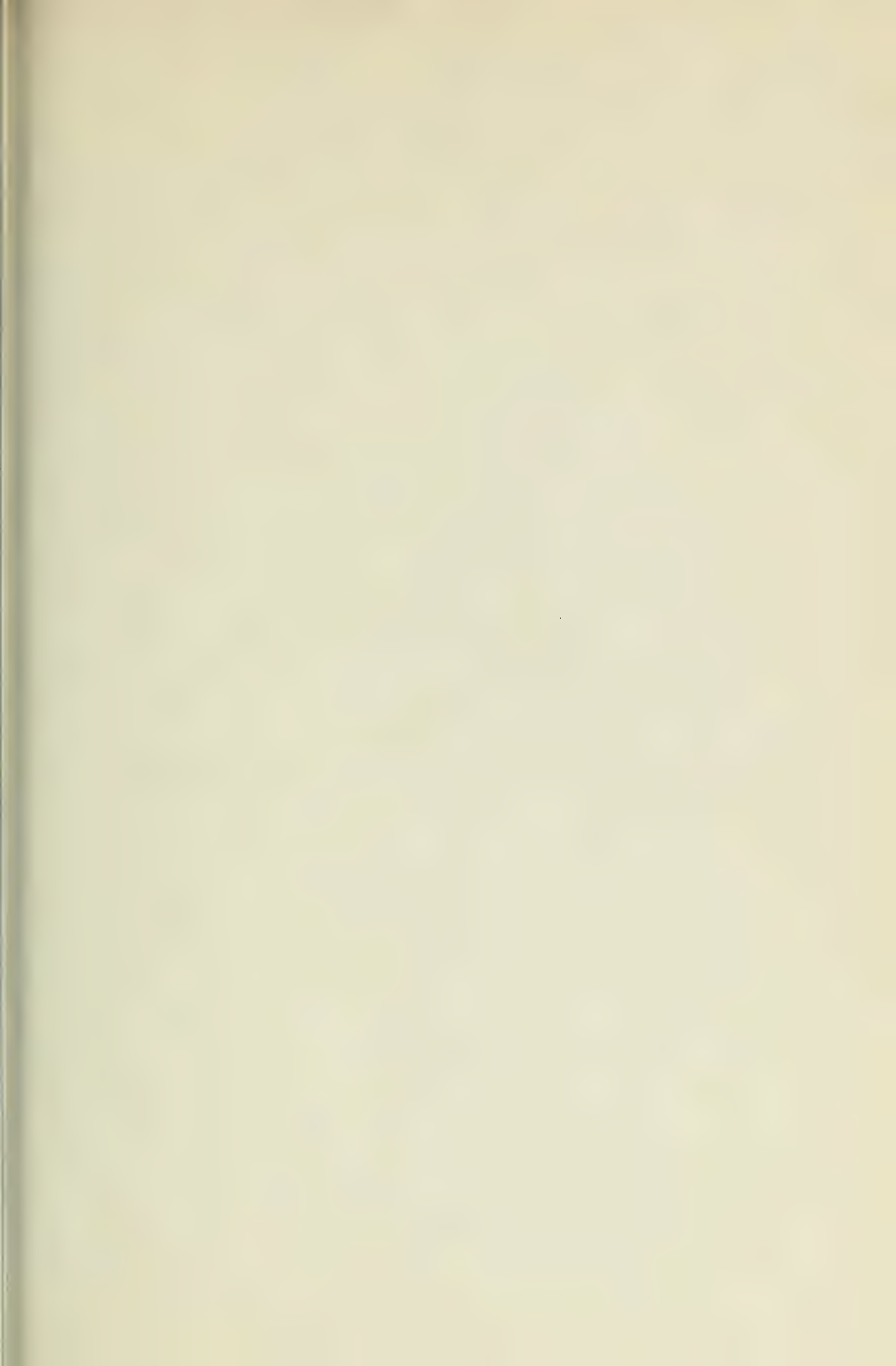
博聞社

(55)

11

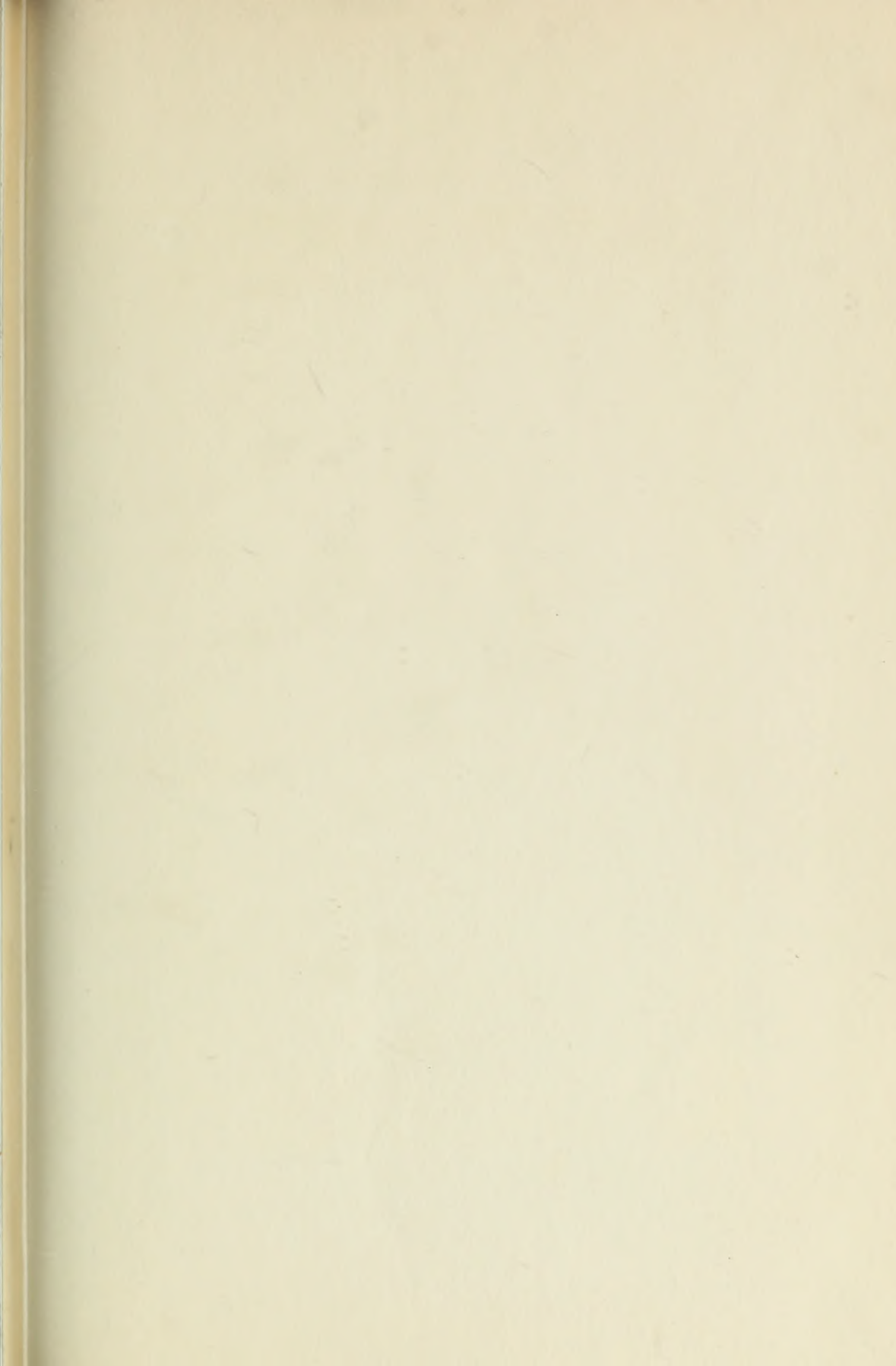














PURCHASED FOR THE  
UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY  
FROM THE  
CANADA COUNCIL SPECIAL GRANT  
FOR  
FAR EASTERN STUDIES

EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO



3 1761 03023 8802